

平成18年度

点 検 報 告 書

新居浜工業高等専門学校

◎ 機械工学科

1. 平成18年度運営目標

1. 1 機械工学科の基本方針

グローバル化した社会のニーズに十分応えて、機械を設計・製作し、また、これらの機械を取り扱うことのできる創造性豊かな実践的技術者の育成を目指し、学力（知識、専門的技術/技術力、口頭/文章表現力など）と人間力（自己啓発、責任感、自己管理力、積極性/意欲など）を重視して学生を指導する。

1. 2 機械工学科の運営目標

- [1] 入学志願者の確保への取り組み。
- [2] 学生の学習・生活支援活動。
- [3] 教育改善に向けた取り組み。
- [4] JABEE 認定に向けた取り組み。
- [5] 研究に関する目標。
- [6] 地域連携への取り組み。
- [7] 設備の整備に関する計画。

2. 平成18年度実施計画と活動実績

2. 1 入学志願者の確保への取り組み。

- [1] 機械工学科のホームページを見直し、魅力ある内容に努める。

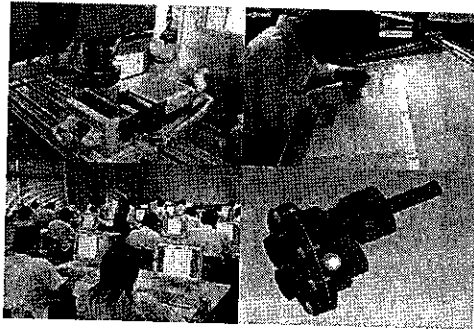
平成17年度に機械工学科のホームページを大幅に変えたことから、本年度は一部記載内容を変更した。中学生や保護者の方が閲覧することを想定し、学科PRのための実験・実習の様子、機械工学科に対するQ&Aおよび過去7年間にわたる進路情報等を掲載した。（資料2-1-[1]-1）

資料2-1-[1]-1



新居浜工業高等専門学校
機械工学科
Department of Mechanical Engineering

新居浜高専トップページ



■ 学科案内

- 学科概況
- 教育目標
- 教育の特色
- 進路情報
- 教員一覧
- 学科内配置図
- 実験設備

■ JABEE

- 生産工学プログラム

■ 在校生の皆様へ

- シラバス
- 課題演習(資格試験等)

■ 中学生の皆様へ

- 機械工学科PR
- 機械工学科Q&A
- 体験学習

■ 企業の皆様へ

- 教職担当教員
- 産学連携研究

■ 学科概要

機械工学科ではものづくりの基礎となる学問を勉強します。低学年(1～3年)では、専門基礎科目である数学、物理、コンピュータの他、実験実習科目として製図や機械工作について学びます。高学年(4～6年)では機械専門科目として、以下のような分野について学びます。

- 材料と構造: 材料の構造、強さや応力について
- 運動と振動: 機械の運動や振動について
- 情報と計測: 制御理論や計測技術について

(出典: 新居浜高専ホームページ)

[2] 夏期体験学習、学校見学会は、中学生に興味を持てる内容にする。

夏期体験学習のテーマを一部変更(「ルアーを作ろう」を新しく設置)し、受け入れ人数を増やした(資料2-1-[2]-1)。

資料2-1-[2]-1

学科			テーマ			28日(金)				29日(土)				
	(定員)	申込		(定員)	申込	午前	午後		学 業 見 学	午前	午後		学 業 見 学	バ ス 利 用
M	200	210	M1	20×4=80	127	52	21	73		25	29	54		
			M2	15×4=60	56	23	20	43		8	7	13		
			M3	15×4=60	27	5	4	9		8	10	18		
E	240	147	E1	30×4=120	113	42	21	63		37	13	50		
			E2	30×4=120	34	10	10	20		10	4	14		
D	200	87	D1	25×4=100	27	7	3	10		9	8	17		
			D2	25×4=100	60	28	8	34		12	14	26		
C	160	113	C1	40×4=160	113	22	31	53		30	30	60		
Z	140	103	Z1	25×4=100	84	21	18	39		23	22	45		
			Z2	10×4=40	19	4	8	12		4	3	7		
計	940	660		235×4=940	660	212	144	356	61	164	140	304	88	10

(出典：平成18年度夏期体験学習申し込み状況)

学校見学会は、中学生からの要望に応じて、模擬授業を実施した。中学生、保護者に対するアンケートによれば、「むずかしそう」、(だけど)「機械工学科に入学したい」という声が聞けた(資料2-1-[2]-2)。

資料2-1-[2]-2

お疲れさまでした

2006.Dec.

新居浜高専 機械工学科 体験授業を受けて、
(アンケートにご協力お願ひ致します)

以下の質問に該当するものを○で囲んでください。

(中学生、保護者、教員)

1. 機械工学科の学ぶ内容がわかりましたか?
(よくわかった、大体わかった、わかりにくかった、よくわからない)
2. 授業内容がわかりましたか?
(よくわかった、大体わかった、わかりにくかった、よくわからない)
3. 新居浜高専 機械工学科の印象について
(すごい!、イメージと違った、楽しそう、難しそう、大変そう)
4. 新居浜高専 機械工学科への興味について
(入学したくなった、わからない、受験したくない)
5. 授業(or吉川)に対するコメント
()

ご協力ありがとうございました。

4月に、また逢えることを楽しみにしています(´▽`) 吉川貴士

平成18年度 新居浜高専 機械工学科 模擬授業を受けて、
2006.Sep.09(Sat)

模擬授業の内容

「難しそう」を選んだ
全員「入学したくなっ
た」を選択

機械科の印象

機械科への興味

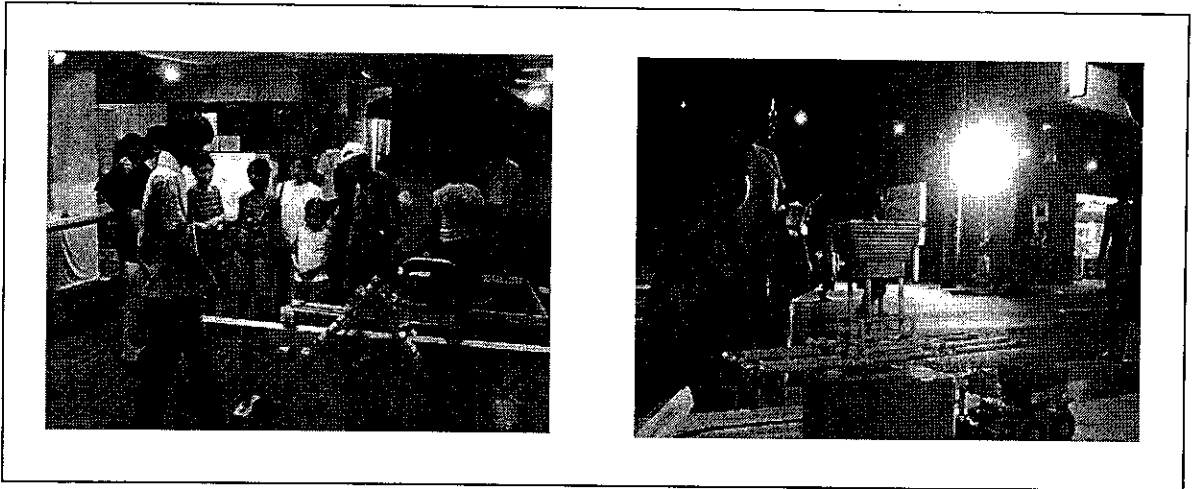
(出典：平成18年度模擬授業アンケート)

[3] 学校におけるPR活動(体験学習・学校訪問など)の支援。

機械工学科教員9名(刑部、豊田、鎌田、谷口、下村、吉川、松田、宮田、谷脇各教員)が、学校訪問、学校説明会などのPR活動の支援をした。その結果、

つり」へロボコンのロボットを出展した。宮田教員が、ロボット運搬や、学生引率、展示・実演の指導を行った（資料2-1-[3]-3）。

資料2-1-[3]-3



（出典：「新居浜でのイベントへの参加」の記録から抜粋）

2. 2 学生の学習・生活支援活動。

〔1〕 1、2学年の進路指導方法の見直し。

低学年から、体系的進路指導を検討・実施する。

1、2学年の進路指導は、副担任が特別活動・課外特別活動の時間で実施。3～5学年の進路指導は、主に担任が行い、面接指導、進学指導、就職指導については機械科全教員でサポートした。

〔2〕 機械工学科学生との交流懇談を実施する。

2月16日(金)に学生参加メンバー1M：小野、首藤、2M：信藤、田中、3M：菅、峯原、4M：黒河、吉川、5M：伊藤、渡邊と教員(松田、鎌田、下村、谷口、宮田、刑部)の交流懇談を実施した。以下の議題、(1)機械工学科教員に対する要望(アドバイザー、オフィスアワーなど)(2)機械工学科の施設(工作実習・工学実験・製図関連科目)について(3)機械工学科の授業(教養科目、専門科目)について話し合った。機械工学科学生と教員の懇談会を続けることを確認できた。

〔3〕 1、2年生および3年生における特別活動の協力及び支援。

1、2年生の特別活動協力・支援について、主に副担任がキャリア教育・進路指導の協力および支援をした。

3年生における特別活動では、豊田教員、松田教員がキャリア教育を、生活指導は宮田教員、教務に関する学習指導は吉川教員、補講は谷口教員、鎌田教員、北住教員、刑部教員が実施した。

〔4〕 学生の自主的、主体的課外活動の支援(チャレンジプロジェクト等)。

松田教員の卒研究生や有志学生の打ち水作戦、先端技術研究会の鳥人間コンテスト参加などのチャレンジプロジェクトに関して主に松田教員が活動の支援をした。

谷口教員は、「全国高等専門学校デザインコンペティション 2006 in 都城」に参加する学生を指導支援し、最優秀賞を受賞した（資料2-2-[4]-1）。さらに、谷口教員が、学内の「ものづくりコンテスト in 新居浜高専」を主催し教職員・学生から33チーム、総勢50名ほどが参加した。

学校全体の体験学習参加申込者 680 名(機械への参加申込者 212 名)、学校の全体入学志願率約 2 倍(機械 2.2 倍)を達成した。

「ものづくりフェスタ in 松山」を、愛媛大学城北キャンパスにおいて開催し、谷口教員が支援・指導した(資料 2-1-[3]-1)。

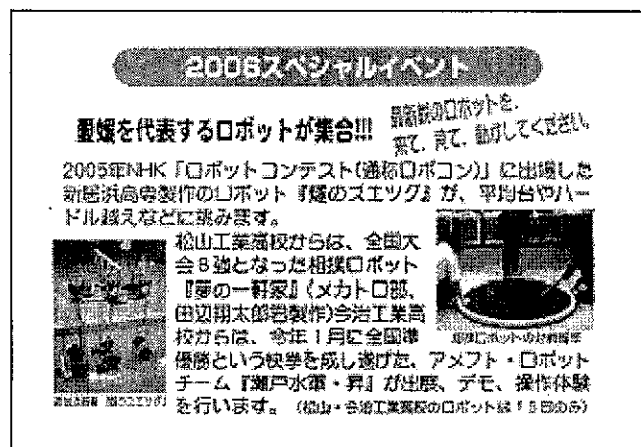
資料 2-1-[3]-1



(出典：新居浜高专ホームページのものづくり教育支援センター◎センターの活動)

7月14日(金)～15日(土)に松山のアイテムえひめで開催された、えひめ IT フェア 2006 に参加。17 年度高专ロボコンに出場したロボットを出展。その際に、宮田教員が、学生の引率および、ロボット製作の指導をした(資料 2-1-[3]-2)。

資料 2-1-[3]-2



(出典：えひめ IT フェア 2006 の URL より抜粋)

平成 18 年 8 月 6 日(日)(17 時～21 時)に開催された「第 26 回にいほま夏ま



(出典 平成 19 年 1 月 17 日愛媛新聞記事)

高専ロボコン四国大会（1月5日、於高松工業高専）の指導教員として、宮田教員が、製作を指導し、
A チーム：燧の運び屋:森本雄大(4D)/石川誠也(4D)/森川裕一(4E)/首藤将貴(5D),
B チーム：Niihama Express:吉川希生(4M)/楠橋陽教(3Z)/金子将大(1D)で、特別賞に輝いた（資料 2-2-[4]-2）。

(資料 2-2-[4]-2)

大会結果(四国)		アイデア対決・全国高等学校ロボコンテスト2006	
ふるざと自慢特急便		エントリー申請書	
校名	学校名(ロボット名)	地区名	西尾地区
代表者	鹿間電機工業高等専門学校A ARK (アーケ)	学校名	西尾工業高等専門学校 A・①
指導教員	高松工業高等専門学校B JIN (ジン)	校長 氏	田中 隆
アイデア賞	高松工業高等専門学校A まんてん	ロボコン 12支学生団(参加は別)	フリガナ ニイハマエクスプレス
技術賞	鹿間電機工業高等専門学校B 蒼天(ソウテン)	出場チームメンバー名	① フリガナ ヨシカワ ノゾミ ② フリガナ ケンタロウ ③ フリガナ ケンタロウ ④ フリガナ ケンタロウ ⑤ フリガナ ケンタロウ ⑥ フリガナ ケンタロウ ⑦ フリガナ ケンタロウ ⑧ フリガナ ケンタロウ ⑨ フリガナ ケンタロウ ⑩ フリガナ ケンタロウ ⑪ フリガナ ケンタロウ ⑫ フリガナ ケンタロウ
デザイン賞	阿南工業高等専門学校B Rhombus (ランバース)	出場①の時に、チームリーダーの名前を記入して下さい ※ロボコン競技場には、各チームの代表者(1名)を記入して下さい (申請後の変更は不可)	出場①の時に、チームリーダーの名前を記入して下さい ※ロボコン競技場には、各チームの代表者(1名)を記入して下さい (申請後の変更は不可)
特別賞	阿南工業高等専門学校B Rhombus (ランバース)	指導教員氏名	宮田 隆
特別賞	阿南工業高等専門学校A Rhombus (ランバース)	所属・所属	機械工学科・1学年
特別賞	阿南工業高等専門学校B Rhombus (ランバース)	TEL (099) 327-7745 FAX (099) 327-7745	
特別賞	阿南工業高等専門学校B Rhombus (ランバース)	email mmyata@nii.ac.jp	
特別賞	阿南工業高等専門学校B Rhombus (ランバース)	記入者	宮田 隆
特別賞	阿南工業高等専門学校B Rhombus (ランバース)	所属・所属	機械工学科・1学年
特別賞	阿南工業高等専門学校B Rhombus (ランバース)	所属・所属	機械工学科・1学年

全国高等学校ロボコンテスト実行委員会
〒150-0047 東京都渋谷区神田町4-14 東京ロボコンビル4F
NHKエンタープライズHD
TEL 03-5454-3971 FAX 03-5454-3972

(出典：公式 HP http://www.official-robocon.com/jp/kosen/kosen2006/result_shikoku.html より抜粋)

〔5〕 学校運営における学生指導共通項目に関する協力支援。

各教員は、朝の挨拶、学校周辺見廻りなどの学生指導に協力した。学生委員会から機械工学科学生の指導依頼に対して協力支援した。

〔6〕 課外特別活動、オフィスアワー、アドバイザー制度を活用して学習支援、生活支援に努める。

3～5 年生は、学科で課外特別活動を支援し、1、2 年生は副担任が、一部課外特別活動を支援した。オフィスアワーを月曜日とし、学習支援にあてた（資料 2－2－〔6〕－1）。 各教員は、アドバイザー制度を活用して学習支援、生活支援に努めた。

資料 2－2－〔6〕－1

平成18年度オフィスアワー状況調査										機械工学科										合計									
オフィスアワー入室学生数										オフィスアワー以外の時間の入室学生数										合計									
第1週	第2週	第3週	第4週	合計	週平均	第1週	第2週	第3週	第4週	合計	週平均	第1週	第2週	第3週	第4週	合計	週平均	第1週	第2週	第3週	第4週	合計	週平均	第1週	第2週	第3週	第4週	合計	週平均
1	0	0	0	1	0.25	0	0	0	3	3	0.75	0	0	0	3	3	0.75	0	0	0	3	3	0.75	0	0	0	3	3	0.75
2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0.25	0	0	0	1	1	0.25	0	0	0	1	1	0.25	0	0	0	1	1	0.25
4	1	0	0	1	0.25	3	2	4	5	14	3.5	4	2	4	6	16	4	4	2	4	6	16	4	4	2	4	6	16	4
5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0.25	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3	0.75	0	0	0	3	3	0.75	0	0	0	3	3	0.75	0	0	0	3	3	0.75
8	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0.5	0	0	0	2	2	0.5	0	0	0	2	2	0.5	0	0	0	2	2	0.5
9	0	0	0	0	0	0	0	0	4	4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0.5	0	0	0	2	2	0.5	0	0	0	2	2	0.5	0	0	0	2	2	0.5
11					0	0					0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
12					0	0					0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
13					0	0					0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
14					0	0					0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
15					0	0					0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	1	0	0	2	0.75	16	11	22	23	72	18	17	11	22	25	75	18.75	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
平均	0.10	0.00	0.00	0.20	0.33	0.08	1.60	1.10	2.20	2.30	1.20	1.80	1.70	1.10	2.20	2.50	1.88	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

コメント

専攻科生(2SM,1SM)の進路相談

進路先・就職先の相談やポートフォリオの作成要領の指導等

就職先への問い合わせや手紙のサポート

本科生(4M,5M)の勉学相談

講義(主として非常勤講師の科目)での疑問点に関するもの、進学

就職相談等

(出典：平成18年度オフィスアワー状況調査)

〔7〕 演習を含む教科において、自学自習教材の作成に取り組む。

演習を含む教科担当の教員は、WebClass を利用した自学自習教材の作成に取り組んだ。WebClass は、学生の 80%程度が使用できるので、材料力学1，材料力学2，材料力学3等の専門科目の自学自習教材をはじめとし（資料 2－2－〔7〕－1）、インターンシップ報告書等の作成等に活用した。

資料 2－2－〔7〕－1

会議室		作成/編集/削除		Back to Top
1. 3M学生への連絡		最新記事 鎌田 慶宣 2007-09-10 10:50:11 [編集] 学習履歴[4]		
1. 演習		作成/編集/削除		Back to Top
1.1 第1章演習問題解説		鎌田 慶宣 2007-03-04 10:54:30 [編集] 学習履歴[2]		
利用可能時間 [1970-01-01 09:00:00分～1970-01-01 09:00:00分]				
コース管理者はいつでも、何回でも実行可能です。				
1.2 第2章演習問題解説		鎌田 慶宣 2007-03-04 10:51:47 [編集] 学習履歴[1]		
利用可能時間 [1970-01-01 09:00:00分～1970-01-01 09:00:00分]				
コース管理者はいつでも、何回でも実行可能です。				
1.3 第3章演習問題解説		鎌田 慶宣 2007-02-15 10:59:12 [編集] 学習履歴[16]		
利用可能時間 [1970-01-01 09:00:00分～1970-01-01 09:00:00分]				
コース管理者はいつでも、何回でも実行可能です。				
1.4 第4章演習問題解説		鎌田 慶宣 2007-03-04 10:54:55 [編集] 学習履歴[32]		
利用可能時間 [1970-01-01 09:00:00分～1970-01-01 09:00:00分]				
コース管理者はいつでも、何回でも実行可能です。				
1.5 第5章演習問題解説		鎌田 慶宣 2007-01-30 10:44:55 [編集] 学習履歴[20]		
利用可能時間 [1970-01-01 09:00:00分～1970-01-01 09:00:00分]				
コース管理者はいつでも、何回でも実行可能です。				
1. テスト/アンケート		作成/編集/削除		Back to Top
1.1 材料力学1の授業に関するアンケート		鎌田 慶宣 2007-01-18 12:27:29 [編集] 学習履歴[40]		
実施回数 [1 回まで]				
利用可能時間 [1970-01-01 09:00:00分～1970-01-01 09:00:00分]				
コース管理者はいつでも、何回でも実行可能です。				

(出典：新居浜高専ホームページ中の「自学自習システム」から抜粋)

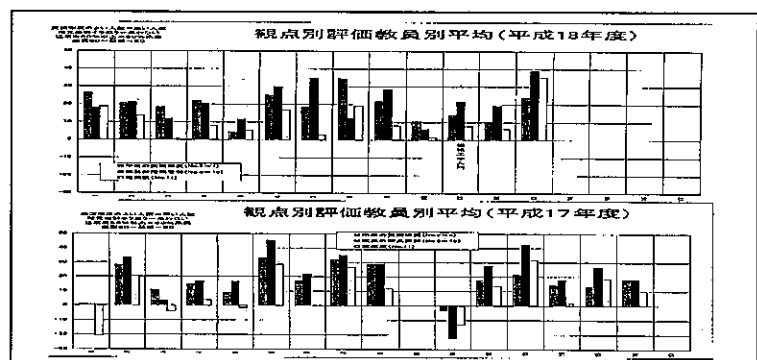
- [8] 学生の留年者を減少させるため、卒業できなかった5年2名の学生については担任以外の教員が指導し、3、4年生は低学年での積み残し科目の単位習得を目指すよう学科として指導し、1、2年生は留年しないよう担任と協力して指導する。また、学生の留年者を減少させるため、昨年度卒業できなかった5年2名の学生については担任以外の機械科教員も指導し、卒業できることになった。3、4年生は低学年での積み残し科目の単位習得を目指すよう担任を中心に学科として指導した。1、2年生は留年しないよう担任と副担任（刑部、谷口教員）が協力して指導した。
- [9] クラス運営に携わる教員および教科担当教員は、欠課数、遅刻者数の減少に取り組む。
- 1、2年の副担任（刑部、谷口教員）、3～5年の担任（下村、鎌田、松田教員）および教科担当教員は、欠課数、遅刻者数の減少に取り組んだが、確かな成果は得られなかった。
- [10] 工学実験・工作実習など実技を伴う科目については、安全指導のガイダンスを実施し、授業担当者がさらに安全指導に取り組む。
- 工学実験では、実験の心構え、服装などの安全指導を、宮田教員、谷脇教員が5月19日に実施した。
- 1～3学年の工作実習では、最初の授業で安全指導のガイダンスを、実習担当者（石井教員、岩崎技術員、渡邊技術員、松田技術員、山口技術員、小田技術員、宗次技術員）が指導した。
- [11] 進路変更希望者に対し、きめ細かい指導に取り組む。
- 3学年2名の専門学校への進路変更希望者について、3年担任下村教員と保護者と連携して対応した。
- 4学年1名は三者面談（担任、学生、保護者）により専門学校への進路変更を決めた。

2. 3 教育改善に向けた取り組み。

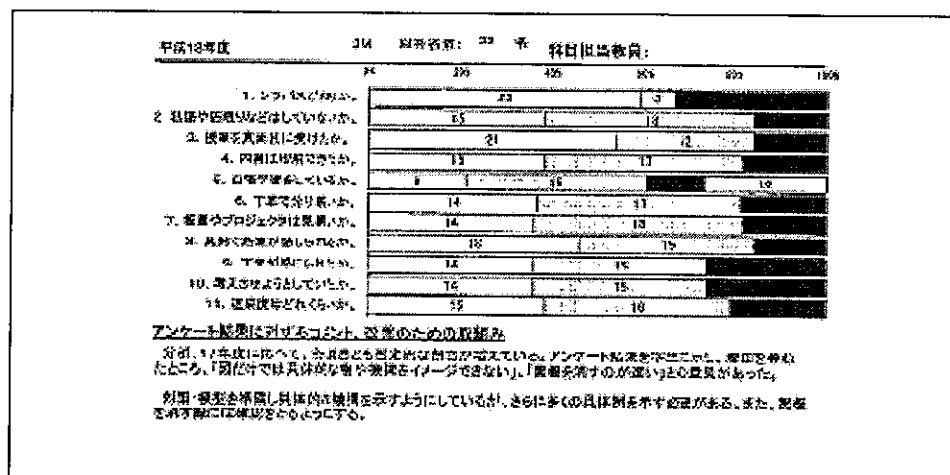
- [1] 学生による授業アンケート内容の分析結果を活用し、教育改善を進める。

昨年度の授業アンケート結果において達成度の低い授業担当教員がいたが、授業改善を行い、達成度でマイナス評価の教員はゼロになった（資料2-3-[1]-1）。各教員は、学生による授業アンケート内容を分析し、学生に分析結果を示し、改善案を報告し、改善すべき点を学生から聞いた。このことを、来年度の改善に役立てる（資料2-3-[1]-2）。

資料2-3-[1]-1



(出典：平成18年度観点別評価教員別平均)



(出典：平成18年度授業アンケート結果に対するコメント、改善の取組みから抜粋)

[2] 90分授業への2年目移行に伴い、教材や教育方法の改善に努める。

各教員が90分授業実施に対して、教材や教育方法の改善に努めた。例えば、5年生の主幹科目で、試行的に教材、教育方法の改善案を試みた：①講義2/3、演習を1/3程度に時間配分し実施、②IT機器は用いず、配付資料と黒板による補足説明などを多用、③学生による説明と指導、④報道、特許公開資料等で話題になったテーマを事例として演習問題を作成した。また、予習・復習を含む自学自習に対する工夫等については、課題例「与えられた設計仕様の下で、それを満足するPID制御系の設計・評価(手計算による応答計算、作図)をレポート(含考察)にして提出」を示し、3週間かけて、学校での演習時間内に、個々の学生の「学習成果」の俯瞰と振り返りを行わせたが、90分の中で、講義と演習を設ける方法ではどちらも中途半端になることが判明したため、次年度では、90分の講義とそれに見合った予・復習のための宿題を課す方式に変更することとした。

2. 4 JABEE 認定に向けた取組み。

[1] 生産工学プログラムの認定に向けて、機械工学科・材料工学科の全教員からなる4委員会(教育改善委員会、学習・教育目標検討委員会、カリキュラム・シラバス検討委員会、達成度評価委員会)活動を積極的且つ継続的に推進し、教育改善PDCAシステムを具現化するための活動をする。

○学習・教育目標検討委員会

(相根委員長、谷、日野、北住、石井、宮田)

○カリキュラム・シラバス検討委員会

(下村委員長、教務委員(松英)、教務委員(吉川)、松原、鎌田)

○達成度評価委員会

(志賀委員長、新田、朝日、松田、谷脇)

○教育改善委員会

(専攻科主任(豊田)、機械工学科主任(刑部)、材料工学科主任(高橋)、谷口委員長代行、相根委員長、曾我部、池内、志賀委員長、下村委員長、吉川)

以上は、新居浜工業高等専門学校生産工学プログラム教育改善委員会、学習・

教育目標検討委員会及びカリキュラム・シラバス検討委員会規約に従い、平成18年度の各委員会委員を取り決め、全員に周知した。

〔2〕 平成18年度の活動計画

「教育改善委員会」：◎豊田、刑部、高橋、曾我部、池内、谷口、相根、下村、志賀、吉川

1) 各委員会への作業指示・進捗管理

学習教育委員会、カリキュラム・シラバス委員会、達成度評価委員会について、継続的に作業を指示し、進捗を指導した。

2) 「学生自身による自己点検」結果の教員へのフィードバック法の検討・実施

「学生自身による自己点検シート」を、全プログラム教員に回覧した。

3) 機関別認証評価に用いるエビデンス等の統一的整理法等の提案と他既設委員会の調整

成績保管については、点検部会との連携を図り、統一的整理法にて進めるべく、全教員に周知された方法で対応した(資料2-4-〔2〕-3-1)。

資料2-4-〔2〕-3-1

平成18年6月29日.. 認証評価に関わる答案の整理について.. .. ・ 科目ごとに、全学生の50点台、60点台の答案を抜き出してコピーし、ファイルにまとめる。該当学生がいなければ合格最低点の学生1名の答案を用いる。.. ・ 全学生の成績評価の具体的内容がわかる一覧表をつけ、50点台、60点台に該当する学生がわかるようにチェック欄に「該当」と記入する。50点台、60点台の学生がいなくて、合格最低点の学生の答案をファイルしている場合は、その学生のチェック欄に「最低点」と記入する。一覧表は別紙の通り。.. ・ 定期試験のみ、問題用紙と模範解答をつける。小論文のような形式の問題の場合は、模範解答の代わりに評価の観点やキーワードを記したものを付ける。.. ・ 集めるのは成績評価に関係する定期試験答案、小テスト、提出物、実験レポートなど、すべてとする。.. ・ ファイルにはインデックスに「科目名」「科目番号」を記し、シラバス、成績一覧表、問題用紙と模範解答、成績評価書類(答案など)のコピーを綴じる。ただし、実験レポートと製図は、コピーしてファイリングすることが難しいので、両者とも50点台、60点台を抜き出すことはしないで、学生別にまとめて成績保管用の箱に入れておく。.. ・ 答案の整理は、平成16年度分から行う。.. 以上..

(出典：点検専門部会からの全教員への連絡)

4) 材料工学科の学科改組に伴う、変更カリキュラム・シラバスの評価

材料工学科の学習教育委員会、カリキュラム・シラバス委員会、達成度評価委員会各委員に主体的に取り組んでもらい、教育改善委員会へ結果を報告してもらう予定であるが、まだ実施されていない。

5) シラバス管理体制の明確化と施策提言

平成19年度に、学校全体でのシラバス登録・管理システムの運用・管理法について、改めて提案する予定であったが、まだ十分に協議されておらず実施には至っていない。

6) 「学習・教育目標」を達成しているかどうかを評価する「総合的評価法」の検討

学生の満足度を知ることを総合的評価方法と位置づけ、学生自身の自己点検シートを活用することとした(資料2-4-〔2〕-6-1)。

自己評価シート			
18 年度 期 各学年における自己評価			
学生番号：	氏名：	指導教員：	
この学年で、どのような能力(学習・教育目標)を修得するのか、について目標を記入して下さい。			
専攻科 1 年次	「修得目標」 B 振動工学や熱力学の復習をする C デザイン能力養成の科目は優を取る。 E-2 TOEIC400点以上取れるようにする。		
専攻科 年次	「実績」 		
指導教員	「指導内容」 B:筆記試験の成績は良いが、到達目標の自己評価では×の項目が多いことから、このことを反省材料と考えている。授業担当教員より、自主学習に適切な教材等の紹介を受けること。		

(出典：平成 18 年度運営諮問会議資料から抜粋)

[3] 「学習・教育目標検討委員会」：◎相根、北住、谷、石井、日野、宮田

- 1) 生産工学プログラム対象学生への「学習・教育目標記載カード」配布ならびに「平成 18 年度生産工学プログラム履修の手引き」による説明および理解度のチェック・対応策の検討・実施

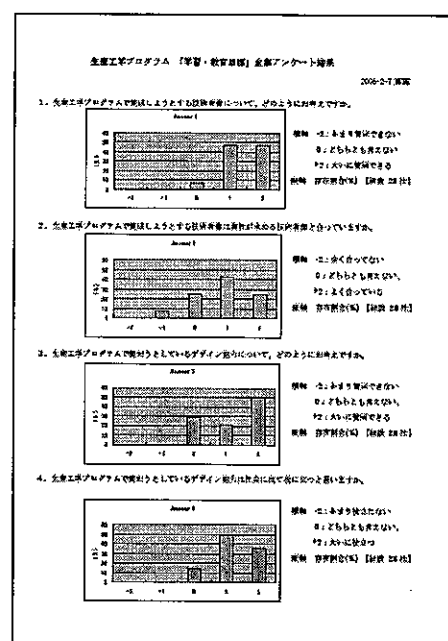
4年生以上の学生に対して、担任及び専攻主任が履修の手引きの配布し説明を行った。

- 2) 学習・教育と社会の要求との整合性に関する調査・分析のため、企業や修了生へのヒアリングを引き続き実施・対応策の検討

学習・教育委員会が企業説明 (2007/02/06) 資料 2-4-[3]-2-1

でのアンケート(①学習・教育目標について実施・分析した(資料 2-4-[3]-2-1)。

アンケートの記述欄によれば、「しっかりと基礎学力の下、デザイン能力(構想力他)を身に付けるという技術者像は企業としても希望する人材です」, 「デザイン能力の中の「構想力」、「実行能力」を重視しています。会社員になってもデザイン能力を要求される場面は多いので是非とも養成していただきたい」, 「デザイン能力で総称されている構想力等は今迄になく新しい教育であり、企業が求める人材像に通じている」という意見を頂き、本教育プログラムの妥当性を確認した。



(出典：生産工学プログラム「学習・教育目標」
企業アンケート結果

[4] 「達成度評価委員会」

- 1) 17年度シラバス中の達成目標の学習・教育目標との整合性確認
平成17年度分について完了した。
- 2) 17年度C評価成績資料の確認（シラバス記載の成績評価方法との整合性確認）
平成17年度分について完了した。
- 3) 特別研究評価方法・基準の周知徹底
方法・基準を決定し、プログラム関連全教員に周知し徹底した。

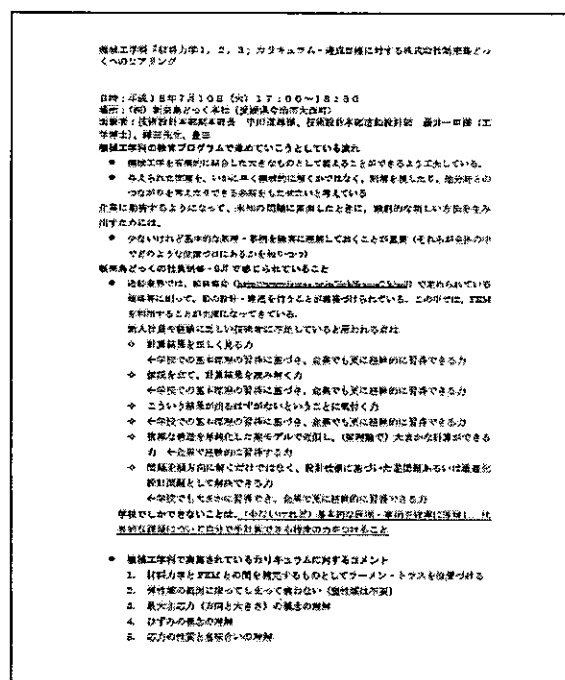
〔5〕 「カリキュラム・シラバス検討委員会」

- 1) プログラム後半学生(専攻科学生)への履修科目の明示「履修の手引き」改定
平成18年度版を作成し、プログラム関連全教員、学生に配布した(資料2-4-[5]-1-1:新居浜工業高等専門学校生産工学プログラム履修の手引き2006年度)。
- 2) プログラム修了要件に必要な科目の追加措置の提言(地学、地球物理)
第14回専攻科教育委員会にて、愛媛大学「地球科学(2単位)」の集中講義の受講を
決定した。
- 3) 求める技術者像を実現できるカリキュラの見直し(科目、時間、教員)
新来島ドック他へのヒアリングを実施し、その内容をH19年度カリキュラムに反映すること
とした(資料2-4-[5]-3-1)。

資料 2-4-[5]-3-1

4) 生産工学を核にカリキュラムの見直し(科目、教員)

専攻科開講科目「特別講義2」を科目番号 610118「品質・安全管理」に授業科目名を変更することを、第9回専攻科教育委員会(平成18年8月31日)にて審議し、第10回運営会議(9月21日)にて決定された。



(出典：機械工学科「材料力学1, 2, 3」カリキュラム・達成目標に対する株式会社新来島どつくへのヒアリング)

2. 5 研究に関する目標

現在の研究活動の状況や問題点を把握し、地域産業のニーズに応えられるように研究内容の選定及び研究の活性化を進め、その結果を教育に反映させる。

- [1] 科学研究費など各種外部資金の獲得には積極的に応募する。

共同・受託研究費、奨学寄附金等の外部資金獲得額は¥6,184,000 円を得た。

〔2〕 18年度は各教員が努力し、論文発表の増加を目指す。

各教員が努力し、論文発表の増加を目指し、実績としては①審査のある学協会誌等に発表した論文7件（前年度0件）、②総説・解説・著書が2件（前年度0件）、③審査のない雑誌等に発表した論文3件（前年度0件）、④報告書等5件（前年度4件）、⑤学会・講演会等の口頭発表15件（前年度10件）、⑥学位論文1件（前年度0件）であった。

〔3〕 学科として積極的に機関別認証評価に取り組む。

機関別認証評価に関する資料の作成や準備を積極的に進めている。また、機械工学科の教育目標について積極的に議論した。

〔4〕 博士を取得される教員のための支援（必要経費等）。

平成19年3月に谷脇教員が博士を取得した。

2. 6 地域連携

〔1〕 学校で企業からの来訪を待つのではなく、地域企業との工場見学や勉強会を積極的に行い、地域との連帯を密にする。

地域企業との工場見学や勉強会を学科として実施しなかったが、「新居浜五時半クラブ」、「都市エリア事業成果発表フォーラム in 新居浜」などに刑部、谷口、吉川教員等が参加したことにより、地域との連帯を密にできた。

〔2〕 出前講座の充実に関する小中学生用のテーマを検討する。

各教員の努力の結果、小中学生用の出前講座テーマを15件、市民対象の出前講座1件を作成した。本年度の出前講座は吉川教員、鎌田教員により3回実施した。

〔3〕 卒業生とのネットワーク形成と活用を目指す。

卒業生とのネットワーク形成のために、卒業生の連絡会事務局長として谷口教員が就任し、継続的な活動を開始した（（資料2-6-〔3〕-1）。

（資料2-6-〔3〕-1）



（出典：新居浜高専ホームページ同窓会「燧会」より引用）

2. 7 設備の整備に関する計画

- [1] 教育に必要な基礎的実習設備と最先端設備を考慮して、新しい実験・実習教育内容等を検討する。

今年度は、学生用に故障した製図用具のドラフターの補充をした。授業に用いる教員用のプロジェクターと本科・専攻生用に制御実験装置を購入した。

- [2] 設備の整理整頓、施設の有効活用を目指す。

材料力学実験室の整理整頓を実施した。

◎電気情報工学科（電気工学科）

1. 平成 18 年度運営目標・方針

1. 1 教育目標達成のために教育改善を推進する。
1. 2 入学志願者確保のために学科の PR を積極的に行う。
1. 3 体系的な学習支援、進路指導、課外活動の推進を行う。
1. 4 学生生活指導を積極的に行う。
1. 5 JABEE・機関別認証評価への取組みを推進する。
1. 5 研究活動を活性化する。
1. 6 地域との連携を強化する。
1. 7 環境整備を進める。

2. 平成 18 年度実施計画

2. 1 教育改善

[1] コース制実施に伴う授業内容、実験・実習内容の問題点を洗い出し、次年度に向けて改善して行く。

・平成 19 年度 5 年生は初めての電気情報工学科の学生であり、情報関係の新規授業科目が増え、また、学生実験は電気工学実験と情報工学実験に分かれた。授業科目が増えたことによる担当教員の割り振り、情報関係実験の実施場所などの問題があったが、特に、情報関係実験については専攻科棟（但し、電気教員が使用していた部屋（教員室移動））を使うなどで対応していくことにした。

[2] 学生アンケートに関して、前年度の結果と比較し、教員側として悪いところは改善し、良いところは更に延ばすなどを行い、学生にとって分かる教育を行う。これは留年対策にもなり、また、授業中の居眠り対策にもなる。

・今年度から学校として授業アンケート結果を学生へフィードバックすることになったが、これに伴い、教員、学生それぞれが改めるべき項目、良いと思われる項目などを明確にした（資料 2-1-〔2〕-1）。また、それを学生に説明した。

資料 2-1-〔2〕-1（出典：平成 18 年度授業アンケート：学科内共有フォルダより抜粋）

平成 18 年度 授業アンケート 自己分析（例）

【1】分析

（1）H16 年度と H17 年度の比較結果

	H17	H16	（但し、100%換算で比較）
・学生の受講態度：	38	8	
・教員の授業姿勢：	48	56	
・達成度	22	35	

上記より、H17 年度は、「学生の受講態度」が非常に改善されている。「教員の授業姿勢」は若干下がっているが、大きな差ではない。「達成度」は下がっているが、それでも極端に悪いというわけではない。

【2】今後の改善ポイント

- （1）「学生の受講態度」が非常に改善されたことに対して：H16 年度は授業中に居眠りしていても、あまり叱らなかったが、H17 年度は学科の方針として、居眠りをすると減点にするなどの処置を取ったことが起因していると考えられる。
- （2）「教員の授業姿勢」に対して：H16 年度に比べて大きな差があるわけではないので、今以上に「真剣で熱意」を持って授業をしていきたい。
- （3）「達成度」に対して：まず、授業の初めに「本日は何を勉強するのか」について共通認識を持たせ、授業の終わりには「本日勉強したことの内、重要な内容を復習する」などを行いたい。演習的な科目については、次回の授業の初めに前回の授業内容に関するミニテストを行うなどを実施したい。即ち、授業の終わりにその日に勉強した内容のミニテストを行うのも良いが、次回の授業の初めに前回の授業内容に関するミニテスト行うと自宅などで自分で勉強すると考えられるので良いと思う。

[3] 欠課数、遅刻数が多い学生には個別に指導し、それでも改善されない場合には保護者と連携して改善させる。

- ・欠課数、遅刻数が特に多い学生には担任が個別面談した。特に、4 E 学生（2 名）には夏休み前に主任が個別面談した。
- ・欠課が多い学生に対してはまず本人を指導し、それでも効果がない場合には保護者に連絡し、これ以上欠課、遅刻しないように依頼した。

[4] 卒業研究発表会など色々な教職員に参考になる内容は基本的には公開授業にする。また、自学科で公開授業を実施し、また、他学科での公開授業に対しては学科として最低1名は参加し、より良い授業の仕方に向けて改善していく。

- ・卒研発表会、夏休み作品発表会（資料 2 - 1 - [4] - 1）などは公開授業ではないが、全教職員にアナウンスした。
- ・自学科で公開授業を実施した（2 件：檀上先生、先山先生）が少なかった。
- ・他学科の公開授業に対しては学科会議で最低 1 名参加するようにした。

資料 2 - 1 - [4] - 1（出典：記録写真より抜粋）



2. 2 入学志願者確保

[1] 中学校関係者、中学生等に卒業後の進路（就職先、進学先、進学率など）までを含めて学科の良さを PR する。

- ・イベント（保護者懇談会、学校見学会（資料 2 - 2 - [1] - 1）等）では、積極的に卒業後の進路（求人倍率、就職先、進学先等）までを含めて学科の良さを PR した。
- ・平成 19 年度推薦志願者はそれなりに多かったが、学力志願者数が他学科に比べて少なかった。PR の仕方が悪かったことは反省点である。

資料 2 - 2 - [1] - 1（出典：記録写真より抜粋）

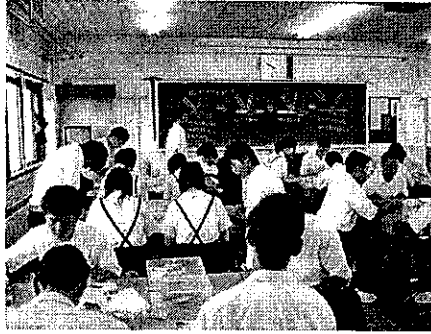


[2] 体験講座、国領祭の学科展示などへの参加者を前年度より増やす。

- ・夏季体験学習では 2 テーマ合計では減少したが、電子オルゴール作りでは増加した（98 名→107 名）（資料 2 - 2 - [2] - 1）。

- ・国領祭学科展示は学生の発案で前年度までのレイアウトを大きく変えた。参加者数は不明であるが、かなりPR出来たと思われる。

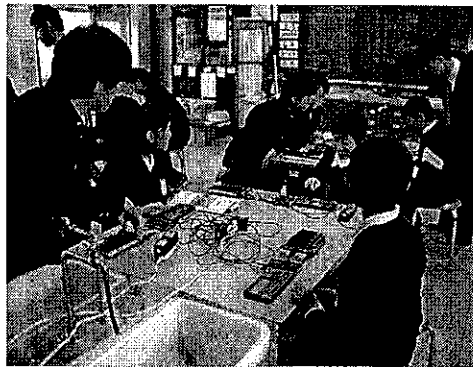
資料2-2-[2]-1 (出典：記録写真より抜粋)



[3] 出前講座では、高専が身近であることを基本に分かりやすい図・表・パネルなどを用いてアピールする。

- ・小中学生向けに計12件提案(新規8件、前年度見直し分4件)した。11月に中萩中学で出前講座を行った(資料2-2-[3]-1)。

資料2-2-[3]-1 (出典：記録写真より抜粋)



[4] 学校としての取組みに積極的に協力する。

- ・「ものづくりフェスタin松山」などへ積極的に参加した(資料2-2-[4]-1)。
- ・中学校の校歌を入れた電子オルゴールを作成し、中学校校長先生等との懇談会で配布した。
- ・学科(3名の教員)が学校としての取組である中学校説明会へ参加した。

資料2-2-[4]-1 (出典：記録写真より抜粋)



- [5] Webページを特に中学生に分かりやすく改良する。
・学科内にHP担当者を決め、6月に改良した。今後、改良を継続する必要がある。
2. 3 体系的な学習支援、課外活動、進路指導の推進
- [1] 平成19年度学習単位導入に向けて、平成18年度は1～2科目に対して学生が主体的に取り組める学習支援を実施する。
・学習単位制の試行として、4E「回路理論3」（皆本先生）、1SE「生体情報工学」（伊月先生）を前期に実施した。
- [2] e-ラーニングを用いて学生が自主的に補習できるシステム構築に向けた検討をする。
・教員はWebClass講習会に参加した。自主的に補習できるシステムについては今後の課題。
- [3] 成績不振者対策、勉強の仕方の改善、資格取得などのアドバイスを主な目的として、オフィスアワー（資料2-3-[3]-1）、アドバイザー制、課外特別活動を有効利用する。特に低学年の成績不振者に対しては電子制御工学科と連携して補習などを実施する。
・特に成績不振者である4E学生（2名）に対して主任が個人面談した。また、特にその内の一人の学生には夏休みに学科教員（4人交代）による個人補習を実施した（7月20日（木）～8月4日（金）、毎日9:00～16:00）。
・1E、2Eに対してはアドバイザー制を有効利用した。
・2Eに対しては特別活動等を利用して資格取得を奨励し、大幅な受験者数になった。また、H18年度資格取得者（今回は4E学生（2名）、5E学生（1名）、1SE学生（1名））に取得した資格について経験談などを2E特別活動で説明して貰った。
・低学年の成績不振者に対する電子制御工学科との連携については未実施。
- 資料2-3-[3]-1（出典：学科内共有フォルダより抜粋）

平成18年度 前期 電気情報工学科オフィスアワー 16:00～17:00

●指導内容

- 1) 授業中、先生の説明が分かるようにするための予習
- 2) 授業で分からなかったことの復習
- 3) 宿題の解答をチェックしてもらう。
- 4) 資格を取得するための問題解答チェック
- 5) 進学用過去問題の解答指導、就職用試験問題(SPI)の解答チェック
- 6) 過去の受験報告書、求人状況などが知りたい。

教員名	実施曜日	教員室
伊月 宣之	木曜	電気棟3階
馬淵 真人	月曜	専攻科棟4階
佐藤 真一	木曜	電気棟3階
山田 正史	月曜	電気棟3階
皆本 佳計	月曜	電気棟1階
井門 英司	月曜	電気棟2階
尾西 康次	月曜	電気棟2階
王 欣	金曜	電気棟1階
香川 福有	月曜	電気棟3階
平野 雅嗣	金曜	専攻科棟4階
先山 卓朗	月曜	専攻科棟4階
横山 隆志	木曜	電気棟3階
若林 誠	金曜	電気棟3階

他の曜日は会議等で教員の都合がつかない事が多いので、出来るだけ指定日に来て下さい。

[4] 4年生の学生に、5年生の進路決定体験談、関係教員による進路指導などを最低1回は行う。

- ・4年生の学生に、H17年度卒業生による会社の選び方などの体験談の講演を行って貰った(3月)。
- ・特別活動の時間に進路指導を主任が行った(2月)。
- ・2Eに対して、先輩による経験談を講演して貰った(11月)。
- ・今年は5年生による体験談は実現できなかった。

[5] 進路変更希望者に対しては、まずその真意を良く確認し、また、保護者とも連携し、進路変更が妥当ならば、早めの進路変更を行う。

- ・3Eの進路変更希望者には担任が個別に対応した。
- ・編入学生であった4E退学者には学科を上げて対応し、保護者とも綿密に連携した。
- ・1Eの退学者については学科としての対応が不十分であった。今後、1年担任との更なる連携強化が必要である。

[6] 5年生に対しては、保護者をも含めた進路指導を行い、出来るだけ早い時期の100%進路決定を推進する。

- ・保護者懇談等を通して保護者とは連携した。100%進路決定は少し遅く、10月過ぎまでかかった。

2. 4 学生生活指導

以下に上げることが重点に、基本ルール遵守を指導する。

[1] 服装、身だしなみ、自転車2人乗り等に対する指導。新しくバイクで登校する学生全員には安全講習を受講させる。

- ・クラス内の身だしなみについては担任が指導した。
- ・6月の安全講習会に各学年単位で参加させた。

[2] 学生に対する挨拶の励行(担任を中心としたショートホームルームでの学生への指導と共に、すれ違ったときに教員側から積極的に挨拶する)

- ・学科会議(5月24日実施)ですれ違ったときに教員側から積極的に挨拶することを確認し、実施中である。

[3] 茶髪、ピアスの禁止の指導(特に低学年)、喫煙巡回(特に高学年)、朝の校門での登校指導など学校としての取組みに積極的に参加する。

- ・研修旅行前にはクラス毎に茶髪、ピアスをチェックした。新居浜高専学生として参加するので、色々な面で恥ずかしくないように強調した。
- ・学生委員会の指示による喫煙巡回、登校指導には積極的に参加した。

2. 5 JABEE・機関別認証評価への取組み

[1] JABEEに対しては、電子制御工学科と連携を密にし、PDCAを全員で取り組む。

- ・「教育改善委員会」を実施し、各WGへの指示を出した(6月)。その後の作業は余り出来なかった。

[2] 機関別認証評価に対しては、学校としての取組みに積極的に参加する。

- ・学科内点検部会委員を中心に、試験答案保管など学校としての取組に積極的に参加した。

2. 6 研究活動

[1] 教育へのフィードバック、地域活性化に役立つ研究を推進する。

- ・学会発表成果は教育の高度化(卒研、特研)に反映させている。
- ・技術相談を4回受け、また、可能性試験成果報告会などで発表し、地域活性化を行った。

[2] 個人ごとの目標を立て、学会発表、論文投稿実現に向けて努力する。特に、若手研究者は年1回は学会発表するように意識させ、フォローする。

- ・学科会議で何回もアナウンスした。特に、論文投稿を期待する先生方に主任が個別

に話をした。

- ・電気関係学会四国支部連合大会（９月）では、特研指導している教員全て（若手も含む）が発表した。

[3] 科研費は全員申請するように、また、(財)東予産業創造センターなどが仲介する公的受託研究など申請する場合には複数教員で協力する。

- ・科研費の全員申請は学科会議で何回もアナウンスしたが、全員申請は出来なかった（資料２－６－[３]－１）。

資料２－６－[３]－１（出典：総務課資料より抜粋）

＜科学研究費補助金への申請状況＞

- ・基盤（Ｂ）一般：２件
- ・基盤（Ｃ）一般：３件
- ・萌芽研究：１件
- ・若手研究（Ｂ）：１件

上記申請に対して、次の２件が採択された。

- ・基盤（Ｃ）一般：１件（平成１８年度：１７０万円、平成１９年度：１４３万円）
- ・若手研究（Ｂ）：１件（平成１６年度から継続。平成１６年度：２１０万円、平成１７年度：５０万円、平成１８年度：４０万円）

- ・愛媛県、東予産業創造センターなどの外部資金は獲得し易いので積極的に応募するように学科会議で何回もアナウンスし、この結果として、外部資金（３件）を獲得できた。これらは複数教員と連名である。

＜平成１８年度の受託研究受入状況＞

契約相手先	受入金額	
独立行政法人科学技術振興機構	１９０	万円
(財) 東予産業創造センター	１００	万円
三菱電機（株）	４９．９２	万円

[4] 卒業研究・特別研究に対しては指導教員と学生とのコミュニケーションを更に良くし、卒業研究に対しては複数教員で協力して学生のフォローを行い、特別研究に対しては学生に１回程度は学会発表させるなど活性化を行う。

- ・卒業研究で指導教員が面倒を見れない場合（会議、主張等）には、別の教員が出欠、疑問点を聞く等のために「教員２名体制」実施した（資料２－６－[４]－１）。
- ・電気関係学会四国支部連合大会（９月）などの学会で電気出身の専攻科２年生全てが発表した（専攻科１年生（１名）も発表した）。

卒業研究の指導代行担当者一覧

電気情報工学科 平成 18 年度前期

教員名	月曜日	金曜日
	12:45～15:55	13:30～15:55
伊月	(佐藤)	
馬淵		(香川)
佐藤		
皆本	(王)	
檀上		
稲見	(馬淵)	
井門		(先山)
尾西	(檀上)	(平野)
王		(皆本)
平野	(井門)	
先山		
香川	(馬淵)	(稲見)
横山	(先山)	(伊月)

2. 7 地域連携

- [1] 市民講座など地域行事に積極的に参加する。学科としては市民講座を1件/年程度は実施する。
- ・「四電フェスタ（8月中旬）」での電気自動車デモ、金子小学校文化祭（11月）、「銅アート de まちづくり」アート展への出展（12月、4E学生4名が製作した）を行うなど、地域行事に積極的に参加した。
 - ・市民講座で講演した（王先生）。
 - ・山梨大学でのソーラーカーレースに参加した（11月）。
- [2] 共同研究・受託研究に結びつけることを目標に、技術相談、愛テクフォーラム専門部会での作業などを活発に行う。
- ・技術相談4件、工業技術センター（倉橋氏）と電波吸収体関係の打合せを実施した。
 - ・愛テクフォーラム専門部会としては他の専門部会と一緒に講演会などを実施した（資料2-7-[2]-1）。
 - ・受託研究は4件獲得できたが、共同研究は実現できなかった。



[3] 学科を取り巻く、保護者、地域、非常勤教員、卒業生、学科関係教職員OB等との連絡網を充実させ、外部から見た意見などを取り込み、地域の中での高専の立場を明らかにする。

- ・学校にきた卒業生に学校の評判を聞いた。
- ・地域との交流会には積極的に参加した（新居浜5：30、ロボット産業育成フォーラムなど）。
- ・連絡網作成については、今後、後援会などに協力していく。

[4] 出前講座については待っているはなかなか実現しないので、機会があれば売り込む。具体的には、小中学校の文化祭での展示などに前向きに取り組む。

- ・出前講座については2. 2 [3] 参照。
- ・各種展示については2. 7 [1] 参照。
- ・現代GPの一貫として、今後、積極的に出前講座を展開していく予定。

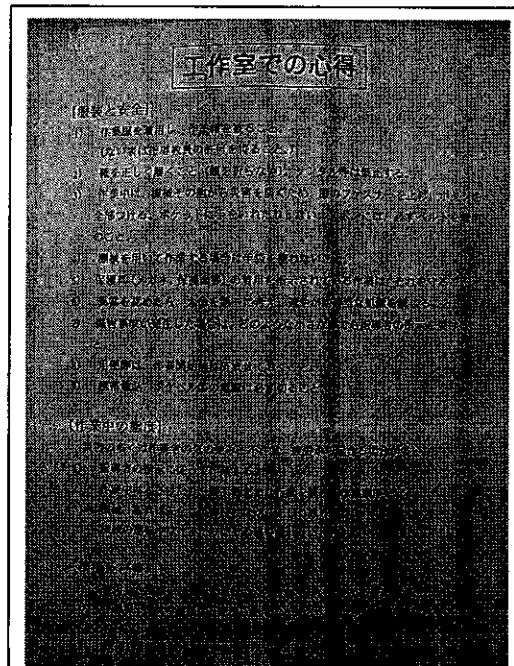
2. 8 環境整備

[1] 実験室・廊下を整理整頓し、スペースを有効利用する。

- ・電力実験室を整備した。また、廊下ロッカー（3階）内の不必要書類を廃却した。4階物置部分を整理した。

[2] 実験室に「実験室での心得」をよく見える所に貼り、安全作業を徹底させる。

- ・「実験室での心得」を張り、ボール盤使用等ではゴーグル使用等安全作業を徹底させた（資料2-8-[2]-1）
- ・装置使用記録簿を作り、使用者には記入させた。



[3] 時間の余裕を確保する。

(1) 学科会議をスピーディに(プロジェクタなどを活用し、2時間以内を目標にする)

(2) 業務を分担して行う。

- ・ 学科会議ではプロジェクタを用い、項目別に事前に時間を割当て、2時間以内に終わるように努力した。結果的には2.5時間程度はかかった。
- ・ 一人の人に作業が集中しないようにした。

[4] 校内外の環境美化に協力する(学生と協力すると共に、学科教職員だけでも最低1回は行う)。

- ・ 環境委員会が策定した清掃活動日程表に従って、学生、教職員と一緒に清掃活動を実施した。学科会議で日時を決め、多くの教職員(毎回8割程度の教職員)の参加を得た。
- ・ 学科教職員だけでも1回行った。

2.9 その他

[1] 学科会議で各学年担任から担任している学年の日常状況報告をして貰うなど教員相互の情報交換を密に行い、問題がある場合などは全員でフォローする。

- ・ 今年度から学科会議で「担任報告」の時間帯を設け、特に問題のある学生の情報を共有化した。この中で、何人かの学生が浮き上がってきており、上記2.3[3]に示すように複数教員で夏休み補習が実施できた。

[2] 新任あるいは経験の浅い教員への支援を強化する。具体的には、学科教員で分担して新任あるいは経験の浅い教員の授業を聞き、また、授業の仕方の上手い先生の授業を聞いて貰うなどを行い、授業の仕方の改善を行う。

- ・ 昨年及び今年赴任された先生(3名)に対して主任が授業参観(2回実施:6月頃、2月頃)を行い、改善点などを文書にして個別に説明した。また、授業の仕方の上手い先生の授業を聞いて貰った。

◎電子制御工学科

主任 榑原 久司

1. 平成18年度運営目標・方針

1. 1 入学志願者確保に最重点で取り組む。
1. 2 学習支援、学生生活指導を通して、学生との信頼関係をより強力なものにする。
1. 3 日常的に教育改善が行われる体制作りに学科として取り組む。
1. 4 JABEE、機関別認証評価受審準備を通して継続的に教育改善を進める体制を作る。
1. 5 研究活動、地域連携活動に積極的に取り組む。

2. 平成18年度実施計画

2. 1 入学志願者確保

- [1] 体験学習、国領祭の科展示などの内容を充実させる。
 - ・マイコンを使った魅力的なテーマを新たに考案した。また、2足歩行型のロボットを学科で購入し、体験学習に用いた（資料2. 1-1）。
- [2] 学科独自の中学生向けPRパンフレットを作成し、中学校関係者への広報活動を活性化する。
 - ・学科独自の中学生向けPRパンフレットを作成し、夏季体験学習時および夏休み中の中学校訪問時に配布した。
- [3] Webページによる中学生向けの情報発信を強化する。
 - ・電子制御工学科のホームページをフラッシュを用いたものに一新し、さらに写真入りの授業紹介ページを新設するなど、中学生向けの情報発信を強化した。
- [4] 学校として行う小中学校向け体験型出前講座へ積極的に参加する。
 - ・道後小学校へのPR活動、国立大洲青少年交流の家における科学体験フェスティバル、よんでんグループフェスタ、「とっておきの新居浜物語展」、「はまさい」に出展してPR活動を行った。
 - ・ものづくりフェスタ in 松山に1名の教員が参加した。
 - ・11月の第33回金子校区文化祭に、電子小女郎ダヌキ親子とタヌキトロッコを出展した。

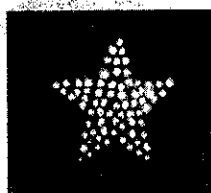
資料2. 1-1

平成18年度

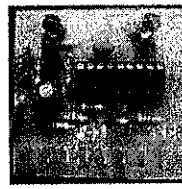
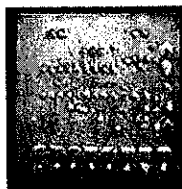
夏季体験学習

D1

発光ダイオードを並べてオリジナルの作品を作ろう。



←好きな模様
に、
発光ダイオードを並べて、
曲にあわせて点滅させよう！！

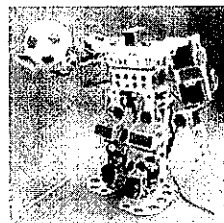
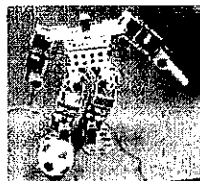
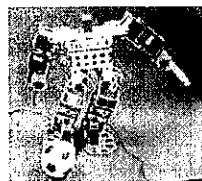
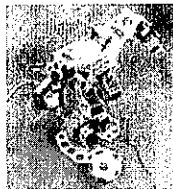


なんと、作品は持ち帰りできます！！

基板に部品を取り付けます。

D2 ロボットでゲームしよう

なにかしらゲームをしよう
 電子制御工学のロボットで
 ロボットゲームをしよう



トリコル、シュート、目標セ

[電子制御工学科のページへ](#)

(出展 新居浜高専 電子制御工学科ホームページ)

2. 2 学習支援、学生生活指導

[1] 低学年の学習支援体制を強化する。

- (1) 1年の電気基礎演習を5名の教員で指導する体制にし、専門基礎学力強化を図る。
 - ・電気基礎演習を5名の教員で指導する体制にし、専門基礎学力強化を図ったが、数学等の基礎学力不足の学生については十分な成果が得られなかった。
- (2) 1、2年の成績不振者の補習を電気情報工学科と協力して、きめ細かく行う。
 - ・夏休みに1、2年の成績不振者の補習を実施し、ある程度の成果が得られた(資料2. 2-1)。

[2] 学生とのコミュニケーションをとる機会を増やす。

- (1) 学生と教員との意見交換会を年に2回行う。
 - ・4、5年の学生と1～3年の学生を対象とする意見交換会をそれぞれ1回実施した(資料2. 2-2)。
- (2) 前期に各教員が2年生を4～5名ずつ担当し、テスター製作実習、専門基礎科目の指導に当たる。
 - ・2年生を対象とするテスター製作実習は学生とのコミュニケーションをとる機会を増やす意味で効果があった。しかし、テスター製作実習後の専門基礎科目の指導については、担当教員により指導内容が異なっていたため効果が十分に表れなかった。
- (3) 1、2年生のアドバイザー制度の活性化を図る。
 - ・1、2年生のアドバイザー制度が年度当初しか有効に機能しなかった点が反省点である。

[3] 留年につながりやすい欠課数、遅刻数が急増した学生に個別で面談し、早期に対応

策を検討する。

- ・ 2、3年生についてはショートホームルームへの遅刻がめだってきた学生に対して個別に面談を行い、遅刻の理由を聞き、生活態度の改善を行うよう指導を行った。その結果、ある程度は遅刻が減ったが、またしばらくすると増加したので、今後、より効果的な指導方法を検討する必要がある。
 - ・ 4年生については5月25日より6月5日までに学生個別面談の機会を設けて欠課や遅刻の削減を呼びかけた。また4D朝の出欠状況を棒グラフにして教室後ろに掲示して啓蒙を試みた。7月保護者懇談会および1月下旬から2月初旬の保護者・学生3者懇談会でも欠課や遅刻をしないように注意した。
- [4] 学修単位制の変更に向け、体系的な宿題やMATLAB等のシミュレーションソフトを用いた演習課題を通じ、学生の主体的な努力による学習を定着させる。
- ・ 学生に自学自習の習慣付けをさせるのに効果的と考えられる学修単位の導入に向けて、4年の科目のうち電気磁気学2と制御工学1において導入のシミュレーションを行った。
- [5] 3年生については、春に学生本人との面談を行った後、すぐに来年度の予定をたてさせ、夏休み前に進路変更希望者に対する指導を開始する。
- ・ 4～5月に第1回目の個人面談を行い、進路についての聞き取り調査を行った。その結果、進路変更を希望している学生が3名いたので、来年以降の進路について保護者とよく話し合うように指導した。
- [6] 工作室を利用する学生を対象に、使用法の講習を実施し、危険予知、安全に対する認識を高めるようにする。
- ・ 4Dの電子創作実習の中で、ミニロボコンのためのマシン製作に取り組む際、実際の工作作業に入るまえに、3～4人ずつに分けて工作室の使用法の講習を行った。
- [7] ロボコン、プロコンの取り組み支援を行う。
- ・ ロボット研究会顧問2名、プロコン指導教員2名で上記コンテストの取り組み支援を行った。
- [8] 担任だけでなく全員で学生の生活態度、身だしなみの指導を行う。
- ・ 学科会議で日常的な指導の中で問題を起こしがちな学生について情報交換することにより、学科教員全員の共通認識の下、全員で指導するようにした。

資料2. 2-1

H18年度 電子制御工学科 夏季補習（1、2年生対象）

実施期間：7月20日（木）、21日（金）、24日（月）の3日間

対象：1、2年生の希望者

実施科目：

1年生

専門基礎科目（電気基礎）

工学基礎科目（数学B-1、英語1）

2年生

専門基礎科目（電気回路1）

工学基礎科目（数学A-2、物理2）

実施方法：上記科目の夏休み前までの学習範囲の演習問題を自力で解くことで、基礎学力を身につけることを目標として行った。解けない問題については教員がわかりやすく黒板で説明した。

出席状況：	1 年生	2 年生
7/20 (木)	7 名	4 名
7/21 (金)	7 名	6 名
7/24 (月)	5 名	4 名

以上

(出展 新居浜高専 夏季補習状況連絡文書)

資料 2. 2 - 2

電子制御工学科教員と学科学生との交流懇談会

第一回交流懇談会 (対象：4、5 年生)

日時：1 月 29 日 (月) 16:10~17:30

場所：電子制御工学科 5 年教室

参加学生：(5 年生) 10 名、(4 年生) 3 名

参加教員：学科主任、4、5 年学級担任ほか 合計 9 名

1. 授業改善に関する学生からの要望・提案とその対応

- ・卒研のときに発表をするけれど、その他にプレゼンを練習する機会が少ない。工学基礎研究の発表についても同様。

→工学基礎研究の内容を見直し、「効果的なプレゼンのための基本」についての講義も含める。また、電子制御実験 1 (D 4) の口頭試問の際にプレゼンによる発表を行う機会を増やす。

- ・CAD 室で MATLAB のようなアプリケーションをいっせいに起動できない。少人数でも MATLAB の挙動がおかしい場合がある。

→今年度中に更新が行われるので、この問題を解消できる可能性がある。業者に実際に不具合が出ているときに来校してもらい、対策を行ってもらう。

- ・来年になると授業が変わるとか、宿題が増えるなどの噂はあるが学生に詳細が伝わっていない。自分で時間配分ができないのでこれ以上は宿題などを増やさないでほしい。

→「学修単位」導入の背景について説明する機会 (担当 教務委員) を設ける。

- ・科目で教科書の使用頻度が違う。一年間開かなくても問題ない場合もある。使わないのはもったいないのでは。教科書はどうやって設定しているのか。配布資料でいい場合も感じられる。

→良い教科書を選ぶことは、良い講義を行うための基本であるから、教員側で時間をかけて教科書を選定する。

- ・実験と授業のタイミングが合っていない。効率が悪いのでは。科目間連携を何とかして欲しい (例：ラプラス変換)。

→シラバスを見直す際に検討する。

- ・ WebClass を活用してくれる教員に差があるので、なるべく活用して欲しい。
→全教員で活用することにする。
- ・ WebClass に新着情報が欲しい。
→科目のコメントのところを活用して、新着情報を伝えるようにする。
- ・ 教員の研究内容を教えて欲しい。工学基礎研究でどうやって選んでいいかわからないので、研究の内容を教えて欲しい。
→技術シーズ集に各教員の研究内容を載せて学生も閲覧できるようにする。
- ・ 専門の選択科目を増やして欲しい。
→来年度のカリキュラム見直し時に検討する。

2. 学生支援に関する学生からの要望・提案とその対応

- ・ 求人情報を電子化して情報を活用しやすくしてほしい。
→来年度は電子化したものを WebClass にて公開する。

第二回交流懇談会（対象：1、2、3年生）

日時：2月5日（月）16：10～17：20

場所：電子制御工学科5年教室

参加学生：（3年生）4名、（2年生）5名、（1年生）3名

参加教員：学科主任、1、2年学級副担任ほか 合計9名

1. 授業改善に関する学生からの要望・提案とその対応

- ・ 情報処理で1年生が1回もプログラミングを行っていない。半分以上は何をやっているのかわかっていない。実習をやりたい。
→情報処理と電気基礎演習との連携を検討し、情報処理で学んだことを電気基礎演習の実習で確認するやり方を考える。
- ・ WebClass は情報処理2でしか使っていない(2D)。授業中に配布した資料が WebClass にあれば便利だと思う。
→全教員で WebClass を活用する。
- ・ WebClass の更新があったらすぐわかるようなシステムが欲しい。
→科目のコメントのところを活用して、新着情報を伝えるようにする。
- ・ 授業中に当てられた学生が黒板に解答する時間が長いと思う。1時限(90分)で演習問題が3問ぐらいで終わるときがある(3D)。時間が余った人用の発展的な問題が欲しい。→数学科に申し入れる。
- ・ 2Dの課題演習でテスターが完成してからグループによってやることが違っていた。
→来年度以降、2Dの課題演習の内容を明確にする。

2. 学生支援に関する学生からの要望・提案とその対応

- ・ 自動販売機を電子制御工学科棟の近くに置いて欲しい。
→難しい。
- ・ 資格試験の情報を学科通信みたいな感じで配布して欲しい。
→ホームページで対応する。

その他、要望ではないが感想のような意見など電子制御工学科の学生が日々どのように感じているかを知ることができて有意義であった。1学年の参加学生数を増やしたことで自由に意見が言える雰囲気になり、昨年度よりも多くの意見が出された。

（出展 平成18年度電子制御工学科教員と学科学生との交流懇談会議事録）

2. 3 教育改善

- [1] 低学年教育における電気情報工学科との協力体制を作り、効率的に教育改善を行う。
 - ・電気情報工学科、電子制御工学科の低学年専門基礎科目担当者が集まり、「電気基礎」の授業進度や演習の実施方法などについて情報交換を行った（資料2. 3-1）。
- [2] 授業のビデオ撮影、各教員のビデオ観察による授業改善案の作成など、学科として各教員の授業改善を進める。
 - ・授業の分りやすさを改善するため、各教員が自分の授業のビデオ撮影を行い、その映像と学生の授業アンケート結果の双方に基く授業方法の改善案を作成した。本年度は学科内全教員が参加して2名の教員の授業について検討会を実施した。
- [3] 講義科目について2件以上の公開授業を行い、模範的な授業の参観や、学生へのアンケートから課題が指摘された授業の改善状況の検討を通じて、学科全体の授業をレベルアップする。
 - ・実験・実習科目や特色のある授業科目について、本年度は3件の公開授業を実施した。ただし、講義科目の公開授業は4D電気磁気学2の1件にとどまり、十分な成果をあげられなかった。
- [4] 技術の進歩に即した実験テーマの設定と測定機器類の整備を行う。また、学生実験室の棚を整理し、環境整備に努める。
 - ・教育研究基盤設備整備推進費の配分を受け、電子棟3階基礎工学実験室のオシロスコープおよびCR発振器を、それぞれデジタルオシロスコープとファンクションジェネレータに10式更新した。また、学生の製作物等を展示収納するために、2階のラウンジ部分にガラス戸棚保管庫を設置した。

(資料2. 3-1)

低学年専門基礎科目担当者意見交換会議事録

日時： 2007年3月12日 10:15～11:00

出席者：榊原、今井、皆本、平野、香川

議長：榊原 記録：平野

- * 電気情報基礎演習について（電気情報工学科（以下、Eと記す）の方法を説明）
 - クラスを半分に分ける点および担当者が5人である点は電子制御工学科（以下、Dと記す）と同じ。
 - Eの分け方は出席番号順で、Dは混合クラス毎でやっていたので前半と後半の担当学生数が異なる点が良くなかった。
 - Dは前期だけ、図学の代替科目として行った。後期は情報リテラシーの続きを実施。
 - Eは今年は問題分量が少なかった。
 - Dは中学数学の復習からであり、ED共通なのは電気基礎に関する数学的なこと。
 - Eは宿題の採点と解説で、それが成績となる。
 - 問題集との違いは文字式で解かせるところ。
 - キルヒホッフはループ電流法は用いず、レベルを設定。教科書の表現に合わせる。

- 電流の分流については分流器ではやっていない。
- クーロンはやってない、コンダクタンスは最後。
- E では前期、後期で担当を変えている。後期は能力でグループ分けする。
- 授業の終わりに宿題を出す。
- 時間数の違い有り、Eは90分。
- E ではステップを細かくやって、復習が手薄だった。来年は繰り返し復習を入れる。
- E で実施している連絡帳は良い方法と考えられるので、D でも来年度から同様の方法でやる。

(出展 電気、電子低学年専門基礎科目担当教員意見交換会 議事録)

2. 4 JABEE、機関別認証評価

- [1] 電気情報工学科との連携を密にして、システムデザイン工学プログラムの内容充実、継続的改善を積極的に進める。
- ・機関別認証評価受審のため自己点検書作成に関連付けて活動した。電子制御工学科の科目系統図作成（本科1年から5年）により全体の科目連携のあり方が明確になった。
- [2] 機関別認証評価受審のための準備を進める。
- ・答案のファイリング、自己点検書の作成など準備は整いつつある。

2. 5 教員研究活動の活性化、地域との連帯

- [1] 研究活動の活性化に務める。
- (1) 各教員の研究を活発にし、論文、国際学会での報告、紀要、口頭発表等の目標総計を2桁以上とする。
 - ・論文7件、国際学会発表2件、口頭発表6件があった。
 - (2) 科学研究費の申請を積極的に行うと共に、産学連携の共同研究を推進して資金獲得を図る。また、JSTが募集しているシーズ発掘試験に応募する。
 - ・科研費申請7件、シーズ発掘試験申請2件（1件は現在準備中）があった。
 - (3) 17年度に引き続き、学位取得を目指す教員への援助を行う。
- [2] 共同研究、地域連携活動を強化する。
- (1) 愛媛県や新居浜市の諸機関との協力、連携を行う。
 - ・現代GP商店街活性化パフォーマンスロボプロジェクトを推進。
 - ・1名の教員が新居浜小中学生科学奨励賞の審査員を務めた。
 - ・1名の教員が新居浜市中小企業新製品研究開発事業認定及び評価委員会委員を務めた。
 - (2) 地域企業との共同研究等の推進を図る。具体的には、卒業研究テーマとして「ITコンテンツの製作」などを設け、以前より共同研究を行っている妻鳥通信工業との連携を深める。
 - ・妻鳥通信工業と協力して、共同研究で開発した携帯電話を用いた緊急通報システムなどをITフェアに出展した。これによって本校のIT技術の広報活動に努めた。また、インターンシップを通じてITコンテンツの製作を多くの学生に体験させることにより、情報関連技術の教育に貢献した。

- ・ 東洋電化工業との共同研究として、コンピュータシミュレーションを用いた電磁波の可視化による電磁波吸収材料の評価に関する研究を行った。
- (3) 小・中学校対象の出前講座に1件以上、新規に登録する。
 - ・ 小・中学校対象の出前講座に5件新規に登録した。
- (4) 卒業生とのネットワーク形成および活用の取組みとして、新居浜高専メールマガジンを卒業生に送付し、本校の近況を知ってもらう。
 - ・ 学科としての卒業生とのネットワーク形成の取組みはできなかった。

○ 総括的な評価と課題

- ・ 本学科への志願者が昨年度に比べて大幅に増加した。体験学習、国領祭の科展示の内容の充実、学科ホームページの一新などの効果があったものと考えられる。しかし、19年度においても学校・学科PRは最も重要な課題であり、学科教員全員で取り組み、恒常的に志願者倍率が1.5倍を越える状態にしていく必要がある。
- ・ 学習支援については1、2年生の専門基礎学力強化に取り組んだが、数学等の基礎学力不足の学生については十分な成果が得られず、改善すべき点が多い。電気情報工学科との情報交換で得られた低学年教育を効率的に行うノウハウを参考にして、効果的な基礎学力強化方法を検討する。また、学生との信頼関係の強化については学生との意見交換会で出された意見、要望を学科運営に生かし、学生の意見がすぐ反映される学科にしていく。
- ・ 学科内の教育改善活動の成果が現れつつある。今後、PDCAサイクルを回し、活動を定着させていく必要がある。
- ・ 教員の研究活動については、論文、国際学会での報告、口頭発表等の総計が15件あり、昨年度よりも活発になった。

◎生物応用化学科

主任 河村秀男

1. 平成18年度運営目標・方針

1. 1 入学志願者確保に関すること

- 学科パンフレットの作成、学科HPの更新、学校見学会（学科別コース）などを通してPR活動を推進すると共に、夏期体験学習の内容を検討し、昨年度以上の推薦志願者数の確保を目指す。
- 推薦入学者および推薦不合格者で学力入学者に対する定期試験の追跡調査を行い、適切な推薦入試方法及び推薦合格者数について検討する。

1. 2 学習生活支援に関すること

- 副担任を窓口にして、低学年における指導体制の改善に努める。
- 自学自習のための取り組み方法について検討する。
- 欠席者、遅刻者の減少に向けた取り組みを行う。
- 安全指導についての取り組みを行う。

1. 3 教育改善に関すること

- 教育研究集会に参加、発表を行う。
- セルフブランニング実験及び学生実験の実施内容を見直し、デザイン能力の涵養に向けた取り組みを行う。

1. 4 JABEE に関すること

- 生物応用化学プログラム推進計画に基づき、改善活動を行う。
- 各種アンケートの実施、及び企業訪問などを通して、学習・教育目標と技術者像との整合性について検討を行う。

1. 5 研究活動に関すること

- 科学研究費等、外部資金獲得のための申請を積極的に行なう。
- 機関別認証評価の受審に向けて、教育・研究成果の発表を活発に行う。

1. 6 地域連携に関すること

- 地域企業との活発な共同研究体制の維持を目指す。
- 産学連携の下、地場産業の核となる人材養成に努める。
- 卒業生とのネットワーク形成に努める。

1. 7 高専間の連携に関すること

- 入試志願者確保に関する情報交換、及びPR活動の協力体制の基盤を作る。
- FD活動に関する情報交換を行う。

2. 平成18年度実施計画

2. 1 入学志願者確保

[1] 学科紹介のためのパンフレットを新規に作成する。(担当教員が原案を提出し、学科会議において内容を検討後、6月中旬ごろまでに実施する)

- ・5月末までに作成し、「はばたけ未来へ」と共に県内、および高知県、岡山県などの近隣県の中学校に6月中旬に郵送した。さらに学科のホームページ内の「中学生のみなさんへ」において公開した。

[2] 夏期体験学習、学校見学会（学科別コース）の実施方法の見直しを行い、実施する。(担当教員と主任が原案を提出し、学科会議において内容を検討後、7月までに決定する)

- ・1時間程度をかけて行う実験について検討し、「芳香剤を作ってみよう」と「蛍の光を作ってみよう」の2テーマを新たに実施した。その他、「液体窒素で遊ぼう」と「油滴を操ろう」を実施した。アンケート結果から判断する限り、どのテーマについても参加した多くの中学生から興味を持ってもらい、良い評価を得た。

[3] 学科で実施している推薦入試の選抜方法、及び推薦合格者数の妥当性について検討する。(内部・外部評価委員会において成績追跡調査を行い、まとめる)

- ・推薦選抜の方法が変更になったこともあり、実施できなかった。

2. 2 学生生活支援

[1] 学科会議において、副担任に実施状況を報告させる。

- ・服装、成績などの点で問題がある学生については副担任から報告があった。今年度の低学年における退学者、進路変更者の数は、例年に比べて減少した。

[2] 自学自習への取り組みに向けた授業を担当する教員を決定し、担当教員に実施状況を報告させる。(学科会議で担当教員を選出する)

- ・学修単位科目の導入に向けて試行科目を2科目(化学工学3と生物物理化学1)設定し、自学自習への取り組みに関する実施状況を教員会において報告した。

[3] 低学年について、進路、専門科目への興味に関するアンケートを継続実施し、分析を行なう。(教育目標達成度評価委員会において2月までに実施し、まとめる)

- ・生物応用化学科1年生から5年生を対象にして、授業、実験、設備に関する要望や提案についてのアンケートを実施した。各学年から出された要望、提案は「学生と学科教員との交流懇談会」において報告すると共に、実験器具などにに関する要望はその対応策について回答した。

[4] 第1学年から第3学年までは、ショートホームの出席率の悪い学生に対し、学科主任、担任と保護者、学生の懇談を行うことで、授業へ出席することの意義を理解させ、欠課数、遅刻者数を目指す。出席率の高い学生は表彰を行う。第4学年においては、第5学年の卒業研究配属の基準項目にショートホームの出席率を加える。

- ・出席状況の良くない第4学年の学生に対して、担任からの申し出により主任、担任、学生の3者間で懇談を行うことで改善がみられた。

[5] 留年対策として、1年生については担任、科目担当者と連絡を密にし、情報交換を行う。2年生以上では、担任からの情報を基に、専攻科生を家庭教師として紹介するなどの対応をとる。学生に対しては特別活動の時間などを利用し、また保護者に対しては説明会などを開催し、就職、進学情報を提供することで、保護者の協力を得ながら勉強への動機づけを行う。

- ・3年生の保護者を対象に3月上旬に説明会を開催し、進路指導を担当した教員から今年度の就職、進学状況、今後の勉学の取り組み方などについて報告した。

[6] 進路変更者に対しては、担任だけでなく、学科で情報を共有し、学生の希望する進路先に対するアドバイスや紹介などを行う。

- ・2C担任から進路変更希望者1名について報告があった。

[7] 学生実験や卒業研究・特別研究の安全指導のため、従来から用いられてきた“実験を安全に行うために”や“続・実験を安全に行うために”のテキストに加え、学校から配布された“安全マニュアル”を活用する。

- ・“実験を安全に行うために”や“続・実験を安全に行うために”のテキストの使用に限られてしまい、“安全マニュアル”は活用できなかった。

2. 3 教育改善

[1] 平成17年度に実施したセルフプランニング実験の成果と問題点について教育・研究

集会において発表し、その評価を基に見直しを行う。(教育改善委員会が発表者を人選し、依頼する)

・四国地区 FD 研究会 (堤教員)、および高専機構主催教育教員研究集会 (西井教員) において発表を行った。

[2] セルフプランニング実験及び学生実験について、アンケート結果の解析を行い、実施方法の改善を図る。(カリキュラム・シラバス検討委員会が解析する)

・アンケート結果に基づき、学生から提案のあったテーマを実験テーマとして取り入れた。平成 18 年度はプランニング能力の向上に力点を置いて実施した。

[3] 公開授業を最低年 2 回実施すると共に、原則として各教員は最低 1 回の授業参観と報告を行なう。(内部・外部評価委員会が依頼し、学科会議にて報告する)

・化学工学 3 (西井教員)、環境化学 (牧教員)、食品化学 (中川教員)、およびセルフプランニング実験について公開授業をおこなった。参加者は学科会議あるいはメールで、参考になった点などについて報告をおこなった。

[4] シラバス、カリキュラムの点検と見直しを行ない、来年度のシラバスに反映させる。(カリキュラム・シラバス検討委員会で実施する)

・現在の所、来年度のシラバスが出来ておらず実施されていない。

[5] 学科独自の実力試験を実施し、結果について解析を行う。(前期中に内部・外部評価委員会で実施し、まとめる)

・生物応用化学科 1 年生から 5 年生まで 4 者択一の同一の問題で実施した。すべての分野において学年の進行と共に平均点は上昇し、学習量に比例する結果が得られた。昭和 59 年度において実施した同様の実力試験の結果と比較しても点数の向上がみられた。解析結果をまとめ、平成 19 年度の紀要に投稿する予定である。

2. 4 JABEE

[1] 学習・教育目標に対する理解度、レベルに関するアンケートを本科 4、5 年生と専攻科生に継続的に実施し、解析を行う。(内部・外部評価委員会において、前期中に実施する)

・3 月に学習・教育目標に関するアンケートを実施した。今年度中に結果をまとめる予定である。

[2] 学習環境・福利厚生設備に関する意見、満足度に関するアンケートを本科 4、5 年生と専攻科生に継続的に実施し、解析を行うと共に学生へのフィードバックも行う。(内部・外部評価委員会において、前期中に実施する)

・3 月に学習環境・福利厚生設備に関するアンケートを実施した。今年度中に結果をまとめる予定である。

[3] プログラムにおいて育成する技術者と学習・教育目標との対応、企業が求める人材と学習・教育目標との対応などについて、企業に聞き取り調査と解析を行う。(教育目標達成度評価委員会より依頼された就職担当者、及び就職開拓者が、7、8 月及び 2 月に実施する)

・実施できていない。今年中に実施することは困難であるため、来年度の夏季休業中に行うインターンシップ先訪問を利用し、実施する予定である。

[4] 平成 17 年度プログラム履修のてびきを学科内の全教員が分担して見直し、平成 18 年度プログラム履修のてびきを作成する。(4 月中に実施する)

・平成 18 年度プログラム履修のてびきを作成し、対象学年の学生に配布すると共に、内容の説明をおこなった。

2. 5 研究活動

[1] 各教員は、科学研究費等、外部資金獲得のための申請を1件は行なう。

・科学研究費への申請件数は5件であり、1件採択された。その他、都市エリア産学官連携促進事業、愛媛産業振興団等から外部資金を獲得している。

[2] 各教員は教育・研究成果の発表を1件は行う。

・指導を行っている専攻科生の発表を含め、平均1件以上の発表を行った。

2. 6 地域連携

[1] 各教員の得意とする教育・研究分野を活かした、新たな共同研究体制作りに努める。

・従来の研究体制に限られ、新たな体制を作ることはできなかった。

[2] 各教員の得意とする研究分野を活かした技術者教育、及びリフレッシュ教育を行うため、高度技術教育研究センターとの連携を図る。

・学科として地元企業の技術者に対するリフレッシュ教育は実施できなかった。

{3} 卒業生とのネットワーク形成を目指し、本校を卒業した教員を中心に同窓会を開き本校の現状について意見を交換する。

・同窓会を開催し、本校卒業生の現状について意見交換した。

2. 7 高専間の連携

[1] 入試志願者確保に関する情報交換、及びPR活動の協力体制の基盤を作るために担当者を選出し、近隣の高専の化学系学科と定期的に交流を行う。(教育改善委員会において人選し、実施する)

・8月に高知高専で開催された四国地区FD研修会において、高知高専物質工学科の教員と就職、進学状況などについて意見交換を行うと共に、3月に高知高専を訪問した。

[2] FD活動に関する情報交換を行うために担当者を選出し、近隣の高専の化学系学科と定期的に交流を行う。(教育改善委員会において人選し、実施する)

・3月に高知高専を訪問し、意見交換を行った。

○ 総括的な評価と課題

・体験学習において1時間をかけて行う実験のテーマを見直し、新たに2テーマを導入することなどPR活動に務めたことにより、推薦志願者を39名に増やすことができたことは評価できる。

・昨年度導入したセルフプランニング実験について、その成果や問題点をまとめて学外で発表すると共に、今年度、プランニング能力の向上という新たな視点から実施したことは評価できる。

・低学年における退学者数、進路変更者数が減少したことは評価できる。

・実力試験や各種アンケートについて実施した段階で終わっており、改善に向けたPDCAサイクルが動いていない。

・授業参観などのFD活動への参加人数、企業との共同研究の実施数について、昨年度と比較して増えておらず、また一部の教員に偏る傾向も改善されていない。

◎ 材料工学科

主任 高橋 知司

1. 平成18年度運営目標・方針

1. 1 環境材料工学科への名称変更に対応した学科目標、カリキュラムなどを検討する。
1. 2 JABEE 再審査に向けて学科内の教育改善体制を整備し、学習・教育目標、カリキュラム・シラバス、達成度評価などの再検討を行う。
1. 3 機関別認証評価の受審のための準備を進める。
1. 4 入学志願者増加への方策を検討し実施する。
1. 5 学習生活支援を進め、進級率、卒業率の改善を図る。
また、授業環境の改善を図る。
1. 6 公開授業を実施し、授業参観を積極的に行い、日々教育改善に努める。
1. 7 研究活動を活性化する。
1. 8 地域連携を密にする。
1. 9 設備の整備と充実を図る。

1.1 の 環境材料工学科の学科目標、カリキュラム（案）は作成した。

（引用裏付資料 1, 2 本科履修要覧 I p.5, p.102）

1.2 の JABEE 審査のための自己点検書を作成した。（平成 19 年 6 月発行の自己点検書参照）

2. 平成18年度実施計画

2. 1 入学志願者確保

[1] 中学生向け PR パンフレットの作成・配布。

・中学生向け PR リーフレットは、学科が作成し、学校が PR 活動している全中学校に、すでに 6 月下旬郵送し、10 月上旬には環境材料工学の内容でそのリーフレットを郵送した。（引用裏付資料 3）

[2] 材料工学科のホームページを見直しを行う。

・ホームページを見直しは、現在行っており、11 月上旬には改訂を行った。材料工学科から環境材料工学科へのホームページの改訂も行った。（引用裏付資料 4）

[3] 夏期体験学習の見直しを行う。

・本年度 7 月下旬の夏期体験学習は「七宝焼き」を導入し、参加生徒数も増え、かなりの成果を得たので、来年度はさらに改善し、実施する予定である。

（引用裏付資料 5）

[4] 推薦志願者数が、定員の 2 割以上となることを目標にする。学力志願者倍率を更に上げる。このために、PR 活動を積極的に行う。

・教務 PR 関連業務により、東予地区、今治、松山、福山および徳島池田周辺の中学校訪問し、新居浜高専および材料工学科の PR を行った。また、松山市で行った「ものづくりフェスタ in 松山」に参加し、PR に協力した。

・入学志願者増加への方策を検討し、本年度入試において推薦 {（定員の 2 割以上（11 名）は確保）、学力とも志願者が増加（1.05 倍から 1.62 倍）した。しかし、来年度以降も継続的な鋭意努力が必要である。（引用裏付資料 6 2007 学校案内 p.39）

2. 2 学習生活支援

[1] 進級率、卒業率を高める。

3年生以下の留年者を減少させるための、方策(学習支援等)を検討し、実施する。

1, 2年生については、アドバイザー制度を有効に活用する。

卒業率は、100%を目標に細心の指導を行う。

- ・昨年度に引き続き、1, 2年生への学習支援は、年4回(2時間/1回)数学、物理の演習指導を行った。
- ・3年生に対しては、課外特別活動の一環として、物理化学、材料力学の学習支援を行った。
- ・アドバイザー制度を活用し、1, 2年生アドバイザー学生と材料工学科教員との懇談会を、それぞれ、H19.2.15(Z1), H19.3.06(Z2)に行い、授業の改善や学習支援についての意見交換を行った。
- ・担任他の教員の努力もあって、5年生は全員卒業した。

(引用裏付資料7 2007 学校案内 p.43,44)

[2] 進路指導を早期から取り組む。

5年生に対しては、保護者および本人と密に相談し、進路決定に対する具体的な意識を高め、1日も早く決断するよう指導する。

低学年から、進路に対する話を卒業生にお願いする等、あらゆる機会を捉えて進路に対する意識を高める。

進学率を高くする(目標:30%)。

- ・5年生に対しては、保護者および本人に十分指導をした。
- ・1, 2年生に対しては、特活に「卒業生のはなし」を取り入れたほか、アドバイザー学生との懇談の中で、機会をみて進路の話をした。3年生においても特活時にキャリアアップも兼ねて進路の話をした。進学率は、6名/24名(=25%)であり、目標値に近い率であった。

[3] 「ルールとマナーを守る」授業環境を作る。

朝のショートホームルーム(SHR)の充実をはかる。

学生の問題点の早期把握と1限目からしっかりと授業に向かう姿勢を育てることを目的として、副担任と協力して指導をする。

教室や校庭の美化につとめる。

- ・2年生および3年生の朝のショートホームルームについては、担任、副担任が毎日努力し、教室としても知恵を絞ったが、遅刻する学生が多く、結果はよくなかった。
- ・教室の清掃や、校庭の除草等については、学生と教職員が協力して、一定の成果があった。

[4] 部活動への全員参加(学生)を奨励する。

1年生には100%の参加を目指し、2年生以上には、退部しないよう指導する。

教員も全員何らかの部または愛好会に関与する。

- ・18年7月末の時点で、入部率は1年生:75.5%(34/45)、2年生:79.0%(34/43)であった。1年生および2年生とも、クラブに入っていない学生が9名いたので、部活動奨励のアドバイスをおこなった。今後は、この数字を基準に100%入部を目指して指導したい。

[5] 学生会・寮生会への積極参加（学生、寮生）を奨励する。

学生会長や学生会役員に意欲的に参加するよう呼びかける。

寮生会長、寮生会役員、指導寮生等に積極的に参加するよう呼びかける。

- ・学生会役員は、18年度は4名（専攻科1名を含む）になった。
- ・寮生会役員、指導寮生、同補佐は、18年度は、それぞれ、3,2,0名であり、19年度は、それぞれ、1,2,0名になった。今後とも積極的に参加するよう機会があるごとに呼びかけたい。

2. 3 教育改善

[1] 公開授業を実施する。

また、学内で行われる公開授業には、必ず1名は参観し、教育改善の参考にする。

- ・公開授業については、10/26に4Z工学基礎研究時に「インターシップ報告会」を実施し、座学についても11/1(2時限目)に5Z固体物理学にて実施した。H19.2.16には5Z卒業研究において同授業を実施した。
- ・学内で行われた公開授業については、1名以上の教員が可能な限り、授業参観に参加し、材料工学科の全教員に授業の進め方、授業方法など参考になるところを報告し、教育改善の一助とした。

以下、公開授業参加科目、日時、参加教員を示す。

科目名	日時	参加教員
・電気磁気学2 (4年電気情報工学科)	H18.5.23(1時限目)	日野
・特別活動 (2年電気情報工学科)	H18.5.26(4時限目)	高橋
・アルゴリズムとデータ構造 (4年電気情報工学科)	H18.7.14(2時限目)	松原
・電気磁気学2 (4年電子制御工学科)	H18.9.15(4時限目)	新田
・歴史特論 (5年選択)	H18.11.20(1時限目)	曾我部
・生物応用化学実験 (セルフプランニング実験) (4年生物応用化学学科)	H18.12.01(3時限目)	松英
・技術者倫理 (5年材料工学科)	H19.1.16(1時限目)	曾我部
・化学工学3 (5年生物応用化学学科)	H19.1.17(1時限目)	高橋

2. 4. JABEE への取組み

JABEE プログラムの再審査に向かって、機械工学科と協力して、一丸となって推進する。

- [2] 学科内の教育改善体制を、H17年度と同様、生産工学プログラム教育改善システムとの整合性を考慮して、以下の4委員会とする。教育改善委員会が[A]～[C]の各委員会を統括する。

教育改善委員会（○相根、池内、谷、高橋、志賀、曾我部）

[A] 学習・教育目標検討委員会（○谷、相根、日野）

[B] カリキュラム・シラバス検討委員会（○松英、松原、高橋）

[C] 達成度評価委員会（○志賀、新田、朝日）

○：グループリーダー

[2] それぞれの委員会において、課題を洗い出し、検討し実施する。

- ・ J A B E E については、全員の教員が協力して中間審査に向けてへの万全な取り組みを行っている。
- ・ 各委員会でそれぞれの検討課題を分担して、検討し対処した。

[3] 卒業研究の指導体制と評価法

卒研発表については評価項目を設定し複数教官が評価している。

H18 年度も、H17 年度同様、日常の取り組み状況を「卒研ノート」に記録するよう義務づけ、指導体制と評価法を再検討する。

- ・ 卒研については、11/8（水）中間発表会を実施した。H.19.2.16(金)に卒業研究発表会を行い、教員による発表評価を行い、発表後の質問項目・回答を「卒研ノート」に纏めさし、今後の指導指針とする。

[4] 特別研究の指導体制と評価法

特別研究についても同様に H18 年度も日常の取り組み状況を「特別研究ノート」に記録するよう義務づけ、指導体制と評価法を再検討する。

- ・ 特別研究の評価法については、発表、論文の評価の他に、日常の取り組みについての評価が検討され実施された。

2. 5 研究活動

各教員が行っている研究活動を全員が把握し、学科内あるいは他学科教員との共同研究、更には、学外の研究者との共同研究を検討する。

- ・ 各教員が行っている研究活動は主任が面談を行うことにより把握した。他学科教員や学外の研究者との共同研究は、2, 3 進行中である。
- ・ 積極的な科研費申請を促し、平成 19 年度として基板（C）3 件、若手（A）1 件の計 4 件申請した。

2. 6 地域連携

[1] 地元企業との共同研究を積極的に進める。

① 卒業生とのつながりを大切にし、連携を深める。

② 地域のボランティア活動等に積極的に参加する。

- ・ 教室としての取り組みを検討するに至らなかったが、個々の教員において地元企業との共同研究に着手しつつある。

2. 7 設備の整備と充実

実習工場（統合）を始め、実験・実習室の設備の整備・整頓と充実を図る。

- ・ 環境材料工学科の玄関設置、実習工場の整備を現在、進めている。H19 年 10 月には完成予定である。

- ・実験室内および廊下の整理・整頓はかなり進んだ。安全面も考慮に入れて、更なる整理整頓を進めたい。

◎数理科

主任 竹田 正

1. 平成18年度運営目標

学生の目線に立ち、愉快で自由闊達な職場風土形成を目指す。また、新居浜高専の研究教育の向上に寄与するとともに、学生、教職員、地域とともに歩むと信頼されるに足る学校作りに貢献する

主任としては目標に沿って、学校運営の様子が教員、学生によくわかるようにと尽力してきたが、力不足で学校の職場風土を変えるにいたらなかった。

2. 平成18年度実施計画

2.1 入学志願者確保

市民講座、公開講座などを通して、市民・中学生に広い意味で本校を認識してもらい志願者の増加を図る。

今年は各自に与えられた職務を通して本校の存在をPRした。とくに、市民講座には積極的に参加した。

2.2 学習生活支援

1年生に対しては主として学年主任と協力して混合学級運営を中心として、2年生以上では、各学科と協力して主として教科指導を中心として、全学生に対して、寮務、部活指導、その他日常指導を通して、学習指導、生活指導、進路指導を積極的に行う。そして学生として自立かつ自律的に振る舞えるよう教育する。

特に、2年以下の学生については挨拶の励行、身だしなみ指導、禁煙教育、交通モラルを指導し、ショートホームルームはその内容について学年主任と協力して作成、指導する。朝の登校指導、盗難自衛指導を行う。

また、基礎学力不足の学生への教育指導を補習その他の手立てによって強化する。

学年主任を中心とした各学年担任団の尽力により十分教育指導された。また、学力などで高専生活につまずいた学生について担任を含む教科担当教員全体が共通認識を持てるように、担任へのアシスト会を開催した。

2.3 教育改善

数学、物理、化学（含む、応用数学、応用物理）科目教授

工学基礎科目であり、かつ重要な教養科目である数学、物理、化学を専門科目への円滑な接続が図れるレベルで、かつ、技術者として付与すべき素養レベルまで、教授する。

そのため各専門工学の中身に立ち入り、教えるべき内容を吟味する。

まず、数学について、今年も、2年生で習熟度別授業であるので、数理科全体で尽力する。また、実施にともなう困難が予想されるため、特に、全校的なバ

ックアップを望みたい。これが最重点課題である。数学の補習を行う予定である。さらにまた、中学校・高等学校との教育交流を今年も行う。
物理では新規メンバーを迎えて2年目なので、授業内容の変更をともなう改善を目指す。物理・化学では予算、人員の許す限りの実験・演示授業を実施し、理解を促したい。

主として2年生全体を対象にして学年主任を中心にして、数学、物理、化学の補習を7～8回程度開催した。これについては、なお検討の余地がある。

2.4 JABEE

応用数学や応用物理の授業を通して全学科に共通な基本的な素養を涵養し、工学者としての解析能力、思考方法を培う。

授業の中でJ A B E Eの理念を意識しながら工学者としての素養を涵養した。

2.5 研究

教員個々の研究課題に加えて、数理科としても地域ニーズに対応した研究の可能性を追求する。また、地域との連携の一層の推進も行う。また、教育研究についても積極的に行う。

今年度は十分にできたとはいいがたい。

2.6 地域連帯

市民講座、公開講座その他地域に連帯して行える事業を推進する。

積極的に参加した。

2.7 90分授業

昨年度から導入したシステムで一年生には長すぎる感があり、集中度持続への工夫が肝要である。また、余裕時間を利用して、個別授業などを積極的にもうけて個々の学生に目配りの出来る体制を目指す。

補習の形で学生全体を割り振ったためかどうか個々の学生に逆に目が届かなかったかもしれない。90分授業についてはまだはっきりとは評価できていない。

◎一般教養科

主任 野口裕子

1. 平成18年度運営目標・方針

学校の教育理念・教育目標の定着をはかる。

1. 1 理念・目標を各教科の授業に反映させる。

1. 2 各教科の授業を通して、人間形成に役立つ教育を行う。

〔1〕青年期の人間形成に必要な読書を勧める。

様々な機会を通じて読書を勧めた。

〔2〕良好な人間関係作る「言葉の使い方」の指導を推進する。

すべての授業を通して言葉の使い方を意識し、正しい使い方を指導した。

〔3〕授業を通じて、きめ細かく時間を守ることを伝え遅刻のないように指導する。

授業への遅刻の防止というだけでなく、ことある毎に時間を守ることの大切さを指導した。

〔4〕真面目に取り組むことの重要性を授業で伝え、欠課のない学生生活を支援する。

何事においても真面目であることの大切さを伝え、欠課をしないように働きかけた。

2. 平成18年度実施計画

2. 1 教科ごとにグループを編成し、効果的な授業を進める。

〔1〕教科ごとのグループを編成し、教科内容の検討、見直しを行い、意見の交換、互いの授業参観などを通じて授業方法の改善に努める。

各教科ごとに教育改善計画を立て、授業改善に努力した。

〔2〕教科ごとに共同の目標を持ち、その実現に努める。

教科ごとの連絡を密にし、共同目標推進のために努力した。

〔3〕教科ごとに自学自習教材に対する工夫を進める。

自学自習教材として、プリントを使うことを進め、工夫した。

〔4〕公開授業を行った場合は広く意見を聞くことのできる場を設ける。

「広く」という形ではうまくできないところがあったが、今後そのより良い方法を考えたい。

2. 2 英語力の向上をはかり、科としても支援する。

〔1〕英語教育改善WG等で専門学科教員と英語科教員との連携を深め、学生の英語力の向上を目指す。

英語科教員の努力に対し、科全体で支援した。

〔2〕専攻科生のTOEIC400を達成させるために支援する。

できうる限り英語科教員への協力を行った。

2. 3 基礎学力不足の学生への指導

〔1〕オフィスアワー等を利用して個別指導に力を入れる。

学生への個別指導を行うべく努力したが、会議などが多くなり、指導が遅い時間になる傾向になってきた。今後検討していきたい。

〔2〕進路変更希望者に対しても、より良い選択が得られるよう個別指導する

2. 4 JABEEプログラムの質の向上に努める。

〔1〕各学科・コースの学習目標等に各教科を対応させていく。

JABEEプログラムの質の向上を目指し、各教科を積極的に対応させた。

2. 5 5年生の就職推進に当たる。

〔1〕就職希望者を対象に一般常識問題の補習を行う。

補習の時期が遅くうまく機能しなかった。今後の方法を検討したい。

資料 配布プリント

一般教養科主催・就職試験対策補習について

下記の日程でプリントの解説を行います。

国語Ⅰ 担当（野口） 日程 4月20日（木）

国語Ⅱ 担当（野田） 日時 5月2日（火）

国語Ⅲ 担当（森長） 日時 5月9日（火）

社会Ⅰ 担当（井上） 日時 4月27日（木）

社会Ⅱ 担当（谷本） 日時 4月17日（月）

社会Ⅲ 担当（鹿毛） 日時 4月26日（水）

場所・・・階段教室 時間 16:10～17:10

担当教員個人研究室

国語

森長・・・管理棟2階

野田・・・管理棟2階

野口・・・一般教室棟3階

社会

谷本・・・管理棟2階

鹿毛・・・管理棟2階

井上・・・管理棟3階

注意・・・社会Ⅰは前もって解答してくること

他は解答時間を取ります

2. 6 教員の研究活動の推進をはかる。

〔1〕 科学研究費の申請等を実現させていく。

申請をするよう互いに呼びかけた。

〔2〕 年1本以上の論文執筆を心がける。

様々な結果となったが、今後とも論文執筆を常に意識したい。

参照

国立新居浜工業高等専門学校年間業績報告第8号（平成19年6月発行）を参照

2. 7 地域との連携を検討する。

〔1〕 公開講座等に積極的に取り組む。

今までにない科目でも取り組むようにした。

[2] 年に一人以上は公開講座を担当する。

目標通り実施できた。

[3] 地域に関連した研究に心がける。

地域も広く見据え、研究を推進している。

○総括的な評価と課題

一般教養科が受け持つ部分は、人間教育に関わる点が多いが、そのことを常に意識するよういっそうの徹底が必要である。地域の委員会への委員派遣なども行い、地域貢献も多様化しているので、できうる限り応えていきたい。

◎専攻科

専攻科長 早瀬 伸樹

1. 平成18年度運営目標

1. 1 専攻科の教育の質の向上及び学生の自学自習を推進することにより、専攻科生の学力向上を図る。
1. 2 専攻科の教育・研究環境の整備を進める。
1. 3 企業や地域に向けた専攻科のPR活動を推進する。
1. 4 専攻科入学選抜方法の見直しを進める
1. 5 専攻科の研究活動の充実を図る。

2. 平成18年度実施計画

2. 1 入学志願者確保

[1] 専攻科PR活動の推進

(1) 学内において専攻科生の存在をアピールし、やる気のある本科生の専攻科への進学を実現する。

ア 本科の特別活動及び課外特別活動のキャリア教育等において、専攻科のPRを担当、学科主任と連携しながら実施する。

進路指導の一環として専攻主任等が中心となり、特別活動で専攻科の紹介を行った。また、専攻によっては、低学年の特別活動で専攻科生が講話を行った。

イ 本校教職員に対して、専攻科生の活動状況を知って頂くため、特別研究発表会、シニア・インターンシップ報告会、工業技術懇談会などへの積極的な参加を依頼する。

シニア・インターンシップ報告会、特別研究発表会等への参加をメール、ホームページ等で案内した（専攻科教育委員会資料2. 1. [1] - 1、専攻科教育委員会資料2. 1. [1] - 2）。シニア・インターンシップ報告会では、1つの会場で実施し、例年よりも活発な質疑応答が行われた。また、特別研究報告会では、それぞれの専攻に関する教員の出席がほとんどであり、他専攻の発表にも出席を促したい。

(2) 国領祭の科展示等において、専攻科及び専攻科生の活動を地域に向けて発信する。

国領祭の専攻科展示において、専攻科紹介、授業の実習成果、特別研究成果等を発表し、469人の来場者があった。今後、内容の充実を図りたい。（専攻科教育委員会資料2. 1. [1] - 3）

(3) 保護者懇談会等において専攻科生の活動状況をPRするためパネル、特別研究の製作物などを展示する。

保護者懇談会においてパネルの展示を行ったが、十分なPR効果は上がっておらず、今後実施方法の検討が必要である。

専攻科教育委員会資料2. 1. [1] - 1

平成18年9月1日

教員各位

専攻科長

平成18年度 専攻科学外実習報告会について

下記の日程により、平成18年度専攻科学外実習（シニア・インターンシップ）報告会を実施いたします。

教員各位には是非ご参加いただきますようお願い申し上げます。

記

日 時 : 平成18年 9月 12日(火) 15時00分～16時30分

場 所 : 第1会議室

発表方法: ポスター発表

尚、当日評価表をお渡しいたしますので、ポスター発表の説明を受けた学生について、プレゼンテーション能力、意思伝達能力の評価をよろしくお願い致します。

以上

(出典 平成18年度専攻科学外実習報告会案内メール)

専攻科教育委員会資料2. 1. [1] - 2

平成19年1月30日

教員各位

専攻科長

平成18年度 専攻科特別研究発表会について

下記の日程により、平成18年度専攻科特別研究発表会を実施いたします。

教員各位には是非ご聴講くださるようお願い申し上げます。

記

日 時 : 平成19年 2月 2日(金) 12時50分～16時15分 電子工学専攻

平成19年 2月 5日(月) 8時50分～15時40分 生産工学専攻・生物

応用化学専攻

場 所 : 第一会議室

以上

(出典 平成18年度専攻科特別研究報告会案内メール)

専攻科教育委員会資料2. 1. [1] - 3

科展示

専攻科



(出典 新居浜高専ホームページより)

[2] 専攻科入学選抜方法の見直し

(1) 推薦選抜基準を検討する。

今年度の推薦選抜試験より、推薦入学者の質を担保するために、推薦基準を高専卒業見込または前年度の高専卒業者に変更した。(専攻科教育委員会参考資料：平成19年度専攻科学生募集要項)

(2) 専攻科入試科目の見直しについて検討する。

- ・入試の実施方法について、面接評価項目、TOEICの点数の導入等を専攻科教育委員会で検討を行う。

面接委員へのアンケートを実施し、その結果を基に推薦選抜の面接試験項目について検討を行い、来年度に向けて改善を計画している(専攻科教育委員会資料2.1. [2] - 1)。また、TOEICによる英語試験免除の導入を検討中である(専攻科教育委員会参考資料：平成20年度専攻科学生募集要項)

専攻科教育委員会資料2.1. [2] - 1

第5回専攻科教育委員会議事録

1. 日時 平成18年6月1日(木) 16:10~18:30
2. 場所 教職員連絡コーナー南
3. 出席者： 早瀬(専攻科長)、豊田(専攻主任)、皆本(専攻主任)、衣笠(専攻主任)
田中(電子)、池内(材料)、古城(数理代理)、尾崎(一般)
井上(教務係主任)

4. 配布資料：

- 資料1 面接官へのアンケート集計結果
- 資料2 学外実習の成績評価（案）
- 資料3 第7回科学技術特別シンポジウム
- 資料4 学修単位導入について

5. 議事の概要：

(2) 入試面接担当者へのアンケート結果について

平成19年度の専攻科推薦選抜試験の面接員に対するアンケート集計結果について専攻科長より報告があった。約70%の面接員は、現在の審査内容で適当であるとの回答であったが、面接審査項目の重み係数、口頭試問の難易度等についての改善に関する意見もだされている。このアンケートの内容を参考にし、来年度の面接審査内容について、検討を進めることになった。

（出典 第5回専攻科教育委員会議事録より抜粋）

2. 2 学習生活支援

[1] 専攻科生の学力向上

(1) 英語学力の向上

ア 英語教員と連携した専攻科英語教育の継続的な改善を実施する。

英語担当教員と打ち合わせを行い、来年度は、授業担当者2名で習熟度別にクラス編成して実施し、基礎学力養成のために文法的内容を充実させることを決定した（専攻科教育委員会資料2. 2. [1] - 1）。

イ 英語自学自習システムの活用や英語教員を中心にした補習等の授業時間外の学習時間を確保して、TOEIC400点を達成できる英語学習支援体制を確立する。

TOEICスコアの評価への導入、小テストの実施等の授業時間外の学習促進に取り組んだ。来年度は、授業時間外の学習の効率を上げるために、授業では自学自習で取り組みにくい文法等に重点をおくことを予定している。英語自学自習システムの活用については、各学生の学習進捗状況を専攻主任が確認し、英語担当教員および特別研究指導教員が連携して、英語自学自習システムでの学習を指導するシステムで行うことにしたが、十分には機能しておらず、今後、自学自習システムの活用促進方法について検討したい（専攻科教育委員会資料2. 2. [1] - 1）。

(2) 数学等の工学基礎学力向上

ア 専攻科共通基礎科目として必要な数学のレベルを設定し、そのレベルを達成できるような学習支援体制を確立する。

数学担当教員と打ち合わせを行い、専攻科共通科目としての数学では、数学の工業的利用及び確率統計の内容を実施することを確認した（専攻科教育委員会資料2. 2. [1] - 1）。学習支援体制については、今後検討を進めたい。

(3) 技術者として必要な創造力・問題解決能力の養成

ア 課題解決能力、自学自習能力の養成のための科目を各専攻の専門科目（講義科目）より各学年で半期1科目選定し、実施する。

自学自習能力養成のために、各専攻で、課題解決能力、自学自習能力の養成

のための科目を選んで実施した(専攻科教育委員会資料2.2. [1] - 2)。
その報告についての解析を進め、授業改善につなげる予定である。

専攻科教育委員会資料2.2. [1] - 1

第17回専攻科教育委員会議事録

1. 日時 平成19年2月1日(木) 16:10~18:20
2. 場所 教職員連絡コーナー南
3. 出席者: 早瀬(専攻科長)、豊田(専攻主任)、皆本(専攻主任)、衣笠(専攻主任)
田中(電子)、池内(材料)、川崎(数理)、尾崎(一般)
4. 配布資料:
資料1 専攻科履修要覧(授業科目、単位等)変更案
資料2 専攻科学生募集要項案
5. 議事の概要:
(1) 専攻科共通基礎科目について
専攻科の共通基礎科目である英語、数学について、来年度の授業内容等について意見交換を行った。英語については、授業担当者2名で習熟度別にクラス編成して実施予定であること、基礎学力養成のために文法的内容を充実させることを確認した。数学については、今年度と同様に応用的な内容で、確率統計を含めた内容を実施することを確認した。
(出典 第17回専攻科教育委員会議事録より抜粋)

専攻科教育委員会資料2.2. [1] - 2

第20回専攻科教育委員会議事録

1. 日時 平成19年3月15日(木) 16:10~19:00
2. 場所 第2会議室
3. 出席者: 早瀬(専攻科長)、豊田(専攻主任)、衣笠(専攻主任)、池内(材料)、
川崎(数理)、尾崎(一般)
岡山学生課長、越智課長補佐(議事(1)のみ)、清水教務係長
4. 配布資料:
資料1 専攻科パンフレット、学校案内(案)
資料2 自学自習(授業時間外学習)促進に関する調査
資料3 自学自習時間記録シート
資料4 平成18年度専攻科運営目標実施報告(案)
資料5 平成18年度専攻科教育改善推進計画の実施報告(案)
5. 議事の概要:
(1) 専攻科パンフレット等について
来年度の専攻科ポスターについては、サイズをA3版の縦型に縮小し、今年度のデザインを踏襲したポスターを製作する。他高専への配布を中止し、130部を作製する。専攻科パンフレットは、文章、写真等を一部変更して作製する。なお、専攻科OBの紹介は掲載してから3年

余りが経過しているので、来年度作成時には掲載者の変更を検討する。学校案内についても、文章、写真等を一部変更して作製する。

(2) 自学自習推進科目の調査結果について

英語、数学及び各専攻で選択した授業科目で授業時間外の学習を推進する取り組み状況について、資料2を基に専攻科長より報告があった。授業時間外の学習を推進するために、演習課題、予習課題をだす等の方法で実施している場合が多い。また、少人数授業の特徴を活かして、予習課題等をプレゼンテーションさせて、全員で議論するという授業を展開している場合もある。この内容を、各学科、科等で検討し、授業改善につなげるように依頼があった。

(出典 第20回専攻科教育委員会議事録より抜粋)

[2] 専攻科生の教育・研究環境の整備

(1) 専攻科学生室の自学自習、キャリア教育等での活用促進を図る。

専攻科学生室の活用促進を図るため、インターネット環境の整備と使用ルールの作成を行った(専攻科教育委員会資料2.2.[2]-1)。また、専攻科学生室に、大学院募集要項等の進路情報を置き、学生が自由に閲覧できるような環境を整備した。

(2) 英語学習支援システムの活用推進を図る。

英語自学自習支援システムを英語授業等で活用し、システムの活用を奨励したが、学生個人により、その取り組みには大きな差が見られた。英語自学自習支援システムの進捗状況管理及び支援が十分に実施できなかったことが課題である。

(3) 愛媛大学との単位互換協定に基づく授業科目、e-learning講義科目、放送大学等の多様化した授業の効率的な運用を目指す。

本校の開講科目の充実により、放送大学の集団受講を中止したため、放送大学を受講した学生数は大幅に減少した(専攻科教育委員会資料2.2.[2]-1)。愛媛大学との単位互換協定に基づく授業科目は、できるだけ多くの学生が受講できるよう出張講義方式での開講を検討中である(専攻科教育委員会資料2.2.[2]-3)。

専攻科教育委員会資料2.2.[2]-1

専攻科学生室ネットワーク使用心得 (平成18年12月14日現在)

1. 新居浜工業高等専門学校専攻科学生室(以下「専攻科学生室」という。)に備え付けのネットワーク設備及びLANアクセスポイントの使用に関し必要な事項はこの心得の定めるところによるものとする。
2. この心得において、「専攻科学生室ネットワーク」とはネットワーク設備及びLANアクセスポイントのことをいう。この専攻科学生室ネットワークを経由して、新居浜工業高等専門学校のネットワークやインターネットにアクセスすることが可能である。
3. 専攻科学生室ネットワークの使用は原則として専攻科生に限る
4. 専攻科学生室ネットワークの使用時間は、平日の8:00～19:00とする。

5. 専攻科学生室備え付けのパソコンによりネットワークの使用を希望する学生は、「使用許可願」（様式 1）に必要事項を記入し、教務係まで提出しなければならない。
6. 専攻科学生室にノートパソコン等を持ち込んでネットワークの使用を希望する学生は、「使用許可願」（様式 2）に必要事項を記入し、専攻主任によりコンピュータウィルスソフトの確認を受けた後、教務係まで提出しなければならない。また、ウィルスの定義ファイルは常に最新のものを用いなければならない。
7. 「使用許可願」に記載したコンピュータおよびその周辺機器に変更があった場合は許可願を再度提出する。
8. 専攻科学生室ネットワークを使用する者は下記の各号を厳守しなければならない。
 - イ) 学校の定める「ネットワークセキュリティポリシー」を遵守する。
 - ロ) ネットワークの利用目的が教育研究活動に関連するものであること。
 - ハ) 金品の取引に関する行為を行わない。
 - ニ) 違法行為および公序良俗に反する行為を行わないこと。たとえば、違法なデータのダウンロード・交換、違法行為を推奨するようなページあるいは学校から接続するのにふさわしくないページへのアクセスを行わない。また、メールや掲示板などで他人を誹謗したり中傷したりする行為を行わない。
 - ホ) 著しくネットワークに障害を及ぼす行為を行わないこと。たとえば、膨大なデータのダウンロード・交換や動画の送受信、チャットなどを行わない。
 - ヘ) 個人情報（氏名、住所、メールアドレス、電話番号、家族構成など）の取り扱いには慎重に行うこと。
 - ト) 備品を移動させたり持ち出したりしない。
9. 専攻科学生室ネットワークを利用して他人の権利を侵害してはならない。他人の権利を侵害することで発生したクレームおよび賠償の請求については、個人の責任と費用で解決する。
10. 専攻科教育委員会および情報教育センターの関連部門では専攻科学生室ネットワークが適正に利用されているかを確認するために日々のネットワークへのアクセスを監視している。
11. 専攻科学生室ネットワークにトラブルが生じた場合にはその状況を教務係に報告する。
12. 「ネットワークセキュリティポリシー」及びこの心得に違反した場合には、実情を調査の上、許可取消を含めた処分を行うことがある。
13. その他この心得に定めるもののほか、専攻科学生室ネットワークに関する事項は、専攻科長及び情報教育センターの指示に従うこと。指示に従わない者は使用許可を取り消す場合がある。

（出典 専攻科学生室ネットワーク使用心得）

他大学等での単位取得状況 (平成18年度)

科目名	単位取得者	備考
技術者倫理	1名	放送大学
環境社会学	1名	放送大学

(出典 新居浜工業高等専門学校学生課成績資料より編集)

第4回専攻科教育委員会議事録

1. 日時 平成18年6月1日(木) 16:10~18:00
2. 場所 教職員連絡コーナー南
3. 出席者: 早瀬(専攻科長)、豊田(専攻主任)、皆本(専攻主任)、衣笠(専攻主任)
田中(電子)、池内(材料)、川崎(数理)、三井(数理)、尾崎(一般)
岡山(学生課長)、清水(教務係長)、井上(教務係主任)

4. 配布資料:

- 資料1 シニア・インターンシップ事前学習
資料2 平成17年度第9回専攻科教育委員会議事録

5. 議事の概要:

(3) 愛媛大学との単位互換について

愛媛大学との連携推進会議において、授業科目を特別聴講学生に開放するだけでは、相互の学生が受講するのは現実的には困難であるため、1~2科目の科目を選定して集中講義方式で出前授業を実施することになった。愛媛大学からの開講科目として、地学、海洋、生態学、資源とエネルギー、アジア情勢等の授業内容を依頼することになった。具体的な対応として、愛媛大学の開講授業科目のシラバスを参考にして、具体的な授業科目を専攻科長、専攻主任で選択し、愛媛大学と打ち合わせる。また、本校からの開講科目は、愛媛大学からの要望を基に検討する。

(出典 第4回専攻科教育委員会議事録より抜粋)

2. 3 教育改善

[1] 3専攻のカリキュラム、シラバス点検、分析、検討を行う。

カリキュラムの点検、分析、検討を実施した。全専攻に関係する内容としては、「特別講義1」(1単位)を廃止し、「特別講義2」(1単位)を「品質・安全管理」に科目名変更した。また、電子工学専攻のカリキュラムの変更を実施した(専攻科教育委員会資料2. 3. [1]-1、専攻科教育委員会資料2. 3. [1]-2)。

平成18年9月12日運営会議資料 No. 3

平成19年度専攻科カリキュラム変更について

1. 変更の事由

(1) 生産工学専攻・生物応用化学専攻・電子工学専攻共通の変更

- ① 「特別講義1」(1単位)の廃止
「特別講義1」では、技術開発や教養等に関するトピックスを実施してきたが、遠隔授業の充実、他大学との単位互換による授業科目の受講が可能になったこと等により、より学生のニーズにあった教育が可能となったことより本授業科目を廃止する。
- ② 「特別講義2」(1単位)を「品質・安全管理」に科目名変更
「特別講義2」では、品質管理及び安全管理に関する内容を実施しているが、その講義内容に相応しい「品質・安全管理」に授業科目名を変更する。

(2) 電子工学専攻のカリキュラムの変更

- ① 「メカトロニクス特論」(2単位)を新設
基礎工学科目(力学系)を充実するために、メカトロニクスを体系的に学ぶ科目を新設する。
- ② 「電子情報システム設計」(2単位)を新設
基礎工学科目(設計・システム系)を充実するために、電子工学や情報工学に関するシステム設計法を学ぶ科目を新設する。
- ③ 「電子物性論」(2単位)を基礎工学科目(力学系)から基礎工学科目(材料系)に移設
「電子物性論」は、内容的に本科目は基礎工学科目(材料系)の方がふさわしいので移設する。
- ④ 「計算機制御特論」(2単位)を選択必修(設計・システム系の科目)からはずす
「計算機制御特論」は、内容的に制御工学の応用的科目であり、基礎工学科目(設計・システム系)に分類するよりも専門科目の分類にするのがふさわしいので移設する。
- ⑤ 「物理化学特論1」(2単位)・「物理化学特論2」(2単位)の科目を廃止する。
設立当初からある科目であるが、「環境化学概論」など他の化学系科目の充実が図られてきたので、この2科目を廃止する。

(出典 平成18年度第9回運営会議資料より抜粋)

平成18年9月26日運営会議資料No. 1

平成18年度第9回運営会議議事概要(案)

日 時: 平成18年9月12日(火) 17時55分～19時15分

場 所: 第2会議室

出席者: 校長、事務部長、教務主事、学生主事、寮務主事、専攻科長、高度技術教育研究センター長、各学科・科主任(羽部、佐藤、榊原、河村、高橋、竹田、野口)、総務課長、学生課長

◎議事概要の確認

平成18年度第8回運営会議議事概要(案)について、一部修正のうえ了承された。

◎協議事項

1 平成19年度本科学生募集要項について

教務主事から資料2に基づき、主な変更点と出願書類の修正事項の説明があり、これらについて審議した結果、一部修正のうえ、了承された。

2 平成19年度専攻科カリキュラム変更について

専攻科長から資料3に基づき、説明があり、審議の結果、平成19年度の専攻科カリキュラムの変更が了承され、大学評価・学位授与機構に学則の一部改正として申請することとした。

◎報告事項

1 高等専門学校機関別認証評価等の受審について

事務部長から資料4に基づき、平成19年度に本校が機関別認証評価を受けるために所定の手続を取った旨の報告と今後のスケジュールの説明があった。

また、点検評価専門部会長からも重ねて協力依頼の要請があった。

なお、校長からは昨年度の点検評価作業がかなり遅れているとの報告を受けているので、その原因と問題点を検討し、今後に活かすように指示があった。

2 夏季休業中の学習支援について

教務主事から資料5に基づき、説明があり、夏季休業中の学習支援体制を整えてきたが、学科・科間の格差がみられる。生物応用化学科及び材料工学科については、次回は検討して欲しい旨の依頼があった。

3 学校運営の安全管理等について

事務部長から資料6に基づき、本校としても今回の事件を教訓に学校の安全管理及び学生の心身の健康に配慮した運営がなされるよう、一層努力する必要がある旨の報告があった。また、学生課長から先般の徳山高専で発生した事件に対して機構からの要請に基づくカウンセラー派遣を行った旨の報告があった。

4 平成18年度共同研究推進費の採択について

総務課長から資料7に基づき、各事項の要求書により校長が査定し、要求どおり予算配分するとの報告があった。

また、校長からは現代GP関係の共同研究の申請が無いのは残念である、各学科・科においても積極的に特色ある取組を育んで欲しい旨の依頼があった。

- [2] 知識を与えられるだけの受身の授業から、学生が自学自習等により主体的に学習できる授業への変換を進める。

授業時間外の学習を推進するために、英語、数学、及び各専攻で選択した授業科目で授業時間外の学習を推進するように授業改善に取り組み、その実施内容について報告を受けた。この実施内容について、今後専攻科教育委員会で解析を進め、授業時間外の学習推進方法について検討を進める予定である（専攻科教育委員会資料2. 2. [1] - 2）。

- [3] 創造性教育科目、問題解決能力養成科目を評価・分析し、より充実した内容に改善させる。

各専攻内での教育改善システムでの検討に留まり、専攻科教育委員会での組織だった改善は実施できなかった（専攻科教育委員会資料2. 2. [1] - 2）。

- [4] 本科および専攻科の科目間連携ネットワーク組織の整備を進める。

専攻科の共通基礎科目である数学、英語について、それぞれの科目担当者、と打ち合わせを行い、授業内容、達成度の向上策等について検討を行ったが、ネットワーク組織の整備までは実施できなかった（専攻科教育委員会資料2. [1] - 1）。

- [5] 専攻科シニア・インターンシップ(学外実習)の奨励・充実を図る。

シニア・インターンシップを実施し、専攻科生が全員参加した（専攻科教育委員会参考資料：平成18年度専攻科学外実習実施報告書）。また、実習中の企業訪問等でシニア・インターンシップのPRも実施した。受け入れ先企業の開拓、本科インターンシップとの明確な差別化について改善を進める。

2. 4 JABEE・機関別認証評価

- [1] 教務委員会、JABEE推進室との連携協力体制により、継続的な教育改善を推進する。

JABEE推進室と連携し、JABEE審査後の教育改善状況等について検討し、教育改善に取り組んだ（専攻科教育委員会資料2. 4. [1] - 1）。

- [2] 機関別認証評価受審に向け、昨年度の自己評価書に記載した問題点の改善に努める。

点検評価専門部会と連携し、アドミッションポリシーの改善（専攻科教育委員会資料2. 4. [2] - 1、専攻科教育委員会資料2. 4. [2] - 2）、入学者選抜実施方法の改善（専攻科教育委員会参考資料：平成19年度専攻科学生募集要項）を実施した。

J A B E E 推進室会議
平成 18.10.19
資料番号 7

平成 18 年度第 1 回 J A B E E 推進室会議議事概要 (案)

日 時：平成 18 年 4 月 19 日 (水) 16 時 10 分 ～ 18 時 00 分
場 所：教職員連絡コーナー南
出席者：校長、副校長、事務部長、専攻科長、専攻主任 (3)、川崎、谷本
陪席者 (総務課長補佐、総務企画係長)

議 事

◎ 議事概要の確認

平成 17 年度第 5 回 J A B E E 推進室会議議事概要 (案) について、原案どおり確認された。続いて校長から、資料 5 に基づき、専攻科の共通課題の検討や継続的改善を図るために設置された J A B E E 推進室の設置目的、任務、位置付け等について、説明があった。

◎ 議題

- 1 各プログラムの受審後の対応状況について
- 2 平成 18 年度の活動計画について

各専攻主任から、資料 2、4 に基づき、各プログラムの受審後の対応状況について委員会活動を中心に説明があり、また、関連して平成 18 年度の活動計画について各々説明があった。

活動計画に関しては、次のような質問、提案等があった。各専攻主任は、これらも参考にして、平成 18 年度の教育改善推進計画について見直し、修正等を行い、4 月 20 日 17 時までに、総務課へ提出することとなった。

- ・各プログラムは、優れた取組を参考にしながら互いに調整を図りつつ改善を進めるとよい。
- ・教育改善委員会の下にある 3 委員会の活動範囲は、各プログラムとも一致しているように調整に努力してほしい。
- ・J A B E E に直接関係する事項に限らず、プログラムに関連する学科及び専攻が取り組もうとしていることも反映させて良い。
- ・専攻科学生室に学習目標を掲示するなどの工夫も大切である。
- ・学修単位の導入と関連して、学習保障時間等の観点からの検討も必要である。
- ・本科と専攻科の関連の見直しも行わなければならない。
- ・学習目標や科目ごとの到達目標を実現するためにはシラバス等の検討と併せて、ハード、ソフト両面にわたる学習支援の在り方を検討することが必要である。
- ・自学自習を支援する教材開発にも取り組んでほしい。

配付資料

- 1 平成 17 年度第 5 回 J A B E E 推進室会議議事概要 (案)
- 2 教育改善実施状況報告 (各プログラム)
- 3 J A B E E 推進室平成 18 年度運営目標・方針
- 4 平成 18 年度活動計画 (各プログラム)
- 5 J A B E E 推進室設置要項

以 上

(出典平成 18 年度第 2 回 J A B E E 推進室会議資料より抜粋)

平成19年3月13日運営会議資料 No. 2

新居浜工業高等専門学校専攻科の入学者の受入方針（アドミッションポリシー）（案）

■求める学生像

新居浜高専専攻科は、高等専門学校の5年間における実践的教育の基礎の上に精深で、かつ、学際的な学識を授け、専門分野における高度な技術能力を養成することを目指しており、次のような学生を求めています。

- ・専門性、社会性、国際性に秀でた実践的、創造的な技術者を目指す人
- ・専門とする技術分野の基礎学力を持っている人
- ・特定の専門分野だけでなく、幅広く工学全般に興味を持っている人
- ・自ら進んで勉学に取り組み、向上し続けようとする意欲を持っている人
- ・広く社会に貢献する熱意を持っている人

■入学選抜の基本方針

新居浜高専専攻科は、「求める学生像」に一致した学生であることを確認するような入学選抜を実施しています。基礎学力を確認するために、推薦選抜及び社会人特別選抜では面接試験における簡単な筆答試験、学力選抜では英語と専門の学力試験を課しています。また、専攻科への適性と意欲を見るために、いずれの選抜においても面接試験を課しています。

改正の理由：

高等専門学校機関別認証評価の評価事項（「教育の目的に沿って、求める学生像や入学選抜の基本方針などが記載された入学受入方針（アドミッション・ポリシー）が明確に定められ、学校の教職員に周知されているか。また、将来の学生を含め社会に公表されているか。」）に対応したアドミッション・ポリシーに変更するため、入学選抜の基本方針を追記する。

平成19年3月2日 回運営会議資料 No. 1

平成18年度第21回運営会議議事概要(案)

日 時： 平成19年3月13日(火) 16時10分～19時35分
場 所： 第2会議室
出席者： 校長、事務部長、教務主事、学生主事、寮務主事、専攻科長、高度技術教育研究センター長、各学科・科主任(刑部、佐藤、榊原、河村、高橋、竹田、野口)、
総務課長、越智学生課長補佐(学生課長代理)
オブザーバー： 谷本学生主事補

◎議事概要の確認

平成18年度第20回運営会議議事概要(案)について、一部修正のうえ、確認された。

◎協議事項

- 1 専攻科の入学者の受入方針(アドミッションポリシー)について
専攻科長から、資料2により受入方針(アドミッションポリシー)の説明があり審議の結果原案どおり了承された。
- 2 平成20年度専攻科学生募集要項について
専攻科長から、資料3に基づき、主な変更点について説明があり、審議の結果、原案どおり了承された。
- 3 平成19年度専攻科履修要覧について
専攻科長から、資料4に基づき、主な変更点の説明と、様式については本科に合わせたとの報告があり、審議の結果、授業科目担当者を一部修正の上、原案どおり了承された。
- 4 平成19年度本科履修要覧について
教務主事から、資料5に基づき、主な変更点と、学生の立場で見やすくするための配慮で大幅に文章の構成を修正した旨の報告があり、審議の結果、「英検等の技能審査」項目の留学生の日本語以外の語学に関する技能審査認定に関しては個別に審査をして認定することとして、原案どおり了承された。

◎報告事項

- 1 平成18年度第3回四国地区高等専門学校校長・事務部長会議の報告について
校長から2月28日高松高専で開催された、標記会議の議事概要の報告があった。
- 2 学修単位の導入について
教務主事から、資料6に基づき、説明があり、平成18年度の試行科目の実施結果を参考として検討し、学修単位導入科目の提示と評価方法・保管方法等の説明があった。
また、校長からは、学修単位導入が学生にとって実のある内容となり、所期の教育成果が上がるよう努力をして欲しい旨の依頼があった。
- 3 平成19年度年間行事予定について
教務主事から、平成19年度年間行事予定の説明があり、一部訂正をして確定した。
- 4 平成19年度クラブ顧問について
学生主事から、平成19年度のクラブ指導教員の報告があった。また、校長から指導教員にはクラブの活動状況を十分把握して欲しい。また、学生支援委員会でも、

2. 5 研究活動

- [1] 特別研究における研究論文発表または学会発表を、2年間で最低1回の実施を目指す。

中四国地区専攻科交流会又は各専門分野の学会において、今年度修了の専攻科生全員が発表を行った（専攻科教育委員会参考資料：平成18年度中国四国地区高等専門学校専攻科生研究交流会予稿集）。

2. 6 地域連携

- [1] シニア・インターンシップ、特別研究での地元企業との共同研究等の活動を地域と連携して実施し、専攻科のPRに努める。

シニア・インターンシップにおいて、約半数の学生が愛媛県内の企業で実習を実施した（専攻科教育委員会参考資料：平成18年度専攻科学外実習実施報告書）。特別研究での地元企業との共同研究については、更に努力が必要である。

- [2] 工業技術懇談会等において、特別研究の内容等を紹介し、専攻科の活動を地域に向けて発信する。

科学技術特別シンポジウムにおいて特別研究の内容をパネル発表し、国領祭の専攻科展示においても特別研究の内容やシニア・インターンシップの内容等のパネル展示を行った（専攻科教育委員会資料2. 6. [2] - 1、専攻科教育委員会資料2. 1. [1] - 3）。

専攻科教育委員会資料2. 6. [2] - 1

「第7回科学技術特別シンポジウム」を開催。

新居浜高専では、第7回「科学技術特別シンポジウム」を開催しました。シンポジウムは、学術研究又は教育研究の第一人者に講演していただき、地域企業の皆様や行政との交流を一層深めるとともに、日本を支えていく科学技術について一緒に考え、新しい科学技術の進展、新産業創出への寄与を目指しております。

今回は「科学と教育研究の最先端」と題しまして、SPring-8など放射光を利用して、乳ガンなどの画像診断や材料検査の革新に挑戦されている東京理科大学の安藤教授、及び、発想力教育の研究と実践で工学教育賞を受賞された岡山大学の塚本教授に講演をお願いしました。

テーマ	科学と教育研究の最先端
日時	平成18年7月14日(金) 14:30 ~ 16:50
場所	新居浜高専 第一会議室
聴講者	企業関係者、教職員、専攻科生(約70名)
内容	講演題 「X線屈折画像開発 —医用画像と材料検査において役立つであろうか—」 講師 東京理科大学 総合研究機構 DDS 研究センター 安藤 正海 教

	授 前 高エネルギー加速器研究機構 物質構造科学研究所 教授 ＜休憩:懇談、パネル展示(専攻科生の研究成果紹介)20分＞ 講演題 「発想力教育」 目 講師 岡山大学 創造工学センター長 塚本 真也 教授 工学部 機械工学科(大学院／自然科学研究科／産業創成工 学専攻)
主 催	新居浜工業高等専門学校、財団法人 東予産業創造センター、愛テクフォーラム
後 援	財団法人 えひめ産業振興財団、フロンティア企業クラブ

＜高技センターの行事＞

(出典 新居浜高専ホームページ)

総括的な評価と課題

専攻科生の入学志願者増の対策として、本科学生への特別活動等における専攻科PRの他に、国領祭等での科展示等を活用し、本科生の保護者や地域の方へのPRに努めた。今年度の入試では、専攻によっては定員を充足せず、更に志願者を増やすための努力が必要であると思われる。専攻科への志願者を増やすためには、本科低学年から専攻科について興味を持ってもらうことが必要だと考えられるため、低学年の特別活動において、専攻科生から低学年に向けてのメッセージ等を伝える機会を計画したい。

専攻科の教育改善については、今年度もカリキュラム、シラバス等の改善を実施した。専攻科教育委員会、各JABEEプログラムの教育改善システムが連携して、継続的に改善活動を実施することが必要である。

専攻科生の学習支援については、英語自学自習システムの利用促進について英語教員、専攻主任を中心に取り組んだが、学生間の個人差が大きく、さらに組織的な推進方策や運用方法の改善が必要であると考えられる。授業時間外の学習を促進する授業方法への改善のために、幾つかの授業科目において、授業時間外の学習を促進する授業を試行的に実施した。今後専攻科教育委員会で解析を進め、授業時間外の学習推進方法について検討を進める予定である。専攻科生の教育・研究環境の整備としては、専攻科生の共用スペース（専攻科学生室）の使用ルールを策定し、インターネット環境を整備し、学生の自学自習及びコミュニケーションのスペースとしての運用を今年度から開始した。更に、学生の意見などを取り入れながら、より使用しやすいように改善を進めたい。

◎高度技術教育研究センター

センター長 川崎 宏一

1. 平成18年度運営目標・方針

1. 1 学生高度教育の活性化方策を検討し、実施する。
1. 2 学内共同・学際研究の活発化を図る。
1. 3 都市エリア産学官連携促進事業の推進等、地域共研・技術相談の活発化を図る。
1. 4 実験研究設備の提供機会の増大を図る。
1. 5 教育・文化面での地域連携で昨年を上回る活動を行う。
1. 6 地域への情報発信をさらに強化する。

2. 平成18年度実施計画

2. 1 学生高度教育の活性化方策を検討し、実施する。

〔1〕専攻科生を中心とした活性化方策を、専攻科教育委員会、「愛テクフォーラム」と連携して検討し、実施する。主な検討項目を以下に示す。

- (1) 科学技術シンポジウム等イベントへの参加の推進
- (2) センター機器を利用した高度教育の推進
- (3) 企業と連携した共同研究等への参加の推進

(1) 科学技術特別シンポジウムは「科学と教育研究の最先端」に専攻科生2年8名がパネル展示による研究成果の発表を行った。また23名と多数の専攻科生が出席した。(高度技術教育研究センター報 第6号)

(2) 生物応用化学専攻の「先端機器測定実習」(シラバス)を始めとして、センター機器の専攻科生への教育・利用を継続している。本科生については測定補助または授業・見学に利用している。

(3) 共同研究、技術相談に関する研究に、専攻科生・本科生を参加させている。

2. 2 学内共同・学際研究の活発化を図る。

〔1〕「愛テクフォーラム」専門部会活動への複数教員の参加・協力、「都市エリア事業」の推進を足がかりに、学内共同・学際研究の活発化を図る。

〔2〕科研費等を含めた外部資金申請において複数教員が共同申請を行うようにサポートする。

〔1〕「愛テクフォーラム」法人会員の専門部会参加は28社であるが、企画専門部会、知的財産専門部会を各2回、研究専門部会はロボット産業育成フォーラムも含

めて延べ8回開催した。各部会ともにほぼ複数教員が参加し、教員の連携が進展したと言える。また、「第41回新居浜高専工業技術懇談会・愛テクフォーラム企業技術交流会」を開催し教員は18名が参加した。「都市エリア事業」では共同研究は3テーマすべて、可能性試験は6件中2件が教員の共同連携テーマとなっており、多いとは言えない。（「愛テクフォーラム」平成19年度定期総会資料）

〔2〕外部資金申請は、JSTシーズ発掘試験が平成18年度が8件で、平成19年度は10件を予定している。えひめ産業振興財団関連で、大学発起企業化シーズ育成支援事業が2件、ジュニアドベンチャー選手権が2件、チャレンジプランが継続で3件、NEDO-FFS申請1件であった。いずれも本校教員については単独申請であった。科研費等の外部資金申請25件において、複数教員の共同申請が可能な17件中の6件が共同申請であった。そのうち学科間の連名は2件であった。共同研究・受託研究では20件中複数教員の取組が8件と多いので、今後共同研究・受託研究からの発展を考えたい。（採択された案件の件数は高度技術教育研究センター報 第6号、申請者・申請機関は公開していない）

2. 3 共同研究・技術相談の活発化を図る。

〔1〕「愛テクフォーラム」会員の参加・協力、「都市エリア事業」の推進、東予産業創造センター、西条産業情報支援センター（SICS）との連携を主に、愛媛大学、四国6高専、県公設試と連携して活発化を図る。

〔2〕インキュベーション・ラボの利用促進、リエゾンルームの研究打合せ、「愛テクフォーラム」会合等への活用を足がかりに、活発化を図る。

〔3〕市場性のある共同研究・受託研究の増加に取り組み、テーマで計20件を目標とする。

〔4〕市場性のある知財出願の増加に取り組み、2件以上を目標とする。
知財検討依頼は年10件以上行う。

〔5〕技術相談は100件以上を目標とする。各教員1件以上を目指す。

〔1〕「愛テクフォーラム」の法人会員の共同研究・受託研究への参加は関連企業を含めて7社である。特別会員1社を含めて、計8社である。そのうち、都市エリア事業参加が6社である。専門部会参加は28社で、そのうち共同研究への参加は1社、「都市エリア事業」参加が2社である。（「愛テクフォーラム」平成19年度定期総会資料）

東予産業創造センターとの連携は「都市エリア事業」、外部資金申請及びイベントの共同主催で、SICSとの連携は外部資金申請、共同研究を継続している。愛媛大学と連携したチャレンジプラン2件に本校教員が参加している。（高度技術教

育研究センター報 第6号、申請者・申請機関は公開していない) 四国6高専で連携した会議・交流会を継続・推進した。(高度技術教育研究センター報 第6号) 県公設試とは、紙産業研究センターと都市エリア事業で連携している。平成19年度は、文部科学省産学官連携コーディネーターの配置により、機関・組織の連携の進展が期待できる。

〔2〕 インキュベーション・ラボの企業・機関の利用が2社行われているが、ベンチャー企業立ち上げによる利用拡大を計画している。リエゾンルームは都市エリア事業の科学技術コーディネーターの在室、愛テクフォーラム専門部会等の会合の他、現代GPにおいても、地域ものづくりコーディネーターの在室、取組の会合に活用している。(高度技術教育研究センター報 第6号)

〔3〕 共同研究は10件で平成17年度の18件に比べて減少した。一人で4件の教員が2件に、SICSが3件から1件と減少したこと、継続していた共同研究5件が途切れたことが要因と思われる。受託研究は10件(契約では5件)で、平成17年度の9件(契約では5件)に比べて微増した。10件のうち7件は都市エリア事業で、2件はJST関連であり市場性は高い。共同研究・受託研究併せて20件(契約では15件)で目標は達成した。新規に外部資金として、JSTシーズ発掘試験・FS事業に各1件(受託研究に含む)、えひめ産業振興財団関連で、大学発起業化シーズ育成支援事業が1件、ジュニアドベンチャー選手権が1件、チャレンジプランが継続で3件、採択され、活性化している。共同研究の増加を図るため、高技センターテーマのヒヤリングを早期に年度内に行った。研究組織、共同研究・外部資金獲得の可能性等、高技センターテーマの許可条件を明確にした。(高度技術教育研究センター報 第6号)

〔4〕 特許は機構の承継・出願が7件と多数となった(平成17年度0件)。うち、都市エリア事業の成果は4件で、3件は従来の共同研究の成果である。特許検討は都市エリア事業等を含めて、18件行った。他に学生が実用性の高い特許を2件出願した。(高度技術教育研究センター報 第6号)

〔5〕 技術相談は172件(平成17年度133件)と増加したが、なかでも生物応用化学科が142件と活発である。技術相談を行った教員は20名(平成17年度26名)と減少した。(高度技術教育研究センター報 第6号)

2. 4 実験研究設備の提供機会の増大を図る。

〔1〕 実験研究設備は地域協力の武器なので、「愛テクフォーラム」と活性化方策を検討し、実施する。主な検討項目を以下に示す。

- (1) 「愛テクフォーラム」会員へのパンフレット配布・説明、機器の見学
- (2) 技術相談におけるテスト測定
- (3) 分析機器、IT機器等の「愛テクフォーラム」会員、共同研究企業

への随時の技術教育

(1) 「愛テクフォーラム」については専門部会、研究専門部会、愛テクフォーラム企業技術交流会の際に、実験研究設備の記載されたパンフレットを配布・説明した。

(2) 技術相談における無料のテスト測定を継続している。

(3) 分析機器、I T機器等の共同研究企業への随時の技術教育は数件実施した。

「愛テクフォーラム」会員への実施は今後の課題となる。

○活性化方策としては、文部科学省産学官連携コーディネーターによる「愛テクフォーラム」会員企業を含めた、有力企業のニーズ抽出、教員の革新的技術シーズの抽出の取組を実施する予定である。

2. 5 教育・文化面での地域連携で昨年を上回る活動を行う。

[1] 高専アイデア通りをものづくり教育支援センターと連携して推進する。

(1) 教職員、学生のアイデアと実践力を活かし、元気あふれる地域づくりやキャンパス作りを進める。

(2) 新居浜市、新居浜市教委、「愛テクフォーラム」等地域の諸機関、市民団体と連携しながら、既に取り組んでいるプロジェクトや新規プロジェクトの組織化を検討する。

[2] 出前講座について新居浜市教委、小中学校、公民館等と連携して進展を図る。

[3] 教育フォーラムを教務委員会、新居浜市教委、小中学校、愛媛県教委と連携して進める。

[4] 公開講座について「愛テクフォーラム」、公民館等と連携して進展を図る。

[5] S P P事業を教務委員会、小中学校と連携し新規テーマで実施する。

[1] 高専アイデア通りの推進

(1) 現代G P「地域連携プロジェクト型ものづくり活動 一工都新居浜の活性化プランナー」の採択を受けて、後期から、学生の地域連携プロジェクト型ものづくり活動に取組むこととなった。本取組は「ものづくり人材育成」と「まちづくり・地域の求心力向上」から成る。「ものづくり人材育成」としては、地域への出前授業・出前イベント等、出前活動プロジェクトとしての「青少年科学教室プロジェクト」と、地域の小中学校の理科教材を開発する「ものづくり教材開発プロジェクト」を組み合わせで実施した。出前授業、出前イベントを学生参加で企画・実施した。実施件数は次項に記す。理科教材については作成計画を作成し、準備に取組んだ。「まちづくり・地域の求心力向上」としては、「まちづくりシンボ

ルロボプロジェクト」において「新居浜太鼓台ロボ」、「別子銅山ロボ」の2テーマについて、プロトタイプ的设计を完了した。「商店街活性化パフォーマンスロボプロジェクト」では、市内の2つの商店街組合等と連携して、アイデアを募り検討の結果、熱血あきんどロボット及び銅板装きつねロボットの2テーマに決定し、学生参加でプロトタイプ製作準備を進めている。（現代GP地域連携プロジェクト型ものづくり活動 工都新居浜の活性化プラン平成18年度活動報告書）現代GP以外では「川之江切山地区案内ロボット」のテーマにおいて音声・文字ガイドに引き続き、平家落ち武者型の案内ロボットを学生参加で製作した。

（高度技術教育研究センター報 第6号）

（2）現代GPとして、ものづくり教育支援センター、新居浜市、新居浜市教委、新居浜商工会議所、市民団体、「愛テクフォーラム」等地域の諸機関と連携し、組織化して推進している。（現代GP地域連携プロジェクト型ものづくり活動 工都新居浜の活性化プラン平成18年度活動報告書）

〔2〕出前講座一覧を新居浜市を通じ、小中学校、公民館に配布するとともに、新居浜市のホームページへのリンクを継続させている。小中学生対象を59件、一般市民対象を25件を開講している。小中学生対象として、小学校4件、中学校2件、地域の小学生クラブ1件の計7件を実施した。イベントへの出前参加として12件を実施したが、社会人対象の1件を除き小中学生対象である。後期は現代GPの活動として実施している。（高度技術教育研究センター報 第6号）

〔3〕教育フォーラムは現代GPの活動として実施した。「現代GPものづくり教育研究フォーラム・新居浜高専教育フォーラム2006」を「地域連携プロジェクト型ものづくり活動の可能性」のテーマで、愛媛県教委、新居浜市教委の後援を得て開催した。小中高の教員をはじめ、新居浜市教育委員会関係者、一般市民、本校教職員等81名が参加し、「ものづくり教育」や「現代GP地域連携」についての講演、取組、事例発表について活発な討論が行われた。（現代GP地域連携プロジェクト型ものづくり活動 工都新居浜の活性化プラン平成18年度活動報告書）

〔4〕公開講座はガラス工芸技術の世界（葡萄のネックレス作製、中級編）に4名の参加で実施した。後述の「新居浜高専市民講座」も公開講座に準ずる講座である。（高度技術教育研究センター報 第6号）

〔5〕SPP事業は「理科光学教材の作成-簡易顕微鏡づくり-」をテーマとして、小中学校の理科教諭及び教頭・校長を含む15名の参加を得て開催した。（平成18年度サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト〔教員研修〕報告書）また、小中学校教員と連携を行うメーリング・リスト「新居浜サイエンスクラブ」を開設し、学校登録11校、個人登録：学外8名+新居浜高専教職員全員の登録を得た。（高度技術教育研究センター報 第6号）

2. 6 地域への情報発信をさらに強化する。

- 〔1〕「愛テクフォーラム」会員の参加・協力、東予産業創造センターの協力を得て、テーマ研究会・交流会イベントの活動を行っていく。マスコミへの取材要請を強化・継続する。
- 〔2〕技術面の地域活動では、介護工学研究会、新居浜高専知財研究会、SICSコーディネート活動等の推進を図る。
- 〔3〕科学技術特別シンポジウムは、一般・学生対象として分かりやすい講演内容で継続開催し、市民の参加を促す。
- 〔4〕新居浜市生涯学習センターと共催し、「新居浜高専市民講座」を継続開催する。
- 〔5〕技術シーズ集を発行して、「愛テクフォーラム」、企業へのPRに活用する。パンフレット、パネル展示も活用する。
- 〔6〕イベント時にはポスターにより広報するとともに、カレントな冊子を作成する。
- 〔7〕活動報告書、高度技術教育研究センター報を作成する。

〔1〕新しい企画として、「第41回新居浜高専工業技術懇談会・愛テクフォーラム企業技術交流会」を、『産学官交流「愛テクフォーラムの技術を知り、活用しよう！」』テーマで、東予産業創造センター、「愛テクフォーラム」との共同での主催で開催した。学外者25名の他、多数の学生も参加して、約210名と多数聴講し、熱気にあふれた会合となり、海南eタイムズに掲載された。東予産業創造センター主催の都市エリア事業成果発表フォーラムにはグループ討議メンバーとして新居浜高専の地域連携活動のPRを行った。マスコミへの取材要請を継続したが、研究活動や地域連携の状況や成果についての新聞記事等への掲載は31件であった。（高度技術教育研究センター報 第6号）

〔2〕介護工学研究会は「定例会」を10回、展示・相談会を3回、見学会を1回行い、最新福祉機器の試乗会を1回開催した。新居浜高専知財研究会は愛テクフォーラム会員を講師として、愛テクフォーラムと連携して研究会を開催した。（高度技術教育研究センター報 第6号）SICSとの連携は継続し、共同研究1件、JSTシーズ発掘試験採択1件の成果が得られた。

〔3〕科学技術特別シンポジウムは「科学と教育研究の最先端」のテーマで開催し、企業等学外者24名を含めて、教職員、専攻科学生等67名が参加した。（高度技術教育研究センター報 第6号）

〔4〕新居浜市生涯学習センターと共催し、「新居浜高専市民講座」を8講座継続

開催した。40名募集に対して46名が受講し、聴講者6名を含めて好評であった。（高度技術教育研究センター報 第6号）

〔5〕企業向けに技術シーズ集を発行した。海南eタイムズに高技センターの連続掲載を開始した。（高度技術教育研究センター報 第6号）この掲載記事・特許、活動状況等で、愛テクフォーラムニュースを発行し（「愛テクフォーラム」平成19年度定期総会資料）、パンフレットとともに、イベント時に配布した。

〔6〕イベント時にはポスターの他、メールによる広報を継続している。また、カレントな冊子を必ず作成した。（高度技術教育研究センター報 第6号）

〔7〕活動報告書として「高度技術教育研究センター報」を作成した。（高度技術教育研究センター報 第6号）

○ 総括的な評価と課題

平成16年度以降出願がなかった特許が、機構の承継・出願が7件と多数となったのは特筆される。うち、都市エリア事業は4件で、企業や外部機関との共同研究の成果が3件である。共同研究は10件で平成17年度の18件に比べて減少した。一人で4件の教員が2名に、SICSが3件から1件と減少したこと、継続していた共同研究5件が途切れたことが要因と思われる。受託研究は10件で、平成17年度の9件に比べて微増した。共同研究・受託研究併せて20件で目標は達成したが、平成17年度の27件に比べて減少した。しかし、新規に外部資金として、JSTシーズ発掘試験・FS事業として各1件等を獲得している。技術相談も172件と高水準を維持している。工業技術懇談会は「第41回新居浜高専工業技術懇談会・愛テクフォーラム企業技術交流会」として、愛テクフォーラムの活動振興策としても開催した。「愛テクフォーラム」については、専門部会、研究専門部会、共同研究、広報等、着実に活動に取り組んでいる。全体的にみて、JSTシーズ発掘試験、都市エリア事業の刺激、新規教員の活動により引き続き活動は上向いて来ていると言える。

平成19年度は、文部科学省産学官連携コーディネーターの配置、新規教員の研究活動への参加により、「愛テクフォーラム」を核とした、機関・組織の連携ネットワークの強化による研究活動の活性化が期待できる。また、新規教員の研究活動への参加、インキュベーション・ラボ、リエゾンルームの活用による取組の底上げを期待したい。

教育関連の小中学生対象及び市民対象の取り組みでは、現代GP「地域連携プロジェクト型ものづくり活動 一工都新居浜の活性化プラン」の採択を受けて、後期から、学生参加から学生主体の活動を目指して取組むこととなった。「ものづくり人材育成」と「まちづくり・地域の求心力向上」の各プロジェクトとも着実に活動を開始している。地域ものづくりコーディネーターの活動により、地域の小中学校との連携が著しく進展した。

教員の活性・求心力も高く、成果が期待される。現代G Pものづくり教育研究フォーラムを教育フォーラムとしても実施し、科学技術特別シンポジウムは継続している。リエゾンルームの活用も武器として、来年度は現代G Pの取組を中心として、教育関連の地域活動の活発化を図りたい。

◎情報教育センター

センター長 伊月 宣之

1. 平成18年度運営目標

高度情報通信社会に対応するために次の五つを運営目標とする。

1. 1 IT社会構成員としての必要不可欠な情報基礎教育のプログラム構築
1. 2 ITを活用した新教育手法の導入推進
1. 3 情報教育設備の有効利用と充実
1. 4 学内ネットワーク設備の更なる整備と安全で健全な運用管理の実現
1. 5 事務処理システム推進部門としての要求を明確化し、その要求に沿ったネットワーク（セキュリティ確保）構築のためにネットワーク運用管理部門に働きかけ、事務処理の効率化、教職員間使用システムの運用管理体制の構築を推進していく。

2. 平成18年度実施計画

2. 1 IT社会構成員としての必要不可欠な情報基礎教育のプログラム構築

[1] 共通科目「情報リテラシー」実施状況の調査及び改善

- ・各学科一斉に1年前期で「情報リテラシー」授業を実施した。前期1単位であるが、全学科連携をとって実施できた。授業の進み具合、試験の採点法等問題点は残っているが、今回の実施結果を踏まえて、次年度の改善に取り組んでいきたい。

（添付資料：電気情報工学科及び生物応用化学科の情報リテラシーシラバス）

- ・情報リテラシー教材を共有化するためにWebClass内にコースを作成した。

下図はそのログイン画面の一例である。

The screenshot shows the WebClass login interface. At the top, there's a navigation bar with 'ログアウト' and 'パスワード' links. Below it, a sidebar on the left contains 'ユーザー管理' and 'コース選択' options. The main area displays a table of courses with columns for '月曜日', '火曜日', '水曜日', '木曜日', '金曜日', and '土曜日'. The table lists various courses, including '情報リテラシー' and '電気情報工学科'. Below the table, there's a section for '適用中のコース' and 'ロックされたコース'. The bottom of the screen shows a Windows taskbar with several open applications.

2. 2 IT を活用した新教育手法の導入推進

[1] IT を活用した新教育手法の導入推進

(1) 新教育手法導入のための各種講習会の実施

- ・下記(2)に記したように、WebClass の講習会を回実施した。

(2) WebClass 活用のための講習会の実施

- ・WebClass の講習会は予定通り 1 回は実施したが、まだ不十分との声があり、2 回実施した。

第 1 回目

6 月 12 日(月)	13:00~15:00	第一演習室
6 月 13 日(火)	13:00~15:00	第一演習室
6 月 15 日(木)	13:00~15:00	第二演習室

第 2 回目

12 月 13 日(水)	13:00~	第一演習室
12 月 15 日(金)	13:00~	第一演習室

(3) 自学自習教材作成のためのノウハウ集の公開

- ・一部の科目、授業アンケート、新入生アンケートなどサンプルを作って公開している。

[2] 自学自習教材作成、マルチメディア教育、遠隔教育の推進

(1) 自習教材の作成及び作成のサポート

- ・一部の科目で教材を作っている。その際のサポートはまだ不十分である。

(2) 遠隔授業の作成

- ・まだ進んでいない。

(3) 外部組織(高専 IT 教育コンソーシアム、e ラーニング高等教育連携など)との連携

- ・検討中である。

(4) 現代的教育ニーズ取組支援プログラムの推進

- ・進行していない。

(5) SCS 利用の促進

- ・従来通りの配信状況を維持している。

2. 3 情報教育設備の有効利用と充実

[1] ものづくり教育を支援するデジタルエンジニアリング教育環境の向上

- ・情報処理室(第 3 演習室)に PIC 書き込み装置が 16 セット組み込まれ、学生実験や夏季体験講座に利用されている。

[2] LL 教室のあり方の検討

- ・まだ具体的な案が出ないまま検討中であり、今後の課題となっている。

2. 4 学内ネットワークの円滑な運用管理

[1] 4 ヶ所の演習室の円滑な運用・連携

- ・会議室等予約システムに演習室の使用予約ページを組み込み円滑に運用されている。

(下図参照)

- ・情報処理室のディスク領域の割り振りが不適切であったのを、パーティションの設定変更を行い、同時に共通ファイルのエリアを全学共通に整備した結果、これまで情報処理室利用者のファイルに起こっていた一部の不具合が改善された。

- ・昨年度末に 4 つの演習室の更新が全て完了し、4 月から新システムで情報教育がスタートした。円滑な運用・管理ができているが、一部演習室の利用が偏っている面もあるので、次年度からは時間割等の工夫が必要である。

- ・本年度末にはさらに「学内ギガビットネットワークセキュリティ補強システム」が導

入されて、通信速度が大幅に速くなるので、大幅な運用面の改善が期待できる。

[2] 学寮における無線LANの整備

- ・春に学寮ネットワーク利用者講習会実施している。
- ・「学内ギガビットネットワークセキュリティ補強システム」の導入に伴い、これまで懸案であった学寮の無線LANの整備が実現する運びとなった。

2. 5 情報教育センター報の発行

- ・本年度も持ち越しとなった。

DST Reserve (電子計算機室等 会議室等予約表)

<http://172.17.1.55/yoyaku/roomview.asp?Menu=Calen...>

【電子計算機室等 会議室等予約表】

今月 カレンダー 前の月 2006年9月 次の月 ヘルプ

部局別 【 会議室 乗用車 視聴覚教室 専攻科AV教室 映像システム 体育施設 電子計算機室等 草刈機 図書館 】

利用目的 【 授業 会議 その他 】

日	曜日	第一演習室	第二演習室	情報処理室(E)	CAD実習室(D)
		8:50~10:20			
1	金	教務係 12:45~15:55 教務係	10:30~15:10 教務係	8:50~12:00 吉川貴士	8:50~15:55 教務係
2	土				
3	日				
4	月	8:50~14:15 教務係	8:50~14:15 教務係	8:50~14:15 教務係	8:50~15:05 教務係
5	火	8:50~12:00 教務係 14:20~16:00 川崎宏一	8:50~12:00 教務係 14:15~15:55 教務係	8:50~15:10 教務係	10:30~15:55 教務係
6	水	8:50~12:00 教務係 14:15~15:55 教務係	8:50~15:55 教務係	8:50~15:55 教務係	10:30~15:55 教務係
7	木	8:50~15:10 教務係	8:50~14:15 教務係	8:50~10:20 教務係 12:45~15:05 教務係	8:50~15:55 教務係
8	金	8:50~10:20 教務係 12:45~15:55 教務係	10:30~15:10 教務係	8:50~12:00 吉川貴士	8:50~15:55 教務係
9	土				
10	日				
11	月	8:50~14:15 教務係	8:50~14:15 教務係	8:50~14:15 教務係	8:50~15:05 教務係

図 電子計算機室利用予約ページ

平成18年度

授業科目	担当教員	開講期	
情報リテラシー	伊月 宣之	前期	
科目番号	対象学年	必修・選択の別	単位数
17140	1年 電気情報工学科		1単位

授業概要

コンピュータ操作の基本、キーボード操作、ワープロソフトの使い方などのコンピュータリテラシーや、高度情報化社会のあり方・情報化社会への参画する姿勢について学ぶことを目的とする。

到達目標

- ・情報処理室のコンピュータにログオン、ログアウトができ、パスワードの変更ができること。
- ・ファイルのコピーや移動、フォルダの作成ができること。
- ・キーボードから文字の入力がスムーズにできること。
- ・ワープロソフトを用い、簡単な定型書類が作成できること。
- ・ワープロソフトを用い、図、絵、グラフ入りの書類が作成できること。
- ・入手した情報を加工、表現する際に守らなければならないことを理解すること。
- ・情報を発信することには責任が伴うことを理解できること。
- ・セキュリティを守る数々の技術について理解し、情報化社会を生きるために自らを守る方法を知ること。
- ・メディアリテラシーを知り、入手した情報を鵜呑みにせず批判的に受け入れることの大切さを理解すること。
- ・有害情報やインターネット上の犯罪について知ること、高度情報化社会の負の面について理解すること。
- ・情報に関する法律について学び、他人の著作権や個人情報の重要性について理解すること。

教科書

ネットワーク社会における情報の活用と技術 岡田正 他編

参考書

なし

授業の進め方

講義と演習を取り混ぜて行なう。

授業内容

- 1 電子計算機室の使い方、タイピング練習、ファイル・フォルダの操作
- 2 タイピング練習、インターネット検索、メールの設定と使い方
- 3 タイピング練習、WebClassの使い方、ワープロソフトの使い方1
- 4 タイピング練習、ワープロソフトの使い方2
- 5 情報の加工と表現
- 6 タイピング練習、ワープロソフトの使い方3
- 7 情報発信後の責任と評価
- 8 タイピング練習、ワープロソフトの使い方4
- 9 セキュリティを守る技術1(認証とパスワード、暗号、アクセス制御とファイアウォールの動作例)
- 10 セキュリティを守る技術2(セキュリティホールとコンピュータウイルス)
- 11 タイピング練習、ワープロソフトの使い方5
- 12 情報の受信・発信(インターネットと犯罪)
- 13 情報の受信・発信(メディアリテラシー)
- 14 情報に関する法律
- 15 期末試験

成績評価の方法

課題提出及び課題等授業に取り組む姿勢60%、前期末試験40%で評価する。

学生へのメッセージ

これからの高度情報化社会を行きっていくには単にコンピュータが使えるだけではなく、モラルがとても大切になります。是非この授業で高度情報化社会に参画する姿勢を身につけてください。

平成18年度

授業科目	担当教員	開講期	
情報リテラシー	勝浦 創・西井 靖博	前期	
科目番号	対象学年	必修・選択の別	単位数
16159	1年 生物応用化学科		1単位

授業概要

コンピュータ操作の基本、キーボード操作、ワープロソフトの使い方などのコンピュータリテラシーや、高度情報化社会のあり方・情報化社会への参画する姿勢について学ぶことを目的とする。

到達目標

- ・情報処理室のコンピュータにログオン、ログアウトができ、パスワードの変更ができること。
- ・ファイルのコピーや移動、フォルダの作成ができること。
- ・キーボードから文字の入力がスムーズにできること。
- ・ワープロソフトを用い、簡単な定型書類が作成できること。
- ・ワープロソフトを用い、図、絵、グラフ入りの書類が作成できること。
- ・入手した情報を加工、表現する際に守らなければならないことを理解すること。
- ・情報を発信することには責任が伴うことを理解できること。
- ・セキュリティを守る数々の技術について理解し、情報化社会を生きるために自らを守る方法を知ること。
- ・メディアリテラシーを知り、入手した情報を鵜呑みにせず批判的に受け入れることの大切さを理解すること。
- ・有害情報やインターネット上の犯罪について知ること、高度情報化社会の負の面について理解すること。
- ・情報に関する法律について学び、他人の著作権や個人情報の重要性について理解すること。

教科書

ネットワーク社会における情報の活用と技術 岡田正 他編

参考書

なし

授業の進め方

講義と演習を取り混ぜて行なう。

授業内容

- 1 電子計算機室の使い方、タイピング練習、ファイル・フォルダの操作
- 2 タイピング練習、インターネット検索、メールの設定と使い方
- 3 タイピング練習、WebClassの使い方、ワープロソフトの使い方1
- 4 タイピング練習、ワープロソフトの使い方2
- 5 情報の加工と表現
- 6 タイピング練習、ワープロソフトの使い方3
- 7 情報発信後の責任と評価
- 8 タイピング練習、ワープロソフトの使い方4
- 9 セキュリティを守る技術1(認証とパスワード、暗号、アクセス制御とファイアウォールの動作例)
- 10 セキュリティを守る技術2(セキュリティホールとコンピュータウイルス)
- 11 タイピング練習、ワープロソフトの使い方5
- 12 情報の受信・発信(インターネットと犯罪)
- 13 情報の受信・発信(メディアリテラシー)
- 14 情報に関する法律
- 15 期末試験

成績評価の方法

課題提出及び課題等授業に取り組む姿勢60%、前期末試験40%で評価する。

学生へのメッセージ

これからの高度情報化社会を行きていくには単にコンピュータが使えるだけではなく、モラルがとても大切になります。是非この授業で高度情報化社会に参画する姿勢を身につけてください。

◎ものづくり教育支援センター

センター長 谷口 佳文

1. 平成18年度運営目標

1. 1 ものづくり教育の全学的な取組を推進するとともに、ものづくりのための環境を整備する。
1. 2 ものづくり教育を積極的に支援するため、技術室の活動の活性化を図る。
1. 3 地域と連携したものづくり活動を推進する。

2. 平成18年度実施計画

2. 1 PBL教育の推進

ものづくり教育の全学的な取組を活性化するために、PBL教育を推進する。

[1] PBL教育研究会を発足し、PBL教育の推進を図る。

- ・専門学科から1名を選出し、PBL教育研究会を発足した。学内ものづくりコンテストの競技内容、実施時期、実施方法について協議し、10月23日にコンテストを実施した（ものづくり教育支援センター資料2. 1. [1]. 1、ものづくり教育支援センター資料2. 1. [1]. 2、ものづくり教育支援センター資料2. 1. [1]. 3、ものづくり教育支援センター資料2. 1. [1]. 4）。

ものづくり教育支援センター資料2. 1. [1]. 1

平成18年度 第1回PBL教育研究会 議事概要

日 時：平成18年5月23日 16:10～17:30

場 所：第3会議室

出席者：谷口、平木、松田、皆本、出口、西井、松英

1. 学内コンテストの実施について

(1) 学内コンテストの実施方法、実施時期について意見交換を行った。

- ・クラス単位での参加にすると、やる学生とやらない学生に別れてしまう。
- ・国領祭のイベントの中に成果発表の機会を設けるのは、学生はそれぞれの役割をこなしているのが難しい。成果物の展示にしてはどうか。
- ・異学年でチームを組んでの参加は、現在の土壌では難しい。いきなりではなく、徐々にその様な雰囲気を作っていく必要がある。
- ・ものづくりのみのテーマにすると、参加しにくい学科、学生がある。アイデアを募集するようなテーマも含めてはどうか。
- ・昨年度のシンボルロボの応募状況を見ると、授業の中の課題として設定する等、ある程度強制する必要がある。

(2) 実施の方向性

上記のような意見を踏まえ、次のような方向で実施することとした。

- ・参加の単位は、個人またはグループとする。
- ・コンテストは、競技部門とアイデア部門に分けて行う。
- ・競技部門は、多くの学生が参加しやすい内容とする。ある一定期間の放課後を利用して競技を行う。
- ・アイデア部門は、環境・福祉などに関する身近な問題を複数テーマとして設定し募集する。

- ・ 全員参加を目標に、各学科に協力を依頼する。
 - ・ コンテストのテーマについては、研究会のメンバーから出してもらう。
2. 平成19年度特別教育研究経費に申請した「小中学生の理科教育における教材開発を通じたPBL教育の推進」について、ものづくり教育支援センター長からの説明と協力の依頼があった。

以上

(出典：平成18年度ものづくり教育支援センター議事録)

ものづくり教育支援センター資料2. 1. [1]. 2

ものづくりコンテスト in 新居浜高専 2006

「ものづくりコンテスト in 新居浜高専」は、新居浜高専で学ぶ皆さんの誰もが、ものづくり活動に参加し、アイデアとそれを実現する技術力を互いに磨いていくことを目的に開催するものです。

第1回目 今回は、「組立式飛行機コンテスト」と「ウインドカーコンテスト」を実施します。

コンテスト概要：(詳細は別紙要項を参照してください。)

- ・ 「**組立式飛行機コンテスト**」は、自作の飛行機で、デザインと飛行距離を競います。簡単な構造ですが、翼の大きさや形状、機体のバランスなどでその性能は大きく左右されます。いろいろなものを調べ、工夫して製作してください。個人またはチームでの参加とします。
- ・ 「**ウインドカーコンテスト**」は、風をエネルギーとして、風上に向かって走る車のアイデアと速度を競います。風力を利用して走るための機構や構造、その材料など様々な要素をうまく組み合わせる必要があります。学年や学科の枠を超えたチームでの参加とします。

● **コンテスト日時**：平成18年10月23日(月) (会場：第一体育館)

● **応募方法**：

- ①参加登録用紙を、9月8日(金)までに提出してください。
 - ②エントリーシートを、10月16日(月)までに提出してください。
- (用紙配布・提出場所：学生就学支援係)

● **表彰**：最優秀賞・優秀賞・アイデア賞・デザイン賞
(各賞の受賞者には、賞状と副賞を贈呈します)

このコンテストは、必ずしも勝つものだけを求めているものではありません。
決められた制約の中で、アイデアを出しユニークな作品を完成してください。
優れた作品は表彰し、学内に展示すると共に、様々なイベントにも参加してもらいます。

主催：新居浜工業高等専門学校
共催：新居浜高専技術振興協力会「愛テクフォーラム」
後援：新居浜高専後援会

(出典：校内掲示ポスター)

「ものづくりコンテスト in 新横浜高校 2006」

組立式飛行機 コンテスト

自作の飛行機でデザインと飛行距離を競います

1. レギュレーション

①: 自作による組立式の飛行機(滑空機)で飛行距離を競います。

材料は、紙、木材、プラスチック、スチレンペーパーなど何を用いても構いませんが、安全上、鋭利な部分が無いようにしてください。

組立に使用する接着剤、テープなどには制限はありません。

また、ゴムやバネ、プロペラなどの動力源、エネルギー源は使用できません。

②: 飛行機の寸法は、長さ500mm以内、翼幅700mm以内、高さ300mm以内とします。

また、重量は100グラム以下とします。

③: 飛行会場は体育館を利用し、手投げによる飛行距離を競います。

○バスケットボールコートのエンドラインをスタートラインとし、他方の壁面までの距離を最長飛行距離とします。

○飛行距離は、スタートラインから静止した機体までの最短距離を測定します。

○飛行回数は2回で、2回の平均を記録とします。

○横壁や障害物に当たった場合も、落下地点で測定します。

○体育館は閉切って、無風状態とします。

2. 応募方法

①: 個人または5名以内のチームで参加してください。個人やチームが複数応募してもかまいません。

②: 参加登録用紙を、9月8日(金)までに学生就学支援係に提出してください。

③: エントリーシートを、10月16日(月)までに学生就学支援係に提出してください。

(参加登録用紙、エントリーシートは、学生就学支援係にあります。)

3. 表彰

飛行記録、デザインや技術、完成度を評価して以下を表彰します。

最優秀賞: 1点 賞状および副賞(図書券3000円)

優秀賞: 若干点 賞状および副賞(図書券2000円)

デザイン賞: 若干点 賞状および副賞(図書券2000円)

(出典: 教室掲示資料)

「ものづくりコンテスト in 新潟県 2006」

ウィンドカー コンテスト

“うちわ”で扇いで、

風上に走る模型のアイデアと速度を競います

1. レギュレーション

- ①: エネルギー源は、1人で扇ぐ“うちわ”による風力だけとします。
模型の進行方向（方面）から扇ぎ、向かい風を受けた状態で、風上に進むようにしてください。部品として、バネやゴムの使用は認めますが、スタート前にエネルギーを蓄えておいてはいけません。
- ②: 走路は体育館の床面を利用し、10mの直線距離の走行タイム（記録員による測定）で速度を競います。コース幅は3mとし、ラインテープ等で区画されたコース設定で、立体的な突起物はコース上には無いものとします。
床面の状態は、走行前にモップをかける程度です。
- ③: スタートラインの手前に設置（全ての部品が静止していること）した状態から、スタートの合図とともに、うちわで風を供給して走行させます。
走行時間は、スタートから模型全体がゴールラインを通過するまでの時間とします。
走行は2回で、記録の良い方を採用します。
- ④: 模型寸法は、前後の長さ500mm以内、横幅700mm以内、高さ800mm以内とします。
模型に使用する材料および重量の制限はありません。
- ⑤: “うちわ”は各自で準備してください。既製品または自作品で、一人で扇げる構造のもの、大きさの制限はありません。
- ⑥: 次の場合は、ペナルティの対象とします。
 - うちわなどが機体に接触した場合、1回につき走行時間に10秒加算します。
 - 転倒した場合、その場で起こし、1回につき走行時間に10秒加算します。
 - コースから外れた場合、コース内に戻し、1回につき走行時間に10秒加算します。
 - 明らかに追い風状態で進行した場合、1回につき走行時間に30秒加算します。
 - 破損等により走行不能になった場合、リタイヤ（自己申告）とします。

2. 応募方法

- ①: 学年または学科を超えた5名以内のチームで参加してください。個人やチームが複数応募してもかまいません。
- ②: 参加登録用紙を、9月8日（金）までに学生就学支援係に提出してください。
- ③: エントリーシートを、10月16日（月）までに学生就学支援係に提出してください。
（参加登録用紙、エントリーシートは、学生就学支援係にあります。）

3. 表彰

走行時間、アイデアや技術、完成度を評価して以下を表彰します。

最優秀賞:	1点	賞状および副賞（図書券5000円）
優秀賞:	若干点	賞状および副賞（図書券3000円）
アイデア賞:	若干点	賞状および副賞（図書券3000円）

（出典：出典：教室掲示資料）

[2] PBL教育先進校の教員を招き、講演会を開催する。

- ・現代GP 平成18年度ものづくり教育研究フォーラム「地域連携プロジェクト型ものづくり活動の可能性」において、奈良高専 京兼純教授による「奈良高専における地域連携事業と現代GP」と題した講演が行われた（ものづくり教育支援センター資料2. 1. [2]. 1）。

ものづくり教育支援センター資料2. 1. [2]. 1

平成18年12月15日

各 位

新居浜工業高等専門学校

現代GPものづくり教育研究フォーラム・新居浜高専教育フォーラム2006
「地域連携プロジェクト型ものづくり活動の可能性」の開催について（ご案内）

拝啓 時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

文部科学省が募集した「現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代GP）」に新居浜高専の取組「地域連携プロジェクト型ものづくり活動 ～工都新居浜の活性化プラン～」が選定されました。

この取組は、高専教育において異学年で構成する各グループの出前講座開講、小中学校教員との研修講座及び地域連携推進員である外部指導者の協力により、ものづくり人材の育成と地域教育に貢献する3年間の事業です。各年度毎に「ものづくり教育研究フォーラム」を開催し、講演・討議を通じて、取組内容の検討を深めるとともに、広く地域に情報を発信し普及を図ります。

初年度である平成18年度は発進の年度でもあるため、「地域連携プロジェクト型ものづくり活動の可能性」をテーマとして開催し、取組の構図を固めるとともに、愛媛大学、先進校の奈良高専の講師による講演・討議を通じて、人材養成のポイントに焦点を合わせます。

また、過去3回開催してきた新居浜高専教育フォーラムの目的である「地域にあるさまざまな教育機関が学校種を超えて互いに教育経験を学び合い、情報交換を行うことにより今後の教育のあり方を探求する。」の趣旨とも合致するため、第4回目の「新居浜高専教育フォーラム2006」としても開催します。

このような趣旨に基づき下記のとおり開催しますので、ご多用とは存じますが、多数の皆様がご参加くださるようご案内いたします。

なお、準備等のため、ご参加申込を12月20日（木）までに、FAX又はメールでお願いいたします。

敬 具

記

- 1 日 時 平成18年12月26日（火）13:30～16:30
- 2 場 所 新居浜高専 第1会議室
- 3 対象者 小学校・中学校・高校、塾等の先生、一般市民及び新居浜高専の教職員、学生
- 4 次 第
 - 13:30 開会挨拶 新居浜高専 校長 水野 豊
 - 13:40 基調講演
(演 題) 「ものづくり教育を考える」
(講演者) 愛媛大学 大学院理工学研究科 物質生命工学専攻 教授 定岡 芳彦氏
 - 14:30 休憩

14:40 現代GP先進取組 講演

(演題)「奈良高専における地域連携事業と現代GP」

(講演者) 奈良高専 電気工学科 教授 京兼 純氏

15:20 <地元でのものづくり活動事例>

「小学校理科クラブへの出前講座」

新居浜高専 電気情報工学科 助教授 稲見 和生

新居浜市立中萩小学校 教諭 加藤 茂樹 氏

「小中学校教諭の理科実技研修」

ー理科光学教材の作成・簡易顕微鏡作りー

新居浜高専 生物応用化学科 講師 西井 靖博

(参加の小中学校教諭からコメントをいただきます。)

15:50 討議 (司会) 新居浜高専 高技センター長 川崎 宏一

16:30 閉会挨拶 新居浜高専 ものづくりセンター長 谷口 佳文

(自由懇談会)

5 参加費 無料

6 後援 (依頼中) 愛媛県教育委員会、新居浜市教育委員会

7 申込事項 ① 所属及び役職名 ② 氏名 ③ 連絡先

8 申込先 新居浜高専 総務課地域連携係 (Tel0897-37-7701、7706)

FAX: 0897-37-7842 E-mail: tiren-c@off.niihama-nct.ac.jp

(出典: 地域連携プロジェクト型ものづくり活動の可能性の開催案内)

[3] PBL教育研究集会に参加し、情報収集、交流を行う。

・PBL教育研究会のメンバーが、9月27日に開催された「中国・四国工学教育協会第16回研究集会」に参加し、10月の教員会でその内容を報告した(ものづくり教育支援センター資料2. 1. [3]. 1)。

ものづくり教育支援センター資料2. 1. [3]. 1

Subject: 第6回教員会の開催について

平成18年10月12日

教員各位

教務主事 桑田 茂樹

平成18年度第6回教員会の開催について(通知)

このことについて、下記のとおり開催しますので、御出席願います。

なお、配布資料等がありましたら、10月16日(月)までに総務課総務企画担当へ提出願います。

記

1 日 時 平成18年10月17日(火) 16:10~

2 場 所 第1会議室

3 報告事項等

- (1) 科研費の申請について
- (2) 主事報告
- (3) 研修会等の報告(中国四国工学教育協会研究集会 他)
- (4) 平成18年度運営計画・教育改善推進計画の進捗状況の報告と今後の活動計画
(各部門における進捗状況および今後の活動における課題や依頼を含めて、
部門ごとに報告してください)
- (5) その他

(出典：教員会開催案内メール)

[4] 外部人材の活用など、地域と連携したPBL教育を推進する。

- ・現代GPのものづくり活動において、ものづくり経験の豊富な外部の方にプロジェクトアソシエイトとして協力してもらうことになった(ものづくり教育支援センター資料2. 1. [4]. 1)。
- ・デザコンのアイデア発表会において、外部の方にアイデアの審査並びに助言をいただいた(ものづくり教育支援センター資料2. 1. [4]. 2)。

ものづくり教育支援センター資料2. 1. [4]. 1

組 織 体 制

◎「現代GP地域連携ものづくり活動推進運営委員会」

本校校長を責任者とし、運営方針など基本的事項を審議し、各年度計画を決定する。委員は、新居浜市は教育委員会学校教育課指導主幹、小学校理科教科会顧問、中学校理科教科会顧問・技術教科会顧問、企画部産業遺産活用室長とし、他に、地域ものづくりコーディネーター、新居浜まちおこし委員会、マイントピアを楽しく育てる会、愛テクフォーラム、本校教員などとする。

新居浜工業高等専門学校現代GP地域連携ものづくり活動推進運営委員会規程 参照

◎「現代GP地域連携ものづくり活動実行委員会」

本校ものづくり教育支援センター長を責任者とし、ものづくり教育研究フォーラムや成果発表交流会をはじめ本事業の企画、調整を行い、進捗状況を管理する。委員は、ものづくり教育支援センター長のほか、地域ものづくりコーディネーター、高度技術教育研究センター長、同教育連携担当副センター長、総務課長、学生課長等とする。なお、新居浜市小学校理科教科会、中学校理科教科会・技術教科会の会長に専門委員を委嘱する予定である。

◎「現代GP地域連携ものづくり活動評価委員会」

人材養成教育効果等について評価し、次年度の活動計画に反映させる。評価委員会は本校校長に愛媛大学教授、新居浜市教育委員会教育長、新居浜商工会議所会頭、東予産業創造センター専務理事等の有識者で組織する。

◎「地域ものづくりコーディネーター」を1名、「プロジェクトアソシエイト」を3～4名委嘱する。

・地域ものづくりコーディネーター

濱田 直 中学校長OB

・プロジェクトアソシエイト

上出拓郎 住友重機械OB

平岡正敏 住友重機械OB

山本 博 住友重機械OB

(出典：平成18年度 新居浜工業高等専門学校 現代GP地域連携ものづくり活動推進運営委員会資料抜粋)

ものづくり教育支援センター資料2. 1. [4]. 2

Subject: デザコンのプレゼン日程変更

皆様へ

宮田@学生委員会コンテスト担当です。

全国高専デザインコンペティションに出展するためのアイデア発表会・選考会は、下記のように当日に追認試験があることから、日程を変更しますので、ご了承願います。

平成18年7月4日

各位

学生委員会コンテスト担当

全国デザインコンペティション・アイデア発表会の開催について

今年度、本校は「ブリッジコンテスト」に参加を予定してます。そこで、本校から出場するブリッジのアイデアを6月30日までに学内募集した結果、6件の応募がありました。

今回、下記の予定において、そのアイデアを提案者より発表していただきますので御案内いたします。

記

日時：平成18年7月10日（月）16時30分

場所：視聴覚教室

発表時間：10分（発表5分、質疑応答5分）

(出典：デザコン発表会案内メール)

2. 2 技術室の運営

[1] 技術職員の研修を計画・実施し、能力の向上を図る。

- ・核融合科学研究所技術部長 山内健治氏を招いて、技術職員を対象とした講演会を6月15日に開催した（ものづくり教育支援センター資料2. 2. [1]. 1）。
- ・雇用・能力開発機構愛媛センターおよび新居浜機械産業協同組合と連携して実施した経験者向けTIG溶接技術研修の講義を受講し、能力の向上を図った（ものづくり教育支援センター資料2. 2. [1]. 2）。

ものづくり教育支援センター資料2. 2. [1]. 1

平成18年度技術交流プログラム

平成18年6月吉日

核融合科学研究所 技術部

1 NC加工技術

概要 : 意図する工作物の設計、製図および下記のNC工作機械を使用して実際の加工を行う。

交流先 : 技術部製作技術課

交流期間 : 3日～1週間

交流人数 : 1～2名

対象者 : 関連業務に従事しているか、今後従事しようとする人で興味のある人

内 容 : 製作設計、CAD製図、パソコンDNCによる特種曲面形状の加工

使用機器性能

NCフライス（テーブル最大移動距離：X=650、Y=350）

NCフライス（テーブル最大距離：X=1600、Y=650、CAM付加）

NC旋盤（最大加工径420、最大加工長1000、マザートールCAM付加）

交流期日 : 8月～12月 年1～2回

世 話 人 : 杉戸 正治 0572-58-2310

2 電子ビーム溶接加工

概要 : 意図する工作物の設計、製図および下記の電子ビーム溶接機(EWS)を使用して実際の加工（異種金属の溶接など）を行う。

交流先 : 技術部製作技術課

交流期間 : 3日～1週間

交流人数 : 1～2名

対象者 : 関連業務に従事しているか、今後従事しようとする人で興味のある人

内 容 : 製作設計、CAD製図、電子ビーム溶接機(EWS)を使用した加工

使用機器能力 : 加速電圧60kV、100mA、溶接室寸法300mm×300mm×300mm

交流期日 : 8月～12月 年1～2回

世 話 人 : 杉戸 正治 0572-58-2310

(出典 : 講演会配付資料抜粋)

新居浜機械産業協同組合



TIG溶接利用技術

(土曜コース)

実施時期 平成19年 1月13日(土)、20日(土)、27日(土)
 実施時間 9:00~17:00 1日(7時間) ×3日間 =21時間コース
 実施場所 独立行政法人国立高等専門学校機構 新居浜工業高等専門学校
 受講料 円
 定員 6名

- 訓練目標：TIG溶接に関する装置の利用方法、溶接作業方法について習得する。(7-7溶接等の業務に係る特別教育)
- 受講対象：TIG溶接作業に従事している者
- セミナー内容

	テーマ	時間	内容
1	アーク溶接等に関する知識	1H	①アーク溶接等の基礎理論 ②電気に関する基礎理論
2	アーク溶接装置に関する基礎知識	3H	①直流アーク溶接機 ②交流アーク溶接機 ③交流アーク溶接機用自動電撃防止装置 ④溶接棒等及び溶接棒等のホルダー配線
3	アーク溶接等の作業の方法に関する知識	6H	①作業前の点検整備 ②溶接・溶断等の方法、溶接部の点検、作業後の処置 ③災害防止
4	関係法令	1H	①法・令及び安全規則中の関係条項
5	直流TIGによる溶接施工	5H	①溶接機・トーチの取り扱い ②アーク発生とその保持 ③溶融状態の観察 ④ビードの置き方 ⑤角継手の溶接 ⑥水平すみ肉溶接 ⑦下向き突合せ溶接
6	交流TIGによる溶接施工	5H	①クリーニング作用の観察 ②溶融状態の観察 ③ビードの置き方 ④角継手の溶接 ⑤水平すみ肉溶接 ⑥下向き突合せ溶接

使用機器等 TIG溶接装置一式、機工具一式
 持参品 作業服、安全靴、安全保護具、帽子、テキスト(7-7溶接等作業の安全)、
 筆記用具

新居浜機械産業協同組合

(出典：TIG溶接利用技術講習案内パンフレット)

〔2〕 技術室ものづくりプロジェクトを継続して実施する。

- ・昨年度から継続して製作している「7セグメントデジタル式時計」を完成させ、第1体育館南側壁面に設置した。精度が悪いので、引き続き改良の予定である（ものづくり教育支援センター資料2. 2. 〔2〕. 1）。

ものづくり教育支援センター資料2. 2. 〔2〕. 1

技術室ものづくりプロジェクト

-7セグメントデジタル式時計の製作-

○はじめに

平成17年度の活動報告で報告した、7セグメントデジタル式時計のその後の状況について報告する。平成17年度までに時計自体の設計はほぼ終了し、同年度末から製作段階に入っていた。

○時計製作の概要

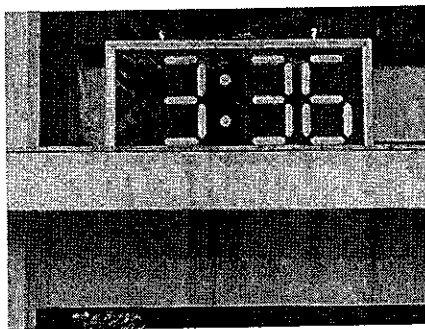
ア. 表示方式

表示方式は7セグメントデジタル表示を採用した。白と黒に色づけしたセグメントを回転させることで機械的に表示を変更する。

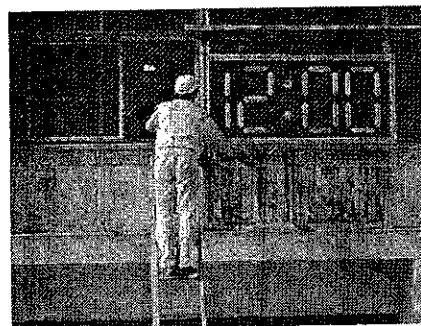
中略

ク. 体育館への設置

本校の第1体育館に設置することが正式に決まり、設置方法を決定した。第1体育館は窓がグランド側を向いており、グランド側壁面には破損防止用鉄網が設置されている。この鉄網の取付部材を利用すれば、時計をボールなどの衝突から保護でき、現在の施設に大きな加工をすることなく設置できるため、鉄網の取付部材にステンレス製角パイプを挟み付けて取付け、その上に時計を置くことにした。また、第1体育館の壁面が傾いていることから、安全性を考慮して上からもワイヤーで吊っている。



試運転



体育館への設置

○課題

時計の精度が非常に悪く、電波時計に改造することを検討中である。

また体育館設置後、10時の桁が勝手に動いてしまう不良が起こっている。現在原因を究明中であるが、未だ結論は得ていない。

（出典：平成18年度ものづくり教育支援センター活動報告書）

[3] 技術職員による学内講習会を実施する。

- ・ 12月に設置された3次元樹脂モデル造形機を学内で活用してもらうため、モデル作成のために必要な3次元CADの講習会および造形機の利用法の講習会を、3月22日、23日に実施した（ものづくり教育支援センター資料2. 2. [3]. 1）。

ものづくり教育支援センター資料2. 2. [3]. 1

Subject: 3次元CADと3次元樹脂モデル造形機の講習会について（案内）

3次元CADと3次元樹脂モデル造形機の講習会について

ものづくり教育支援センター長

平成17年4月に3次元CAD（Pro/Engineer）が導入され、さらに、平成18年12月に3次元樹脂モデル造形機が、現代GPの予算で設置されました。3次元樹脂モデル造形機は、3次元CADでデザインした形状を、ABS樹脂を用いて立体モデルとして造形する装置です。

このシステムを多くの方に活用していただくために、下記の要領で3次元CADの基本操作と3次元樹脂モデル造形機の操作方法の講習会を開催します。多数、参加下さいますようお願いします。

記

日時 平成19年3月22日（木）～23日（金） 2日間
9:00～12:00

場所 電気情報工学科情報処理室

内容 3月22日（木）
9:00～12:00 ・ 3次元CADの基本操作
・ 作図における便利な機能

3月23日（金）
9:00～11:00 ・ 部品の作成
11:00～12:00 ・ 3次元樹脂モデル造形機の操作

講師 技術室 松田陽一、宗次将之

資料の準備の都合がありますので、3月19日（月）までに、総務課 大城課長までメールで申し込みをお願いします。

以上

（出典：3次元CADと3次元樹脂モデル造形機の講習会案内メール）

[4] 教育方法の改善、教材の開発を推進し、その成果を発表する。

- ・今年度からの初めての取り組みとして、「平成18年度 技術室活動報告会」を3月13日に実施し、4名が報告を行った。参加者は17名と少なかったが、活発な質疑が行われた（ものづくり教育支援センター資料2. 2. [4]. 1）。

ものづくり教育支援センター資料2. 2. [4]. 1

Subject: 平成18年度技術室活動報告会について（案内）

平成18年度技術室活動報告会について

標記のことについて、下記のとおり活動報告会を開催しますので、多数の教職員の参加、特に関係学科の教員は参加されるようお願いいたします。

記

日 時	平成19年3月13日（火）10時～		
場 所	専攻科棟AV室		
題目・発表者	「電子線マイクロアナライザー（EPMA）について」	大 内 忠 司	
	「酸化チタン光触媒によるメチルオレンジの分解」	塩 見 正 樹	
	「技術室の業務について」	伊 藤 潤 一	
	「基板加工機を用いたものづくり支援」	則 包 早百合	

（出典：平成18年度技術室活動報告会案内メール）

[5] 年度末に活動報告書を作成し、センターの活動の広報を行う。

- ・昨年度に引き続き「ものづくり教育支援センター活動報告書 平成18年度版」を発行した（ものづくり教育支援センター参考資料：平成18年度ものづくり教育支援センター活動報告書）。

[6] チャレンジプロジェクト、アイデア通りプロジェクト、各種コンテストなどのものづくり活動の技術支援を積極的に行う。

- ・ロボコン、プロコン、デザコン、トロッコ列車等の製作活動において、各種部品の製作支援、学生への技術指導を行った。

[7] 学科の実験実習・卒業研究等の教育研究支援の他に、高度技術教育研究センター、情報教育センターの活動支援を積極的に行う。

- ・高度技術教育研究センターのホームページの管理、EPMAおよびSEMの操作、保守管理を行った（ものづくり教育支援センター資料2. 2. [7]. 1）。
- ・情報教育センターへの支援活動として、新居浜高専トップページの管理、図書館インターネット閲覧端末の管理、電子計算機演習室・専攻科棟AV室の管理などの管理業務を行った。図書館インターネット閲覧端末については、セキュリティおよび利用者のための改善を行った（ものづくり教育支援センター資料2. 2. [7]. 2、ものづくり教育支援センター資料2. 2. [7]. 3）。

高度技術教育研究センター支援

技術職員は高度技術教育研究センターから依頼されて、以下の支援業務を行っている。

(1) 高度技術教育研究センターのホームページ管理 技術職員 1 名

(2) 環境放射線測定装置の管理 技術職員 1 名

○ 警報付ポケット線量計	SV-7 型 (理研計器)	10 台
○ 多用途電離箱式サーベイメータ	ICS-311 (アロカ株式会社)	1 台
○ 多用途 GM サーベイメータ	TGS-121 (アロカ株式会社)	1 台
○ シンチレーションサーベイメータ (α 線)	NSP110B1 (富士電機株式会社)	1 台
○ シンチレーションサーベイメータ (γ 線)	NSP310B1 (富士電機株式会社)	1 台
○ シンチレーションサーベイメータ (β 線)	NSP210B1 (富士電機株式会社)	1 台
○ サーベイメータ (γ 線)	FS-590 (富士電機株式会社)	3 台
○ GM サーベイメータ	NHJ110 (富士電機株式会社)	1 台

(3) 測定機器の管理 (教員研究補助) 技術職員 2 名

○ 電子線マイクロアナライザ (EPMA) のオペレート、メンテナンス
(フィラメント交換および調整の補助、EDSの真空引き等)

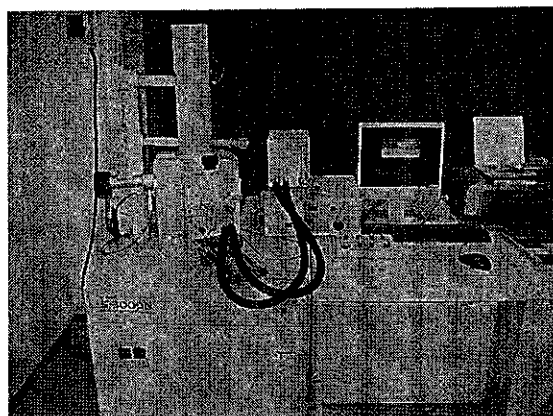
平成 18 年度のサポート日数は、95 日である。

○ 走査電子顕微鏡 (SEM) のオペレート、メンテナンス

設置日 : 平成 18 年 3 月 10 日

稼動日数 : 15 日 (平成 18 年度)

測定内容 : 果実、紙サンプルなどの依頼測定



(出典 : 平成 18 年度ものづくり教育支援センター活動報告書)

1) 情報教育センター（ネットワーク運用管理部門）委員としての支援報告

総務課技術室 辻 久巳

情報教育センター（ネットワーク運用管理部門）委員として主に以下の業務を支援している。

（１）新居浜高専トップページの管理

現在の新居浜高専トップページは、いくつかの問題点が生じているので平成 18 年 8 月に新しい新居浜高専トップページ No.1 を作成したがユーザビリティ（使いやすさ）等がイマイチだったので No.2 を作成中である。

（２）図書館インターネット閲覧端末の管理

セキュリティ対策とイタズラ防止策を向上させるため平成 18 年 10 月に Shared Computer Toolkit for Windows XP[※] を図書館インターネット閲覧端末に導入した。このソフトの導入によって制限設定等は容易になったが以下の問題が残っている。

○制限設定のために

- ・お気に入り（ブックマーク）
- ・タスクバーに表示される USB フラッシュメモリを安全に外すが表示されない。

○Windows ディスク保護を利用すると

- ・ウィルス定義の更新データを保存できない
注）Windows ディスク保護に対応しているウィルス対策ソフトも数種類ある
- ・Windows の自動更新に管理者権限がある（手間がかかる）

また、このソフトの導入に伴って以下の事を行った。

- Windows 2000 Professional から Windows XP Professional に変更した。
- Acrobat Reader, Word Viewer, Flash Player 等の各種閲覧ソフトをインストールした。

※ マイクロソフトが無料提供する学校や公共図書館等の共有パソコンを制限・保護・強化するソフトである。

（３）電子計算機室第 2 演習室の管理

平成 18 年度は第 2 演習室に 25 台のシンクライアント[※]PC が設置された。また、CAD 実習室（電子制御工学科棟）から 25 台の PC が移設された。

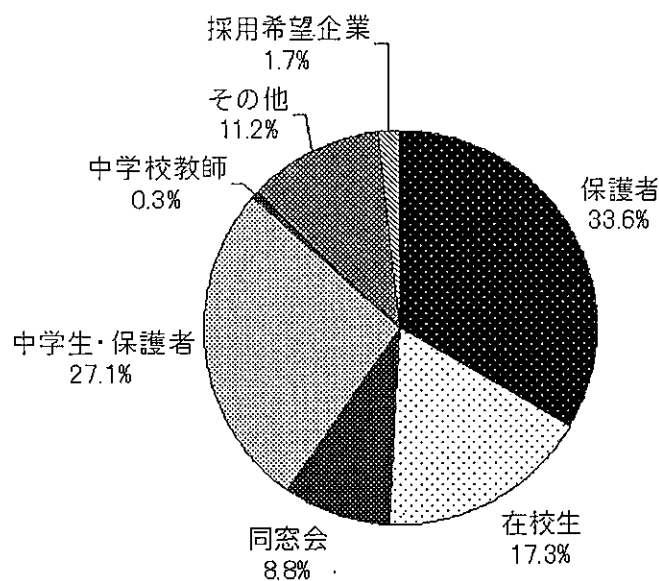
今後の第 2 演習室の課題としては CAD 実習室から移設された PC の性能（OS: XP Pro, CPU: 0.9GHz, メモリ: 256MB, HDD: 20GB）が低いので起動が遅い（10 分かかる）等の支障がでている。

なお、第 2 演習室の盗難・イタズラ・清掃状況は改善されたが今後も継続して盗難・イタズラ・清掃対策を強化していく必要がある。

※ シンククライアント【thin client】とは、企業の情報システムにおいて、社員が使うコンピュータ（クライアント）に最低限の機能しか持たせず、サーバ側でアプリケーションソフトやファイルなどの資源を管理するシステムの総称。また、そのようなシステムを実現するための、機能を絞った低価格のクライアント用コンピュータ。

（４）新居浜高専メールマガジンの配信状況

平成１７年１１月に構築した新居浜高専メールマガジンの配信状況を報告する。総務課総務企画係が平成１８年４月から月１回配信している。また、平成１８年４月～平成１９年３月までの読者登録状況は以下の表の通りである。



区分	人数
保護者	99
在校生	51
同窓会	26
中学生・保護者	80
中学校教師	1
その他	33
採用希望企業	5
合計	295

（５）メールを利用した教職員への情報提供

平成１８年度はメールを利用して教職員に以下の情報提供を行った。

○ノートPC バッテリーのリコール情報

○マイクロソフトのセキュリティサポート情報

○Windows Vista, ウィルス対策ソフトのトラブル情報など

（出典：平成１８年度ものづくり教育支援センター活動報告書）

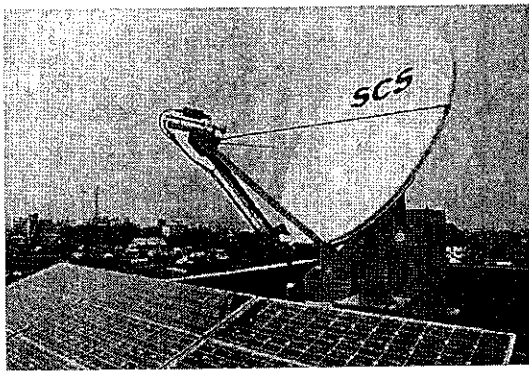
2) 情報教育センター（情報教育推進部門）支援業務

技術室では情報教育推進部門からの依頼により、視聴覚教室及び専攻科棟 AV 室に設置してある様々なマルチメディア機器の管理、機器利用者への操作補助と、SCS 機器の管理、SCS 利用時の機器操作、緊急時のトラブル対応などを行っている。

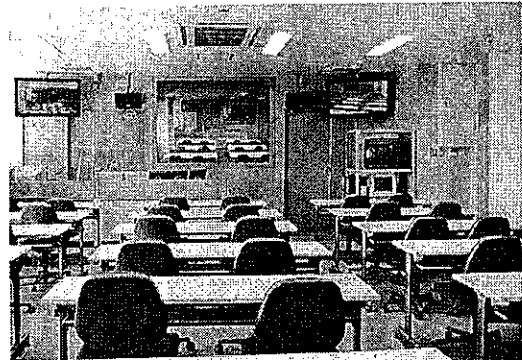
また、教職員対象の機器利用講習会やマニュアル作成、機器使用法の説明、利用に関する相談などの支援を行っている。

SCS について

-Space Collaboration Systems-（衛星通信大学間ネットワーク）は、通信衛星回線を通じて、大学、高専、大学共同利用機関の間で、遠隔授業、研究会、講演会、研修会、公開講座、会議などを行うことを目的にしており、双方向に動画像、音声などのマルチメディア情報のやりとりができることが特徴である。



SCS アンテナ



専攻科棟 AV 教室

専攻科棟 AV 教室

専攻科棟 2 階の AV 教室は SCS 導入と同時に設置され、SCS を利用した遠隔授業、講演受信を行っているが、その他にも室内のマルチメディア機器を使用した様々な活用が可能で、マルチメディア教材による授業、発表会、講演会などに利用されている。

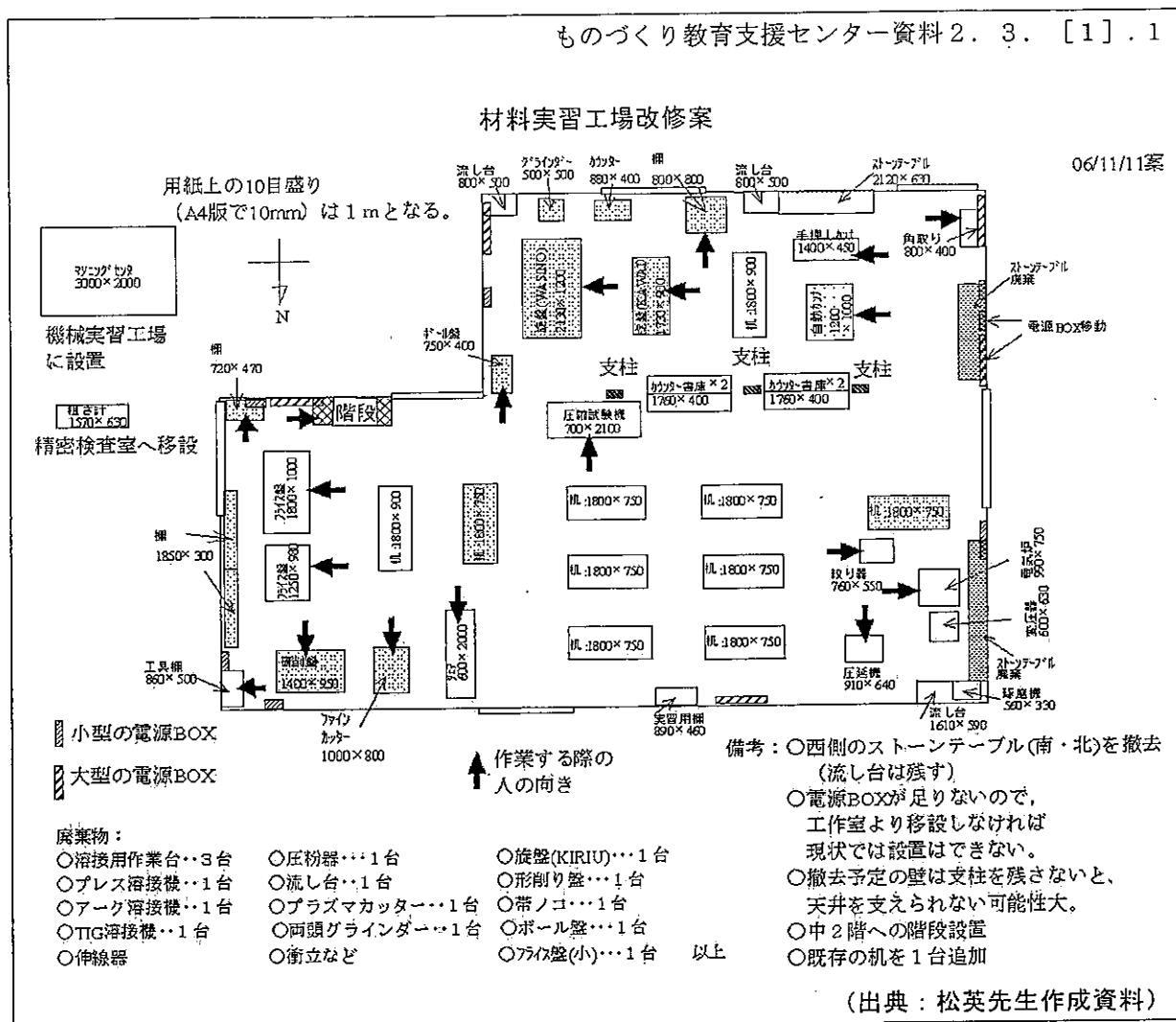
情報教育センターでは更に有効に利用していただくために教職員向けに各種講習会を開いており、技術職員も支援を行っている。

（出典：平成 18 年度ものづくり教育支援センター活動報告書）

2. 3 施設・設備の有効利用

[1] 機械および材料実習工場の機能を統合し、施設・設備の効率的な活用を図る。

- ・機械および材料実習工場の一部の改修工事が行われ、機械加工の実習に関する機能を機械実習工場に統合した（ものづくり教育支援センター資料2. 3. [1]. 1）。



[2] 実習工場内の設備を整理、廃棄し、ものづくり活動のスペース、作品展示スペースを確保する。

- ・機械および材料実習工場の改修工事にあわせて実習工場内の設備を整理、廃棄し、材料実習工場内に、ものづくり活動のスペース、作品展示スペースおよびものづくりのための材料保管スペースを確保した（ものづくり教育支援センター資料2. 3. [1]. 1）。

[3] 実習工場、アイデア通り工房の機器利用の際の安全教育を徹底する。

- ・実習工場においては、「実習工場利用の注意事項」に従って、安全指導を行った（ものづくり教育支援センター資料2. 3. [3]. 1）。
- ・アイデア通り工房の旋盤の利用については、機械工学科の学生のみ使用を許可している。3月にアイデア通り工房の旋盤を入れ替えたため、学生に対する利用の講習を行う予定である。

実習工場利用の注意事項

ものづくり教育支援センター

実習工場では以下の事項を守り、安全に作業を行うよう努めなければならない。

1. 服装・安全について

- ① 実習服または、不燃性素材の厚手の長袖長ズボンを着用すること。
- ② 服のファスナーおよびボタンを全部とめること。
- ③ 靴を正しく履くこと。（かかとを踏まない。サンダル等は禁止する。）
- ④ 長髪は機械等に巻き込まれるおそれがあるので、帽子を被るか結ぶこと。
- ⑤ ポケットに手を入れないこと。
- ⑥ 爪を切っておくこと。
- ⑦ 保護具（メガネ、保護面等）の着用を指示されている作業では、必ず着用すること。
- ⑧ けがをした場合は、どのような小さなことでも指導者へ報告し指示を受けること。
- ⑨ 機械に異常を認めた場合には、速やかに機械を停止させること。
- ⑩ 携帯電話の電源は必ず切ること。

2. 後片付け・清掃について

- ① 使用した機械・器具・工具はウエス等で拭いて元の位置に戻すこと。
- ② 使用した機器類は、油を塗布するなど、保守に留意すること。
- ③ 作業場・機械の清掃は、次に使用する人の立場になって、丁寧に行うこと。
- ④ 発生したゴミは、一般のゴミと金属類とに分けて、各々所定の場所に捨てること。

（出典：実習工場掲示注意事項）

2. 4 地域との連携

[1] 地域との技術交流・技術支援を推進する。

- ・新居浜機械産業協同組合の傘下企業社員14人に対して、公開講座として技術職員が講師となり、初心者向け溶接（アーク及びTIG）技術研修を12月1日～8日にかけて実施した（ものづくり教育支援センター資料2. 4. [1]. 1、ものづくり教育支援センター資料2. 4. [1]. 2）。
- ・雇用・能力開発機構愛媛センターと連携して、新居浜機械産業協同組合の傘下企業社員10人に対し、経験者向けTIG溶接技術研修を、1月13、20、27日の毎土曜日に実施した（ものづくり教育支援センター資料2. 4. [1]. 1、ものづくり教育支援センター資料2. 4. [1]. 3）。

新居浜機械産業協同組合との溶接実技研修

(1) 初心者向けアーク溶接とTIG溶接研修

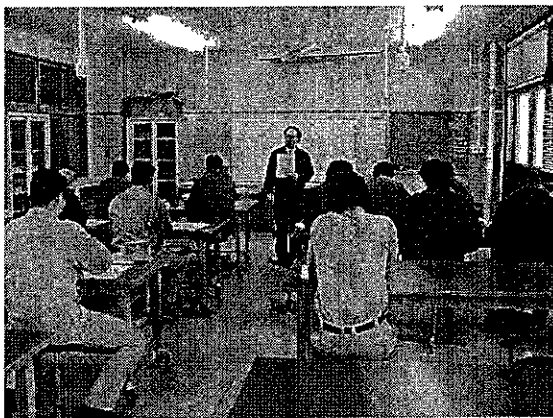
新居浜市との「連携協力協定」に基づく「産業振興の推進」事業の一環として、新居浜機械産業協同組合企業の従業員を対象に、毎年、機械実習工場において入門的な溶接技術研修を実施している。

18年度は、12月1日(木)～8日(木)の夕方2時間、アーク溶接とTIG溶接実技研修を実施した。研修には14名の参加があり、終了後のアンケートでは、非常に良かったが8名、良かったが5名と、研修内容は好評であった。

(2) 経験者向けTIG溶接研修

平成17年度に、「人材高度化研究会(新居浜機械産業)」において、新居浜機械産業協同組合、雇用能力開発機構愛媛センターと共同で講義を含めたTIG溶接のカリキュラムを新たに策定した。平成18年度は、そのカリキュラムに基づき、経験者向けTIG溶接研修を開設し、雇用・能力開発機構愛媛センターの堀家氏を講師に、1月13、20、27日の毎土曜日3日間、午前中3時間講義、午後4時間実技というスケジュールで実施した。研修には、募集人数6名に対して1.0名の参加があり、本校のTIG溶接機3台に加えて、TIG溶接機2台を搬入して実技研修を行った。

受講者から、研修内容は概ね好評であったが、期間が長い、講義よりも実技の時間を長くして欲しいとの要望があった。



講義風景



TIG溶接実習

(出典：平成18年度ものづくり教育支援センター活動報告書)

○初心者向けアーク溶接とTIG溶接研修のアンケート結果

回答数 13人

研修内容はいかがでしたか

非常によかった	8人
よかった	5人
あまり役に立たなかった	0
無意味だった	0
その他	0

研修期間はいかがでしたか

長い	0
適当	11人
短い	2人
その他	0

意見・要望等

- ・練習できたのでよかった。
- ・炭酸ガスは初めてで、よかった。お世話になりました。
- ・炭酸ガスは初めてだったので、役に立ちました。
- ・今後の仕事にいかせと思った。
- ・半自動溶接を2日間研修したい。
- ・自由に溶接ができた。
- ・できる人間とできない人間を分けた方がよいと思う。
- ・お世話になりありがとうございます。
- ・仕事でアルミなどは使わないから勉強になった。
- ・わかりやすかった。
- ・練習になってよかった。

(出典：平成18年度ものづくり教育支援センター活動報告書)

○経験者向けTIG溶接研修のアンケート結果

回答数 9人

研修内容はいかがでしたか

非常によかった	1人
よかった	8人
あまり役に立たなかった	0
無意味だった	0
その他	0

研修期間はいかがでしたか

長い	3人
適当	5人
短い	0
その他	1人（普通）

意見・要望等

- ・実技の時間が多い方がよい。
- ・機器や溶接の知識が身につきましたありがとうございます。
- ・よかった。様々な技術がわかった。
- ・勉強になった。
- ・溶接の勉強になった。
- ・アークもやってみたい。
- ・実技の時間がもう少しあった方がよかったです。
- ・T継手が上達したのでよかった。
- ・溶接機が足りなくて何もしない時間がもったいなく感じた。
- ・わかりやすくてよかった。勉強になりました。
- ・自分が今までわからなかったことがわかった。

(出典：平成18年度ものづくり教育支援センター活動報告書)

[2] 地域のものづくり人材育成事業に参画する。

- ・東予産業創造センターの「産学連携製造中核人材育成事業」提案書作成に協力した。

[3] 「シンボルロボ・アイデアコンテスト」への応募作品の中からロボットを製作し、地域づくりに協力する。

- ・「シンボルロボ・アイデアコンテスト」で入選した太鼓台と別子銅山をモデルにした2台のロボットについて、現代GPの「まちづくりシンボルロボプロジェクト」で製作に取りかかった。

文部科学省『現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代GP）』

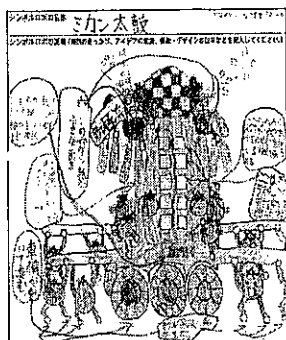
<現代GP まちづくりシンボルロボプロジェクト>

「ミカン太鼓」と「銅滴の夢」ロボットの製作

八十島啓介(機械工学科5年) 飯尾敏雄(機械工学科5年)
伊藤隆洋(機械工学科5年) 渡邊拓弥(機械工学科5年) 吉川希生(機械工学科4年)
谷口佳文(機械工学科) 宮田剛(機械工学科)

「ミカン太鼓」

原案



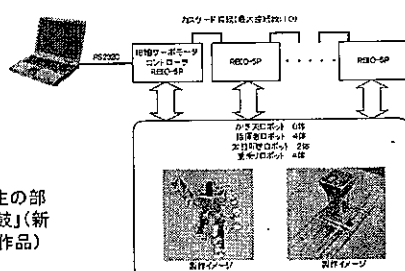
シンボルロボアイデアコンテスト小中学生の部
最優秀賞「広瀬賞」を受賞した「ミカン太鼓」(新
居浜市惣閑小学校6年生副田康平君の作品)

ミカンロボ

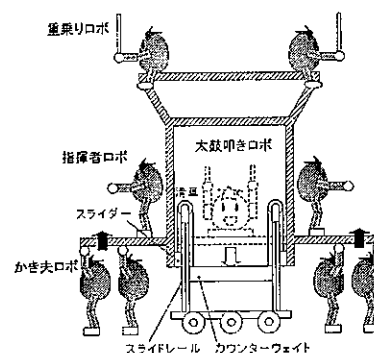


4タイプのミカンロボは全て
サーボモーターで駆動する。

制御システム



かき上げメカニズム

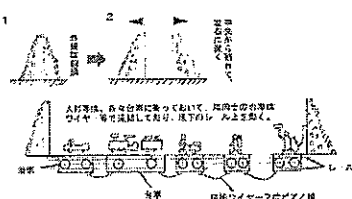


カウンターウェイトの効果により、
かき夫ロボは太鼓台の重さを感じず、
少しの力でかき上げることができる。

銅滴の夢

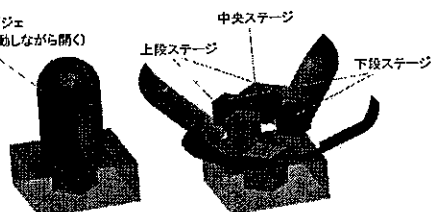
◆構想

原案



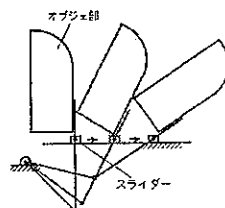
「銅滴」オブジェ
(水平に移動しながら開く)

変更



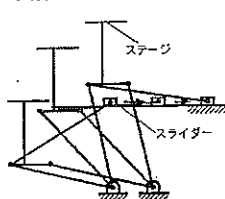
◆各部機構

「銅滴」オブジェ部



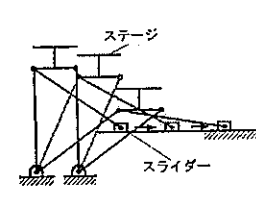
スライダを右に移動させると、「銅
滴」のオブジェと繋がっているリンク
が広がりながら傾いていく。

下段ステージ部

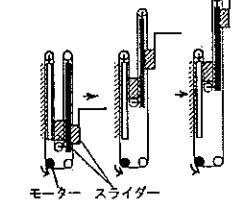


「銅滴」の中に収納する4つの作品を載せるステージ部分の機
構で、スライダを右に移動させると、ステージ部分がそれぞ
れ上下しながら広がる。

上段ステージ部

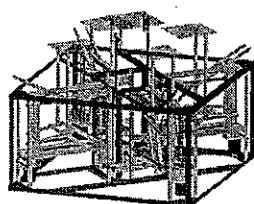


中央ステージ部



モーターでワイヤーを巻き取って
スライダを移動し、ステージを
上下させる。

◆設計図



夢の
がでる
学校です。

新居浜高専

(出典：平成18年度現代GP成果発表交流会展示パネル)

[4] ものづくり教育支援センターホームページを充実し、地域への情報発信を行う。

- ・ ものづくり教育支援センターのホームページの更新を技術室でできるようにした。
- ・ 切山地区案内ロボット製作プロジェクト活動状況の追加、あかがねの里 銅物園プロジェクトの更新などを行なった。

○総括的な評価と課題

- ・ 年度当初に立てた目標は、いくつかの項目で不十分な点はあるものの、ほぼ達成できたと考える。
- ・ 技術室ものづくりプロジェクト、技術室活動報告会、3次元C A Dと樹脂モデル造形機の講習会などを通じて、技術室の活動を学内に知ってもらうよう努めた。今後も、さらなる技術室の広報を進めていきたい。
- ・ 外部人材の活用については、不十分であった。現代G Pのものづくりプロジェクトへの協力などを通して、活用を図っていく必要がある。
- ・ 機械および材料実習工場の改修工事によって機能が統合されたので、有効な活用方法を検討する必要がある。

◎ 教務委員会

1. 基本方針

F Dを推進し、P D C Aサイクルとしての定着を目指す。特に、各種アンケートの早期分析とフィードバック方法、実力試験や英語一斉試験の検証など、現在取り組んでいる事項の改善を行う。また、本年度から新しく実施する業務については、問題点の早期抽出とその対策を講じて行く。さらに、本年度から各W G（複数年度継続メンバー）を立ち上げ、業務の継続的な改善も行う。

2. 運営方法

[1] 必要に応じて主事補を中心とした「方針検討会」で原案を検討し、それを教務委員会で討議・修正し、教務委員会案とする。

[2] 方針検討会

構成：教務主事、教務主事補、学生課長、教務係長 合計 6 人

業務：

- (1) 公務関連業務の各種業務に対して各主事補が分担・検討し、原案を作成する。
- (2) この原案を当検討会に持ち寄り、上記メンバーで検討し、1 次案とする。
この案を教務委員会で討議・検討し、決定する。

[3] 教務が主体になって行う学校全体の諸行事は、全教務委員が分担・協力し実施する。

[4] 教務主事は、全体の教務関連業務の統括、対外業務と折衝、学内外諸事項に対する窓口業務を中心とする。

[5] W G体制（複数年継続）の導入：1 名以上の教務委員がメンバーとなる。

- ・入試データの分析および入試制度の見直し
- ・「はばたけ未来へ」を中心とする P R 誌の作製（新規の P R も）
- ・学外各種イベントの開催および参加（新規も）
- ・アンケートの分析とフィードバック方法の改善 など

[6] 教務委員会および方針検討会にメール会議を導入して会議の効率化を図る。

3. 平成 1 8 年度重点推進項目

[1] 留年者・退学者減少対策

遅刻・欠席対策（ガイドラインに基づいた指導）および受講姿勢の改善、家庭学習の習慣付けを推進する。特に、1 年生に対する早期学習支援を行う。

- ・欠席数に応じた指導のガイドライン（欠課 50 時間で学科主任の指導、100 時間で教務主事、150 時間で校長）を作成した。しかし、実際には一部の学生しか対応できていない。
- ・学生の欠課時数の合計をより早く知るために、出席管理ファイルを作成し、活用を始めた。
- ・遅刻や欠課対策については、昨年に引き続き、朝の出席状況調査（月毎）や試験期毎の欠課時数・皆勤率のデータを公表し、対策等に役立てようとしたが、数字的結果の改善は見られなかった。また、学生の受講姿勢の改善もできていなく、大きな課題を残している。

〔2〕入学志願者対策

上述のWGを中心として、志願者の増員対策を講じ、本校に向けた入学者を確保する。また、現行の中学校に対するPR方法についても改善していく。

短期的対策：PR、体験学習などの充実

長期的対策：在校生の学習・生活支援→卒業者数の増員、出口（進路先）開拓

- ・入学選抜制度の見直しを行った（推薦枠、推薦基準など）。また、推薦選抜会場として松山会場を増設した。学力選抜会場は県外2会場（三好、福山）を増設し、計5会場で実施した。
- ・中学校長理事校への挨拶（本校校長による）の実施や地区別説明会（県内5地区、県外3ヶ所）も実施した。163校（昨年111校）の中学校訪問を行い、また、近隣の中学校へは8月、12月に2回目の訪問も実施した。
- ・中学生用のPR誌「はばたけ未来へ」については、在校生や卒業生の声を盛り込むなど、内容の見直しも行い、23,000部配布した。また、中学2年生へはPR用「下敷」を配布した。
- ・各中学校へはカレンダー付募集ポスター（1,000部発行）を配布した。
- ・平成18年4月よりメールマガジンの月1回の配信を開始した。

〔3〕学修単位導入に向けて

平成18年度に試行的に実施する科目の研究・検討を行いつつ、カリキュラムのシミュレーションや授業教材、自学自習教材の開発、家庭学習の習慣付けなどを推進する。

- ・WGによる導入科目の選定のガイドライン、評価方法、記録シート（学生用、教員用）などについて検討を行った。
- ・本年度試行科目を設定し、その実施状況や導入の可否・問題点等について教員会で報告した。
- ・平成19年度から、4年生、5年生の英語関係と専門科目を学修単位科目として導入することを決めた。

4. 平成18年度実施計画

4. 1 改善を加えながら実施する業務

- 〔1〕入学式・始業式（新入生研修）
- 〔2〕1年合宿研修：大洲での研修を総仕上げとした事前学習（目的の周知）の充実
- 〔3〕夏季体験学習・体験講座：WGの結成
- 〔4〕学校見学会：デモ実験を含めた見学方法の検討と実施
- 〔5〕中学校訪問・学校説明会：PR用資料作成と訪問先、時期の検討
- 〔6〕実力試験の在り方：試験結果の有効活用
- 〔7〕インターンシップ：事前学習（目的の周知）・事後学習（報告書、報告会）
- 〔8〕TA、アドバイザー制度の見直し
- 〔9〕来年度の行事スケジュール、時間割の早期作成
- 〔10〕SHRおよび特別活動の充実（計画書の作成）
- 〔11〕課外特別活動の内容（キャリア教育）の見直しと充実
- 〔12〕オフィスアワーの定着：実施状況調査（2月）

- [13] 保護者を対象とした公開授業（参観日）
- [14] 公開授業：実施結果のフィードバック法の確立
- [15] 保護者懇談会の実施
- [16] 長期休業中の補習、講座の充実
- [17] 四国高専間共通試験（担当校）の実施と定着
- [18] 学生の指導記録の充実と有効活用

- ・上記18項目について実施した。この内、本年度改善したことや改善を必要とする事項は次の通りである。
- ・1年生の大洲合宿研修は担任主導型で行い、また、事前学習にも重点を置いたため、例年になく充実した研修となったと思われる。（来年度は学生支援委員会が中心となって実施する。）
- ・夏季体験学習については、WGを組織し、実施内容や実施方法について検討した。中学生に「数理科」という学科があるような誤解を避けるために、物理のテーマは材料工学科に吸収した形態に改善した。実施にあたっては、学生参加型の形態を多く取り入れた。
- ・学校見学会については、9月の学校見学会に加えて、国領祭にも入試説明会（見学を含む）を実施した。
- ・ティーチングアシスタントについては、昨年と同様な形態で実施した。後半の受講生は減少したが、概ね良好なTAとなった。
- ・ショートホームルームについては、実施状況にクラス間の差が見られたため、学生及び担任・副担任から実施状況の調査を行った。各担任からは学級経営計画に関する実施状況の報告をしてもらい、来年度の実施に向けて活用する予定である。
- ・保護者を対象とした公開授業（参観日）を10月21日（土）に実施した（参加181名：昨年134名）。
- ・長期休業中の学習支援については、本年度新たに機械工学科及び電子制御工学科の講座を開設した。（以下の通り）
 - 1) 英語実力養成講座（全学生対象） 8月28日（月）～31日（木）の4日間
 - ・TOEIC対応コース：7名
 - ・基礎コース：80名
 - 2) 数検合格対策講座（数検受験者を対象） 8月24日（木）、25日（金）の2日間

「数検」実施校に登録、参加者：18名
 - 3) 課題演習2の開講（全学生対象）：夏季体験学習（7/28、29）

受講学生数：100名、その他ボランティアとしての参加：延べ70名
 - 4) 数学夏季補習（1年生対象） 7月20日（木）、21日（金）24日（月）、25日（火）の4日間

参加学生数：67名（1日当りの平均）
 - 5) 機械設計技術者試験3級対策講座（全学生対象） 7月24日（月）～26日（水）の3日間

参加学生数：16名
 - 6) 電気情報工学科実力養成研修（電気情報・電気工学科学生対象） 8月21日（月）～25日（金）の5日間

参加学生数：47名
 - 7) 電子制御工学科補習 7月20日（木）、21日（金）、24日（月）の3日間

参加学生数：33名（1年：19名、2年：14名）

- 8) 平成18年度学年末英語実力養成講座(3月15, 16日の2日間)
- ・四国高専共通試験(英語、物理、化学)については、本校が担当校として実施した。また、英語については自作問題で実施した。その結果と分析については、教員会で報告する予定である。
- ・学生個々の指導記録の記載項目を追加した。この記録は、担任ばかりでなく、学生・保護者との懇談などにも役立てている。また、卒業認定会議や進級判定会議の参考資料としても活用している。
- ・課題を残している項目としては、実力試験の在り方、アドバイザー制度の有効活用、ショートホームルーム、課外特別活動の充実、オフィスアワーの活用などである。

4. 2 新しく試行・実施する業務

- [1] 学修単位導入に伴う試行とシミュレーション、平成19年度のカリキュラム
- [2] 入試PRに関する新たな取組み(遠隔地でのPR、保護者、中学校の先生へのPR、メールマガジンなど)
- [3] 学生の成績のグラフ化と活用方法
- [4] 全国高専学習達成度試験の実施(数学)
- [5] 教科別FD研修会(数学、機械・材料系科目、理科、制御情報・工業化学系科目)
- ・上記[1]、[2]については、前述の通りである。
- ・学生の成績のグラフ化と活用方法については、ほとんどできていない。年度毎の成績の蓄積は行っている。
- ・全国高専学習達成度試験(数学)については、本校3年生が受験した。その結果と分析は教員会で報告する予定である。また、四国地区高専間でもデータの共有を提案している。
- ・四国地区高等専門学校共同事業FD研修会の「数学科」については、8月10日・11日に本校で開催した。また、他の教科も含めて、その事業内容を取り纏めた。

4. 3 他部門との連携体制の整備

- [1] 学年主任等連絡会との連携：特に1, 2年学年主任と協力して、新入生研修・大洲合宿研修、学外研修(工場見学)、救急訓練、講演会(研修会)などを実施する。
- [2] 学生委員会との連携：進路指導体制、企業説明会、インターンシップなど
- [3] 情報教育センターとの連携：カードキーの活用拡大、教室環境等の整備など
- [4] 専攻科教育委員会との連携：単位互換(愛媛大学)、JABEE受審の指摘事項の改善など
- [5] 高度技術教育センターとの連携：出前講座の拡充、新居浜高専教育フォーラム2006、サイエンス・パートナーシップ・プログラムなど
- ・新入生研修・大洲合宿研修、学外研修(工場見学)、救急訓練等は実施できたが、学年主任等連絡会については有効に活用できていない。
- ・他の委員会や部門とは、必要に応じて連携協力しているが、両部門共催などの体系的なシステムの構築も必要と思われる。

○ 総括的な評価と課題

入試関連項目については、WGを組織するなどして、かなりの改善が見られた。来年度に向けて、新たなPR(学生の母校訪問など)を含めて、引き続きPR活動の充実が必要である。

学生の受講姿勢や遅刻・欠席については、早期に有効な対策を検討し、改善していく必要がある。

また、来年度導入する学修単位科目における授業方法の改善や自学自習の習慣付け（学習支援）についても経過分析を行うなど、定着に向けた取組みも必要である。

FD活動については、事前にテーマを設定するなどして、成果が発表できるようなシステムを構築し、FDの定着を目指すことが重要と思われる。

◎学生委員会

学生主事 檀上光昭

1. 平成18年度運営目標・方針

1. 1 基本的な考え方

〔1〕 全教職員が協力して学生指導に当たる。

〔2〕 学生、教職員も含めて、自分たちの学校は自分たちで良くして行くよう努力する。

1. 2 学生指導に関する目標

〔1〕 社会ルールの遵守とモラルの向上

〔2〕 課外活動の活性化

2. 平成18年度実施計画

2. 1 学生指導

〔1〕 登校指導、挨拶運動の徹底

(1) 前期、後期の開始時や長期休暇後などでの集中的な登校指導の導入

前期、後期始業時、夏休み後及び冬休み後:1週間連続指導

全教員による指導:2週間に1回

学生委員による指導:1週間に1回

始業時及び長期休暇後の連続指導については計画通り実施できた(学生委員会資料2.

1.〔1〕.1)。全教員による2週間に1回の指導は行うことができなかった。学生委員による指導については、主事、主事補を中心にかかなりの回数の指導をおこなってきたが、毎週定期的にという風にはできなかった。

(2) 教職員へ「学生への挨拶」の依頼

教員会、学校運営方針説明会等を通して実施する。

運営会議、教員会、新任研修を通して、依頼してきた。しかし、まだ全員が会う学生ごとに挨拶の声掛けを行うところまでは至っていない。

また、学生から挨拶を返してくれない教職員がいるとの指摘もあった。

(学生委員会資料2. 1.〔1〕.1)

各 位

学生主事

朝の登校指導(4月10日～14日分)担当者について

4月10日から14日までの朝の登校指導担当者を担任、副担任、寮務委員を除いた全員で下記のように割り振りました。

なお、1時間目の授業がおありになる方は、早めに切り上げて頂いてかまいません。
よろしくお願い申し上げます。

記

4月10日(月) 西門:宮田、尾西、今井
北門:勝浦、朝日、平木
正門:谷本

4月11日(火) 西門:豊田、平野、出口
北門:衣笠、松英、小山
正門:野口

4月12日(水) 西門:早瀬、曾我部、野村
北門:北住、馬淵、榊原
正門:竹田

4月13日(木) 西門:池内、柳井、今城
北門:石井、皆本、田中
正門:河村

4月14日(金) 西門:タベシ、中川、檀上
北門:吉川、佐藤、桑田
正門:高橋

業務内容

「挨拶運動」

毎月2回程度朝8時15分から50分の間、正門、西門、北門に各1名のずつの教員が立って、登校学生全てに「おはようございます」の挨拶を必ず行う。学生1人1人の顔を覚えるようにする。

挨拶が中心であり、車両の細かな指導は別途行う。

ただし、交通マナーで危険な状況を見かけた場合には、適切に注意する。
また、正門からは徒歩及び専攻科生の許可車両のみで、自転車の乗り入れは西門から、バイクの乗り入れは北門から行うように注意する。

(出典：4月分登校指導依頼メール)

[2] 1, 2年生の茶髪、ピアスの指導の徹底

- (1) 教職員および担任への指導依頼
- (2) 指導結果の確認と指導ルールの徹底

指導ルールと定期的な学生委員会によるチェックを通して、指導に従わない学生を0にすることを目指す。

昨年度と同様の成果であった。100%の実施を目指すには教員の意識改革が必要である。クラスによって担任の対応の差が大きい状況があった。学生委員会への依頼は昨年度に比べて増加したが、学生委員会指導後も従わない学生が散見された。

[3] アルバイト指導の徹底

- (1) 教職員および担任への指導依頼
- (2) 指導結果の確認とフィードバック
- (3) 無届けに対する指導ルールの策定とその実施

上記(1)(2)(3)を通して、届け出数の倍増を図る。

昨年度と同様の成果であった。100%の実施を目指すには教員の意識改革が必要である。

[4] 各種届け出の提出の徹底

- (1) 免許取得願い、取得届と車両使用許可とをリンクした指導
- (2) 各種届け出の定期的な確認
- (3) 無届けに対する指導ルールの策定とその実施

上記(1)(2)(3)を通して、届け出数の倍増を図る。

(1) については、年度当初の担任連絡会で周知をはかり、今年度のバイク使用許可車はすべて届を提出した。

(2) については学生委員の担当者を決めた。

(3) については、学生委員会で議論を重ねたが、指導ルールを確定するにはいかなかった。結果的には、届け出数の増加は認められなかった。

[5] 共用施設の利用ルールの徹底

- (1) 利用ルールの周知
- (2) 定期的な施設の点検

上記(1)(2)を通して、不適切な使用を0にするよう努力する。

学生委員の担当者を決め、周知と点検をはかったが、男子ロッカー室の汚れや女子ロッカー室での喫煙などの不適切な使用があった。

[6] 盗難防止対策

- (1) 貴重品の管理の徹底
- (2) 自転車盗難対策の徹底
- (3) 平成 16 年度に作成した盗難防止対策の励行
- (4) 盗難届提出の指導を徹底する。

上記(1)(2)(3)(4)を通して、盗難数の半減を図る。

上記対策の結果、教室での盗難件数は減少したが、寮内での盗難が頻発した。また、少し減少したとはいえ自転車の盗難も跡を絶たなかった。

[7] 学生の服装を含む身だしなみ、および食べ歩き、ポイ捨てなどの対策

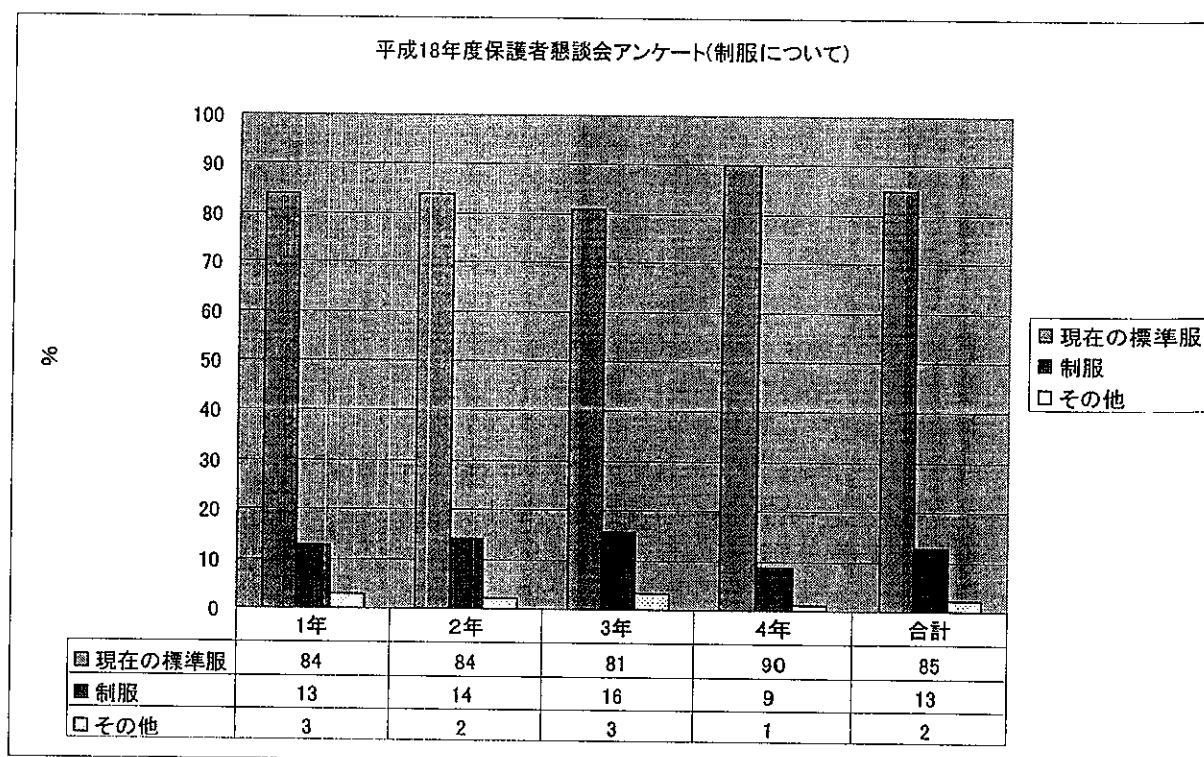
- (1) 制服の検討

- 保護者及び学生アンケート、他校での状況調査などを通して行う。
- (2) 身だしなみの具体的な指導項目の作成とその教職員への指導依頼
学生委員会で具体的な指導項目を作成する。

制服については、夏休み前の保護者懇談会でアンケート調査を行った。アンケート結果はほぼ80%が現在の標準服を支持していた(学生委員会資料2.1.[7].1)。また、秋田高専による全国高専の制服調査の結果も参考にして検討した。おしゃれのために他校の制服を着用する、スカートが必要以上に短くするなどの問題点も指摘され、保護者の意見とは別に制服にすべきとの意見も、学生、教職員から出てきた。そこで、今年度については本校で指定する標準服の着用をすすめることとし、本格的な検討は学生の意見も聞きながら来年度実施することとした。

身だしなみの具体的な指導項目については、学生委員会で議論はしたものの具体的に作成することはできなかった。

(学生委員会資料2.1.[7].1)



(出典：学生委員会資料「平成18年度保護者懇談会アンケート集計結果」)

[8] 交通マナー(自転車の二人乗りなど)

- (1) 自転車、バイク、乗用車などの指定場所以外での駐輪、駐車禁止の徹底
ポスター、掲示、教職員への指導依頼によって行う。
- (2) 違反車両に対する指導のルール化とその実行

効果的な指導ルールを学生委員会で検討する。

(3) 安全運転について

バイク通学許可者に対して、二輪車安全運転講習会の受講を義務づけることによって行う。

(1) については、指定場所以外での駐輪を積極的に注意するよう教職員に依頼し、昨年度に比べると違反者が減少したが、クラブ活動での指定場所以外での駐輪や校内売店周辺での違反が見られた。

乗用車の校内乗り入れについては、試験期間を中心に学生委員による指導を行ったが、指導のない時には乗り入れてくるなど、昨年度に比べて違反者が増加した。

二輪車安全運転講習会を本年度も実施した。通学時での自己等の報告はなかったが、長期休暇中や休日を中心に入院を要するような交通事故が例年より多く報告された。

[9] 喫煙対策

(1) 喫煙者に対する個別指導の導入

喫煙で過去に指導した学生の状況調査を行い、それを通して指導を行う。

(2) 禁煙外来指導の徹底

喫煙指導を行う際、指導する。

(3) 禁煙教材を利用した禁煙指導の導入

禁煙推進の会愛媛で作成した教材を用いて、担任に指導を依頼する。

上記の対策を行ったにもかかわらず、寮生を中心として多数の喫煙指導者があった。今年度、校則違反等で指導した学生はのべ51名にのぼり、そのうち39名が喫煙であった。前年度まではなかった警察での情報収集によるものが13名、寮での居室チェック等によるものが15名と、昨年度までは見過ごされていたものが多数あった(学生委員会資料2. 1. [9].1)。

(学生委員会資料2. 1. [9].1)											
平成18年度指導学生種類別人数											
種類別人数	人 数	寮	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	教 員	警 察	寮 外	部
喫煙	39	17	6	13	8	9	2	12	13	15	
万引き	3	2	2	0		1			3		
占有離脱物横領	3	3		2		1			3		
飲酒	1	1		1							1
飲酒幫助	1	1		0			1				1
迷惑行為	2	0		2					2		
不正行為	1	0		0	1			1			
窃盗	1	0		1					1		
合計	51	24	8	19	9	11	3	13	20	15	2

(出典：学生委員会資料)

[10] 学生に対する健康維持活動の実施

(1) 学生相談室と連携した広報活動の実施

保健だよりと学生相談室だよりを連携して発行する。

(2) 低学年に対する血液検査の実施の継続

昨年に引き続き、今年度も上記(1)(2)を実施した(学生委員会資料2. 1. [10].1)(学生委員会資料2. 1. [10].2)。低学年における食育についても担任を中心に検討を始めた。

(学生委員会資料2. 1. [10].1)

平成18年度血液検査結果表

記

受検者	未受検者	異常なし	異常値内訳			事後措置
			貧血	肝臓	その他	再検指導
40	1	38	0	2	0	2
40	1	36	1	2	1	4
45	0	40	0	1	4	5
39	0	35	3	1	0	4
41	2	35	1	5	0	6
205	4	184	5	11	5	21

受検者	未受検者	異常なし	異常値内訳			事後措置
			貧血	肝臓	その他	再検指導
38	5	30	0	7	1	8
42	0	40	0	1	1	2

44	2	36	3	4	1	8
37	2	33	2	2	0	4
37	0	31	0	6	0	6
198	9	170	5	20	3	28

受検者	未受検者	異常なし	異常値内訳			事後措置
			貧血	肝臓	その他	再検指導
10	0	9	0	1	0	1
10	0	10	0	0	0	0
6	0	6	0	0	0	0
26	0	25	0	1	0	1

(出典：学生委員会資料)

学生相談室だより

平成 18 年 9 月

夏休みも終わり、もうすぐ前期末試験がはじまります。まだ、夏休み気分が抜けてない人はいませんか？はやく気持ちを切り換えましょう。

これまで暑かった気温も少しずつですが低くなり、過ごしやすくなりましたが、急激な気温の変化には気をつけ、風邪をひかないよう、規則正しい生活を続けましょう。

夏休み中のさまざまな事件より

今治では、いじめを苦に中学生になったばかりの生徒が自殺するという悲しいニュースが全国に放映されました。また、つい最近、山口県の徳山高専で、なんと学校の中で5年生の女子学生が絞殺されるという事件も報じられました。現時点では真相は不明ですが、同級生の男性に逮捕状が出されたと報じられています。同級生間での殺人など、信じられないことですが、いったいどうしたのでしょうか？

1. 命を大切に、 2. 一人で悩まずに、 3. 周りの人に相談を。

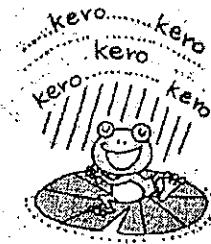
あらためて説明するまでもなく命は大切なものです。でも、このような事件を起こす人は、命を大切に思っていないのではと疑われても仕方ありません。皆さんは、どうか、命を大切にしてください。また、この前の相談室だよりにもあったように、友人とのコミュニケーションを大切に、それでも悩み事があれば、一人で悩まず、友達や担任の先生に相談してみましょう。また、相談室には専門のカウンセラーの先生も待機されています。

気軽に来室してください。

学生相談室は尚友会館1階保健室の奥にあります。学外カウンセラーとして待機していただいている先生方は、第3木曜日 16時から明石先生、毎週水曜日 17時30分から、守屋先生、週に2回月曜日と火曜日の16時から高橋先生です。また、そのほか校内にも各学科に学生相談員の先生が居ます。

電子制御工学科相談員 栗原義武
(出典 学生相談室だより 平成18年度)

ほけんだより



VDT 症候群

VDT とは、Visual Display Terminal の略でパソコンのモニターやテレビ、ポータブルゲーム、携帯電話などのディスプレイのことをいいます。

VDT 症候群とは、VDT を見る作業をすることによって起こる、さまざまな健康被害のことをいいます。

VDT 作業による身体への負担

VDT を注視し、キーボードやマウスなどを操作する作業を長時間した結果、首、肩、腕、手などの上半身の筋肉が緊張して、疲労を招きやすくなります。

また、視線がディスプレイ、キーボード、書類などの間を頻繁に移動するので、目のピント合わせに負担がかかり、眼精疲労が起こりやすくなります。さらに操作しながら情報処理スピードや、高度な判断を要求されるので、精神的な疲労も招きやすくなります。



主な症状

★ 目の症状

ドライアイ、目の疲れ、視力低下、かすみ、物が二重に見えるなど

★ 運動機能の症状

肩こり、首の痛み、手・指のしびれ、腰痛、頭痛、背筋痛など

(出典：学生委員会資料)

2.2 課外活動の活性化

[1] チャレンジプロジェクト、ロボコン、プロコンなどの企画への支援システム

(1) 広報活動の徹底

(2) 関連した情報の積極的な収集とその提供

担当の学生委員を決めて、企画立案、実行する。

上記 (1) (2) を積極的に推進し、チャレンジプロジェクトでは昨年度の 2 件の応募から今年度は 6 件の応募に増加した(学生委員会資料 2. 2. [1].1)。ロボコンでは全国大会への出場はできなかったものの技術レベルの向上がはかれた。プロコンでは全国大会の自由部門で初の入賞をはたした(学生委員会資料 2. 2. [1].2)。また、初めて参加したデザインコンペティションではブリッジコンテスト部門で最優秀賞を初出場受賞した(学生委員会資料 2. 2. [1].3)。

(学生委員会資料 2. 2. [1].1)

チャレンジプロジェクトの実績

平成 15 年度 4 件

内訳

(1) 禁煙推進プロジェクト:

世界禁煙デーに関連した松山市大街道での禁煙PRデモに自作のぬいぐるみなどを作って参加。校内での禁煙活動(学生、教職員へのアンケート調査など)(学生6名、教官2名)

(2) ソーラーボート

ソーラーボートを製作して、福岡県柳川市で毎年開催されるソーラーボート大会へ参加

(学生10名、教官3名)

(3) ITボランティア活動

ITを利用した国際会議IEARN(淡路島で開催)の運営の手伝いボランティア

(学生6名、教官2名)

(4) ガラス細工教室

障害者を対象としたガラス細工教室の開催(学生6名、教官2名)

平成16年度 2件

内訳

(1) ソーラーボート

ソーラーボートを製作して、福岡県柳川市で毎年開催されるソーラーボート大会へ参加

(学生10名、教員3名)

(2) 幼児対象手品、奇術ボランティア(学生10名、教員2名)

平成17年度 2件

内訳

(1) トリコン

琵琶湖で毎年行われるとり人間コンテストへの参加(学生15名、教員3名)

(2) 子供向け手品、奇術福祉公演(学生10名、教員2名)

平成18年度 6件

内訳

(1) 高専打ち水大作戦2006(1次募集)

学内外に対して環境への関心を高めるための企画(学生20名、教員1名)

(2) 高専ソコジカラ(1次募集)

文化系部活動・愛好会による地域参加型イベントの企画(学生5名、教員1名)

(3) 「環境日本ーエコエネルギーコンテスト」ソーラーカー部門への参加(2次募集)

山梨県で11月19日に開催されるエコエネルギーを活用した技術・アイデアを競うコンテストへの参加(学生6名、教員1名)

(4) トリコン2007(追加募集、11月末締め切り)

琵琶湖で毎年行われるとり人間コンテストへの参加(学生10名、教員2名)

(5) マスコットロボット「ロボ太」の製作(追加募集、11月末締め切り)

新居浜高専PR用の縄跳びをするロボットの製作(学生19名、教員1名)

(6) 手品奇術ボランティア公演(追加募集、11月末締め切り)

手品を通じた地域へのボランティア活動を企画(学生6名、教員3名)

(出典：学生委員会資料を編集)

(学生委員会資料2. 2. [1].2)

プロコン本戦結果

【課題部門】

佳作

宇宙へ

—SORAHE—

新居浜高専

【自由部門】

審査委員特別賞

Blog☆Stars

新居浜高専

【競技部門】

一回戦（フル対戦）

試合番号	順位	チーム	勝点合計	総マス差	総物体差	総消費時間
6	1	広島新船高専	4	8	9	5:54:00
	2	徳山高専	1	-6	-9	5:56:06
7	1	茨城高専	4	4	16	6:44:04
	2	富山高専	1	-4	-16	6:06:09
8	1	久留米高専	3	3	10	6:07:02
	2	新居浜高専	3	-3	10	5:55:07
9	1	都立産業技術高専品川	6	6	5	5:45:07
	2	阿南高専	0	-6	5	6:07:01
10	1	沖縄高専	6	3	11	5:54:08
	2	大分高専	1	-3	-11	6:10:01

敗者復活戦（ハーフ対戦）

対戦	順位	チーム	勝点合計	総マス差	総物体差	総消費時間
R-2	1	阿南高専	6	9	16	5:56:03
	2	神戸市立高専	6	6	16	5:48:09
	3	富山高専	6	6	4	5:41:04
	4	新居浜高専	0	-4	3	5:58:06
	5	北九州高専	0	-5	-25	5:51:08
	6	大分高専	0	-12	-14	6:05:05

(出典 18年度公式HPより)

第3回全国高等専門学校デザインコンペティション大会結果一覧

構造デザインコンペティション				
受賞名	高专名	学科名	学生名()内は学年	作品名
最優秀賞・文部科学大臣賞	新潟県工業高等専門学校	機械工学科	村上友洋(5) 高橋直太(5)	Marvel of Art
優秀賞・日刊建設工業新聞社賞	松江工業高等専門学校	土木工学科	三野誠也(5) 宮野雅也(5) 近藤広和(5)	大蛇～OROCHI～
優秀賞	米子工業高等専門学校	建築学科	坂根海嗣(5) 坂本亮(5) 藤田尚志(5) 松本菜都美(5) 竹田義平(4)	砂丘と大山と汗とペダルと
佳作	播磨工業高等専門学校	環境都市工学科	大坂拓也(5) 鎌谷道人(5) 木村祐子(5) 高野安恵(5) 山口公平(5)	Trapezoid
	秋田工業高等専門学校	環境都市工学科	工藤静香(3) 渡辺美子(3) 荒木田桂那(3)	繪木内橋
	明石工業高等専門学校	建築学科	滝内琢二(4) 杉本正太(4) 権池寛平(4) 山崎幸宏(4) 河西孝平(4)	〇〇ツ丸見え

(出典：大会公式 HP より)

[2] 学内コンテストの実施とその参加への呼びかけ

- (1) 文化系クラブのコンテストを通しての作品発表の奨励
- (2) 読書感想文その他の学内コンテストへの学生会を通しての支援
担当の学生委員を決めて、企画立案、実行する。

昨年に引き続き、ロボコン、プロコンの学内予選を実施し、昨年の2倍以上の応募があった。また、ロボコンのアイデアについては300件を超える応募があった。デザインコンペティションでも校内予選を行うことができた(学生委員会資料2. 2. [2].1)。

ロボコンアイデア二次審査結果

学生委員会ロボコン担当
平成18年 6月16日

6月2日(金)に発表された1次選考通過メンバーに対する2次選考会が6月9日(金)に行われました。試験初日であるにもかかわらず、多数の学生の皆さんならびに教職員の方々にお集まりいただき有難うございました。2次選考会においては、各学科教員で構成する審査員により選考を行いました。その結果、以下の3チームが選ばれました。該当チームは本校代表としてアイデアを提出する資格を得ましたのでお知らせします。選考された以下のチームは後日表彰します。

記

最優秀賞 クローラーⅡ

○4D森本 雄大、石川 誠也、4E森川 裕一

優秀賞 クローラー

○5D首藤 将貴、4D石川 誠也、4E森川 裕一

優秀賞 レール

○4D村上 廣太、3M福山 育也、3Z楠橋 陽教

○印は代表者

-参考1-

今回の応募数・アイデア数は以下のとおりでした。

	1次選考通過	応募数	アイデア数	
全学年	3	12	197	
1年	0	0	104	別途評価
2年	0	0	41	別途評価
合計	3	12	342	

-参考2-

すべてのアイデア342件におけるオブジェランキングは以下のとおりです。

1位	みかん
2位	タオル
3位	鯛
4位	鯛
5位	太鼓、船
その他	紙、トイレットペーパー、瓦、真珠、団子、木、菓子、パン、魚、ホタテ、橋、野球ボール、ちりめん、カツ丼、砥部焼、たこ、キウイ、伊予牛、ひめライス、坊ちゃん、しまなみ海道、マンダリンパイレーツ、伯方の塩、ポンジュース、ペンギン

-参考3-

以下の5つの項目について3段階で評価し、その合計で評価しました。

	A	B	C
○ 独創性	3点	2点	1点
○ 技術的レベル	3点	2点	1点
○ 実現性	3点	2点	1点
○ 発展性	3点	2点	1点
○ 発表に対する印象	3点	2点	1点

審査員構成	
M	2名
E	4名
D	3名
C	1名
Z	1名
合計	11名

デザコンアイデア審査結果

学生委員会デザコン担当
平成18年 7月14日

平成18年度デザインコンペティション(デザコン)出場のための学内アイデア発表会および選考会が7月10日(月)に行われました。多数の学生の皆さんならびに教職員の方々にお集まりいただき有難うございました。選考会においては、各学科教員で構成する審査員により選考を行いました。その結果、以下の2チームが選ばれました。該当チームは本校代表としてアイデアを提出する資格を得ましたのでお知らせします。選考された以下のチームは後日表彰します。

記

最優秀賞 メガネ橋

機械工学科5年 日越 栄雄、八十島 啓介

優秀賞 The marvel of art (人工の驚異)

機械工学科5年 村上 友洋、高橋 良太

-参考1-

今回の応募数・アイデア数は以下のとおりでした。

	応募数	アイデア数
本科生	2	2
専攻科生	4	4
合計	6	6

-参考2-

以下の5つの項目について3段階で評価し、その合計で評価しました。

	A	B	C
○ デザイン	3点	2点	1点
○ 技術的レベル	3点	2点	1点
○ 実現性	3点	2点	1点
○ 発展性	3点	2点	1点
○ 発表に対する印象	3点	2点	1点

審査員構成	
M	2名
E	2名
Z	1名
非常勤	1名
合計	6名

プロコンアイデア学内審査結果

学生委員会プロコン担当
平成18年 5月23日

5月15日（月）の学内締切り日までに応募があったアイデアに対する学内選考会が5月18日（木）に行われました。各学科教員で構成する審査員により選考を行いましたので、その結果を発表します。なお、すでに出場が決定してる競技部門は内容紹介という形で発表していただき、審査対象外としました。

本選考会の結果、課題部門、自由部門において以下のそれぞれ2チームが選ばれました。該当チームは本校代表として出場する資格を得ましたのでお知らせします。選考された以下のチームは後日表彰します。

記

【課題部門】

最優秀賞 「宇宙へ」

○5D佐伯 貴大、縄田 怜也、4D堀本 武志、渡部 宣幸、3D村上 卓

優秀賞 「My Picture Book Card」

○1-2E篠原 慧伍、1-3D佐々木 崇人、1-4E近藤 文彦、2D松木 一晃

【自由部門】

最優秀賞 「ブログの星」

○5D弓山 彬、稲井 弘次郎、4D高橋 克弥、鈴木 達哉、徳永 匠

優秀賞 「X線CT像による中皮腫解析プログラム」

○5E森本 恭平、4Eチャン クワン (TRAN QUANG)

-参考1-

今回の応募数・アイデア数は以下のとおりでした。

	応募数	アイデア数
課題部門	3	5
自由部門	2	14
合計	5	19

-参考2-

以下の5つの項目について3段階で評価し、その合計で評価しました。

	A	B	C
○ 独創性	3点	2点	1点
○ 技術的レベル	3点	2点	1点
○ 実現性	3点	2点	1点
○ 発展性	3点	2点	1点
○ 発表に対する印象	3点	2点	1点

審査員構成	
M	2名
E	2名
D	1名
C	1名
Z	1名
合計	7名

(出典：学生委員会資料)

[3] 課外活動のPRの奨励

- (1) ホームページを通しての PR 活動の支援
- (2) 活動内容の積極的な広報活動の支援

掲示板の積極的な活用を促進する。

学生会を通して上記活動と呼びかけた。クラブ参加者は昨年より少し増加した。

[4] 部活リーダー研修の実施

(1)救命救急講習会の実施

(2)リーダー研修会の実施

担当の学生委員を決めて、企画立案、実行する。

上記(1)(2)ともそれぞれ1回ずつ実施することができた(学生委員会資料2.2. [4].1)。

クラブ活動リーダー研修会資料

H18.7.11

雷対策について

(1) 導体で囲まれた空間（これを安全空間と言います）にできるだけ早く避難する。

安全空間の具体的な例としては、屋根のある自動車、建物の中などがあります。

(2) 屋外で雷に遭ったときには、送電線の下を通して、できるだけ早く安全空間に避難する。（送電線には電線を保護するために上部に避雷針に相当する導線が張ってあります）

(3) 何もないときにはできるだけ低い姿勢をとって、安全空間に避難する。

(4) 背の高い樹木や屋内の電気設備や配線からはできるだけ離れる。

(5) 雷の兆候に注意する。

(a) 雷鳴が聞こえる。

(b) 入道雲がもくもくと成長する。

(c) 上空が黒雲でおおわれる。

(d) 突風が吹く。

(e) 大粒の雨あるいはあられが降り出す。

(6) 先端がとがっていて、自分より高い位置で使うもの（傘、野球のバット、ゴルフクラブ、釣り竿など）は身につけない。

※以前は金属製の装身具を身につけると危険であると言われていましたが、現在ではこれは落雷の危険性を高めるものではないことが確かめられています。

落雷被害にあったとき

(1) 呼吸・脈拍を調べ、停止しているときにはただちに心配蘇生法を施し、回復するまで続ける。

(2) 呼吸・脈拍はあるが、意識がないときには、気道確保（頭を下げて、気道を広げる）して、救急車を待つ。

第一回 リーダー研修会

～クラブリーダーとしてのクラブ運営～

学生委員会

目的

- ・クラブ活動における安全管理体制の部員への周知
- ・クラブリーダーとしての役割の再確認

内容

(1)クラブリーダーとして

<活動面>

- ・誰よりも率先して行動しよう。有言実行のリーダーとなろう
- ・部員全体の状況を把握し、全体をまとめることを意識しよう
- ・用具の整理、整頓、後かたづけの指導
- ・使用施設の清掃、後かたづけの指導
- ・顧問の先生とよく連絡を取り合い、お互いギブアンドテイクで協力体制をつくること

<事務处理的な面>

- ・提出書類の取りまとめ、必要経費の収集
- ・各種連絡事項の周知
- ・月間練習計画の遵守
- ・年間目標、計画及び月間練習計画の立て方
- ・クラブ安全管理室への活動終了報告の厳守

(2)活動中の安全管理について

- ・緊急連絡先
- ・AEDの使用
- ・熱中症の対処
- ・アイシングの方法
- ・テーピングの巻き方
- ・雷時の対応

など

雷対策について

- (1) 導体で囲まれた空間（これを安全空間と言います）にできるだけ早く避難する。
安全空間の具体的な例としては、屋根のある自動車、建物の中などがあります。
- (2) 屋外で雷に遭ったときには、送電線の下を通過して、できるだけ早く安全空間に避難する。（送電線には電線を保護するために上部に避雷針に相当する導線が張ってあります）
- (3) 何も無いときにはできるだけ低い姿勢をとって、安全空間に避難する。

(4) 背の高い樹木や屋内の電気設備や配線からはできるだけ離れる。

(5) 雷の兆候に注意する。

(a) 雷鳴が聞こえる。

(b) 入道雲がもくもくと成長する。

(c) 上空が黒雲でおおわれる。

(d) 突風が吹く。

(e) 大粒の雨あるいはあられが降り出す。

(6) 先端がとがっていて、自分より高い位置で使うもの（傘、野球のバット、ゴルフクラブ、釣り竿など）は身につけない。

※以前は金属製の装身具を身につけると危険と言われていましたが、現在ではこれは落雷の危険性を高めるものではないことが確かめられています。

落雷被害にあったとき

(1) 呼吸・脈拍を調べ、停止しているときにはただちに心配蘇生法を施し、回復するまで続ける。

(2) 呼吸・脈拍はあるが、意識がないときには、気道確保（頭を下げて、気道を広げる）して、救急車を待つ。

リーダー研修会実施報告

下記の通り、学生会役員リーダー研修会およびクラブ活動リーダー研修会を実施しましたので報告します。

学生会役員リーダー研修

日時：平成19年3月1日（木）16：10－17：10

場所：教職員連絡コーナー南

参加者：新学生会役員（10名）、チャレンジプロジェクト報告者、西井、谷本

内容：チャレンジプロジェクト報告2件

「トリコン2007」

「手品奇術ボランティア公演」

学生会役員との話し合い

四国地区高等専門学校学生会交流会（3月26日、弓削）について

来年度行っていくこと

来年度学生会行事について（特に国領祭）

クラブ活動リーダー研修に向けて

クラブ活動リーダー研修

日時：平成19年3月5日（月）16：10－17：00

場所：階段教室

参加者：部・同好会・愛好会責任者（欠席：ワンダーフォーゲル、水泳部（学生会に連絡あり）、自転車愛好会、自動車愛好会）、学生会役員、檀上、尾西、谷本、安藤、今城、埴田

内容：学生委員会から

新年度クラブ指導教員について（クラブ指導教員一覧配布）

クラブリーダーとして心がけること、知っておくべきこと（資料配付）

学生会から

クラブ予算について

書類提出について

部活・愛好会・同好会の廃部について

※ 部活・愛好会・同好会の廃部については、学生会とも話し合い、検討する必要がある。

※ 月間活動計画表（新様式）については、そのファイルを教員に送付する必要がある。

（出典：学生委員会資料）

[5] 学生会活動の活性化

（1）学生会および国領祭担当教員の設置

（2）学級会、代議員会の有効活用

（3）学生委員会と学生会との交流会の開催

（4）学生会へ校門挨拶運動の実施を依頼

（5）リーダー研修の実施

（7）校歌の校内放送の継続依頼

担当の学生委員を決めて、企画立案、実行する。

（2）を除いてすべてを実施することができた（学生委員会資料2. 2. [4].1）（学生委員会資料2. 2. [5].1）。（2）については学生会を通して依頼をしてきたが、残念ながらうまく活用できたとは言いがたい状況であった。このことは、学生委員会との懇談を通して次期学生会に改善を依頼した。

（学生委員会資料2. 2. [5].1）

平成18年度学生と学校との交流懇談会要旨

日	時	平成19年2月14日（水）16時10分～19時10分
場	所	第2会議室
出席者	【学校関係者】	
	校 長，教務主事（代理：吉川），学生主事，寮務主事， 専攻科長，西井教員（学生会担当） 事務部長，総務課長，学生課長	
	【学生会・寮生会】	
	学生会長	5 D 石 川 和 樹
	風紀委員長	5 E 古 田 将 空
	次期学生会長	4 D 白 石 泰 大
	次期副会長	3 M 峯 原 将 志

〃	3 D 戸 田 美 里
寮生会長	5 E 日 野 洋 介
副会長	5 C 岡 田 舞
〃	4 C 森 野 智 仁

進 行 岡山学生課長

懇談会要旨

1 開会

教職員及び学生の紹介の後、学生課長から本懇談会の進行について説明があった。

2 校長あいさつ

校長から、あいさつ及び本懇談会の趣旨について説明があった。

3 前回懇談会での提案事項に対する学校の取組みについて

平成17年度の本懇談会における主な提案事項に対する学校の取り組みについて、教務委員会、学生委員会、寮務委員会及び専攻科から、それぞれ資料に基づき報告があった。

4 学生会の取組みについて

学生会長から、平成18年度における学生会の取組みについて、資料に基づき報告があった。

なお、学校側から、学生会新聞について教職員にも配布してほしい旨要望があった。

5 寮生会の取組みについて

寮生会長から、平成18年度における寮生会の取組みについて、資料に基づき報告があった。

6 学生会からの提案について

(1) 新入生歓迎オリエンテーション

学校行事、学生会行事やクラブ紹介などを、SHR等を利用して紹介する。

(2) 卒業式第2部

卒業式後のパーティで、卒業生の思い出の写真などをスライドで紹介する。

(3) 「高専ソコヂカラ」を学生会の行事とし、運営、経費の補助等を行う。

(4) 「よさこい」への参加

高知高専との学生会交流の一環として行いたい。

(5) 体育祭の実施

現在はクラスマッチしか行っていないが、運動会のような形式で全員が参加できるような体育祭を計画中である。

【学校側】

種目などを考えて、全員が楽しく参加できるような行事にしてほしい。とりまえずは現行のクラスマッチの中で改善を考えてほしい。

(6) イルミネーションを盛大にし、点灯式を行う。本館玄関前の樹木のところにプラグを付けてほしい。

【学校側】

単に金をかけて盛大にするのではなく、身近な材料をもとに自分達で工夫し高専生らしいものづくりを中心とした手作りのイベントを考えてほしい。

(7) セタイイベント、バレンタインイベントの実施

(8) 昼休みに楽しい放送の実施

(9) 環境美化活動（市民一斉清掃への参加など）

【学校側】

ボランティア活動全般への取組も行ってもらいたい。

(10) 風紀活動

今年度も実施したが、校門での低学年に対する茶髪、ピアスの指導を継続して行う。

【学校側】

学生委員会、学級担任等と連携して行ってほしい。

(11) 防犯の呼びかけ

学生会としてポスターの作成、掲示など防犯活動を行いたい。

【学校側】

非常にいい試みであるので、是非実行してほしい。

7 学生会からの要望について

(1) 学生会行事に参加しない学生への罰則

【学校側】

罰則を考えるだけではなく、普段から学生会活動を活発にして、学生全員の意識向上を図ってほしい。例えば、定期学生大会の議題等については事前に各クラスに周知し、それについてあらかじめ議論をしてもらうなどすれば、学生全員が内容を把握でき、意識も向上できるのではないかな。

学生委員会においても検討したい。

(2) 学校側で施設の建設や修復の案が出たとき、学生の意見を聞いたり告知したりしてほしい。

【学校側】

時間的なこともあり、事前に告知できないこともあるが、できる限り早く告知できるよう努力したい。

(3) 第2体育館のトイレを男女別に

【学校側】

グラウンドへのトイレの設置は予算的に難しいので、第2体育館のトイレを外から利用できるよう検討している。男女別にするには予算措置が必要であり、今すぐというわけにはいかないが検討していきたい。

(4) 制度を変えるときには、学生の意見を聞いたり告知したりしてほしい。

【学校側】

現在、学修単位の導入を検討している。学修単位の考え方や実施科目については、できる限り早く周知できるよう努力したい。

【学生会】

学生としては、案の段階でもいいから教えてほしい。

【学校側】

すべてのプロセスをとるわけにはいかないが、可能な部分については告知していきたい。

(5) 時間割の改善（パソコンを使用する授業が重なるとフリーズする。）

【学校側】

情報教育委員会で、サーバーの交換など対策を行っている。

(6) 教員は、オフィスアワーの時間は部屋にいてほしい。

【学校側】

オフィスアワーの時間は在室しておくよう教員に徹底したい。また、急用など

のときは研究室に掲示し、いつ頃帰るかわかるように配慮したい。

(7) 携帯用のサイト作成やメール配信を行ってほしい。

【学校側】

現在も台風の時など、教務主事、学生課長は、深夜、早朝に出勤しサイト作成の備態勢を取っている。すべての情報に対応するのは時間的、技術的に難しいが、できるものについては努力したい。

(8) 風紀指導を行ってほしい。

【学校側】

現在も、担任と学生委員会が協力し、指導している。まだ、不十分な点もあるので後も改善したい。

(9) 土日に学校施設を利用できるようにしてほしい。

【学校側】

学校として施設の管理に責任がある。空いているからといって自由に使用しにくいというわけにはいかない。教職員の当番をおくことについては、教職員の勤務時間の問題があるので、現状以上の対応は無理である。

8 寮生会からの提案等について

(1) 環境委員会を中心にして、学寮の環境対策を徹底していく。(土足の排除、風呂掃屑底、共用部分の清掃の徹底など)

【学校側】

現在、土足については無くなっているようであるが、共用部分の隅などに絨こりが溜まっている状況があるので、改善してほしい。

(2) 生活委員を中心として寮食堂でのマナーの向上に努める。

【学校側】

食堂だけでなく、日常生活におけるすべてのマナーを向上させてほしい。

(3) 低学年や女子寮生とよく意見交換をし、寮行事に活かしていく。

(4) 随時改善点(小さいことでも)を見つけて、迅速に改善していく。

【学校側】

点呼時間外に外出している者を多数見かける。寮生会で議論して点呼時間外外出をなくすよう努力してほしい。

今年度、指導した学生のうち半数近くが寮生である。寮生の規範意識を向上せるよう努めてほしい。(学生委員会)

9 校長あいさつ

校長から、今後とも学生と教職員が協力しあい、キャンパス全体が、学びやすい場、住やすい場になるよう、継続して話し合っていきたいことなど、閉会のあいさつがあった。

10 閉会

[6] 文化部活動の活性化

(1) 発表機会の増加

(2) 良い作品の表彰

担当の学生委員を決めて、企画立案、実行する。

ブラスバンド部を中心に、美術、写真、演劇、奇術、ダンスなどの発表会を新居浜市市民文化センターで2回行うことができた。また、この活動には学生会も積極的な支援を行った(学生委員会資料2. 2. [6].1)。

コンテスト等で優秀な成績を上げた作品の学内展示を行うとともに、コンテスト等で優秀な成績をおさめた学生を終業式や卒業式で表彰した。

◇文化系部活のコンサート「高専ソコヂカラ」を開催しました。

7月24日(月)に新居浜市市民文化センターにおいて、本校の文化系部活・愛好会が結集して合同コンサートを行いました。題して『高専ソコヂカラ』プロジェクトと呼んでいます。これは、普段発表の機会が少なく秋まで練習をさぼりがちな文化系の学生が危機感を抱き、イベントを開催して自分たちに目標を設定し、技量をあげる努力をしよう！と自分たちで思い立ち推進してきたイベントです。チャレンジプロジェクトにも応募し、認定をされました。参加団体は、ブラスバンド、奇術愛好会、演劇愛好会、ダンス愛好会、美術部、写真部です。バックアップとして学生会も参加してくれました。合同コンサートを無事終えて、冬には第2回目を企画しよう！と、学生たちは張り切っていました。

(出典:新居浜高専 メールマガジンVol.5 (2006.8.1))

来る2月12日(月・祝)に、新居浜市市民文化センター中ホールにおいて
第二回高専ソコヂカラを開催いたします。

今回から企画・運営などに学生会の協力を得まして、さらにパワーアップしました。出演者も総合文化祭以来、ますます腕を磨きはりきっておりますのでぜひご来場ください。

なお、入場は無料です。

プログラム:

2月12日

12時30分:開場

13:00 奇術 スタート(45分)

13:45 文化局紹介 学生会紹介

学生会によるよさこい踊り

トーク&マジック

演劇紹介

14:15 演劇 スタート

14:50 休憩 (10分)

ダンス紹介

15:00 ダンス スタート

ブラバン紹介

15:20 ブラバン スタート

[7] 学生と地域との交流の推進

(1) ボランティア活動の情報収集

ボランティア情報の収集を担当者を決めて行う。

(2) ボランティア活動の推進

(1)の情報に基づく、体系的な広報活動を行う。

新居浜市のボランティア支援組織からの情報を担任を通じて学生に周知した。また、本校のボランティア活動からの情報提供も行い、3件の外部からの依頼があった。

[8] 専攻科学生の広報活動支援(国領祭での発表機会など)

専攻科教育委員会と協力して行う。

国領祭で専攻科の活動を積極的に発表することができた。

○ 総括的な評価と課題

1. 評価

挨拶運動や学生の各種コンテストへの参加者の増大、自ら企画した市民文化センターでの発表、チャレンジプロジェクトの応募件数の増加など少しずつではあるが成果が着実に現れてきているものもあるが、身だしなみ、各種届け出、車両違反の指導については課題が残った。教職員へのさらなる学生指導の依頼と、組織的な対応が必要である。

2. 課題

- (1) より効果的な挨拶運動
- (2) 効果的な巡回指導
- (3) 盗難対策（特に自転車に対する）の徹底
- (4) 各種届け出の徹底
- (5) 学生のクラブ活動やチャレンジプロジェクト等への参加割合のさらなる増加
- (6) 車両違反、駐輪違反などの指導の徹底
- (7) 服装身だしなみ指導の基準作り
- (8) アルバイトや身だしなみに対する効果的な指導

◎寮務委員会

寮務主事 塚野 修

1. 平成18年度運営目標・方針

1. 1 寮生活の規則遵守指導

1. 2 学習支援

1. 3 寮内美化

2. 平成18年度実施計画

2. 1 寮規則遵守の徹底

[1] 違反者に対するきめ細かい指導

門限遅刻、門限後外出、持ち込み禁止品の持ち込み、居室の清掃・整頓、授業遅刻など多種多様な問題行動に対してできるだけ迅速に指導を行った。

[2] 年2回の個別評価と入寮継続審査の実施

全寮生の個別評価を行い、指導を行った。

[3] 寮務委員による棟別分担指導

委員による指導が不足し、十分に機能しなかった。

2. 2 学習支援

[1] 上級生による下級生に対する定期的な学習支援

9月から水曜日の21:30より約1時間程度、指導寮生会が低学年の学習を支援したが、前期末試験終了後以降参加寮生が減り、実施を休止した。

19年度には、5月くらいから開始して、年間を通じて実施したい。

2. 3 寮内美化

[1] 美化意識の向上と美化活動

従来より行ってきたことであるが、朝巡回で居室の清掃状況などをチェックをし、それに基づいて指導を行った。また、年度初期に、特に高学年寮での土足が発覚し、そのことから、意識改革を行った。その結果、美化意識が向上し、以降の土足は確認されていない。

[2] 共用部分の定期的な清掃の徹底

今年度は指導寮生会がチェックシートを作り、それに共用部分に関する清掃状況を書き込み、それに基づき、指導寮生からも指導を行う体制をとり、ある程度の効果をあげることができた。

2. 4 学寮保護者との連携

[1] 寮生保護者連絡会の実施（秋の授業公開日に設定）

10月21日（土）の授業参観日に連絡会を実施し、51名の寮生の保護者の参加を得て、今年度の学寮運営の説明や平成17年度の学寮運営費などの決

算・今年度の予算などの報告を行った。保護者からの要望も確認できた（寮務委員会参考資料：平成18年度学寮保護者連絡会まとめ）。

〔2〕学寮保護者との懇談会の実施（7月の保護者懇談日に設定）

7月8日（土）、9日（日）の保護者懇談会に併せて、寮務主事・主事補が待機して、39名の保護者との面談を行った。

2月3日（土）の保護者懇談会に併せて、寮務主事・主事補が待機して、11名の保護者との面談を行った。

2. 5 文化講演会などの文化活動

〔1〕留学生による文化講演会の実施

11月30日（木）に2年生対象に、マレーシアとベトナムの留学生が母国紹介を行い、懇親を深めた。年2回実施を予定したが、2回の実施はできなかったため、平成19年度は、もっと早い時期に第1回目を実施したい（寮務委員会資料2. 5. 〔1〕-1）。

寮務委員会資料2. 5. 〔1〕-1

平成18年度 第14回 寮務委員会 議事録

日時：平成18年11月16日（木）18:30～21:00

出席者：塚野（主事）、志賀（主事補）、多田（寮監）、

谷脇、先山、松友、西谷、井上、小野（学生生活支援係長）

司会：塚野

記録：谷脇

議題

● 第13回議事録確認

● 寮生情報

（中略）

● 朝巡回時の在寮生の指導

→ 残っている寮生を記録簿に記録して指導する

● その他

・ 留学生の母国紹介 → 11/30（木）21:30～

次回寮務委員会は 11/30（木）開催予定

（出典：平成18年度第14回運営会議資料 資料 No.8）

〔2〕 外部人材などによる講演会の実施

新居浜市労働福祉協議会による「マネートラブルにかつ！」と題した講演会を4年生以上の寮生を対象に行い、マネートラブルに巻き込まれない対応策が寮生に示された（寮務委員会資料2. 5. 〔1〕－1）。

寮務委員会資料2. 5. 〔2〕－1

◎マネートラブルに関する講演

平成19年2月8日（木）21時から4年生以上の寮生を対象としたマネートラブルに関する講演会（演題：「マネートラブルにかつ！」、講師：秋山真一氏、新居浜市社会福祉協議会）を視聴覚教室で実施した。



（講演会の一場面）

（出典：校報 第180号）

2. 6 各種コンテストの実施

〔1〕 寮歌の制作

できなかった。

〔2〕 ゴミ箱コンテストなどの各種コンテストの実施

できなかった。

2. 7 寮生の自主的活動の推進と支援

〔1〕 自治会との共同清掃の実施

5月14日（日）に地元の自治会と合同で地区の用水路の掃除や除草を行った。また、今年は国領川河川敷のゴミ拾いを3年生以上の高学年で実施した。

〔2〕 国領祭でのチャリティーバザーなどの慈善活動の実施

国領祭（11月11日（土）、12日（日））に実施し、収益金から運営費を引いた12万円をペシャワール会に寄付し、海外援助に寄与した（寮務委員会資料2. 7. 〔2〕－1）。

◎寮生会チャリティーバザー

平成 18 年 11 月 11 日（土）、12 日（日）の 2 日間に行われた第 41 回国領祭において、寮生会チャリティーバザーを管理棟玄関で行いました。収益金はペシャワール会に寄付しました。



（寮生会チャリティーバザー販売会場）

（出典：高専だより 第 92 号）

〔3〕 学校周辺清掃活動

5 月 14 日に近隣自治会に協力して実施した。

2. 8 学寮 PR 活動の充実

〔1〕 HP の充実

保護者向けの連絡や情報を適宜アップし、2 月にスタイルを一新した。

〔2〕 学寮紹介リーフレットなどの制作と発行

200 部作成して、学校訪問などで配布して、学生確保に貢献した（寮務委員会参考資料：学寮リーフレット）。

2. 9 施設改善のための調査・検討

〔1〕 居室の壁や備品（ベッド、ロッカー、本棚）

向陽寮のベッドの畳が古く痛んでいるので、更新した。

蛍雪寮、青雲寮の居室のカーテンが傷んでいるので更新した。

〔2〕 自習スペース

教育研究特別経費として予算要求した計画が認められず、改善が実施できなくなった。

〔3〕 補食室・談話室

古くなり、汚れ、傷みの激しくなったクロスの張り替えを行った。

尚友会館の食堂のテーブルとイスが更新されたのに伴い、古いテーブルとイスを受領し、補食室や談話室の古いものと入れ替え、古く傷んだものを廃棄

した（寮務委員会資料 2. 9. [3] - 1）。

寮務委員会資料 2. 9. [3] - 1

◎尚友会館食堂のテーブルとイスの搬入

尚友会館食堂のテーブルとイスの更新に伴い、これらテーブルとイスを平成 18 年 12 月 25 日（月）に学寮に搬入しました。



（搬入後の談話室の風景）

（出典：高専だより 第 92 号）

〔4〕第 2 浴室

使用者の数によってはシャワーの力が弱くなるという苦情があり、工事により改善をおこなった。

〔5〕蛍雪寮と青雲寮の洗濯室

1 フロアーに洗濯機と乾燥機が 1 セットしかないため、改善の検討を行ったが、その改善の方法を決定することができず、改善できなかった。

〔6〕居室のスチーム暖房時期の湿気・黴

湿気対策として除湿器を 10 台購入し、蛍雪寮、青雲寮、清風寮で活用した。

その他

火災防止のため補食室のガスコンロを IH クッキングヒーターに変更した。

蛍雪寮、青雲寮の居室、他棟の指導寮生室、雄風北 2 F 談話室、雄風南 1 F 談話室へのテレビ配線を行った。

寮食堂の厨房改善を行った。

寮食堂のトースターを更新した。

外部の不審者の入館を防止するためにすべての男子棟玄関にセンサーライトを設置した。

不審者の入館をチェックするためにすべての男子棟玄関に防犯カメラを設置する。

（現在工事中）

その他

特別残寮生に対する食事提供制度の導入

これまでは特別残寮生に対する寮食堂での食事提供は行われていなかったが、夏季休業中の特別残寮から食事提供を行うようにした。

インフルエンザの集団予防接種の実施

今年度の春にインフルエンザが寮内で流行したために、10月30日に50名の希望者に対して集団予防接種を行った（寮務委員会参考資料：校報179号）。

NHK松山放送局座談会および施設見学

高学年寮を中心にTV配線を行い、TVを視聴する寮生の受信料の支払いを行ったことから、NHK松山放送局から招待を受け、平成19年2月6日（火）に寮生10名と教職員6名が座談会と施設見学を行った（寮務委員会資料 その他2）。

寮務委員会資料 その他2

◎NHK ふれあいミーティング

平成19年1月30日（火）、寮生10名と教職員6名がNHK松山放送局でNHKふれあいミーティングに参加しました。このミーティングでは、視聴者である寮生からNHKへの疑問や意見・要望などが話し合われました。その後、放送局内の見学が行われました。



（NHKふれあいミーティング後の放送局内見学）

（出典：高専だより 第92号）

給食懇談会の2回の実施

3年契約に伴い、これまでの年1回行っていた給食業者と寮生との懇談会を年2回実施することとし、平成18年6月22日（木）と平成19年2月6日（火）に実施した。寮生から食事に関する要望などが出され、給食業者がそれに答えるという形式で懇談が行われ、給食業者はできるかぎり要望に応じていくと回答した。また、給食業者からは寮生の食事のマナーについての要望が出された（寮務委員会資料その他3）。

2007 年 2 月 8 日

新居浜工業高等専門学校 御中

株式会社メフォス

新居浜高専事業所

責任者 高橋 秀志

給食懇談会議事録および報告書

1. 日時・場所

2007 年 2 月 6 日(火) 16:10~17:10 学寮管理棟

2. 出席者

新居浜高専 : 職員、代表寮生

メフォス : 高橋、藤田、安藤

3. 協議内容

(1) 献立について

	課 題	対 応
①	夕食のおかずを考えてほしい。	現状の調理器具・配膳設備では、難しい現実があるが、できるだけおいしく喫食出来る様努力する、
②	御飯が硬い。	お米の水加減・蒸らし時間はかなり気を使っているが、大量調理での、お釜内での出来上がり差はどうすることもできないが、今まで以上に良いものを提供するように努力する。ただ、生徒の炊飯ジャーの蓋の閉め忘れにも気をつけて欲しい。
③	肉を多くして欲しい。	決められた予算内では、対応しかねる。
④	コーンポタージュが焦げ臭い。	おいしいものを提供するようにこれから気をつける。
⑤	スクランブルエッグをどうにかして欲しい。	学校給食法で 85℃1 分間の加熱が定められている為、半熟提供はできない。今後献立表示を炒り卵に変更する。
⑥	ロールキャベツが赤かった。	調理は 85℃1 分間以上加熱しているので喫食には問題ないと思われるが、気持ちよく食事をしていただくために、今後申し出があった場合は交換対応していきたい。

⑦	献立変更について。	掲示献立と提供献立が変更になる場合は、カウンター前に変更掲示を行うようにする。また、ミスプリントをなくす。
(2)その他の検討事項 コップがくさい。→ 学校側で今春購入予定。ただ、生徒も取り扱いに気をつける。 トースターの修理 → 新しいものに交換済み。 以上 (出典：寮食堂業者提出文書)		

寮食堂の試食制度導入

学寮保護者連絡会での保護者からの要望を受けて、試食制度を実施した。今年度の試食者は1名であった。

総括的な評価と課題

主目標の一つである寮生活の規則遵守指導については、できるだけ指導は行ったつもりであるが、問題行動は相変わらず減らなかった。最も大きな問題は、金銭や物品の盗難であり、警察の捜査を入れたこともあった。保護者からも我々の指導や方法に批判があった。これを受け、まずは、外部の不審者侵入対策の一つとして、すべての男子棟の玄関にセンサーライトと防犯カメラの設置を行った。門限後の無断外出や喫煙・たばこ所持、禁止物品の持ち込み、低学年の飲酒、遅刻登校などの問題行動もあり、モラルの低下が見られた。指導が後手に回ったという反省点がある。

学習支援に関しては、指導寮生の意気込みは強かったが、支援を受けようという低学年寮生が少なくなり、続かなかった。これについては、来年度の早い時期に開始して、年間を通じて実施したいと考えている。また、学習時間帯の学習不足の強化にも力を入れる予定である。

寮内美化に関しては、年度当初に高学年寮中心に土足が発覚したが、指導後は改善され、土足は確認されていない。3年生以上の棟で共用部分の清掃がおろそかになっている時もあり、また、居室の清掃に問題のある寮生も多く、指導に苦心したが、美化意識を植え付け、強化していく対策がまずは必要であるので、これを来年度の目標の一つにして、美しい生活環境の維持を目指していきたい。また、ゴミ分別の徹底も図っていきたい。

施設・設備の改善については、向陽寮のベッドの畳の更新、蛍雪寮と青雲寮の居室のカーテンの更新、男子棟の補食室や談話室のクロスの張り替え、火災防止のための補食室の

ガスコンロのIHクッキングヒーターへの変更、 蛍雪寮、青雲寮の居室、他の男子棟の指導寮生室、雄風北2F談話室、雄風南1F談話室へのテレビ配線などを行うことができた。

その他の改善として、特別残寮生に対する食事提供制度の導入、寮食堂の食事の試食制度の導入、インフルエンザの集団予防接種の実施、給食懇談会の年2回の実施などを新たに行った。

平成19年度の取組としては学習の徹底、寮内清掃とゴミ分別の徹底、読書推進、学校周辺清掃や地域応援団立ち上げなどによる地域貢献などを計画している。

◎広報・図書委員会

委員長 小山 一夫

1. 平成18年度運営目標・方針

広報では、広報マインドを全教職員に醸成するとともに、広報を一元管理し、新居浜工業高等専門学校を強くアピールする。広報対象に応じた効果的な広報に心がけ、マスコミ等に積極的に情報提供を行う。特に本年は入学志願者増に特化した広報活動を展開する。

図書では、図書利用教育の重要性を各教員に伝え、図書利用を教育の根幹に据え付け、全学生の図書館利用を習慣づけ、自学自習のための必須機能であることを植え付ける。そのため新入学生に対する導入教育に力点をおく。また、電子ジャーナルのいっそうの充実および教育への活用を図る。

(実施した内容とその成果)

効率化した委員会構成(教員委員はS(委員長)、M、E、C、Zの5名)で実施した。広報については、各部門の特に入試広報の活発化を側面からサポートするに留まった。

図書では、アクションプランを積極的に進め実行した。第1の数値目標である図書貸出冊数10冊/学生は6.5冊/学生程度となったが、昨年度よりは向上した。また、電子ジャーナルに関しては引き続き利用ジャーナル数を維持する一方、利用に関する教員・学生向けの講習会を実施するなどして利用拡大を図った。

2. 平成18年度実施計画

2. 1 ホームページ

ホームページ・トップページをユーザーを峻別し、有用な情報を発信するよう絶えず更新する。特に、中学生およびその保護者、中学校教員に対して積極的に高専のPR情報を発信し、入学志願者増につなげる。また、各リンクページについては上記方針のもと、積極的に改善提案をしてゆく。携帯サイトも設置する。

(実施した内容とその成果)

中学生およびその関係者向けに特化したページを意識し、情報発信を行った。

2. 2 学校案内およびその他印刷物

学校案内の編集方針を定め発刊する。その他広報関係印刷物について各主管元に改善提案してゆく。

(実施した内容とその成果)

学校案内は教務委員会主導の大幅改訂を行って発刊された。その他広報関係印刷物について適宜改善提案した。

2. 3 全般的な広報活動

中学校訪問、各中学校における中学3年生とその保護者に対する学校説明会等に対して各主管元に改善提案してゆく

(実施した内容とその成果)

各主管元の主導に対応して活動した。

2. 4 図書の活性化

H17年度末に策定したアクションプランに対応した以下の活動を行い、図書貸出冊数10冊／学生・年を目標として、実行する。

[1] 教員に対する図書館利用教育

教員研修会の実施

[2] 新入学生に対する図書館利用教育

図書館で「マニュアル」を作成し、新入生クラス担任に配布する。

新入生に対するオリエンテーションの実施（入学式直後）

特別活動を利用したガイダンス（入学後、～5月頃までに実施）

[3] 在校生（新入生を含む）に対する図書利用教育

ショートホームルームを利用した読書推進活動（クラス担任）

特別活動を利用した図書館での授業（各教員）

教科教育に、図書館利用を導く課題等を組み込む（各教員）

4年以上の学生に電子ジャーナルが利用できるよう指導する（各学科、広報・図書委員）

[4] 図書館行事の推進

読書感想文コンクールのリニューアル強化

ブックハンティングの継続

[5] 競争・表彰

クラス間競争により活性化促進、成果の顕彰を全学生に周知する。

（実施した内容とその成果）

図書の活性化を第1の目標に10冊／学生を数値目標に各項目を実施した（[1]に関しては昨年度末に実施）。アクションプランは次ページに掲載。

その結果、昨年度よりは上がったものの、6.5冊／程度の数値に留まった。

この状況をチェックし、さらなるプランを作成してよりいっそうの向上につなげたい。

図書館利用教育に関するアクションプラン

広報・図書委員会

1 教員に対する図書館利用教育

研修会の実施

・クラス担任を対象とする研修会を、広報・図書委員会委員会で早急に検討し実施する。

2 新入学生に対する図書館利用教育

図書館で「マニュアル」を作成し、広報・図書委員会で検討の上、新入生クラス担任に配布する。

(1) 新入生に対するオリエンテーションの実施（入学式直後）

・図書館の存在・位置・概略の説明し、気軽に利用出来る図書館であることをアピールする。（引率者・クラス担任・図書館）

(2) 特別活動を利用したガイダンス（入学後一定期間を置いて実施）

・図書館利用の意義・目的等、今後5年間の学生生活を送る上での重要性を認識させる。（クラス担任）

・図書館の利用の仕方・本の探し方等手続きの説明（図書館）

(3) 上記活動終了後は、2年次以降の学生と同様な教育を実施する。

3 2年生以降の学生に対する教育

(1) SHRを利用した読書推進活動（クラス担任）

・読書会、朗読会、学生による本紹介等

(2) 特別活動を利用した図書館での授業（各教員）

・図書館利用教育を取り入れ、不断の図書館利用を喚起する。

4 図書館行事の推進

・マナー傾向にある下記の行事の活性化を図る。

（詳細は、新年度実施に向けて広報・図書委員会で早急に検討する。）

(1) 読書感想文コンクール

・一般教養科との連携をさらに、図る。

・募集期間の確立

6月募集開始 9月上旬締め切り

（夏季休暇・ブックハンティングを考慮）

・課題図書・自由図書部門の設定等対象図書を検討する。

・募集開始をクラス担任から学生に周知し、応募意欲を喚起する。

（他高専の読書感想文を各クラスに配布する。）

・ブックハンティング参加者には、応募を義務付ける。

(2) 図書館ホームページ（読書感想文コンクールに並行して実施）

・募集期間

6月募集開始 9月上旬締め切り

・募集開始をクラス担任から学生に周知し、応募意欲を喚起する。

5 その他

(1) 教科教育に、図書館利用を導く課題等を組み込む。（各教員）

・シラバス参考書・推薦図書・指定図書の活用

(2) 4年以上の学生に電子ジャーナルが利用できるよう指導する。(各学科、広報・図書委員)

- ・学内研修会の外、専門業者による研修会の実施も検討する。
- ・広報・図書委員会と各学科(学科で担当者を1名選任)の協力を得て、実施に向けた検討を行う。

(3) クラス間の競争心を引き出すため、クラス別の利用状況を毎月グラフで掲示する。(図書館)

(4) 図書館活動の表彰を、終業式(該当が4年以下の場合、専攻科1年は新年度始業式、5年又専攻科2年は年度末までにホームルームで行う。)に行い、全学生に成果を顕彰する。(今年度から、実施)

(出典 図書館資料)

2. 5 研究成果の発信

年間業務成果報告、新紀要の発刊

(実施した内容とその成果)

年間業務成果報告、新紀要を発刊した。新紀要については編集に問題点が生じた。これをふまえ、来年度は体制、発行要領を改善してゆく。

2. 6 電子ジャーナルの推進

電子ジャーナルのいっそうの整備と利用拡大を図る

(実施した内容とその成果)

アクションプランにしたがった、学生・教員対象の電子ジャーナル利用講習会を実施した。

○ 総括的な評価と課題

当初設定目標に対して効率化運営でほぼ成し遂げたが、最大の目標である図書館利用向上は、改善傾向ではあったが設定目標には届かなかった。

◎環境保全委員会

委員長 谷 耕治

1. 平成 18 年度運営目標・方針 △

[1] 本校の環境目的・環境目標「環境教育・研究の推進、地球環境に対する負荷の低減と汚染の予防、地域社会との連携」に則り、①省資源・省エネ、②校内美化の推進、並びに③学生委員会・教務委員会・安全委員会との協力関係の継続を重点目標とする。
おおむね計画通り実施している。

2. 平成 18 年度実施計画

2.1 省資源、省エネ活動

[1] 再生紙の購入使用、原則としての両面印刷・両面コピーの励行、紙類の完全リサイクル、焼却の停止、機密書類のシュレッダー使用停止とリサイクルを引き続き推進する。
計画通り実施している。

[2] 文房具その他一括購入品のリサイクル商品への変換を継続する。
計画通り実施している。

[3] 電力使用量は増加傾向に歯止めがかかったが前年度よりも更に減少できるよう昼休み時間の消灯運動を開始する。

具体的に委員会が全学に向かって常にこのことを発信しているわけではない。ただし、今夏の猛暑にもかかわらず昨年度よりも電力消費量が低減した(施設係よりの報告)。なお総務課の内、旧会計課の部屋は昼休みの消灯を実行しているが、旧庶務係並びに学生課は昼休みにも来訪者があるため実施していない。

[4] ゴミ減量運動を継続する。具体的な減量策の提案を考える。

おおむね計画通り実施している。ゴミ袋にクラス名を書くようメールで依頼したが、なかなか実行してくれない。

2.2 校内美化の推進

[1] 毎日の HR 清掃を目標とする。

実施しているのは 1 クラスだけであった。

[2] 平成 18 年度は、全 HR に対して年間 3 回薬剤師による点検を行い、その他に環境保全委員による点検も開始する。

おおむね計画通り実施している。

[3] 学内の除草は年間計画を立て、同一場所を年間 5 回以上除草する。

おおむね計画通り実施している。

[4] 「ゴミを 1 つ拾おう運動」「草を 1 本抜こう」運動が認知されるよう努力する。

おおむね計画通り実施している。

2.3 廃棄物の処理

[1] 引き続き分別意識と分別率を高めるよう努力する。

おおむね計画通り実施している。

[2] 備品等の廃棄物は、今年度も適切な処理を続ける。

おおむね計画通り実施している。

2.4 学生委員会・教務委員会との協力関係の構築

[1] 環境問題に学生会が積極的に関われるよう協力する。

おおむね計画通り実施している。

[2] 清掃の時間を正規の時間割に組み込めないか、教務委員会に再度検討を申し込む。

正規の時間に組み込むためには全学生並びに全教職員が同一時間帯に清掃しなければならない。教室の場合 5～8 名で清掃可能である。残りの学生が遊ばないようにするためには校内全域に学生並びに教員が分散しなければならない。校内に分散するための移動時間等を考慮すると 30 分程度必要となる。また雨天の場合の対策等も考慮しなければならない。

○総合的な評価と課題

表面的には全ての項目で概ね計画通り実施されている。

HR の清掃は担任の意識が極端に異なり、良くできているクラスと全くできていないクラスの差が激しい。

HR の清掃状況の悪いクラスからは担任に改善計画を提出してもらっている。計画書は提出しても、実質改善しないクラスも多い。

◎人権擁護委員会

校長 水野 豊

1. 平成18年度運営目標

- 1.1 教職員及び学生に「すべての人間が人間として尊重され、自由・平等であり、差別されてはならない。」という人権意識の啓蒙を図る。

2. 平成18年度実施計画

- 2.1 人権意識の啓蒙を図るための活動を行う。

[1] 人権擁護啓発（法務局）におけるポスター掲示・パンフレット配布

- ・法務局から送付されたポスターを掲示するとともにパンフレットを配付し、人権意識の啓蒙を図った。

[2] 愛媛県「差別をなくする強化月間」におけるポスター掲示

- ・愛媛県から送付されたポスターを掲示した。

[3] 人権週間におけるポスター掲示・パンフレット配布

- ・「国家公務員」セクシャル・ハラスメント防止週間のポスターを掲示した。

[4] 講演会等の企画・立案

（人権擁護，同和問題，男女共同参画等のうちから実施）

- ・実施できなかった。

[5] 男女共同参画啓発におけるポスター掲示・パンフレット配布

- ・愛媛県から送付されたポスターを掲示するとともに、パンフレットを配付した。

[6] 学生の特別教育活動等における人権教育の推進

- ・平成19.1.19 人権講演会 1年生対象 講師：横山功大（元東中学校長）

[7] 研修会への出席

- ・平成18.8.24 公正採用選考・人事啓発研修 総務課長出席

総括的な評価と課題

外部の人権啓発養護機関からの働きかけに応じて、ポスターの掲示及び研修会への出席、また、校内活動にあっては、学生への講演会を開催し、啓蒙教育を実施した。しかし、全教職員、学生が完全に理解できているとは判断し難いため、引き続き活動を継続しなければならない。

◎ 安全衛生委員会

1. 平成18年度運営目標

1. 1 教職員の健康診断率100%を維持するため、健康管理に関する意識の啓発を図り、健康の保持に努める。
1. 2 校内安全パトロールを継続実施するとともに、17年度の実施状況を踏まえた安全対策について検討し、安全な職場環境の確保を図る。

2. 平成18年度実施計画

2. 1 教職員の健康管理

- [1] 年度当初の計画により、健康診断を実施する。
健康診断を、11月7日（火）、8日（水）に実施した。
- [2] 昨年に引き続き健康診断の受診率100%を達成するため、受診の徹底を図る。
人間ドックの受診者も含めて、全員が受信した。
- [3] 健康診断の結果を踏まえ、健康管理に関するパンフレットの配付、講演及び教職員対象の体力測定の実施により健康管理の啓蒙を図る。
講演は、月日（）講師 で実施したが、体力測定は、日程調整がつかず実施できなかった。しかし、健康診断の結果を産業医が分析し、教職員に対して個別に通知して健康管理について注意を喚起した。

2. 2 喫煙関係

- [1] 継続して敷地内全面禁煙を実施する。これに伴い、敷地内全面禁煙の広報を徹底し周知するとともに、学外からの来校者にも協力を要請する。
引き続き措置であるため教職員等は、了解済ではあるが、ポスター掲示による啓発を継続した。来校者に対しても、この措置を説明し、理解と協力を願った。
- [2] 産業医による禁煙相談など、喫煙者に対する禁煙支援を実施する。
年度途中で産業医が異動し、業務引継等のため時間が取れず、実施できなかった。
- [3] パンフレット、ポスター等による啓発活動を実施する。
勤労者医療、糖尿病教室のパンフレットを配付して、啓蒙した。

2. 3 教職員の安全管理

- [1] 安全マニュアルの活用を図る。
 - (1) 学生に対する安全管理教育という視点も含め、安全管理に関する啓発活動を実施する。
危険性又は有害性等の調査等に関する指針及び愛媛建設安全の日（愛媛労働局）等のパンフレットを配付して啓蒙した。

(2) 安全マニュアルの活用状況を調査し、一層の活用を図る。

未実施 × 再調査を実施する予定。

(3) 校内安全パトロールの実施を徹底する。特に、実験室、実習室を重点的に点検し、備品の転倒防止対策を実施する。

毎月、校内安全パトロールを実施し、安全確保に努めた。また、実験室等では、器具の配置場所の検討及び転倒防止金具の設置等より、対策を講じた。

総括的な評価と課題

・教職員の健康管理に関しては、健康診断の結果に基づいて個別に、留意改善事項を通知するなどきめ細かな対応がなされており、教職員も自らの健康管理に留意している。

・安全管理についても、定期的な校内パトロールの実施及び安全会議での協議等により、予防的措置も含めて、対応している。

・健康・安全に対する地道な諸対応を継続することにより、学校全体の安全と学生も含めた全員の健康を保たなければいけない。

◎情報セキュリティ委員会

委員長 檀上 光昭

1. 平成18年度運営目標・計画

1. 1 本校情報セキュリティポリシーの校内への周知

学内ホームページの学内限定情報におき、全ての教職員がいつでも参照できるようにしている。

1. 2 ウイルス対策の徹底

学内ギガビットネットワークセキュリティ補強システムの更新を年度末に行ない、その仕様の中にウイルス対策の検討も含めた。

学内ギガビットネットワークセキュリティ補強システム仕様書の調達の背景および目的
新居浜工業高等専門学校における学内ネットワークシステムは、平成14年度に、ギガビットキャンパスネットワークシステムとして整備されており、基幹部が1Gbpsのギガビットネットワーク、末端部が100Mbpsの通信速度でそれぞれ運用されている。このギガビットキャンパスネットワークシステムが導入されてから約5年が経過し、一部の機器で保守期間の終了が迫っているという問題が生じているとともに、導入当時にはそれほど問題にならなかったネットワーク上のさまざまな攻撃に対処する必要が生じている。

本調達の目的は、現在直面している学内ネットワーク上の諸問題を解消するため、老朽化した一部機器については、最新の機器に更新を行い、さらには、前年度に導入した情報教育用シンクライアントシステムの拡充、主として迷惑メール等の対策を目的としてアンチスパムアプライアンスを導入することにより情報セキュリティ面での強化を図ることにある。

本調達により導入するシステムを、学内ギガビットネットワークセキュリティ補強システムという。

1. 3 個人情報保護法との整合性に留意した情報の取扱いについて整理する。

1年生を対象とした情報リテラシーの授業のなかで周知を図った。

「情報リテラシー」シラバスより授業内容の抜粋

授業内容

9 セキュリティを守る技術1（認証とパスワード、暗号、アクセス制御とファイアウォールの動作例）

10 セキュリティを守る技術2（セキュリティホールとコンピュータウイルス）

1. 4 セキュリティポリシーの見直し

ネットワーク運用管理部門とともに検討を行なっているが、正式なポリシーの改定には至っていない。

1. 5 迷惑メール、不正コピーに対する対策の徹底

迷惑メールの送付先の受付停止、ファイアーウォールの更新などをおこ

なった。

2. 平成18年度実施計画

2. 1 本校情報セキュリティポリシーの校内への周知

- [1] インターネット上の分かりやすい情報源の紹介
メール、各部署責任者への依頼によって実施する。
- [2] 本校教職員と本校学生に対する情報セキュリティ教育の実施
メール、各部署責任者への依頼によって実施する。

上記 [1] [2] とも適宜、周知を図った。

2. 2 ウイルス対策の徹底

- [1] 最新のウイルス情報の提供
メール、各部署責任者への依頼によって実施する。

問題が提起されるたびに依頼して実施した。

- [2] 最新のOSへのアップデートを行うこと
メール、各部署責任者への依頼によって実施する。

OSの期限切れ等の情報をその都度連絡した。

- [3] ウィルス対策ソフトを最新の状態に保ち、定期的にウィルススキャンを行うこと。
メール、各部署責任者への依頼によって実施する。

ウイルス情報のたびに、情報提供をおこなった。

情報提供の電子メールの一例

From: *****@off.niihama-nct.ac.jp
To: admins@niihama-nct.ac.jp
Date: Wed, 14 Mar 2007 17:50:01 JST
Subject: 【重要】SymantecAntiVirus Corporate Edition Ver.10.2について
各科（課）ネットワーク管理者 宛て

この間、配ったVer.10.2ですがシマンテックのSAVCE
のWindows Vista対応に関してを読むと

SAVCE 10.2 は Windows Vista 専用のバージョンとして用意されています。
Windows 2000/XP/2003 をご使用のお客様は各OSに対応した最新バージョンをご使用
ください。

と書かれていましたのでVer.10.2はVista以外にはインストールしないで下さい。

(知らずに、XPにインストールしたけど特に問題はなかったけどなぁ～)

現在、以下のトラブルが発生していますのでVistaのCPU種類に注意して下さい。

Vista Home/CPU:Pentium 4 HTのパソコンにSAVCE 10.2をインストールしようとする
とプロセッサが対応していないというエラーメッセージが表示されてインストール
できません。

なお、Vista Business/CPU:Core(TM)2 Duoはインストールできました。
以上です。

2. 3 個人情報保護法との整合性に留意した情報の取扱いについて整理する。
担当者を決めて行う。

具体的に整理することはできなかった。

2. 4 セキュリティポリシーや実施手順の見直し
[1] 法人機構との整合性を図り、具体的な情報セキュリティポリシーの実施
方法を策定 ×
担当者を決めて行う。

具体的な方法を決めるまでにはいたらなかった。

2. 5 迷惑メール、不正コピーに対する対策の徹底
[1] 迷惑メールに対する受診拒否設定の徹底
情報教育センターネットワーク運用管理部門と協力して行う。

警察への連絡などを頻繁におこない、受診拒否を徹底したが、依然とし
て数は減ったものの迷惑メールが跡を絶たない状況であった。年度途中で
ネットワーク設備の更新が決まり、学内ギガビットネットワークセキュリ
ティ補強システムの仕様を策定し、迷惑メール対策装置を導入した。

愛媛県警サイバー犯罪対策室への電子メールによる連絡の一例

From: "EHIME POLICE HIGHTECH" <hightech@police.pref.ehime.jp>
To: <kurihara@ect.niihama-nct.ac.jp>
Subject: 愛媛県警サイバー犯罪対策室です。
Date: Fri, 21 Apr 2006 15:18:09 JST

愛媛県警サイバー犯罪対策室です。

情報提供ありがとうございました。

表示義務違反については、「特定電子メールの送信の適正化等に関する法律」に基づき、総務大臣の措置命令にあたる事から財団法人日本データ通信協会が情報の集約を行っておりますので、下記に情報提供のほど、よろしくお願いします。

財団法人日本データ通信協会

「特定電子メールの送信の適正化等に関する法律 に関わる情報提供窓口」

<http://www.dekyo.or.jp>

=====

愛媛県警察本部サイバー犯罪対策室

Tel 089-934-0110(内線3492)

=====

学内ギガビットネットワークセキュリティ補強システム仕様書より抜粋

2.1.4 スпам対策アプライアンス:2 台(冗長化構成)

- (1) 1U 以下であり、既存ラックに設置すること。
- (2) 冗長化構成（2 台構成）で、250 ユーザが使用可能なライセンスをバンドルしている製品であること。
- (3) スпам対策製品をバンドルしたアプライアンス製品であること
- (4) 主記憶容量は1GB 以上を備えていること。
- (5) ハードディスクドライブは、80GB 以上のドライブを2 基以上搭載し、RAID1 構成とすること。
- (6) 1000Base-T/100Base-TX に対応したネットワークインターフェイスを2 ポート以上有すること。
- (7) メール処理の送受信プロトコルとして、SMTP、ESMTP、Secure SMTP over TLS をサポートしていること。
- (8) メール処理能力を、120,000 メッセージ/時（15KB）有すること
- (9) キュー容量を10GB 以上備えていること。
- (10) メールアーカイブ用の容量を50GB 以上備えていること。ただし、スパム検疫(隔離) で使用することを目的とした場合には5GB 以上が有効であること。
- (11) ISP 等での導入実績のある製品であること。

〔2〕不正コピーの調査とそれに基づく防止対策の策定

学内での実態調査を行い、それに基づいて防止策を検討する。

不正コピーについては情報教育センターに調査を依頼した。学内への周知はかなり浸透してきている。

◎点検・評価運営委員会

校長 水野 豊

1. 平成18年度運営目標・方針

個性豊かな教育を実践するとともに、教育と研究の向上に努め、地域貢献にも努力する学校を目指すために必要とされる PDCA サイクルにおいて、アクションの基礎となる点検活動を充実するために、平成 19 年度に受審する機関別認証評価の評価項目や評価基準に沿った自己点検書の作成を行い、改善に役立てる。また、各種のアンケートを行い、その結果を教育と研究の改善に役立てる。

2. 平成18年度実施計画

2. 1 授業アンケート、勉学アンケートの実施

平成 17 年度に実施した授業アンケートと勉学アンケートの分析を行い、その結果を学生と教員にフィードバックし、さらなる改善を求める。

1 年生に対して勉学アンケートを行い、12月1日の1、2年生の主事講話でフィードバックをし、また、教員にも公表した。さらに、全学生に対しても別種の勉学アンケートを実施し、現在その集計ととりまとめを行っており、教員に公表される予定である。

授業アンケートについては、すべての授業のアンケートを実施し、集計し、担当教員がコメントをつけて、報告し、年度末の授業で、学生にフィードバックした。また、その集計結果とコメントは現在収集中で、各種アンケートの一つとして冊子としてまとめる予定である（参考資料 2. 1-1 授業アンケート、勉学アンケート）。

2. 2 保護者アンケート

授業参観日などに、授業や学校運営に関するアンケートを実施して、その結果を公表し、必要なら関係部署に対して改善を求める。

7月8日、9日の保護者懇談会で保護者に対して授業や学校運営に関するアンケートを実施した。その結果については、運営会議で報告され、また、新居浜高専だよりにも公表された（参考資料 2. 2-1 新居浜高専だより84号 pp.23-25）。

10月21日の授業参観日に参観者に授業などに関するアンケートを実施し、その結果は運営会議で報告され、学内に公表された（参考資料 2. 2-3 新居浜高専だより91号 pp.11-12）。

10月21日の授業参観日に学寮保護者連絡会を開催し、参加者に学寮運営などに関する意見を聴取し、その結果は学寮保護者に公表され、学寮運営改善に役立てた（参考資料 2. 2-4 平成18年度学寮保護者アンケートまとめ）。

2. 3 学生による担任アンケート

平成17年度に実施した学生による担任アンケートの結果を公表し、改善すべき事項についての情報を提供する。特に評価の低い担任には改善を求める。

年度末に担任アンケート実施を実施し、集計し、その結果を担当にフィードバックし、また、運営会議で公表した（参考資料 2. 3-1 平成18年度21回運営会議 資料 No 16 平成18年度担任アンケート）。

2. 4 各種委員会などが実施したアンケートの取り組み

点検評価委員会が平成14年3月に卒業した卒業生に対し、高専機構が卒業校の教育や運営に関するアンケートを実施したが、本校はそれに独自の設問を追加して、アンケートを行った。35名から回答があり、集計を行い、その結果を教員会にて発表した。また、その結果をアンケート集に入れることにしている（参考資料 2. 4-1 平成18年度実施卒業生アンケートまとめ）。

2. 5 各部門の実施状況の取り組み

各部門が年度目標や計画を達成するためにおこなった実施内容を取り纏め、点検を行う。

学校運営目標・計画と教育改善推進計画に基づいた実施状況について報告を求め、それを実施状況報告書としてまとめ、また、それに、今年度実施の各種アンケートの結果と総括を追加し、自己点検書として、平成19年度当初にまとめる予定である（参考資料 2. 5-1 平成18年度学校運営目標・計画の実施状況、教育改善推進計画の実施状況）。

2. 6 各部門の計画の実施進捗状況の年度途中での把握と実施の促進

各部門の計画の実施状況を前期末に把握して、未実施の事項についての実施促進をおこなう。

平成18年9月24日に10月5日の期限で中間報告の提出を求め、その結果を冊子にして、教員会で配布するとともに、各担当部署が報告・説明した。また、未実施項目に関する改善計画書の提出を求めて、改善点の自己確認と早期の改善を促した（資料 2. 6-1 平成18年度学校運営目標・計画の実施状況、教育改善推進計画の実施状況の中間報告）。

2. 7 平成17年度実施内容の自己点検書の作成

平成17年度に実施した内容に関する自己点検書を作成して、次年度以降の改善に役立てる。

平成19年度に実施される機関別認証評価の自己評価書の質問項目に基づいた点検を行い、10月に自己評価書を作成し、学内および学外に公表した。また、2月22日の運営諮問会議の資料としても提出した（参考資料 2. 4-1 平成18年度運営諮問

会議）。

2. 8 教育・研究・事務に関する情報の収集

教育や研究などの情報を収集し、データベース化し、学校運営や点検評価に役立てる。

5月に各部署に依頼し、適宜データの更新を行っている。

総括的な評価と課題

授業アンケート、勉学アンケートを実施し、結果を学生と教員にフィードバックした。その集計結果とコメントは現在収集中で、各種アンケートの一つとして冊子としてまとめる予定である。平成17年度に実施した学生による担任アンケートの結果を学内に公表し、改善すべき事項についての情報を提供した。特に評価の低い担任には改善を求めた。今年度についても担任アンケートを年度末に実施し、その結果を担任にフィードバックし、学内に公表した。

保護者懇談会、授業参観日、学寮保護者連絡会などにおいて保護者アンケートを行い、授業や学校運営に関する意見を求め、その結果を学内に公表した、また、する予定である。

自己点検に関しては、平成17年度の学校運営や教育研究活動などについて自己点検を行い、遅れはしたものの、自己評価書にまとめた。次年度以降の改善計画を十分に検討し、策定するためにもう少し早く作成する必要がある。今年度分については、中間報告を経て、現在学校運営目標・計画と教育改善推進計画の実施状況の提出を求めている、各種アンケート類ともあわせた形で自己点検書を作成すべく準備を進めている。

◎学校改革推進室

校長 水野 豊

1. 平成18年度運営目標

次の事項について、機動的、効率的に審議し、学校改革を推進する。

2. 平成18年度実施計画

2. 1 学校運営目標計画及び教育改善計画の審議・調整

○ 学校運営目標計画について

4月に平成18年度第1回学校改革推進室会議を開催し、各学科・各委員会等より提出のあった「学校運営目標計画」について、「平成17年度学校運営目標計画の実施状況報告」及び「平成18年度学校運営重点推進目標」の内容を踏まえて見直しを行い修正することとした。

○ 教育改善推進計画について

4月に平成18年度第1回学校改革推進室会議を開催し、各学科等より提出のあった「教育改善推進計画」についても上記「学校運営目標計画」と同様に、「平成17年度学校運営目標計画の実施状況報告」及び「平成18年度学校運営重点推進目標」の内容を踏まえて見直しを行い修正することとした。

2. 2 学校の中期計画の見直しの審議

12月に平成18年度第4回学校改革推進室会議を開催し、「次期中期計画に向けた発掘戦略の検討（素案）」に基づいて、本校でも現在の中期目標、計画を検証し、今後何を指すべきか検討することとし、教務主事が中心となりワーキンググループを組織して、焦点を絞って検討していくこととなった。

主な検討すべきポイントは次のとおりである。

- ・ 環境材料工学科の実施計画
- ・ 入学志願者増対策、教育内容・方法の充実策
- ・ 地域共同教育の展開、外部資金導入策や産学連携の推進方策
- ・ 学科減、改組などへの対応の必要性の是非
- ・ 学生に夢を与え、希望を持たせるキャリア教育の充実

2. 3 教員の業績評価に関する制度改善に関する調査・審議

○ 検討すべき問題点・課題

- ・ 肩書き評価になりがちである。（取組みに対して、内容で評価できているか）
- ・ 教員の相互評価に客観性があるか。（かたよりがちである）
- ・ 取組み事項の間での「ものさし（ウェイト）」は妥当か。
- ・ 1つのことを十分に行った場合と色んなことに取り組んだ場合の評価に差はないか。
- ・ 評価項目と評価者は適切か。

○ 今後の活動予定

- ・ 現状の自己報告書と相互評価とのウェイトなど、評価項目間の比重を見直す。
- ・ 相互評価において評価者の見直しを行う。（極周囲の人で客観的（内容的）に評価できる人を設定する）

- ・ 総合評価制を検討する。（自己報告書に基づく面談を行い調整する）・・・評価に対して納得してもらう。
- ・ 報告書や相互評価書などの作成における効率化を図る。
- ・ 評価システムの周知を図る。（アンケート調査も含めて）

2. 4 入学選抜制度の改善に関する調査・審議

○ 平成19年度入試に向けて

- ・ 入試会場の増設・・・推薦選抜会場として松山会場を増設した。学力選抜会場として県外2会場（三好、福山）を増設した。
- ・ 推薦選抜については、推薦枠（35%→40%）、推薦基準（5科目平均4.0→3.8、数学・理科平均5.0→4.5、その他の条件はなし）を見直した。
- ・ 学力選抜については、第3志望学科の拡大を行った。
- ・ 中学校からの要望に応じて、調査書のダウンロード化を行った。

○ 今年度の活動と今後の予定

- ・ 学校説明会用資料としてCD及びリーフレット、近隣中学校用と遠隔地用の2種を作成した。
- ・ 国領祭に「入試相談窓口の開設」や「科展示を中心としたミニ見学会」を実施した。
- ・ 推薦選抜の実施に向け、面接員（人数）の事前打合せを実施した。
- ・ 出前講座を今後は、押し売りのように実施する。
- ・ 学科別志願者の情報を得るための活動を検討する。

2. 5 国際交流協定・短期海外研修に関する調査・審議及び実施の基本計画の策定

○ 国際交流協定

8月27日より上海教育国際交流協会のご支援を得て、新居浜高専と同年代の学生を教育している上海電機学院、および、上海電力学院を訪問した。両校において、お互いの実情を紹介し合うと共に、教育の改善に向けて率直な意見交換をおこなった。現時点において、いずれの学校とも国際交流協定の締結を検討するに至っていないが、上海電力学院からは新居浜高専からの訪問団受入への快諾を得る等、交流のステップは着実に前進している。

○ 短期海外研修

国際化の時代への関心を高揚すると共に、語学や歴史・文化に係わる科目の学習への動機付けをはかるため、上海電力学院、上海夏普(シャープ)電器有限公司および近郊の観光地ほかを訪問する短期海外研修を企画した。この研修においては、中国の伝統文化や現在の上海の発展状況を知ると共に、現地に進出した日本企業関係者から国際ビジネスの現状や製造現場の状況等について講話を得るほか、中国人従業員との意見交換や上海電力学院生を加えた市内の班別自由行動等を行って相互理解を深める等、高専生に相応しい計画とした。本計画は学校改革推進室での審議を経た後、本科生21名、専攻科生4名、引率教員2名の参加により、平成19年3月8日（木）出発、3泊4日の日程で実施され、好評のうちに所期の目的を達成することができた。

2. 6 高専間・大学間連携に関する調査・審議

○ これまでの主な交流事業

- ・ 四国地区高専との連携、交流事業に伴う「特別講義」（弓削丸による洋上授業（弓削商船高専））

- ・ 四国地区高専共通試験
- ・ インターンシップ（愛媛大学）
- ・ ものづくりフェスタ in 松山（愛媛大学）
- ・ 四国地区高専体育大会・総合文化祭
- ・ 四国地区高専教科別FD研修会
- ・ 四国地区高専学生会リーダー研修会
- ・ 中四国専攻科生研究交流会
- ・ 愛媛大学との連携推進運営委員会の開催

○ 今年度の活動と今後の予定

- ・ 平成19年度本科学力選抜会場の共同開催（阿南高専）
- ・ 親子フェスタへテーマ参加（愛媛大学理学部）
- ・ 留学生交流（総合文化祭時に四国地区高専、愛媛大学）
- ・ 単位互換の科目の創設（愛媛大学）
- ・ 愛媛大学との連携推進運営委員会を本校で開催予定
- ・ 今後は、上記各事業の改善と定着化等を進める。
- ・ 現状の維持だけでなく、新たな取組み事業があれば、実施に向けた検討を行う。

2. 7 その他高専教育改革の重要事項の調査・審議

○ 材料工学科の名称変更

- ・ 名称変更という形であるが、この機会に教育内容・方法を時代の進展にあうように改善を加えることが大切であり、改組に取り組むくらいの意欲で取り組んでほしいという助言を、学校改革推進室より行った。
- ・ 対外的には、学科名の名称変更を積極的にPRして、入学志願者数の増大に務めることとなった。

○ 学習単位の導入

- ・ ワーキンググループによる導入科目の選定のガイドライン、評価方法、記録シート（学生用、教員用）などについて検討を行った。
- ・ 平成18年度試行科目を設定し、その実施状況や導入の可否・問題点等について教員会で報告した。
- ・ 平成19年度から、4年生、5年生の英語関係と専門科目を学修単位科目として導入することを決めた。

○ 制服、携帯電話規制のあり方

- ・ 制服についての保護者アンケート結果が示され、現状肯定が多数を占めているとの報告が行われた。また、服装指導について通学生と寮生は同一であるべきとの助言を、学校改革推進室より行った。
- ・ 携帯電話規制については、学校として校内への持ち込み禁止の対策も考えられるが、一律に持ち込み禁止とするのではなく、校内での使用ルール作りを進めることとなった。

◎ 総括的な評価と課題

入試関連については、ほぼ予定通り実施できた。今後、平成20年度の入試に向けて、本年度以上の結果が維持できるように、平成19年度から新たに組織する広報推進本部を中心に取組んでいく必要がある。中期計画の見直しについては、

本年度はワーキンググループを組織したのみで終わっている。中期計画の進捗状況を分析するとともに、年次計画にブレークダウンした取組み、また、次期中期計画の策定にも着手していく必要がある。教員の業績評価に関する制度改善については、本年度は課題・問題点の抽出のみで終わっている。平成19年度には、具体的な評価システムの確立を目指した検討が必要である。国際交流に関しては、本年度の海外短期研修の試行は予定通り実施できた。平成19年度には2カ所での試行実施を計画している。今回の研修結果を踏まえて、より良い研修となるよう、平成19年度から新たに組織する国際交流推進室を中心に検討していく必要がある。また、留学生の受入れや本校学生の留学支援などについても組織的な取組みについて検討する必要がある。

◎ J A B E E 推進室

校長 水野 豊

1. 平成 18 年度運営目標・方針

JABEE プログラムの継続的な改善を推進し、技術者教育の質の向上を図る。

2. 平成 18 年度実施計画

2. 1 JABEE プログラムの教育改善の推進

- [1] 各 JABEE プログラム(生産工学プログラム、システムデザイン工学プログラム、生物応用化学プログラム)の立案した平成 18 年度教育改善推進計画を審議する。

第 1 回 JABEE 推進室会議において、各プログラムの活動計画について審議し、各プログラムの活動計画の見直しを実施した(JABEE 推進室資料 2. 1. [1]—1)。

- [2] 各プログラムの年度計画に基づいた教育改善活動状況を把握し、進行状況を管理する。

各プログラムの JABEE 審査結果の指摘事項への対応状況、教育改善推進計画の進捗状況及び今後の予定について報告を受け、進捗状況を把握するとともに、実施状況が不十分な事項を指摘し、教育改善活動を推進した(JABEE 推進室資料 2. 1. [2]—1)。

2. 2 各 JABEE プログラムの連絡調整

- [1] プログラム間の共通事項に関する事項を調整し、必要に応じ関連委員会等での検討を依頼する。

学修単位の導入による学習保証時間の問題及び達成目標の評価方法等の各プログラム共通課題についての検討を依頼した。また、各プログラムの優れた取り組みを参考にしながら互いに調整を図りつつ改善を進めるように依頼した(JABEE 推進室資料 2. 1. [1]—1)。

JABEE 推進室会議
平成 18.10.19
資料番号 1

平成 18 年度第 1 回 JABEE 推進室会議議事概要 (案)

日 時：平成 18 年 4 月 19 日 (水) 16 時 10 分 ～ 18 時 00 分
場 所：教職員連絡コーナー南
出席者：校長、副校長、事務部長、専攻科長、専攻主任 (3)、川崎、谷本
陪席者 (総務課長補佐、総務企画係長)

議 事

◎ 議事概要の確認

平成 17 年度第 5 回 JABEE 推進室会議議事概要 (案) について、原案どおり確認された。続いて校長から、資料 5 に基づき、専攻科の共通課題の検討や継続的改善を図るために設置された JABEE 推進室の設置目的、任務、位置付け等について、説明があった。

◎ 議題

- 1 各プログラムの受審後の対応状況について
- 2 平成 18 年度の活動計画について

各専攻主任から、資料 2、4 に基づき、各プログラムの受審後の対応状況について委員会活動を中心に説明があり、また、関連して平成 18 年度の活動計画について各々説明があった。

活動計画に関しては、次のような質問、提案等があった。各専攻主任は、これらも参考にして、平成 18 年度の教育改善推進計画について見直し、修正等を行い、4 月 20 日 17 時までに、総務課へ提出することとなった。

- ・各プログラムは、優れた取組を参考にしながら互いに調整を図りつつ改善を進めるとよい。
- ・教育改善委員会の下にある 3 委員会の活動範囲は、各プログラムとも一致しているように調整に努力してほしい。
- ・JABEE に直接関係する事項に限らず、プログラムに関連する学科及び専攻が取り組もうとしていることも反映させて良い。
- ・専攻科学生室に学習目標を掲示するなどの工夫も大切である。
- ・学修単位の導入と関連して、学習保障時間等の観点からの検討も必要である。
- ・本科と専攻科の関連の見直しも行わなければならない。
- ・学習目標や科目ごとの到達目標を実現するためにはシラバス等の検討と併せて、ハード、ソフト両面にわたる学習支援の在り方を検討することが必要である。

- ・自学自習を支援する教材開発にも取り組んでほしい。

配付資料

- 1 平成 17 年度第 5 回 JABEE 推進室会議議事概要 (案)
- 2 教育改善実施状況報告 (各プログラム)
- 3 JABEE 推進室平成 18 年度運営目標・方針
- 4 平成 18 年度活動計画 (各プログラム)
- 5 JABEE 推進室設置要項

以 上

平成 18 年度第 2 回 J A B E E 推進室会議議題

日時： 平成 18 年 10 月 19 日（木）16 時 40 分～
場所： 第 2 会議室

◎ 議事概要の確認

平成 18 年度第 1 回 J A B E E 推進室会議議事概要（案）（資料 1）

◎ 議 題

- 1 最終審査結果（平成 18 年 5 月 8 日付け）の指摘事項への対応状況について（資料 2）
- 2 平成 18 年度の教育改善推進計画の進捗状況及び今後の予定について（資料 3）

配付資料

- 1 平成 18 年度第 1 回 J A B E E 推進室会議議事概要（案）
- 2 最終審査結果の指摘事項への対応状況
- 3 平成 18 年度の教育改善推進計画の進捗状況及び今後の予定

（出典：平成 18 年度第 1 回 JABEE 推進室会議議題）

総括的な評価と課題

JABEE プログラムの教育改善の推進については、各プログラムの活動計画を審議し、その活動状況を把握し、取組みについて指示した。各 JABEE プログラムの連絡調整については、各プログラム共通事項の検討の依頼を行ったが、その進捗状況等のフォローアップが十分に実施できなかった点が課題である。

◎学生相談室

室長 今城 英二

1. 平成 18 年度運営目標・計画

学生がより豊かで充実した学生生活を実現できるよう、保護者・学級担任と連携を取り学生支援を行う。

2. 平成 18 年度実施計画

2. 1 学生相談の充実

[1] 学外相談員による相談（平成 18 年度学生相談室年報 3 頁）

3 名の学外相談員各々の特性に合わせた相談が実施された。

[2] 学内相談員による相談

相談内容に応じて、学級担任や学外相談員と連携を取りカウンセリングを実施した。

2. 2 学生相談体制の拡充

[1] 学内相談員・教職員の資質向上

教員会において学外研修会の報告や、愛媛大学より講師を招き学内研修会を実施した。また、学内相談員の情報交換会を適宜行い資質向上に努めた。（平成 18 年度学生相談室年報）

[2] 心身の健康に関する情報・資料収集・提供等の充実

学外研修会等で情報・資料収集を行い教員会や情報交換会に提供した。

2. 3 学級担任との連携・支援

学級担任や学科主任の依頼で相談を実施し、関係教職員による懇談会を行い必要な情報や方針を共有する等、連携支援を行った。

2. 4 学生相談室の広報

新入生に学生相談室案内を配布し、学外カウンセラーによる「カウンセリングとは」という 1 年生講話を実施した。さらに「学生相談室だより」を発行し、一層の広報を行った。

（平成 18 年度学生相談室年報 9 頁・28 頁）

○ 総括的な評価と課題

学生相談は多種多様化、また深刻になってきており専門科に頼る部分が多くなってきているが、相談に来る学生の支援はできているといえる。昨年度に引き続き学生相談室の広報に重点を置き、気軽に相談できる体制づくりを目指したが、実際にはなかなか相談に来ることができないようである。1 年生に実施したアンケートによると、学生相談室の存在や各学科に相談員がいることを知らないという学生が予想以上に多かった。今後、もっと早い段階で具体的な情報提供を行い学生相談の重要性についての理解を得ることが必要であると感じた。

また、教職員の研修を積極的に進め、資質向上を図り、学生が安心して相談できる環境づくりが重要であると思っている。

◎事務部

事務部長 柳 野 友 栄

1. 平成18年度目標

1. 1 情報の共有化を図るとともに二課体制への移行に伴い、業務処理の改善、効率化を目指す。

1. 2 施設、設備の有効利用化や事務の合理化などを図り、運営経費の縮減に努める。

2. 平成18年度実施計画

2. 1 業務処理の改善、効率化

[1] 各課のチーム制を更に充実させ、業務分担を弾力化し、繁閑に応じた支援体制を強化すると共に、幅広い業務処理能力を培う。

業務改善、効率化及び弾力化について全般にわたって検討中であるが、点検・評価事務については、他係と連携する等、実施可能な業務から開始している。

[2] 情報の共有化及び全学的事務の掌握のため、部課長事務連絡会、係長会等を更に充実させる。

毎週月曜日の9時から部課長事務連絡会を開催し、相互に情報交換、協力依頼等を行い、学校全般にわたって円滑な事務処理に努めている。また、課内周知及び打合せにより、情報の共有化を徹底している。

2. 2 S D等研修の実施

[1] H P、パワーポイント等の研修を引き続き実施し、広報、プレゼンテーション能力を高める。

7月20日(木)～21日(金)に、全職員を対象として、パワーポイントについての研修を行い、プレゼンテーション能力を高める基礎固めを行った。

[2] 民間経営者による講演会を実施し、民間的発想も取り入れ、業務の効率化に努める。

7月7日の愛テクフォーラム総会において 黄金井達夫氏の講演(丸鋸で直線が切れるか)を聴講し、ユニークな発想方法を学んだ。これらも参考として、業務の効率化を地道に歩んでいく。

[3] 技術職員に対する研究を奨励し、研究成果発表会を開催する。

8月23日～25日に、国立大学等法人技術職員研修(愛大)が開催され、が研究成果を発表した。また、弓削商船高専での、四国地区高専技術職員研修・技術発表会では、伊藤潤一技術職員が発表した。

2. 3 事務サービスの向上

[1] 各種の情報をメール等により迅速に関係者に提供すると共に、事務の簡素化も図る。

各種の情報をメール等で周知するとともに、各係が業務についての必要事項をそのホームページ上に掲載する等、事務の省力化、簡素化、迅速化に向けて対応中である。

[2] 事務部各課の総括的な評価を行い、PDCAのサイクルに載せ、改善を継続する。

* 進行中 △

[3] 事務組織の効率化と業務の見直しにより、管理経費の節減に努め高専機構の定める縮減計画を達成する。

各課職員に業務効率化について説明を行い実施を促し、平成19年度からの業務効率化の検討を行って、高専機構の節減計画の達成に努めている。

2. 4 事務部各課の詳細な業務目標

別紙のとおり

平成18年度総務課運営目標

1. 地域との連携に関すること。
 - ・本校の3本柱である教育、研究、地域連携の推進のため組織の充実を図る。
環境材料工学科への学科名称変更、愛テクフォーラム総会・部会、地域連携係の新設
 - ・愛テクフォーラムの活性化のために卒業生との連携を深め組織作りを行う。
国領祭期間中、卒業生と学生・教職員の交流コーナーを設けた。
 - ・愛テクフォーラムの活動状況を発信し、専門部会の成果を公開する。
愛テクフォーラムニュースを発行し、会員企業へ情報発信した。また、「海南eタイムズ」紙への掲載により、県内購読者へ発進出来た。
 - ・共同研究、受託研究契約のサポート、工業技術懇談会等高専の地域に向けた情報発信をより効果的に行う。
企業への公開講座、メルマガでの発信、愛媛ITフェア、四電グループフェスタへの出展。科学技術シンポジウム、工業技術懇談会、教テクフォーラム等の開催情報をメディアに依頼するとともに個別ルートで情報を発信して、案内に努めた。
 - ・シンボルロボ・アイデアコンテスト入賞作品の製品化を開始する。
卒研の課題に取り上げて製品化に向けて検討を開始し、具体的に進めた。
 - ・都市エリア産学官連携推進事業のサポート活動をする。
サポート連絡会議による支援を筆頭に、コーディネータと連携し随時サポートした。
2. J A B E E に関すること。
 - ・昨年度3プログラムの受審をしたが今年度は指摘事項をクリアするために各プログラムの改善に向けた組織化を図る。また、お互いに連携が取れる体制作りを構築する。
各専攻で教育改善委員会を設け、その下に学習・教育目標検討委員会、カリキュラム・シラバス検討委員会、教育目標達成度評価委員会を組織した。
3. 点検・評価に関すること。
 - ・平成19年度の機関別認証評価受審のための自己点検評価の内容を検討し、万全を期する。また、よりビルドアップしたデータベースを構築する。
点検評価専門部会で認証評価受審に向けて活動している。学位授与機構による訪問説明会を開催し、制度の理解や準備すべき事項等について教職員が情報を共有出来た。データベースの構築についても、順次進んでいる。
 - ・平成19年度の専攻科認定審査に向けた資料整理をする。
倉庫資料整理を実施したとともに、なお適切な資料の検討把握に努めている。
4. 広報活動に関すること。
 - ・メールマガジンの発行を目指し、広報の迅速かつ的確な情報を発信できる体制をつくる。目的と効果を考慮した広報活動を行う。
毎月1日に、メールマガジンを発信している。総合的、効果的な広報とするため、広報推進室を設置した。更に充実した広報活動を実行する。
5. 研修に関すること。
 - ・ホームページ、パワーポイント等の研修を引き続き実施し、広報、プレゼンテーション能力を高める。
7月20日(木)～21日(金)に、全職員を対象として、パワーポイントについての研修を行い、プレゼンテーション能力を高める基礎固めを行った。
 - ・企業経営者等による講演会を実施し、民間的発想も取り入れ、業務の効率化に努める。

7月7日の愛テクフォーラム総会において 黄金井達夫氏の講演（丸鋸で直線が切れるか）を聴講し、ユニークな発想方法を学んだ。これらも参考として、業務の効率化を地道に歩んでいく。

6. 安全衛生に関すること。

- ・健康診断の完全受診率を維持し教職員の健康管理の意識を高める。
11月に健康診断を実施し、人間ドックの受診者と併せて、完全受診を維持した。
- ・安全パトロールの実施については、施設係長と契約係長が月1回以上点検すると共に安全衛生委員長と安全管理者が年1回以上点検する。
計画どおり点検し、安全確保に努めている。

7. 業務の運営に関すること。

- ・業務の見直しを行い機構の定める定員の削減計画を達成できる組織体制を検討する。
各課に指示し業務の見直し、効率化方策及び組織体制の検討を行っている。
- ・効率的な事務処理を行うため、チーム制、プロジェクト制の導入、充実を図る。
各課に指示し業務の見直し、効率化方策の検討、繁忙期も考慮し、随時導入する。
- ・業務の外部委託化、業務、事務の合理化、簡素化、契約方法の見直し及び管理経費の節減に務め運営経費の縮減を図る。
清掃契約の見直しを検討中である。
- ・財務会計システムの円滑な運用を図るため、各係間の迅速的確な事務処理を図る。
機構による業務改善策が進行中であるとともに、各係が綿密に連携しながら対応している。

8. スケールメリットの活用に関すること。

- ・共済組合の集中化の導入を検討する。
平成19年度実施（機構事務一元化）
- ・学内では2課体制のメリットを生かした組織、事務分掌を策定する。
各課に指示し業務の見直し、効率化方策の検討を行っており、これに基づいて策定する。

9. 学校施設の管理に関すること。

- ・施設有効利用の実態調査を継続して行い、施設有効利用の促進を図るとともに、施設活用指針を策定する。
*未実施 × 施設調査済、活用指針策定及び施設整備順位の計画を高松施設かと調整を行う。

平成18年度学生課業務努力目標の進捗状況について

1. 業務運営の効率化に関すること。
 - ・月例の課内連絡会で情報共有を行い業務改善に役立てる。(○)
 - ・毎月定期に開催し情報共有に活用し効果をあげている。
 - ・情報ネットワークを利用した情報共有の高度化を検討する。(○)
 - ・学生課内でファイルサーバ運用を試行し、広報媒体の収集等に役立てた。
 - ・事務系ファイルサーバや会議システムの提案を行った。
 - ・窓口業務や電算業務のマニュアル化を進め、担当者不在時の窓口応答性の向上とノウハウの安定的承継を目指す。(△)
 - ・証明書発行業務と進路指導支援業務の窓口を一本化した。教務システムを含む業務のマニュアル化は改善途中で、平成19年度も引き続き取り組む。
 - ・教務システムの円滑な運用を行う。(○)
 - ・教務委員会とともに成績処理業務を検証し、システムの改善を図った。平成19年度は「学修単位導入＝成績証明への反映」「材料工学科の環境材料工学科への名称変更」等の新たな課題に取り組む。
2. 入学者の確保に関すること。
 - ・入試広報の改善に有効な各種データの収集・分析に努める。(○)
 - ・入試データの経年比較やグラフ化、中学校生徒数調を行い、教務委員会等へ提供した。
 - ・広報誌等の内容充実のための提案を行う。(○)
 - ・教務委員会入試広報誌作成WG等と協力し、広報誌の内容の改善を行った。
 - ・メールマガジンとの連携を意識したホームページによる情報提供内容の改善案を検討し提案する。(○)
 - ・教務委員会等と協議し、掲載記事についての情報提供を行った。また、広報誌への折り込などでメールマガジンの広報を行った。
 - ・夏季体験学習や学校見学会等の現状の分析を行い、改善の必要な事項等を積極的に提案する。(○)
 - ・企画終了後に反省点等をまとめ、改善意見等を付して教務委員会に提出した。
 - ・松山市内からの志願者獲得を目的とした取り組みを支援する。(○)
 - ・教務委員会を中心として実施した「ものづくりフェスタ in 松山」や「愛媛大学周辺の小学校への出前講座」を支援した。
3. 学習支援に関すること。
 - ・学修単位の平成19年度導入準備を進める。(○)
 - ・教務委員会やWGの資料作成を通じて、学修単位導入の準備を支援した。
 - ・各種コンテストに関する学生への情報提供を充実させる。(○)
 - ・学生委員会と協力してHPの改善を行い、デザインコンペティションやキャベツプランへの初参加に繋げるなど成果をあげた。
4. 進路指導に関すること。
 - ・年間進路指導計画の策定に向けた情報提供を行う。(××)
 - ・効果的な情報提供ができなかった。平成19年度からキャリア教育支援機能強化のために学生委員会が学生支援委員会に名称変更してこの課題に取り組むようになったことに伴い、同委員会への支援を通じて効果的な情報提供を目指したい。
 - ・求人情報の収集・分析の効率化を目指した事務の見直しを進める。(○)
 - ・学生課として、学生毎の進路決定状況調査を4回に渡って調査し、学科主任等へ情報提供を行うなどの取り組みを実行した他、進路関係事務を一本化した。
5. 課外活動に関すること。
 - ・ボランティア活動に関する学生への情報提供を充実させる。(××)
 - ・ボランティア関係団体のニーズを調査し、資格が必要な活動に需要が多く、本校学生とのマッチングが困難であることがわかり、効果的な情報提供を行うことができなかった。
 - ・チャレンジプロジェクトやアイデア通りプロジェクトへの学生の応募を促進させる取り組みを行う。(○)
 - ・学生委員会と協力して募集要項の見直し募集時期の早期化を図った。採用件数は昨年を上回る6件となった。
6. 健康管理に関すること。
 - ・健康管理のためのデータ管理の効率化を図る。(○)
 - ・データ管理のためのプログラムを開発し効率化を図った。
7. 学寮に関すること。
 - ・学寮設備・備品等を再点検し、改善に必要な資料の整備を行う。(○)
 - ・点検結果をリスト化して改善計画の立案に役立てた。
 - ・寮生の自治活動を活性化させるために必要な支援を行う。(○)
 - ・寮務委員会への支援を通じて、必要な援助を行った。
8. JABEE・機関別認証評価に関すること。
 - ・JABEE受審や機関別認証評価に必要な資料を円滑に提供する。(○)
 - ・執筆者等の要請に基づき円滑に提供した。
9. 図書館利用に関するアクションプランの実行を支援する。(○)
図書館の策定したプランに従い積極的な支援を行った。
10. 本科3年生の短期海外研修の平成18年度末試行実施の準備を進める。(○)
国際交流WGの要請に基づき、適宜支援を行った。

◎1 学年

	学級担任	副担任
1 年 1 組	鹿毛敏夫	谷口佳文
1 年 2 組	安藤進一	横山隆志
1 年 3 組	矢野 潤	栗原義武
1 年 4 組	野田善弘	西井靖博
1 年 5 組	大村 泰	松原靖廣

1. 平成 18 年度年間教育目標

義務教育から任意教育に変わった大きな節目において、学生が自律した行動を取ることが出来るよう基本的な生活習慣を体得させる。そのために、個々の学生を十分に観察し円滑な学生生活が送れているかどうか常に気を配る。また、学生どうしが互いにコミュニケーションを取ることの出来るクラスの雰囲気作り、指導を行う。

2. 平成 18 年度年間教育方針

2. 1 服装、身だしなみなど細かくチェックし、ルールを守る学生が損をしたと思わないような指導を行う。

茶パツ、ピアス、シャツだし、ズボンのだれ等毎日気を配り、気が付いた時点で適宜指導した。学生によっては、学生委員会に指導をお願いした事例もある。ただし、茶パツの判定（本人は地毛の色であると主張）などにおいて判断の基準が曖昧であり、担任間による指導の差は必然的に発生。

2. 2 保護者との連絡を密にとり、学校での生活状況、指導状況を保護者に知ってもらいと共に、家庭の状況も把握する。また、学年便りを年 4 回程度発行し、保護者に対して学年の情報を積極的に提供する。

学年だよりについては予定通り、4月号、7月号、10月号、2月号の4回発行し、保護者に学校生活の状況を示した。また、学生生活において問題がある場合には速やかに保護者に連絡を入れ対応できた。

（学年だより）別添資料参照

（保護者懇談会）前期 7/8(土), 9(日), 10/21(土)授業参観日, 後期 1/29~2/3(土)~2/9, その他適宜

2. 3 新入生研修旅行、工場見学をはじめとする特別活動において、低学年より技術者としてのキャリアアップ教育を促進する。

5月：大洲青少年交流の家研修

7月：工場見学

その他、卒業生講話、主事講話などを実施し技術者としての意識を高め、課外特別活動では、組立て飛行機などものづくりを楽しむ活動も実施した。

（大洲研修）5/18(金)・19(土)実施

（工場見学計画書）別添

（工場見学実施報告書）別添

(工場見学事前事後学習) 別添

(卒業生講話) 11/24(金)実施

(主事講話) 12/1(金)実施

(組立て飛行機製作記録会) 10/6(金), 10/20(金), 10/27(金)実施

2. 4 教室および周辺の美化に努めると共に、私物・公共物を大切に扱うよう注意を払う。
教室の整頓および清掃は励行できた。ゴミの分別など毎日注意を払い、適宜指導を行った。また、特活において担当区域の一斉除草清掃活動を2回実施した。後期は、ロッカールームの清掃を月ごとでクラスに分担し清掃を実施した。

(1年生合同清掃活動) 10/10(火), 11/17(金), 3/2(金)

(ロッカールーム清掃) 10月: 1組, 11月: 2組, 12月: 3組, 1月: 4組,
2月: 5組

2. 5 図書館の利用指導およびホームルームなどを通して読書習慣の確立に努める。

図書館利用オリエンテーション(第1～第3段階)実施。学年共同で図書館利用教育を実践し、課外特活においても読書活動を取り入れた。図書貸し出し数では1組と2組が学内ベスト5に入った。しかしながら、読書の習慣が身についている学生はまだ少ない。

(図書館利用教育) 4月14日(金): 2, 3組: 図書館利用オリエンテーション

4月21日(金): 1, 4, 5組: 図書館利用オリエンテーション

(図書館利用状況) 別添資料

2. 6 遅刻・欠課に対しては、本人あるいは保護者に連絡を義務付け、連絡や届けの無いものについては、保護者に照会し必ず理由を把握する。

欠課・欠席については本人および家庭に連絡をとりその理由を常に確認した。ただ、欠課・欠席がある学生ほど家庭が共働きで居ない場合が多く、昼間に連絡がつかないことも多い。地方際に伴う遅刻・欠席・早退については保護者が容認していると思われるケースが多く、指導に限界がある。

2. 7 学生の精神的、身体的病気等についていち早く察知し、学生相談室、家庭と連携を図りながら学生生活での配慮を行う。

適宜、個人面談、連絡帳などにより日常の把握に努めた。不登校、進路変更、服装、生活態度など指導が必要な学生については、適宜、保護者、学科、学年団、学生相談室、学生委員会などと連携をとり対応した。さらに、個別相談への対応も同様に他の教員の協力を仰ぎながら実施した。

特活等でいじめに関する講話や、クラスでの活動を実施し、年末に実施したいじめアンケートにより、把握できていない学生への対応を行った。

(カウンセリング講演) 12/22(金)実施 資料別添

(人権講演) 1/19(金)実施 資料別添

(性教育講演) 6/30(金)実施

(その他) ケースバイケースで事例毎に家庭訪問、中学への訪問など学生相談室、主任等も交えて対応

2. 8 盗難に対する予防を常に呼びかけ、占有離脱物横領など安易な気持ちで犯罪に走らないよう啓蒙に努める。

ホームルームを離れる場合に、常に貴重品の管理は呼びかけた。残念ながら後期に1件盗難が発生した。学年だよりでも注意を喚起。自転車についても何件か被害報告あり、そのうち何件かは発見された。中には2重ロックをしていたにも関わらず自転車が盗難にあったケースあり。注意啓蒙は常に続けている。

2. 9 指導が難しい学生に対して、担任一人で抱え込んで対処することなく、担任団として取り上げ、学生相談室、学生委員会などと連携を取りながら共同で対応を取る。

担任連絡会において毎回クラスの状況を報告し合った。学生委員会や学生相談室、保健室などとの連携で指導していただいた事例もあった。また、10月には、一般・数理の主任の肝いりで1年生の授業担当をされている教員とクラス担任・副担任で「成績不振など留意すべき学生へのアシスト会」を開催し、担任から見た注意学生、他の教員から見た注意学生など情報を交換し合った。また、課題等の未提出状況のチェックを行い、保護者への連絡をおこなうと共に、授業態度などについての情報も把握に努めた。

(担任連絡会議事録) 2.10 参照

(成績不振など留意すべき学生へのアシスト会) 10/13 (金) 16:30~18:30 第1会議室、参加者: 1年および2年の授業担当教員、クラス担任・副担任、各学科・科主任

(茶髪学生に対する指導例) (メール内容)

Subject: Re: ××さん指導について

学生主事

学生委員 各位

野田@1-4です。

××××の指導について、了解しました。どうぞよろしくお願いします。

××の頭髪は現在も茶髪です。これについて、今日本人に確認しましたが、昨日母親とともに担任との約束どおり、美容院へ黒染に行ったそうです。しかし、髪があまりに傷んでいるとのことで、これ以上黒染するのはよくないと美容院で言われ、しばらくしてから再度来るようにと言われたそうです。ですから、頭髪の件については、今回指導は不要です。

もともと、担任が大洲研修をさせないと決めたのは、大洲の予行練習の態度とその向かい方の問題です。その他、度重なる担任との約束違反に対しての指導措置と考えています。(本人は茶髪のせいだと思っているようですが、もちろんそれも約束違反の一つですけど。)

朝 8 : 3 0 に学生課に行くように言ってます。絶対に遅れないこと、絶対に先生方に迷惑をかけないこと、しっかり課題を行うことを伝えています。必要なものがあれば、連絡してください。家庭の方へ伝えます。

ちなみに、今週の月曜日から木曜日までクラスマッチも含めて授業の欠課・遅刻は 0 です。朝のショートも火曜日・木曜日は出席しています。少しばかり改善の方向に進んでいますので、この点については、評価してやってください。

以上の点、参考までにご報告しておきます。

拝

檀上光昭 さんは書きました：

野田先生、大村先生、平木先生、尾西先生、朝日先生(写し 学生委員)

8 : 3 0 学生就学支援係(旧 学生係)へ

8 : 3 5 ~ 8 : 5 0 主事による説諭と予定説明等

8 : 5 0 ~ 1 0 : 2 0 河川敷及び自転車置き場の清掃(尾西先生担当)

1 0 3 0 ~ 1 2 : 0 0 : 図書室 自己診断テスト、専門科目学習など(朝日先生担当)

1 2 : 4 5 ~ 1 4 : 1 5 : 平木教員室 物理または数学その他の指導(平木先生担当)

1 4 : 2 5 ~ 1 5 : 5 5 : 図書室 日誌、及び反省文等(尾西先生担当)

2. 10 担任連絡会は副担任も含め原則月 1 回実施し、各クラスの情報交換をはじめ学年全体の取り組みなどについて協議する。

ほぼ月 1 回の割合で実施できた。大洲研修のみの打合せを除き担任連絡会を合計 1 3 回実施した。

(担任連絡会議事録)(資料別添)

実施日 第 1 回 H18/1/16
第 2 回 H18/2/16
第 3 回 H18/3/4
第 4 回 H18/4/4
第 5 回 H18/5/2
第 6 回 H18/6/8
第 7 回 H18/6/27
第 8 回 H18/7/18
第 9 回 H18/9/12
第 10 回 H18/10/13
第 11 回 H18/10/31
第 12 回 H18/11/28
第 13 回 H19/1/23

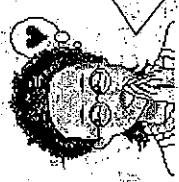
新居浜高専 学年だよい(第1学年)

第1号 (平成18年4月)

平成18年度新入生を迎え、技術者の卵を大切に育て上げる使命に1年生の担任・副担任一同はりきっております。この1年間どうぞよろしく願い申し上げます。

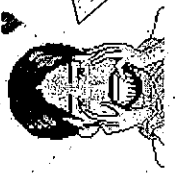
平成18年度 1年生 学級担任・副担任からのご挨拶

私たちは今、2006年の地球に存在しています。地球上には、富んだ人、権力を持った人、飢えた人、虐げられる人等、様々な人々が生きています。でも、どんなに大金持ちで権勢を振るう人でも、例えば1000年後、つまり西暦3000年まで生きることばできません。そう、人間の命なんて、せいぜい生きて100年なんです。100年しかない人生。でも、肉体は亡くなっても、魂や精神、そして自分の気持ちを死後の地球に残し伝える手段が一つだけあります。それは、「文字」です。今、あなたが書いている「日記」。これは、あなたの子孫への大切なメッセージになるでしょう。今、あなたが毎日の授業で懸命に書き取っている「ノート」。これも、西暦3000年の歴史学者の貴重な史料になるでしょう。シャープペンを持ち、鉛筆を握って、「文字」を書こう。自分のためだけでなく、未来の人々のために。そして、書くだけでなく、本に書かれた「文字」を讀もう。過去を生きた人々の考え方を知らるために。これが、10代後半の皆さんへの担任からのメッセージです。



1年1組 学級担任
鹿毛敏夫
(一般教養科：歴史担当)

4月から新たな環境での生活が始まりましたが、そろそろ慣れてきた頃かと思えます。さて、高専で学ぶことの目的は何でしょうか。普通高校のように大学への進学を目的とするのではなく、将来、社会に貢献できる技術者を目指しています。そのためには、学生時代には、いろいろなことに興味を持ち、見たり、聞いたり、触ったり、調べたり、作ったり、様々な体験を積んでおくことが大切です。高専には、その様な活動ができる環境が整っています。せっかく高専に入学したので、これから、おおいに利用してください。私はものづくり教育支援センター長も兼ねており、特に、学生のものづくり活動を積極的にサポートしていきたいと考えています。これから1年間、よろしくお願ひします。



1年1組 学級副担任
谷口佳文
(機械工学科)



1年2組 学級担任
安藤進一
(一般教養：保健体育担当)



1年2組 学級副担任
横山 隆志
(電気情報工学科)



1年3組 学級担任
矢野 潤
(数理科：化学・物理担当)



1年3組 学級副担任
栗原義武
(電子制御工学科)

私の担当教科は保健体育で1年生全クラスを担当します。クラブ活動はサッカー部を指導します。本校に赴任して今年で30年になります。私は本校で多くの学生の少年からの成長ぶりを見てきました。身体的にも精神的にも大きな変化(成長)を遂げます。例えば義務的な“無義情の挨拶”しかできなかった1年生が、4・5年生の時には笑顔の挨拶が自然にできるようになる、そういう時期を本校で過ごすのです。何の問題も悩みも無く5年間を過ごす学生などいません。私はすべての学生たちが紆余曲折を経て最後には強く大きく成長してほしいと願っています。保護者の皆様のご協力のもと一人一人をしっかりと支えていきたいと思っています。

御入学おめでとうございます。本年度1年2組の副担任をさせていただきます。横山隆志です。専門学科は電気情報工学科で、主に情報に関する業務を担当しています。電気情報工学科棟の3階に私の研究室がありますので、相談事などあったら訪ねてきてください。同じ学校、あるいは同じクラスで勉強することになったのは偶然かもしれませんが、お互いに信頼できる関係を築き上げるには「おたがいの協力と理解」が必要だと思っています。そのための私の目標は「あいさつをしよう」・「けじめをつけよう」です。学生の皆さんもご協力をお願い致します。

1年3組を担当させていただく矢野です。私は高専OB(13期生、昭和49年入学：工業化学科)でした。5年間ずっと学業で過ごし、指導員や指導員補佐なども任せました。部活はバドミントン部でした。卒業後、長岡技術科学大学(修士課程まで)、広島大学(博士課程)と進み、山梨大学教育学部、山口大学工学部、東亜大学部と専攻し、新居浜高専に赴任しました。バドミントンでは広島県、山梨県でダブルス、ダブルスともトップでずっと国体に出続けました(現役最後は石川国体、監督最後は高知国体)。登山、音楽(主にアメリカ音楽)が趣味です。アメリカに二組の叔父叔母、伯父叔母、従兄弟、従兄弟、何人かの友人がおりますので、留学その他でもお助けできると思います。今後ともよろしくお願ひいたします。

今年度、1年3組の副担任になりました栗原義武です。これから1年間、よろしくお願ひいたします。専門学科では、電子制御工学科に所属しています。1年生の間は混合学級で、いろいろな学科の学生がいっしょに勉強できる数少ない機会なのです。今は当り前に思っているかも知れませんが、来年から4年間は、ほとんど専門学科だけの授業になつてまいります。特に、部活動に所属していない人は、この機会に、是非、他の学科の人とできるだけ仲良くなっておきましょう。当然、真つた学科の人は、目標や善悪方も違っていると思いますが、いつでも自分の思い通りに物事がうまく行くとは限りません。そんな場合には、学生相談室を利用して下さい。



1年4組 学級担任
野田 善弘
(一般教養科：国語担当)

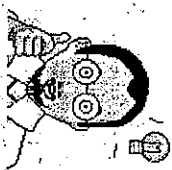
入学式から一か月ほど経ちました。幸いにしてわがクラスは明るく、元気な学生が多く集まり、私も毎日楽しく過ごしております。この雰囲気が一年間持続できればと心から願っています。

中国古代の思想家孔子は人間が生進するべきものとして「恕」を挙げました。「恕」は簡単にいえば「思いやり」です。「人か嫌な思いをすることをしてはならない」という至極当たり前のことです。これをちゃんと守れば、殺人や窃盗、詐欺などの犯罪はなくなり、また規則を破ったり、人を傷つけたたりすることもありえないはずです。私は、何よりも周りの人を思い、大切にすることを育てたいと思っています。ご協力よろしくお願いします。



1年4組 学級副担任
西井 晴華
(生物応用化学科)

学生時代はさまざまな部活動に所属していました。そこで培われたチームワークや忍耐力は今でも大きな糧となっています。また、学生生活を快適に過ごしていくには勉強とそれ以外の熱くなれるものがあるというバランスが取れ、より楽しい学生生活になると思います。是非お子様にも何かクラブに入るようにお話しして頂けたらと思います。また1年生は生徒から学生に変わっていく、自ら変えていく自律の学年となります。ご家庭でもお話ししてあげてください。これから1年間、副担任として微力ながら頑張っていこうと思います。よろしくお願ひいたします。



1年5組 学級担任
大村 泰
(数理科：物理担当)

新居浜高等の第一印象を、桜がきれいな学校だと言ってくれた学生がいました。新入生のみならず、技術者のつぼみとして、高専の光、空気、霧分をたくさん吸収して逞しい花を咲かせ、社会に貢献してくれることを願っています。とは言え、最初はさまざまな境遇で過ごしてきた見知らぬ者どうしが慣れない環境に集まってきています。人によってはかなりのストレスがあると思います。ホームページに入るとき、それから、クラブの中での自分の席が、安心出来るような場所であるようなクラブの雰囲気づくりに努めていきたいと思っています。また、これから先5年間の生活リズムの基礎づくりという点で大事な1年間であると考えておりますので、ご協力をお願い申し上げます。



1年5組 学級副担任
松原 博隆
(材料工学科)

こんにちは、1年5組 副担任の松原です。専門学科は、材料工学です。昨年は、材料5年生の担任でした。1年生の授業は、材料入門、情報リテラシーで、材料科学生と接触する機会がありますが、他学科の学生と接触する機会はありませんでした。1年混合学校は他学科の学生との接触があり助みにしています。高専生活5年間に十分に満足して過ごすには1年、2年の低学年でのよい生活習慣の養成、よい人間関係の鍛錬（少しわかりにくくてもいいですね）が重要であると思いますのでそのような行動を皆さん心がけてください。こちらも解らない事があれば、尋ねてくれれば出来る限りの指導をいたします。また、悩めことがあれば相談にのります（学生相談員をいたします）。以上、よろしく

本年度の第1学年教育方針

○義務教育から任意教育に変わった大きな節目において、学生が自律した行動を取ることができるよう基本的な生活習慣を体得させる。そのために、個々の学生を充分に観察し円滑な学生生活が送れているかどうか常に気を配る。また、学生どうしが互いにコミュニケーションを取ることでできるクラスの雰囲気作り、指導を行う。

保護者の皆様へお願い

○新居浜高専では、低学年（1・2年生）の間、髪を染めたり脱色したりすると、およびピアスなどの着用は禁止しております。このことを充分ご理解の上ご家庭での指導をお願い致します。なお、5月19日の大洲合宿修への出発の際、これに違反している学生は参加させず、学校において課題をさせることで申し合わせておりますのでよろしくお願い致します。

○体調不良等で学校を欠席される場合は、必ず学校までご一報ください。また、すようお願い致します。連絡先は学生就学支援係（0897-37-7861、0897-37-7727）もしくは各学級担任まで。なお、無断欠席の場合はこちらから確認の連絡をさせていただきます。ご協力をお願い申し上げます。

夏休みまでの主な行事

5月13日	寒マツチ、野外活動(養生)
5月14日	大掃除(養生)
5月17日	クラマツチ
5月19日	合宿研修「国立大洲青少年交流の家」
5月20日	
6月9日	前期中間試験
6月15日	
6月23日	応急処置・防火避難訓練(予定)
6月28日	養蚕(養生)
7月8日	保護者懇談会
7月9日	
7月13日	体育大会激励会、校内一斉清掃
7月15日	
7月17日	四国地区高専体育大会(運動部)
7月20日	夏休み
その他	日時は未定ですが工場見学を計画しております。

新居浜高専学年だより (第1学年) 第2号 (平成18年7月)

発行: 1年学級担任一同

1-1 鹿毛、谷口

1-2 安藤、横山

1-3 矢野、栗原

1-4 野田、西井

1-5 大村、松原

入学して3ヶ月が経ち、1年生の表情も不安や緊張の面持ちから水を得た魚のようなのびのびとした様相に変わってきました。この間、クラスマッチ、大洲の研修旅行、前期中間試験などの大きな行事や、寮では地域との清掃活動、バーベキュー、部屋替え、寮祭などもあり、これらを通して、一人一人の個性が伝わってきます。

1年研修旅行

5/19,20に大洲青少年交流の家にて研修旅行を行いました。当日はあいにくの雨模様でしたが、「規則を守る」「親睦をはかる」「しっかり楽しむ」という目標を達成することができた思い出に残る研修となりました。



結団式



入所式



綱引き大会



クイズ選手権



綱引き大会



ウォークラリー



綱引き大会



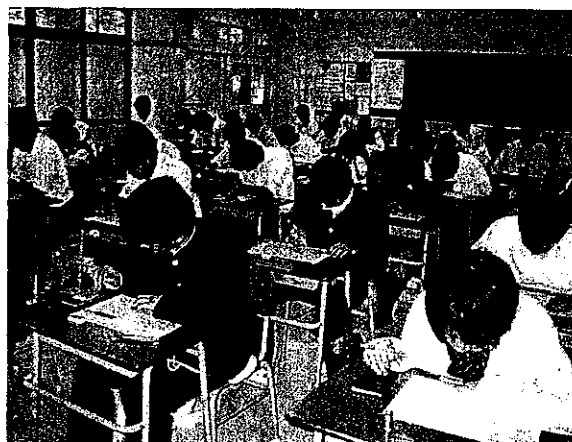
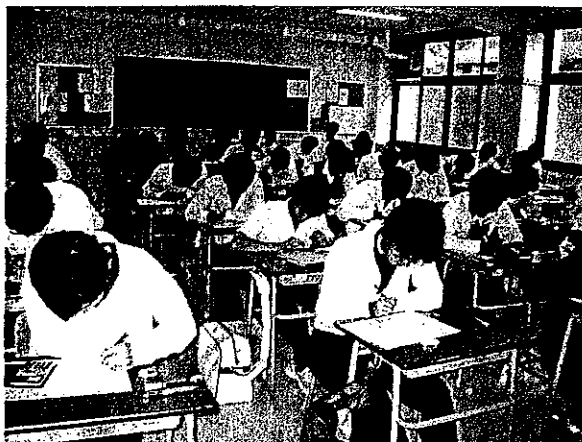
解団式



表彰式

前期中間試験の様子

6/9~15の日程で行われました。真剣に取り組んでいます。



学寮の様子

男子71名、女子12名が学寮で生活しています。テスト明けの6/15,16には部屋替えが行われました



清風寮



向陽寮2F



向陽寮3F



向陽寮4F

学年だよりに掲載してほしい内容の希望がありましたら 1nen@niihama-nct.ac.jp までお寄せください。

【夏休みの生活について】

規則正しい生活をして、各科目の復習、予習、宿題をしっかりとすること。適度の運動、読書、見聞を広めることなどに取り組み、学生としてふさわしい有意義な夏休みにしてください。また、次のことにご注意ください。

- (1) 長期休業中のアルバイトについては、深夜就業や危険な職種を避け、時間、日数が多くなりすぎて生活が乱れることのないようお願いします。なお、予定がある場合は、必ず学級担任までご一報ください。
- (2) バイク等の免許取得については、取得予定届けおよび取得後の届けを学校に提出することになっています。交通事故には十分気をつけてください。万一事故等があった場合は、すぐに連絡をお願いします。
- (3) 出会い系サイトなど有害な携帯の web サイトが多くなっています。本校でも、金銭的な被害にあった者や、はまってしまい学業に支障がでた者がいます。十分な注意をお願いします。
- (4) 喫煙・飲酒など、夏休み中は中学校の旧友との再会やカラオケ・ゲームセンター等での遊びをきっかけに喫煙・飲酒を体験する危険性も多くなります。No! と言える堅い意思と注意をお願いいたします。
- (5) ボランティア活動として、愛媛県は7/1～9/30の間サマーボランティアキャンペーン2006を推進しています。(詳細は愛媛ボランティアネット <http://nv.pref.ehime.jp/> にも掲載) 夏休みの時間を利用して、これらボランティア活動等に積極的に参加し、学校では得られない貴重な体験をしてみてください。

【緊急連絡先】何か事件、事故、急用があれば必ず連絡を。新居浜高専：0897-37-7724 (教務係)、0897-37-7726 (学生就学支援係)、各学級担任個人の連絡先はクラス毎に別途連絡

【夏休みの補講等について】

夏休み中あるいは夏休み前におきまして以下のような補習授業を予定しております。意欲のある希望者を対象としております。受付を終了したのも一部ありますが、積極的な参加を促していただけたら幸いです。

1. 夏季英語実力養成講座

開講期間 : 8月28日(月)～31日(木)の4日間

講座の種類 : (1)TOEIC 対応コース (初心者から上級者まで)

(2)基礎コース (中学・高専低学年の基礎からやり直し、基礎学力をつけたい者)

(3)実力養成コース (基礎学力のある者で、進学・編入学等のため更に実力をつけたい者)

受講申し込み期限 : 7月18日(火)までに、学生本人が教務係へ申し込むこと。

寮生で、特別残寮により受講を希望する場合は、「特別残寮願」を7月11日(火)までに塚野教員に届け出ること。さらに、ガイダンス(7月18日[火]21:00～)を受ける必要があります。

講座についての問い合わせは、新居浜高専学生課教務係 (Tel.0897-37-7724)

2. 数学夏季補習

開講期間 : 7月20日(木)～25日(火)の土日を除く4日間

講座の種類 : (1) 数学A-1 (2) 数学B-1 (両方に参加も可能)

受講対象および人数 : 中間試験の成績が65点未満の学生を対象に数学A-1、数学B-1とも40名程度。

受講申込 : 希望者は7/7(金)16:10に1年5組に集合すること。受講説明と人数調整を行います。

3. 英語1補習授業(現在開講中)

開講期間 : 6月28日(水)～7月19日(木)の毎週水曜日

開講時間 : 14:30～15:30 (材料工学科のみ授業の関係で16:10～17:10)

受講対象 : 1年生の希望者、自由参加

受講申込 : その都度、1年1組に集合。筆記用具、辞書、アット威尔教科書、文法参考書を用意。

4. 電気情報工学科 夏休み実力養成研修

研修期間 : 8月21日(月)～25日(金)9:30～16:00 (12:00～13:00 昼休み)

研修内容 : (1) 勉強 : 数学・物理・専門・資格試験

(2) ものづくり

申込期限 : 7月10日(月) 1年生は皆本教員まで申し込むこと。

【授業料免除申請について】

下記のとおり平成18年度後期分授業料免除等の受付を行いますので、免除等を希望する学生は、学生課就学支援係へ申し出てください。

1. 申請書類の配付 : 7月3日(月)から学生課学生就学支援係にて配付します。

2. 申請書類の受付期間 : 平成18年9月1日(金)～9月13日(水)まで(土・日・祝日を除く 8:30～17:00)

【工場見学予定】

目 的 : 社会における技術系職業についての理解を深め、技術者としての意識を高めるとともに、地元企業の理解と関心を持たせる。

実 施 日 : 平成 18 年 7 月 19 日 (水)

見学工場 : 1 年 1 組 パナソニック四国エレクトロニクス(株) (西条市福武甲 2 4 7 番地)
 1 年 2 組 ルネサステクノロジー(株)西条事業所 (旧三菱電機西条工場) (西条市ひうち 8-6)
 1 年 3 組 今治造船(株)西条工場 (西条市ひうち 7 番 1 号)
 1 年 4 組 住友化学(株)愛媛工場 (新居浜市惣開町 5 番 1 号)
 1 年 5 組 住友重機械工業(株)愛媛製造所 (新居浜市惣開町 5 番 2 号)

日 程 : 8:35 SHR (工場見学の目的、意義、注意事項等)

9:30 出発

9:50 工場到着

10:00 ~ 11:30 説明、見学および質問

11:40 工場出発

12:30 西条チロルの森 昼食 (弁当)

13:30 事後学習、親睦をはかる活動

15:10 西条チロルの森出発

16:00 帰校

【夏休みの宿題一覧】

本年度夏休み中、1 年生には以下のような宿題が課されております。これらは全て前期末成績の平常点となりますので未提出あるいは提出遅れのないよう、ご指導いただけたらと存じます。

夏休み宿題一覧表(1 年生用)

	教科	担当教員	宿題内容	提出日	チェック
一般 共通 科目	国 語 1	野口・野田	読書感想文	9 月第 1 授業日	
	倫 理	谷本	プリント(新聞記事についてのレポート)1 枚	9 月第 1 授業日	
	地 理	白石	プリント課題	9 月第 1 授業日	
	英 語 1	鴻上・塚野	アットウィル英文法既習範囲の英文を 3 回ずつ筆写	9 月第 1 授業日	
	数 学 A-1	西谷・古城 加地・近藤	復習用プリント 1 部	9 月第 1 授業日	
	数 学 B-1	小山・柳井	復習用のプリント 1 部、あるいは問題集の指定問題	9 月第 1 授業日	
	化 学 1	矢野・柴田	セミナー化学 I B + II 51 ページまでの該当のプロセス、基本例題・基本問題	9 月第 1 授業日	
	物 理 1	平木・大村	課題プリント 1 枚	9 月第 1 授業日	
専 門 科 目	M 機械製図 1	鎌田・谷脇	基礎製図練習ノート 201~206, 303	9 月第 1 授業日	
	E 電気情報基礎	皆本	教科書の問題と演習書(購入済)	9 月第 1 授業日	
	電気情報実習 A	尾西	電気・電子工作	9 月第 1 授業日	
	D 電気基礎 1	今井	配布プリント(電気基礎 1 と電気基礎演習で共通の課題)	9 月第 1 授業日	
	電気基礎演習	今井・白井・占部			
	C 生物応用化学演習 1A	河村・早瀬	プリント 2 枚	9 月第 1 授業時	
	基礎化学実験	衣笠・間瀬	「レポート課題(化学・バイオ技術についての調査と自分の夢)」A4 2 枚程度	9 月第 1 授業時	
	基礎生物学 1	谷崎	プリント課題 および レポート提出	9 月第 1 授業時	
	Z 材料基礎製図	松英・日野	(講義)確認用のプリント 1 枚 (実技)練習ノート 101~108 (9 月 4 日授業開始前に回収)	9 月第 1 授業日	
	材料基礎演習	新田・朝日	プリント 1 枚または指定問題	9 月 1 日	

【メールマガジンの配信について】

現在、新居浜高専では月に 1 回の割合でメールマガジンを配信しております。配信を希望される場合は、インターネットアドレス http://off.niihama-nct.ac.jp/~shomu-a/mail_magazine/ にて随時申込み受付を行っております。積極的な申込みをお願い申し上げます。また、過去のメールマガジンは http://off.niihama-nct.ac.jp/~shomu-a/mail_magazine/backnumber/index.htm にて閲覧できます。

新居浜高専学年だより (第1学年) 第3号 (平成18年10月)

発行: 1年学級担任一同

1-1 鹿毛、谷口

1-2 安藤、横山

1-3 矢野、栗原

1-4 野田、西井

1-5 大村、松原

つい先日まで暑い暑いと言っていた気がしますが、もう衣替えの季節です。1年生もすっかり高専生になり、青春を謳歌しています。

工場見学に行きました

夏休み直前の7/19(水)にクラス毎で工場見学に行きました。見学先はそれぞれ異なりますが、将来の進路も踏まえ有意義な見学になりました。あいにくの雨でしたが、午後は石鎚ふれあいの里に全クラスが集い、事後学習を行いました。

1組

見学先: パナソニック四国エレクトロニクス(株)
(西条市福武甲247番地)

学生の感想

見学後、
石鎚ふれあいの里で情報交換...



- 見たことのない不思議な機械をたくさん見ることができた。パナソニックでの作業状況も詳しく見れて、いい経験ができた。
- 仕事はチームプレーであり、個人プレーではないことがわかった。
- 機械の力のすごさを思い知った。僕がやると1時間以上かかるハンダ付けの作業をあっという間に仕上げていて驚いた。
- 従業員の人のように、自分も集中して物事に取り組みたい。
- みんなで協力することの大切さがわかった。今まで自分勝手なところがあったので、これからは協調していこうと思う。
- 高専卒の人が働いていたので、頑張る気がした。
- 英語を勉強する!! 勉強は、取り組む姿勢が大事!
- 説明して下さった社員の人のような気配りができるようにしたい。

2組

見学先: ルネサステクノロジー(株)西条事業所
(西条市ひうち8-6)

学生の感想

質疑応答風景



- 初めての工場見学だったが、事前学習がきちんと出来ていたし、スムーズにいけたと思う。
- 考えていた質問を聞くことが出来なかったのが、次の機会があったら積極的に質問しようと思う。
- シリコンウェハという半導体が直径30cmぐらいで25万円もすること、シリコンは砂や土の中に混じっていることに驚かされた。
- 作業服の厳重さ、ホコリを落とすための送風機などから仕事の徹底振りがうかがえた。

3組

見学先：今治造船(株) 西条工場
(西条市ひうち7番1号)

学生の感想

大雨のためバスからの工場見学。
工場内における移動バス内の一コマ



- 今、学校で習っていることが具体的に将来どう役立つかが何となく分かった。
- 300m以上の船が造られたと聞いてすごいと思った。
- また機会があれば、見学に行きたいです！！
- 分からないことがたくさんあったけど、楽しい体験学習でした。今後、この体験を活かして学習をしたい。
- 今日の工場見学はびっくりしたことが多かったです。
- 一人一人に役目があるので、それを成し遂げるために責任を持って仕事をしないといけないと思った。
- バスの中からはしか見学できなかったのが残念だったけど、とても面白かったです。
- 大きな船を造るには、小さな部品一つ一つが大事だということが分かった。

4組

見学先：住友化学(株) 愛媛工場
(新居浜市惣開町5番1号)

学生の感想

見学風景



- 仕事ができるだけでなく、環境にも気を配ることができる人が必要であることがわかった。
- 研究室は高額な装置がたくさんあり、はたらいている人々に緊張感があって、見習いたいと思った。
- 先輩たちがいろいろ苦労しているのを見て、僕も先輩たちのような立派な技術者になりたいと思った。
- 半端な気持ちで入社はできないと思った。しっかり勉強して、知識をつけておかなければならないと感じた。
- 自分の進路を考えるよい機会になった。
- 見学で学んだことを活かして、いろいろなことに挑戦したい。

5組

見学先：住友重機械工業(株) 愛媛製造所
(新居浜市惣開町5番2号)

学生の感想

ヘルメットがお似合い



- 工場では1人1人が自分の役目を自覚し、責任感を持ちながら仕事に励んでいた。
- 今日の見学は自分にとって大きな財産になったと思う。
- 質疑応答で話しを聞き、就職先の候補にしたいと思った。
- 今の最先端技術のレベルが見えた。こういった経験は未来の担い手としてとてもプラスになった。
- いろんな機械や装置を見て、自分も操作してみたいと思った。
- 人事の方の話で、考えをきちんと言えること、人間性が大事である、と言うことが心にぐさりと刺さった。
- 最初に思っていたこととは全く違い、スケールの大きさなど印象に残ることばかりだった。この経験をこれからの生活に役立てたい。

高専打ち水大作戦

夏休み明けの 9/14(木)お昼休みに、ためた雨水をキャンパスに撒いて暑気を払う『高専打ち水大作戦』が実施されました。当初は、夏休み前の猛暑の時期を予定していましたが、天候の関係でのびのびになっていたものです。9月も雨続きに見舞われましたが、久しぶりの快晴に急遽実施に踏み切りました。雨水をためたペットボトル 2300本と子供用プールの2次利用水約10トンを使い思い思いに撒き散らしました。



この後、はしゃぎすぎた一部の1年生はパンツまで(びしょ)²に...

盗難に注意

10月10日の後期始業日早々に、1年生の教室で盗難が発生しました。始業式と一斉清掃をしていた1時間30分ほどの間に、誰もいない教室で学生のかばんにしまっていた財布からお金が抜き取られました。

教育の現場でこのようなことが発生することは非常に残念であり、憤りを感じます。日頃から体育や、実験などで教室を離れるときは貴重品を身につけるよう注意はしているのですが、隙をつかれた格好になり残念でなりません。

最も非難されるべきは犯人であるのですが、被害に遭わないよう個人個人の更なる注意をお願い致します。以下のことに注意してください

◎ 学校に必要以上のお金やカードを持ってこない。

その日のお昼代と飲み物代程度で十分です。もしもの時、被害が最小限に抑えられます。学校が終わったら、買い物など寄り道をせず、まっすぐ家に帰りましょう。

◎ ポータブルオーディオプレーヤー、携帯電話は学校に必要なものではありません。

iPod などのポータブルオーディオプレーヤー、携帯電話などは学校に必要なものではありません。ましてや、授業中に聴いたり、携帯で遊んだりすることはもってのほかです。煩惱を起こしやすい物品は持ってこないようにしてください。

◎ 自転車には2重ロックを。

盗難被害で多いものが自転車です。ちょっとだからと施錠せず、ほんの2～3分離れただけで盗られたケースもあります。自転車は必ず防犯登録をし、学校のシールを貼り、できれば2重にロックをお願いします。

◎ 持ち物には必ず名前を書く。

電卓や、電子辞書など学習に必要なものには必ず名前を書いておいてください。他の教室に置き忘れた場合にも、名前がないと渡すことができません。最近、教科書やノートにさえ名前を書いていない人がいます。物を大切にする気持ちが足りないと思います。

◎ 被害にあったら即届出を。

もしも、被害に遭ったらすぐに学校と警察に届け出てください。早ければ早いほど次の被害も防止できます。また、犯人も証拠を残しているかもしれません。

12月までの行事

◎ 10月21日(土) : 授業参観日

1日実施しております。ご都合のつく時間に是非授業風景をご参観ください。また、担任教員などとの懇談も時間により可能です。各教員の部屋に当日の空き時間表を張っておりますのでお気軽にご連絡ください。なお、10月23日(月)は、参観日の代休で休講となります。

◎ 10月23日(月) : ものづくりコンテスト

ものづくり活動の活性化のために、今年は飛行機コンテスト、ウインドカーコンテストを実施します。参観日の代休ではありますが、入賞商品もありますので積極的に参加してください。

◎ 10月28日(土) : 英語学力試験

9:00~10:30 で全学年一斉に実施いたします。全員登校してください。

◎ 11月 5日(日)

ロボコン四国地区大会(高松高専) : ロボット研究会が中心となって作った2種類のロボットが四国6高専の中で戦います。後日TV放映があります。

四国地区体育大会ラグビー競技開会式(新居浜高専) : ラグビー部がんばります。

◎ 11月10日(金) ~ 11月13日(月) : 国領際(新居浜高専文化祭)

本祭は、11月11日(土)と12日(日)の2日間です。1年生はいたるところで働き手になっています。是非見にきてください。

◎ 11月18日(土) ~ 11月19日(日) : 四国地区総合文化祭(詫間高専)

四国地区6高専の文化部の発表会です。文化部が日ごろの成果を発表します。都合がつけば是非のぞいてあげてください。

◎ 11月26日(日) : ロボコン全国大会(東京)

四国地区大会で活躍できれば行けます。1年生のロボ研部員も全国大会へ行けるよう一生懸命頑張っています。

◎ 12月 1日(金) : 学寮部屋替え(向陽寮・清風寮)

◎ 12月 2日(土) : TOEIC IPテスト

受検は任意ですが、高得点者には得点に応じて英語の単位(英検)が認定されます。

◎ 12月11日(月) ~ 12月15日(金) : 後期中間試験

冬休み前の試験です。前期の成績が芳しくなかった人は是非挽回しましょう。試験後に後悔しないよう、今のうちからコツコツと頑張っておきましょう。

◎ 12月23日(土) ~ 1月7日(月) : 冬休み

約半月あります。今年の煩惱を取り払って新年に臨みましょう。

【メールマガジンの配信について】

現在、新居浜高専では月に1回の割合でメールマガジンを配信しております。配信を希望される場合は、インターネットアドレス http://off.niihama-nct.ac.jp/~shomua/mail_magazine/ にて随時申込み受付を行っております。積極的な申込みをお願い申し上げます。また、過去のメールマガジンは http://off.niihama-nct.ac.jp/~shomua/mail_magazine/backnumber/index.htm にて閲覧できます。

新居浜高等学校学年だより (第1学年) 第4号 (平成19年2月)

発行: 1年学級担任一同

- 1-1 鹿毛、谷口
- 1-2 安藤、横山
- 1-3 矢野、栗原
- 1-4 野田、西井
- 1-5 大村、松原

組立て飛行機記録会 (課外特別活動)

課外特活で紙と割り箸などで作った組立て飛行機を製作しました。その中でよく飛ぶ飛行機を各クラス5機ずつ持ちより、10/27(金)に第一体育館にて記録会を催しました。1位はなんと30m向うの壁に当たりそうでした。恐るべし!

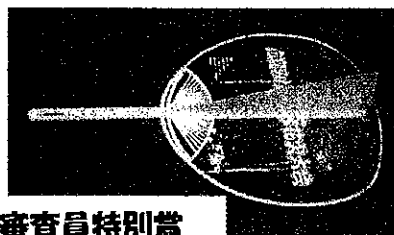
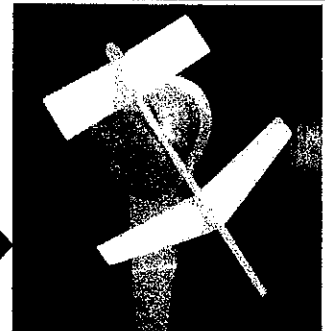


記 録		
男子1位:	4組 美濃君	30.0 m
2位:	5組 越智君	14.48 m
3位:	3組 湊君	12.68 m
女子1位:	2組 森岡さん	6.72 m
2位:	1組 川島さん	6.59 m



入賞者のみなさんおめでとう

みごと1位を取った
飛行機
これがそんなに飛ん
だとは・・・!



審査員特別賞

こんなユニークな
飛行機も
飛び方もユニーク
だったけど、思っ
たより飛びました。

後期中間試験の結果が出ました

12/11~12/15に実施された後期中間試験の結果は、すでに各ご家庭に送付済みのことと存じます。あとは2/21~の学年末試験1回を残すのみとなりました。各科目の単位修得条件は学年末の評価(1年間の総合)で60点以上です。これら修得単位の合計が26単位以上ないと2年生に進級できません。1年生で開講されている科目の総単位数は、M・E・D・C科が34単位、Z科が35単位ですので、欠点科目(60点未満科目)の合計が8単位ないし9単位を超えてあれば進級できないことになります。240点ー前期末試験の成績×2ー後期中間試験の成績が今までの成績の平均点より高い科目は、今まで以上に頑張らないといけない科目です。

点数の低い科目はテストの点数以外に、日常の提出物(宿題、プリント、レポート、ノート、作品など)が出されていない、あるいは提出が遅れたなどの影響も多々あります。これらの未提出物については、昨年末に注意しておりますが、修得が危ぶまれる科目についてその原因と対策を話し合っていたりたく存じます。

カウンセリングに関する講演

12/22(金):本校学外カウンセラーの守屋優子先生(臨床心理士)に「カウンセリングとは」と題して講演をしてもらいました。本校のカウンセリングの支援体制、カウンセリングとは、その効果、事例など、分かりやすく丁寧にお話しいただきました。

カウンセリングとは

悩みがあるからというよりも
話すことで自分の気持ちを発見していく作業
であり、
言葉で自分の気持ち(感情)、考え、意思を
発見していく課程である。

気持ちの発散
(すっきり!!)

自分の気持ちに向き合うと...

勇気を出して自分の気持ちを認めると

他のこともみえてきた

自己理解が進む

自分の気持ちが変わると...

本校の学外カウンセラーの来校日時です。
空いている場合は、飛び込みでも対応いた
ただけますが、予め予約していただけれ
ば確実です。

学生さん以外に、保護者の方のご相談に
も積極的にご利用ください。

明石 拓爾 先生 (第3木曜日 16:00~)

守屋 優子 先生 (毎週水曜日 17:30~)

高橋 堯 先生 (毎週月・火曜日 16:00~)

人権講演



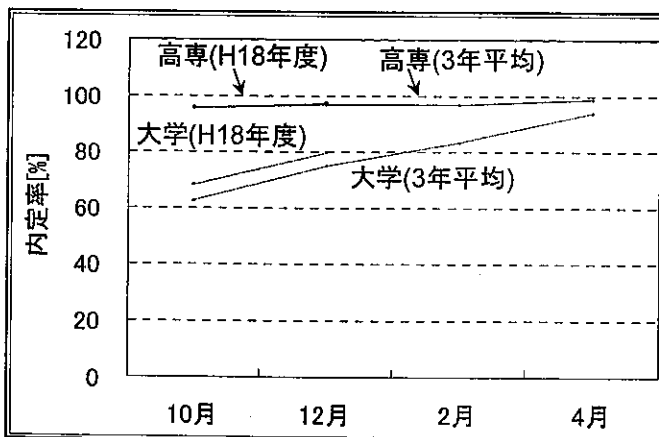
1/19(金):元川東中学校校長の横山功大先生(現在、新居浜市人権擁護課人権啓発指導員)をお招きして人権(特に「いじめ」)に関する講演を行いました。さかさまにした地図を例にして同じ物でも見方を変えれば違ったものに見えること、違っていてもそれはすべて良いものであること、いじめをなくすには孟子の説く「惻隠(そくいん)の情」(弱者への慈しみ)が大切であることなど、さまざまなご経験からお話しいただきました。

高専の就職率

本年度の12月における全国の大学と高専の就職内定率調査が文部科学省より発表されました。過去3年間の平均グラフも示しています。本年度12月における高専の就職内定率は97.3%、大学は79.6%となっています。大学と異なり、高専の場合は10月の時点から96%以上の内定率を誇っています。

本年度の新居浜高専求人倍率は平均で約
1.8倍(100人に対し1800社)です。

	M	E	D	C	Z
就職決定者数	79%	68%	47%	44%	63%
進学決定者数(うち専攻科)	21%(8%)	32%(16%)	47%(25%)	56%(20%)	29%(13%)
専門学校・その他	0%	0%	6%	0%	8%



今後の予定

2月15日(水) 後期寮生大会、送別会
2月19日(月) 休講日(本科入学試験のため)
2月21日(水) 学年末試験(~28日まで)
3月08日(木)~ 春休み
3月20日(火) 卒業式

平成 18 年 7 月 26 日

1 年生工場見学実施報告書

1. 目的

社会における技術系職業についての理解を深め、技術者としての意識を高めるとともに、地元の企業に関心を持たせる。

2. 事前学習

日時：平成 18 年 7 月 14 日（金）特活、課外特活時間

見学先の事業内容などを予め調べさせ、質問内容などを整理。

内容：訪問先会社の 1.概要 {正式社名、資本金、従業員数、社長名、設立、売上高などのデータ}, 2.製品および事業内容, 3.会社の沿革, 4.採用情報, 5.求める人材像, 6.質問したい内容 その他

見学に対する注意事項

見学の目的の説明, 見学訪問先に対して失礼のないよう、服装（学生服）と身だしなみ（ボタンやシャツ出し）に対する注意、見学の態度、姿勢に対する注意を充分に実施。（茶パツ、ピアス等をしているものは参加させない旨の徹底と、見学時は全員から携帯電話を預かること、その他の指導。）

準備物（筆記用具、傘など）その他の連絡

3. 見学先

1 年 1 組：パナソニック四国エレクトロニクス(株)（西条市福武甲 2 4 7 番地）

1 年 2 組：ルネサステクノロジー(株)西条事業所 {旧三菱電機西条工場}（西条市ひうち 8-6）

1 年 3 組：今治造船(株)西条工場（西条市ひうち 7 番 1 号）

1 年 4 組：住友化学(株)愛媛工場（新居浜市惣開町 5 番 1 号）

1 年 5 組：住友重機械工業(株)愛媛製造所（新居浜市惣開町 5 番 2 号）

（移動：借り上げバス）

4. 日程

見学日時 平成 18 年 7 月 19 日 10:00～11:30

日程 8:35 SHR（工場見学の諸注意など）

9:30 出発

9:50 工場到着

10:00 ～ 11:30 説明、見学および質問

11:40 工場出発

12:30 石鎚ふれあいの里 昼食（弁当）

13:30 事後学習、親睦をはかる活動

14:30 石鎚ふれあいの里出発

15:20 帰校

5. 参加者および引率者

1年1組：学生43名（欠席者なし）、引率者：鹿毛敏夫（担任）谷口佳文（副担任）

1年2組：学生41名（欠席者2名）、引率者：安藤進一（担任）横山隆志（副担任）

1年3組：学生42名（欠席者1名）、引率者：矢野潤（担任）栗原義武（副担任）

1年4組：学生42名（欠席者1名）、引率者：野田善弘（担任）西井靖博（副担任）

1年5組：学生43名（欠席者なし）、引率者：大村泰（担任）松原靖廣（副担任）

6. 事後学習

日時 平成18年7月19日 13:30～14:30（見学日の午後、石鎚ふれあいの里にて）

工場見学において感じたこと理解したことをまとめた。（見学で印象に残ったこと、自分自身に取り入れて役に立ちそうなこと、学校生活に取り入れて利用・改善できそうなこと、見学中に質問した内容とその回答、見学の感想）

これらの内容を全員が紹介し体験を共有した。

7. 研修の成果

（1年1組）

パナソニックという各家庭に商品が普及している身近な工場を具体的に見学でき、見学後の質問時間が足りないくらい多くの質問が出ていた。事後学習でも、「仕事はチームプレーであり、個人プレーではないことがわかった」「時間を決めて、集中して仕事をする事の大切さがわかった」等の意見が多く出て、自己の高専での生活に活かそうとする姿勢が見られた。

（1年2組）

事前学習では、事業内容や製品に関する学習を中心に行いましたが半導体製品という、日常目にしないものを扱っているため、学生のモチベーションを上げる取組みが中心となりました。しかしながら、全員が工場見学に意義をみいだしたとはいえない状況でした。工場見学当日は多くのものが分からないなりに見学しましたが、やはり一部やる気が見えない学生がいました。事後学習で書かせた報告書では、内容に差があったものの各々自分なりに工場見学の成果をまとめていました。感想としては肯定的なものが多かったです。私見となりますが、一年生は混合学級であるため、特定の企業や工場への見学が難しいと考えます。今後は、ごみ処理施設や公

園などの公共施設(物)管理などの見学を行わせてみるという方法も視野に入れてもよいのではないかと思います。

(1年3組)

まず会社の概要や沿革について研修室において説明と VTR 上映があり、事前学習では得られなかった数々の情報（世界一の技術や設備の詳しい説明、新居浜高専の OB の情報など）を知ることができた。あいにく大雨の天候のため、バスでの工場見学となったが、初めて見る世界一のクレーンやドックの効率よい設備などに学生は感心していた。また質問する学生も見られた。全般にわたって学生には好評であり、楽しく得るものが多かったというものがほとんどであった。

(1年4組)

工場の施設・機械の複雑な構造や、研究開発に携わる技術者たちの真剣な姿に多くの学生が感銘を受けたようである。また、自らの将来を考えるよいきっかけとなった、あるいは勉学への意欲をもつことができたという報告も受けた。学生は真剣に礼儀正しく、積極的に研修にとりくんだ。また、事後学習では、体験を共有するとともに、クラスの親睦をはかることができ、たいへん有意義な研修であった。

(1年5組)

多くの学生が、工場のスケールの大きさや、事前学習では知りえなかった情報（医療機器まで取扱っていることや、開発中の製品や組立て行程など）いろいろな発見に驚いたこと、および、最後の質問時における人事の人の説明に、会社として必要としている人材の考え方などさまざまな面から、多くのことを吸収できたことを報告してくれた。ほとんど全員が、見学は楽しくなったと答えてくれた。

8. その他

前日までに大雨が予想されたので、屋内研修施設の確保のため午後の研修先を西条チロルの森から石鎚ふれあいの里に急遽変更して実施。予想通り大雨であったが事故も無く無事見学及び研修を実施できた。なお、天候のため親睦をはかる活動を切り上げ予定より少し早めに帰校した。

服装（茶パツ、ピアス）の違反で不参加にさせた学生は無く、欠席者は病欠等による者のみであった。

工場見学 事前学習

1年 組 番 氏名 _____

1. 会社の概要

会社名 _____

資本金 _____

従業員数(全体) _____

社長名 _____

設 立 _____

売上高 _____

本社・支社・事業所・工場・営業所・研究所等の場所および数

その他 _____

2. 会社の製品および事業内容

3. 会社の沿革(歴史)

4. 採用情報

職 種	
採用学科	
採用人数	
初任給	
勤務地	
福利厚生	
休 日	
勤務時間	
その他	

5. 求める人材像

6. 質問したい内容その他

工場見学 事後学習

1年 組 番 氏名 _____

1. 見学して印象に残ったこと

2. 自分自身に役に立ちそうなこと、改善できそうなこと

3. 学校で役に立ちそうなこと、改善できそうなこと

4. 見学中に質問したことと、その回答

4. 感想

1 年 ク ラ ス 別 図 書 館 利 用 状 況

平成19年3月1日現在

学年	クラス	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
1 年 生	1組	冊数	73	59	54	122	4	22	61	30	19	44	24		512
		人数	39	32	22	39	1	6	32	6	5	25	1		208
	2組	冊数	48	94	130	29	6	34	32	55	10	10	4		452
		人数	9	16	36	9	2	9	5	19	4	4	1		114
	3組	冊数	5	15	39	16	0	3	3	4	6	4	3		98
		人数	1	3	29	3	0	3	3	3	2	3	2		52
	4組	冊数	30	21	58	10	4	5	9	7	10	56	40		250
		人数	10	6	31	5	3	1	3	2	3	24	5		93
	5組	冊数	10	27	78	16	3	11	14	7	8	43	5		222
		人数	5	5	38	4	2	5	3	3	3	22	2		92
	小計	冊数	166	216	359	193	17	75	119	103	53	157	76	0	1,534
		人数	64	62	156	60	8	24	46	33	17	78	11	0	559

(注)人数は実人数

カウンセリング講演依頼書

新居浜高専 学生相談室長
今城英二 殿

新居浜高専 第1学年 学級担任・副担任

1年1組 鹿毛敏夫, 谷口佳文
1年2組 安藤進一, 横山隆志
1年3組 矢野 潤, 栗原義武
1年4組 野田善弘, 西井靖博
1年5組 大村 泰, 松原靖廣

高専に在籍している学生の年齢は最も多感であり、さまざまな悩みを有し、さまざまな原因から人間不信や不登校などに陥る場合があります。しかしながら、問題を有する学生ほどなかなかカウンセリングに赴こうとしないケースも多々見受けられます。そこでこの度、本校第1学年の学生を対象としたメンタルヘルスケアの一環として、下記にありますように特活を利用したカウンセリング講演を計画しております。本計画のための講師の選定・手配およびかかる諸経費等につきましてご高配を賜りますようお願い申し上げます。

記

1. 目 的 学校におけるカウンセリングの事例などを知ることによって、悩みを共有し、孤立化することなくカウンセラーに相談することを促し、また、他人の悩みを理解することで、自分を励まし他人を思いやる心を養う。
2. 日 時 平成18年12月8日 金曜日 14:25～ 40分程度
 または
 平成18年12月22日 金曜日 14:25～ 40分程度
3. 参加人数 本校第1学年全クラス
 43名×5組＝215名 ほか 担任・副担任10名
4. 開催場所 視聴覚教室予定

人権講演依頼書

学生課教務係 御中

新居浜高専 第1学年 学級担任・副担任

1年1組	鹿毛敏夫, 谷口佳文
1年2組	安藤進一, 横山隆志
1年3組	矢野 潤, 栗原義武
1年4組	野田善弘, 西井靖博
1年5組	大村 泰, 松原靖廣

このところ、いじめを苦にした自殺あるいは教師も含めたいじめの実態などが世間でも物議を醸しております。そこでこの度、本校第1学年の学生を対象とした人権教育の一環として、下記にありますように特活を利用した人権講演を計画しております。本計画のための講師の選定・手配およびかかる諸経費等につきましてご高配を賜りますようお願い申し上げます。

記

1. 目 的 多様な考え方や価値観をもつ他人を理解し、自分の権利と同じように他人の権利も認め合う心を養い、平等で明るく幸せに生活できる学校を築く。
2. 日 時 平成19年1月19日 金曜日 14:25～ 40分程度
3. 参加人数 本校第1学年全クラス
43名×5組＝215名 ほか 担任・副担任10名
4. 開催場所 視聴覚教室予定

平成 18 年度 1 年生担任連絡会（年度前 1 回） 議事録

日時：平成 18 年 1 月 16 日（木） 15:10～16:30

場所：教職員連絡コーナー南会議室

出席者：柳井，間淵：（教務主事補），安藤，矢野，野田，鹿毛，大村：（H18 年度 1 年担任）

記録：大村

1. 1 年生研修の日程について

1.1 入学式・始業式

柳井先生より平成 17 年度の新入生研修プログラムが示された。

平成 18 年度も同様の日程になったと仮定して、以下の意見があった。

- ◎ 入学式が金曜日で、土日をおいて始業式が月曜日になると、その間の寮生のケアおよび荷物の搬入が平日になることに対する保護者の負担、入学式への保護者の参加などの面から、入学式を日曜日、始業式を月曜日にするほうが望ましい。
- ◎ 新入生最初の研修は入学日の 40 分および始業日のわずかしかない。英語の実力試験あるいは数学の学力確認試験のいずれかをやめてもう少し時間をもらえると良い。
- ◎ または、入学日と始業日の間の土日が空くのであれば、その間に 1 年生研修の時間をとってもらいのではないかな。
- ◎ 始業日の英語実力試験および学力確認試験は、8:30～16:45 までスケジュールびっしりの新入生にとって大変な負担ではないか、本当に必要なのか？せめて英語実力試験だけでも 1 年生は免除してもらえないのか。

これらの件に関しては、入学式と始業日の設定、実力試験の実施など総合的なスケジュールに関するものであるので、連絡会の意見として教務委員会および英語科に申し入れる。

1.2 大洲研修日程

柳井先生より平成 18 年度は、5 月 19 日（金）、20 日（土）を予定している旨の説明があった。

2. 1 年生研修の目的と方法について

柳井先生より 1 年生の研修の目的、研修の柱、研修の時間、研修方法などについて大まかな案が示された。

これらの詳細については、クラスごと、あるいは共通に実施すべき研修（オリエンテーション）項目の詳細を次回までに持ち寄ることとした。

3. 平成 17 年度における大洲研修の問題点

以下の問題点が柳井先生、間淵先生より指摘された。

- ◎ 集合・整列・点呼がきちんとできず時間がかかった。（練習をしたにもかかわらず）
- ◎ 禁止物品（携帯電話）が守られていなかった。
- ◎ 入浴後少し茶髪気味になった学生がいた。
- ◎ 服装（体操服）が守られていなかった。

◎ 時間が詰まりすぎて余裕が無かった。次のスケジュールとの間のつなぎ時間が取られていないためあわただしかった。

ほとんどは学生指導に関することであるので、別途、充分指導する必要性の認識で一致した。

4. 1年生の指導に関して

茶髪・ピアスの問題に関して、入学前から高専では自由に出来るという認識で入学してくる学生が多く、入学式でもそれが見受けられることから以下の意見があった。

◎ 入学式の日には保護者に対し、身だしなみのルールについて説明する場が必要である。

◎ 入試の面接日に、高専では茶髪・ピアスを禁止している旨の説明と同意を得ることをしてはどうか。

この件に関しては、教務委員会および面接実施の各専門学科に打診する。

5. 次回開催日について

今回は2月16日(木) 15:10～教職員連絡コーナー南会議室にて実施する。なお、野田先生が当直の場合は学寮管理棟に場所を変更。

平成 18 年度 1 年生担任連絡会（年度前 2 回） 議事録

日時：平成 18 年 2 月 16 日（木） 15:10～18:15

場所：教職員連絡コーナー南会議室

出席者：柳井：（教務主事補）、森長（H17 年度担任）安藤、矢野、野田、鹿毛、大村：（H18 年度 1 年担任）桑田（教務主事：一時）

記録：大村

1. 学年主任の役割および学年ごとの活動について

学年主任の役割および学年ごとの活動の大綱が示されたことについて、内容の説明が行なわれた。この中で、新しい試みとして学年便りの発行、1 年生の日帰り工場見学の実施計画について協力を要請した。

2. 来年度の 1 年生クラス副担任について

教務主事より示された副担任との組み合わせについて意見を伺った。副担任と担任の組み合わせについて特に異議は無いが

◎ 予定クラスが変更となることについて時間割りなどに支障がきたさないのであればよいが。

◎ 元の予定クラスでも特に支障が無いのではないか。

などの意見はあった。

桑田教務主事が来室され、経緯の説明がなされた。

3. 始業式までの予定について

柳井教務主事補より以下の予定説明があった。

◎ 3/9 入学予定者説明会において、服装、ピアス、茶パツ、マナーなどについての学校方針の説明を加えることとなった。

◎ 4/7 入学式（本年度は変更不可）

◎ 4/8,9 の 2 日間で寮の研修および新入生研修を各々 1 日づつ実施する。

以上の件について

1. 3/9 における学校のマナーについての説明は、学生委員会にお願いしたい。

2. 3/8, 9 の研修については、特に緊張の中で入学式以降 3 日間も拘束したあと始業式、授業開始となり、結果的に寮生においては 4/6～4/14 まで 9 日間休むことが出来ないなど、学生の健康面において心配である。体調面から見て研修が効果的でもない。などから中止をお願いしたい。また、新入生研修については、特活および課外特別活動の時間を利用して落ち着いて実施したい。

という意見で一致した。

4. 本年度の 1 年生に対する、研修や指導内容について

現 1 年担任の森長先生より、今年度の 1 年生に対する以下の取り組み内容についての実績の説明をしていただいた。

保護者の皆様へ、特別活動内容、夏休みの注意事項、夏休みの宿題一覧、研修アンケート、中間アンケート、学習時間調査票、学習成績事故点検表など

5. 大洲研修について

大洲の研修内容についておおむね以下の内容で合意した。

- ◎ 高速道路が整備された今では 11:00 時には到着できるので入所式を早めてもらう。(余裕ができた時間で、現地説明やミーティングの時間に充てる。)
- ◎ 初日はウォークラリー、2 日目にカヌーをお願いする。
- ◎ 初日のクラスミーティングを綱引きの中に取り込み、綱引きの時間に余裕をとる。
- ◎ 引率メンバーは、校長 1、担任 5、女性教員 1、教務主事&主事補 4、学生委員 1、体育教員もしくは安藤先生のクラスの副担任 1、事務職員 2 の合計 15 名で計画依頼する。
- ◎ 事前に校歌、ラジオ体操の練習を少なくとも 1 回は実施
- ◎ 事前研修を遅くとも 4/21 より実施
- ◎ 部屋割り担当、その他＝大村
- ◎ 集合・整列・点呼およびその他の反省事項については担任が心して指導を行う。

6. 1 年生工場見学旅行について

来年度から実施される工場見学について、以下の形態で実施したいという意見で一致した。

- ◎ 実施は 1 日をかけて行う。
- ◎ 将来のエンジニアとしての意識付けのために、実施単位はクラス毎ではなく学科毎で実施し、専門科目の主任副担任にも引率をお願いしたい。
- ◎ 住友化学、住友金属鉱山、住友重機、住友共同電力、住友建設、住友林業など複数の会社へお願いし、1 学科あたり学科と関連の深い企業 1 とその他 1 の 2 工場の見学を依頼する。
- ◎ 出来得るならば、他の学年の見学旅行、研修日などと日をそろえていただくと、授業措置の面など引率もやり易く、寮での弁当の手配なども依頼しやすい。

7. 次回開催日について

今回は 3 月 8 日（水）16:00～教職員連絡コーナー南会議室にて実施する。

平成 18 年度 1 年生担任連絡会（年度前 3 回） 議事録

日時：平成 18 年 3 月 8 日（木） 13:40～15:00

場所：教職員連絡コーナー南会議室

出席者：安藤，矢野，野田，鹿毛，大村

記録：大村

1. 第 1 学年運営基本方針について

平成 18 年度第 1 学年運営基本方針について、協議の上別紙の通り決定した。

2. 来年度の課外特別活動について

もの作り工房より、来年度の課外特別活動の時間にももの作りのテーマを取り入れコンテストの開催が出来るようなものを提案してほしい旨の依頼があったことを説明。この件に関し以下の意見があった。

- ◎ 趣旨は理解できるが、全て担任に丸投げではなく、“〇〇のようなもの作りのテーマを企画したので課外特別活動の中で時間を作り、担任・副担任も協力してほしい”となるのが筋ではないか。
- ◎ もの作りは良いが、作りかけの作品置き場の問題、材料や工具など問題など細かな問題がたくさんあり、どのような協力体制、支援体制があるのか分からない。

この件に関して

よいテーマのアイデアがあれば、次回までに考えて持ち寄ることとした。

3. 本年度の特別活動予定について

平成 18 年度の特別活動について、年度始めは例年研修旅行の説明や事前研修あるいは学校のルールや諸システムの説明などに時間を割いているが、基本的に、入学して最初の月はまず、クラス内の緊張をとり、お互いを良く知るための体験的な研修に時間を割くべきであり、そのような趣旨に基づいた特活の内容にしてはどうかという提案が合った。

このことも踏まえ、次回までに特別活動の実施内容について意見を持ち寄ることとした。

4. 次回開催日について

次回は 4 月 4 日（火）9:00～ 教職員連絡コーナー南会議室にて開催。

日時：平成 18 年 4 月 4 日（火） 9:00～11:40

場所：教職員連絡コーナー南会議室

出席者：鹿毛・谷口、安藤・横山、矢野、野田・西井、大村・松原

記録：大村

1. 平成 18 年度年間教育目標・方針について

第 3 回の議事において検討された第 1 学年運営基本方針に基づいて作成した、平成 18 年度年間教育目標・方針案について協議した。

“図書館の利用指導などを通した読書習慣の確立に努める“という内容を追加することで一致し、平成 18 年度年間教育目標・方針（別紙）が了承された。

2. 特別活動年間予定表について

特別活動年間予定について別紙のとおり計画された。

なお、4/14 および 4/28 は課外特別活動と抱き合わせて図書館利用オリエンテーションを実施する。

補足）性教育講話は、昨年度既に同じ講師に依頼済みであり 6 月 30 日に予定されている旨の連絡を鴻上先生より受けましたので、予定をその日に変更しています。

3. 課外特別活動年間予定表について

課外特別活動年間予定について別紙のとおり計画された。主に物作りをテーマとした内容を主体とし、適宜指導の協力を依頼することとした。

なお、実施主体は学級担任・副担任に依るところがほとんどであり、計画も含め課外特別活動のあり方に対する疑問の声もあった。

4. 工場見学旅行について

工場見学旅行の計画案が示され、1 日に 2 工場を見学する現在の案から、午前中 1 工場のみ見学として、午後は別の場所で野外研修を実施する案が提案された。研修先は別途検討することとし、まずは、日程を 2 年生の研修旅行日と同一にすることで調整することとなった。

補足）この件に関して、第 2 学年主任の森長先生から、現時点では 6 月中を考えており、1 年生の大洲研修のことを考えると、実施日を揃えるのは難しいという回答をいただきました。

5. 学級経営計画について

本年度の画旧経営計画の提出依頼について、第 1 学年においては学年を通じて、保護者との連携、生活指導、進路指導などの指導方針、取組み方針は統一して連携をとるべきであるとの意見に従って、ショートホームルーム以外の内容は各クラス同一とすることで合意した。

原案は野田先生に作っていただき、メールにて追加修正を行うことで了承された。

6. 次回開催日について

本年度の各種委員会の日程が未定であるため、後日調整の上連絡することとなった。

日時：平成 18 年 5 月 2 日（火） 16:10～18:20

場所：第 2 会議室

出席者：鹿毛・谷口、安藤・横山、矢野、栗原、野田・西井、大村・松原

記録：大村

1. 各クラスの現状について

約 3 週間経過した現時点における、現状および問題点などについてクラス毎の報告を行った。

全体として、留年生に朝のショートホームの遅刻、授業欠課、などが見られる。各々家庭とも連絡をとり、非常に細かく指導している最中であり、暫く様子を見る。親の対応にも問題があると思われる事例もあり、1 年担任・副担任として全体の現状を把握、共有できた。

2. 学寮への依頼について

- 寮生について、35 分までの遅刻者は居ないが、ぎりぎりの学生が居るので、8:30 登校完了の指導をもう一度学寮にて徹底してもらうよう寮務主事に申し入れる。(5/2 済)
- 朝のショートホームの遅刻の現状を毎月教務に報告する際、各クラス担任より寮生における遅刻の現状を、寮にも毎月報告する。

2. 大洲研修において、規定違反により参加させなかったものについての指導について

学生委員会より、当該学生が出た場合の指導について、金・土の二日間とも実施するのか一日とするのか。また、指導内容などについて担任会の意向を示してほしいという点について、次のように依頼することとなった。(5/2 済)

- 学校での指導は金曜日のみでお願いする。
- 指導内容は、校内除草、反省文、主事説諭、校外ごみ広い（ローソン周辺、河川敷等）その他でお願いする。

3. ロッカールームの掃除について

1 年生の担当（後期）の分担について次のように振り分ける。

- 10 月：1 組
- 11 月：2 組
- 12 月：3 組
- 1 月：4 組
- 2 月：5 組

なお清掃回数は月 2 回の予定。

また、美術室等、1 年生が使用している教室の清掃状況については後日確認する。

4. 救急救命訓練について

低学年教育委員会がなくなったため、救急救命訓練の日程調整、依頼等については学生主事と寮務主事とで日程調整の上依頼してもらうこととなった旨の報告を行った。

5. 特活における夏休み前の諸注意

新居浜警察署生活安全課の講師に講話を依頼する件について、学生委員会の意向を報告し特活の中に組み入れることで了承した。日程は後日。

6. ロボコンルール説明会

ロボット研究会から、アイデアの提出が当初予定の 6 月 2 日では遅いと言うことで、6 月 2 日課外特別活動の振替として 5 月 8 日(月)に前倒しで実施する。講師は、宮田先生に依頼、資料はロボット研究会が A4 版 4 ページを用意する。

5 月 8 日当日、実験実習などを行っている学科に時間どおり修了してもらう旨のメールを送る。(5/2 済)

7. 工場見学について

工場見学についてとりあえず以下の内容を決定した。

- (1) 実施日は 7 月 19 日(水)
- (2) 費用は何処から出るのかの確認を行う。(5/2 済)
- (3) とりあえず、住友金属鉱山などと連絡をとりどの程度の人数を受け入れてもらえるのかを確認する。
- (4) 学科単位がよいかクラス単位がよいかは後日検討。

(2) については、教務主事に確認したところ、1・2 年生については数理および一般に配分予定の予算から出してほしい(予算はまだ未定であるが、そのような予定で裁量経費が配分された場合の話)という事であった。つまり、バス代は出ますとのこと。

平成 18 年度 1 年生担任連絡会（6 回） 議事録

日時：平成 18 年 6 月 8 日（木） 16:00～18:10

場所：第 3 会議室

出席者：鹿毛・谷口、安藤、矢野、栗原、野田・西井、大村・松原

記録：大村

1. 各クラスの現状について

1 組：健康に要配慮の学生 1 名

留年生：連休明けより自分からクラスに溶け込むようになってきた。今のところ大丈夫

2 組：インフルエンザも終息に向かってきた。

足を捻挫の学生 1 名

近久：退学の意向、保護者も了承。高卒認定試験を受け、建築の専門学校へ行き大工になる。試験後にも退学届提出予定

3 組：石川：（始業日以来の不登校）先月の報告からの進展無し。親も諦めている。保護者に退学勧告後連絡無し。

山本：（いじめ被害）大洲の研修以来、関係が改善され今のところ問題無し。
感染性胃腸炎にて登校停止あり

4 組：吉岡：（担任指導に従わず大洲に連れてゆかず）指導記録は別紙。大洲の代わりの学内指導は非常に真面目にこなし、評価もよい。その後、茶パツも改善、実質の欠課時間数も 1/3 に減少し、授業態度も改善。

5 組：4 月に授業を抜け出した学生 2 名 ⇒ 学生・教務両主事による保護者召喚注意。
その後は特に問題無し。

その他、SHR 遅刻気味の学生 2 名

2. 工場見学について

【報告】実施日 7 月 19 日（水）を確認

住友金属鉱山は寮生については、工場の工事を理由に断られる。

住友化学は 1 クラスのみ受け入れ可

実施単位は学科単位ではなくクラス単位とする。

その他の依頼先候補について

四国電力（西条火力）、住友重機、三菱電機（西条）、今治造船（西条）に以来を行う。

午後は、西条運動公園に集合し、各クラスで事後学習のあと親睦を深める活動を行う。

事前に、事前学習、見学の目標、注意事項などの指導を実施

3. 学年だよりについて

次回の学年だよりの内容について

【学校生活】

学校生活を知らせるために、百聞は一見にしかずと言うことで写真を多く掲載する。

カラー印刷とし、費用については、大洲研修の残金（クラスあたり約¥6000 程度）を充てる。

大洲研修の写真 → 学生就学支援係より（西井）

中間テストの風景 → 大村が撮影

寮の部屋換え時の写真 → 西井・野田撮影（各階毎あるいはクラス毎の写真）

【行事予定】

工場見学の予定、寮の部屋換えなど

【連絡事項】

夏休み中の生活に関する注意事項、お願い。

夏休みの宿題リスト

（1単位あたり2時間程度の分量を基準に依頼 → 依頼は大村
非常勤の先生には早め手配）

4、次回開催 6月27日（火）16：10 ～ 会議室は後日連絡

今回は、学年だよりの写真、記事などを持ち寄り、その場にて編集作業をする予定。

平成 18 年度 1 年生担任連絡会（7 回） 議事録

日時：平成 18 年 6 月 27 日（火） 16:00～19:00

場所：第 3 会議室

出席者：鹿毛・谷口、矢野・栗原、野田・西井、大村

記録：大村

1. 学年だよりについて

編集を行った。

写真面は A3 の 1 面とし、カラー印刷の後、裏に夏休みの注意、宿題表、工場見学予定などを白黒で印刷する

印刷は用度係に相談し、不可能であれば分担してローソンに走る。A4 面 1 枚 80 円

⇒ 用度係長に相談したところ OK が出ました。ただし、用紙は上白紙をこちらで購入して用意する。

2. 特活・課外特活の予定について

	特活	課外特活
6 月 30 日（金）	性教育講演	清掃活動
7 月 7 日（金）	新居浜警察署防犯講演	お手玉作り
7 月 14 日（金）	工場見学事前研修	同左

とすることを確認した。

ただし、6/30 雨天の場合は清掃活動を中止しお手玉作りを実施、翌週の晴天となった課外時間に清掃活動を実施して課外特活に振り替える。

準備品の連絡：針と糸（ソーイングセット）、ハサミ、ハギレ、中に入れるもの（小豆、大豆、米、ビーズ、そば殻、など）⇒ 水曜日までに学生に連絡

こちらで準備するもの：準備できない寮生や忘れた学生のための余分な材料、作り方の資料

3. 工場見学について

受け入れ可能な会社の報告および見学クラスの振り分け

パナソニック四国エレクトロニクス(株)	(1 年 1 組)
ルネサステクノロジー(株)西条事業所	(1 年 2 組)
今治造船(株)西条工場	(1 年 3 組)
住友化学(株)愛媛工場	(1 年 4 組)
住友重機械工業(株)愛媛製造所	(1 年 5 組)

となった。

日程について

8:35 SHR（工場見学の目的、意義、注意事項等）

9:30 出発

9:50 工場到着

10:00 ～ 11:30 説明、見学および質問

11:40 工場出発

12:30 西条チロルの森 昼食（弁当）

13:30 事後学習、親睦をはかる活動

15:10 西条運動公園出発

16:00 帰校

事後学習のためのプリントは別途用意する。

4. クラスの現状について

1組：前回報告より特に変化無し

3組：石川：(始業日以来の不登校) その後連絡無し。

4組：茶髪指導中の学生：4名、脱色から現状に戻っている学生、戻した学生、保護者に親に連絡し改善した学生、髪が痛みすぎて手の施し様のない微妙な色の学生など。

5組：ピアス注意の学生2名、注意後はしてきていない

5. 放課後の居残り学生について

7：30頃に暗い教室で男女学生2名のみの状態があった。

○学生は5時までには帰宅

○教員の指導のもとでは7時まで

という申し合わせを確認し、学生に対し今一度念を押すことで一致した。

6. 英語実力養成講座について

要項が後ほど配られるので、学生に積極的に参加するよう勧めてほしい。

申込締切 7/18(火) 教務係まで

平成 18 年度 1 年生担任連絡会（8 回） 議事録

日時：平成 18 年 7 月 18 日（火） 18:45～20:45

場所：第 3 会議室

出席者：稲見、鹿毛・谷口、安藤・横山、矢野・栗原、野田、大村・松原

記録：大村

1. 入試・広報誌編集委員会より

稲見先生より、新しくなった「羽ばたけ未来へ」の印象についてアンケートをとるための依頼と説明があった。次の日程の特活時間帯に WebClass を利用してアンケートを実施する。

9/1(金) 1, 2 組 , 9/8(金) 3, 4 組 , 9/1(金) 5 組

朝の SHR で昨年度および今年度の「羽ばたけ未来へ」とアンケート用紙を配布し予め目を通してもらっておく。特活の時間帯に、電気情報工学科棟の情報処理室と機械棟の第 2 演習室に移動し WebClass にログインしてアンケートに答える。

朝の段階で WebClass のログインパスワードを忘れた人を把握しておき、勝浦先生に依頼して再発行してもらう。

昨年度および今年度の「羽ばたけ未来へ」は 2 クラス分しかないので、終わった組は次の組に回す。

2. 工場見学について

(1) 午後の日程変更について

午後の日程について、天候が不順であることおよびお昼の弁当の持ち込みの制限などから西条チロルの森から、石鎚ふれあいの里に変更することで合意した。

8:35 SHR（工場見学の目的、意義、注意事項等）

9:30 出発

9:50 工場到着

10:00 ～ 11:30 説明、見学および質問

11:40 工場出発

12:30 石鎚ふれあいの里 昼食（弁当）

13:30 事後学習、親睦をはかる活動

15:10 石鎚ふれあいの里出発

16:00 帰校

なお、石鎚ふれあいの里では一人当たり¥100 の施設利用料が必要になるので、各クラス大洲研修の残金を持参のこと。

お昼ごはんを用意できない学生のために、石鎚ふれあいの里に行く途中で各々経路上でコンビニに立ち寄る。

(2) 事前指導について再確認を行った。

○茶パツ・ピアスは連れて行かない。

その代わり、夏休み中に出てこさせて反省指導する。

○服装は夏の制服（シャツをズボンから出したり、襟を開けたり

脱げそうなまでにベルトを緩めるなどの指導）

○挨拶の励行

- 携帯は朝 LHR にて回収し、事後学習が終了後返還する。(傷が心配な人は各自で携帯を入れる小袋を用意)
- 見学中の態度につて(私語をしない。だらだらついて行かない
真剣に耳を傾ける。ガムなどを食べない。速やかな移動)
- 必ず質問を1つは考えていく。
- 忙しい時季に見学させていただくと言う意識の植付け
- 筆記用具と傘、(作ってくれる人は弁当)を用意

(3) バス代について

バス代は 5 台で計¥273,000。一般教養科と数理科で折半していただくことで話しがついた。ただ、予算の件で予め一般教養科と数理科に負担いただくことを伝えていただくよう来年度以降お願いしたい。

3. 学校南側道路におけるチカンについて

7月18日(火)16:00 ころ帰宅中の1・3の女子学生がチカンに会いスカートの中を盗撮された。怪我はなし。担任の矢野先生がともに警察に出向き事情聴取。他の女子学生にも注意を喚起する。暫く高専周辺も警察によるパトロールをしてくれることとなった。

平成 18 年度 1 年生担任連絡会（9 回） 議事録

日時：平成 18 年 9 月 12 日（火） 16:10～18:30
場所：教職員連絡コーナー南会議室
出席者：鹿毛・谷口、安藤、矢野、野田・西井、大村
記録：大村

1. 工場見学旅行報告書について

報告書の内容について、訂正等あればメールにて連絡する。

研修の成果の欄に記入するクラス毎の担任のコメントがまだの人はメールにて大村まで。

研修参加人数と欠席理由の確認

2. 学年だよりについて

(1) 内容

○工場見学の写真と参加学生のコメント集

○12月までの行事予定（授業参観、ものづくりコンテスト、英語学力試験、ロボコン四国大会、四国体育大会ラグビー競技、国領際、総合文化祭、寮部屋替え、TOEIC テスト、後期中間試験、冬休み、など）

○地方祭りに関する諸注意（11/18 以外休まないこと、事故に注意すること、飲酒・深夜徘徊などの法令違反をしないこと、夜更かしなどで学業に差し支えないことなど）

(2) 編集

テンプレートを送付するので、各クラスで写真、学生コメントなどを書き込んでもらうようにしてまわしてゆく。10月の成績発送までに間に合うよう。

3. 課外特活の内容について

9/15(金)までは、お手玉と「はばたけ未来へ」アンケート

9/29(金)、10/13(金)は飛行機作り。

10/2(月)が物作りコンテストの登録締め切りであるので、積極的に登録を促す。

10/16(月)：物作りコンテストのエントリー

道具・材料（割り箸、堅紙、ハサミ、接着材、テープ、定規、カッターなど）は各自で用意させる。（忘れたものはちどりで購入あるいは借りる）

以降の予定は、10月に検討

4. 各クラスの現状について

1-1：9/1に茶パツ・ピアスの学生あり（夏休み後半からそうになっていたらしい）、当日呼び出し指導、親にも連絡。以降改善されている。

1-2：退学願いを取りに来て、提出待ちの状態の学生2名。

寮生で朝起きられず遅刻ぎみの学生1名

1-3：6/30に万引きの学生1名。SHRにときどき出てこない学生1名。

1-4：茶パツ気味の学生4名。地毛に戻りつつある途上の学生や判断に苦慮する場合あり。
担任の判断・指導に温度差があるので学校のシステムとしてチェック・指導してほしい。欠課50オーバーの学生2名には学科主任より8/31に指導してもらった。うち1名は改善されている。

1-5：9月になって5回遅刻の学生あり。3回目呼び出し指導したがその後2回の遅刻（そ

のうち 1 回は 1 限目欠課)。保護者に連絡し、様子見。担任の手におえないようであれば、学科主任や学生委員会にお願いすることも検討。

平成 18 年度 1 年生担任連絡会（10 回） 議事録

日時：平成 18 年 10 月 13 日（金） 18:30～19:00

場所：第 1 会議室

出席者：鹿毛，矢野，野田，大村

記録：大村

1. 16:30～18:30 成績不振など留意すべき学生へのアシスト会

まず各クラス毎で、担任から心配される学生および授業担当教員からの情報をいただきたい内容の報告があり、後から各授業担当教員から当該学生に対する現状および他の心配される学生について報告があった。

1，2 年生まとめて実施したため時間がかかったが、クラス担任が把握しきれていない情報や複数の科目で同様な事例があるなどいろいろな情報が収集でき有意義な会議であった。

2. 課外特活について

- 10/20(金)は引き続き飛行機の製作を実施
- 10/27(金)は第 1 体育館においてクラス対抗飛行機記録会を実施
- 11/3 祝日，11/10 国領際のため以後の計画は後日

平成 18 年度 1 年生担任連絡会 (1 1 回) 議事録

日時 : 平成 18 年 10 月 31 日 (火) 16:10~19:00

場所 : 第 3 会議室

出席者 : 鹿毛・谷口, 安藤・横山, 栗原, 野田・西井, 大村・松原

記録 : 大村

1. 今後の特活について

- (1) 昨年度同様、人権講演を依頼する。教務係り宛、人権講演依頼書は別紙のとおりに了承された。(1/19(金)予定)
- (2) 学生相談室にカウンセリング講演を依頼する。相談室長宛、カウンセリング講演依頼書は別紙のとおりに了承された。(12/8(金) or 22(金)予定)
- (3) その他
卒業生講話は 11/24(金)予定, 主事講話 12/1(金)予定

2. 課外特活について

(1) 10/27(金)のクラス対抗飛行機記録会の記録

男子 1 位 : 4 組 美濃君 記録 30.0 m
2 位 : 5 組 越智君 記録 14.48 m
3 位 : 3 組 湊君 記録 12.68 m
女子 1 位 : 2 組 盛岡さん 記録 6.72 m
2 位 : 1 組 川島さん 記録 6.59 m

(男子 1 位の記録はものづくりコンテストの記録 22.7m を上回った。1 ~ 5 組までまんべんなく賞が分かれた。)

(2) 今後の予定 (以下の内容で了承された。)

- 11/17(金) : 5 クラス合同清掃活動
- 11/24(金) : 卒業生講話の後、防火避難訓練までの間、生活の反省、諸注意事項等
- 12/ 1(金) : 読書活動 (図書館の本を利用)
- 12/ 8(金) : 試験勉強会

3. 各クラスの現状について

1-1 : ○いじめ問題あり (専門の授業から帰ると机に「死ね」「帰れ」の落書きが 2 週に渡ってあり) 本人 (寮生), 専門科目教員, 家庭と連絡をとりながら対応中

1-2 : ○退学者 1 名

- 進級不能者 1 名 (退学決意表明後、夏休み中の就業の経験からやり直しに転換。)
- 針路変更希望者 1 名 (留年生、本人は辞めたい、保護者が反対していたが、担任のとりなしでほぼ合意)

1-3 : ○退学者 1 名

- 欠席が多い学生 1 名 (留年生、朝が起きられない)

1-4 : ○タバコによる停学者 1 名

- 10/13 のアシスト会で睡眠障害の疑いが指摘された学生 2 名 (検査の結果 1 名は白、1 名は欠課待ち)
- クラスで仲間はずれ状態の学生 1 名 (本人による嘘の流布が原因、本人も自覚、反

省。現段階では他クラスの学生と交流があり孤立はしていない)

○痴漢に遭った学生1名

1・5 : ○不登校気味の学生1名(専門必修があと1回のみの余裕、*印科目のこれ以上の欠課があれば留年確定) 保護者、専門科目、アドバイザーと連絡をとりながら対応中

4. 担任と副担任の役割・現状について

現在、副担任の先生には SHR および特活・課外特活、その他研修等においてサポートをお願いし非常に手助けをいただき助かっている。現状において以下の意見があった。

○2年生の場合は学科別であるので副担任の力も十分発揮できるが、1年生は混合学級であるので自分の専門科目の学生は1/5と少なく、やりにくいのではないかと。

○これに対し、いろいろな学科の学生を見ることが出来てよいとの意見もあり。

○担任経験の前に勉強になる。

○特活などと実験・授業が重なっているため物理的に出られない場合がある。授業時間割りの時に考慮いただけないのか。

○学科との連携を取りたいときに、副担任が固定であると1学科しかつながりが持てない。

副担任はクラスに固定せずに5人で各クラスをローテーションする。あるいは副担任としてではなく、学科担任と言う形で存在してはどうか。

○1年生の授業を担当している専門学科の先生が副担任になった方がよいのではないかと。

○学科のアドバイザーとの連携をうまくやれば副担任はいらないのではないかと。

○本当に温度差のない生活指導をするのであれば、副担任をおく代わりに生活指導グループと言う形で5クラスを満遍なく指導する立場の組織を作ってはどうか。

5. 次回開催予定: 11月28日(火) 16:10 ~ 第3会議室

平成 18 年度 1 年生担任連絡会 (12 回) 議事録

日時 : 平成 18 年 11 月 28 日 (火) 16:10~18:00

場所 : 第 3 会議室

出席者 : 鹿毛, 安藤, 矢野・栗原, 野田・西井, 大村

記録 : 大村

1. 今後の特活・課外特活について (以下の内容で了承された。)

○ 12/1(金) 特活 : 主事講話 (14:25~15:10)

1,2 組 = 階段教室 (席決めは担任で決定)

3,4,5 組 = 視聴覚教室 (席決め → 野田先生)

課外特活 : 試験前勉強会

○ 12/8(金) 特活・課外特活 : 諸注意事項, 試験勉強会

○ 12/22(金) 特活 : カウンセリング講演会 {守屋優子先生}

課外特活 : 冬休みの注意

○ 1/12(金) 特活 : 学習達成度, 後期中間の反省

課外特活 : 読書活動 (図書館の本を利用)

2. ロッカールームの清掃について

ロッカールームの現状について菓子袋が散乱し汚いとの主事からの連絡を報告

○ 学生にロッカールームを汚さないよう呼びかけの徹底をする。

○ 今後の清掃予定の確認 (基本的に 1 年生は第 2 週, 第 4 週)

12/1 のみ : 2 組

12 月 : 3 組

1 月 : 4 組

2 月 : 5 組

3. 提出物状況調べについて

1 年生の授業担当の先生に、提出物の不十分な学生および学習態度に問題のある学生について分担して問い合わせることを決定した。(各分担は以下のとおり)

調査結果は 1 年の各担任・副担任全員にメールで報告する。

国語 : 野田先生

英語 : 安藤先生

化学 : 矢野先生

地理, 倫理 : 鹿毛先生

数学, 物理 : 大村

各学科専門科目 : 各学科副担任

なお、美術, 音楽については該当クラスの担任が各自調査する。

4. いじめについて

(1・1 の学生について、)

(担任) 現在は問題はないようである。

(体育) 冷やかしなどがなくなって気を使っているようである。

(化学) 以前は質問によく来ていたが、最近少し暗い感じがする。授業で冷やかしなど

は無い。

(国語) 授業中の発表で心配したが、馬鹿にするようなことはなかった。

(専門) このごろは何も言っては来ていない。

など、保護者とも連絡は密にしており、今後も様子を見ていく。

(全体として)

高知高専のアンケートを参考に、1年生でもアンケートを取ることを了承。アンケート項目については学生主事に依頼。

5. 各クラスの現状について

1-1 : ○ 茶髪学生1名指導予定

1-2 : ○ 退学予定者1名(授業料の問題で調整中)

○ 進級不能者1名(現在たまに授業を受けている状況)

1-3 : ○ 深夜徘徊で補導された女子2名

1-4 : ○ 喫煙者1名、今週処分

○ 喫煙者2名(女子) 処分待ち

○ 以前変質者に襲われた学生は落ち着いた。

○ 音楽の授業での現状について

1-5 : ○ 不登校気味の学生1名、現在はたまに休む程度であるが、授業態度に問題あり。

○ 専門授業で教室が空いている間に自転車の鍵を盗まれた学生1名(以前にも財布から1000円抜き取られた)。嫌がらせの可能性も。本人は心当たりなし。即、席替えを実施

各クラス、盗難には十分注意するよう呼びかけを頻繁に実施する。

平成 18 年度 1 年生担任連絡会 (13 回) 議事録

日時 : 平成 19 年 1 月 23 日 (火) 16:10~18:30

場所 : 第 3 会議室

出席者 : 鹿毛, 谷口, 安藤, 横山, 矢野・栗原, 野田・西井, 大村, 松原

記録 : 大村

1. 今後の特活について (以下の内容で了承された。)

- 1/26(金) クラス別活動
- 2/2(金) 専門学科別活動 (進路指導など)
各専門学科への依頼は副担任に依頼、内容は学科に一任
- 2/9(金) 環境講話
1,2,3 組 : 視聴覚教室
4,5 組 : 階段教室
- 2/16(金) 学年末試験に向けて指導および諸注意
- 3/2(金) 一年間の反省、来年の目標

2. 今後の課外特活について (以下の内容で了承された。)

- 1/26(金), 2/2(金), 2/9(金)
3 回で、各クラスの記念に残るものを提案させて作る。文集、寄せ書きなど
- 2/16(金) 試験勉強会
- 3/2(金) 大掃除

3. 学年だよりの発行について

内容を検討

組立て飛行機記録会について、試験結果について、カウンセリング講演および人権公園について、現在の進路情報、今後の予定など

5. 各クラスの現状について

- 1-1 : ○ いじめについて、以前から問題の学生、まだ寮も含めていじめの実態がある。
精神的ストレスでゲップが止まらない症状あり。カウンセリングを受けた。次回は保護者も含めたカウンセリングを予定。加害者は現状では、いろんな子から受けている様子。隣に座りたがらない。(寮) くさいといわれた。部屋の電気を消された。など特定出来にくいパターン。
- 1-2 : ○ いじめを訴えてきた学生あり。保護者も尋ねてきた。担任・副担任、学生相談室長、一般科主任、一年主任で会議を持ち、中学校への聞き取り、他の人への聞き取りなど。現状様子がわかってきたので本人にも話をし、対するグループへの話も予定。収束しつつあり。
 - 退学手続き中 1 名
- 1-3 : ○ 学年末に向けて成績不振者が心配
- 1-4 : ○ 喫煙者 1 名、2 回目
 - 周囲の学生からいじめと思われる行動 3 件、いずれも当人はいじめとは感じていない様子であるので注視しながら様子見。
- 1-5 : ○ 不登校気味であった学生は現在学校に毎日出てくるようになっている。

- アンケートにていじめられていると認識している学生1名あり、様子を聞くが本人は無視しているとのこと。専門の実習の授業でちょっかいを出してくるようで、当人はその意識は無いと思われる。

◎ 2 学年

	学級担任		副担任	
機械工学科	森長	新	刑部	富夫
電気情報工学科	井門	英司	香川	福有
電子制御工学科	佐渡	一邦	占部	弘治
生物応用化学科	三井	正	牧	慎也
材料工学科	柴田	亮	日野	孝紀

1. 平成18年度運営目標・方針

1. 1 学習、学級活動に対する、学生の主体的な取り組みの実現
 - ・学生と話し合いながら特別活動等の活動内容を決定するよう努めた。
1. 2 組織的な学習支援、生活指導態勢の確立、活用
 - ・課外特別活動の時間を利用して、科目担当の先生方の協力をいただき、補習授業を実施した。夏休み明けに授業態度改善のために、携帯、マンガ、ゲーム機などの没収ルールを取り決め、2年団で組織的に指導を行った。

2. 平成18年度実施計画

2. 1 8:30運動の推進
 - [1] 8:30にホームルームへ赴くとともに、学生の登校を促し、十分なショートホームルームが実施できるようにする。
 - ・学科にもよるが、特に後期にショート・ホームルームの遅刻欠席が目立った。「学年だより」や懇談で保護者にも協力を依頼したが、大きな改善は見られなかった。結果、伝達事項の不徹底や特別活動に対する積極性が欠けるなどした。
2. 2 学生による主体的なクラス活動の実現
 - [1] 特別活動における、学生による主体的な活動を促す。
 - ・学生と話し合いながら特別活動等の活動内容を決定するよう努めた。しかし、結果としては担任発案の活動に落ち着いてしまい、学生の主体性は充分には発揮されなかった。予定表の作成時点から前期はこなさなければならぬ行事が目白押しで、比較的余裕のある後期も臨時緊急の要件でつぶれてしまうなどして、学生の主体的な活動の機会、余裕を奪ってしまったのも事実。
2. 3 良好な教室環境の保持
 - [1] 掃除当番による教室環境の評価報告といった学生の主体的な取り組みによって、環境美化意識の向上をはかる。
 - ・各学科おおむね週2回の掃除を実施。学科にもよるが、点検では良い評価をいただいた。
2. 4 家庭（寮を含む）学習の促進、定着
 - [1] 定期試験前に実態調査を実施するなど、各学級で方策を考え、学生の家庭学習の促進、定着をはかる。
 - ・1年次と同様に夏休みの課題を一覧にして保護者に配布した。また、休み中に課題を終わらせるために、電子メール、電話などによる課題終了報告をさせた。
2. 5 図書館利用の促進
 - [1] ショートホームルームで読書週間を実施する。
 - ・充分には実施できなかった。
 - [2] 図書館を利用した特別活動を行なって、学生が図書館を積極的に利用するよう

に促す。

- ・前期1回、学科によっては後期さらに1回の図書館を利用した活動を行った。しかし、図書貸し出し率は2年は全体的に低調な結果に終わってしまった。学級文庫を設置した学科もあったが、刺激程度にしかならず、読書の習慣付けまでには至らなかった。

2. 6 組織的な学習支援

〔1〕 無断欠席、遅刻の学生に対する指導を早期に行うとともに、欠課時数の多い学生に対する指導を、教務委員会作成のガイドラインにそって実施する。

- ・欠課時数の多い学生に対する指導には苦慮した。学生には、「授業はしっかり受けるもの」という意識が欠けている。

〔2〕 課外特別活動を活用した、組織的な学習支援（補習授業、キャリア・アップ教育）を実施する。

- ・課外特別活動の時間を利用し、科目担当の先生方の協力をいただき、補習授業を実施。前期は国語・英語・数学・物理・化学の5教科5クラス編成で1年次の復習授業を6回実施した。学生の希望と成績を参考にクラス編成を行った。前期の補習終了後に補習授業に関するアンケート調査を実施。その結果を参考にして、後期は英語2・数学A2・数学B2・物理2・化学2の5科目の試験対策授業を定期試験直前に3回ずつ実施した。学生は概ね積極的に取り組み活用していたが、一方で、極端に出席率が悪い学生や授業態度に問題のあるクラスもあった。また、各学科の協力をいただき、工場見学などの学外研修とキャリア教育（90分×2回）および卒業生講話を実施できた。さらに、夏休み明けに授業態度改善のために、携帯、マンガ、ゲーム機などの没収ルールを取り決め、2年団で組織的に指導を行った。改善は見られたが、私語や居眠りの増加といった事例もあり、課題を残した。

2. 7 組織的な学生指導

〔1〕 学級担任会を活用し、また専門学科、各委員会、学生相談室、保護者等も含めて連携して、情報交換を行ない早期に問題に対処する。

- ・学級担任会は月1回実施。それぞれ抱えている問題点を持ち寄り、組織的に対処するよう努めた。専門学科からはさまざま協力をいただき、また、担任が学科の会議に出席してクラスの状況を報告することもあった。学生委員会には茶髪学生の指導をお願いしたと同時に校内喫煙の対策に協力もした。この学年が1年次から抱えている問題点として、学生の集団時の態度の問題があった。このことも担任団が苦慮した点であったが、組織的に対応することによって、充分とは言えないまでも多少の改善は見られたように思われる。

〔2〕 保護者への情報発信、連絡などのために、学年だよりを発送する。

- ・学年だよりは、春夏秋冬の4回発送した。2年では、学年共通の部分と学科クラス固有の部分とを併せ持った、「2Mだより」「2Eだより」といった形で編集した。共通部分は学校のルール等の学生支援関係の説明、進級条件等の教務関係の説明など。学科固有の部分は、各クラスの状況報告。「学年だよりになっていない」といったご指摘もいただいたが、2年担任会としては、学科別になった2年ではベストの形と考え実施した。また、後期中間試験の成績報告に同封して、各学生の成績状況を保護者にお知らせした。具体的には、単位認定のために学年末で必要な各科目の点数、1年、追認も含めた各学生の累積修得単位数等の情報提供。学年だよりと合わせて、保護者の理解を深めることができたと考えている。

○ 総括的な評価と課題

補習授業や授業態度改善の組織的な学習支援の取り組み、各学科の協力を得た活動の取り組み、保護者への情報提供といった点に関しては、充分ではないかもしれないが、一応の成果があったと考えている。しかし、一方で、学生の授業態度の問題は依然として残っており、また、学生の校内外での問題行動として、2年生が最も多く学生委員会のお世話になったことも事実である。「とにかく単位を取れば文句はないだろう」とか「ばれなければいい」といった学生の意識を変えていくことが必要なのであり、この点が課題である。

平成18年度 2年 特別活動予定表

月日	課外特別活動	特別活動
4月14日	年間目標の作文	年間目標の作文、各種委員の選定等
4月21日	前期補習科目選択	本科履修要覧の解説
4月28日	前期補習1	図書館利用活動(M)／担任講話(他学科)
5月12日		学外研修の事前研修
5月19日	学外研修	学外研修
5月26日	前期補習2	学外研修の事後研修
6月2日	ロボコン説明会	ロボコン説明会
6月16日	図書館利用活動(E)／担任講話(他学科)	図書館利用活動(D)／校内清掃(MECZ)
6月23日	前期補習3	図書館利用活動(Z)／校内清掃(D)／担任講話(MEC)
6月30日	前期補習4	性教育講話
7月7日	前期補習5	性教育講話後活動
7月14日	前期補習6	夏休み前の諸注意
9月1日		夏休み明け指導
9月8日	禁煙教育(M,E,D)／禁煙教育事前活動(C,Z)	禁煙教育(M,E,D)／禁煙教育事前活動(C,Z)
9月15日	禁煙教育(C,Z)／禁煙教育事後活動(M,E,D)	禁煙教育(C,Z)／禁煙教育事後活動(M,E,D)
9月29日		担任講話(席替え等)
10月13日	英語暗唱コンテスト	校内清掃(MECZ)／担任講話(D)
10月20日	後期補習科目選択	校内清掃(D)／担任講話(MECZ)
10月27日	各学科によるキャリア・アップ教育	各学科によるキャリア・アップ教育
11月17日	各学科によるキャリア・アップ教育	各学科によるキャリア・アップ教育
11月24日	後期補習1	卒業生講話
12月1日	後期補習2	主事講話
12月8日	後期補習3	学生による計画実施活動
12月22日		担任講話(冬休み前の指導、席替え等)
1月12日		学生による計画実施活動
1月19日		学生による計画実施活動
1月26日		学生による計画実施活動
2月2日	後期補習4	環境講話(C, Z)／環境講話事前活動(M, E, D)
2月9日	後期補習5	環境講話(M, E, D)／環境講話事後活動(C, Z)
2月16日	後期補習6	学生による計画実施活動
3月2日		担任講話

授業中は授業に集中すること！

1. 授業中に、携帯電話、ゲーム機、携帯の音楽再生機およびマンガ等はありません。よって、机の上に出さないこと。即没収します。授業中は授業に集中すること。

- ・携帯は翌日の放課後、
 - ・ゲーム機やi p o d等は一週間後、
 - ・マンガ等は学年末にならないと返却しません。
2. 居眠りはしないこと。私語はつしむこと。
3. 茶髪にしている者は早急にもとに戻すこと。また、ピアスも没収します。

平成18年度前期 第2学年課外特別活動 出席簿

国語			担当教員																合計 欠課数 時数
実施回数			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15		
実施月日																			
実施時限																			
1	浅野勝仁	M01																	
2	飯尾 彰	M02																	
3	高田 知広	M21																	
4	林 孝道	M28																	
5	向山直亨	M32																	
6	吉川祥太	M38																	
7	渡部恭平	M40																	
8	桑原信也	E09																	
9	十河大地	E16																	
10	西原祥太	E23																	
11	濱田 哲平	E24																	
12	星川 守	E27																	
13	松木 奈緒	E30																	
14	村上慶介	E33																	
15	生田真貴	D02																	
16	伊藤裕貴	D05																	
17	越智卓也	D12																	
18	須川安奈	D20																	
19	杉本裕貴	D21																	
20	藤堂祐樹	D23																	
21	平尾和弘	D30																	
22	藤田雄基	D33																	
23	青木メイ	C01																	
24	内田 唯	C07																	
25	小寺彩加	C12																	
26	高橋邦果	C20																	
27	直野朱美	C27																	
28	藤川由衣	C34																	
29	山田拓実	C40																	
30	一色奈津美	Z03																	
31	伊藤友紀	Z06																	
32	大元奈津美	Z10																	
33	岡澤 堯之	Z11																	
34	新家 和弥	Z21																	
35	田窪 紗希	Z25																	
36	田村 一将	Z26																	
37	山村 大地	Z41																	
38																			
39																			
40																			
41																			
42																			
43																			
44																			
45																			
46																			
47																			
48																			
49																			
50																			

[illegible]

平成18年度前期 第2学年課外特別活動 出席簿

[illegible]

[illegible]

平成18年度前期 第2学年課外特別活動 出席簿

英 語			担当教員															合計 欠課 時数
実 施 回 数			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
実 施 月 日																		
実 施 時 限																		
1	信 藤 稔 典	M18																
2	武 内 秀 明	M23																
3	土 岐 壮 太	M27																
4	藤 井 良 樹	M30																
5	柳 原 隆 史	M33																
6	矢 野 晋 次	M34																
7	矢 野 祐 也	M35																
8	渡 辺 省 吾	M41																
9	渡 部 祥 貴	M42																
10	石 川 大 貴	E02																
11	坂 部 一 平	E11																
12	高 橋 千 愛	E17																
13	槌 屋 大 二 郎	E18																
14	椿 本 慧 太	E19																
15	戸 川 康 平	E20																
16	西 谷 祐 樹	E22																
17	結 田 泰 文	E38																
18	横 井 勇 駿	E39																
19	東 遼	D01																
20	宇都宮 大 雄	D07																
21	河 村 周 治	D15																
22	篠 原 由 樹	D19																
23	曾我部 陸	D22																
24	濱 野 裕 士	D29																
25	松 木 一 晃	D36																
26	宮 内 武 紀	D37																
27	渡 部 心	D44																
28	安 藤 陸	C03																
29	神 野 麻 美	C15																
30	末 光 全 紘	C16																
31	多賀根 巧	C24																
32	玉 井 信 也	C25																
33	中 村 二 ゆき	C28																
34	西 川 絵 里 子	C30																
35	原 光 志	C33																
36	青 野 晃 平	Z01																
37	伊 藤 大 介	Z04																
38	上 原 隆 成	Z07																
39	大 西 央 峰	Z09																
40	黒 田 千 浩	Z15																
41	西 井 彬 人	Z28																
42	秦 雄 大	Z30																
43	日 野 耕 太 朗	Z33																
44																		
45																		
46																		
47																		
48																		
49																		
50																		

No.

[illegible]

No.

数学B		授業科目 課外特別活動								科目番号					後期					担当教官							
実施回数		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	実施総 時間数
実施月日																											
曜 日																											
実施時限																											合計
実施時間数																											欠課 時数
M01	浅野勝仁																										
M07	越智稔																										
M08	小野裕介																										
M15	合田尚恭																										
M16	佐伯慧太																										
M28	林孝道																										
M32	向山直亨																										
M36	山本悠貴																										
M40	渡部恭平																										
M41	渡辺省吾																										
E01	安藤賢人																										
E02	石川大貴																										
E03	大石哲史																										
E06	越智亮介																										
E15	曾我達																										
E24	濱田哲平																										
E26	藤田衛																										
E33	村上慶介																										
D10	岡田拓也																										
D20	須川安奈																										
D27	乗松圭																										
D28	服部友輔																										
D29	濱野裕士																										
D34	別宮弘剛																										
D36	松木一晃																										
D39	村上翔																										
D42	山口佳彦																										
C10	川上幸恵																										
C11	菊原将洋																										
C15	神野麻美																										
G19	曾我部剛																										
G25	玉井信也																										
G28	中村コゆき																										
G29	中村大地																										
G33	原光志																										
Z06	伊藤友紀																										
Z08	宇野将平																										
Z13	小笠原知希																										
Z19	近藤瑞喜																										
Z20	佐藤晃平																										
Z23	曾我部弘樹																										
Z25	田窪紗希																										
Z36	藤田祐嗣																										
Z40	村上太郎																										
																			</								

No.

[illegible]

No.

[illegible]

No.

[illegible]

2Mだより（春号）

2年機械工学科学生の保護者の皆様

陽春の候、皆様にはご健勝のことと存じます。平成18年度が始まり、学生たちは新たな環境で第2学年をスタートしました。今回は「2Mだより（春号）」として、本校で学生が遵守すべき諸規則等をご紹介いたしました。ご一読いただき、ご家庭でもご指導をお願いしたいと存じます。

記

1. 学生の車両使用について

- ・ 運転免許の取得は、法令上の取得年齢が来れば可能ですが、事前に保護者の承諾を得た上で「運転免許取得予定届出書」を提出しなければなりません。また、免許取得後は、「運転免許取得届」を提出しなければなりません。
- ・ 通学等での学校乗り入れができるのは、3年生以降。ただし、上記の書類を提出済みであることが条件で、事前に「車両使用許可願」を提出し、許可を得なければなりません。

2. 学生のアルバイトについて

- ・ 1、2年生のアルバイトは、長期休暇中をのぞき、原則として禁止です。特別な理由で希望する場合は担任にご相談ください。夏休みなどの長期休暇中にアルバイトをする場合は、事前に「アルバイト届」を提出しなければなりません。

3. 服装等について

- ・ 1、2年生は制服着用のこと。また、茶髪・ピアスは禁止。茶髪の者は5/8（月）までに黒くしてくるよう指導いたしました。よろしくお願いします。

4. カウンセリングについて

- ・ 学生相談室は、月～木曜日（木は第3）の16：00～17：00に利用できます。

5. 気象警報（大雨、大雪、暴風、暴風雪）発令時の授業措置

- ・ 午前7時の時点で東予東部に発令の場合、午前中休講。午前10時でまだ発令の場合、午後も休講。自宅通学の場合、自宅区域のみ発令の場合は特別欠席。
- ・ 携帯WEBで授業措置が確認できます。<http://www.off.niihama-nct.ac.jp/~keitai-hp/>

6. 学生が病気などの理由で欠席するときには、お知らせください。また、ご相談などありましたら気軽にご連絡ください。

以上

2M担任（学年主任） 森長 新（一般教養科国語）

TEL 0897-37-7822（研究室）

TEL 0897-46-4151（自宅）

TEL 090-5911-5451（携帯）

2M副担任 荊部 富夫（機械工学科主任）

TEL 0897-37-7740（研究室）

TEL 0897-34-9095（自宅）

教務係 TEL 0897-37-7725

2M行事予定（5月～8月）

5／2（火）	木曜日の授業
5／17（水）	学生大会、クラスマッチ（休講）
5／19（金）	学外研修（工場見学等）
6／9（金）～6／15（木）	前期中間試験
7／3（月）～7／7（金）	追認試験（17年度前期分）
7／8（土）～7／9（日）	1～4年生保護者懇談会
7／13（木）	体育大会激励会・校内一斉清掃（2時限休講）
7／15（土）～7／17（月）	四国地区高専体育大会
7／20（木）～8／31（木）	夏期休暇

2Mクラス委員

学級委員 田中聖也
会計委員 藤 大輔
図書委員 武内秀明
保健委員 林 孝道
体育委員 小野裕介
環境委員 藤田弘樹
代議員 吉田大輔

2Mだより(夏号)

1. 学外研修を実施しました。

5月19日、伊予市にあるタケチ工業ゴム(株)の伊予工場を見学しました。タケチ工業ゴムはガスケット(パッキン)業界の草分け的存在の企業です。東京ドーム、都庁、六本木ヒルズなどにもタケチの建築用ガスケット(窓枠とガラスを固定するゴム)が使用されています。各種製品の説明を受けた後、金型工場と製品の製造ラインを見学しました。学生たちの感想文には、「学校の実習工場で普段使用しているのと同じ工作機械(NC旋盤など)が、企業の工場でも使われているのを見て、実習を頑張ろうと思った」とか、「企業が持っている製品に対する責任を実感したし、信頼性追及の努力工夫に感心した」といったものもありました。有意義な研修になったようです。

2. 学級文庫(2M文庫)を設置しました。

4月: 4冊/3名 5月: 0冊/0名 6月: 0冊/0名

これは、我が2Mの本校図書館の図書貸し出し状況のデータです。4月28日(金)の特別活動の時間を利用して、「1人1冊借りること」と命じた上で、図書館で図書の探索活動をしました。その結果が上記の4月の数字です。本校の図書館では、学生の年間貸し出し数の目標を「1人10冊」としています。程遠い結果でした。ちなみに、4月の他学科、他学年の状況は次の通りです。

2E: 21冊/5名 2D: 7冊/3名 2C: 3冊/2名 2Z: 6冊/3名

1M: 33冊/21名 3M: 12冊/4名 4M: 34冊/18名 5M: 16冊/8名

そこで、翌週の特別活動で、上記のデータを示して、学生の意見を求め、対策を話し合いました。結果、教室に学級文庫(2M文庫)を置くことになりました。現在、手始めに担任の蔵書を入れていきます。アイザック・アシモフのSF: 15冊、星新一のショートショート: 1冊、丸山健二のエッセー: 1冊、手塚治虫「ブッダ」(1~12)、白土三平「カムイ伝」(1~15)といったものです。「カムイ伝」は人気で、「これ、おもしろい」と言って、多くの学生が読んでいます。アシモフのSFもシリーズ物で読みごたえがあるのですが、3、4名の学生が読んでいるようです。丸山健二のエッセー「生きるなんて」も、彼らの心に響くようで、人気があります。学生には、オススメの本を2M文庫に入れてくれるよう、声をかけています。また、学生の読書に対する興味も徐々に高まっていると思われる、これが積極的な図書館の利用にもつながればよいのだと考えています。

3. 性教育講話を実施しました。

6月30日、愛媛大学医学部看護学科から野本ひさ先生に来ていただいて、2年全体で性教育の講話を聴きました。2Mでは、事前(23日)に、性感染症に関する勉強会を行いました。男子学生ばかりなので、かなり具体的な話になりました。性感染症は、かつてのように一部の大人だけの病気ではなくなりつつあるようです。低年齢化も進んでいます。夏休みになります。十分に注意するよう指導しました。

4. 食育について

現在、2年生では、生物応用化学科の担任の柴田亮先生（化学担当）を中心に、「食育」に関する取り組みを始めています。第一歩として、6月26日～30日の間、学生の朝食摂取状況の調査をしました。2Mでは、7名の学生が十分な朝食をとれていないようです。この調査に関しては、後日、成績との相関等、詳しい分析をお知らせできると思います。朝、糖分が足りないと頭は働きません。学生にはしっかりと朝食をとってもらいたいと思います。

5. 夏休みは規則正しい生活を。勉強も！！

夏休み（7/20～8/31）になります。生活が不規則になりがちです。学生が、規則正しい生活をおくるよう、お願いいたします。また、各科目から夏休みの課題が出されます（夏休み宿題一覧表）。1日2時間の学習は必要な分量です。学生にも提示して指導いたしますが、ご家庭でもお知り置きください。さらに、アルバイトをする学生もいます（長期の休暇時のみ許可）。学生には「アルバイト届」の用紙を配布しました。保護者の同意が必要ですので、アルバイトをする場合には必ず提出させてください。

6. 後期分授業料免除等の申請について

平成18年度後期分の授業料免除等の申請書類を配布中です（7/3～）。書類の受付期間は9月1日（金）～9月13日（水）となっております。9月13日の17時以降は一切受理されません。免除を希望される場合は、担任の印が必要ですので、遅れないように提出させてください。

2006年7月7日

夏休み中の担任への連絡は、下記にお願いします。

機械工学科2年担任 森長 新

研究室 TEL 0897-37-7822

mail morinaga@gen.niihama-nct.ac.jp

携帯 TEL 090-5911-5451

mail axh6eh1fte2uuv9egq40@docomo.ne.jp

2Mだより(秋号)

2Mだより（秋号）をお届けします。今回は、進級条件について、特集してお知らせします。

1-1 授業出席について

各科目の単位が認定されるには、その前提条件として授業出席時数をクリアしていなければなりません。この条件をクリアしていない場合（欠課オーバー）は、その科目が単位認定されないばかりか、科目によっては（専門基礎科目）、その時点で進級できなくなります。ご家庭でも、授業にはしっかり出席するよう、ご指導ください。

さて、その授業出席の条件ですが、1単位の科目（半期科目）は、90分×15回の授業を行い、これで授業時数を30時間とカウントします（90分授業1回で2時間）。そして、その授業時数の3/4の授業時間に出席していなければなりません。この3/4の出席条件は、2単位の科目（60時間）、3単位の科目（90時間）、4単位の科目（120時間）でも同じです。よって、欠課時間数が下の表の時間をオーバーすると欠課オーバーとなります。また、遅刻、早退は3回で2時間の欠課として計算します。

単位（科目）	1（保健）	2（歴史1など）	3（国語2など）	4（数学A）
欠課時数	7 1/3	1 5	2 2 1/3	3 0

1/3は、遅刻1回。ご家庭でも、成績表の各科目の欠課時数をご確認ください。

1-2 進級条件について

進級条件の第1は、その学年までの修得単位数の合計です。各科目の単位は、最終成績が60点以上で認められますが、学年ごとに進級に必要な累積単位数が定められています。この単位数を修得していなければ、進級できません。次の表のとおりです。

学年	1年	2年	3年	4年
累積単位数	2 6	5 8	9 2	1 2 8
累積履修単位数	3 4	6 9	1 0 3	1 3 9（1 4 1）

累積履修単位数は、学科によって多少異なります。上は機械工学科の単位数です。4年のカッコ内の数字は、自由選択の科目を履修した場合の単位数です。

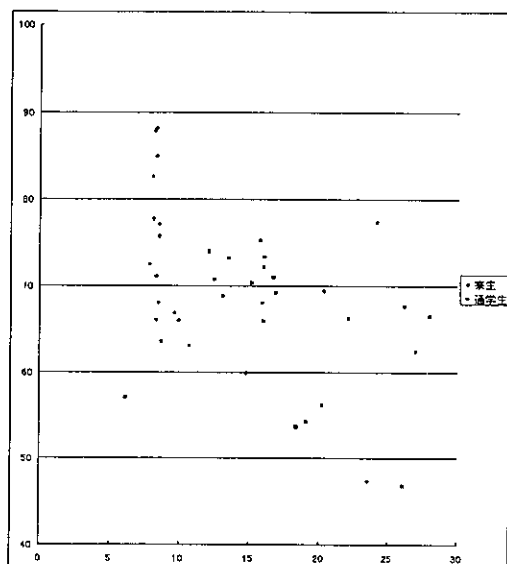
第2は、必修科目（主に実験、実習科目）を修得していなければならないという条件です。2年機械工学科では、機械製図2、工作実習2、工学基礎実験が必修科目です。

第3は、専門基礎科目が、1-1の授業出席条件を満たしていなければならないということです。専門基礎科目とは、卒業のための必修得科目です。4年生までに全て修得していなければ5年に進級できません。欠課オーバーの場合、追認試験を受けられませんので、欠課オーバーになると進級できなくなります。2年の専門基礎科目は、数学A-2、数学B-2、物理2、化学2、英語2A、英語2Bの6科目です。

条件の最後は、特別活動を修得していること。担任が可否で判定しますが、不合格の場合または欠課オーバーの場合は進級できません。

2 朝食調査の結果報告

夏号で朝食の調査を行ったこととお知らせしましたが、結果をまとめ分布図にしましたのでご覧ください。



横軸は栄養バランスの偏差値です。数値が少ない方(左)が栄養のバランスがとれています。縦軸は前期中間試験の成績(全科目の平均点)です。黒点が寮生、赤点が通学生です。はっきりした相関は見られませんが、全体的に左肩上がり(バランスのとれた朝食を摂っている学生の方が成績が良い)の分布になっているように見えます。

これから朝が寒くなります。学生の起床時間も遅くなりがちになり、朝食を十分に摂らなくなることが予想されます。ご家庭でもその点配慮していただければと思います。

昨年度、後期の方が朝のショートホームルームの遅刻者が増加しました。この点も、よろしくお願いします。

3 英語暗唱スピーチコンテストを実施しました。

10月13日(金)特別活動の時間に視聴覚教室で英語暗唱スピーチコンテストを実施しました。各学科の代表5名が、練習の成果を披露しました。2Mからは上浦章君がにこやかな笑顔で、流暢な英語を雰囲気たっぷりに披露してくれました。そして、なんと、1年生の代表5名を合わせた10名の中で総合1位に輝きました。上浦君は11月18、19日に開催される四国地区高専総合文化祭のスピーチコンテスト(暗唱の部)に本校の代表として参加します。総文でも、変わらぬ笑顔でがんばってほしいと思います。

4 後期の行事予定

10月21日(土)	授業参観日(月曜日の授業)	1月9日(火)	平常授業
10月23日(月)	21日の代休	1月11日(木)	化学共通テスト
10月28日(土)	英語学力試験(全員受験)	1月30日(火)	学生会役員立会演説会
11月10日(金)	国領祭前夜祭(休講)		クラスマッチ(休講)
11月11日(土)	国領祭(～12日)	2月3日(土)	保護者懇談会
11月13日(月)	国領祭後片付け	2月14日(水)	月曜日の授業
	校内一斉清掃	2月19日(月)	休講
11月14日(火)	月曜日の授業	2月21日(水)	学年末試験(～2月28日)
12月11日(月)	後期中間試験(～15日)	3月7日(水)	この日まで平常授業・終業式
12月25日(月)	冬休み(～1月7日)	3月22日(木)	進級判定会議

2年機械工学科 担任 森長 新 0897-37-7822(研究室)
副担任 刑部富夫 0897-37-7740(研究室)

2Mだより(冬号)

「2Mだより (冬号)」をお届けします。今回は、学生たちに今年度を振り返って作文を書いてもらいました。各学科1名ずつ代表して掲載します。

◎スピーチコンテスト

機械工学科 上浦 章

今年度は、初の校内スピーチコンテストの出場者に選ばれ、そして見事優勝してしまい、四国高等専門学校総合文化祭にも出場してしまいました。総合文化祭で発表する内容は校内スピーチコンテストよりも、およそ三倍近くの長さで、覚えるのにひと苦勞でした。

しかし、逆境にくじけず、あきらめず努力した結果、総合文化祭でも五位入賞というまあまあの結果を残すことができ、感激で胸が一杯になりました。このことが今年度一番の成果です。

今後は、この経験を活かし、さらなる英語の力の向上、そして来年度のスピーチコンテスト出場を考えて、努力を積み重ねていきたいと思います。

◎「冬休みの生活」

電気情報工学科 清水 謙太

後期中間試験が終り、冬休みに入るとすぐ次の日に、部活の大会がありました。私はソフトテニス部に所属していて、この大会は、新人戦の県大会で上位に残ることができたペアだけの大会なので、とてもレベルが高いということを聞いていました。自分の力を試すことができる機会なのでとても張り切っていたのですが、ベスト8で負けてしまいました。自分はそのとき、体が重く調子が最悪だったので、大いに悔いが残る結果になってしまい、日頃の練習での甘さを痛感した大会となりました。優勝や準優勝など、上位に残った選手は皆、自分を追い込んで練習しているからこそ強いんだろうと感じ、今回の反省を次に活かして行きたいと思いました。

大会の後、久しぶりに（学寮から）家に帰り、洗濯も親がしてくれ、テレビも見られ、点呼もないといった生活に慣れて、だらけ切った生活を送っていました。それでも、今までの疲れも癒えたので、冬休みが明けてからも頑張れるだろうという気力を養うことができました。

新年が明け、今年は今までにない最高の一年にしたいと思い、目標を立てました。今年の目標は「悔いを残さない」として、何事にも一生懸命に取り組もうと考えました。特に、今年で終わってしまう部活に全力を尽くし、最高の結果を残したいと考えているので、体調管理をきちんとし、今年も頑張って行こうと思います。

◎検定にチャレンジ

電子制御工学科 匿名希望

昨年の混合学級から学科ごとのクラスになり、授業もより一層難しくなりました。専門科目で、前期は電気回路、計測工学、後期は電気・電子実験、メカトロニクス基礎、1年間を通しては、デジタル回路という科目が新たに加わりました。そして数学のクラスは基礎と発展に分かれ、授業についていくのが大変になりました。成績は、前期中間はよかったけど前期末が悪かったので後期中間頑張りました。

他に力をいれたことと言えば、昨年初めて検定にチャレンジしました。本だけを見て自分一人の力で勉強するのはとても大変でした。しかし、あきらめずに頑張った結果、見事デジタル検定3級に受けることが出来ました。

昨年は1個しか検定を受けなかったけど、今年はTOEICや漢検など積極的にチャレンジして、自分の視野を広げたいと思います。そして、成績もより一層良くなるように頑張りたいと思います。

◎キャンパスベンチャーに応募して

生物応用化学科 川上幸恵

キャンパスベンチャーグランプリとは、新事業の提案コンテストです。私の提案内容は、地震災害時の家庭用非常電源としての長期保存電池というものです。書類審査が通り、最終審査のため12月15日に高松へ行きました。最終審査では、6分間のプレゼンとヒアリングを行います。トップバッターということもあり、今までにない緊張とプレッシャーで一杯一杯でした。プレゼンは練習通りにスムーズにできましたが、6分はあっという間でした。ヒアリングは2回質問に答えられない場面がありました。でも、自分のできる範囲で相手に伝えられるよう話せられたし、審査員の方にはさまざまな意見をいただきとても参考になりました。そして結果、入賞することができました。まさか入賞するなんて思いもしなかったもので、本当に嬉しいです。今回応募したことで、普段の生活では得ることができない経験がたくさんできました。それに自信が付いたし、頑張っただけで本当に良かったと思います。今後この提案をさらに発展させていければいいなと考えています。

◎クラスの雰囲気や近状について

材料工学科 匿名希望

クラスの雰囲気について書くことになったのだけど、僕は、何を書いたらいいかわからないのでとりあえず僕の思ったことを書きます。

まず二年材料科の担任の柴田先生は毎日とても忙しそうです。先生は家から自転車で毎日通勤しています。そして学校で生徒のために頑張っている仕事をしています。柴田先生は生徒に対してとても温厚なのでいい先生だと思います。でも先生には色々迷惑をかけてしまいました。そのときは本当にすみませんでした。

テスト週間になると僕はクラスメートがやっている勉強会に参加させてもらっています。そこで勉強を教えてもらっていますが、それなしではたぶん欠点ばかりをとっていただろうと思います。クラスメートには感謝しています。二年材料科はそんないい人たちばかりで、今の僕がここにいられるのはそういうクラスの雰囲気があるからだとおもっています。本当にそんな雰囲気の出ているクラスに感謝しています。

1. 交通安全について

寒くなりました。朝夕は寒さで身体もちぢこまりがちです。防寒着で反射運動能力が低下します。自転車通学の学生には、充分気をつけてもらいたいと思います。また、家庭でバイクに乗っている学生には、事故につながらないように安全運転を心掛けてほしいと思います。路面の凍結など、特に深夜に乗り回すのは危険です。なお、3年になって許可されればバイク通学が可能です。それまでは、バイクで学校に来ることは禁止されています。放課後、土日でも禁止です。もちろん部活で登校する場合も禁止です。学生がバイクで学校に行くようなことのないよう、お願いいたします。違反すると3年になってもバイク通学が許可されません。

2. 進級を目指して

学年末になりました。後期中間試験の成績と一緒に学生の成績状況をお送りしました。ご家庭でも状況を把握していただいていると思います。2年担任としても、重要な科目を担当する先生方に補習授業をお願いして実施してもらっております。学生も進級を目指してがんばっているところです。

2 E だより (春号)

平成 18 年 4 月

電気情報工学科 2 学年 (2 E) の保護者の皆様

陽春の候、皆様にはご健勝のことと存じます。平成 18 年度が始まり、学生たちは新たな環境で第 2 学年をスタートしました。今回は「2 E だより (春号)」として、本校で学生が遵守すべき諸規則等 (2 学年共通) をご紹介いたします。ご一読いただき、ご家庭でもご指導をお願いしたいと存じます。

また、現在、2 E では、5 月末までに終了する予定で、学生と担任の個人面談を進めるとともに、5 月 19 日に実施予定の学外研修も計画中です。なお、4 月～7 月の主な行事予定を挙げましたので、参考にご覧ください。

記

1. 学生の車両使用について

- ・運転免許の取得は、法令上の取得年齢が来れば可能ですが、事前に保護者の承諾を得た上で「運転免許取得予定届出書」を提出しなければなりません。また、免許取得後は、「運転免許取得届」を提出しなければなりません。
- ・通学等で学校に車両の乗り入れができるのは、3 年生以降。ただし、上記の書類を提出済みであることが条件で、事前に「車両使用許可願」を提出し、許可を得なければなりません。

2. 学生のアルバイトについて

- ・1, 2 年生のアルバイトは、長期休暇中をのぞき、原則として禁止です。特別な理由で希望する場合は担任にご相談ください。夏休みなどの長期休暇中にアルバイトをする場合は、事前に「アルバイト届」を提出しなければなりません。

3. 服装等について

- ・1, 2 年生は標準服着用のこと。また、茶髪・ピアスは禁止。

4. カウンセリングについて

- ・学生相談室は、月曜、火曜および第 3 木曜 16:00 ～17:00、水曜 17:30 ～18:30 に利用できます。

5. 気象警報 (大雨、大雪、暴風、暴風雪) 発令時の授業措置

- ・午前 7 時の時点で東予東部に発令の場合、午前中休講。午前 10 時でまだ発令の場合、午後も休講。自宅通学の場合、自宅区域のみ発令の場合は特別欠席。
- ・携帯 Web で授業措置が確認できます。<http://www.off.niihama-nct.ac.jp/~keitai-hp/>

6. 学生が病気などの理由で欠席するときには、お知らせください。

7. 朝 8:30 登校を推進し、「まんが」などの不必要なものを学校へ持ってこないよう指導しています。

以上、裏面の行事予定を含めて、ご意見・ご質問等がございましたら、担任までお問合せください。

2 E 学級担任 い と ひ で し 井門 英司 (電気情報工学科)
Tel. 0897-37-7753 (教員室)
Tel. 0897-43-5023 (自 宅)
Tel. 090-2822-5376 (携 帯)

2 E 副担任 か が わ と も み ち 香川 福有 (電気情報工学科)
Tel. 0897-37-7759 (教員室)

学生課の連絡先 Tel. 0897-37-7724 (教務係)

(主な行事予定)

- ・4/10 前期始業日、英語学力試験(第1回)
- ・4/11 平常授業
- ・4/12 尿検査(1, 2, 3 学年)
- ・4・13 身体計測(午後)
- ・4/20 前期・寮生大会
- ・4/22, 23 5 学年・保護者懇談会
- ・4/24, 25 中四国専攻科生交流会(阿南にて)
- ・4/28 追認試験受験願の提出期日
- ・5/ 歯科検診
- ・5/ 学寮：寮マッチ・野外活動・寮内外大掃除
- ・5/13 TOEIC IP テスト
- ・5/17 学生大会、クラスマッチ
- ・5/19 2 学年・学外研修旅行(クラスごとに計画)、1 学年合宿研修(大洲青年の家、～4/20)
- ・5/27 専攻科入試(推薦選抜)
- ・6/2～4 愛媛県高校総体
- ・6/9～15 前期・中間試験
- ・6/15 学寮部屋替え(1 年生寮、女子寮)
- ・6/16 留学生歓迎交流懇談会
- ・6/17 二輪車安全運転講習
- ・6/24 専攻科入試(学力選抜)
- ・6/28 学寮：寮祭
- ・7/1 全国高等専門学校プログラミングコンテスト予選
- ・7/3～7 追認試験(前期分)
- ・7/8, 9 1～4 学年・保護者懇談会
- ・7/ 4 学年共通試験
- ・7/13 体育大会激励会, 校内一斉清掃(2 時限目)
- ・7/15～17 四国地区高専体育大会(競技種目により日程が異なる。新居浜では、バスケットと柔道を開催の予定)
- ・7/20, 21 西日本地区高専弓道大会
- ・7/21～8/31 4 学年インターンシップ、夏季休業・閉寮(夏季特別残寮あり)
- ・7/28, 29 夏季体験学習



平成 18 年 7 月

電気情報工学科 2 学年 (2 E) の保護者の皆様

高専では、7 月 20 日の補講日のあと 8 月 31 日までの夏季休業に入ります。2 E では、4、5 月で学生と担任の個人面談を行い、また、5 月 19 日には学外研修(アサヒビール工場見学)も実施しました。今回はこれらを中心に、最近のクラスの概況をお知らせ致します。

なお、9 月 1 日から平常授業です。

1. 個人面談の状況

5/29 で 41 名全員との個人面談を終えました。そのなかから、部活動や勉学に関しては、次のような状況です。

(1) 1 年次の欠課時間数の内容について

欠課時間の大部分は病気等のためであり、現在の 2 学年においても授業出席に関して、ほとんどの学生は問題ありません。なお、3 名の学生については、確認の上、1 年次の欠課時間数を訂正しました。

(2) 部活動の状況

体育系、文化系のいずれかの部または愛好会に参加している学生は、29 名 (71%) です。色々な意味で部活動を奨励しておりますが、その 1 つに、部活動を継続していることは将来の就職活動に際して、自己アピールできる大きな要素となります。このことは、朝のショートホームルームや特別活動において強調しており、現在、部活動に参加していない学生に対しても、例えば、学校行事として中学生を対象に体験学習を実施する際、そのスタッフとして準備や指導補助に参加するとか、種々のボランティア活動に参加することを勧めております。

(3) 学習時間

1 日平均の学習時間は、ほぼ 0 1 名 (2.4%)、30 分程度 8 名 (19.5%)、1 時間程度 15 名 (36.6%)、1.5 時間以上 17 名 (41.5%) でした。3 時間以上している者もおります。その日の復習や宿題が大部分ですが、毎日することが大切です。現在の努力は今後の成績に確実に現れますし、4、5 年でインターンシップや就職活動に際しても自信につながります。

(4) 学習内容

数学、英語などの宿題をしていることが多いようで、一般的な傾向と言えます。私の担当科目においても、練習問題の宿題を出すことにしています。また、2 学年として夏休み中の宿題 (別紙一覧) を出しております。勉学の形態として、暗記するとか、公式を覚えることが中心の学生がかなりおりますが、重要なことは、「ある事柄を知っている」だけではなく、「その事柄を実際に使える」ということです。そのために最低限の練習として宿題をすることになります。

(5) 電気情報 2 年はどんなクラス

一人一人の学生から見て、電気情報 2 年のクラスを一言で表現すると：

- ・ 騒がしい、まとまりがない
- ・ 1 年のときより静か、盛り上がらない
- ・ 真面目にする人も多いが、そうでない幼稚な人もいる

など、いろいろな見方ができるクラスですが、けじめを付けることが大切であると思っています。

2. 今年の2Eのクラスとは？（クラス委員・電気情報工学科2年 結田泰文君）

高専に入学して1年が経ち、クラス編成も混合学級から専門別学級に変わり去年とはまた違った環境で生活するようになりました。今年度2Eの学級委員をすることになり、クラス紹介をすることになりました。担任はベテラン(?)の井門英司(いどひでし)先生です。見た目が難しそう(本当は違います!)なので少々先生と合わない学生がいるような気がします…(´`;)。副担任は井門先生とは反対タイプ(?)に見える香川福有(かがわともみち)先生です。いつもいろんな情報を提供してくれる情報屋さんです。香川先生と合う学生は多いような気がします(笑)。さて2Eの学生ですが、寮生が他クラスに比べて多いのが一つの特徴です。全体では個性派が勢揃いです。勉強面では、勉強しなくても成績がいい「天才型」、勉強して結果を出す「努力型」、全然勉強しない「サボリ型」など。生活面では高校生らしい人から不思議系の人まで様々です。朝が苦手な学生が多く、自分の記憶では、8:35からのSH(ショートホーム)に全員が登校した日が4月からまだ1日も無いような気がします…。中には1限開始(8:50)になっても登校しない学生もいます。また、授業前半に騒ぎまくって、後半疲れて睡眠タイムに入るお決まりのパターンで先生を苦しめるのが得意な学生もいます…。特に物理の時間はスゴイです。こんなクラスですが、テスト前は放課後教室で友達と試験勉強をする真面目な面もあります。自分は寮生なのでこういう光景は寮で見慣れています、とてもいいことだと思います。さて試験の結果は…。顔色のいい人もいれば青ざめた人まで様々でした(笑)。以上こんな個性あふれる2Eの紹介でした。

3. 学外研修の実施

5/19(金)に、41名全員の学生と引率教員3名で、西条市のアサヒビール四国工場を見学しました。初めての体験で、興味深く見ながらメモしておりました。研修後の発表会では、見学中に気付いた点・関連して調べた事柄を、5～6名の班ごとに整理しスクリーンへ投影して説明し、相互学習を行いました。その最終報告書から2件を抜粋して紹介いたします。

(A) アサヒビールに行ってみて最初に思ったことは、ビールの製造スピードがとても速いということです。缶詰の作業では、1秒間に24本も作られていて、瓶詰めでは1秒間に6本のペースで製造されているので、とても速いスピードだと思った。

発酵過程においても、コンピュータが使用され、発酵の管理を0.1度もズレないようにしているそうだ。0.1度でも違うと、それだけで味や香りが変わるので、とても正確にしているのも、とても丁寧で作られていると思った。

製造機械にもコンピュータが使用され、24時間製造できるので驚いた。コンピュータを使用することで、より早く、正確にビールを製作することができる。製造の途中、瓶にヒビが入っていないかなどを人の目で見て、ミスがないようにチェックしている。このことから、いくら機械がよくできていても完璧ではない事がわかった。

アサヒビールでは、資源を100%リサイクルしているので驚いた。とても大きな工場なのに、資源を100%リサイクルできるというのはとてもすごいと思った。瓶などでは、一度しようした物をもう一度回収し使用している。その使用した瓶もとても丁寧に洗われている。

ビールは鮮度が命なので、酸化、炭酸の抜け、といった品質低下を招く事は徹底して対策を練り最高の味を提供している。できあがったビールはすぐにお届けできるように1分1秒を大切にしているそうだ。製作している時やそれ以外のときでも衛生面に気を配り、ビールを作っているそうだ。そうして社員のみんな全員が「おいしいビールを生産したい!」という思いを目標に頑張っている。おいしいビールを作るだけでなく、お客様にも喜んで欲しいというサービス精神も大切にしていると思う。

(初めて見た驚きが中心ですが、具体的な数値を示しています。)

(B) (前半省略) 工場は大勢の努力でできていることがわかった、と書いているが、〇〇先生が言った通り実際には60人しかいないということには、驚きました。このことに関して、質問していなかった、ということが反省点です。

そして自分たちが一番見習うべき班は7班だと思います。説明不足にならないように文章がたくさん書かれていて、全員それぞれひとつの項目に違うことを書いていて、内容が細かく、よくそんなところを見ていたなあ、と感心するところばかりでした。しかもこの班は声が大きくよく聞こえていました。(中略) この研修を通して感じたことは、自分らが就職したら絶対こういった発表などは絶対にあると思います。だから、今のままのような発表ではカス同然です。以後、こういったものには真剣に取り組もうと思います。

(他の学生の見方、発表の仕方が参考になりました。)

今後のいろいろな研修等のために、良い経験になったと思います。

4. 朝食調査

6/26(月)～6/30(金)の朝、その朝の食事の状況を調査しました。食育の参考にしたいと考え、2学年の各クラスで実施しましたので、整理ができましたら次回に報告したいと思います。

5. 諸報

- (1) TOEIC IP テスト 370点1名
- (2) ロボットコンテストの学内アイデア募集2学年で、
優秀賞 岡村和晃君
おもしろかったで賞 村上智彦君
- (3) 電気情報工学科 夏季実力養成研修 8/21～8/25
現在E2から8名が申し込み

以上、ご意見・ご質問等がございましたら、担任までお問合せください。

2E学級担任 ^{い と ひでし}井門 英司 (電気情報工学科)
Tel. 0897-37-7753 (教員室)
Tel. 0897-43-5023 (自 宅)
Tel. 090-2822-5376 (携 帯)

2E副担任 ^{かがわ ともち}香川 福有 (電気情報工学科)
Tel. 0897-37-7759 (教員室)

学生課の連絡先 Tel. 0897-37-7724 (教務係)

2Eだより（秋号）

2Eだより（秋号）をお届けします。今回は、まず授業出席と進級条件を、続いて、最近のクラスの話、海外研修旅行とTA補習を、最後に10月以降の行事予定と過去のイベント写真を掲載しました。

1. 授業出席と進級条件

2年も後期に入りました。保護者各位におかれましては、我が子の学業の現状が気になることと思いますが、成績表を見ただけでは、よく分からず子供に任せっきりになってはいないでしょうか？気が付いた時には、取り返しが付かないといった事態になる可能性があります。

そこで、2Eだより（秋号）では、学校の制度を少しご説明したいと思います。

1-1 授業出席について

まず、成績表にも記載されております授業出席時数ですが、単位の修得のための必要条件があります。各科目の単位が認定されるには、その前提条件となる授業出席時数をクリアしていなければなりません。この授業出席時数を越えて休むと、欠課オーバーとなり、単位認定されないばかりか、科目（専門基礎科目）によっては、その時点で進級できなくなります。

子供任せではなく、ご家庭でも、授業にはしっかり出席するよう、ご指導ください。

欠課オーバーとならないための授業出席時数

1 単位の科目（半期科目）の場合

- 90分×15回の授業を行い、これで授業時数を30時間とカウントします（90分授業1回で2時間）。その授業時数の3/4の授業時間に出席していなければなりません。
- 3/4の条件は、2単位の科目（60時間）、3単位の科目（90時間）、4単位の科目（120時間）でも同じです。よって、欠課時間数が下の表の時間をオーバーすると欠課オーバーとなります。
- 遅刻、早退は3回で2時間の欠課として計算します。

単位数（科目）	1（保健）	2（歴史1など）	3（国語2など）	4（数学A）
欠課+遅刻の限度	7+1/3 [†]	15	22+1/3 [†]	30

[†] 1/3は、遅刻1回。ご家庭でも、成績表の各科目の欠課時数をご確認ください。

1-2 進級条件について

- 各学年までの修得単位数の合計が次の表より少ないと進級できません。各科目の単位は、最終成績が60点以上で認められます。

学年	1年	2年	3年	4年
累積単位数	26	58	92	128
累積履修単位数	34	68	102	140（142）

累積履修単位数は、学科によって多少異なります。上は電気情報工学科の単位数です。4年のカッコ内の数字は、自由選択の科目を履修した場合の単位数です。

- 必修科目（主に実験、実習科目）を修得していなければなりません。

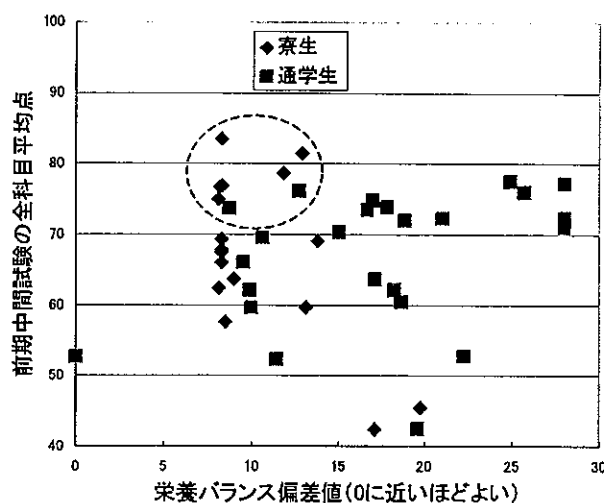
2年電気情報工学科では、電気情報実習Bが必修科目です。

3. 工学基礎科目および専門基礎科目が、1-1 の授業出席条件を満たしていなければなりません。これらの基礎科目とは、卒業のための必修得科目です。4年生までに全て修得していなければ5年に進級できません。欠課オーバーの場合、追認試験を受けられませんので、欠課オーバーになると進級できなくなります。
- ◇ 2年の共通の工学基礎科目は、数学A-2、数学B-2、物理2、化学2、英語2A、英語2Bの6科目です。
 - ◇ 2年電気情報工学科の専門基礎科目は、回路理論演習、回路理論1、電気数学A、プログラミング1の5科目です。
4. 特別活動を修得を修得しなければなりません。担任が可否で判定しますが、不合格の場合または欠課オーバーの場合は進級できません。(朝のショートホームルームの状況もこれに考慮されます。)

2. 最近のクラスの話題

2-1 朝食調査

前回の夏号でお知らせしておりましたが、朝食調査の結果をまとめて次の分布図に表しました。



横軸は栄養バランスの偏差値です。数値が少ない方(左)が栄養のバランスがとれています。縦軸は前期中間試験の成績(全科目の平均点)です。◆記号が寮生、■記号が通学生です。

はっきりした相関は見られませんが、全体的に左肩上がり(バランスのとれた朝食を摂っている学生の方が成績が良い)の分布になっているように見えます。

これから朝が寒くなります。学生の起床時刻も遅くなりがちになり、朝食

を十分に摂らなくなることが予想されます。ご家庭でもその点配慮していただければと思います。

昨年度、後期の方が朝のショートホームルームの遅刻者が増加しました。この点も、よろしくお願いします。

2-2 作文(夏休み中のいろいろ 9/1)

技術者には、作文能力は必要ないと思われがちですが、そんなことはありません。新たに発見した物や開発した物、設計・製作した物を売り込んだり説明したりするためには、作文能力も大切な能力の一つとなります。そこで、作文能力を養うために、夏休み明けの9/1にクラスのホームルームの時間を利用して作文を書いてもらいました。学生が書いた作文を同封しましたので、ご一読ください。書かれた文字、内容、表現力、漢字の使い方など、いかがでしょうか。できれば、冬休み明けにも作文を実施したいと思っています。

2-3 学級委員から(10/21 結田泰文 君)

こんにちは。学級委員の結田です。最近朝晩が寒くなってきましたが体調管理は大丈夫でしょうか？自分も一時期風邪気味だったのでみなさんも気をつけて下さい。

学校は折り返し地点を過ぎていよいよ後期に突入しました。もう半分終わったのかという気持ちが正直なところですよ。先日、前期末試験の結果が返ってきました。全体的に平均点は上がったようです。今回の結果は、今後の目標を立てるいい判断材料なので具体的な目標を各々が立てるようにしましょう。進級条件まで後何点いるかななどを計算しておく目標を立てやすいのでぜひ参考にして下さい。

さて、先日まで新居浜・西条などではお祭りが開催されていました。自分は直接関係なかったのですが多くの学生が楽しんでたようです。中には授業を休んでまでお祭りに行っていた学生もいますよ(^^;気持ちはわかりますが“本職”は学生なので勉学を優先してほしいものです。祭りが終わってもまだ“お祭りモード”の学生が多く見受けられます。早く普段の生活スタイルに戻しましょう。後期はイベントが盛りだくさんなのでしっかり生活にメリハリをつけないとすぐに生活のリズムが狂います。中でも気になるのが最近、朝のSHの遅刻者が多くなっていることです。今から遅刻の癖がつくと将来しんどいので今から直すよう努力して下さい。

後期はイベントが多いと書きましたが、間もなく国領祭があります。国領祭は全員何かの役割があります。各々が責任を持って仕事をしましょう。

最後に、最初にも書きましたが、朝晩がかなり冷え込み昼間も涼しくなってきました。服を一枚多めに着るなどして風邪など引かないようにしましょう。風邪を引いてからでは遅いのです。早め早めの対策をきちんと取るようにしましょう。

2-4 禁煙教育を実施(9/8)

健康であることを第一の目的として、喫煙防止教材ビデオ(「禁煙推進の会愛媛」作成)を用いて禁煙教育を行いました。内容は、肺がんになる割合の増加、他の人が吸うタバコが原因の受動喫煙による妊婦・胎児の健康被害、急速な老化、タバコが原因の火災による損失、タバコによる病気の治療費とタバコの販売による利益の比較、世界の国におけるタバコの取り扱いの違い等です。

ビデオ紹介の後、タバコ(喫煙)に関するアンケート調査を行い、その結果の概要は以下の通りです。

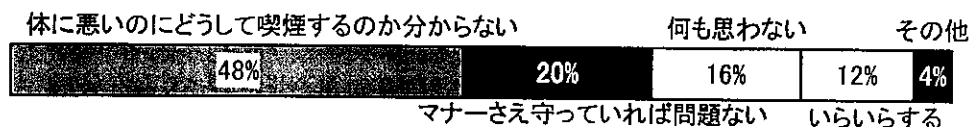
(1)身近な人(家族や友人など)の中に喫煙者が



(2)身近な喫煙者(家族や友人など)が喫煙しているとき



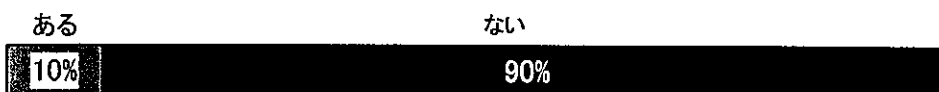
(3)身近な人(家族や友人など)に喫煙者はいないが、喫煙者を見て



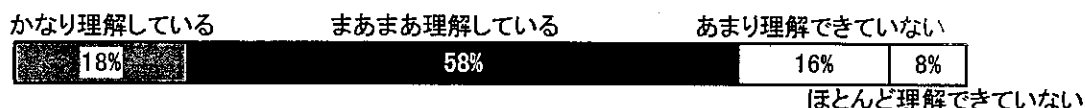
(4)これまでに喫煙を勧められたことが



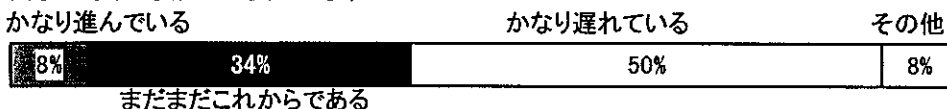
(5)これまでに喫煙したことが



(6)たばこの害や社会問題について



(7)我が国の喫煙に対する対策について



タバコ(喫煙)に対する感想

自分たちの将来にタバコを排除したいとの思いがあり、その中から3件を紹介します。

- (A) 公共機関での喫煙コーナーを全て廃止すべきだと思う。JR を例にすると、普通・快速列車は全て禁煙だが、特急列車は未だに"喫煙車"があるので、すぐにでも"禁煙車"にしてもらいたい。また、駅でも、「構内禁煙」なのに、灰皿があるという、なんとも不思議な状態である。国としても、「売るな」とは言いにくいのかも知れないが、「売らないように」くらいは言ってもいいと思う。今ではタバコ税がどんどん上昇しているが、もっとつり上げてもいいと思う。その分だけ（実際にはそれ以上）喫煙者の健康保険料などで失っているのだから、意味の無いところにお金をつぎ込むマネだけはしないようにして欲しい。
- (B) 喫煙者は、もっともっと非喫煙者のことを考えるべきだと思う。皆が皆マナーを守っていないとは言わないけど、守っていない人はとても多いと思う。タバコの煙は普段タバコを吸わない人にとってとてもうっとうしいものだし、くさい。そして何よりも副流煙の方は有害物質が多いので、身近にヘビースモーカーが居ると、その人よりその人の家族や身近な人の方が危険というのは、少し腹が立つ。あと、タバコを吸う人って、何か短気な人が多いと思う。

- (C) 自分の周りにタバコを吸う人がいないので、タバコの害に関しては、あまり関係ないと思っていました。しかし、世界中には、タバコによっていろいろな病気になったり、命を落とす人が多いということが分かりました。ニューヨークのタバコの値段が日本の約4倍であることに、とても驚きました。世界では、禁煙活動が活発であることが分かり、日本がとても遅れていることに少しショックを受けました。これからは、自分から周りに禁煙活動を少しずつ進めていきたいと思えます。

2-4 第1回 英語暗唱スピーチコンテスト(10/13)

2 学年で5名の出場者があり、E2(電気情報工学科2年)から出場の横井勇駿 君(右写真)は、惜しくも総合文化祭(11/18,19 詫間電波高専)の代表には選出されませんでした。スピーチを最後まで成し遂げました。結果、本校の代表は機械工学科2年の上浦章 君となりました。



2-5 前期末試験の成績 (10/13)

成績一覧表が配布されました。科目担当者を交えた会談でも指摘されておりますが、成績が低調である一部の学生は、自力では解決できない、疑問点を教員や同級生に聞かない、宿題レポートを期日に提出していない、授業の中で行う演習問題を完了しない、ボーっと座っている、などが見受けられます。

毎回の授業では多く事柄が出てきますが、その大部分は以前に習った内容であって、新しいものは少ないのが普通です。しかし、1回の分量は少なくとも1年間分を積み重ねてみると、かなりの分量を学習しています。毎日の家庭学習(学寮での学習)を欠かせませんが、ご家庭で学生の様子はいかがでしょうか。

2-6 ショートホームルーム(8:35～)の話題から(副担任)

(1) 茶髪が危ない

(<http://www.coara.or.jp/~wadasho/tyapatu.html> から項目を抜粋)

- ・理容・美容業界にも知らされていない染毛剤の毒性は、頭皮から一度入った毒物は食べた毒物と違ってなかなか排出されません。
- ・慢性毒が恐ろしいのは、ある日突然大きな被害となって現れ、それは何も髪や頭皮に限った話ではありません。毒物が体内を駆け巡って内臓疾患を起こします。「茶髪がガンを誘発する!」だれもあなたの身の安全を保証してくれないのです。
- ・茶髪は、見た目が不真面目、素行不良に見えることから、一般的に就職の面接ではご法度とされている。また、この行為を全面禁止にしている企業や団体も多い。
(<http://d.hatena.ne.jp/keyword/%C3%E3%C8%B1>)

(2) ピアスは、脳細胞の減少を3倍加速する。耳よりな話

(<http://www.ikegamigakuin.co.jp/gakuincho/kyoikuron/kyoikuron13.html>)

人間の体には60兆個の細胞があり、細胞は常に再生を続ける。しかし、人間の体の中で再生しないどころか毎日減っていく細胞がある。それは15億個の脳細胞で、1日平均10万個が減っている。多い人は15万個、少ない人で8万5千個と言われている。(中略)

フランスの学者の学説によると、1日平均10万個減る脳細胞の減るスピードを3倍加速するには、耳に穴を開け、それに金属を通す。磁場現象によって脳細胞の消滅が加速し、そのスピードは通常の3倍。つまり、1日30万個も消滅する。早くボケたい人はどんどん耳に穴を開けて、いくつも金属をぶら下げると良い。

(3) 一生を棒に振る、この年収の差。ピアスと茶髪（札幌のある専門学校での話を抜粋）

(<http://www.ikegamigakuin.co.jp/gakuincho/kyoikuron/kyoikuron12.html>)

ピアスを一定期間続けると、耳に開けた穴が完全にふさがり跡形もなくなるのには1〜3年もかかるのだ。長期間ピアスをするとう一生穴がふさがらないこともある。

ある一流企業の人事部長の話では、企業の採用担当者は面接の際、学生の耳にピアスの穴があるかを見ていると言う。髪の毛も一度染めると、長い期間元の黒髪には戻らない。直前に染め直しても、ちゃんと企業の採用担当者は見抜いてしまうのだ。

先の人事部長は「頭が良くて、学校の成績が良くても、ピアスで茶髪の学生は絶対に採用しません。そういう学生は入社後に不真面目な行動をとり、会社に迷惑をかける可能性が高いからです。そして、上司の指示もきちんと聞かないと我々は判断します。なぜなら、親御さんや学校の先生が、茶髪やピアスをしないように何度も何度も注意や忠告をしてきたはずです。まあ、最近では親御さんも茶髪にピアスというのがありますから、そうではないこともあるかもしれませんがね。でも、少なくとも学校の先生は絶対に茶髪やピアスを注意してきたはずです。そんな先生の注意を聞かなかったのですから、会社の上司の指示も聞かない可能性が極めて高いと言えるのです。先生の言うことを聞かなかった者が、どうして急に上司の言うことを聞くようになるのでしょうか。」

では、茶髪・ピアスをしたまま勤められる企業は、ほとんどがアルバイトで、時給も低いケースが多い。フリーターとなって、アルバイトで生計をたてるしかなくなるのだ。

さて、一流どころの企業の年収は、札幌を基準に考えて、大学卒の初任給で約20万円。ボーナスなども考えれば、年収300万円くらいと思われる。

では、アルバイトの年収はどうか。特に技術もなければ、時給の相場は700円くらいで1日8時間働いて5千6百円。月に20日働いて11万2千円。ボーナスなどは無いので、年収は単純に12を掛けて、134万4千円。むしろ、雇用の安定性などは無く「人件費を削減するから、君は来月から来なくていいよ」と、いつ言われるか分からない。

朝「おはようございます」と大きな声で挨拶をする。感謝する時は「ありがとうございました」とお辞儀をする。学校には遅刻をしない。一生懸命勉強する。身なりをきちんとする。こういった毎日の基本動作を、「なぜしなければならないのか」という疑問に対し、上記は一つの回答であろう。

3. 海外短期研修の試行について

これまで検討を重ねてきました海外研修旅行を、次の日程等により試行いたします（詳細は別紙）。

- (1) 日程： 平成 19 年 3 月 8 日(木) 出発ー11 日(日) 帰着、3 泊 4 日
- (2) 訪問先： 上海電力学院、上海シャープ社、中国上海市、および、近郊の観光地
- (3) 費用： 国内旅費、諸費を含め、¥100,000ー程度
- (4) 募集人員
 - ・一般参加： 本科 3 年生ー専攻科 1 年生、30 名程度（来年度、新居浜高専での交流行事等へ参加するため、5 年生については専攻科進学者が望ましい。）
 - ・学生リーダー： 5 年生以上 2 名程度（引率補助等の業務を分担、旅費の一部補助あり）
- (5) 引率者： 教員 2 名程度、添乗員 1 名
- (6) 航空会社： 中国東方航空の岡山ー上海線を利用
- (7) ホテル： 新梅華東大酒店(上海市天目西路 111 上海駅前、電話：+86-21-63178000)

4. ティーチングアシスタント

昨年度同様、今年度も上級生（ティーチングアシスタント）による補習を行います。
ご案内を同封いたしますのでご覧ください。

5. 後期の行事予定

- 10 月 21 日（土） 授業参観日（月曜日の授業）
- 10 月 23 日（月） 休講（21 日の代り）
- 10 月 28 日（土） 英語学力試験（全員受験）
- 11 月 10 日（金） 国領祭前夜祭（休講）
- 11 月 11 日（土） 国領祭（～12 日）
- 11 月 13 日（月） 国領祭後片付け、校内一斉清掃
- 11 月 14 日（火） 月曜日の授業
- 12 月 11 日（月） 後期中間試験（～15 日）
- 12 月 25 日（月） 冬休み（～1 月 7 日）
- 1 月 9 日（火） 平常授業
- 1 月 11 日（木） 化学共通テスト
- 1 月 30 日（火） 学生会役員立会演説会 クラスマッチ（休講）
- 2 月 3 日（土） 保護者懇談会
- 2 月 14 日（水） 月曜日の授業
- 2 月 19 日（月） 休講
- 2 月 21 日（水） 学年末試験（～2 月 28 日）
- 3 月 7 日（水） この日まで平常授業・終業式
- 3 月 22 日（木） 進級判定会議

6. クラスの行事の風景

- アサヒビール四国工場見学(5/19(金))

みんな真剣に見学でき、そのあと開かれた報告会でも上手に発表できました。



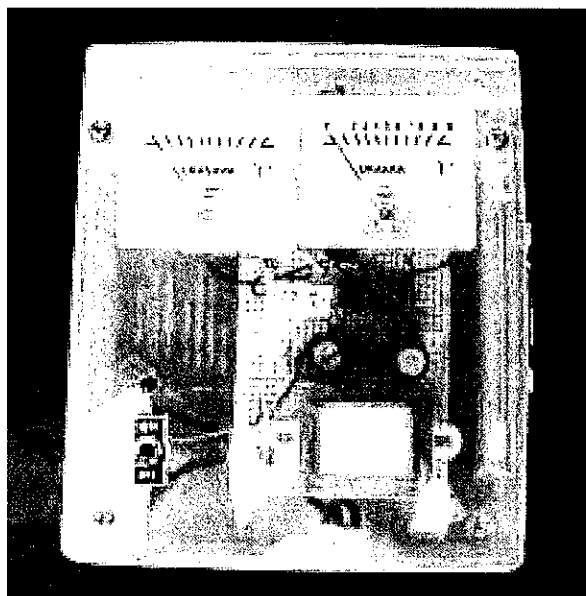
工場受付前



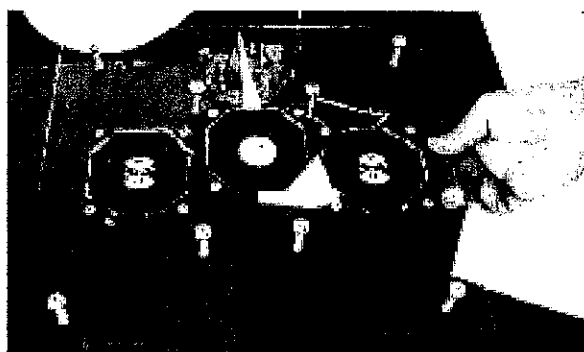
見学風景

- 電気情報実習Ⅱの夏休みの宿題である工作の発表会が、9月6日(水)にありました。

みんな、実習で習った技術や、まだ習っていない技術を勉強して、様々な電子工作を作ってきました。このうちの幾つかを国領祭に展示します。お楽しみに。
一例を下に示します。



岡村和晃君 作、リモート温度計
指針表示のアナログ電圧計です。



守田宗右君 作、CPU クーラー
実習で習った技術 (IC 温度センサ、OP アンプ、
リレー、トランジスタスイッチ) を駆使して作っ
たノートパソコン用のクーラーです。

問合せ先：

電気情報工学科 2 年 担任 井門英司

0897-37-7753 (教員室)

電気情報工学科 2 年 副担任 香川福有

0897-37-7759 (教員室)

E2 だより(冬号)をお届けします。今回は、次の項目に関する内容を掲載しています。

- ・第2学年の各学科から1名ずつの作文紹介
- ・電気情報工学科・学級委員の年明けメッセージ
- ・冬休み明けの作文を紹介(4編)
- ・高卒認定試験と大検について
- ・最近の主な行事等
- ・2月以降の主な行事予定

1. 第2学年・各学科の作文紹介

◎スピーチコンテスト

機械工学科 上浦 章

今年度は、初の校内スピーチコンテストの出場者に選ばれ、そして見事優勝してしまい、四国高等専門学校総合文化祭にも出場してしまいました。総合文化祭で発表する内容は校内スピーチコンテストよりも、およそ三倍近くの長さで、覚えるのにひと苦勞でした。

しかし、逆境にくじけず、あきらめず努力した結果、総合文化祭でも五位入賞というまあまあの結果を残すことができ、感激で胸が一杯になりました。このことが今年度一番の成果です。

今後は、この経験を活かし、さらなる英語の力の向上、そして来年度のスピーチコンテスト出場を考えて、努力を積み重ねていきたいと思います。

◎「冬休みの生活」

電気情報工学科 清水 謙太

後期中間試験が終わり、冬休みに入るとすぐ次の日に、部活の大会がありました。私はソフトテニス部に所属していて、この大会は、新人戦の県大会で上位に残ることができたペアだけの大会なので、とてもレベルが高いということを聞いていました。自分の力を試すことができる機会なのでとても張り切っていたのですが、ベスト8で負けてしまいました。自分はそのとき、体が重く調子が最悪だったので、大いに悔いが残る結果になってしまい、日頃の練習での甘さを痛感した大会となりました。優勝や準優勝など、上位に残った選手は皆、自分を追い込んで練習しているからこそ強いんだろうと感じ、今回の反省を次に活かして行きたいと思いました。

大会の後、久しぶりに(学寮から)家に帰り、洗濯も親がしてくれ、テレビも見られ、点呼もないといった生活に慣れて、だらけ切った生活を送っていました。それでも、今までの疲れも癒えたので、冬休みが明けてからも頑張れるだろうという気力を養うことができました。

新年が明け、今年は今までにない最高の一年にしたいと思い、目標を立てました。今年の目標は「悔いを残さない」として、何事にも一生懸命に取り組もうと考えました。特に、今年で終わってしまう部活に全力を尽くし、最高の結果を残したいと考えているので、体調管理をきちんとし、今年も頑張っていこうと思います。

◎検定にチャレンジ

電子制御工学科 匿名希望

昨年の混合学級から学科ごとのクラスになり、授業もより一層難しくなりました。専門科目で、前期は電気回路、計測工学、後期は電気・電子実験、メカトロニクス基礎、1年間を通しては、デジタル

回路という科目が新たに加わりました。そして数学のクラスは基礎と発展に分かれ、授業についていくのが大変になりました。成績は、前期中間はよかったけど前期末が悪かったので後期中間頑張りました。

他に力をいれたことと言えば、昨年初めて検定にチャレンジしました。本だけを見て自分一人の力で勉強するのはとても大変でした。しかし、あきらめずに頑張った結果、見事デジタル検定3級に受けることが出来ました。

昨年は1個しか検定を受けなかったけど、今年はTOEICや漢検など積極的にチャレンジして、自分の視野を広げたいと思います。そして、成績もより一層良くなるように頑張りたいと思います。

◎キャンパスベンチャーに応募して

生物応用化学科 川上幸恵

キャンパスベンチャーグランプリとは、新事業の提案コンテストです。私の提案内容は、地震災害時の家庭用非常電源としての長期保存電池というものです。書類審査が通り、最終審査のため12月15日に高松へ行きました。最終審査では、6分間のプレゼンとヒアリングを行います。トップバッターということもあり、今までにない緊張とプレッシャーで一杯一杯でした。プレゼンは練習通りにスムーズにできましたが、6分はあっという間でした。ヒアリングは2回質問に答えられない場面がありました。でも、自分のできる範囲で相手に伝えられるよう話せられたし、審査員の方にはさまざまな意見をいただきとても参考になりました。そして結果、入賞することができました。まさか入賞するなんて思いもしなかったもので、本当に嬉しいです。今回応募したことで、普段の生活では得ることができない経験がたくさんできました。それに自信が付いたし、頑張つて本当に良かったと思います。今後この提案をさらに発展させていければいいなと考えています。

◎クラスの雰囲気や近状について

材料工学科 匿名希望

クラスの雰囲気について書くことになったのだけど、僕は、何を書いたらいいか分からないのでとりあえず僕の思ったことを書きます。

まず二年材料科の担任の柴田先生は毎日とても忙しそうです、先生は家から自転車で毎日通勤していますそして学校で生徒のために頑張つて仕事をしています。柴田先生は生徒に対してとても温厚なのでいい先生だと思います、でも先生には色々と迷惑をかけてしまいました、そのときは本当にすみませんでした。

テスト週間になると僕はクラスメートがやっている勉強会に参加させてもらっています、そこで勉強を教えてもらっていますが、それなしではたぶん欠点ばかりをとっていただろうと思います、クラスメートには感謝しています。二年材料科はそんないい人たちばかりで、今の僕がここにいられるのはそうゆうクラスの雰囲気があるからだとおもっています。本当にそんな雰囲気の出ているクラスに感謝しています。

2. 学級委員の年明けメッセージ（1月9日 結田 泰文）

明けましておめでとうございます。学級委員の結田です。今年もよろしくお願いします。冬休みはみなさんどのように過ごしましたか？ 私は、年末年始以外は全て部活があったので、毎朝今治～新居浜を電車で通学する毎日でした。この時期、帰省・Uターンラッシュの混雑が激しく、特急列車内も親子連れなどで混雑していました。

冬休みは、宿題もほとんど無く自由時間がたくさんとれたと思いますがリフレッシュすることができ

たでしょうか？中には、バイトが忙しすぎて逆に疲れた！という人もいるかも知れません。お疲れさまでした。冬休みは、休み中に年越しをはさむので様々なイベントがあったと思います。今年のお正月は、残念ながら天候に恵まれずあまり外出しなかった人も多いのではないかと思います。自分も自宅でのんびり過ごしました。お正月といえば、お年玉が気になるところです。みなさんはたくさんもらいましたか？お金は計画的に使いましょう（笑）。

楽しい冬休みも終わってよいよ学校がスタートしました。高専は、冬休み～春休みの登校日数が少なく2ヶ月もありません。冬休みモードのまま生活しているとあっという間に学年末を迎えます。生活のリズムを早く切り替えたいものです。また、学年末ともあって進級が気になるところです。過去3回のテストから、進級条件を満たしているか、あるいは満たせそうかを確認してみてください。ここで、学年末試験の目標がある程度立てられると思います。学年末試験の直前になって慌てたのでは手遅れになります。いまから余裕をもって残り2ヶ月の生活目標を立ててみてはどうでしょうか？また、新年を迎えるに当たって2007年の目標を大まかに立てると有意義な1年間が過ごせると思います。

さて、最後になりましたが、この季節はインフルエンザなどの感染症が流行る時期でもあります。特に最近では、全国的にノロウイルスが流行り一時大問題となりました。現在は治まっているようですが再発する可能性も大いにあります。ノロウイルス、インフルエンザなどの感染症の予防策は手洗い・うがいが一番効果的だと言われています。みなさんも家に帰ったらまず手洗いとうがいをしよう心掛けて下さい。それでも体調がおかしいと思ったら早めに医療機関で診察を受けましょう。何事も早め早めの行動が大切です。それでは今年も頑張ってください。

3. 冬休み明けの作文紹介(4編)

前回の学級便りで、予告しておりましたが、冬休み明けの最初の特別活動で、作文を書いてもらいました。内容を一通り読んだところ、書き方を指導したこともあり、夏休み明けに比べてかなり改善されておました。以下に4編紹介します。

(1)「冬休みに思ったこと」越智 亮介

今年の冬休みは、今までの冬休みよりも家族といいた時間が多かった気がします。昨年までの冬休みは、休みに入って直ぐに友達と遊びに行き、家族といいた時間は少なく、手伝いもあまりしていませんでした。でも、今年は、友達が受験ということもあったのですが、あまり遊ぶ気にもなれず、1人でどこかへ行くにも寒かったので止めました。それで、家族と過ごした冬休みは、とてもおのんびりできました。今まで、家族の有り難さを考えたことがなかったのですが、冬休みを通して、その有り難さを考えるようになりました。

ある日、ニュースを見ていたら、とても衝撃的な出来事があって驚きました。それは、兄が妹を殺したというニュースでした。何故、兄妹間で殺害が起きたのかが分かりませんでした。殺した理由も、夢がないと言われたからだ、と、ニュースが伝えていました。それを聞いて、何故それだけの理由で殺したのか考えてみました。けど、やはり理解できませんでした。この事件をニュースで見て、家族に感謝をしなくては、と思いました。冬休みに限らず、長期の休みの時は、家族で過ごす時間をもっと取るようにしたいです。そして、感謝の気持ちを忘れぬようにしたいです。

(2)「・・・」堀 大志

今年の冬休みは、例年と違い、年賀状の作成が25日には出来上がっていたので、とてもゆとりのある年末年始を過ごせました。大掃除だけでなく、模様替えもすることができました。毎年、年賀状の作

成に追われて何もできなくなるのですが、年賀状を早めに仕上げれば、年末がこんなに良く過ごせるんだと、とても思いました。今年の年末も昨年のようにしようと思います。

年末によく動いたせいか、年が明けてからは、何もせずに食っちゃ寝、食っちゃ寝をしてしまいました。お正月は、岡山の祖父の家に行ったりしましたが、その後は、目が覚めるのが昼だったり、一日中テレビの前に居たりしました。そのせいで、体重も2キロほど増えました。これからは少し体を動かすことを見つけて、元に戻せるように頑張りたいです。

それでも全体的に見れば、今回の冬休みは、前回のものより良いものにできたと感じています。今までの冬休みはもっとひどかったので、自分の中では満足です。これからの冬休みも、今回くらい、もしくはそれ以上のものにできたらいいなと思います。学校が始まって、少し休みボケもあるのですが、早く慣らして行きたいです。しっかり単位を落とさずに3年生に上げれるように頑張ります。

(3)「冬休みのできごと」松木 奈緒

冬休みは、夏休みと同様で友達と大阪に行きました。年が明けてから行ったので、大阪はとても人が多かったです。

まず、ニュートラムという電車に似たものに乗りました。そして地下鉄に乗ったのですが、買い物の場所に行くにはどこで乗り換えしたらいいのか、分からなくてキョロキョロしていたら、駅員さんが話しかけてくれて、乗る電車を教えてくれました。駅員さんの優しさにとっても感動しました。他にも、電車に乗っているとき、おばあさんに席をゆずっている光景を見たりしました。大阪は、優しい人が多い所なのだと感じました。私も困っている人がいたら、直ぐ手を差し伸べられる様な優しい人になりたいです。

買い物は、人がとても多かったので、とても疲れました。でも、帰ってから、みんなにおみやげを渡したとき、「ありがとう」をたくさん言ってもらえて嬉しかったです。いま考えると、自分の物を選んでいるときも楽しかったけど、おみやげを選んでいるときの方がワクワクしていた気がします。大阪はしんどかったけど、とても充実した旅となった気がします。

2007年は、大阪で学んだことを活かして、人に優しくできるようにしたいです。そして、「ありがとう」をいっぱい使えるようにしたいです。

(4)「冬休みのひととき」横井 勇駿

冬休みを振り返り、その某日を思い返してみました。

明朝、冬らしい寒冷の気候の下で、音響機具が慎ましく鳴り響いております。このような早くに音楽が再生されているとなれば、家人は相当早起きなのでしょう、感心です。その働き様をひとつ見てみたいと思い、失礼ながら窓から拝見させて頂きましたが、何とすやすやと寝息をたてて布団にくるまっているではありませんか。目覚ましに電子機器の力を借りるとは、はからずも現代人の衰弱を感じてしまいます。

時も経たず家主がやって来て、容赦のない手付きで機器のコンセントを引き抜き、ブツリという音と共に静寂が訪れました。鮮麗な音色よりもスピーカーから漏れた断末魔の音が耳に届いたのか、家人がむっくりとその体軀を起こしました。何とも後味の悪い目覚めに動揺の色を隠せないようです。

その後、周囲を見渡している際にテーブルの上の惨劇に気付く、唐突すぎる出来事に顔を青くして固まっておりました。朝から騒々しい限りでありました。

悲しみを胸に押し殺し、窓を開けて新鮮な朝の空気を肺いっぱい吸い込み、山から出たばかりの太陽を拝むのは、清々しく心が洗われるようだ、と家人は思ったようです。

今日も一日がんばろう、と家人は心に決め、意気揚々といった顔で窓を閉じ、ご丁寧に鍵まできっちり閉めていきました。

4. 高卒認定試験と大検について

従来の大検（大学入学資格検定）は、平成 17 年度から、高卒認定試験（高等学校卒業程度認定試験）として実施されています。何かの事情で高専の第 3 学年を修了できなかった場合でも、この試験に合格すれば、次のメリットがあります（個別に確認が必要です）。

■高卒認定合格者は国立、公立、私立の短大、大学に受験ができ、高校卒業でないと入学できない専門学校へも進学が可能です。

■また、受験資格で高卒の資格が必要な国家試験の受験や就職の際にも高校卒業と同等の扱いを受けることができます。

平成 18 年度の実施状況(2 回)の概要は、以下の通りです。

(1) 第 1 回試験

- ・出願期間：平成 18 年 5 月 12 日（金）～5 月 24 日（水）
郵送で文部科学省へ、5 月 24 日（水）の消印有効
- ・受験案内の入手方法（電話やネットでも請求可能）
全国の都道府県教育委員会または受験案内配布場所において無料で配布
平成 18 年度は 4 月 17 日（月）～
- ・試験日：平成 18 年 8 月 9 日（水）/10 日（木）
- ・試験地：愛媛県は松山市で。

(2) 第 2 回試験

- ・出願期間：平成 18 年 9 月 8 日（金）～9 月 20 日（水）（9 月 20 日（水）の消印有効）
- ・受験案内の配布：平成 18 年度は 7 月 31 日（月）～
- ・試験日：平成 18 年 11 月 18 日（土）/19 日（日）

5. 最近の主な行事

(1) ものづくりコンテスト in 新居浜 2006 (10/23)

○組立式飛行機コンテスト

優秀賞 作品名：ひこまろ

チーム名：先端技術研究会 2 年の部

2E 渡邊 大地

2M 武田 顕一

(2) キャリアアップ教育 (10/27、11/17)

実験、実習、研究など各種の発表に際し不可欠な、プレゼンテーション用ソフト（パワーポイント）の使い方を、電気情報工学科・先山教員の指導により 90 分×2 回で実施。

(3) 卒業生の講話 (11/24 キャリアアップ教育の一環として実施)

講師：村上 利男（平成 4 年 3 月電気卒業、四国電力㈱に在籍しながら、平成 6 年 3 月専攻科修了。
現在、同社・新居浜支店に勤務。）

内容：入社して間もない時期は、保守・点検を自分で行ってきたが、最近は顧客との応対や関連会社の人たちとの応対が多くなっている。技術が分かるし、現場を経験してきたからでき

る仕事である。205ヶ所の変電所は無人運転で、系統制御所から指令を出している。

仕事に必要な資格を、在学中から挑戦して取得しておくといい。

英語力を知っておく（TOEIC など）。自分の夢を実現するように努力する。

(4) 防火・避難訓練（11/24）

生物応用化学棟3F応用化学実験室から出火したと想定し、集合場所のグラウンドまで避難した。

また、ABC消火器による初期消火の訓練を行った。

(5) 主事講話（12/1）

学生主事：就職・進学状況、規則違反による停学などの件数の推移を紹介し、占有離脱物横領とならないように注意を喚起。

教務主事：昨年度の授業アンケート調査の結果を紹介から、勉学意欲を高めて欲しい。

寮務主事：中小企業の社長が求める人材は、現在より一歩先を見る人、弛まず努力し改良を考える人、失敗に挫けず粘り強い人。

(6) 電気・情報コース分けの指針のガイダンス（12/22）

第4学年での電気工学コース、情報工学コースのコース分け決定を約1年後に控え、現在決まっている学科としてのコース分けの指針を説明した。その主な内容は、以下の通りである。

- ・ 3年生の前期中間から後期中間までの3回の成績において、平均点の上位の者から決定する。その人数は20名までとする。
- ・ 20名を超える希望者がいる場合、志望意欲を裏付ける課外活動状況など、考慮すべき事柄があれば4名まで受け入れることがある。（ここでいう課外活動とは、体験学習アシスタント、文化祭（国領祭科展示）、プログラミングコンテストやロボコンなどである）
- ・ ただし、実験設備などの対応ができない場合、編入学生がいる場合はこの限りではない。
- ・ コース分け決定の予定（本年度実績より）

ガイダンス（7,9,12月）。希望調査（10,1～2月）。決定通知（翌年度4月）。

(7) 将来に向けて進学・就職指導内容の紹介（12/22）

最近、何人かの学生から、将来はフリーターで良いとか、一生親に面倒見てもらうなどといった言葉が、普段の会話の中で出てくることがしばしばありましたので、少し早いのですが、学生の意識改革のために、将来を見据えて現在4年生に行っている進学・就職のためのガイダンスの内容を紹介した。主な内容は、以下の通り。（詳細は、12月にプリントで学生へ配布している）

- ・ 進学と就職の違い。
- ・ 就職試験の内容。（面接、筆記試験の具体的内容）
- ・ 大学・専攻科への推薦の学科の方針。
- ・ 会社への学科推薦の方針。

(8) 席替え（1/12）

3回目の席替えを実施。前列を希望した4名はそうように配置。

(9) 図書館利用の推進（1/19、1/26）

朝のショートホームルームでもたびたび話しているが、最近本を読む子が少なくなり、語彙が少なく、上級生では、会社への履歴書やエントリーシートを書くことができず、教員が原文も残らないほど修正することがほとんどある。そこで、読書を勧める意味もあり、2週に亘って、図書館の本を借り出して利用することを勧めた。

(10) 資格取得の推進（1/26）

4,5年生の資格取得者3名から、資格取得の動機、その資格によるメリット、勉強法などを伝授して貰った。この3名は、**3年次**にそれぞれ基本情報処理技術者・初級システムアドミニストレータ・工事担任者（アナログデジタル総合種）を取得している。

これから行われる資格試験のうち学科として取得することを強く推薦しているものを紹介する。

- **基本情報処理技術者試験・初級システムアドミニストレータ**

いわゆる IT 関連会社の社員としての免許証のような資格であり、これらを持っていることが当たり前といわれる資格。

願書受け付け：平成 19 年 1 月 15 日（月） ～ 2 月 13 日（火）

試験日：平成 19 年 4 月 15 日（日）

受験料：5,100 円

- **第三種電気主任技術者（まだ受付は始まっていない）**

卒業生アンケートをすると、学生時代に取っておきたかった資格・学生時代にとっておいた方がよい資格として必ず出てくる資格である。

願書受け付け：5 月～6 月

試験日：8 月 20 日頃の日曜日

受験料：4,650 円（平成 18 年度実績）

- **その他**

電気情報工学科ホームページ参照。

<http://www.ele.niihama-nct.ac.jp/license/index.html>

6. 2 月以降の主な行事予定

- ・ 2/3(土) 第 2 回保護者懇談会
- ・ 2/6(火) 企業説明会
- ・ 2/15(木) 寮生大会・送別会
- ・ 2/18(日) 入学試験（学力試験）
- ・ 2/21(水)～2/28(水) 学年末試験
- ・ 3/7(水) 平常授業のあと終業式
- ・ 3/14(水) 1～4 年の成績提出
- ・ 3/15(木) 卒業・修了認定会議
- ・ 3/20(火) 卒業式・修了式
- ・ 3/22(木) 進級判定会議

問合せ先：

電気情報工学科 2 年 担任 井門英司

0897-37-7753（教員室）

電気情報工学科 2 年 副担任 香川福有

0897-37-7759（教員室）

2D だより (春号)

2 年電子制御工学科学生の保護者の皆様

陽春の候、皆様にはご健勝のことと存じます。平成18年度が始まり、学生たちは新たな環境で第2学年をスタートしました。今回は「2D だより (春号)」として、本校で学生が遵守すべき諸規則等をご紹介いたしました。ご一読いただき、ご家庭でもご指導をお願いしたいと存じます。

記

1. 学生の車両使用について

- ・ 運転免許の取得は、法令上の取得年齢が来れば可能ですが、事前に保護者の承諾を得た上で「運転免許取得予定届出書」を提出しなければなりません。また、免許取得後は、「運転免許取得届」を提出しなければなりません。
- ・ 通学等で学校に車両の乗り入れができるのは、3年生以降。ただし、上記の書類を提出済みであることが条件で、事前に「車両使用許可願」を提出し、許可を得なければなりません。

2. 学生のアルバイトについて

- ・ 1、2年生のアルバイトは、長期休暇中をのぞき、原則として禁止です。特別な理由で希望する場合は担任にご相談ください。夏休みなどの長期休暇中にアルバイトをする場合は、事前に「アルバイト届」を提出しなければなりません。

3. 服装等について

- ・ 1、2年生は制服着用のこと。また、茶髪・ピアスは禁止。

4. カウンセリングについて

- ・ 学生相談室は、月・火曜日（木は第3）の16:00、水曜17:30から利用できます。

5. 気象警報（大雨、大雪、暴風、暴風雪）発令時の授業措置

- ・ 午前7時の時点で東予東部に発令の場合、午前中休講。午前10時でまだ発令の場合、午後も休講。自宅通学の場合、自宅区域のみ発令の場合は特別欠席。
- ・ 携帯WEBで授業措置が確認できます。<http://www.off.niihama-nct.ac.jp/~keitai-hp/>

6. 学生が病気などの理由で欠席するときには、お知らせください。

以上

2D 担任 佐渡一邦 (一般教養科英語)

TEL 0897-37-7824 (研究室)

TEL 0897-45-4711 (自宅)

2D 副担任 占部弘治 (電子制御工学科)

TEL 0897-37-7767 (研究室)

2Dだより（夏号）

7月に入り暑い日が続いておりますが、中間試験も終わり、いよいよ夏休みを迎える時期となりました。夏号では春号以降の活動についての報告と夏休みの過ごし方についてお伝えしたいと思います。

去る5月19日には学外研修として本川発電所と原子力保安研修所を見学し、その前後に事前・事後学習を特別活動の時間を用いて行いました。その詳細は次のとおりです。

事前学習の内容（5月12日実施）

原発の歴史、原発の種類、原発のしくみ、主な原発事故、日本の原子力施設、プルサーマル計画とは？

原発と地域社会 これらのテーマを各班がインターネットで調査し、発表した。

研修の状況と成果（5月19日実施）

午前中本川発電所の地下の施設を見学。ランナーと呼ばれる巨大な鉄の水車の実物やその他の施設を見学し、水力発電のしくみや伊方原発との関係について説明を受ける。

午後は原子力保安研修所を見学。伊方原発と同じ、あるいはスケールを小さくした機械設備を見学。

また原発職員の研修している様子も見学した。

事後指導（5月26日実施）

班に分かれて、水力発電のしくみ、原子力発電のしくみ、日本と四国の発電事情、本川発電所と伊方原発との関係、原子力保安研修所の業務、電気が家に届くまで、総合所見と今後の学習への応用、のテーマについてさらに調査した。

またSHRを用いて学生の食生活、特に朝食について調査を実施いたしました。寮につきましてはメニューが把握できておりますが、何を残したか、通学生については何を食べたかについて記入していただきました。食生活と学校生活、特に学習への取り組みが無関係ではないと考えられますので今後この調査を食育に役立てて行きたいと考えております。ご家庭でもより良い食生活ができますように保護者の皆様のご協力をお願いいたします。

7月21日から夏季休業に入りますが、（20日は補講日）休業中も高専生として規則正しい生活をするのが求められます。部活動に所属している学生は練習に積極的に参加していただきたいと思います。アルバイトについては1・2年生は原則禁止ですが、夏季休業中は学習に差し支えない程度で、危険・有害なものを除き、申請して行うことは可能です。その場合は事前に「アルバイト届」を担任に提出してください。また免許等を取得する場合にも事前に届けを提出してください。1・2年生は茶髪・ピアスは禁止となっておりますので夏休みも高専の規則を守って生活するように家庭でのご指導をお願いいたします。各教科より宿題が出されておりますが、部活動の練習等が無い場合には午前中は学習時間として活用させてください。夏休みはどうしても気が緩みがちですが、しっかりと自己管理をして規則正しい生活をし、9月からの授業に取り組むことができるようにご指導をよろしくお願いいたします。夏休み中に何か相談したいことがありましたら担任・副担任までご連絡ください。

2D 担任 佐渡一邦（一般教養科英語）

Tel 0897-37-7824（研究室）

sado@gen.niihama-nct.ac.jp（メールアドレス）

Tel 0897-45-4711（自宅）

2D 副担任 占部弘治（電子制御工学科）

Tel 0897-37-7767（研究室）

2D だより(秋号)

2D だより (秋号) をお届けします。今回は、進級条件について、特集してお知らせします。

1-1 授業出席について

各科目の単位が認定されるには、その前提条件として授業出席時数をクリアしていなければなりません。この条件をクリアしていない場合（欠課オーバー）は、その科目が単位認定されないばかりか、科目によっては（専門基礎科目）、その時点で進級できなくなります。ご家庭でも、授業にはしっかり出席するよう、ご指導ください。

さて、その授業出席の条件ですが、1単位の科目（半期科目）は、90分×15回の授業を行い、これで授業時数を30時間とカウントします（90分授業1回で2時間）。そして、その授業時数の3/4の授業時間に出席していなければなりません。この3/4の条件は、2単位の科目（60時間）、3単位の科目（90時間）、4単位の科目（120時間）でも同じです。よって、欠課時間数が下の表の時間をオーバーすると欠課オーバーとなります。また、遅刻、早退は3回で2時間の欠課として計算します。

単位 (科目)	1 (保健)	2 (歴史1など)	3 (国語2など)	4 (数学A)
欠課時数	7 1/3	1 5	2 2 1/3	3 0

1/3は、遅刻1回。ご家庭でも、成績表の各科目の欠課時数をご確認ください。

1-2 進級条件について

進級条件の第1は、その学年までの修得単位数の合計です。各科目の単位は、最終成績が60点以上で認められますが、学年ごとに進級に必要な累積単位数が定められています。この単位数を修得していなければ、進級できません。次の表のとおりです。

学年	1年	2年	3年	4年
累積単位数	2 6	5 8	9 2	1 2 8
累積履修単位数	3 4	6 8	1 0 1	1 3 7

累積履修単位数は、学科によって多少異なります。上は電子制御工学科の単位数です。第2は、必修科目（主に実験、実習科目）を修得していなければならないという条件です。2年電子制御工学科では、電気電子実感1が必修科目です。

第3は、専門基礎科目が、1-1の授業出席条件を満たしていなければならないということです。専門基礎科目とは、卒業のための必修得科目です。4年生までに全て修得していなければ5年に進級できません。欠課オーバーの場合、追認試験を受けられませんので、欠課オーバーになると進級できなくなります。2年の専門基礎科目は、数学A-2、数学B-2、物理2、化学2、英語2A、英語2Bの6科目です。

条件の最後は、特別活動を修得していること。担任が可否で判定しますが、不合格の場合または欠課オーバーの場合は進級できません。

2D だより (秋号)

早いもので前期末試験が終了し後期が始まりましたが保護者の皆様はいかがお過ごしでしょうか。前号で学外研修について報告いたしましたが、秋号では補習と夏休み以降の学校行事についてお伝えしたいと思います。すでに1年生のときに受講された方はご承知と思いますが今年度もTA補習を実施することとなりました。科目は数学と物理でいずれも高等専門学校では重要な基礎科目であることは言うまでもありません。この補習の特徴は講義ではなく自分で問題を解いて分からないところを先輩であるTA学生が指導をしてくれるところにあります。年齢も近い先輩の指導は教員の指導とはまた違った特色があると思います。これらの基礎科目の知識が高学年になってどのように応用されていくのか、そして先輩自身も低学年の時に苦勞して習得した経験から様々な身近なアドバイスが得られるものと思います。先輩との人間的な交流もこの補習の大きな目玉になっております。先輩のインターンシップや就職活動の経験などについての話も学習意欲の向上に役立つものだと思います。受講を希望される場合は学生さんとしっかり話し合っただけで申し込んでいただきたいと思います。さらに2年学年団では課外特別活動の一部として後期も補習を実施いたします。補習実施の場合は先に補習を行ってからクラスごとの通常の特別活動が行われます。科目は数学A、数学B、物理、化学、英語です。この補習は全員参加ですが科目については先日すでに希望調査をいたしました。後期中間試験と学年末試験の前に3回ずつ行いますので活用して特に不得意科目の克服に役立てていただきたいと思います。またこの他にも例年夏と春の休暇を利用して英語実力養成講座などで、基礎力養成や資格取得のための講座を開設しております。自由参加の補習につきましては学生さんの得意・不得意や適性を考え無理のない受講をしていただきたいと思います。

2年生においては10月13日の特別活動で学年全体で英語の暗唱コンテストを実施いたしました。各学科から1名ずつ代表が出てスピーチを暗唱しました。わずか2週間の練習期間しかなかったにもかかわらず上手で面白いスピーチを聞くことができ聴衆の学生さんたちも友人のスピーチに興味深く聞き入っていました。このコンテストは詫間電波高専で11月に実施される総合文化祭の暗唱コンテストの予選も兼ねており1・2年生から2名が出場することになりました。参加者全員がとてもすばらしいスピーチをしてくれたと感じました。今後の予定としては10月末と11月末に学科によるキャリア・アップ教育が行われます。11月の卒業生講話とともに進路について考えるのに良い機会だと思います。進路は遠い先のことと考えがちかもしれませんが、3年生になると専門科目が増え現実的なものとなってきます。現在の学習が将来にどのように結びつくかを考えることが学習意欲の向上につながると思います。学校全体としては11月11日と12日に国領祭が行われます。学生の皆さんの自主的・積極的な活動で盛り上げていただきたいと思います。対外行事や参観日、保護者会の際には学校に足を運んでいただき、学生の皆さんの日常の活動をご覧になり新居浜高専の教育活動により一層のご理解とご協力をいただければ幸いです。今後とも2年電子制御工学科をよろしくお願いたします。

2D 担任 佐渡一邦 (一般教養科英語)

Tel 0897-37-7824 (研究室)

sado@gen.niihama-nct.ac.jp (メールアドレス)

Tel 0897-45-4711 (自宅)

2D 副担任 占部弘治 (電子制御工学科)

Tel 0897-37-7767 (研究室)

2D だより(冬号)

「2D だより (冬号)」をお届けします。今回は、学生たちに今年度を振り返って作文を書いてもらいました。各学科1名ずつ代表して掲載します。

◎スピーチコンテスト

機械工学科 上浦 章

今年度は、初の校内スピーチコンテストの出場者に選ばれ、そして見事優勝してしまい、四国高等専門学校総合文化祭にも出場してしまいました。総合文化祭で発表する内容は校内スピーチコンテストよりも、およそ三倍近くの長さで、覚えるのにひと苦勞でした。

しかし、逆境にくじけず、あきらめず努力した結果、総合文化祭でも五位入賞というまあまあの結果を残すことができ、感激で胸が一杯になりました。このことが今年度一番の成果です。

今後は、この経験を活かし、さらなる英語の力の向上、そして来年度のスピーチコンテスト出場を考えて、努力を積み重ねていきたいと思います。

◎「冬休みの生活」

電気情報工学科 清水 謙太

後期中間試験が終り、冬休みに入るとすぐ次の日に、部活の大会がありました。私はソフトテニス部に所属していて、この大会は、新人戦の県大会で上位に残ることができたペアだけの大会なので、とてもレベルが高いということを聞いていました。自分の力を試すことができる機会なのでとても張り切っていたのですが、ベスト8で負けてしまいました。自分はそのとき、体が重く調子が最悪だったので、大いに悔いが残る結果になってしまい、日頃の練習での甘さを痛感した大会となりました。優勝や準優勝など、上位に残った選手は皆、自分を追い込んで練習しているからこそ強いんだろうと感じ、今回の反省を次に活かして行きたいと思いました。

大会の後、久しぶりに(学寮から)家に帰り、洗濯も親がしてくれ、テレビも見られ、点呼もないといった生活に慣れて、だらけ切った生活を送っていました。それでも、今までの疲れも癒えたので、冬休みが明けてからも頑張れるだろうという気力を養うことができました。

新年が明け、今年は今までにない最高の一年にしたいと思い、目標を立てました。今年の目標は「悔いを残さない」として、何事にも一生懸命に取り組もうと考えました。特に、今年で終わってしまう部活に全力を尽くし、最高の結果を残したいと考えているので、体調管理をきちんとし、今年も頑張っていこうと思います。

◎検定にチャレンジ

電子制御工学科 匿名希望

昨年の混合学級から学科ごとのクラスになり、授業もより一層難しくなりました。専門科目で、前期は電気回路、計測工学、後期は電気・電子実験、メカトロニクス基礎、1年間を通しては、デジタル回路という科目が新たに加わりました。そして数学のクラスは基礎と発展に分かれ、授業についていくのが大変になりました。成績は、前期中間はよかったけど前期末が悪かったので後期中間頑張りました。

他に力をいれたことと言えば、昨年初めて検定にチャレンジしました。本だけを見て自分一人の力で勉強するのはとても大変でした。しかし、あきらめずに頑張った結果、見事デジタル検定3級に受けることが出来ました。

昨年は1個しか検定を受けなかったけど、今年はTOEICや漢検など積極的にチャレンジして、自分の視野を広げたいと思います。そして、成績もより一層良くなるように頑張りたいと思います。

◎キャンパスベンチャーに応募して

生物応用化学科 川上幸恵

キャンパスベンチャーグランプリとは、新事業の提案コンテストです。私の提案内容は、地震災害時の家庭用非常電源としての長期保存電池というものです。書類審査が通り、最終審査のため12月15日に高松へ行きました。最終審査では、6分間のプレゼンとヒアリングを行います。トップバッターということもあり、今までにない緊張とプレッシャーで一杯一杯でした。プレゼンは練習通りにスムーズにできましたが、6分はあっという間でした。ヒアリングは2回質問に答えられない場面がありました。でも、自分のできる範囲で相手に伝えられるよう話せられたし、審査員の方にはさまざまな意見をいただきとても参考になりました。そして結果、入賞することができました。まさか入賞するなんて思いもしなかったのも、本当に嬉しいです。今回応募したことで、普段の生活では得ることができない経験がたくさんできました。それに自信が付いたし、頑張っただけで本当に良かったと思います。今後この提案をさらに発展させていければいいなと考えています。

◎クラスの雰囲気や近状について

材料工学科 匿名希望

クラスの雰囲気について書くことになったのだけど、僕は、何を書いたらいいかわからないのでとりあえず僕の思ったことを書きます。

まず二年材料科の担任の柴田先生は毎日とても忙しそうです。先生は家から自転車です。毎日通勤しています。そして学校で生徒のために頑張っています。柴田先生は生徒に対してとても温厚なのでいい先生だと思います。でも先生には色々迷惑をかけてしまいました。そのときは本当にすみませんでした。

テスト週間になると僕はクラスメートがやっている勉強会に参加させてもらっています。そこで勉強を教えてもらっていますが、それなしではたぶん欠点ばかりをとっていただろうと思います。クラスメートには感謝しています。二年材料科はそんないい人たちばかりで、今の僕がここにいられるのはそういうクラスの雰囲気があるからだとおもっています。本当にそんな雰囲気の出ているクラスに感謝しています。

寒さで朝夕は身体もちぢこまりがちです。防寒着で反射運動能力が低下します。自転車通学の学生には、充分気をつけてもらいたいと思います。また、家庭でバイクに乗っている学生には、事故につながらないように安全運転を心掛けてほしいと思います。路面の凍結など、特に深夜に乗り回すのは危険です。なお、3年になって許可されればバイク通学が可能です。2年までは、バイクで学校に来ることは禁止されています。放課後、土日でも禁止です。もちろん部活で登校する場合も禁止です。学生が原付バイクで学校に行くようなことのないよう、お願いいたします。違反すると3年になってもバイク通学が許可されません。

早いもので2006年度も終わりに近づきました。学年末試験が2月21日から始まります。すでにお送りしました成績資料を参考に早めに学習に取り組ませるようにご協力いただければ幸いです。去年4月に船出した2年電子制御工学科ですが、今後5年生の卒業までクラスは学科別になります。今後とも保護者の皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

2D 担任 佐渡一邦 (一般教養科英語) Tel 0897-37-7824 (研究室)

2D 副担任 占部弘治 (電子制御工学科) Tel 0897-37-7767 (研究室)

2Cだより（春号）

2年生物応用化学科学生の保護者の皆様

陽春の候、皆様にはご健勝のことと存じます。平成18年度が始まり、学生たちは新たな環境で第2学年をスタートしました。今回は「2Cだより（春号）」として、本校で学生が遵守すべき諸規則等をご紹介いたしました。ご一読いただき、ご家庭でもご指導をお願いしたいと存じます。

記

1. 学生の車両使用について

- ・ 運転免許の取得は、法令上の取得年齢が来れば可能ですが、事前に保護者の承諾を得た上で「運転免許取得予定届出書」を提出しなければなりません。また、免許取得後は、「運転免許取得届」を提出しなければなりません。
- ・ 通学等で学校に車両の乗り入れができるのは、3年生以降。ただし、上記の書類を提出済みであることが条件で、事前に「車両使用許可願」を提出し、許可を得なければなりません。

2. 学生のアルバイトについて

- ・ 1、2年生のアルバイトは、長期休暇中をのぞき、原則として禁止です。特別な理由で希望する場合は担任にご相談ください。夏休みなどの長期休暇中にアルバイトをする場合は、事前に「アルバイト届」を提出しなければなりません。

3. 服装等について

- ・ 1、2年生は制服着用のこと。また、茶髪・ピアスは禁止。

4. カウンセリングについて

- ・ 学外相談員によるカウンセリングは次の時間に行っています。

月・火曜日 16:00 ～、水曜日 17:30 ～、第3木曜日 16:00 ～

5. 気象警報（大雨、大雪、暴風、暴風雪）発令時の授業措置

- ・ 午前7時の時点で東予東部に発令の場合、午前中休講。午前10時でまだ発令の場合、午後も休講。自宅通学の場合、自宅区域のみ発令の場合は特別欠席。
- ・ 携帯WEBで授業措置が確認できます。<http://www.off.niihama-nct.ac.jp/~keitai-hp/>

6. 学生が病気などの理由で欠席するときには、お知らせください。

以上

2C担任 三井 正 （数理科）

TEL 0897-37-7815（研究室）

TEL 090-3988-7154（携帯）

2C副担任 牧 慎也 （生物応用化学科）

TEL 0897-37-7778（研究室）

TEL 090-2788-1892（携帯）

行事予定

5月 2日 (火)	木曜日の授業
5月 17日 (水)	学生大会、クラスマッチ
5月 19日 (金)	学外研修 (予定)
6月 9日 (金)	前期中間試験 (15日まで)
7月 8日 (土)	保護者懇談会 (9日まで)
7月 20日 (木)	補講日 (19日まで平常授業)
7月 21日 (金)	夏季休業(8月31日まで)、閉寮
8月 31日 (木)	開寮 (14時)
9月 1日 (金)	平常授業
9月 19日 (火)	月曜日の授業
9月 21日 (木)	前期末試験 (28日まで)

本年度から、試験日程が1週間程度早くなっています。

2年生物応用化学科 前期時間割

	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜
	ショートホームルーム				
1限	英語2B 野村	コンピュータサイエンス2 勝浦・西井	数学A-2 古城・柳井	物理2 平木	基礎生物学2 牧
2限	数学A-2 古城・柳井	数学B-2 三井・(近藤貞)	英語2B 野村	英語2A (森実)	微生物学 早瀬
3限	化学2 矢野	生物応用化学演習2A 牛尾・牧	国語2 野口	分析化学実験 桑田・西井	国語2 野口
4限		体育2 今城	歴史1 (板野)		特別活動
					課外特別活動

ショートホームルーム	8:35	～	8:50
1限	8:50	～	10:20
2限	10:30	～	12:00
3限	12:45	～	14:15
4限	14:25	～	15:55

2C だより (夏号)

—— 夏季休業中の学生生活について ——

夏休みは学生が開放的な気分になりやすく、気の緩みがちな時期です。重大な事故、事件を未然に防ぐためにも、よろしくご指導をお願いします。

1. 勉学

- 夏休みはこれまで学習した内容を振り返る絶好の機会です。毎日少なくとも2時間の学習時間が確保できるようにご家庭でもご指導をお願いします。
- 各教科よりの宿題をこのプリントの裏面にまとめてあります。
- 前期末試験の日程が昨年度より早くなっております。夏休みがあげたら試験まであまり時間がありません。夏休み後半は特に復習をしっかりし、また生活リズムに気をつける必要があります。

2. アルバイト

- 休暇期間中にアルバイトを行う場合には事前に「アルバイト届け」を提出しなければなりません。届けには保護者の同意(署名)が必要です。
- 休暇期間中といえども、時間帯が深夜に及ぶようなアルバイトや勉学に支障をきたすようなアルバイトは控えるようにご指導をお願いします。

3. 交通安全

- 免許を取得する場合は事前に保護者の承諾を得た上で「運転免許取得予定届出書」を提出しなければなりません。
- 警視庁公安の人の話によれば、挨拶のできる人はほとんど事故を起こさないとのことでした。日頃から挨拶の習慣を身につけ、お互いの顔をあわせることが大切なことです。

4. 携帯電話、インターネット

- 個人情報や盗まれたり、事件に巻き込まれたりする危険があることを認識した上で慎重に利用する必要があります。

その他のトピック

● 学外研修について

5月12日に、タカキベーカリーの岡山工場を見学してきました。パン作りを体験し、また、パン、ハム、チーズなどを試食させていただきました。専門科目で学習している内容の実践を肌で感じるのと同時に楽しむこともでき、有意義な研修だったのではないかと思います。

● 食生活について

2年生全学科を対象に朝食調査を行いました。結果についての整理はまだですが、栄養のバランスのとれた食事が学業成績の向上や精神の安定につながると考えています。

● 授業料免除申請について

平成18年度後期授業料免除申請は、9月1日から9月13日(水)17:00までとなっています。申請されるかたは、現在学生課学生就学支援係で書類を配布しています。

裏面もご覧ください

— 今後のおもな行事予定 (～ 10 月) —

7 月 15 日 (土) 四国地区高専体育大会 (17 日まで)
 20 日 (木) 補講日 (19 日まで平常授業)
 21 日 (金) 夏季休業 (8 月 31 日まで)
 9 月 1 日 (金) 平常授業
 追認試験 (後期分、8 日まで)
 19 日 (火) 月曜日の授業
 21 日 (木) 前期末試験 (28 日まで)
 10 月 6 日 (金) 補講日
 10 日 (火) 後期始業日 (1 限目始業式・特活)
 18 日 (水) 休講
 21 日 (土) 授業参観日 (月曜日の授業)
 学寮保護者懇談会
 23 日 (月) 休講
 28 日 (土) 英語学力試験 (第 2 回)

夏休みの宿題

科目	担当教員	宿題内容	期限
歴史 1	板野	教科書の筆写	9 月第 1 授業日
国語 2	野口	読書感想文	9 月第 1 授業日
英語 2A	森実	プリント	9 月第 1 授業日
英語 2B	野村	英文の暗唱	9 月初めに暗唱テストを実施
数学 A-2	柳井・古城	復習プリント 1 部	9 月第 1 授業日
数学 B-2	近藤・三井	復習プリント 1 部	9 月第 1 授業日
物理 2	平木	A4 で 1 枚	9 月第 1 授業日
化学 2	矢野	セミナー化学「電池と電気分解」の 該当のプロセス、基本例題・基本 問題	9 月第 1 授業日
生物応用化学 演習 2A	牛尾・牧	プリント 8 頁 (4 枚) 中間試験後の普段の演習でできなかった 学生は、問題の解法を考え埋めて くること。9/5 まで	9 月第 1 授業時
微生物学	早瀬	レポート課題	9 月第 1 授業時
分析化学実験	桑田・西井	WebClass 内の分析化学実験の「夏の 課題 (質量分析、中和滴定)」を行う こと (WebClass 上でテストに解答す ること。) / 携帯電話でも可です。	9 月 1 日 (金) 19:00 まで

2Cだより(秋号)

2C だより（秋号）をお届けします。今回は、進級条件について、特集してお知らせします。

1-1 授業出席について

各科目の単位が認定されるには、その前提条件として授業出席時数をクリアしていなければなりません。この条件をクリアしていない場合（欠課オーバー）は、その科目が単位認定されないばかりか、科目によっては（専門基礎科目）、その時点で進級できなくなります。ご家庭でも、授業にはしっかり出席するよう、ご指導ください。

さて、その授業出席の条件ですが、1単位の科目（半期科目）は、90分×15回の授業を行い、これで授業時数を30時間とカウントします（90分授業1回で2時間）。そして、その授業時数の3/4の授業時間に出席していなければなりません。この3/4の条件は、2単位の科目（60時間）、3単位の科目（90時間）、4単位の科目（120時間）でも同じです。よって、欠課時間数が下の表の時間をオーバーすると欠課オーバーとなります。また、遅刻、早退は3回で2時間の欠課として計算します。

単位（科目）	1（保健）	2（歴史1など）	3（国語2など）	4（数学A）
欠課時数	7 1/3	1 5	2 2 1/3	3 0

1/3は、遅刻1回。ご家庭でも、成績表の各科目の欠課時数をご確認ください。

1-2 進級条件について

進級条件の第1は、その学年までの修得単位数の合計です。各科目の単位は、最終成績が60点以上で認められますが、学年ごとに進級に必要な累積単位数が定められています。この単位数を修得していなければ、進級できません。次の表のとおりです。

学年	1年	2年	3年	4年
累積単位数	2 6	5 8	9 2	1 2 8
累積履修単位数	3 4	6 8	1 0 4	1 4 2

累積履修単位数は、学科によって多少異なります。上は生物応用化学科の単位数です。

第2は、必修科目（主に実験、実習科目）を修得していなければならないという条件です。2年生物応用化学科では、分析化学実験が必修科目です。

第3は、専門基礎科目が、1-1の授業出席条件を満たしていなければならないということです。専門基礎科目とは、卒業のための必修得科目です。4年生までに全て修得していなければ5年に進級できません。欠課オーバーの場合、追認試験を受けられませんので、欠課オーバーになると進級できなくなります。2年の専門基礎科目は、数学A-2、数学B-2、物理2、化学2、英語2A、英語2Bの6科目です。

条件の最後は、特別活動を修得していること。担任が可否で判定しますが、不合格の場合または欠課オーバーの場合は進級できません。

・英語暗唱コンテストについて

10月13日の特別活動の時間に、英語暗唱コンテストを実施しました。

各クラスから1名ずつの代表者が暗唱を行い、2年機械工学科の上浦君が、1年生と2年生をあわせた総合成績で1位となりました。上浦君は11月18、19日に開催される四国地区高専総合文化祭のスピーチコンテスト（暗唱の部）に本校の代表として参加します。

・ティーチングアシスタントについて

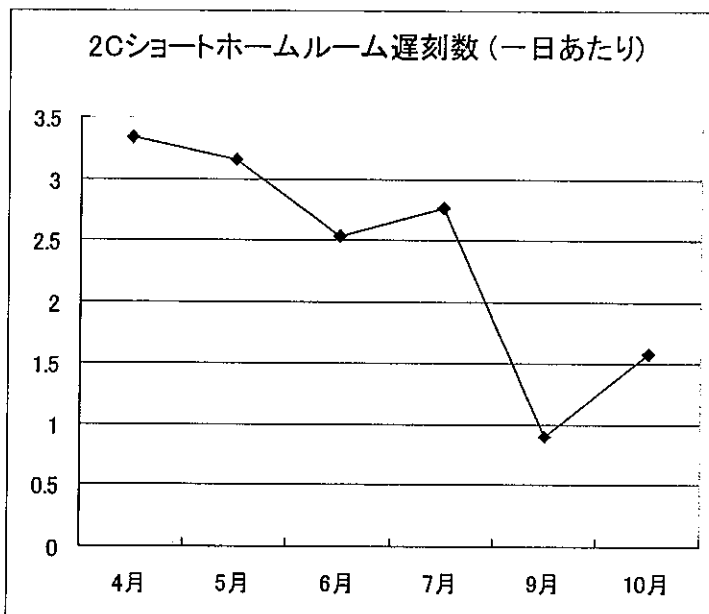
昨年度同様、今年度も上級生（ティーチングアシスタント）による補習を行います。ご案内を同封いたしますのでご覧ください。

・ショートホームルームについて

毎朝 8:35 ～ 8:50 の間、ショートホームルームを行っています。右図はショートホームルームに遅刻した学生の人数をグラフにしたものです。

4月の始業日に全員揃わなかったときはどうなることかと思いましたが、だんだんと遅刻数が減ってきました。

しかし、今月（20日までの平均）は少し増えています。これから寒くなって起床時刻が遅くなりがちだと思いますが、遅刻しないように保護者の皆様のご協力をお願いいたします。



今後の主な予定

10月 28日（土） 英語学力試験	1月 8日（月） 開寮 14時
11月 10日（金） 国領祭前夜祭(休講)	9日（火） 平常授業
11日（土） 国領祭(12日まで)	30日（火） クラスマッチ
13日（月） 国領祭後片付け・校内一斉清掃	2月 3日（土） 1～4年生保護者懇談会
14日（火） 月曜日の授業	14日（水） 月曜日の授業
18日（土） 四国地区高専総合文化祭(19日まで)	19日（月） 休講
12月 11日（月） 後期中間試験(15日まで)	21日（水） 学年末試験(28日まで)
23日（土） 閉寮	3月 7日（水） 終業式
25日（月） 冬季休業(1月7日まで)	22日（木） 進級判定会議

2C 担任 三井 正 (数理科)

Tel 0897-37-7815 (研究室)

2C 副担任 牧 慎也 (生物応用化学科)

Tel 0897-37-7778 (研究室)

2Cだより(冬号)

2C だより（冬号）をお届けします。今回は、学生たちに今年度を振り返って作文を書いてもらいました。各学科1名ずつ代表して掲載します。

◎スピーチコンテスト

機械工学科 上浦 章

今年度は、初の校内スピーチコンテストの出場者に選ばれ、そして見事優勝してしまい、四国高等専門学校総合文化祭にも出場してしまいました。総合文化祭で発表する内容は校内スピーチコンテストよりも、およそ三倍近くの長さで、覚えるのにひと苦勞でした。

しかし、逆境にくじけず、あきらめず努力した結果、総合文化祭でも五位入賞というまあまあの結果を残すことができ、感激で胸が一杯になりました。このことが今年度一番の成果です。

今後は、この経験を活かし、さらなる英語の力の向上、そして来年度のスピーチコンテスト出場を考えて、努力を積み重ねていきたいと思います。

◎「冬休みの生活」

電気情報工学科 清水 謙太

後期中間試験が終り、冬休みに入るとすぐ次の日に、部活の大会がありました。私はソフトテニス部に所属していて、この大会は、新人戦の県大会で上位に残ることができたペアだけの大会なので、とてもレベルが高いということを聞いていました。自分の力を試すことができる機会なのでとても張り切っていたのですが、ベスト8で負けてしまいました。自分はそのとき、体が重く調子が最悪だったので、大いに悔いが残る結果になってしまい、日頃の練習での甘さを痛感した大会となりました。優勝や準優勝など、上位に残った選手は皆、自分を追い込んで練習しているからこそ強いんだろうと感じ、今回の反省を次に活かして行きたいと思いました。

大会の後、久しぶりに（学寮から）家に帰り、洗濯も親がしてくれ、テレビも見られ、点呼もないといった生活に慣れて、だらけ切った生活を送っていました。それでも、今までの疲れも癒えたので、冬休みが明けてからも頑張れるだろうという気力を養うことができました。

新年が明け、今年は今までにない最高の一年にしたいと思い、目標を立てました。今年の目標は「悔いを残さない」として、何事にも一生懸命に取り組もうと考えました。特に、今年で終わってしまう部活に全力を尽くし、最高の結果を残したいと考えているので、体調管理をきちんとし、今年も頑張っていこうと思います。

◎検定にチャレンジ

電子制御工学科 匿名希望

昨年の混合学級から学科ごとのクラスになり、授業もより一層難しくなりました。専門科目で、前期は電気回路、計測工学、後期は電気・電子実験、メカトロニクス基礎、1年間を通しては、デジタル回路という科目が新たに加わりました。そして数学のクラスは基礎と発展に分かれ、授業についていくのが大変になりました。成績は、前期中間はよかったけど前期末が悪かったので後期中間頑張りました。

他に力をいれたことと言えば、昨年初めて検定にチャレンジしました。本だけを見て自分一人の力で勉強するのはとても大変でした。しかし、あきらめずに頑張った結果、見事デジタル検定3級に受けることができました。

昨年は1個しか検定を受けなかったけど、今年はTOEICや漢検など積極的にチャレンジして、自分の視野を広げたいと思います。そして、成績もより一層良くなるように頑張りたいと思います。

◎キャンパスベンチャーに応募して

生物応用化学科 川上幸恵

キャンパスベンチャーグランプリとは、新事業の提案コンテストです。私の提案内容は、地震災害時の家庭用非常電源としての長期保存電池というものです。書類審査が通り、最終審査のため12月15日に高松へ行きました。最終審査では、6分間のプレゼンとヒアリングを行います。トップバッターということもあり、今までにない緊張とプレッシャーで一杯一杯でした。プレゼンは練習通りにスムーズにできましたが、6分はあっという間でした。ヒアリングは2回質問に答えられない場面がありました。でも、自分のできる範囲で相手に伝えられるよう話せられたし、審査員の方にはさまざまな意見をいただきとても参考になりました。そして結果、入賞することができました。まさか入賞するなんて思いもしなかったもので、本当に嬉しいです。今回応募したことで、普段の生活では得ることができない経験がたくさんできました。それに自信が付いたし、頑張っただけで本当に良かったと思います。今後この提案をさらに発展させていければいいなと考えています。

◎クラスの雰囲気や近状について

材料工学科 匿名希望

クラスの雰囲気について書くことになったのだけど、僕は、何を書いたらいいかわからないのでとりあえず僕の思ったことを書きます。

まず二年材料科の担任の柴田先生は毎日とても忙しそうです。先生は家から自転車で毎日通勤しています。そして学校で生徒のために頑張っている仕事をしています。柴田先生は生徒に対してとても温厚なのでいい先生だと思います。でも先生には色々迷惑をかけてしまいました。そのときは本当にすみませんでした。

テスト週間になると僕はクラスメートがやっている勉強会に参加させてもらっています。そこで勉強を教えてもらっていますが、それなしではたぶん欠点ばかりをとっていただろうと思います。クラスメートには感謝しています。二年材料科はそんないい人たちばかりで、今の僕がここにいられるのはそういうクラスの雰囲気があるからだとおもっています。本当にそんな雰囲気の出ているクラスに感謝しています。

・ものづくりコンテスト in 新居浜高専 2006

10月23日(月)に本校第一体育館で標記コンテストが行われました。内容は「組立式飛行機コンテスト」および「ウインドカーコンテスト」で、2Cからは4名が「ウインドカーコンテスト」に参加しました。結果は11チーム中7位でしたが、生物応用化学科からの参加学生はほとんどいない中、大変健闘したといえるのではないのでしょうか。

・キャンパスベンチャーグランプリ四国

キャンパスベンチャーグランプリ四国とは、四国地域の大学院・大学・短大・専門学校等に在籍する学生による新商品・事業アイデア・新事業の提案コンペのことです。

新居浜高専からは、2Cの川上さんと専攻科生物応用化学専攻1年の山口君が90件の応募の中から最終審査に残りました。そして、後期中間試験期間中に審査会のプレゼンテーション資料を作成しなければならない状況の中、川上さんは見事日刊工業新聞社賞を受賞するという栄誉を受けました。2人とも愛テクフォーラム支援のもと特許申請のための書類を自分たちで書いています。

高専というところは、普通高校と比べてこのようなチャレンジがやりやすい環境です。どんどんとチャレンジしてもらいたいと思います。

担任 三井 正 (0897-37-7815)

副担任 牧 慎也 (0897-37-7778)

2Z だより (春号)

2 年材料工学科学生の保護者の皆様

陽春の候、皆様にはご健勝のことと存じます。平成18年度が始まり、学生たちは新たな環境で第2学年をスタートしました。今回は「2Z だより (春号)」として、本校で学生が遵守すべき諸規則等をご紹介いたしました。ご一読いただき、ご家庭でもご指導をお願いしたいと存じます。

記

1. 学生の車両使用について

- ・ 運転免許の取得は、法令上の取得年齢が来れば可能ですが、事前に保護者の承諾を得た上で「運転免許取得予定届出書」を提出しなければなりません。また、免許取得後は、「運転免許取得届」を提出しなければなりません。
- ・ 通学等で学校に車両の乗り入れができるのは、3年生以降。ただし、上記の書類を提出済みであることが条件で、事前に「車両使用許可願」を提出し、許可を得なければなりません。

2. 学生のアルバイトについて

- ・ 1、2年生のアルバイトは、長期休暇中をのぞき、原則として禁止です。特別な理由で希望する場合は担任にご相談ください。夏休みなどの長期休暇中にアルバイトをする場合は、事前に「アルバイト届」を提出しなければなりません。

3. 服装等について

- ・ 1、2年生は制服着用のこと。また、茶髪・ピアスは禁止。

4. カウンセリングについて

- ・ 学生相談室は、月～木曜日（木は第3）の16:00～17:00に利用できます。

5. 気象警報（大雨、大雪、暴風、暴風雪）発令時の授業措置

- ・ 午前7時の時点で東予東部に発令の場合、午前中休講。午前10時でまだ発令の場合、午後も休講。自宅通学の場合、自宅区域のみ発令の場合は特別欠席。
- ・ 携帯WEBで授業措置が確認できます。<http://www.off.niihama-nct.ac.jp/~keitai-bp/>

6. 学生が病気などの理由で欠席するときには、お知らせください。

2年材料工学科担任 柴田 亮 (数理科化学担当)

TEL 0897-37-7812 (教員研究室)

2年材料工学科副担任 日野 孝紀 (材料工学科)

TEL 0897-37-7802 (教員研究室)

7. 食生活について

学生生活を続ける上で以外に軽視されがちなのが食生活です。必要な栄養を摂取しないことには体は正常に働きません。成長期の学生であればなおさらです。

15~17歳の1日の栄養所要量（厚生労働省推奨値）（四訂食品成分表）

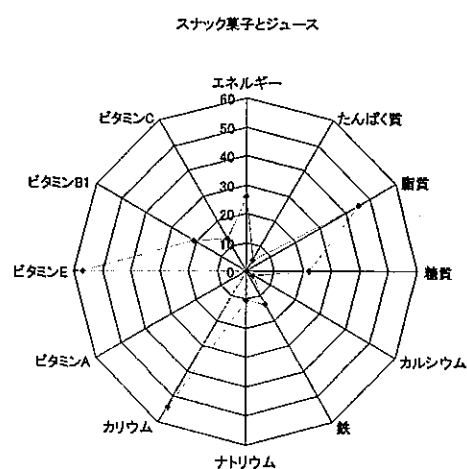
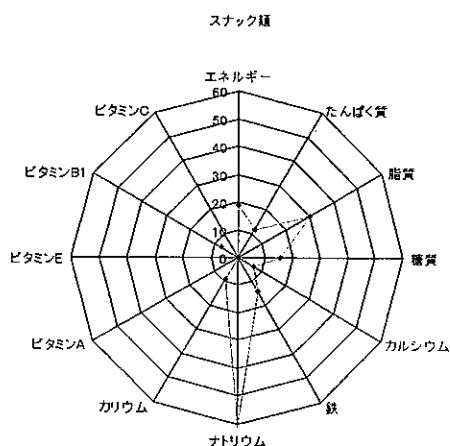
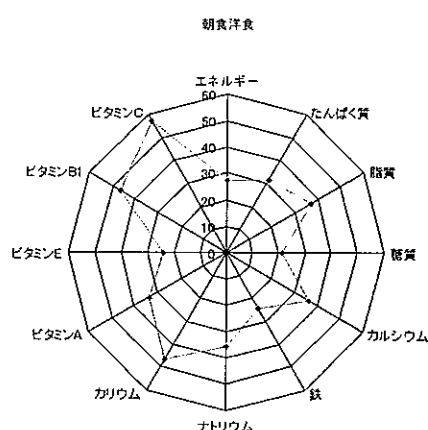
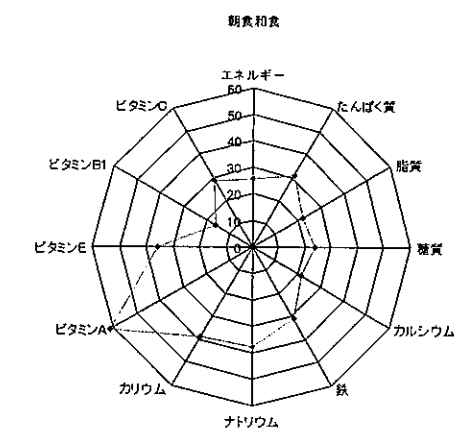
エネルギー	たんぱく質	脂質	糖質
2400 kcal	90 g	70 g	360 g

カルシウム	リン	鉄	ナトリウム	カリウム	マグネシウム	亜鉛	銅
800 mg	1200 mg	12 mg	3600 mg	2000 mg	290 mg	10 mg	1.8 mg

ビタミンA	ビタミンE	ビタミンD	ビタミンB1	ビタミンB2	ナイアシン	ビタミンC
2000 IU	10 mg	100 IU	1.1 mg	1.2 mg	17 mg	100 mg

食事による栄養摂取量が1日の所要量に対して何%を満たすことになるかを示したのが以下のグラフです。1日の合計がバランスよく100%を満たせば理想的です。

- 朝食（和食） 味噌汁（味噌15g、豆腐40g、わかめ2g、ねぎ2g）、
612 kcal ご飯240g、ほうれん草40g、醤油2g、いわし80g、大根50g、
- 朝食（洋食） 食パン80g、バター5g、蜂蜜5g、ジャム10g、牛乳200g、卵50g、
651 kcal トマト20g、レタス20g、キャベツ50g、バナナ50g、ベーコン50g
- スナック麺（カップめん具入り）100g 455 kcal
- スナック菓子 622 kcal ポテトチップス90g、清涼飲料水250g とした場合



特定の食品に頼るのではなく多くの種類の食品を摂取することにより 1 日の合計が所要量を満たすよう心がけてください。サプリメントに頼ると特定の栄養素の過剰摂取や、栄養の吸収能力の低下を招く場合があります。必要な栄養素は原則として食品から摂取するようにしましょう。

8. 学外研修について

本校では「研修を通じて、各種の学習活動やレクレーション・野外活動を行い、責任感・自立心・友愛心等を育て、民主的社会性を身に付けさせるとともに、教職員と学生が肌をふれあいながら一層お互いの理解を深めつつ、教室内における正課教育のみによって果たすことのできない学生生活に密着した多角的な指導、学生が正課外に行うさまざまな課外活動に対する指導及び助言などの機会を持つこと。」を目的とした学外研修を、2 年生以上ではクラス単位で行っています。予定は以下の通りです。

日時 5 月 1 9 日（金）8：30 2 年材料工学科教室集合 日帰り 1 7：00 解散

行き先 大三島

内容(予定) 伯方の塩工場見学、鷲ヶ頭山登山

9. 授業欠課時数について

高専で単位を取得し、進級条件を満たすためには授業の出席条件を充足しなければなりません。その条件は年間 30 単位時間の 1/4 を超えてはいけないということです。たとえば 2 単位の授業であれば欠課時数が 1 5 時間を越えると「欠課オーバー」となり単位取得の権利が消失し、追認試験も受けられません。数学、物理、化学、英語といった必修科目であれば即、留年が確定します。90 分授業を 1 回休めば 2 時間の欠課、1 回の遅刻で 2/3 時間の欠課となります。授業は全出席が前提ですから、欠課のないようにお願いします。

社会人になれば体調管理も実力のうちとみなされ、病欠であってもマイナス評価の対象となります。食生活、睡眠時間、身体の鍛錬など学生のうちから訓練が必要です。

夏休みは、学生が開放的な気分になりやすく、気の緩みがちな時期です。重大な事故、事件を未然に防ぐためにも、よろしくご指導お願いします。

1. 勉学

- ・夏休みはこれまで学習した内容を振り返る絶好の機会です。毎日少なくとも2時間の学習時間が確保できるように家庭でもご指導をお願いします。
- ・各教科より、合計で1日当り2時間分に相当する宿題が出されます。

2. アルバイト

- ・休暇期間中にアルバイトを行う場合には事前に、「アルバイト届」を学生係に提出しなければなりません。届には保護者の同意（署名）が必要です。
- ・休暇期間中といえども時間帯が深夜に及ぶなど勉学に支障をきたすようなアルバイトは控えるようにご指導をお願いします。

3. 交通安全

- ・法令上、原付の免許取得が可能な年齢に達していますが、免許を取得する場合は事前に、保護者の承諾を得た上で、「運転免許取得予定届出書」を学生係に提出しなければなりません。
- ・最近、本校学生が、帰宅途中にバイクによる交通事故で死亡しています。交通安全にはくれぐれも気をつけるよう、注意を喚起してください。
- ・警視庁公安の人の話によれば、挨拶のできる人はほとんど事故を起こさないとのこと。日ごろから挨拶の習慣を身につけ、お互いの顔を合わすことが大切なことです。

4. 携帯電話、インターネット

- ・出会い系サイトなどで、見ず知らずの人との交際をはじめて、事件に巻き込まれるといった事が全国的に多発しています。お互いに顔を見ることなくメールだけのやり取りの中には大きな危険性が潜んでいます。携帯電話普及に伴い、高校生などの性交体験率および性感染症の感染率が著しく上昇しています。日頃の行動には常に気を配っていただくようお願いします。
- ・フィッシングといった、ホームページを見て、アクセスをするだけで個人情報盗まれ、悪用されて多額の代金を請求されるといった詐欺事件が報道されています。インターネットを利用するにあたり、このような危険性を認識する必要があります。

5. 食生活

- ・2年生を対象に朝食調査を行った結果、多くの学生が「パンとお茶」「野菜抜き」といった栄養的に偏った食生活をしていることが判りました。栄養バランスのいい人ほど学業の成績が良いという傾向が出ています。朝は多忙な時間帯かもしれませんが1日のトータルで、第1群（牛乳・卵）、第2群（肉・魚類）、第3群（野菜）、第4群（主食）のバランスをとることが大切です。

6. 授業料免除申請

- ・平成18年度後期授業料免除申請は9月1日から9月13日（水）17:00までとなっています。申請される方は現在、学生課学生就学支援係で書類を配布していますので、提出期限厳守をお願いします。

2Zだより(秋号)

2Zだより(秋号)をお届けします。今回は、進級条件について、特集してお知らせします。

1-1 授業出席について

各科目の単位が認定されるには、その前提条件として授業出席時数をクリアしていなければなりません。この条件をクリアしていない場合(欠課オーバー)は、その科目が単位認定されないばかりか、科目によっては(工学基礎科目)、その時点で進級できなくなります。ご家庭でも、授業にはしっかり出席するよう、ご指導ください。

さて、その授業出席の条件ですが、1単位の科目(半期科目)は、90分×15回の授業を行い、これで授業時数を30時間とカウントします(90分授業1回で2時間)。そして、その授業時数の3/4の授業時間に出席していなければなりません。この3/4の出席条件は、2単位の科目(60時間)、3単位の科目(90時間)、4単位の科目(120時間)でも同じです。よって、欠課時間数が下の表の時間を越えると欠課オーバーとなります。また、遅刻、早退は3回で2時間の欠課として計算します。

単位	1単位	2単位	3単位	4単位
科目	保健, 材料科学1	歴史1, 数学B2, 化学2, 体育2, 英語1A, 情報処理1, 機械工作法, 材料工学演習	国語2, 物理2, 英語2B, 機械工作法実習	数学A
欠課時数	7 1/3	15	22 1/3	30

1/3は、遅刻1回。ご家庭でも、成績表の各科目の欠課時数をご確認ください。

1-2 進級条件について

進級条件の第1は、その学年までの修得単位数の合計です。各科目の単位は、最終成績が60点以上で認められますが、学年ごとに進級に必要な累積単位数が定められています。この単位数を修得していなければ、進級できません。次の表のとおりです。

学年	1年	2年	3年	4年
累積単位数	26	58	92	128
累積履修単位数	34	68	102	138(140)

累積履修単位数は、学科によって多少異なります。上は材料工学科の単位数です。4年のカッコ内の数字は、自由選択の科目を履修した場合の単位数です。

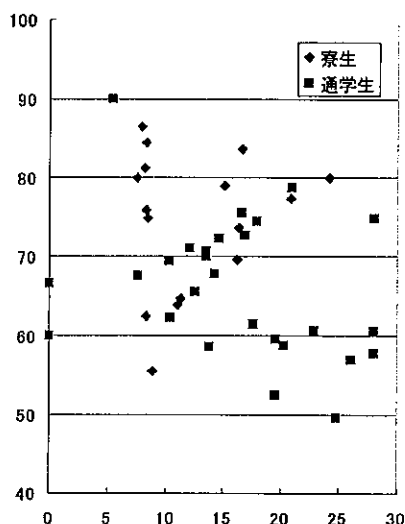
第2は、必修科目(主に実験、実習科目)を修得していなければならないという条件です。2年材料工学科では、該当する授業はありませんが、3年生の専門科目から必修科目が入ります。

第3は、専門基礎科目が、1-1の授業出席条件を満たしていなければならないということです。専門基礎科目とは、卒業のための必修得科目です。4年生までに全て修得していなければ5年に進級できません。欠課オーバーの場合、追認試験を受けられませんので、欠課オーバーになると進級できなくなります。2年の工学基礎科目は、数学A-2、数学B-2、物理2、化学2、英語2A、英語2Bの6科目です。

条件の最後は、特別活動を修得していること。担任が合否で判定しますが、不合格の場合または欠課オーバーの場合は進級できません。

2 朝食調査の結果報告

夏休み前に行った朝食調査に行いて、結果をまとめ分布図にしましたのでご覧ください。



横軸は栄養バランスの偏差値です。数値が少ない方（左）が栄養のバランスがとれています。縦軸は前期中間試験の成績（全科目の平均点）です。黒点が寮生、赤点が通学生です。やや左肩上がり（バランスのとれた朝食を摂っている学生の方が成績が良い）の分布になっているように見えます。

これから朝が寒くなります。学生の起床時間も遅くなりがちになり、朝食を十分に摂らなくなることが予想されます。ご家庭でもその点配慮していただければと思います。

3 英語暗唱スピーチコンテストを実施しました。

10月13日（金）特別活動の時間に視聴覚教室で英語暗唱スピーチコンテストを実施しました。各学科の代表5名が、練習の成果を披露しました。2Mの上浦章君がにこやかな笑顔で、流暢な英語を雰囲気たっぷりに披露してくれました。そして、1年生の代表5名を合わせた10名の中で総合1位に輝きました。上浦君は11月18、19日に開催される四国地区高専総合文化祭のスピーチコンテスト（暗唱の部）に本校の代表として参加します。総文でも、変わらぬ笑顔でがんばってほしいと思います。

4 材料工学豆知識 - 南蛮吹（南蛮絞り） -

銅鉱石には微量の金銀が含まれ、鋳鉱炉より取り出された粗銅（荒銅）にも金銀が含まれています。現在では電解精錬により分離が行われていますが、この技術が導入されたのは明治時代後期であり、それ以前はどのような精錬が行われていたのでしょうか。

銅精錬に大変革をもたらしたのが16世紀後半に日本に伝えられた「南蛮吹」です。これは鋳かした粗銅に鉛を加え、銅分が凝固しかかったところで、まだ鋳けたままの金銀を含む鉛を分離し、灰吹きにより鉛を酸化させ金銀を取り出す方法です。この技術により精銅の純度が飛躍的に向上したばかりでなく、副産物による収入も可能となったわけです。鉱山のあった街の新居浜高専の材料工学科は由緒ある学科です。誇りを持って勉学に励みましょう。

（日本鉱山史の研究 小葉田 淳）

5 後期の行事予定

10月21日（土）	授業参観日（月曜日の授業）	1月9日（火）	平常授業
10月23日（月）	21日の代休	1月11日（木）	化学共通テスト
10月28日（土）	英語学力試験（全員受験）	1月30日（火）	学生会役員立会演説会 クラスマッチ（休講）
11月10日（金）	国領祭前夜祭（休講）	2月3日（土）	保護者懇談会
11月11日（土）	国領祭（～12日）	2月14日（水）	月曜日の授業
11月13日（月）	国領祭後片付け 校内一斉清掃	2月19日（月）	休講
11月14日（火）	月曜日の授業	2月21日（水）	学年末試験（～2月28日）
12月11日（月）	後期中間試験（～15日）	3月7日（水）	この日まで平常授業・終業式
12月25日（月）	冬休み（～1月7日）	3月22日（木）	進級判定会議

2年材料工学科 担任 柴田 亮 0897-37-7812（研究室）

副担任 日野 孝紀 0897-37-7802（研究室）

2Zだより(冬号)

「2Zだより(冬号)」をお届けします。今回は、学生たちに今年度を振り返って作文を書いてもらいました。各学科1名ずつ代表して掲載します。

◎スピーチコンテスト

機械工学科 上浦 章

今年度は、初の校内スピーチコンテストの出場者に選ばれ、そして見事優勝してしまい、四国高等専門学校総合文化祭にも出場してしまいました。総合文化祭で発表する内容は校内スピーチコンテストよりも、およそ三倍近くの長さで、覚えるのにひと苦労でした。

しかし、逆境にくじけず、あきらめず努力した結果、総合文化祭でも五位入賞というまあまあの結果を残すことができ、感激で胸が一杯になりました。このことが今年度一番の成果です。

今後は、この経験を活かし、さらなる英語の力の向上、そして来年度のスピーチコンテスト出場を考えて、努力を積み重ねていきたいと思います。

◎「冬休みの生活」

電気情報工学科 清水 謙太

後期中間試験が終り、冬休みに入るとすぐ次の日に、部活の大会がありました。私はソフトテニス部に所属していて、この大会は、新人戦の県大会で上位に残ることができたペアだけの大会なので、とてもレベルが高いということを聞いていました。自分の力を試すことができる機会なのでとても張り切っていたのですが、ベスト8で負けてしまいました。自分はそのとき、体が重く調子が最悪だったので、大いに悔いが残る結果になってしまい、日頃の練習での甘さを痛感した大会となりました。優勝や準優勝など、上位に残った選手は皆、自分を追い込んで練習しているからこそ強いんだろうと感じ、今回の反省を次に活かして行きたいと思いました。

大会の後、久しぶりに(学寮から)家に帰り、洗濯も親がしてくれ、テレビも見られ、点呼もないといった生活に慣れて、だらけ切った生活を送っていました。それでも、今までの疲れも癒えたので、冬休みが明けてからも頑張れるだろうという気力を養うことができました。

新年が明け、今年は今までにない最高の一年にしたいと思い、目標を立てました。今年の目標は「悔いを残さない」として、何事にも一生懸命に取り組もうと考えました。特に、今年で終わってしまう部活に全力を尽くし、最高の結果を残したいと考えているので、体調管理をきちんとし、今年も頑張っていこうと思います。

◎検定にチャレンジ

電子制御工学科 匿名希望

昨年の混合学級から学科ごとのクラスになり、授業もより一層難しくなりました。専門科目で、前期は電気回路、計測工学、後期は電気・電子実験、メカトロニクス基礎、1年間を通しては、デジタル回路という科目が新たに加わりました。そして数学のクラスは基礎と発展に分かれ、授業についていくのが大変になりました。成績は、前期中間はよかったけど前期末が悪かったので後期中間頑張りました。

他に力をいれたことと言えば、昨年初めて検定にチャレンジしました。本だけを見て自分一人の力で勉強するのはとても大変でした。しかし、あきらめずに頑張った結果、見事デジタル検定3級に受けることが出来ました。

昨年は1個しか検定を受けなかったけど、今年はTOEICや漢検など積極的にチャレンジして、自分の視野を広げたいと思います。そして、成績もより一層良くなるように頑張りたいと思います。

◎キャンパスベンチャーに応募して

生物応用化学科 川上幸恵

キャンパスベンチャーグランプリとは、新事業の提案コンテストです。私の提案内容は、地震災害時の家庭用非常電源としての長期保存電池というものです。書類審査が通り、最終審査のため12月15日に高松へ行きました。最終審査では、6分間のプレゼンとヒアリングを行います。トップバッターということもあり、今までにない緊張とプレッシャーで一杯一杯でした。プレゼンは練習通りにスムーズにできましたが、6分はあっという間でした。ヒアリングは2回質問に答えられない場面がありました。でも、自分のできる範囲で相手に伝えられるよう話せられたし、審査員の方にはさまざまな意見をいただきとても参考になりました。そして結果、入賞することができました。まさか入賞するなんて思いもしなかったもので、本当に嬉しいです。今回応募したことで、普段の生活では得ることができない経験がたくさんできました。それに自信が付いたし、頑張って本当に良かったと思います。今後この提案をさらに発展させていければいいなと考えています。

◎クラスの雰囲気や近状について

材料工学科 匿名希望

クラスの雰囲気について書くことになったのだけど、僕は、何を書いたらいいか分からないのでとりあえず僕の思ったことを書きます。

まず二年材料科の担任の柴田先生は毎日とても忙しそうです。先生は家から自転車で毎日通勤しています。そして学校で生徒のために頑張って仕事をしています。柴田先生は生徒に対してとても温厚なのでいい先生だと思います。でも先生には色々迷惑をかけてしまいました。そのときは本当にすみませんでした。

テスト週間になると僕はクラスメートがやっている勉強会に参加させてもらっています。そこで勉強を教えてもらっていますが、それなしではたぶん欠点ばかりをとっていただろうと思います。クラスメートには感謝しています。二年材料科はそんないい人たちばかりで、今の僕がここにいられるのはそういうクラスの雰囲気があるからだとおもっています。本当にそんな雰囲気の出ているクラスに感謝しています。

1. 今後の行事予定

2月2日(金)	2月9日(金)	2月16日(金)	各4限目
			試験に向けての補習授業
2月3日(土)			保護者懇談会
2月14日(水)			月曜日の授業
2月19日(月)			休講
2月21日(水)～2月28日			学年末試験
3月7日(水)			この日まで平常授業・終業式
3月21日(火)			卒業式
3月22日(木)			進級判定会議

2. 進級を目指して

学年末になりました。後期中間試験の成績と一緒に学生の成績状況をお送りしました。ご家庭でも状況を把握していただいていると思います。学生も進級を目指してがんばっているところです。

2年材料工学科 担任 柴田 亮 0897-37-7812 (研究室)
副担任 日野 孝紀 0897-37-7802 (研究室)

夏休み宿題一覧表(2年生)

科目	担当教員	学科	宿題内容	提出日
歴史1	(板野)	全学科	教科書の筆写	9月第1授業日
国語2	野口・森長	全学科	読書感想文	9月第1授業日
英語2A	(坂田・森実)尾崎	全学科	プリント	9月第1授業日
英語2B	野村・佐渡	全学科	英文の暗唱	9月初めに暗唱テストを実施
数学A-2	柳井・古城(篠原)	全学科	復習プリント1部	9月第1授業日
数学B-2	三井・西谷(近藤・加地)	全学科	復習用のプリント1部	9月第1授業日
化学2	柴田・矢野	全学科	セミナー・化学・B・「電池と電気分解」の該当のプロセス、基本例題・基本問題	9月第1授業日
物理2	平木・竹田	全学科	A4で1枚	9月第1授業日
機械工作法2	石井	M	プリントの課題に答えること。	9月第1授業日
電気電子計測	伊月	E	単元末の演習問題 2章:5問 3章:3.2, 3.4, 4章:4.1, 4.2, 4.3	9月第1授業時間内
電気数学A	井門	E	プリント1枚(5～6問、小問にすれば15問程度)	9月第1授業日
電気情報実習B	尾西	E	電気・電子工作	9月第1授業日
プログラミング1	平野	E	プリント1枚(両面)	9月第1授業日
回路理論1	井門	E	プリント1枚(5～6問、小問にすれば15問程度)	9月1日午後5:00
情報処理2	田中	D	プリント1枚(プログラム演習4題)	9月第1授業日
ディジタル回路1	松村	D	教科書p16-18演習問題1.2-1.9, p40-41演習問題2.1～2.4各自○付け答合せA4判レポート	9月1日(金)最初の授業直前まで
計測工学	栗原	D	理解度確認演習4B プリント1枚(表裏)、	9月第1授業日
生物応用化学演習2A	牛尾・牧	C	プリント8頁(4枚) 中間試験後の普段の演習でできなかった学生は、問題の解法を考え埋めてくること。9/5まで。	9月第1授業時
微生物学	早瀬	C	レポート課題	9月第1授業時
分析化学実験	桑田、西井	C	WebClass内の分析化学実験の「夏の課題(質量分析、中和滴定)」を行うこと(WebClass上でテストに解答すること。)/携帯電話でも可です。	9/1(金)19:00まで
材料工学演習	日野	Z	問題集p.45-52をノートに解く。	9月第1授業日

平成 18 年度 学外研修旅行 実施計画書
機械工学科 2 学年

担 任 森長
副担任 刑部

学外研修旅行の概要

午前中は、タケチおよび武智エンジニアリングの見学を行う。午後は、野球歴史資料館または松山城を見学する。研修の移動は、バスによる。

1 研修の目的

この研修は、キャリア教育の一環として実施するものである。1 学年では、工作実習 1 で機械加工の初歩を学習してきた。本年度は、工作実習 2 でさらに高度な機械加工を学習している。そこで、武智エンジニアリングの金型加工を見学し、企業における加工技術の現状を理解する。また、タケチでは、ゴム関連製品の製造ラインを見学する。さらに、野球歴史資料館見学して郷土の歴史を学ぶ。

工場見学の達成目標：種々の工作機械を見学し、どんな加工ができるか考えよう。製造ラインを見て、品質管理している箇所を探そう、そして質問しよう。

野球歴史資料館または松山城見学の達成目的：郷土の歴史を学ぼう。

2 実施日・見学先・参加者

実施日 平成 18 年 5 月 19 日(金)

見学先 株式会社 タケチ 伊予工場(愛媛県伊予市上吾川 1231 番地)
株式会社 武智エンジニアリング(愛媛県伊予市上吾川 1231 番地)
野球歴史資料館または松山城

参加者 2M 学生 42 名 別紙に記載

引率者 森長、谷脇、渡邊、刑部

3 行 程

平成 18 年 5 月 19 日(金)

8:30 新居浜高専発

10:00～11:50 タケチ伊予工場、武智エンジニアリング見学

12:00 移動 後昼食

13:00～14:30 野球歴史資料館または松山城見学

14:35 松山発

16:00 新居浜高専着

4 学生への連絡事項

- (1) 弁当、筆記用具一式を持参する。
- (2) 5 月 12 日(金) 研修資料の学習。
- (3) 5 月 19 日(金) 研修実施。
- (4) 5 月 26 日(金) 工場見学の感想文作成。

Ⅱ 学外研修実施報告書

担 任 森長
副担任 刑部

- 1 機械工学科 2 学年
- 2 平成 18 年 5 月 19 日(金)
研修先 株式会社 タケチ 伊予工場
株式会社 武智エンジニアリング
坊ちゃんスタジアムの野球歴史資料館
- 3 2M 学生参加人数 36 名
引率者：森長、谷脇、渡邊、刑部
- 4 研修に関連する成果
 - 4-1 事前学習の内容(5 月 12 日実施)
 - (1) 研修計画、高分子に関する資料および工場見学先の製造品(ゴム製品)を配布し、事前学習を実施した。(資料 1)
 - 4-2 研修の状況と成果(5 月 19 日実施)
 - (1) 午前中の工場見学は、4 班に分かれ、武智エンジニアリングの金型工場とゴム製品の製造ラインを見学した。当日は、質問例を配布した(資料 2)。見学後の質疑応答では学生の質問があった。
 - (2) 午後は、坊ちゃんスタジアムの野球歴史資料館を見学した。
 - 4-3 事後学習(5 月 26 日実施)
 - (1) 高分子材料の成形加工法に関する資料(資料 3)を配布し、学外研修で学んだことを今後に生かすため、工場見学で何が得られたかについてまとめさせた(資料 4)。
 - (2) まとめの文章内容から学生は何らかを感じ、得ることがあったようなので、以下に一部を記述する。
 - ・ 本校の実習工場にある旋盤、NC 旋盤などの工作機械が武智エンジニアリングあるのを見て、学校で学んでいることが就職して役に立つので、学校の実習を頑張ろうという気持ちを持った。
 - ・ 企業では、製品に対する責任があり、信頼性の追及努力をしていることを感じる。
 - ・ 製品展示コーナーでは、いろんな分野で使われるゴム製品を見たことにより、勉強になったと感じている。
 - ・ ガス管ゴムホースの製造、建築用窓枠ガスケットなどの製造ラインは、興味を持って見学したようである。研修により学生は、なんらかの成果は得られたと考えているようである。

平成 18 年度 学外研修旅行 実施計画書 (電気情報工学科 2 学年)

電気情報工学科 2 学年 担 任 井門 英司
副担任 香川 福有

学外研修旅行の概要

西条市のアサヒビール四国工場の見学を行う。高専と工場の間は、徒歩 25 分、列車 10 分、徒歩 45 分を往復する。事前研修（打合せ等）により、見学先の概要を学習し、出発から帰校まで交通安全を徹底し、環境美化に努める。

1. 目的

- (1) 校外活動を通して、一般社会のルールを見つめる。
- (2) 共に歩き、クラスの学生相互および専門学科の教員との親睦と相互理解を図る。
- (3) 見学先工場の環境保全への取り組み（地球温暖化防止、水資源の有効利用、再資源化 100%）を学習し、身近な環境美化、省エネの精神を高揚することを図る。

2. 実施日・見学先・参加者

- (1) 実施日 平成 18 年 5 月 19 日(金) 8:35 - 16:00 (小雨決行)
- (2) 見学先 アサヒビール四国工場 (西条市ひうち 2 番地 6 : Tel.53-7770 見学案内)
- (3) 参加者 電気情報工学科 2 学年の学生全員 41 名(男 39, 女 2)、引率教員 3 名 (井門、香川、平野)

3. 行程等 (5 月 19 日(金))

8:35 ホームルーム集合 (点呼)、～9:05 教室掃除
9:10 出発(徒歩)－新居浜駅 9:52-(列車)-10:02 西条駅-(徒歩)－11:00 アサヒビール四国工場着
11:00～12:00 工場見学
12:00～14:00 昼食・休憩 (点呼)
14:20 出発(徒歩)－西条駅 15:19-(列車)-15:29 新居浜駅-(徒歩)－16:00 高専着・解散

4. 費用・服装・学寮食堂の欠食・授業変更など

- (1) 列車運賃：片道@260×2=520- (通学定期券の利用)
- (2) 徒歩の時間が長いので、軽装・運動靴、荷物はリュックサック 1 個にまとめる。
- (3) 昼食：弁当など。学寮在住者の昼食の欠食をクラス単位で依頼する。
- (4) 英語 2 B (野村)、数学 A-2 (柳井、古城、篠原)、英語 2 A (森実) を研修へ変更する。
- (5) 学生を通じて、研修計画の概要を保護者へ連絡する。
- (6) その他 救急薬(保健室から借用)、ゴミ袋×1 パック(教務係から)

5. 注意事項

- (1) 徒歩での交通安全 (歩道を通行)、弁当がらの持ち帰り
- (2) 見学先での質問
- (3) 当日、病気等で参加できない場合の連絡先 高専・学生課生活支援係 0897-37-7727
井門 0897-37-7753 (携帯 090-2822-5376)
- (4) 遅刻した場合：午後 3:30 まで、学校で勉強 (電気情報工学科の教員に報告)
- (5) 班単位で点呼・報告

学外研修実施報告書

電気情報工学科 2 学年

担 任・井門英司

副担任・香川福有

学外研修を 5/19 に実施しましたので、下記のとおり報告します。

1. 事前学習の状況と成果

- (1) 1 週間前(5/12)に、計画書およびガイダンス資料を配布し、工場見学の目的と見学の要点を説明(計画書①、ガイダンス資料②)。
- (2) 前日(5/18)に、挨拶、服装、見学中の注意事項を確認し、計画の変更点、見学報告書(資料③)事後研修(発表会)の要領、および最終的な報告書の提出を説明(資料④)。

2. 研修の状況と成果

- (1) 学生 41 名の全員が参加し、引率教員(3 名)および見学先の案内者の指示に従い予定通り見学を終えた。
- (2) 見学中に質問する時間が長くはなかったが、ビールの原料に触れるなどの実物体験、実際に仕事をしている方が登場したビデオ、自動化され高速で製品が作られる様子、人手による目視検査の様子、品質管理の現場などに驚きを示し、個々にメモしていた。

3. 事後学習の状況と成果

- (1) 見学で学習した内容を、5~6 人の班ごとにパワーポイントで整理し、発表者が説明を加えながら質疑応答した。教員からの質問・コメントが主で、学生相互の質疑応答には至っていない(5/26 公開授業⑥)。学年の進行と共に、発表と質疑応答の経験を積み重ねる必要があろう。
- (2) まとめ方では、項目程度の短い記述に、説明も不十分な班もあったが、7 班は丁寧で詳しく説明し、声も十分大きく、他の班の手本となった。6 班も良くまとめていたが、声が小さく聞こえにくい点が惜しかった(資料⑤)。
- (3) 発表会を通して相互に学習した内容を含めて、個々に報告書を作成し提出した。その中で、見学内容に関しては、24 時間・0.1 度の温度制御、自動化された生産装置のスピードなどに驚く一方で、人手(目視)による瓶の検査を行うことを対照的に述べている。また、消費者の信頼を得るには品質管理・衛生管理が重要であること、廃棄物を出さない 100%リサイクルなどが強い印象であったと思われる。これらは、社会人として仕事をなす上で常に意識すべきことであり、今回の見学における成果の 1 つと言える。
見学内容以外では、他の班の人は色々な見方をしている、7 班の発表が良かったので次の機会では参考にしたいとの記述がいくつもあり、相互学習の効果が表れている。

4. まとめ(来年度への申し送り事項も含めて)

1 学年での学外研修をあまり意識しないで 2 学年の工場見学を計画したが、できるだけ次回に繋がる内容を取り入れ、発表会を実施するのが良い。

以上

学外研修 2年電子制御工学科

研修先 本川発電所 原子力保安研修所

日時 2006年5月19日(金) 8:10～17:00

8:10 新居浜工業高等専門学校、守衛所前集合・点呼
8:20 出発
9:30 本川発電所着、見学
11:00 本川発電所発
12:45 ローズハウス余戸店(昼食)
14:00 原子力保安研修所着、見学開始
15:10 原子力保安研修所発
17:00 新居浜工業高等専門学校着、解散

参加者 2年電子制御工学科全学生

引率者 担任 佐渡一邦 副担任 占部弘治

目的 発電特に、原子力発電についての理解を深める。

担任 佐渡一邦
副担任 占部弘治

- 1 電子制御工学科 2学年
- 2 2006年5月19日(金)
研修先 本川発電所
原子力保安研修所
- 3 2D学生参加人数44名
引率者 佐渡、占部
- 4 研修に関連する成果
 - 4-1 事前学習の内容(5月12日実施)
原発の歴史、原発の種類、原発のしくみ、主な原発事故、日本の原子力施設、プルサーマル計画とは? 原発と地域社会 これらのテーマを各班がインターネットで調査し、発表した。
 - 4-2 研修の状況と成果(5月19日実施)
午前中本川発電所の地下の施設を見学。ランナーと呼ばれる巨大な鉄の水車の実物やその他の施設を見学し、水力発電のしくみや伊方原発との関係について説明を受ける。
午後は原子力保安研修所を見学。伊方原発と同じ、あるいはスケールを小さくした機械設備を見学。まだ原発職員の研修も見学した。
 - 4-3 事後指導(5月26日実施)
参加した学生全員に感想を書かせた。その内容はお礼状にも引用した。
再び班に分かれ、水力発電のしくみ、原子力発電のしくみ、日本と四国の発電事情、本川発電所と伊方原発との関係、原子力保安研修所の業務、電気が家に届くまで、総合所見と今後の学習への応用、のテーマについてさらに調査し、発表した。

2C 学外研修計画書

日時：平成18年5月12日 8:00～17:45

場所：タカキベーカリー 岡山工場（岡山県鴨方町）

対象者：生物応用化学科 2年生 40名、引率教員2名（三井、牧）

研修スケジュール：

8:00 新居浜高専 出発
9:30 瀬戸大橋 与島サービスエリア 休憩
9:50 瀬戸大橋 与島サービスエリア 出発
11:00 タカキベーカリー 新岡山工場着
11:00 パン工場見学・手作りパンに挑戦
12:00 パンの試食
15:30 手作りパンの実習終了
16:30 瀬戸大橋 与島サービスエリア 休憩
16:45 瀬戸大橋 与島サービスエリア 出発
17:45 新居浜高専 帰着

研修内容：本学科における生物工学（微生物）、応用化学、化学工学等重要な3つの分野を今後学ぶにあたり、製造工場に出向き、直接実践的場面に触れることや直接体験学習を実施することにより、専門教育を学ぶための向上心を養う。また、学外で研修を実施することにより社会マナーを学びキャリアアップをはかる。

1. 生物の神秘を学ぶ（フローズン事業）

イースト（酵母）を冷凍してしまうと死滅してしまうため解凍後、発酵作用が出来ず、炭酸ガスが発生しないためパンが膨らまない。しかしながら、冷凍しても死滅しない酵母が見出された。タカキベーカリーでは他社に先駆けこの酵母に注目し冷凍パン生地を商品化し、特許を取得している。そこでこれらの技術を直に体験することにより知的財産の大切さや生物の不思議を学ぶ。

2. 応用化学（イーストフード、乳化剤）

パン工場では様々な化学製品が利用されている。中でもイーストフードは、イースト（酵母）の発酵する力を手助けする食品添加物であり、パンを生産するために利用されている乳化剤は「水と油」のように混ざりにくい材料同士を仲立ちして、均等に混ざりやすくする食品添加物であるが、生産性向上のために使用しているパン工場もある。（タカキベーカリーでは使用していない）このような化学製品について化学の不思議を学ぶ。

3. 化学工学

パン工場は酵母を使ってパン生地を発酵させるため、通常深夜から生産を開始する。そ

のため労働者は大変な重労働になる。しかし、冷凍耐性酵母を使用してパン生地を生産すれば昼間にパン生地を生産し、冷凍保存し必要な時にのみ解凍しパンを焼くことが可能となるため、生産調整等が可能となり効率が良い。またパンにはマーガリン等様々な化学に関与する製品を使用しているが、最近では常温で、溶け出さない結晶化したマーガリンを使用した商品も開発されて、人気商品となっている。そこで、こらら結晶化するなど化学工学の面白さを学ぶ。

4. 学生交流

直接パン作りを体験実習することにより、身近な食生活について考察する。またパン作りを通して学生の交流をはかることにより、技術開発を実施するための集団での規律を学び、学生間の交流をはかる。

平成18年度材料工学科2年生学外研修 実施計画

材料工学科

学級担任： 柴田 亮

副担任： 日野 孝紀

(研修概要)

本企画は近隣地方の自然や時代背景などから、我々が直面している環境問題や社会問題、またそこで培われた技術を考える良い機会とし、さらに、学年に跨る学生間の相互連帯意識を高めるとともに教職員との交流を深めることを目的とする。

また学生には、日常と異なる体験を通じて心身をリフレッシュし、さらには学生時代のおもいでの一つとしてほしい。

(目的)

1. クラスの学生相互、学年に跨る学生相互および専門学科教職員との親睦を深め結束を強める。
2. 自分の力のみで目的を達成することによって、技術の有り難さを実感し、また努力によって計画を遂行し終えた達成感を体験する。
3. グループ行動によって、他人への心遣い、自身の行動の責任、役割の遂行といった社会生活に必要な精神を養う。
4. 自然に親しみ、技術と自然との共生について考える機会を作る。

(研修先)

大三島

(実施日)

平成17年5月19日(金) 8時～17時

(実施内容)

工場見学、徒歩登山(日帰り)：小雨決行 雨天時(実施：行き先は変更予定)

(研修行程)

- 8:30 本校発
- 10:30 伯方の塩大三島工場見学
- 11:30 昼食
- 13:00 鷲ヶ頭山登山開始(大山祇神社裏手自然研究路 2km)
- 14:00 山頂到着
- 14:30 下山開始
- 15:30 鷲ヶ頭山下山終了
- 15:45 出発
- 17:00 本校着・解散

(参加者)

◎ 学生 材料工学科 2年 43名

教員 柴田 亮(数理科・2Z担任)、日野孝紀(材料工学科・2Z副担任)

準備について

服装はジャージなど歩きやすい服装で参加してください。また、靴は履きなれたものを使用してください。新しいものは必ず靴ずれをおこします。天気の良い時は長時間歩きますので帽子があると良いでしょう。山道での頭上からの虫除けにも役立ちます。山道を長距離歩きますので荷物入れはリュックが無難です。

- カットバン（擦り傷、切り傷以外に靴ずれ防止と痛みの緩和に効果があります。）
- 防寒着（各自、検討してください。）
- カップ（傘は集団の歩行および登山には向きません）
- 弁当（各自で用意してください。ゴミは持ち帰りになります。）
- 水筒（水分補給のためがあると便利）

あれば便利なもの

- 双眼鏡（バードウォッチング、自然観察など）
- 携帯電話（非常通信用：通信圏内のみ）

なお、貴重品やお金は必要以上持って来ないようお願いいたします。



学外研修実施報告書

材料工学科 2 学年

担 任・柴田 亮

副担任・日野孝紀

学外研修を 5/19 に実施しましたので、下記のとおり報告します。

1. 事前学習の状況と成果

1 週間前(5/12)に、計画書および資料を配布し、工場見学の目的と見学の要点を説明(計画書 1、資料 2)。

服装、見学中の注意事項、集団行動の重要性について確認した。

2. 研修の状況と成果

(1)学生 42 名が参加し(1 名欠席)、引率教員(3 名)および見学先の案内者の指示に従い見学を終えた。当初は安神山登山を計画していたが、悪天候のためやむを得ず、雨天メニューであるシトラスパーク見学に変更した。

(2)塩工場見学時間は短いものであったが、塩田廃止の情勢の中で自然塩を残していこうという人々の熱心な取り組みを記録したビデオ、自動化され高速で製品が作られるなかでも製品の乾燥には自然の材料である竹を使用するといったこだわりなどを学ぶことができた。

(3)雨天変更により柑橘類の種類や品種改良の歴史について学ぶ目的のシトラスパークであったが、この施設は全国でテーマパークが林立し生き残り競争の中で、平成 10 年の設立当初から翌年のしまなみ海道開通までは多くの入場者がいたものの、次年度より入場者不足による赤字が続き昨年度末閉園か存続かの議論の末、無料化し一般公園として開放したものであった。しかし、従業員がいて賑わっていたころとは様子が一変し廃墟とも言える状態で、第三セクターの現状を目の当たりにすることとなった。

3. 事後学習の状況と成果

見学で学習した内容を、木曜日までに各自レポートで提出させ、5/26 の特別活動で討論を行った。学生の中には塩田の歴史、シトラスパークの現状について詳しく調べているものもいた。また担任としては現代行われているイオン交換膜法による製塩法も説明した。

4. まとめ(来年度への申し送り事項も含めて)

本来であれば、材料工学科として 2、3 年生の研修は新居浜という地の利を生かし、そのルーツでもある、別子銅山遺跡探訪に始まり、磯浦の精錬工場見学へとつなげていくのが理想であると考えるが、授業調整の関係上 1 年生の研修日に合わせた変更を急遽行ったため、準備不足と、銅山ルートは本格的な山岳コースであり天候に大きく左右され、日程的に流動的となり 1 年生の研修日に合わせるとか、また数学の習熟度別授業とも重なり、2 年生他学科とも歩調を合わせなければならないという制約のため今年度の実施は困難と判断した。実施時期なども含め前年度からの準備など課題を残した。

以上

英語スピーチコンテスト

2006/10/13

投票用紙(番号に○をつける)

1 石水絵里香(D) No One's Perfect

2 横井勇駿(E) Godzilla in the U.S.

3 岡本康寿(Z) No One's Perfect

4 上浦章(M) Godzilla in the U.S.

5 伊藤千佳子(C) No One's Perfect

最優秀賞

暗唱の部

2M 上浦章 Godzilla in the U.S.

1ー5 鈴木綾華 No One's Perfect

エッセイの部

5C 白石悠 Coping with each other

4C 柴田真理 Know yourself better

3M 福田竜也 The Event That Changed Me

優秀賞

暗唱の部

2E 横井勇駿

2D 石水絵里香

2C 伊藤千佳子

2Z 岡本康寿

1-1 曾我部 駿

1-2 西原 遼

1-3 渡部 大樹

1-3 湊 祥貴

1-4 矢葺 有梨沙

1-5 森田 遙香

エッセイの部

3E ルアンサイ・サレムサイ Dolphins

3D 村上卓 My Summer Vacation

3C 森山文美 Religion And The World

3Z 板東誠実 Greetings

4M 岡田芽亜里 About Summer Vacation of this year

4E 加藤雅也 Internship Of This Summer

4D 宇野友基 My Opinion About Religion

4Z 村上葵 Working

5M 渡部拓弥 Summer Sonic 2006

5E 石川祐輝 My Summer Vacation

5D 近藤愛由美 English ASA Tool

5Z 安藤愛由美 My Happy Summer Vacation

食育についての取り組み計画

担当 柴田 亮

1. 栄養バランスと成績との相関について

2年材料工学科の学生に対し個人面談に備えて事前調査の項目の1つとして以下の質問をした。

・食生活における栄養バランス

1 バランスは取れていると思う

2 取れていない

1と回答した学生(18名)の化学2中間試験の平均点：64.7(19.4)、2と回答した学生(20名)の平均点：55.8(18.9)、ただしカッコ内は標準偏差である。このような単純な調査の結果から結論を出すのは早計であるが、これだけの調査でも有意の差が見られたのは事実である。

2. 学生の食生活実態調査について

調査対象期間をたとえば3日間(木、金、土)と決め、期間内にとった食事すべての内容を記録してもらう。朝食、昼食、夕食、夜食、間食のメニュー、量、時間帯を飲み物も含めて記録する。または摂取した食品すべてをカメラつき携帯電話またはデジタルカメラなどで記録させ、担任のメールアドレスに送信してもらうなど。ただしデータ量が膨大となるので調査法について工夫が必要である。

a. 摂取した食材を四つの基礎食品群に分類する。

第1群(白) 骨・歯をつくる、栄養を完全にする	牛乳、乳製品、卵、海藻
第2群(赤) 筋肉をつくる、体の機能調節	魚、肉、大豆
第3群(緑) 皮膚や何幕の保護、体の機能調節	野菜、イモ類、果物
第4群(黄) エネルギー源となる	穀類、砂糖、油脂類

b. 各食材 80 kcal の量を1点とする。食材の重量から厳密に計算しなくても、この量は日常使う1回分に相当するので、およその目安とすることができる。たとえば卵1個、魚1きり、豆腐1/2丁など。ご飯茶碗1杯は3点、砂糖1点は約21g(大さじ2杯) 缶ジュース1本分の含有量に相当。

c. 1日の標準摂取量に対する実際の摂取量を求める。

以下は15～17歳男子、生活強度III(適度な運動を行っている)の場合の標準摂取量

第1群：乳製品4点、卵1点

第2群：魚・肉3点、豆類1.4点

牛乳500mlまたはチーズ90g、卵1個

魚および肉類140g、味噌および納豆80g

第3群：野菜1点、イモ類1点、果物1点

第4群：穀物15点、砂糖1点、油脂3.5点

にんじん、ピーマンなど緑黄色野菜100g、

ご飯800g(5杯)または食パン450g(8枚)、

キャベツなど淡色野菜200g、

菓子類30g

イモ類100g、果物200g

バター、油脂類35g(大さじ3杯)

計31.9点 2550kcal

3. 食生活改善啓発活動

一度身についた習慣を改善することは困難を伴う。2Zでは特活で食生活についての講話をおこなったが、学生の食生活に対する意識の希薄さを実感させられた。興味を引かせる工夫が必要である。

- ・保護者懇談会、学級通信などで食生活の改善を依頼
- ・栄養士、専門家に公演を依頼
- ・食生活と成績との関係などについて調査結果の学生に対する開示

食生活調査票 2年 学科 氏名

記入例を参考に実際に飲食したものをすべて詳しく記入してください。寮生は寮食メニューのうち、
(記入例) 6月 22日 (木) 食べ残したものを、何をどのぐらい残したか記入してください。

朝食 時刻 7:10	昼食 時刻 12:20	夕食 時刻 19:00	夜食 時刻 21:30	間食 時刻 15:30
ご飯 1 杯 味噌汁 (豆腐、わかめ) 納豆 卵 1 個 ほうれん草 たくわん 2 きれ ふりかけ 焼き魚 (さんま)	カレーライス 2 杯 (牛肉、にんじん、 たまねぎ、ジャガイモ) 具の内容も できるだけ詳しく 福神漬 サラダ (キャベツ、 トマト、レタス) アイスcream	ご飯 2 杯 クリームシチュー (鳥肉、にんじん、 たまねぎ、ジャガイモ) ニラレバ炒め サラダ (キャベツ、 トマト、きゅうり) ドレッシング バナナ 1/2	カップ麺 1 個 具体的な製品名 みかん 1 個	ジュース 1 本 (500 ml ペットボ トル) フライドポテト 1 袋 菓子、ジュースの 具体的な製品名

月 日 ()

朝食 時刻	昼食 時刻	夕食 時刻	夜食 時刻	間食 時刻

月 日 ()

朝食 時刻	昼食 時刻	夕食 時刻	夜食 時刻	間食 時刻

月 日 ()

朝食 時刻	昼食 時刻	夕食 時刻	夜食 時刻	間食 時刻

朝食調査票 2年_____学科_____番 氏名_____

記入例を参考に実際朝食で飲食したものを飲み物も含めてすべて詳しく記入してください。食べなかった人は食べていないと記入してください。

(記入例)

6 月 23 日 (金) 食べ始めの時刻 7 : 2 0	月 日 () 食べ始めの時刻
ご飯 1 杯 たくわん 2 きれ ふりかけ 味噌汁 (豆腐、わかめ) 納豆 卵 1 個 ほうれん草おひたし キャベツ千切り 焼き魚 (さんま) 牛乳 200 ml	

月 日 () 食べ始めの時刻	月 日 () 食べ始めの時刻

月 日 () 食べ始めの時刻	月 日 () 食べ始めの時刻

◎第3学年

	学級担任	副担任
機械工学科	下村 信雄	尾崎 司郎
電気情報工学科	鴻上 政明	稲見 和生
電子制御工学科	白井みゆき	千葉 克夫
生物応用化学科	間淵 通昭	川崎 宏一
材料工学科	谷 耕治	古城 克也

1. 平成18年度運営目標・方針

1. 1 基本方針

高専5年間の中間の学年に当たり、中だるみを防ぎ「学ぶこと」の意義を再確認する。学習環境を改善すると学生の精神面の発達にも好影響が現れる。それ故「学校の美化」「学生らしい身だしなみ」に配慮することを学生を育てる第一歩とする。学外研修は視野を広げるために必要である。自ら課題に取り組み、将来のことを考える習慣を養う。

1. 2 美化

HRの清掃は環境保全委員会とも連携し、例年より全体として多く声をかけて実施できたように思う。

1. 3 自学自習

1. 4 学外研修

1. 5 学年便りの発行

1. 6 キャリア教育の推進

2. 平成18年度実施計画

2. 1 基本方針

[1] 学年便りで学校の方針を保護者に伝え、ご家庭からのバックアップを依頼する。

(E)実施できた。

(D)注目してもらいやすい『試験の結果』と同封して各戸へ配布してもらった。保護者懇談会の際に便りを読んでいるという保護者の反響も得られた。

(Z)学年便り発行の度に学級便りも発行した。個人個人の学生には別紙で簡単なコメントも加えた。

[2] 毎朝8時30分の登校を呼びかける。SHRの遅刻に対してそのつどきめ細かく注意を行い、遅刻・欠課の3割削減をめざす。

(E)SHRの遅刻はそれ程は減らなかったが、欠課は抑えられた。

(D)SHRで重要な連絡をすることを学生が十分理解したことで、遅刻の増加はなかった。しかし、特定の学生の遅刻がめだつようになった。そこで、各学生に個別に面談して生活状況の改善を指導した。

(Z)SHRの遅刻率は全校で最悪であった。

[3] 学生らしい身だしなみをきめ細かく指導する。

(E)若干名が茶髪にしたこともあったが、身だしなみは大体良かった。

(D)いちじるしく風紀を乱すような服装などの例は全くなかった。授業時の服装（帽子、マフラー、防寒具の着用）については厳しく指導をした。

(Z)室内での着帽等に対し、社会での一般的な常識をその都度話したためか、概ね学生らしい身だしなみが保たれた。

[4] 成績不振者に対しては保護者との連携を密にする。

(E)成績不振者には面談等で指導した。保護者の協力が十分には得られなかった。

(D)成績不振者の保護者には、特に秋の保護者懇談会へ必ず出席してもらうようお願いして、今度起こりうる事態について詳しく説明した。

(C)後期中間時点で9時間/人で昨年度の3Cの半分程度、この学年の2Cの時点と比較しても同程度であった。昨年欠課数の多かった学生についても保護者と連絡をとって指導し、縮減することができた。また成績不振者に対しても同様に行い、結果として全員が進級(3/14現在、担任が把握した時点)できた。

(Z)成績不振で進級できない者は4名であった。いずれも2月の懇談会までに保護者と懇談し、学生本人の努力も期待した。保護者との連携はできたが、学生の自覚が不足した。

2. 2 美化

[1] 週2回以上HRの清掃を学生と正副担任が一緒になって実施する。

(E)実現できた。

(D)週2回(火曜と木曜)に清掃を行った。

(C)環境保全委員会の指摘指導に基づいて、指導教育できた。節目でHRだけでなく実験室や棟周囲の清掃を全員で行い、学科の共有する場所施設の美化を心がけた。

(Z)前期は週4日、後期は毎日、正副担任と学生がHRの清掃をした。

[2] 特活等で教室や身の回りの整理・整頓、美化が重要なことを頻繁に学生に訴える。

(E)重要性は頻繁に訴えたが、十分な効果が得られなかった。

(D)いろいろな行事のたびに教室の美化については説諭を行ったが、なかなか効果があがらなかった。一度校長からも説諭を行ってもらった。

(Z)毎日の清掃と折に触れての細かな注意喚起により環境は概ね良好であった。

2. 3 自学自習

[1] 毎日2時間以上の学習を促す。

(E)できた者は殆どいなかった。

(D)家に帰ったあとについては言うにおよばず、家に帰る前に教室で宿題を行うなどして、わからなかったことを翌日に持ち越さないよう指導した。

(Z)促したが、結果としてほとんどの学生が実行できなかった。

[2] 読書習慣をつけるため、年間10冊/人の図書借出を目標とする。

(E)目標を突破できた者は若干名だった。

(D)貸し出し数がなかなか増えなかった。特別活動などでもっと図書館について取り上げるべきであった。

(C)授業・実験担当者と連携して、課題に自力で多く取り組ませる、書籍を借りて行う課題を与えてもらうなどをし、学習成果面では一定の効果があつたと見ているが、図書借出件数は年間6冊/人とどまった。

(Z)読書の大切なことを訴えたが、図書借出件数は年間5.9冊/人であった。

[3] アルバイトはなるべくしないよう指導する。

(E) 届出なしにしている者もいるようだが、アルバイトをしていたから留年するという学生はいないようだ。

(D) 特に成績不振者に対し、アルバイトによる弊害が出ていると考え、アルバイトを控えるように指導した。

(Z) アルバイト願いを提出してきた場合には保護者との連絡を密にし、アルバイトの功罪を伝えた。それでもアルバイトを許可して欲しいと保護者から申し出があった場合には十分な指導を御願いして許可した。ただし無届けのアルバイトが多いように聞いた。

[4] 資格の取得を奨励する。

(E) 終業式に伝達表彰された者が数名いたので、まずまずの成果であった。

(D) 個別面談などで資格についての興味や取得の現状などを調査し、折につけて取得を奨励した。SHRなどで、資格試験について説明を行った。

(C) 資格の取得の奨励により危険物取扱者の受験者は増え、1名は甲種合格した。また外部の化学の試験やサイエンス・ウィンタースクールに出ていく者もいた。

(Z) いろいろ奨励したが、結果的に数検2級に3人が合格したのみである。

2. 3 日帰り工場見学の実施

[1] 学科ごと独立に計画するのではなく、全体で協議し、学科間の調和を図る。

担任会で事前協議し、身なり挨拶などについて、学年全体である程度共通した認識で指導した上で工場見学を実施できた。

(E) 他学科間の調和より同学科の連続性の方が重要だと思う。

(D) 担任間で、内容、事前学習、事後学習などについて協議して実行した。

(C) 事前学習により活発な質疑応答をすることができ、事後学習にも役立てることができた。

(Z) 見学先については学科間の調和は余り考えなくて良いと考える。

2. 4 海外短期研修の実施

[1] 希望者 30 名程度、上海 3 泊 4 日程度の工場見学並びに史跡見学を計画する。

(E) 学年の計画ではなかった。

(C) 幅広く声をかけて、3名の学生が上海で見聞を深めることができた。

(Z) 海外見聞の意義を何度も説明したが、誰も参加しなかった。コストが高すぎるのが大きな障害となった。

2. 5 学年便り

[1] 学年便りを年 4 回発行する。

(E) 実現できた。

(C) 学年便りや保護者懇談のほか、年度初めのメッセージ、11月の課題演習科目の設定の通知、3月の学科保護者説明会などを通じて、その時期に重要な知らせを通知し、協力を呼びかけた。

(Z) 学年便りに加えて学級便りを発行した。

2. 6 キャリア教育

[1] 特活等に就職・進学等の参考になるキャリア・アップ教育を取り入れる。

(E) 課外特別活動や特活でキャリア・アップ教育を実施した。

(D) 5年生の進学決定者、就職決定者、及び学科主任からそれぞれの立場から見た就職進学に

◎ 4 学年

	学級担任
機械工学科	鎌田慶宣
電気情報工学科	王 欣
電子制御工学科	松村弘志
生物応用化学科	牛尾一利
材料工学科	相根博道

1. 平成18年度運営目標・方針

第4学年は、各学科の専門分野の学習面においても、また進路決定の面においても、最も重要な学年であることを認識させ、学級を運営する。

- [1] 専門知識の習得、資格取得等に向けた主体的な学習への取り組み支援
- [2] 進路の明確化とその具体化
- [3] インターンシップと関連させたキャリア学習の支援
- [4] 学年便りを発行し保護者とも連携し、勉学意欲のあるクラスを育成するための学生生活指導

2. 平成18年度実施計画

2. 1 学習支援

- [1] 1学年から3学年までの学業の自己点検を通して、その反省と今年度の目標を明確にする。

専門知識の習得や進路の選択において中核となる学年であり、今年度の目標や課題を明確にするために、1学年から3学年までの学業成績の推移を振り返り、面談等を通して進路選択を見据えた助言と指導を行った。

- [2] 進路とも結びつけて、実質的に最終学年にも相当する学年であることを自覚させ、自主的な勉学への取り組み意欲を高める。

進路選択の具体化を進めるために課外特別活動の時間などを通して、進路に関する話題（過去の就職状況や専攻科、大学等への進学状況）を多く提供した。また学生の関心も高く、意欲を高めることができた。

- [3] 定期試験や実力試験の結果を通して、学習状況の自己点検を行う。

進路選択に対する事実上の最終学年であることを常に認識するように、定期試験結果の推移、実力試験やTOEIC試験を話題とした。

- [4] インターンシップを通してキャリア学習に対する意識を高め、社会性や職業観について認識を深める。

インターンシップは事前学習や学年集会(7/13実施)等の準備の下、全員が参加し、事後に報告書の作成や報告会を行った。実社会での体験を通して社会との繋がりや職業を意識する貴重な学びの機会とすることができた。

- [5] JABEE プログラム対象学年として「学習・教育目標」の徹底を図る。

各 JABEE プログラムと連携し、プログラム1年生として、履修の手引きとともに、学習・教育目標の説明を行った。また、同時に「学習・教育目標」を記した所持できるカードを配布し、自覚を促している。生産工学プログラムでは、自学自習および学習環境に関するアンケートを実施した。

2. 2 進路指導

- [1] 早期からの進路調査や面談を通して、進路に対する方向性の具体化を促す。

前期の段階から進路調査を行うことにより学生の意識を高めるとともに、年度末に向けて進路が明確化、具体化するよう面談等を通して助言や指導を行った。

- [2] 就職や進路状況を学生や保護者に提供し、適切な進路選択を支援する。

保護者懇談会において、現5年生への求人や内定の状況、過去の進学状況等の説明を行い、早期の家庭での相談やサポートをお願いした。2月の保護者懇談会においては、具体的な求人企業リストの保護者への配布希望もあった。

- [3] 工場見学やインターンシップを有意義なものとし、進路について意識を高める。

- (1) 事前学習を通して、社会体験の目的を明確にする。

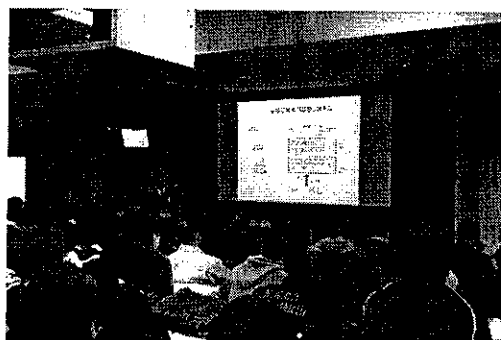
- (2) 教員による体験先訪問を通して企業等の受け入れ先と連携を密にする。

学外研修（工場見学）とインターンシップを通して、やがて自分達が進む社会（企業）を直接に見る機会となり、職業観や進路選択の具体化に向けて意識を高めることができた。4, 5 学年担任教員がインターンシップ先を訪問し、企業との連携を深めた。

学外研修	実施日	研修先(見学先)
機械工学科	7 月 14 日	三菱自動車 水島製作所
電気情報工学科	11 月 22 日	四国電力 伊方原子力発電所
電子制御工学科	6 月 26 日	大塚製薬 松茂工場、 三洋電機 モバイルエナジーカンパニー
生物応用化学科	6 月 30 日	林原生物化学研究所、 三菱化学坂出事業所
材料工学科	5 月 24 日	JFE スチール 西日本製鉄所、 富士ダイス 岡山製造所
インターンシップ		
7 月	・外部講師による事前学習会 ・学年集会(7/13)	
7～8 月	・インターンシップ体験 (担任等教員によるインターンシップ先訪問)	
9～10 月	・各学科ごとの報告会 ・各学生による報告書の作成 ※「18 年度インターンシップ報告書」に掲載	

・企業説明会(2/6)に参加

・愛テクフォーラム企業技術懇談会(12/21)に参加(下図)



2. 3 学生生活指導

[1] 委員や日直が教室の環境保持に自主的に取り組む姿勢の育成。

4年生になり当番としての環境保持には取り組むが、一歩進んで自主的という面から見るとまだ不十分な面もある。継続した取り組みが必要であると思われる。

[2] 遅刻・欠課には家庭との連携を密にして早期に個別指導を行う。

学業成績が懸念され、遅刻や欠課の多い学生に対しては電話等による家庭連絡の他に、保護者に来校願い、保護者、学生と担任による面談を実施し、個別に対応した。

[3] アルバイト届けを徹底し、学業との関連において必要な指導を行う。

学生自身から、また保護者懇談会での保護者から、学生のアルバイト状況の把握に務め、成績、欠課時数の面から指導を行った。朝の遅刻とアルバイトがつながっていると推測される場合もあり、保護者を含めて対応を検討する必要があると思われる。

3. 平成18年度推進体制

[1] 担任相互の会合やメールにより担任間の密接な連携、協力を行う。

学外研修（工場見学）、インターンシップ、インターンシップ先企業訪問、企業説明会等、行事も多い学年であり、担任連絡会やメールで連絡や調整を行い、連携できた。

[2] 教務委員会、学生委員会、寮務委員会、各学科と連携を図る。

学生の生活指導と関連し学生委員会との連携が主な現状である。学科会議においてはクラスの状況を話題とし、クラス学生に関する情報を得て、学科内で情報の共有化に努めた。

[3] 学年便り等を通して学生生活に関する情報を提供し、家庭との連携を密にする。

学年便り（4, 7, 10, 2月）の発行を通して、今年度の行事、進路の話題等、概略を提供することはできたが、進路等については求人状況等の詳細な情報提供の希望もある。保護者への情報提供のあり方については今後検討の必要もあると思われる。

学年便り	
4月(No.1)	年度当初にあたり(学業、進路選択、主な行事)、担任連絡先
7月(No.2)	学外研修、インターンシップ、進路状況(5年生)について
10月(No.3)	インターンシップを終えて、進路選択に向けて
2月(No.4)	求人活動、進路希望状況について

○総括的な評価と課題

学生が勉学と進路選択において重要な学年であるという自覚を高めることを基本として指導を行ってきた。学外研修（工場見学）、インターンシップ、企業説明会等の体験を通して、学生の自覚も高まり、概ね適切に指導できたと思っている。企業説明会に対する学生の関心は高く、熱心に多くの企業を訪問していた。

学習面においては、朝の遅刻や欠課等、担任をはじめ他教員の教員からという一方向からの指導のみでは改善しない場合も多い。効果を上げるためには、家庭の協力を含めた継続的な生活指導が必要であり、また同時に進路指導の面からも家庭との連携をさらに密にする必要があると思われる。

◎ 5 学 年

学級担任	機械工学科	松田 雄二
	電気情報工学科	伊月 宣之
	電子制御工学科	深山 幸穂
	生物応用化学科	中山 享
	材料工学科	新田 敦己

1. 平成18年度運営目標

学生全員の卒業と卒業後の進路決定を第一とし、さらに5年間の勉学の集大成である卒業研究に対してエンジニアリングデザイン能力を養うため、自主的・積極的に取り組むよう指導するとともに、下級生から尊敬を受けるに値する5年生であるように学生に自己啓発意識を持たせる。そのために以下のような年間教育目標・方針を設定する。

1. 1 5年生全員の卒業後の進路を決定すること

- ・全員進路が確定した。

1. 2 卒業研究に精力的に取り組む十分な成果を上げること

- ・電気工学科に一人卒業研究が不可になった者がいたが、その他は取り組みに問題はなく、それなりの成果も上がったと考えられる。

1. 3 クラス全体の遅刻、欠課の半減を目ざし、5年生全員が卒業を果たすこと

- ・よくなったクラスもあるが、改善されていないクラスもある。

4年次に比べて5年次に欠課時数が増加：3クラス

4年次に比べて5年次に欠課時数が減少：1クラス

4年次に比べて5年次に欠課時数が微増：1クラス

昨年の5年生に比べ本年5年生の欠課数が増加：1クラス

昨年の5年生に比べ本年5年生の欠課数が微増減：2クラス

昨年の5年生に比べ本年5年生の欠課数が減少：2クラス

昨年の5年生に比べ本年5年生の欠課合計時間数：9559時間 → 8800時間に減少

昨年の5年生に比べ本年5年生の一人当たりの欠課数：59.2 → 56.4時間に減少

C科は4年次から5年時になって遅刻、欠課数は半減近くになり目標が達成されているが、M、E、Dは増加しており、目標は達成できなかった。MとE科で各1名ずつの留年者を出し、全員卒業の目標は達成できなかった。

以下、現5年生の4、5年次の欠課時数、昨年度5年生の欠課時数の比較表とグラフを示す。

	平成17年度4年生		平成18年度5年生		平成17年度5年生	
	合計	平均	合計	平均	合計	平均
M	2295	58.8	2286	69.3	1605	55.3
E	1099	30.5	2487	69.1	2706	71.2
D	1292	34.0	2281	69.1	2200	68.8
C	1813	56.7	848	33.9	1432	44.8
Z	916	38.2	898	40.8	1616	55.7
合計	7415	43.6	8800	56.4	9559	59.2

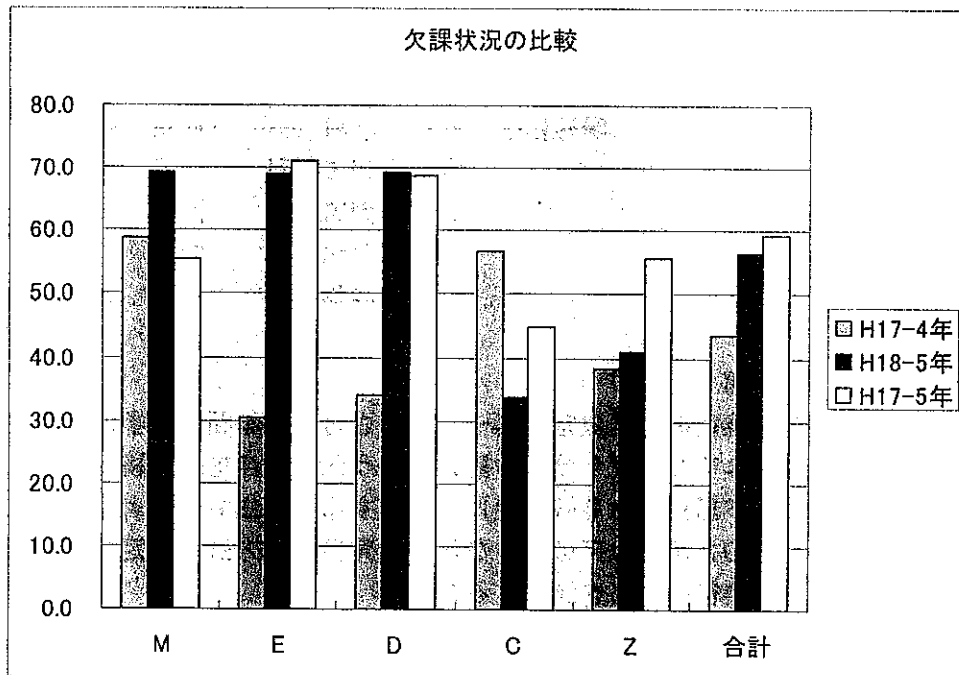


図 欠課状況の比較：縦軸は一人当たりの欠課時数（平均）

1. 4 高専の最終学年生として相応しい生活態度と言動を心がけ、後輩の模範となることができるよう育成すること
1. 5 自らの進路を自分で選択できる能力の育成、就労に関する意欲、理解などを促すキャリア教育を計画的に行い、職業観や社会性、豊かな人間性を育成すること
 - ・就職などを通してある程度は身に付いたと思われる。
1. 6 学年便りを発行すること
 - ・計画通り年4回発行した。

（別紙添付資料：5年学年だより第1号）
2. 平成18年度実施計画
 2. 1 学年主任を軸に担任間の緊密な連絡・協力体制を作り、できるだけ学生の個性にあった進路が決定できるよう指導する。
 - ・定期的に集まることはしなかったが、不定期的に集まったりメールにより情報交換を行うなど連絡体制を取って、指導に臨んだ。本年度は求人数も比較的多かったので、ほとんどは個性にあった進路指導ができたと思われる。
 2. 2 日常の卒業研究の成果とエンジニアリングデザイン能力を評価し、さらにプレゼンテーション能力を高揚させるために、中間発表及び最終発表を行う。
 - ・どの学科も前期末か後期始めに卒研の中間発表を行い、最終発表も行って発表の評価も実施してプレゼンテーション能力を高めていった。
 2. 3 欠課をできるだけ少なくするよう学級担任と卒業研究担当者との連携を密にし、各学科内においても教員間の情報交換をできるだけ多くして、成績不振学生への励ましや学生の欠課数増大への早期対応を心掛ける。また、保護者との緊密な連携をも心掛ける。
 - ・十分にできたとはいえないが、一部学生については集中的に実施した。
 2. 4 教室の環境美化に努め、学校全体の環境美化活動・清掃活動においても本科最高学年生としての模範を示す。また、各種学校行事の活動においても後輩をリードして、

その模範となるよう心掛けさせる。

- ・教室の環境美化については、環境美化委員が不定期に巡回して実施状況のチェックを行いフィードバックしてくれたので、その指摘に従って改善努力をした。しかし、最高学年生として模範になったとはいえなかった。
 - ・各種学校行事活動については後輩をリードして頑張ったと思われる。
2. 5 学年便りを年間4回発行する。
- ・2回目の発行が遅れたが、12月には3号、3月には4号を発行できた。
2. 6 キャリア教育推進のための実施計画を検討し、実施する。
- ・就職・進学活動を通してキャリア教育はある程度推進できたと思われるが、学年全体で実施計画を立てて動いたわけではない。

学 年 だ よ り

第 1 号

平成18年5月12日発行

1. 年便り発行について

このたび、第5学年の学年便り第1号を発行することになりました。年4回の発行を予定しております。これにより、学年毎の横の情報連携を密にし、学年の状況を手短かに広くお伝えしようというのがねらいです。今回は学期はじめということで、学年の目標の概略、求人状況等についてご紹介いたします。

2. 平成18年度第5学年の運営目標の概略

- (1) 全員の進路の決定
- (2) 卒業研究の精力的な取り組みと十分な成果
- (3) 遅刻、欠課の減少、全員の卒業
- (4) 最終学年生としての品性の育成
- (5) 進路の自立的選択能力の育成、キャリア教育の推進
- (6) 学年便りの発行

3. 担任氏名紹介（第5学年）（学年主任：伊月宣之）

機 械 工 学 科	松田 雄二	Tel 0897-37-7744
電気情報工学科	伊月 宣之	Tel 0897-37-7752
電子制御工学科	深山 幸穂	Tel 0897-37-7772
生物応用化学科	中山 享	Tel 0897-37-7786
材 料 工 学 科	新田 敦己	Tel 0897-37-7792

4. 平成18年度求人状況

平成19年度の各学科の求人状況（4月末日現在）です。

◎機械工学科

1. クラス人数 38名
進学者数 6名 割合 16%
就職者数 32名 割合 84%

2. 求人会社数 380社

3. 昨年との比較、コメント

- ・求人会社数は、昨年と同様、約400社になる見込み。
- ・大手企業は、申し込み〆切が、昨年に比べ1、2週間早い（4月中旬）状況。
- ・1社にて複数名募集するところが増えている。

◎電気工学科（電気情報工学科）

1. クラス人数 37名
進学者数 12名 割合 32%
就職者数 25名 割合 68%
2. 求人会社数 380社
3. 昨年との比較、コメント
 - ・求人会社数は、昨年の400社を少し超える見込み。
 - ・大手企業は申し込み締め切りが4月中、下旬が多い。
 - ・募集人数を増やしているところも多く、申し込みが随時というところも目立つ。
 - ・団塊の世代の後継者として高専生への期待が大きく、先輩を高く評価しているところも多い。
 - ・進学希望者数は昨年より5名ほど少ない。

◎電子制御工学科

1. クラス人数 36名
進学者数 20名 割合 55%
就職者数 16名 割合 45%
2. 求人会社数 326社
3. 昨年との比較、コメント
 - ・本年度の求人は昨年と比して大手企業からの推薦依頼が目立ち、職種では製造・生産技術関連 28% やフィールドエンジニアリング関係 20% が多い。これは、いわゆる団塊の世代の後継要員と思われる。勤務地別の求人数では、9割が四国外からであり、新居浜近郊分は 5%程度である。

◎生物応用化学科

1. クラス人数 25名
進学者数 15名 割合 60%
就職者数 10名 割合 40%
2. 求人会社数 137社
3. 昨年との比較、コメント
 - ・従来から卒業生が就職して実績のある企業及び生物応用化学科を卒業した学生が専門性を活かして活躍できる企業からの求人数が増えています。また、1社からの求人数も多くなっています。さらに、採用活動が1～2ヶ月程度早くなり、企業からの求人票は1月から3月末までに学校に届き、1回目の採用試験は4月中に行われるケースがほとんどでした。

◎材料工学科

1. クラス人数 24名
進学者数 8名 割合 33%
就職者数 16名 割合 67%
2. 求人会社数 174社
3. 昨年との比較、コメント
 - ・昨年度に比べ、今年度は求人時期がかなり早くなっている。また、求人数も多い傾向にある。
 - ・進学については、ここ数年30～35%程度で推移している。

★ご意見ご要望があれば各担任までお寄せください。

◎ 機械工学科

1. 教育改善推進体制

1. 1 JABEE 認定に向けた取り組み体制

総括：豊田教員

教育改善 PDCA システムを具現化するための4委員会の委員長，構成委員および各委員会の役割分担は以下のとおりである(資料1-1-1)。

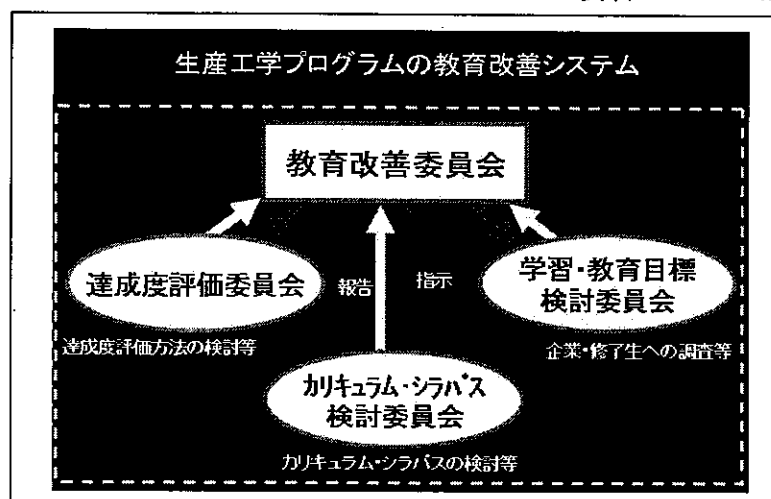
学習・教育目標検討委員会：相根委員長、谷、日野、北住、石井、宮田

カリキュラム・シラバス検討委員会：下村委員長、教務委員(松英)、教務委員(吉川)、松原、鎌田)

達成度評価委員会：志賀委員長、新田、朝日、松田、谷脇

教育改善委員会：豊田委員長、機械工学科主任(刑部)、材料工学科主任(高橋)、谷口委員長代行、相根委員長、曾我部、池内、志賀委員長、下村委員長、吉川

資料1-1-1



(出典:生産工学プログラム教育改善委員会(平成18年4月5日)配付資料から抜粋)

1. 2 教育改善に向けた取り組み体制

学習・教育目標検討 : 北住、石井、宮田

カリキュラム・シラバス検討 : 下村、鎌田、吉川

達成度評価 : 松田、谷脇

教育改善 : 豊田、谷口、刑部、下村、吉川

自己評価・外部評価、公開授業、創造教育などに関する分析、評価、改善についてはその都度取り組み体制を決め、実行する。

2. 平成18年度活動計画と活動実績

2. 1 JABEE 認定に向けた取り組み目標

「生産工学プログラム」を平成19年度 JABEE 中間審査に向けて、上記の組織で積極的に推進する。

平成18年度の活動計画と活動実績

[1] 教育改善委員会

1) 各委員会への作業指示・進捗管理

2)「学生自身による自己点検」結果の教員へのフィードバック法の検討・実施
「学生自身による自己点検シート」を、全プログラム教員に回覧した(資料 2-1-[1]-2-1)。

自己評価シート			
18 年度	期	各学年における自己評価	
学生番号：	氏名：	指導教員：	

この学生で、どのような能力(学習・教育目標)を修得するのか、について目標を記入して下さい。

専攻科 1 年次	「修得目標」 B 振動工学や熱力学の復習をする C デザイン能力養成の科目は優を取る。 E-2 TOEIC400点以上取れるようにする。 *****
専攻科 年次	「実績」
指導教員	「指導内容」 B:筆記試験の成績は良いが、到達目標の自己評価では×の項目が多いことから、このことを反省材料と考えている。授業担当教員より、自主学習に適切な教材等の紹介を受けること。 *****

3) 機関別認証評価に用いるエビデンス等の統一的整理法等の提案と他既設委員会の調整

資料2-1-[1]-3-1

平成 18 年 6 月 29 日、

認証評価に関わる答案の整理について、

- ・科目ごとに、全学生の 50 点台、60 点台の答案を抜き出してコピーし、ファイルにまとめる。該当学生がいなければ合格最低点の学生 1 名の答案を用意する。..
- ・全学生の成績評価の具体的内容がわかる一覧表をつけ、50 点台、60 点台に該当する学生がわかるようにチェック欄に「該当」と記入する。50 点台、60 点台の学生がいなくて、合格最低点の学生の答案をファイルしている場合は、その学生のチェック欄に「最低点」と記入する。一覧表は別紙の通り。..
- ・定期試験のみ、問題用紙と模範解答をつける。小論文のような形式の問題の場合は、模範解答の代わりに評価の観点やキーワードを記したものを付ける。..
- ・集めるのは成績評価に関係する定期試験答案、小テスト、提出物、実験レポートなど、すべてとする。..
- ・ファイルにはインデックスに「科目名」「科目番号」を記し、シラバス、成績一覧表、問題用紙と模範解答、成績評価書類（答案など）のコピーを綴じる。ただし、実験レポートと製図は、コピーしてファイリングすることが難しいので、両者とも 50 点台、60 点台を抜き出すことはしないで、学生別にまとめて成績保管用の箱に入れておく。..
- ・答案の整理は、平成 16 年度分から行う。..

以上..

4) 材料工学科の学科改組に伴う、変更カリキュラム・シラバスの評価
材料工学科の学習教育委員会、カリキュラム・シラバス委員会、達成度評価委員会各委員に主体的に取り組んでもらい、教育改善委員会へ結果を報告してもらう予定である

が、まだ実施されていない。

5) シラバス管理体制の明確化と施策提言

学校全体でのシラバス登録・管理システムの運用・管理法について、改めて提案する予定であったが、まだ十分に協議されておらず実施には至っていない。

6) 「学習・教育目標」を達成しているかどうかを評価する「総合的評価法」の検討

学生の満足度を知ることと総合的評価方法と位置づけ、学生自身の自己点検シートを活用することとした(資料2-1-[1]-6-1)。

資料2-1-[1]-6-1

自己評価シート		
18 年度 期 各学年における自己評価		
学生番号:	氏名:	指導教員:
この学年で、どのような能力(学習・教育目標)を修得するのか、について目標を記入して下さい。		
専攻科 1 年次	「修得目標」 B 振動工学や熱力学の復習をする C デザイン能力養成の科目は優を取る。 E-2 TOEIC400点以上取れるようにする。	
専攻科 年次	「実績」	
指導教員	「指導内容」 B:筆記試験の成績は良いが、到達目標の自己評価では×の項目が多いことから、このことを反省材料と考えている。授業担当教員より、自主学習に適切な教材等の紹介を受けること。	

(出典：平成18年度運営諮問会議資料から抜粋)

[2] 「学習・教育目標検討委員会」

1) 生産工学プログラム対象学生への「学習・教育目標記載カード」配布ならびに「平成18年度生産工学プログラム履修の手引き」による説明および理解度のチェック・対応策の検討・実施

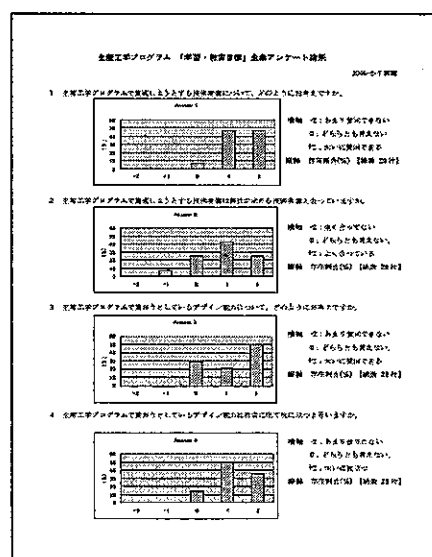
4年生以上の学生に対して、担任及び専攻主任が履修の手引きの配布と説明を行った。

資料2-1-[2]-1-1

2) 学習・教育と社会の要求との整合性に関する調査・分析のため、企業や修了生へのヒアリングを引き続き実施・対応策の検討

学習・教育委員会が企業説明(平成18年2月6日)でのアンケート(①学習・教育目標について実施・分析した(資料2-1-[2]-1-1)。

アンケートの記述欄によれば、「しっかりと基礎学力の下、デザイン能力(構想力他)を身に付けるという技術者像は企業としても希望する人材です」、「デザイン能力の中の「構想力」、「実行能力」



出典：生産工学プログラム「学習・教育企業アンケート結果

を重視しています。会社員になってもデザイン能力を要求される場面は多いので是非とも養成していただきたい」、「デザイン能力で総称されている構想力等は今迄になく新しい教育であり、企業が求める人材像に通じている」という意見を頂き、本教育プログラムの妥当性を確認した。

[3] 「達成度評価委員会」

- 1) 17年度シラバス中の達成目標の学習・教育目標との整合性確認
平成17年度分について完了。
- 2) 17年度C評価成績資料の確認（シラバス記載の成績評価方法との整合性確認）
平成17年度分について完了。
- 3) 特別研究評価方法・基準の周知徹底
方法・基準を決定し、プログラム関連全教員に周知し徹底した。

[4] 「カリキュラム・シラバス検討委員会」

- 1) プログラム後半学生（専攻科学生）への履修科目の明示「履修の手引き」改定
平成18年度版を作成し、プログラム関連全教員、学生に配布した（資料2-1-[4]-1：新居浜工業高等専門学校生産工学プログラム履修の手引き 2006年度）。

- 2) プログラム修了要件に必要な科目の追加措置の提言（地学、地球物理）

第14回専攻科教育委員会にて、愛媛大学「地球科学(2単位)」の集中講義の受講を単位互換契約の中で提案する旨決定した。

- 3) 求める技術者像を実現できるカリキュラの見直し（科目、時間、教員）

新来島ドック他へのヒアリングを実施
資料2-1-[4]-3-1

し、その内容をH19年度カリキュラムに反映した（資料2-1-[4]-3-1）。

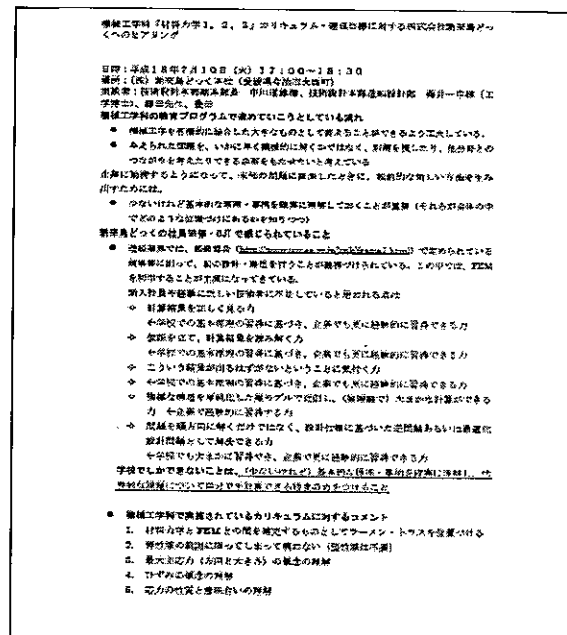
- 4) 生産工学を核にカリキュラムの見直し（科目、教員）

専攻科開講科目「特別講義2」を科目番号 610118「品質・安全管理」に授業科目名を変更することを、第9回専攻科教育委員会（平成18年8月31日）にて審議し、第10回運営会議（9月21日）にて決定された

2. 2 教育改善に向けた取り組み

[1] 卒業研究・特別研究の指導体制・評価法を再検討する。

達成度評価委員会にて、評価方法・基準を統一し、プログラム関連教員に周知徹底した。



（出典：機械工学科「材料力学1, 2, 3」カリキュラム達成目標に対する株式会社新来島ドックへのヒアリング）

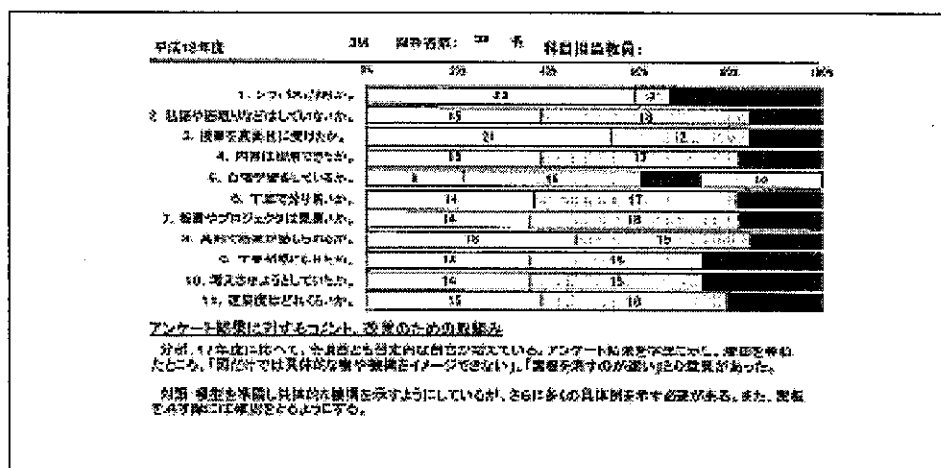
〔2〕授業科目の学生によるアンケート結果をもとに、90分授業に対応して各教員、各教科の授業方法を改善。

各教員が90分授業実施に対して、教材や教育方法の改善に努めた。例えば、5年生の主幹科目で、試行的に教材、教育方法の改善案を試みた：①講義2/3、演習を1/3程度に時間配分し実施、②IT機器は用いず、配付資料と黒板による補足説明などを多用、③学生による説明と指導、④報道、特許公開資料等で話題になったテーマを事例として演習問題を作成した。また、予習・復習を含む自学自習に対する工夫等については、課題例「与えられた設計仕様の下で、それを満足するPID制御系の設計・評価(手計算による応答計算、作図)をレポート(含考察)にして提出」を示し、3週間かけて、学校での演習時間内に、個々の学生の「学習成果」の俯瞰と振り返りを行わせたが、90分の中で、講義と演習を設ける方法ではどちらも中途半端になることが判明したため、次年度では、90分の講義とそれに見合った予・復習のための宿題を課す方式に変更することとした。

教務委員会および専攻科教育委員会による授業アンケートを基に、次年度への反映のため全教員が改善策を明記した。

各教員は、学生による授業アンケート内容を分析し、学生に分析結果を示し、改善案を報告し、改善すべき点を学生から聞いた。このことを、来年度の改善に役立てる(資料2-2-〔2〕-1)。

資料2-2-〔2〕-1



(出典：平成18年度授業アンケート結果に対するコメント、改善の取組みから抜粋)

〔3〕平成14年度から新カリキュラムとなり、授業・実験・実習等におけるもの作り、および、制御に関する科目の増加により、教育機器を充実させる。

「計測制御実習」にて用いるLEGO MindStorm、「機械制御」、「制御工学」等で用いるPID実験装置の充実化を図った。

〔4〕公開授業は、インターンシップの報告を9月実施(4M)、卒業研究発表会および座学などの科目3件以上実施する。

「卒業研究発表会」、「工学基礎実験」、「振動工学」、「計測制御実習(機械・材料工学科)」、「生産工学ゼミナール1(機械・材料工学科)」、「生産工学ゼミナール2(機械・材料工学科)」等を公開した。

[5] 教員研修会にはできるだけ参加し、情報を収集する。

資料 2-2-[5]-1

「中国四国地区教科別 FD 委員会」において鎌田教員が報告を行い、関連科目担当教員の質的向上に寄与した(資料 2-2-[5]-1)。

[6] シラバスの習熟度、応用力の向上のための工夫・努力および達成目標の再検討。

H19 年度シラバス作成にあたり、シラバス設計表の作成を義務づけた(資料 2-2-[6]-1)。これにより、生産工学プログラムの表2~表3~表9の一貫性が実現でき、シラバス作成の狙いがより明確になった。

材料力学を取り巻く周辺環境(1)

自動車などの大手メーカーでは、市販の3次元CADが機械設計に日常的に用いられているが、その後処理ソフトウェアにより、仮に材料力学を全く知らなくても解析を実行できる。

材料力学を取り巻く周辺環境(2)

材料力学の知識があれば避けられたのかもしれない事故の発生は後を絶たない。

(出典：平成 18 年 7 月 18 日四国地区高専共同事業FD研修会発表資料)

2-2-[6]-1

学習・教育目標	関連する基準(1) (a)~(i)の項目	対応科目名	科目の達成目標	評価方法と基準
デザイン能力	C-1 計算能力 ① 数値や単位、数式を適切に扱う。② プログラム・図面・グラフ・表、図表等で表現できる。 C-2 数値計算能力 ① 数値計算能力を高める。② 数値計算能力を高める。③ 数値計算能力を高める。④ 数値計算能力を高める。⑤ 数値計算能力を高める。⑥ 数値計算能力を高める。⑦ 数値計算能力を高める。⑧ 数値計算能力を高める。⑨ 数値計算能力を高める。⑩ 数値計算能力を高める。⑪ 数値計算能力を高める。⑫ 数値計算能力を高める。⑬ 数値計算能力を高める。⑭ 数値計算能力を高める。⑮ 数値計算能力を高める。⑯ 数値計算能力を高める。⑰ 数値計算能力を高める。⑱ 数値計算能力を高める。⑲ 数値計算能力を高める。⑳ 数値計算能力を高める。㉑ 数値計算能力を高める。㉒ 数値計算能力を高める。㉓ 数値計算能力を高める。㉔ 数値計算能力を高める。㉕ 数値計算能力を高める。㉖ 数値計算能力を高める。㉗ 数値計算能力を高める。㉘ 数値計算能力を高める。㉙ 数値計算能力を高める。㉚ 数値計算能力を高める。㉛ 数値計算能力を高める。㉜ 数値計算能力を高める。㉝ 数値計算能力を高める。㉞ 数値計算能力を高める。㉟ 数値計算能力を高める。㊱ 数値計算能力を高める。㊲ 数値計算能力を高める。㊳ 数値計算能力を高める。㊴ 数値計算能力を高める。㊵ 数値計算能力を高める。㊶ 数値計算能力を高める。㊷ 数値計算能力を高める。㊸ 数値計算能力を高める。㊹ 数値計算能力を高める。㊺ 数値計算能力を高める。㊻ 数値計算能力を高める。㊼ 数値計算能力を高める。㊽ 数値計算能力を高める。㊾ 数値計算能力を高める。㊿ 数値計算能力を高める。	新設設計製作	1. 課題を通じてグループでプロジェクト学習を行い、チーム内でコミュニケーションを取り、アイデアを練り、計画を立て実行できること。 2. これまでに学んだ基礎知識や技術を駆使して設計、製造を行うことができること。	『授業計画とプレゼンテーション』 講義性、質疑応答とその割合:35% 『計画と実行』 プロジェクトの進捗状況とその割合:35% 『アイデアの発展化』 課題性、設計案、加工製作:40%

(出典：平成 18 年度第一回 JABEE 推進室会議(4 月 19 日)配布資料 No.2)

[7] 課外特別活動の時間、オフィスアワーおよび長期休業期間中の特別教育プログラムなど、学生の学習支援方法を再検討する。

「機械設計技術者3級」受験のための補習を、試験科目毎に実施し、模擬試験を実施した。また、H19 年度専攻科入学生予定者に対して、英語学力強化のための補習を実施(一般教養科 尾崎先生、鴻上先生)した(2006/10/03~2007/02/14 の期間計 16 回)。

[8] その他

◎電気情報工学科（電気工学科）

1. 学科内教育改善推進体制

次のWGが中心になって学科内教育改善を行う。

1. 1 教育改善WG（皆本、佐藤、井門、馬淵）
1. 2 学習・教育目標検討WG（馬淵、尾西、香川、檀上）
1. 3 カリキュラム・シラバス検討WG（稲見、平野、横山）
1. 4 教育目標達成度評価WG（伊月、井門、王、先山）

2. 学科内教育改善に向けて各WGが行う活動内容

2. 1 教育改善WG

[1] 公開授業、出前授業を最低1回は計画し、実施する。

- ・公開授業は2件（檀上先生、先山先生）実施した。少なかった。
- ・出前授業は小中学生向けに12件提案した。中萩中学で11月に公開授業を実施した。

＜写真は平成18年度学科運営目標実施報告に掲載済＞

[2] 成績不振者のフォロー（特に低学年での成績不振者に対しては電子制御工学科と連携して補習などを実施する）

- ・成績不振者に対して主任による個別面談を実施した（4E学生2名）。その内の1名に対して夏休みに2週間程度夏季補習を実施した。
- ・電子制御工学科との連携は出来なかった。

[3] 編入学生への個人指導（成績の悪い学生には学科として分担して特に夏休み前まで補習を行う）

- ・数学（川崎先生）、電磁気学（檀上先生）の補習を実施した（4月～6月）。
- ・4E学生1名に対して夏休み前半に2週間程度補習を実施した（毎日9：00～16：00）。

[4] 学生の授業受講態度の改善（居眠りしている場合には減点、漫画を読んでいる場合には取り上げるなど）

- ・学科として、昨年同様、居眠りしている学生には注意し、直らない場合には減点などを行い、漫画、携帯している携帯電話は即没収することにした。しかし、結果的にはこれらが出来ない教員がいた。

[5] オフィスアワー、アドバイザー制、課外特別活動を有効利用し、教員からも学生に働きかける。

- ・1E、2E学生にはアドバイザー制があり、コミュニケーションを密にできた。
- ・課外特別活動には殆どの学生が参加しており、資格取得、進路情報等について説明し、学生に働きかけた。特に、2Eでは資格試験受験者数が大幅に増えた。

＜オフィスアワー担当表は平成18年度学科運営目標実施報告に掲載済＞

[6] 学生アンケート結果を反映した授業の仕方の改善策の検討（前年度アンケート結果との比較検討を行い、悪いところは改善し、良いところは延ばすなど）

- ・授業アンケートは集計結果を学生へフィードバックし、学生、教員それぞれが反省すべき点、良い点などについて明確化できた。

＜授業アンケート自己分析結果は平成18年度学科運営目標実施報告に掲載済＞

[7] 学生の資格取得の推進（特に新2年生アンケート結果では資格取得に関する質問が多く、課外特別活動で学科として質問に答える）

- ・ 3 E の課外特別活動で、資格に関する説明を行った（情報、通信、電気関係を 3 名の教員が分担して行った）。資格取得者が増えた。
 - ・ 2 E では特活などで度々指導したところ、大幅に受験者が増えた。
2. 2 学習・教育目標検討WG
- [1] 学科独自のアンケートの実施、分析、評価（特に、新入生、新 2 年生、3 年生（コース分け）など）
- ・ 4 月 10 日に新入生、新 2 年生に対して実施した。3 E に対しては 12 月、1 月にコース分けのアンケート実施した。
- [2] 学校全体で行う各種アンケート結果に対する学科としての分析、評価（前年度アンケート結果と比較し、悪いところは改善し、良いところは延ばすなど教員が変わる必要がある）
- ・ 今年は学科としての十分な分析、評価は出来なかった。
- [3] 学外からの評価・要望等の調査、分析、評価（卒業生の意見を聞くなど）
- ・ 卒業生が来ると、外から見た本校について聞いた。しかし、まだ、データ数が少なく、分析、評価までは行えなかった。
2. 3 カリキュラム・シラバス検討WG
- [1] コース制実施による授業、実験・実習内容の問題点の洗い出しと改善策の検討
- ・ 新規授業が多くできることに対応した教員の割り振り、実験（実験場所、テーマ数など）に問題点が出た。情報関係の実験場所については専攻科棟（但し、電気教員が使用している部屋（教員室移動））で行うことにした。
- [2] 電気情報工学科、電子制御工学科とのカリキュラム融合検討（選択科目の検討など）
- ・ 選択科目を中心にカリキュラム融合を行った（選択科目として新しく通信機器を追加した）。

＜電気情報工学科と電子制御工学科での選択科目（同時開講で 1 科目選択）＞
 半導体工学 B、通信機器、ロボット工学、情報通信システム
 （本科履修要覧より抜粋）

2. 4 教育目標達成度評価WG
- [1] 達成度の具体的評価法の検討
- ・ 4 年生以上の試験問題各項目に JABEE 到達目標を明記した（資料 2-4-[1]-1）。
 - ・ 卒業研究については卒研ノートに到達目標を明記し、週単位でチェックさせた。
 - ・ 具体的達成度評価法（例えば、マニュアル化など）については不十分であった。

資料 2-4-[1]-1 (出典: 電気情報工学科 5 年 試験問題:

【到達目標 1】、【到達目標 2】は J A B E E 「システムデザイン工学プログラム履修の手引き」に記載済)

通信工学 (前期中間試験) 2006.6.15(木) E 5・No. _____ 氏名: _____

★ 電卓を使わず、考え方を示して解答せよ。結果は出来るだけ簡単に表し、必要ならば単位を記載すること。

(1) 次の問に答えよ。(30)【到達目標 1】

① 512 種類の事象があり、これらのどれか一つが生ずるものとする。このときの情報量を計算せよ。(10)

② 2 ビットとは何種類の事象を表すことが出来るのかを示せ。また、「0」、「1」を用いてその事象を表せ。(10)

③ 日本のある地方の天気は晴、くもり、雨、雪のいずれかで、それぞれの発生確率は $1/8$ 、 $1/2$ 、 $1/4$ 、 $1/8$ である。この場合、ニュースがその地方の天気を伝えるときの平均的な情報量 (情報エントロピー) を計算せよ。(10)

(2) AM (振幅変調) 波に対して次の問に答えよ。(30)【到達目標 2】

①

[2] 複数教員が担当する科目の成績評価の妥当性の検討 (特に、卒業研究の評価法等)

- ・ 卒業研究は卒研ノート、発表会、卒論で評価し、発表会は全教員で採点した。
- ・ 卒研ノートに関しては、到達目標を明記し、週単位でチェック出来る様式に統一し、実施した (電気、電子で共通様式) (資料 2-4-[2]-1)。
- ・ 最終的な評価結果については纏め約から関係教員へ事前に関示され、了承された。

資料 2-4-[2]-1 (出典: 学科内共有フォルダより抜粋)

卒研ノート (提出用) No. _____ 学生名: _____ No. _____	
平成 _____ 年 _____ 月 _____ 日 () 従事時間 : _____ ~ _____ : _____ (時間)	
具体的な作業内容 (例えば、指導教員との打合せ事項、何についてどこまで実行したか (得られた結果)、新たな問題点・次回の検討事項などを記述。)	今日の結論 (まとめ)
_____ 月 _____ 日 () 従事時間 : _____ ~ _____ : _____ (時間)	
具体的な作業内容	今日の結論
_____ 月 _____ 日 () 従事時間 : _____ ~ _____ : _____ (時間)	
具体的な作業内容	今日の結論
1 週間のまとめ: _____ 月 _____ 日 () 作業時間合計: _____ 時間	左記の中で、下記の到達目標に該当する事項があれば □ に V を入れ、該当事項を記述する。 ☐ 2. 課題に対し、解決に必要な情報を収集 ☐ 3. 自分なりの解決策の提案 ☐ 4. その解決策を実行

3. JABEE対応教育改善

「システムデザイン工学プログラム(JABEE)」を踏まえ、特にPDCAサイクルに沿って、電子制御工学科と同一組織(体制)で教育改善を推進する。委員会名と構成メンバー(但し、電気情報工学科のみ記載)を次に示す。活動内容については「システムデザイン工学プログラム(JABEE)」を参照のこと。

- 3. 1 教育改善委員会 : 皆本、佐藤、井門、馬淵
 - 3. 2 学習・教育目標検討委員会 : 馬淵、尾西、香川、檀上
 - 3. 3 カリキュラム・シラバス検討委員会 : 稲見、平野、横山
 - 3. 4 教育目標達成度評価委員会 : 伊月、井門、王、先山
- ・「システムデザイン工学プログラム(JABEE)」と同じ委員構成にし、一元化した。
 - ・認証評価としては教育目標達成度が関係しており、上記3. 4の委員会が中心となって学科全体として動いた。

◎電子制御工学科

主任 榊原 久司

1. 教育改善推進体制

- 1. 1 低学年教育改善WG（*榊原、今井、栗原、白井、占部）
- 1. 2 FD活動推進WG（*深山、松村、松友）
- 1. 3 カリキュラム・シラバス検討WG（*出口、田中）

2. 平成18年度活動計画

2. 1 低学年教育改善WG

[1] 低学年の専門基礎学力向上を図る。

- ・1年の電気基礎演習を5名の教員で指導する体制にし、専門基礎学力強化を図った。しかし、中学校の数学、理科の学力が身につけていない学生については十分な成果が得られなかったため、今後、指導方法の改善を行う。

[2] 低学年教育における電気情報工学科との協力体制を作り、効率的に教育改善を行う。

- ・電気情報工学科、電子制御工学科の低学年専門基礎科目担当者が集まり、「電気基礎」の授業進度や演習の実施方法などについて情報交換を行った（資料2. 1-1）。今後とも、低学年教育を効率的に行うノウハウを紹介しあい、協力体制を築いていく。

[3] 低学年におけるカリキュラムの電気情報工学科との整合性を図り、JABEEプログラムとして一体感のあるカリキュラム・シラバスを目指し、改善を進める。

- ・上記情報交換会で紹介していただいた電気情報工学科の低学年教育実施方法のいい点を参考にして授業改善を進める予定である。

（資料2. 1-1）

低学年専門基礎科目担当者意見交換会議事録

日時： 2007年3月12日 10:15～11:00

出席者：榊原、今井、皆本、平野、香川

議長：榊原 記録：平野

* 電気情報基礎演習について（電気情報工学科（以下、Eと記す）の方法を説明）

- クラスを半分に分ける点および担当者が5人である点は電子制御工学科（以下、Dと記す）と同じ。
- Eの分け方は出席番号順で、Dは混合クラス毎でやっていたので前半と後半の担当学生数が異なる点が良くなかった。
- Dは前期だけ、図学の代替科目として行った。後期は情報リテラシーの続きを実施。
- Eは今年は問題分量が少なかった。
- Dは中学数学の復習からであり、E D共通なのは電気基礎に関する数学的なこと。
- Eは宿題の採点と解説で、それが成績となる。
- 問題集との違いは文字式で解かせるところ。
- キルヒホッフはループ電流法は用いず、レベルを設定。教科書の表現に合わせる。

- 電流の分流については分流器ではやっていない。
- クーロンはやってない、コンダクタンスは最後。
- E では前期、後期で担当を変えている。後期は能力でグループ分けする。
- 授業の終わりに宿題出す。
- 時間数の違い有り、Eは90分。
- E ではステップを細かくやって、復習が手薄だった。来年は繰り返し復習を入れる。
- E で実施している連絡帳は良い方法と考えられるので、D でも来年度から同様の方法でやってみる。

(出展 電気、電子低学年専門基礎科目担当教員意見交換会 議事録)

2. 2 FD活動推進WG

- [1] 授業のビデオ撮影、各教員のビデオ観察による授業改善案の作成など、学科として各教員の授業改善を進める。
 - ・授業の分りやすさを改善するため、各教員が自分の授業のビデオ撮影を行い、その映像と学生の授業アンケート結果の双方に基く授業方法の改善案を作成した。当該改善案は学科内全教員参加の下に検討会を開き、以後の授業に反映させている。本年度は2名の教員について検討会を実施した。
- [2] 公開授業、授業参観、教員研修会などを計画的に実施する。
 - ・実験・実習科目や特色のある授業科目については、公開授業の形式で他学科の教員も加えた授業方法の検討を行っており、本年度は3件の公開授業を実施した。

2. 3 カリキュラム・シラバス検討WG

- [1] 技術の進歩に即した実験テーマの設定と測定機器類の整備を行う。
 - ・教育研究基盤設備整備推進費の配分を受け、電子棟3階基礎工学実験室のオシロスコープおよびCR発振器を、それぞれデジタルオシロスコープとファンクションジェネレータに10式更新した。実験テーマのうちのいくつかを新規設備を利用したものに更新し、より効率的に信頼性の高い測定が行えるように実験環境整備を行いつつある。
- [2] 学生の主体性を伸ばすためのカリキュラム・シラバスについて検討する。
 - ・学生に自学自習の習慣付けをさせるのに効果的と考えられる学修単位の導入に向けて、4年の科目のうち電気磁気学2と制御工学1において導入のシミュレーションを行った。

3. 電気情報工学科と協同で下記委員会を組織化し、JABEEプログラムとして教育改善を推進する。

- 3. 1 教育改善委員会（榊原、深山）
- 3. 2 学習・教育目標検討委員会（松村、占部）
- 3. 3 カリキュラム・シラバス検討委員会（田中、出口、栗原）
- 3. 4 教育目標達成度評価委員会（今井、白井、松友）
 - ・機関別認証評価受審のための準備として本科1年から5年の電子制御工学科の学習・教育目標を設定する必要がある、教育改善委員会、カリキュラム・シラバス検討委員会が中心となり、JABEEプログラムの学習・教育目標との整合性を考慮し

ながら本科の学習・教育目標を設定した。

○ 総括的な評価と課題

学科内の教育改善活動の成果が現れつつある。今後、PDCAサイクルを回し、活動を定着させていく必要がある。なお、JABEEプログラムとしての教育改善活動は機関別認証評価受審のため自己点検書作成に関連付けて活動した。

◎生物応用化学科

主任 河村秀男

1 推進体制

学科内の教育改善に向け、教育改善委員会、カリキュラム・シラバス検討委員会、教育目標達成度評価委員会、内部・外部評価委員会の各委員会を設置する。統括は教育改善委員会が行う。各委員会の構成教員は以下のとおりである。◎は委員長、○は副委員長である。

1. 1 教育改善委員会（◎河村、牛尾、○中川、中山、衣笠）
1. 2 カリキュラム・シラバス検討委員会（◎衣笠、○勝浦、中山、間淵、牧、堤、西井）
1. 3 達成度評価委員会（◎中川、河村、西井）
1. 4 学習・教育目標検討委員会（◎牛尾、牧、堤）

2. 平成18年度活動計画

2. 1 教育改善委員会の活動計画

[1] 各委員会の年間目標を立案する。（3月中に実施する）

・教育改善委員長、副委員長が中心となり各委員会の年間目標を立案した。

[2] 年間目標に基づき、各委員会に実施方法を提案させる。（4月中旬までに実施する）

・各委員会は年間目標を基にして、実施方法を提案した。

[3] 各委員会の活動を推進する。

各委員会の委員長会議を月1回学科会議後に開催し、各委員会の実施状況を把握すると共に、委員会から提案された意見をまとめ、指示を行なう。

・月1回程度は実施することができたが、実施時期が遅れるなど指示は十分にできなかった。

[4] 学科会議において活動の報告、および必要に応じて審議を依頼する。

・生物応用化学科で養成する技術者像に関する審議内容などについて、学科会議において報告した。

[5] 近隣の高専の化学系学科と志願者確保やFD活動について、情報交換を行う。

・8月に高知高専で開催された四国地区FD研修会において、高知高専物質工学科の教員と就職、進学状況などについて意見交換を行うと共に、3月に高知高専を訪問した。

2. 2 カリキュラム・シラバス検討委員会の活動計画

[1] セルフプランニング実験および学生実験について、成果と問題点をまとめる。

・昨年度導入したセルフプランニング実験について、その成果や問題点をまとめて学外で発表すると共に、今年度、プランニング能力の向上という新たな視点から実施した。

[2] 自学自習のための取り組み方法について検討する。

・学修単位科目の導入に向けて試行科目を2科目（化学工学3と生物物理化学1）を設定し、自学自習への取り組みに関する実施状況を教員会において報告した。

[3] カリキュラムおよびシラバスの検討を行なう。（来年度のシラバスに反映させる）

・関連性の強い専門科目である物理化学と化学工学、有機化学と生物工学、分析化学と無機化学について、担当教員の間で科目間の連携について検討を行った。次年度のシラバスに反映させる予定である。

[4] 平成19年度のシラバスのチェックを行なう。（12月下旬までに行なう）

・現在の所、平成19年度のシラバスが作成されておらず、実施できていない。

2. 3 達成度評価委員会の活動計画

[1] 専攻科1、2年生の特別研究について中間レポートを提出させ、評価を行なう。

(前・後期2回実施する)

・研究進捗自己評価書と研究計画書を提出させ、評価を行った。

[2] 特別研究発表会における評価の依頼およびまとめを行なう。

・複数の教員に依頼し評価を行い、結果をまとめた。来年度は評価方法について再検討する。

[3] プログラムにおいて育成する技術者と学習・教育目標との対応、企業が求める人材と学習・教育目標との対応などについて、企業に聞き取り調査と解析を行なう。(就職担当者および開拓者が、7、8月と2月に実施する)

・実施できていない。今年中に実施することは困難であるため、来年度の夏季休業中に行うインターンシップ先訪問を利用し、実施する予定である。

[4] 専門学科で担当する特別活動等を利用し、低学年について、進路、専門科目への興味、アドバイザー制度の活用状況などに関するアンケートを実施し、分析を行なう。

・生物応用化学科1年生から5年生を対象にして、授業、実験、設備に関する要望や提案についてのアンケートを実施した。各学年から出された要望、提案は「学生と学科教員との交流懇談会」において報告すると共に、実験器具などにに関する要望はその対応策について回答した。

2. 4 学習・教育目標検討委員会の活動計画

[1] 学科独自の実力試験を実施する。(前期中に実施する)

・生物応用化学科1年生から5年生まで4者択一の同一の問題で実施した。すべての分野において学年の進行と共に平均点は上昇し、学習量に比例する結果が得られた。昭和59年度において実施した同様の実力試験の結果と比較しても点数の向上がみられた。解析結果をまとめ、平成19年度の紀要に投稿する予定である。

[2] 学習・教育目標に対する理解度、レベルに関するアンケートを本科4、5年生と専攻科生に実施する。(前期中に実施する)

・3月に学習・教育目標に関するアンケートを実施した。今年度中に結果をまとめる予定である。

[3] 学習環境・福利厚生設備に関する意見、満足度に関するアンケートを本科4、5年生と専攻科生に実施する。(前期中に実施する)

・3月に学習環境・福利厚生設備に関するアンケートを実施した。今年度中に結果をまとめる予定である。

[4] 公開授業を実施する教員を選出し、依頼する。

・西井教員、牧教員、中川教員に依頼し、公開授業を実施すると共に、セルフプランニング実験についても公開授業をおこなった。

[5] 公開授業実施者に公開授業参加者からの意見に対する回答を依頼し、まとめる。

・参加者は学科会議あるいはメールで、参考になった点などについて報告をおこなった。

[6] 推薦入学者と推薦入試不合格者で学力入試合格者に対する成績追跡調査と分析を行う。

・推薦選抜の方法が変更になったこともあり、実施できなかった。

[7] 卒業生とのネットワーク形成を目指し、本校の現状に関する意見交換資料の作成を

行い、その結果をまとめ、解析する。

- ・本学科卒業生の教員が中心となり同窓会を開催し、本校卒業生の現状について意見交換し、まとめた。

○ 総括的な評価と課題

- ・各委員会において実施した内容についての総括ができでらず、PDCA サイクルが十分に動いていない。

- ・教育改善委員会は当初の予定どおり月 1 回程度開催したが、各委員会の活動を十分統括できなかった。

- ・昨年度は JABEE 中間審査があったため、点検評価書の作成などを通して学科内で教育改善の活動についてある程度活発に議論できたが、今年は全般的に改善意識がやや低下してしまったように思われる。来年度は、次回の審査に向けて再度教育改善委員会を中心として活動を推進していくことが必要である。

以下教育改善推進計画

◎材料工学科

主任 高橋知司

1. 推進体制

学科内の教育改善に向け、生産工学プログラム教育改善システムとの整合性を保ち、以下の4委員会を設置する。教育改善委員会が[1]～[3]の各委員会を統括する。各委員会の構成委員は生産工学プログラム教育改善システムとの整合性を考慮する。

1. 1 教育改善委員会（○相根、池内、谷、志賀、曾我部）

[1] 学習・教育目標検討委員会（○谷、相根、日野）

[2] カリキュラム・シラバス検討委員会（○松英、高橋、松原）

[3] 達成度評価委員会（○志賀、新田、朝日）

○：グループリーダー

2. 平成18年度活動計画

2. 1 教育改善委員会

各委員会のリーダー会議を定例に開催し、活動状況を把握し、必要事項を指示する。

生産工学プログラム教育改善委員会の進捗に合わせて活動し、必要事項は教育改善委員会や学科会議で検討、報告している。

F D活動を推進する。

生産工学プログラムのF D活動に合わせ、本科4, 5年生と専攻科生を対象に、自学自習および学習環境に関するアンケートを実施した。自学自習については、「ほとんどしない」や「1時間未満」も多く、学生自身も少ないことを感じている。

また、材料工学科から「環境材料工学科」への名称変更に関する企業アンケートを実施した。材料工学分野が環境問題の解決に向けて果たすべき役割への期待が大きいことや多くの企業が環境に関する知識を持つ技術者を必要としていることが分かった。

教育環境の整備充実と安全教育を検討する。

環境材料工学科の玄関設置を含む一階部分や実習工場を改修している。

実験室や廊下の整理整頓を行っている。

公開授業を実施する。

インターンシップ報告会（10/26）、固体物理学（5Z）（11/1）、卒業研究発表会（2/16）を公開授業とした。今年度は座学（講義科目）を含めて実施した。

2. 2 学習・教育目標検討委員会

H17年度の授業アンケートを数値化して分析し、H15、H16年度の分析結果と併せて、問題点を洗い出し、改善策を検討する。

材料工学科の専門科目についてH16年度とH17年度の授業アンケート結果を比べると、H16年度は多くの学生（約70%）が予習復習をしていなかったが、H17年度は自宅学習をしていない学生は大きく減少し50%を割り込んでいる。このような改善傾向は大部分の専門科目に当てはまり、引き続き改善努力を続けつつ、アンケート結果の動向を見守る必要がある。

ただし、H16年度の質問形式は、
13 復習をしているか
14 予習をしているか
であり、H17年度の質問形式は、
5 自宅学習をしているか
と異なっている。

本校の学習・教育目標に対する学生の要望を調査する。また、本校の学習・教育目標がお題目としてでなく、学生に理解させる方策はないかを検討する。

HR教室に本校の基本方針（教育理念）のポスターを掲示し、種々の機会に学生に話した。各学科の学習・教育目標が検討され、材料工学科においても検討し、学習・教育目標を定めた。JABEEプログラムと連携し、プログラム1年生として、履修の手引きとともに、学習・教育目標の説明を行った。また、同時に「学習・教育目標」を記した所持可能なカードを配布し、自覚を促している。

学科学生との懇談会や学生アンケート（生産工学プログラム、自学自習および学習環境に関するアンケート）を実施し、学生の要望を広く聞いた。学科学生との懇談会などを学生の意見を聞く場として活用し、引き続き検討する。

2. 3 カリキュラム・シラバス検討委員会

カリキュラムを再検討する。

各科目のシラバスを点検評価する。

シラバスに新たに記載された学習到達目標を調査する。

平成19年度の環境材料工学科への名称変更に伴う、カリキュラム変更について検討を行い、新規カリキュラムを策定した。その際に、各科目の系統図を作成し、同時に検討した学科の学習・教育目標を踏まえ、各科目のシラバスの作成を行った。

カリキュラム変更に伴う、新規科目の旧科目への読み替え方法などについて検討を行い、カリキュラム変更が円滑に進むようマニュアルを作成した。

2. 4 達成度評価委員会

生産工学プログラムの達成度評価委員会の進捗に合わせて活動を行った。

・平成17年度C評価成績資料を収集・整理した。（認証評価用成績保管と兼用する）

・4年生以上の科目の「シラバス設計表」を作成するためのデータ収集を行った。

現在、それらを一覧表にまとめる作業中である。

達成度評価方法の策定

特別研究の中間報告書作成要領を作成中である。

達成目標、成績評価方法の点検評価等

評価方法に“授業態度”等の曖昧な表現があるシラバスについて、記載教員に改善を依頼した。

2. 5 その他教育の質の向上

〔1〕卒業研究の指導体制と評価法

H16年度から日常の取り組み状況を「卒研ノート」に記録するよう義務づけている。卒研発表については評価項目を設定し複数教員評価している。H18年度はこれらを継続すると共に、卒研発表時間など指導体制と評価法を検討する。

本年度は11/8(水)に中間発表会を実施した。2/16(金)に卒業研究発表会を実施し、発表は一人当たり9分(発表6分、質問3分)とした。発表時間を大きく超えた学生に対しては再発表とし、プレゼンテーション方法について指導した。同時に学科教員による発表評価を行い、発表後の質問項目とその回答を「卒研ノート」に纏めることとし、今後の指導指針とする。

〔2〕特別研究の指導体制と評価法

特別研究についても同様に日常の取り組み状況を「特別研究ノート」に記録するよう義務づけ、複数教員が評価している。H18年度は特別研究発表を見直し、指導体制と評価法を検討する。

特別研究の評価法については、発表、論文の評価の他に、日常の取り組みについての評価を検討し実施した。

○総括的な評価と課題

平成19年度から環境材料工学科へ名称変更に伴って、企業へのアンケート調査を行い、またカリキュラムやシラバスの点検・検討作業を進めてきた。同時に、環境材料工学科の玄関設置を含む教育環境の整備が進みつつある。その他に、生産工学プログラムの教育改善と連携し、達成度の評価、卒業研究、特別研究の評価など学科の教育改善を進めている。

学生指導の面で、低学年(3学年以下)クラスに学業不振学生を中心として、ショートホームルームや授業への出席状況等に関して問題があり、その改善に向けて引き続き取り組まなければならない。

◎数理科

主任 竹田 正

1. 推進体制

教科授業については数学、物理、化学の3グループに分け、グループごとに非常勤講師を含め推進する。一方、学習・生活指導一般については、担任連絡会、寮務、課外指導を中心に集団として協調、共同して推進する。

さらに個別課題には少人数のWGで対応する。

○数学グループ：川崎（チーフ）、小山、千葉、西谷、柳井、古城、三井各教員

○物理グループ：平木（チーフ）、竹田、大村各教員

○化学グループ：矢野（チーフ）、柴田各教員

ほぼ毎週科会議を開き、グループ間調整を含めた科内連携を図るとともに、常に、連絡を密にし、特に、電子メールをはじめとしたITを活用し、連携を強化する。

2. 平成18年度活動計画

2.1 数学（含む、応用数学）

〔1〕 習熟度別授業の取組

数学A-2, B-2で基礎、発展の2コースに分け、グループをMC、EDZとして、担当教員を交替して習熟度授業のステップアップを図る。FD研修会を主催して課題を検討する。

昨年度に引き続き、数学A-2, B-2の双方について、基礎、発展の2コースに分けて実施したが、学科の組み合わせを変更し、担当教員を交替して取組んだ。平成19年度も習熟度別授業を継続実施し総括を行うこととした。四国6高専のFD研修会では、授業改善のためには、演習の拡大・つまづきポイントの指導・机間巡回等オーソドックスな手法を重視する意見が多かったが、総じて模索状況であり、今後はIT活用が期待されるということとなった。

〔2〕 補習授業の充実

1, 2年生対象に継続実施する。数学で企画し全教員が対応する。4年生編入学生にも継続実施する。

1, 2年生対象に継続実施した。数学で企画し、専門学科の教員の協力を得た。

〔3〕 定期試験検討WG（数学A, B各1, 2, 3の教科毎）

共通問題化を今年度も継続実施する。

非常勤講師も含めたWG活動に取組み、共通問題化を今年度も継続実施した。

〔4〕 実用数学検定WG

実用数学検定を継続実施して、数学教育効果の解析を行う。

実用数学検定を2回実施し、数検グランプリ金賞 高専部門に選ばれた。結果の解析等を四国FD研修会等で発表した。

〔5〕 長期休暇中の課題

夏季、および春季休暇中の課題付与を継続実施する。

夏季、および春季休暇中の課題付与を継続実施した。3年生については冬季休暇中も課題を付与した。

＜数理科の平成18年度教育改善推進計画＞ のうちのその他教科の数学G関連その

他教科および教育一般

[1] 情報関係授業、専攻科授業

情報関係授業、専攻科授業の担当分のFDを関連委員会と協同して実施する。

エクセル VBA の授業を定着させ、家庭学習を可能としたが、一部の学生が取組んだ。数値解析学及び演習のレポートを3回から4回に増し、充実させた。

[2] IT活用による講義技術の改善研究

Web Class を利用して、自学自習を促進した。

[3] 中学校・高等学校との教育交流の推進

(教務委員会および高度技術教育研究センターと連携) 演示授業、実験授業が学習効果を高められると思われる有機化学、無機化学の分野について数回実施する。

後期から現代GPの取組が開始したので、取組に参加して推進している。

2. 2 物理・応用物理

[1] 新カリキュラムの実施

H15年度から始めた新課程に整合したカリキュラム変更の4年度の実施

カリキュラム変更に伴う授業の実施を行ったが、学生の理解不足(特に1年生の)に対応できなかった嫌いがある。

[2] 定期試験検討WG(物理1, 2, 応用物理1, 2の教科毎)

共通問題化に取り組む。また、結果の解析・反省を行い評価としての質向上に取り組む。

共通問題にしてから数年経つが、学科間の学力差(学習意欲の差に基づく?)が顕著に現れることとなった。

[3] 公開授業による授業力向上

今年度は実施できず

[4] グループオフィスアワーの継続実施

年間を通じて物理担当者間で継続実施した

[5] 2年次学生に対する補習授業

年間7~8回ほど補習授業を実施

2. 3 化学

[1] 演示授業、実験授業

演示授業、実験授業のさらなる充実およびHand Held Computerの物理・化学実験機能を利用したこれらのさらなる向上検討

・演示実験は、化学2において数回行い、学生の理解の助けとなった。

・実験授業も化学1および化学2とも4回程度行ない、学生の評判も良く、さらに行なってほしいという要望が強かった。

・Hand Held Computerの物理・化学実験機能を利用したこれらのさらなる向上については充分行なえなかったため、引き続き次年度の検討課題としたい。

[2] 定期試験検討WG(化学1, 2の教科毎)

共通問題化に取り組む。また、結果の解析・反省を行い評価としての質向上に取り組む。

・化学1および化学2とも前期中間試験、前期期末試験、後期中間試験、学年

末試験とすべて共通問題化し、実施した。また、結果が芳しくない学生については再試験も行なった。

〔3〕 持ち越した生物教育の必要性和実現案の検討

・生物応用化学科の教員と相談したが、充分に行なえなかったため、引き続き次年度の検討課題としたい。

〔4〕 公開授業による授業力向上

・矢野が高松工業高等専門学校において独自に開発した教材を用いて、阿南工業高等専門学校および高松工業高等専門学校教員公開の下に行なった。この結果は、学生のアンケート評価による利用評価も含め、以下に公表することができた。

「鉄腐食と導電性高分子ポリアニリンのコーティングによる鉄腐食防止の教育システムの開発とその教育効果」

矢野 潤，中村紀幸，山崎鈴子，一森勇人，尾崎信一，岡野 寛
工学教育，55(2)，42-47 (2007)

〔5〕 グループオフィスアワーの実施

グループオフィスアワー（月曜日の放課後）

グループオフィスアワーは月曜日の放課後に、個別にも各教官室で幾度となく行なった。

2. 4 低学年学級経営を通じた教育改善

〔1〕 学級経営

年度初めに詳細な学級運営討議を行い、積極的なホームルーム運営行う。

学年主任を中心とした学級運営方針にしたがい、学年通信などの発行を支援した。

〔2〕 ホームルームでの学生指導

学生、保護者との緊密な連絡を通して、積極的な学習指導、生活指導、進路指導を行う。（学校美化、アルバイト問題、身だしなみ等を含む。）

身だしなみについては改善したが、授業態度の改善は目に見える成果を挙げたとはいえない。（特に1年生）

〔3〕 副担任と共同して業務分担

学級経営の重点取組による教育改善効果の向上

副担任との業務分担によって、複眼的視野から学級経営を行った。

◎一般教養科

主任 野口裕子

1. 教育改善推進体制

1. 1 教科ごとにグループを組む。

- [1] 英語グループ：○尾崎、鴻上、塚野、野村、佐渡、タベシ各教員
- [2] 国語・国文グループ：○野口(裕)、森長、野田各教員
- [3] 社会系グループ：○谷本、鹿毛、井上各教員
- [4] 保健・体育グループ：○安藤、今城、夢田各教員

* ○：グループ長

1. 2 科主任、各グループ長からなる体制を組む。

2. 平成18年度実施計画

2. 1 英語グループ

[1] 適宜会合を持つ。

英語科関連事項に関して、頻繁に会合を持った。

[2] 全校英語学力試験を年2回実施し、60点以上の成績の学生数が次に示す数を超えることを英語科の達成目標とする。(1学年：15名、2学年：20名、3学年：25名、4学年：30名、5学年：35名)

第1回では、60点以上の学生が、1年1名、2年2名、3年11名、4年22名、5年20名であった。第2回では、1年5名、2年7名、3年28名、4年43名、5年21名であった。2回目では、1～4年で、60点以上の学生数が増加した。(5年生は受験者が少なかった。)

[3] 長期休業中の学力養成講座を実施する。

英語学
力試験
度数分
布表
(H. 1
8. 4.
10 実
施)

得点 範囲	得点 (%)	5年	4年	3年	2年	1年	人数	累計
19	100～							
18	94～							
17	89～							
16	84～							
15	79～							
14	74～							
13	69～							
12	64～							
11	59～	4	8	3	4	1	20	76
10	54～	4	8	10	8	3	33	109
9	49～	17	13	17	6	5	58	167
8	44～	16	18	8	16	23	81	248
7	39～	14	21	11	20	32	98	346
6	34～	24	26	31	37	51	169	515
5	29～	23	34	39	50	50	196	711
4	24～	19	27	47	45	35	173	884
3	19～	9	8	15	20	8	60	944
2	14～	3	1	2	1	3	10	954
1	9～	0	0	0	0	0	0	954
60以上の 上者								(留 学 生 内 数

英語

力 験 年 成 表
学 試 学 別 績 (H 8 . 1 実
1 4 0 施)

項目 配点	1	2	3	4	5	L	合計	人数
1年	25	5	10	5	10	20	100(%)	
2年	7.9	2.3	0.8	1.4	2.6	8.6		212
3年	8	2.2	0.9	1.1	2.6	8.2		209
4年	8.9	2.2	1.2	1.5	2.6	8.5		194
5年	9.8	2.6	1.6	1.5	3.3	10.1		186
全年	10.1	2.7	1.7	1.5	3.8	9.8		153
学	8.8	2.4	1.2	1.4	3	9		954

語力驗數布
英學試度分表
(H 112 808 施)

[illegible]

英語試験成績表
(平成18年度実施)

項目	L	1	2	3	4	合計	人数
配点	30	28	10	5	7	100(%)	
1年	40.6	35.8	14.2	27.9	36		209
2年	32.4	38.5	18.5	35.8	35.2		186
3年	44.1	46.7	22.9	38.8	40.7		182
4年	46.2	54.9	32	46.5	49.6		190
5年	48.7	55.7	30.9	42.9	50.6		110
全年	41.7	45.1	22.8	37.6	41.5		877

夏季休暇中および学年末休業中に英語実力養成講座を開講した。

資料・配布プリント

平成18年度学年末英語実力養成講座について(総括) 2007.3.19

本校学生の英語学力向上の一助にするため、下記の通り、英語学力強化対策委員会主催により、実力養成講座を開講した。参加申し込み者数は10名で、9名が実際に参加した。参加者名中、寮生が5名(内、特別残寮が2名)。学年別にみると、1年生が2名、2年生が0名、3年生が2名(E、D各1名)、4年生が5名(E3名、D1名、C1名)5年生が0名、専攻科1、2年生が0名、計9名。皆勤者は、7名。予定通り、3コース(基礎コース、実力養成コース、TOEICコース)に分かれて実施し

記

1. 実施期間：平成19年3月15日～16日の2日間
午前の部：10:00～12:00
午後の部：13:00～15:00
2. 講座の種類(担当者)及び場所：
(1) 基礎コース第1班(鴻上)：鴻上教員室
(2) 実力養成コース(尾崎)：LL教室
(3) TOEICコース(佐渡)：佐渡教員室

* アンケート結果(回収枚数：8部、回収率89%)

- Q1. 参加したコースはどのコースでしたか。
①基礎コース(2名) ②実力養成コース(6名) ③TOEICコース(1名)
- Q2. 受講して良かったですか。
①良かった(8名) ②良くなかった(0名) ③どちらとも言えない(0名)
①の理由
・ わからない部分がわかった。(基礎コース)
・ 今まで気にならなかった音の重要性がわかった。(基礎コース)
・ 長文を読むのが速くなった。(実力養成コース)
・ 多くの問題が出され、解答した。(実力養成コース)
・ 久しぶりに先生に会えて楽しかった。(実力養成コース)
- Q3. このような講座を今後続けて欲しいですか。
①続けて欲しい(8名) ②必要なし(0名)

〔4〕 四国地区6高専共通テストについて検討する。

本校が主管で自作問題を作成し、本校を含む3高専が共通テストに参加した。

資料

平成18年度四国高専共通試験（英語）

平成19年1月11日実施

1 出題内容・形式

自作問題

- 語彙 50問 文法 50問 合計100問 100点満点
- 試験時間 50分
- 1問30秒以内で解くようにし、50分で100問解答できるように
- マークシートによる解答方式

空所補充 4択問題

2 スコア平均

高専	語彙平均				文法平均	総合得点平均	最高点	最低点
	Level 1 (17)	Level 2 (17)	Level 3 (16)	語彙総合 (50)				
A	10.8	8.3	5.2	24.3	18.7	43.0	95	16
B	9.9	6.6	4.6	21.0	17.8	38.8	88	17
C	8.9	5.8	4.3	19.0	15.5	34.6	94	11
3高専	9.9	6.9	4.7	21.5	17.4	38.8	95	11

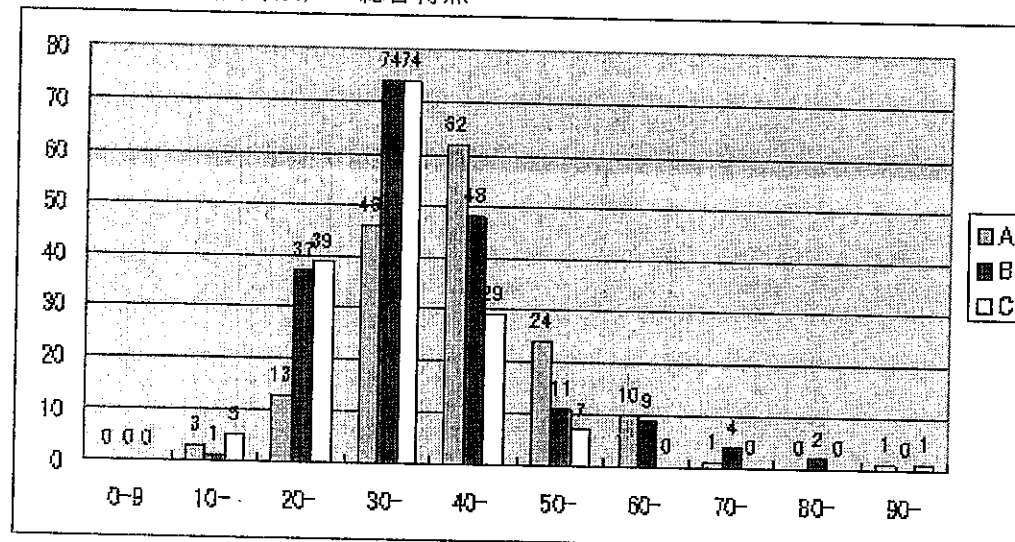
※語彙は、アルクの学習語彙リスト「標準語彙水準1200」のLevel1～Level3より出題

Level1: 英語の基礎をなす必須単語

Level2: 日常生活で活躍する英単語

Level3: 楽しく会話がはずむ英単語

3 度数分布表（高専別） 総合得点



〔5〕 外国人教師による少人数授業を効果的に実施する。

主にPC教室で、リスニングの向上を図る授業を行った。

〔6〕 導入した教育支援システムを効果的に利用して自学自習を奨励する。

自学自習を奨励したが、さらに利用させていく必要がある。

〔7〕 FDの向上（公開授業参観、研修会参加等）

各種研修会等に参加し、FDの向上を図った。

〔8〕 90分授業に対応する教授法の改善

授業内容、方法に適宜工夫を加えた結果、学生も90分授業に慣れた。

〔9〕 補習授業の導入

低学年はもとより高学年においても定期的に補習を行った。

〔10〕 平成19年度実施に向けて、本科学生の英語語彙力強化および多読による英語

学力強化対策について検討する。

語彙学習ソフト PowerWord の利用法について検討し、3年生2クラスを対象に語彙ソフトの活用を実践した。多読による英語学力強化対策について検討し、来年度実施に向けて読書用テキストを準備した。

2. 2 国語・国文グループ

グループによるFD等の実践

- [1] 前期2回、後期2回試験に合わせて会合を開く。
会合を開き、非常勤講師とも話し合うことができた。
- [2] 教授内容については基本的に統一をめざす。
統一して授業を行うことができた。
- [3] シラバスを検討し、よりよいものをめざす。
教材が多くなった面もあり、今後いっそうの検討し学習者の習熟度を上げたい。

参照

18年度シラバスを修正し、19年度シラバスとした。シラバスを参照。

- [4] 90分授業の利点を活かし、視聴覚教材などを利用し授業を活性化する。
授業の活性化を図ることができた。

- [5] 互いの教授能力の向上に努め、教育改善に努力する。
今後いっそうの改善のために積極的な努力を考えたいと意見の一致をみた。

2. 3 社会系グループ

公開授業と社会科系教員相互授業参観を通じて社会系グループ全体の教育改善の推進をはかる。授業方法の検討に重点を置く。

- [1] 社会系グループにおける教育改善推進の方針と計画について確認する。(4月)
年度当初に実施し、平成18年度教育改善計画について確認した。
- [2] 公開授業を実施し、社会系教員中心に当該授業の検討をもとに社会系グループにおける教育改善全般について意見交換を行う。実施科目・日時・回数等については状況をみながら調整する。
以下の授業で実施した。
平成18年11月20日(月)1限 5年選択 歴史特論(鹿毛)
平成19年1月16日(火)1限 5Z 技術者倫理(谷本)
平成19年3月5日(月)3限 専攻科1年選択 日本文化史(鹿毛)
- [3] 社会系グループ内で授業参観を実施し、授業方法の検討等教育改善推進のための意見交換を行う。
以下の授業で実施した。

平成18年5月31日(水)3限 3M 歴史2(鹿毛)
平成18年7月6日(木)1限 1年3組 倫理(谷本)
平成18年9月8日(金)1限 4C 政治・経済(井上)

- [4] 年間の総括を行う。(2月)

3月に実施した。

2. 4 保健・体育グループ

規律ある生活習慣の形成と健康安全の意識向上

- [1] 始業時刻の遵守指導
チャイムが鳴り終わるまでに整列するように指導した。その結果学生の時間に対する意識は向上した。
- [2] 体育実技における服装指導
1・2年生は指定の体操服を着用するよう指導し、3年生以上は運動するのにふさわしい服を着用させている。体育の授業時には必ず着替えるとの習慣を身に付けるように指導した。
- [3] 集合隊形形成指導
人数確認および健康観察のため授業の始めと終わりには整列させた。また、説明や指示がもれなく伝わるように工夫した。
- [4] 他者との協力及び協調性の指導・育成
各教材に応じたグループ編成を工夫し、人と協力して授業展開ができるように配慮した。
- [5] 健康および安全生活に対する指導
授業のはじめとに学生に自己観察を行わせ、同時に教員も健康観察を行い体調不良や怪我等の確認を行った。また、傷病者が出た場合は速やかに応急処置や看護師への連絡を行った。
- [6] 身体運動の効果的技術指導
授業の導入段階で基本的な技術を解説・師範し、繰り返し体験させることによってスキルアップを図った。
- [7] 身体運動の意義と楽しさの指導
体を動かすこと、汗をかくことの楽しさを話し、有酸素運動のメカニズムについて詳しく説明し、自分の体力に合わせた運動を続けられるよう意識付けた。
- [8] 90分授業に対する効果的な授業展開の検討

身体を積極的に動かすことに重点を置き授業を展開し、90分間の2/3は動くことができるように工夫したので、有効であった。

○ 総括的な課題と評価

各教科ごとに立てた計画をほぼ達成できたと考えている。今後は、各々他教科に学び、いっそうの向上を図り、科としての活性化を目指したい。

2. 平成18年度実施計画

2. 1

2. 2

2. 3 社会系グループ

公開授業と社会科系教員相互授業参観を通じて社会系グループ全体の教育改善の推進をはかる。授業方法の検討に重点を置く。

[1] 社会系グループにおける教育改善推進の方針と計画について確認する。(4月)
年度当初に実施し、平成18年度教育改善推進計画について確認した。

[2] 公開授業を実施し、社会科教員中心に当該授業の検討をもとに社会系グループにおける教育改善全般について意見交換を行う。実施科目・日時・回数等については状況をみながら調整する。

以下の授業で実施した。

平成18年11月20日(月) 1限 5年選択 歴史特論(鹿毛)

平成19年1月16日(火) 1限 5Z 技術者倫理(谷本)

平成19年3月5日(月) 3限 専攻科1年選択 日本文化史(鹿毛)

授業公開申告書

平成18年11月14日

所 属 一般教養科
職・氏名 助教授・鹿毛敏夫

下記の授業について、公開します。

記

1. 科目名 : 歴史特論
2. 対象学年 : 5年(選択)
3. 担当者 : 鹿毛敏夫
4. 日時 : 平成18年11月20日(月) 1時限目
5. 場所 : 視聴覚教室
6. 授業形態 : 歴史問題・歴史研究をめぐるミニ・シンポジウム形式の授業
本時のテーマ「周辺から見た日本
～アイヌ・琉球・朝鮮からの視線～」
7. 内容

使用教材 『日本史リブレット』（山川出版社）シリーズ

授業目標 歴史をめぐる諸問題について、特に日本史研究上の最新の成果について若手研究者がわかりやすく記述した『日本史リブレット』を使用して、個別の議題を設けた研究発表と討論を行い、歴史的 思考力を育成する。

授業展開 1、パネラーによるレジュメに沿った個別報告
2、全体討論 （1）報告内容への質問
（2）報告内容への意見・討論

留意事項 歴史を現代の問題としてとらえ、みずからの主体的な意見がもてるよう、ミニ・シンポの進行を工夫する。また、「相互評価・意見表」を活用して、互いの報告・討論技術が向上していくよう心がける。

8. その他：参観者用資料（学生報告レジュメ等）を当日の教室後方に準備する。

授業公開申告書

平成19年 1月 5日

所 属 一般教養科
職 氏 名 教授 谷本修治
学科・科主任氏名 野口裕子

下記の授業について、公開します。

記

1. 科目名：「技術者倫理」
2. 対象学年：5年 材料工学科
3. 担当者：谷本修治
4. 日時：平成19年1月16日（火）
5. 場所：5年材料工学科教室
6. 授業形態：講義
7. 内容
セクシュアル・ハラスメントについて
導入：ハラスメントについて
セクシュアル・ハラスメントとは

セクシュアル・ハラスメントの本質
セクシュアル・ハラスメントのタイプ
セクシュアル・ハラスメント問題と企業（組織）
環境倫理の三原則
自然物の生存権
世代間倫理
地球有限主義
まとめレポート作成

8. その他

授業公開申告書

平成19年2月16日

所 属 一般教養科

職・氏名 助教授・鹿毛敏夫

科主任 氏 名 野口裕子

下記の授業について、公開します。

記

1. 科目名 : 日本文化史
2. 対象学年 : 専攻科1年(選択)
3. 担当者 : 鹿毛敏夫
4. 日時 : 平成19年3月5日(月) 3時限目
5. 場所 : 多目的室
6. 授業形態 : フィールドワークに基づく共同調査報告会形式の授業

授業単元テーマ「別子銅山産業遺跡の研究」

7. 内容

授業目標 地域社会の歴史文化について、自ら主題を立て、文献を調べるとともに現地調査を行い、その成果をグループで発表することにより、地域に生きた先人たちの営みを認識するとともに、歴史文化の地域性の特徴を理解する。

授業展開 「別子銅山産業遺跡の研究」調査報告会 第2部

報告者および報告テーマ

- ⑧ 広瀬歴史記念館 1SM伊藤大祐・小澤卓矢
- ⑨ 旧広瀬邸 1SC渡辺孝允・山口智之
- ⑩ 新居浜選鉱場・星越駅舎 1SC藤原和司・宮脇和宏
- ⑪ 惣開の碑 1SM薦田健太郎・飯尾友貴
- ⑫ 自彊舎・昭和通り 1SM藤田涼太・水関崇普
- ⑬ 新居浜口屋跡 1SM浮橋力太・日野雅也

なお、報告会第1部は、既に下記のテーマで実施済み

- ① マイントピア別子 1SE十亀拓也・根引智也
- ② 第四通洞 1SM田中大貴・松本和広
- ③ 打除鉄橋・中尾トンネル 1SC坂本洸太郎・白石竜二
- ④ 泉寿亭 1SE白石隆二・星川和輝
- ⑤ 端出場水力発電所 1SE大濱瑛輔・中常真徳
- ⑥ 大山積神社 1SE岩間功祐・上岡大介
- ⑦ 山根グラウンド 1SE高石龍一・武田勇輝

8. その他: 参観者用資料(学生報告レジュメ集)を当日の教室後方に準備する。

[3] 社会系グループ内で授業参観を実施し、授業方法の検討等教育改善推進のための意見交換を行う。

以下の授業で実施した。

平成18年5月31日(水) 3限 3M 歴史2(鹿毛)

平成18年7月6日(木) 1限 1年3組 倫理(谷本)

平成18年9月8日(金) 1限 4C 政治・経済(井上)

[4] 年間の総括を行う。(2月)

3月に実施した。

計画はほぼ予定どおり実施できた。

授業の相互参観は授業方法の見直しにとって有意義であった。

社会科の将来的ビジョンについても今後検討すべきであるということを社会科教員間で確認した。

◎専攻科

専攻科長 早瀬 伸樹

1. 推進体制

専攻科長、専攻主任、各学科、各科からの専攻科教育委員から成る専攻科教育委員会を中心に、専攻科授業科目担当教員とも連携しながら、専攻科の教育目標を実現するための教育改善を推進する。また、JABEE プログラムの継続的な改善のために、教務委員会、JABEE 推進室との連携協力体制を推進する。

2. 平成18年度活動計画

2. 1 専攻科生の学力向上

[1] 英語学力の向上

- (1) 専攻科生の英語力向上のために、英語科目担当教員と連携して英語力向上のための支援策を策定し実施する。

英語担当教員と打ち合わせを行い、来年度は、授業担当者2名で習熟度別クラス編成にて実施し、基礎学力養成のために文法的内容を充実させることを決定した(専攻科教育委員会資料2. 1. [1] - 1)。

- (2) 英語自学自習システムの活用を推進するために、英語担当教員だけでなく、専攻主任、特別研究指導教員等とも連携した推進体制を確立する。

英語自学自習システムを英語授業等で活用し、システムの活用を奨励した。本システムの進捗状況等を専攻主任が把握し、特別研究指導教員等により各学生の学習促進を図ることを試みたが、十分には機能しておらず、更なる連携を推進する必要がある(専攻科教育委員会資料2. 1. [1] - 1)。

専攻科教育委員会資料2. 1. [1] - 1

第17回専攻科教育委員会議事録

1. 日時 平成19年2月1日(木) 16:10~18:20
2. 場所 教職員連絡コーナー南
3. 出席者: 早瀬(専攻科長)、豊田(専攻主任)、皆本(専攻主任)、衣笠(専攻主任)
田中(電子)、池内(材料)、川崎(数理)、尾崎(一般)
4. 配布資料:
資料1 専攻科履修要覧(授業科目、単位等)変更案
資料2 専攻科学生募集要項案

5. 議事の概要:

(1) 専攻科共通基礎科目について

専攻科の共通基礎科目である英語、数学について、来年度の授業内容等について意見交換を行った。英語については、授業担当者2名で習熟度別にクラス編成して実施予定であること、基礎学力養成のために文法的内容を充実させることを確認した。数学については、今年度と同様に応用的な内容で、確率統計を含めた内容を実施することを確認した。

(出典 第17回専攻科教育委員会議事録より抜粋)

〔2〕 数学等の工学基礎学力向上

- (1) 専攻科共通基礎科目として必要な数学のレベルを設定し、数学担当教員と専門科目教員との連携による学習支援体制の確立を目指す。

数学担当教員と打ち合わせを行い、専攻科共通科目としての数学では、数学の工業的利用及び確率統計の内容を実施することを確認した（専攻科教育委員会資料2. 1. [1] - 1）。学習支援体制については、今後検討を進めたい。

〔3〕 技術者として必要な創造力・問題解決能力の養成

- (1) 創造性教育科目、問題解決能力養成科目の評価・分析を各専攻の専門科目（講義科目）より各学年で半期1科目選定し、実施する。

各専攻で、課題解決能力、自学自習能力の養成のための科目を選んで、自学自習を進める授業への改善に取り組んだ（専攻科教育委員会資料2. 1. [3] - 1）。各授業科目の報告について解析を進め、授業改善につなげる予定である。

専攻科教育委員会資料2. 1. [3] - 1

第20回専攻科教育委員会議事録

1. 日時 平成19年3月15日（木） 16:10～19:00
2. 場所 第2会議室
3. 出席者： 早瀬(専攻科長)、豊田(専攻主任)、衣笠(専攻主任)、池内(材料)、川崎(数理)、尾崎(一般)
岡山学生課長、越智課長補佐(議事(1)のみ)、清水教務係長

4. 配布資料：

- 資料1 専攻科パンフレット、学校案内(案)
- 資料2 自学自習(授業時間外学習)促進に関する調査
- 資料3 自学自習時間記録シート
- 資料4 平成18年度専攻科運営目標実施報告(案)
- 資料5 平成18年度専攻科教育改善推進計画の実施報告(案)

5. 議事の概要：

(2) 自学自習推進科目の調査結果について

英語、数学及び各専攻で選択した授業科目で授業時間外の学習を推進する取り組み状況について、資料2を基に専攻科長より報告があった。授業時間外の学習を推進するために、演習課題、予習課題をだす等の方法で実施している場合が多い。また、少人数授業の特徴を活かして、予習課題等をプレゼンテーションさせて、全員で議論するという授業を展開している場合もある。この内容を、各学科、科等で検討し、授業改善につなげるように依頼があった。

(出典 第20回専攻科教育委員会議事録より抜粋)

- (2) シニア・インターンシップの目的を学生に周知するだけでなく、受け入れ企業、官公庁にも企業訪問等の機会を利用してよく理解していただき、シニア・インターンシップの充実を図る。

専攻科長、専攻主任により、夏期休業中にシニア・インターンシップ受け入れ企業等の訪問を実施し、シニア・インターンシップ及び専攻科のPRを実

施した。

2. 2 専攻科生の教育・研究環境の整備

〔1〕 専攻科学生室の自学自習、グループ学習、キャリア教育等での活用促進を図るため、更なる整備を進める。

専攻科学生室のインターネット環境の整備と使用ルールの作成を行った（専攻科教育委員会資料 2. 2. 〔1〕－1）。また、専攻科学生室に、大学院募集要項等の進路情報を置き、学生が自由に閲覧できるような環境を整備した。

専攻科教育委員会資料 2. 2. 〔1〕－1

専攻科学生室ネットワーク使用心得（平成 18 年 12 月 14 日現在）

1. 新居浜工業高等専門学校専攻科学生室（以下「専攻科学生室」という。）に備え付けのネットワーク設備及び LAN アクセスポイントの使用に関し必要な事項はこの心得の定めるところによるものとする。
2. この心得において、「専攻科学生室ネットワーク」とはネットワーク設備及び LAN アクセスポイントのことをいう。この専攻科学生室ネットワークを経由して、新居浜工業高等専門学校のネットワークやインターネットにアクセスすることが可能である。
3. 専攻科学生室ネットワークの使用は原則として専攻科生に限る
4. 専攻科学生室ネットワークの使用時間は、平日の 8:00 ～ 19:00 とする。
5. 専攻科学生室備え付けのパソコンによりネットワークの使用を希望する学生は、「使用許可願」（様式 1）に必要事項を記入し、教務係まで提出しなければならない。
6. 専攻科学生室にノートパソコン等を持ち込んでネットワークの使用を希望する学生は、「使用許可願」（様式 2）に必要事項を記入し、専攻主任によりコンピュータウィルスソフトの確認を受けた後、教務係まで提出しなければならない。また、ウィルスの定義ファイルは常に最新のものをを用いなければならない。
7. 「使用許可願」に記載したコンピュータおよびその周辺機器に変更があった場合は許可願を再度提出する。
8. 専攻科学生室ネットワークを使用する者は下記の各号を厳守しなければならない。
 - イ) 学校の定める「ネットワークセキュリティポリシー」を遵守する。
 - ロ) ネットワークの利用目的が教育研究活動に関連するものであること。
 - ハ) 金品の取引に関する行為を行わない。
 - ニ) 違法行為および公序良俗に反する行為を行わないこと。たとえば、違法なデータのダウンロード・交換、違法行為を推奨するようなページあるいは学校から接続するのにふさわしくないページへのアクセスを行わない。また、メールや掲示板などで他人を誹謗したり中傷したりする

行為を行わない。

ホ) 著しくネットワークに障害を及ぼす行為を行わないこと。たとえば、膨大なデータのダウンロード・交換や動画の送受信、チャットなどを行わない。

ヘ) 個人情報（氏名、住所、メールアドレス、電話番号、家族構成など）の取り扱いには慎重に行うこと。

ト) 備品を移動させたり持ち出したりしない。

9. 専攻科学生室ネットワークを利用して他人の権利を侵害してはならない。他人の権利を侵害することで発生したクレームおよび賠償の請求については、個人の責任と費用で解決する。
10. 専攻科教育委員会および情報教育センターの関連部門では専攻科学生室ネットワークが適正に利用されているかを確認するために日々のネットワークへのアクセスを監視している。
11. 専攻科学生室ネットワークにトラブルが生じた場合にはその状況を教務係に報告する。
12. 「ネットワークセキュリティポリシー」及びこの心得に違反した場合には、実情を調査の上、許可取消を含めた処分を行うことがある。
13. その他この心得に定めるもののほか、専攻科学生室ネットワーク関する事項は、専攻科長及び情報教育センターの指示に従うこと。指示に従わない者は使用許可を取り消す場合がある。

（出典 専攻科学生室ネットワーク使用心得）

- 〔2〕 英語自学自習システムの活用推進を図るため、英語授業担当教員、専攻主任、特別研究指導教員の連携体制を整備する。特に、専攻科生との接触時間の長い特別研究指導教員との連携を強化して、自学自習システムの活用を図り英語力の向上を目指す。

英語授業担当教員と英語能力向上について専攻科教育委員会で検討を行い、英語教員と専門科目教員が連携して英語自学自習システムの活用を図る体制を決定した（専攻科教育委員会資料2. 2. 〔2〕－1）。しかし、特別研究指導教員等との連携体制は十分には機能しておらず、更なる連携を推進する必要がある。

専攻科教育委員会資料2. 2. 〔2〕－1

専攻科英語担当教員と専攻主任との英語授業に関する打ち合わせメモ

1. 日時 平成18年3月10日（金） 14：00～15：30
2. 場所 教職員連絡コーナー南
3. 出席者：尾崎教員、鴻上教員

池内副専攻科長、豊田専攻主任、衣笠専攻主任、柳原専攻主任、早瀬（記録）

4. 打ち合わせ概要
- (1) 授業について

- ・ 来年度より、TOEIC 試験、校内英語実力試験等の結果を基に、習熟度別クラスの導入を検討する。ただし、「習熟度」の計り方については、TOEIC 点数を評価の目安にする等、検討する。
- ・ 授業では、文法、速読等の自学自習では学ぶのが難しい分野を重点的に実施する。
- ・ 外国人講師には、英会話力養成のための内容を授業の一部に組み込むことを依頼する。
- ・ 学生の英語力向上のために、授業時間外の学習を促す（せざるを得ないということを認識させる）。その方策として、英単語力等の小テストを導入し成績評価に導入する。また、TOEIC の結果を成績評価に導入する（ただし、点数と評価%の関係を明らかにしておく）。これら小テスト等の定期試験以外の成績評価の割合を増やし、学生の平常時の学習意欲の向上を図る。
- ・ 19 年度以降は、学生を授業へ集中させるため、ALC を使用しない場合には、普通教室で授業を実施する。

(2) 自学自習支援体制について

- ・ 特別研究指導教員と連携した学習指導体制を構築する。具体的には、ALC 学習システムの進捗状況を専攻主任が確認し、英語担当教員および特別研究指導教員に連絡する。その後、特別研究指導教員が担当学生の ALC での勉学の促進を指導する。
- ・ 専攻科生の希望者を対象にした英語の補習を 4 月より実施する。
- ・ TOEIC 模擬試験は今年度も継続して年 2 回実施する

(3) 外国人教員の申請について

- ・ 19 年度からも外国人教員による授業が実施できるように、これまでの TOEIC の点数の向上などの成果を基に、英語教員、教務委員会、専攻科教育委員会で協力して外国人教員の申請を進める。

(4) シラバス中の評価方法について

- ・ 「受講態度」などあいまいな表現は廃止し、小テスト、提出物、授業時の応答等の明確な表現とする。

以上

(出典 専攻科英語担当教員と専攻主任との英語授業に関する打ち合わせメモ)

〔3〕 愛媛大学との単位互換協定に基づく授業科目、e-learning講義科目、放送大学授業科目等の多様化した授業科目を、学生へ積極的に情報の提供を図りながら、効率的な運用を目指す。

本校の開講科目の充実により、放送大学の集団受講を中止したため、放送大学を受講した学生数は大幅に減少した（専攻科教育委員会資料 2. 2. [3] - 1）。愛媛大学との単位互換協定に基づく授業科目は、できるだけ多くの学生が受講できるよう出張講義方式での開講を検討中である（専攻科教育委員会資料 2. 2. [3] - 2）。e-learning講義科目については、学生に情報を提供したが、受講した学生は非常に少なかった。

他大学等での単位取得状況 (平成18年度)

科目名	単位取得者	備考
技術者倫理	1名	放送大学
環境社会学	1名	放送大学

(出典 新居浜工業高等専門学校学生課成績資料より編集)

第4回専攻科教育委員会議事録

1. 日時 平成18年6月1日(木) 16:10~18:00
2. 場所 教職員連絡コーナー南
3. 出席者: 早瀬(専攻科長)、豊田(専攻主任)、皆本(専攻主任)、衣笠(専攻主任)
田中(電子)、池内(材料)、川崎(数理)、三井(数理)、尾崎(一般)
岡山(学生課長)、清水(教務係長) 井上(教務係主任)
4. 配布資料:
資料1 シニア・インターンシップ事前学習
資料2 平成17年度第9回専攻科教育委員会議事録

5. 議事の概要:

(2) 愛媛大学との単位互換について

愛媛大学との連携推進会議において、授業科目を特別聴講学生に開放するだけでは、相互の学生が受講するのは現実的には困難であるため、1~2科目の科目を選定して集中講義方式で出前授業を実施することになった。愛媛大学からの開講科目として、地学、海洋、生態学、資源とエネルギー、アジア情勢等の授業内容を依頼することになった。具体的な対応として、愛媛大学の開講授業科目のシラバスを参考にして、具体的な授業科目を専攻科長、専攻主任で選択し、愛媛大学と打ち合わせる。また、本校からの開講科目は、愛媛大学からの要望を基に検討する。

(出典 第4回専攻科教育委員会議事録より抜粋)

- [4] 「起業工学」および「ベンチャービジネス概論」等の講義、工業技術懇談会への参加等をキャリア教育の一環として活用するとともに、シニア・インターンシップ及びその事前学習、大学院紹介等の進路決定のための学習機会の充実を図る。

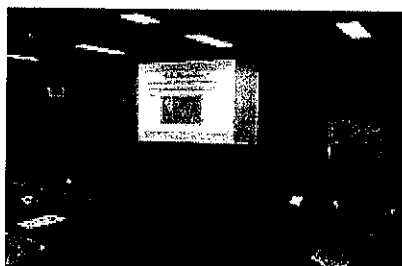
ベンチャービジネス概論では、地元企業等で活躍している技術者の講義を受け、工業技術懇談会には専攻科1年生が出席して愛テクフォーラム会員企業の技術者からの話を聞くなどして、地元企業への理解を深めた(専攻科教育委員会資料2.2.[4]-1、専攻科教育委員会資料2.2.[4]-2)。また、シニア・インターンシップの事前学習として、企業の技術者の講演会を実施した(専攻科教育委員会資料2.2.[4]-3)。大学院の紹介については、希望者を対象に7校実施した。

授業科目	担当教員	開講期

ベンチャービジネス概論		非常勤	後期	
科目番号		対象学年	必修・選択の別	単位数
61502		1 年 生産工学専攻	選択	1 単位
授業概要 常に技術革新を目指し、経営戦略を立てている企業家、学生や教官が産学官連携の下、新技術の開発および製品化への事例や高専 OB の起業家の身近で、チャレンジ精神の旺盛な方達のレクチャーを聞いて、ベンチャーマインドを養成する。また、修了後、起業を考えたとき、役に立つよう、特許や創業支援などの制度について理解する。				
到達目標 ・創業の社会的意義を知ること。 ・ビジネスプランの必要性を理解し、その基本的要素を知ること。 ・創業に対する金融支援の重要性を知ること。 ・開発型企業における特許の重要性を知ること。				
教科書		配布プリント		
参考書		無し		
授業の進め方 シラバス記載のさまざまな分野から外部講師を招き、講演を聞き、質疑応答の後、講演内容についての小テストを行う。				
授業内容 第 1 回 オリエンテーション ―ベンチャーとは何か― 「今なぜベンチャーか」「創業の社会的意義」 第 2 回 先輩创业者の体験発表 1: 「私の創業体験」「先輩创业者から後輩へのメッセージ」 第 3 回 創業に成功する条件とビジネスプラン作成の要点 「創業に成功する 3 つの条件」「ビジネスプラン作成の基本要素」 第 4 回 先輩创业者の体験発表 2: 第 5 回 産学連携事例と地元支援機関や金融機関のサポート体制: 「産学連携事例」「創業支援の融資体制」「創業支援施策の概要」 第 6 回 先輩创业者の体験発表 3: 第 7 回 開発型企業における特許: 「特許の必要性」「特許と起業・創業」 第 8 回 エチケット・ビジネスマナー				
成績評価の方法 記述式小テスト(レポート)の平均点				
学生へのメッセージ ベンチャーの意義を知り、先輩创业者の体験を参考にして、ベンチャーマインドを養ってほしい。				
学習・教育 目標 (生産工学)	A-2	学習・教育目標 (システムデザイン工学)	学習・教育目標 (生物応用化学)	

「第41回工業技術懇談会」を開催。

新居浜高専では平成3年度から工業技術懇談会を毎年開催し、講演等を通じて地域に最新の情報を提供すると共に、産学官との情報交流を実施して地域産業の発展を目指しております。平成17年7月には、新居浜工業高等専門学校技術振興協力会(愛テクフォーラム)が発足し活動中ですが、今回は、「愛テクフォーラム企業技術交流会」とも位置づけて、愛テクフォーラムの法人会員の技術・シーズを地域社会へ発信することによりさらに、持続性のある産学官連携を推進し、地域産業発展への寄与を目指すとともに、キャリア教育の一環としても、地域企業への理解を深めるため、本校の4年生、専攻科1年生が聴講しました。



テーマ	『産学官交流「愛テクフォーラムの技術を知り、活用しよう!」』
日時	平成18年12月21日(木) 14時30分 ~ 16時30分
場所	新居浜高専 視聴覚教室(学生ロビーでも聴講しました。)
聴講者	地域の企業・市民等、本校教職員、4年生、専攻科1年生 (約200名)
内容	(敬称略) 講演 福祉工学研究専門部会長 (株)西岡鉄工所会長 西岡 勝 バイオサイエンス研究専門部会長 日泉化学(株)技術開発本部マネージャ 神野勝志 エレクトロ計測制御研究専門部会長 トライポッド(株)代表取締役 黒田宣孝 ロボット研究専門部会長 ユースエンジニアリング(株)企画開発部サブリーダー 戸田敏彦 情報通信・電子技術研究専門部会 渦潮電機(株)開発本部開発部技術開発課 神野 肇

	エレクトロ計測制御研究専門部会 東芝 EI コントロールシステムズ(株)四国 事業所事業部長 谷口省三 －閉会后－ 企業交流及び技術相談(リエゾンルーム)
主催	新居浜工業高等専門学校、(財)東予産業創造センター、愛テクフォーラム
後援	新居浜市、西条市、四国中央市、えひめ産業振興財団、フロンティア企業クラブ

<高技センターの行事>

(出典 新居浜高専ホームページ)

専攻科教育委員会資料 2. 2. [4] - 3 第 4 回専攻科教育委員会議事録	
1. 日時	平成 18 年 6 月 1 日 (木) 16:10~18:00
2. 場所	教職員連絡コーナー南
3. 出席者:	早瀬(専攻科長)、豊田(専攻主任)、皆本(専攻主任)、衣笠(専攻主任) 田中(電子)、池内(材料)、川崎(数理)、三井(数理)、尾崎(一般) 岡山(学生課長)、清水(教務係長) 井上(教務係主任)
4. 配布資料:	資料 1 シニア・インターンシップ事前学習 資料 2 平成 17 年度第 9 回専攻科教育委員会議事録
5. 議事の概要:	(3) シニア・インターンシップ事前学習について シニア・インターンシップの事前学習として、ビジネスマナー講座及び「企業における仕事と人材」に関する講演を実施することにした。教務係において、予算の確認が済み次第依頼する。また、専攻主任から、インターンシップの申し込み用紙等を送ってほしいとの依頼があった。
(出典 第 4 回専攻科教育委員会議事録抜粋)	

[5] 専攻科生との交流会を開催し、専攻科生の要望等をくみ上げながら、専攻科生の教育・研究環境の整備を目指す。

専攻科生代表者との交流懇談会を実施し、専攻科学生室へのロッカーの設置、研究時間確保への対応等の専攻科生の教育・研究環境の改善に取り組んでいる(専攻科教育委員会資料 2. 2. [5] - 1)。

専攻科教育委員会資料 2. 2. [5] - 1 平成 18 年度専攻科生との交流懇談会議事録	
1. 日時	平成 19 年 2 月 8 日 (木) 16:10~18:20

2. 場所 教職員連絡コーナー南

3. 出席者：水野校長、早瀬(専攻科長)、豊田(専攻主任)、皆本(専攻主任)

阿部(2SM)、石本(2SE)、藤中(2SC)、小澤(1SM)、中常(1SE)、白石(1SC)

4. 配布資料：

資料1 平成17年度専攻科学生との交流懇談会後の活動報告

資料2 平成18年度専攻科学生との交流懇談会における専攻科学生からの提案及び要望

5. 議事概要

水野校長の挨拶の後、専攻科長より前回懇談会からの活動状況報告があり、その後学生からの提案に基づく懇談を実施した。

(1) 平成17年度専攻科学生との交流懇談会後の活動報告

(1)	提案・要望	新しくできる専攻科の部屋にネットのできるパソコンがほしい。
	対応	インターネットをできるパソコンを2台導入した。
(2)	提案・要望	美術室の鍵を開けてほしい。(ホームルームがないので、先生が来るまで待つため)
	対応	来年度より、専攻科学生室が使用できるので、その部屋を使用してほしい。
(3)	提案・要望	エレベータの使用を許可してほしい。
	対応	各学科でのルールに従ってほしい。実験等の機器の運搬での使用は認められているはずである。
(4)	提案・要望	専攻科生以外の自動車の駐車を禁止するか、駐車場を拡大してほしい。駐車場を増やすか本科生の自動車での通学を取り締まってほしい。
	対応	専攻科棟南に駐車場を整備するが、駐車可能台数の大幅な増加は難しい。本科生の車両の違法乗り入れは、学生委員会が中心に指導している。そのような学生がいる場合には教員に連絡してほしい。
(5)	提案・要望	専攻科生については、自動二輪(400ccまで)での通学を許可してほしい。自動車が許可されているのだから、自動二輪(400ccまで)も良いのではないかな。
	対応	自動車の乗り入れは、特別研究等で帰宅が遅くなるような場合にのみ特別に許可している。自動二輪は、通学の安全上の問題からも許可することは難しい。
(6)	提案・要望	学生の要望で図書館に本を入れてほしい。
	対応	現在も、図書館に申請すれば図書の購入は可能である。
(7)	提案・要望	忙しいので国領祭での専攻科展示をやめてほしい。
	対応	専攻科の地域へのPR、学生会活動への参加の一環として推進しているので、協力してほしい。来年度は、連絡を早くして準備期間に余裕を持たせるようにしたい。
(8)	提案・要望	特別研究指導教員の不在が多いと感じる。
	対応	授業、会議等で不在の場合もあると思うが、教員に連絡し研究指導の時間を設定する等して対応してほしい。
(9)	提案・要望	学位授与機構の試験の際の交通費を補助してほしい。
	対応	学位取得の受益者負担となるため、旅費の補助は困難である。
(10)	提案・要望	もう一度必須科目を見直してほしい。何故必須なのかわからない科目が多い。
	対応	必修科目は、修了生アンケート等も参考にしながら、各専攻で必要と思われる科目を設定している。学際的な科目も修了後に必要になるので、しっかり学んでほしい。また、カリキュラムの検討は毎年実施している。
(11)	提案・要望	専攻科生はプレゼンによる講義が多く、その準備のために多くの時間を要するため、就職活動等の時間がとれない等の支障が生じている。
	対応	昨年度は、専攻によっては、特別研究の中間発表等の実施の連絡が遅くなり、準備のための負担が多くなったようである。今年度は、特別研究の中間発表等の実施については準備の時間が十分にとれるように早く連絡するように改善した。また、グ

		ループ実習で授業時間外の準備の負荷が異なる場合があることわかったので、該当科目については来年度より実施方法を変更するように依頼している。

(2) 学生からの提案に基づく懇談概要

①施設関係

(1)	提案・要望	生物棟と電子棟の間に電灯を設置してほしい。(2SC)
	対応	施設係に相談し対処する。
(2)	提案・要望	教室の中に放送のスピーカーを設置してほしい。(2SC)
	対応	放送の聞こえにくい教室について施設係に確認を依頼する。
(3)	提案・要望	AED の数を増やしてほしい。(2SC)
	対応	AED の数を増やすより、まず専攻科生への AED の講習会の実施を検討する。
(4)	提案・要望	バイク置き場の屋根の部分を増やしてほしい。(2SE)
	対応	予算申請を実施している。
(5)	提案・要望	パソコン (演習室の) システム管理をきちんとしてほしい。(2SE)
	対応	情報教育センターに連絡して、対応を依頼する。
(6)	提案・要望	専攻科学生室のコンピュータを使いやすくしてほしい。(2SE)
	対応	設置している 2 台のコンピュータは、申請すればインターネットを利用可能である。個人のノートパソコン等からも、申請してウイルス対策等が確認できればインターネットの利用が可能である。
(7)	提案・要望	専攻科学生室に、ゴミ箱や自動販売機を設置してもらいたい。(2SM)
	対応	ゴミは持ち帰ること。自動販売機については、維持管理の問題で難しい。
(8)	提案・要望	運動場にトイレを設置して欲しい。(2SM)
	対応	近隣のトイレを利用する。維持管理がしっかりできるようになるまでは、設置しない。
(9)	提案・要望	原付を西門近くにも置けるようにしてほしい。(1SE)
	対応	事故防止のために、これまでのバイク置き場を利用する。
(10)	提案・要望	個別のロッカーを設置してほしい。(1SE)
	対応	全員分の設置は難しいが、専攻科学生室への 20 個程度のロッカーの設置を検討する。

②授業関係

(1)	提案・要望	ビジネスマナーの授業をしてほしい。(2SC)
	対応	ビジネスマナーに関する書籍、ビデオ等の配架を検討する。
(2)	提案・要望	無駄な教室の移動をできるだけ少なくしてほしい。(1SE)
	対応	教室が空いていれば、移動の必要がないように教室の変更は可能なので、担当教員に相談すること。
(3)	提案・要望	1, 2 年の授業科目数のバランスを考えてほしい。(1SE)
	対応	基礎科目、応用科目等の問題もあるが、今後科目の配置を検討する。
(4)	提案・要望	研究に費やす時間を増やしてほしい。(1SE)
	対応	問題解決グループ演習の学習で放課後にも多くの時間を費やしていることを認識しているので、内容を検討する。
(5)	提案・要望	英語の授業を TOEIC 重点にしてほしい。(1SE)
	対応	授業では TOEIC の自学自習に必要な基礎的な文法を学習している。TOEIC 対応は授業だけでなく自学自習で対応すること。TOEIC 各問題の場面設定が理解できるように、海外でのビジネス、留学等いろいろなケースに関する解説を、授業に組み

		入れることを検討する。
(6)	提案・要望	体育の授業を入れてほしい。(1SE)
	対応	リフレッシュは授業でなく、工夫して実施すること。
(7)	提案・要望	インターンシップ先を増やしてほしい。(1SE)
	対応	インターンシップ先開拓を進める。具体的なインターンシップ先の提案を期待する。
(8)	提案・要望	テスト返却期間は必要ないのでは。(1SE)
	対応	達成度の評価、試験の解説、授業のまとめ等に必要である。

③学生生活関係

(1)	提案・要望	クラスマッチで専攻科1年と2年に分けてほしい。(2SE)
	対応	現在もチームを分けて出場することは可能である。
(2)	提案・要望	車両乗り入れ、バイク置き場等のルールの徹底。(2SE)
	対応	学生委員会に依頼する。
(3)	提案・要望	学外行事（専攻科交流会、学会など）へ参加する際の経費を考えてもらいたい(2SM)
	対応	旅費、宿泊費の一部を補助している。
(4)	提案・要望	専攻科生への連絡を徹底してほしい。(2SM)
	対応	連絡を徹底する。専攻科学生室の掲示板を見ること。
(5)	提案・要望	就職活動の時期に行事が重ならないようにしてほしい。(1SE)
	提案・要望	学外行事の日程変更は難しいので、予定をたてて準備に入ること。

(出典 平成18年度専攻科生との交流懇談会議事録)

- [6] 特別研究における安全指導の徹底を、各学科及び特別研究指導教員等と連携して実施する。

特別研究における安全指導の徹底を、教員会等で連絡を行った。

2. 3 専攻科の教育の質の向上

- [1] 知識を与えられるだけの受身の授業から、学生が自学自習等により主体的に学習できる授業への変換を進めるための方策の検討を進める。

授業時間外の学習を推進するために、英語、数学及び各専攻で選択した授業科目において授業改善に取り組み、その実施内容について報告を受けた(専攻科教育委員会資料2. 1. [3] - 1)。この実施内容について、専攻科教育委員会で解析を進め、授業時間外の学習推進方法について検討を進める予定である。

- [2] 各JABEE教育プログラムの教育改善システムを活用しながら3専攻のカリキュラム点検、分析、検討を行い、特に専攻科共通科目については、教育内容、レベル等の検討を行い、科目担当者等と調整を行い、教育改善を進める。

3専攻のカリキュラム点検の実施、分析、検討を実施し、共通科目の科目名変更及び電子工学専攻のカリキュラム変更を行った(専攻科教育委員会資料2. 3. [2] - 1、専攻科教育委員会資料2. 3. [2] - 2)。英語、数学の専攻科共通科目については、専攻科教育委員会で来年度の授業内容に

ついて審議し、実施内容を決定した（専攻科教育委員会資料 2. 1. [1] - 1）。

平成18年9月12日運営会議資料No. 3

平成19年度専攻科カリキュラム変更について

1. 変更の事由

(1) 生産工学専攻・生物応用化学専攻・電子工学専攻共通の変更

- ① 「特別講義1」（1単位）の廃止
「特別講義1」では、技術開発や教養等に関するトピックスを実施してきたが、遠隔授業の充実、他大学との単位互換による授業科目の受講が可能になったこと等により、より学生のニーズにあった教育が可能となったことより本授業科目を廃止する。
- ② 「特別講義2」（1単位）を「品質・安全管理」に科目名変更
「特別講義2」では、品質管理及び安全管理に関する内容を実施しているが、その講義内容に相応しい「品質・安全管理」に授業科目名を変更する。

(2) 電子工学専攻のカリキュラムの変更

- ① 「メカトロニクス特論」（2単位）を新設
基礎工学科目（力学系）を充実するために、メカトロニクスを体系的に学ぶ科目を新設する。
- ② 「電子情報システム設計」（2単位）を新設
基礎工学科目（設計・システム系）を充実するために、電子工学や情報工学に関するシステム設計法を学ぶ科目を新設する。
- ③ 「電子物性論」（2単位）を基礎工学科目（力学系）から基礎工学科目（材料系）に移設
「電子物性論」は、内容的に本科目は基礎工学科目（材料系）の方がふさわしいので移設する。
- ④ 「計算機制御特論」（2単位）を選択必修（設計・システム系の科目）からはずす
「計算機制御特論」は、内容的に制御工学の応用的科目であり、基礎工学科目（設計・システム系）に分類するよりも専門科目の分類にするのがふさわしいので移設する。
- ⑤ 「物理化学特論1」（2単位）・「物理化学特論2」（2単位）の科目を廃止する。
設立当初からある科目であるが、「環境化学概論」など他の化学系科目の充実が図られてきたので、この2科目を廃止する。

平成18年9月26日運営会議資料 No. 1

平成18年度第9回運営会議議事概要(案)

日 時: 平成18年9月12日(火) 17時55分～19時15分

場 所: 第2会議室

出席者: 校長、事務部長、教務主事、学生主事、寮務主事、専攻科長、高度技術教育研究センター長、各学科・科主任(刑部、佐藤、榎原、河村、高橋、竹田、野口)、総務課長、学生課長

◎議事概要の確認

平成18年度第8回運営会議議事概要(案)について、一部修正のうえ了承された。

◎協議事項

1 平成19年度本科学士募集要項について

教務主事から資料2に基づき、主な変更点と出願書類の修正事項の説明があり、これらについて審議した結果、一部修正のうえ、了承された。

2 平成19年度専攻科カリキュラム変更について

専攻科長から資料3に基づき、説明があり、審議の結果、平成19年度の専攻科カリキュラムの変更が了承され、大学評価・学位授与機構に学則の一部改正として申請することとした。

◎報告事項

1 高等専門学校機関別認証評価等の受審について

事務部長から資料4に基づき、平成19年度に本校が機関別認証評価を受けるために所定の手続を取った旨の報告と今後のスケジュールの説明があった。

また、点検評価専門部会長からも重ねて協力依頼の要請があった。

なお、校長からは昨年度の点検評価作業がかなり遅れているとの報告を受けているので、その原因と問題点を検討し、今後に活かすように指示があった。

2 夏季休業中の学習支援について

教務主事から資料5に基づき、説明があり、夏季休業中の学習支援体制を整えてきたが、学科・科間の格差がみられる。生物応用化学科及び材料工学科については、次回は検討して欲しい旨の依頼があった。

3 学校運営の安全管理等について

事務部長から資料6に基づき、本校としても今回の事件を教訓に学校の安全管理及び学生の心身の健康に配慮した運営がなされるよう、一層努力する必要がある旨の報告があった。また、学生課長から先般の徳山高専で発生した事件に対して機構からの要請に基づくカウンセラー派遣を行った旨の報告があった。

4 平成18年度共同研究推進費の採択について

総務課長から資料7に基づき、各事項の要求書により校長が査定し、要求どおり予算配分するとの報告があった。

また、校長からは現代GP関係の共同研究の申請が無いのは残念である、各学科・科においても積極的に特色ある取組を育んで欲しい旨の依頼があった。

- ☐ 自分のやりたい勉強ができる
- ☐ 本科から連続の授業なのでとっつきやすい
- ☐ 大学ではできない勉強ができる
- ☐ 少人数でわかりやすい
- ☐ その他（具体的に書いてください）

3. 1で2または1と答えた人に聞きます。その理由は何ですか。（複数回答可）

- ☐ 内容が思っていたのと違う（具体的に書いてください）

- ☐ 授業について行けない
- ☐ 大学に編入学した方がよかったと思う
その理由

- ☐ 高専卒業で就職した方がよかったと思う
その理由

- ☐ その他（具体的に書いてください）

【2】勉学状況について

1. 授業の理解度はどうですか。4段階で評価してください。

- よく理解できている ☐ 4 ☐ 3 ☐ 2 ☐ 1 理解できていない

2. 1で理解度を2または1と評価した人は、どうすればよいと思いますか。（複数回答可）

- ☐ 真剣に授業を聞く
- ☐ 予習・復習など自主学習をしっかりとやる
- ☐ 生活状況（アルバイトなど）を改める
- ☐ このままでよい
- ☐ その他（具体的に書いてください）

3. 授業の時間数についてどう思いますか。

- ☐ 多い ☐ 適当 ☐ 少ない

4. 宿題、レポートの分量はどう思いますか。

- ☐ 多い ☐ 適当 ☐ 少ない

5. 授業時間以外の学習時間（宿題やレポート、予習・復習、資格取得やTOEICの勉強などの合計）

は1日平均どの程度ですか。

- ☐ 2時間以上 ☐ 1時間程度 ☐ 30分程度 ☐ ほとんど
しない

6. そのうち、宿題やレポート以外の自主的な学習時間は1日平均どの程度ですか。

- ☐ 2時間以上 ☐ 1時間程度 ☐ 30分程度 ☐ ほとんど
しない

2. 1で2または1と答えた人に聞きます。その理由は何ですか。(複数回答可)

- ☐ 希望の大学院への進学が難しい ☐ 希望の企業への就職が難しい
☐ 進路指導が不適切
☐ その他(具体的に書いてください)

3. 専攻科修了後の進路について考えていますか。

- ☐ 就職 ☐ 大学院進学
☐ 考えているが、まだ迷っている ☐ まだ考えていない
☐ その他(具体的に書いてください)

4. 専攻科修了生の過去の進学・就職先を知っていますか。

- ☐ よく知っている ☐ 少しは知っている ☐ あまり知らない

5. 進路を考えるための情報について聞きます。(複数回答可)

- ☐ 情報を積極的に仕入れている
☐ 情報を与えてもらえるのを待っている
☐ 役に立つ情報を十分に手に入れることができる
☐ どうやって情報を仕入れてよいかわからない
☐ 情報はあるが、どのように考えてよいかわからない
☐ その他(具体的に書いてください)

【5】特別研究について

1. 自分の特別研究に関してどう思いますか。4段階で評価してください。

- よいと思う ☐ 4 ☐ 3 ☐ 2 ☐ 1 よいと思わない

2. 1で2または1と答えた人に聞きます。その理由は何ですか。(複数回答可)

- ☐ 研究テーマが面白くない
☐ 内容が難しすぎて理解できない
☐ 教員に言われたことを作業しているだけで、面白くない
☐ 研究よりも、他の色々な勉強をしたい
☐ その他(具体的に書いてください)

3. 特別研究の時間についてどう思いますか。

- ☐ 多い ☐ 適当 ☐ 少ない

【6】学生生活について

1. 学生生活面において専攻科に入学してよかったと思いますか。4段階で評価してください。

- よかったと思う ☐ 4 ☐ 3 ☐ 2 ☐ 1 よかったと思わない

2. 専攻科での学生生活をどのように感じていますか。(複数回答可)

- ☐ 本科のときと変わりはない
- ☐ 全く新しい気持ちに切り替わった
- ☐ 充実した毎日を送っている
- ☐ 勉学に時間を取られ過ぎる、もっと余裕が欲しい
- ☐ 面白くない日々を送っている

その理由

- ☐ その他 (具体的に書いてください)

3. 専攻科の学生活動についてどう思いますか。(複数回答可)

- ☐ 本科の学生会と一緒に活動(クラスマッチなど)に参加したい
- ☐ 国領祭に専攻科として参加したい
- ☐ 専攻科生の独自の行事(スポーツ大会など)をしたい
- ☐ 特に参加する気はない
- ☐ その他 (具体的に書いてください)

4. 専攻科学生室についてどう思いますか。

- ☐ 使いやすい

その理由

- ☐ 使いにくい

その理由

- ☐ どちらともいえない

- ☐ 有効活用するために整備してほしい備品・資料等があれば書いてください

- ☐ その他 (具体的に書いてください)

【7】後輩に、専攻科への入学を勧めますか。

- ☐ 入学を勧めたい

その理由

- ☐ 勧めたくない

その理由

- ☐ 何とも言えない

- ☐ その他 (具体的に書いてください)

【8】専攻科のよいところは何ですか。

以上にかかわらず、専攻科について意見、感想などがあれば、何でも自由に書いてください。

(出典 平成18年度専攻科勉学アンケート)

専攻科教育委員会資料2. 3. [5] - 2

第16回専攻科教育委員会議事録

1. 日時 平成19年1月18日(木) 16:10~18:40
2. 場所 第3会議室
3. 出席者: 早瀬(専攻科長)、豊田(専攻主任)、皆本(専攻主任)、衣笠(専攻主任)
田中(電子)、池内(材料)、川崎(数理)、尾崎(一般)
平松(教務係)

4. 配布資料:

- 資料1 平成15年度~平成17年度授業アンケートからの科目別集計結果
- 資料2 専攻科課程の具体的教育目標
- 資料3 専攻科履修要覧(授業科目、単位等)変更案
- 資料4 専攻科授業科目の学修単位への対応について
- 資料5 平成19年度中国・四国地区高等専門学校専攻科生研究交流会開催要項

5. 議事の概要:

(2) 授業アンケートに基づく改善について

衣笠専攻主任より、過去の授業アンケートを更に解析した結果を基に、(1)説明がわかり易いか、(2)授業内容は理解できたか、(3)手段や方法に工夫が感じられるか、(4)テキストやプリントは適切か、の平均で評価したほうが適切な評価が行えるのではないかと提案があった。審議の結果、提案通りの評価を実施して、授業改善にアンケートを活用することになった。

(出典 第16回専攻科教育委員会議事録より抜粋)

[6] 専攻科シニア・インターンシップ(学外実習)の奨励・充実

- (1) 専攻科シニア・インターンシップの効果、カリキュラムの中の位置づけ等を再検討し、実施日数、時期などについて見直しを進める。

シニア・インターンシップの実施方法、評価方法等を専攻科教育委員会で審議し、昨年度と同じ方法で実施することとした(専攻科教育委員会資料2. 3. [6] - 1)。

- (2) シニア・インターンシップの意義を企業、官公庁等の受け入れ機関に理解して頂くと共に専攻科の存在をPRするため、夏休みに実施している企業訪問の活用方法を検討し、実施する。

シニア・インターンシップを実施し、専攻科生が全員参加した(専攻科教育委員会参考資料:平成18年度専攻科学外実習実施報告書)。また、実習期間中の企業訪問等でシニア・インターンシップのPRを実施した。

専攻科教育委員会資料2. 3. [6] - 1

第6回専攻科教育委員会議事録

1. 日時 平成18年6月29日(木) 16:10~18:30
2. 場所 第2会議室
3. 出席者: 早瀬(専攻科長)、豊田(専攻主任)、皆本(専攻主任)、衣笠(専攻主任)
田中(電子)、松原(材料代理)、川崎(数理)、尾崎(一般)
井上(教務係主任)
4. 配布資料:
資料1 専攻科合否判定基準(案)
資料2 専攻科入試業務点検表(案)
資料3 学修単位導入について
資料4 第7回科学技術特別シンポジウム
5. 議事の概要:
(4) シニア・インターンシップについて
シニア・インターンシップの成績評価方法について審議し、昨年度決定した評価項目、評価方法に基づき評価を行うことになった。シニア・インターンシップの事前学習として、7/7 にビジネスマナー講座、7/11 に講演会を実施する。
(出典 第6回専攻科教育委員会議事録)

[7] 各JABEE教育プログラムの継続的な教育改善を推進するために、教務委員会、JABEE推進室、各JABEEプログラムの教育改善組織との連携協力体制を推進する。

JABEE推進室と連携し、JABEE審査後の教育改善状況等について検討し、教育改善に取り組んだ。教務委員会との連携は十分でなく、連携体制を強化していく必要がある(専攻科教育委員会資料2. 3. [7] - 1)

J A B E E 推進室会議
平成 18.10.19
資料番号 1

平成 18 年度第 1 回 J A B E E 推進室会議議事概要 (案)

日 時：平成 18 年 4 月 19 日 (水) 16 時 10 分 ～ 18 時 00 分
場 所：教職員連絡コーナー南
出席者：校長、副校長、事務部長、専攻科長、専攻主任 (3)、川崎、谷本
陪席者 (総務課長補佐、総務企画係長)

議 事

◎ 議事概要の確認

平成 17 年度第 5 回 J A B E E 推進室会議議事概要 (案) について、原案どおり確認された。続いて校長から、資料 5 に基づき、専攻科の共通課題の検討や継続的改善を図るために設置された J A B E E 推進室の設置目的、任務、位置付け等について、説明があった。

◎ 議題

- 1 各プログラムの受審後の対応状況について
 - 2 平成 18 年度の活動計画について
- 各専攻主任から、資料 2、4 に基づき、各プログラムの受審後の対応状況について委員会活動を中心に説明があり、また、関連して平成 18 年度の活動計画について各々説明があった。
- 活動計画に関しては、次のような質問、提案等があった。各専攻主任は、これらも参考にして、平成 18 年度教育改善推進計画について見直し、修正等を行い、4 月 20 日 17 時までに、総務課へ提出することとなった。
- ・各プログラムは、優れた取組を参考にしながら互いに調整を図りつつ改善を進めるとよい。
 - ・教育改善委員会の下にある 3 委員会の活動範囲は、各プログラムとも一致しているように調整に努力してほしい。
 - ・J A B E E に直接関係する事項に限らず、プログラムに関連する学科及び専攻が取り組もうとしていることも反映させてよい。
 - ・専攻科学生室に学習目標を掲示するなどの工夫も大切である。
 - ・学修単位の導入と関連して、学習保障時間等の観点からの検討も必要である。
 - ・本科と専攻科の関連の見直しも行わなければならない。
 - ・学習目標や科目ごとの到達目標を実現するためにはシラバス等の検討と併せて、ハード、ソフト両面にわたる学習支援の在り方を検討することが必要である。
 - ・自学自習を支援する教材開発にも取り組んでほしい。

配付資料

- 1 平成 17 年度第 5 回 J A B E E 推進室会議議事概要 (案)
- 2 教育改善実施状況報告 (各プログラム)
- 3 J A B E E 推進室平成 18 年度運営目標・方針
- 4 平成 18 年度活動計画 (各プログラム)
- 5 J A B E E 推進室設置要項

以 上

〔8〕 機関別認証評価受審に向け、昨年度の自己評価書に記載した問題点の改善に努める。

点検評価専門部会と連携し、アドミッションポリシーの改善、入学者選抜実施方法の改善を実施した（専攻科教育委員会資料2. 3. 〔8〕－1、専攻科教育委員会資料2. 3. 〔8〕－2）。

専攻科教育委員会資料2. 3. 〔8〕－1

平成19年3月13日運営会議資料No. 2

新居浜工業高等専門学校専攻科の入学者の受入方針（アドミッションポリシー）（案）

■求める学生像

新居浜高専専攻科は、高等専門学校5年間の実践的教育の基礎の上に精深で、かつ、学際的な学識を授け、専門分野における高度な技術能力を養成することを目指しており、次のような学生を求めています。

- ・専門性、社会性、国際性に秀でた実践的、創造的な技術者を目指す人
- ・専門とする技術分野の基礎学力を持っている人
- ・特定の専門分野だけでなく、幅広く工学全般に興味を持っている人
- ・自ら進んで勉学に取り組み、向上し続けようとする意欲を持っている人
- ・広く社会に貢献する熱意を持っている人

■入学者選抜の基本方針

新居浜高専専攻科は、「求める学生像」に一致した学生であることを確認するような入学者選抜を実施しています。基礎学力を確認するために、推薦選抜及び社会人特別選抜では面接試験における簡単な筆記試験、学力選抜では英語と専門の学力試験を課しています。また、専攻科への適性と意欲を見るために、いずれの選抜においても面接試験を課しています。

改正の理由：

高等専門学校機関別認証評価の評価事項（「教育の目的に沿って、求める学生像や入学者選抜の基本方針などが記載された入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）が明確に定められ、学校の教職員に周知されているか。また、将来の学生を含め社会に公表されているか。」）に対応したアドミッション・ポリシーに変更するため、入学者選抜の基本方針を追記する。

（出典 平成18年度第21回運営会議資料より抜粋）

平成19年3月2日運営会議資料 No. 1

平成18年度第21回運営会議議事概要（案）

日 時： 平成19年3月13日（火） 16時10分～19時35分

場 所： 第2会議室

出席者： 校長、事務部長、教務主事、学生主事、寮務主事、専攻科長、高度技術教育研究センター長、各学科・科主任（刑部、佐藤、榊原、河村、高橋、竹田、野口）、総務課長、越智学生課長補佐（学生課長代理）

オブザーバー： 谷本学生主事補

◎議事概要の確認

平成18年度第20回運営会議議事概要（案）について、一部修正のうえ、確認された。

◎協議事項

- 1 専攻科の入学者の受入方針（アドミッションポリシー）について
専攻科長から、資料2により受入方針（アドミッションポリシー）の説明があり審議の結果原案どおり了承された。
- 2 平成20年度専攻科学生募集要項について
専攻科長から、資料3に基づき、主な変更点について説明があり、審議の結果、原案どおり了承された。
- 3 平成19年度専攻科履修要覧について
専攻科長から、資料4に基づき、主な変更点の説明と、様式については本科に合わせたとの報告があり、審議の結果、授業科目担当者を一部修正の上、原案どおり了承された。
- 4 平成19年度本科履修要覧について
教務主事から、資料5に基づき、主な変更点と、学生の立場で見やすくするための配慮で大幅に文章の構成を修正した旨の報告があり、審議の結果、「英検等の技能審査」項目の留学生の日本語以外の語学に関する技能審査認定に関しては個別に審査をして認定することとして、原案どおり了承された。

◎報告事項

- 1 平成18年度第3回四国地区高等専門学校校長・事務部長会議の報告について
校長から2月28日高松高専で開催された、標記会議の議事概要の報告があった。
- 2 学修単位の導入について
教務主事から、資料6に基づき、説明があり、平成18年度の試行科目の実施結果を参考として検討し、学修単位導入科目の提示と評価方法・保管方法等の説明があった。
また、校長からは、学修単位導入が学生にとって実のある内容となり、所期の教育成果があがるよう努力をして欲しい旨の依頼があった。
- 3 平成19年度年間行事予定について
教務主事から、平成19年度年間行事予定の説明があり、一部訂正をして確定した。
- 4 平成19年度クラブ顧問について
学生主事から、平成19年度のクラブ指導教員の報告があった。また、校長から指導教員にはクラブの活動状況を十分把握して欲しい。また、学生支援委員会でも、

総括的な評価と課題

専攻科生の英語力向上については、英語自学自習システムの利用促進について英語教員、専攻主任を中心に取組んだが、学生間の個人差が大きく、さらに組織的な推進方策についての検討が必要であると考えられる。授業時間外の学習を促進する授業方法への改善のために、幾つかの授業科目を選択して、授業時間外の学習を促進する授業を試行的に実施した。今後専攻科教育委員会で解析を進め、授業時間外の学習を推進する授業改善について検討を進める予定である。

専攻科生の教育・研究の整備については、専攻科生の共用スペースとなる専攻科学生室のインターネット環境の整備と使用ルールの作成を行った。また、大学院募集要項等の進路情報を置き、学生が自由に閲覧できるような環境を整備した。今後、自学自習、キャリア教育の場等として活用しながら、学生の意見などを取り入れ、より使用しやすいように改善を進めたい。

専攻科の教育の質の向上については、専攻科全体に関係する共通科目等については、専攻科教育委員会で審議し、各専攻に関する科目については、各JABEEプログラムの教育改善システムを中心に教育改善を実施し、その内容を受けて専攻科教育委員会で審議を行った。カリキュラムの改正、アンケートの解析等は例年通り実施した。授業時間外学習を推進する授業への改善について今後検討する予定である。

◎生産工学プログラム実施報告

2007 年 03 月 31 日

生産工学専攻主任 豊田 幸裕

1. 教育改善に向けた取組み体制(◎は委員長)

教育改善 PDCA システムを具現化するための 4 委員会の委員長、構成委員および各委員会の役割分担は以下のとおりである(資料 1-1)。

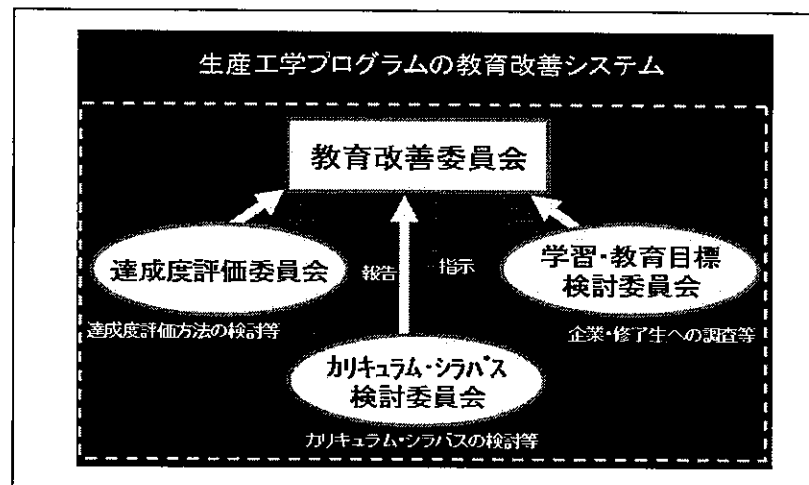
学習・教育目標検討委員会：相根委員長、谷、日野、北住、石井、宮田

カリキュラム・シラバス検討委員会：下村委員長、教務委員(松英)、教務委員(吉川)、松原、鎌田)

達成度評価委員会：志賀委員長、新田、朝日、松田、谷脇

教育改善委員会：豊田委員長、機械工学科主任(刑部)、材料工学科主任(高橋)、谷口委員長代行、相根委員長、曾我部、池内、志賀委員長、下村委員長、吉川

資料 1-1



(出典：生産工学プログラム教育改善委員会(平成18年4月5日)配付資料から抜粋)

2. 平成18年度活動実績

2.1 教育改善委員会

[1] 各委員会への作業指示・進捗管理

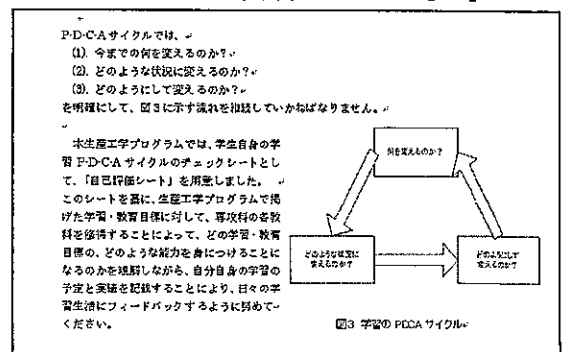
学習教育委員会、カリキュラム・シラバス委員会、達成度評価委員会について、継続的に作業を指示し、進捗を指導した。

[2] 「学生自身による自己評価」結果の教員へのフィードバック法の検討・実施

教育改善の流れと同様に、学生自身に PDCA サイクルで自己評価を実施させている。

資料 2-1-[2]-1

各科目を修得することにより、どの学習・教育目標の、どのような能力を身につけることができるのかを理解しながら、の学習の予定と、実績のずれを小さくするためのガイドラインを、履修の手引きに示した(資料 2-1-[2]-1)。



(出典：平成18年度生産工学プログラム「履修の手引き」36頁)

「学生自身による自己点検シート」から明らかになった
問題点は以下の事例にあるように、履修科目の成績が良いにも関わらず、到達目標から見ると、学生自身が自信のない項目があると
いうことであった(資料 2-1-[2]-2)。

資料 2-1-[2]-2

自己評価シート			
18 年度		各学年における自己評価	
学生番号：	氏名：	R.F	指導教員：
			Y. T
この学年で、どのような能力(学習・教育目標)を修得するのか、について目標を記入して下さい。			
専攻科 1 年次	「修得目標」 B : 材料力学の復習をする。 機械設計技術者3級を取得する。 C : デザイン力の(涵蓋)科目の成績は、優をとる。 E-2 : TOEICでは400点以上を取れるようにする。		
専攻科 年次	「実績」 C : 機械設計技術者3級の資格を取得した。その際に、「材料力学」の復習ができた。 E-2 : 12月に受験したTOEIC IPテストでは、255点に下がった。		
指導教員	「指導内容」 B : 筆記試験の成績は良いが、到達目標「...できる」の自己評価では×の項目が多いことから、 このことを反省材料と考えている。到達目標のチェックで、全体を俯瞰している点を高く評価する。 E-2 : 英語に関してはTOEICという外部のものさしで、実力を高めたいと意識して学習を進めている点および、数値目標を掲げている点を高く評価する。		

(出典：平成 18 年度運営諮問会議資料から抜粋)

[3] 機関別認証評価に用いるエビデンス等の統一的整理法等の提案と他既設委員会の調整

成績保管については、点検部会(認証評価に備えて全校的に点検)との連携を図り、統一的整理法(下記の平成 18 年 6 月 29 日付けメール連絡にて全教員への周知を図る)にて進めている。

成績保管については、点検部会との連携を図り、統一的整理法にて進めるべく、全教員に周知された方法で対応した(資料 2-1-[3]-1)。

資料 2-1-[3]-1

平成 18 年 6 月 29 日..
認証評価に関わる答案の整理について..
・ 科目ごとに、全学生の 50 点台、60 点台の答案を抜き出してコピーし、ファイルにまとめる。該当学生がいなければ合格最低点の学生 1 名の答案を用意する。.. ・ 全学生の成績評価の具体的内容がわかる一覧表をつけ、50 点台、60 点台に該当する学生がわかるようにチェック欄に「該当」と記入する。50 点台、60 点台の学生がいなくて、合格最低点の学生の答案をファイルしている場合は、その学生のチェック欄に「最低点」と記入する。一覧表は別紙の通り。.. ・ 定期試験のみ、問題用紙と模範解答をつける。小論文のような形式の問題の場合は、模範解答の代わりに評価の観点やキーワードを記したものを付ける。.. ・ 集めるのは成績評価に関係する定期試験答案、小テスト、提出物、実験レポートなど、すべてとする。.. ・ ファイルにはインデックスに「科目名」「科目番号」を記し、シラバス、成績一覧表、問題用紙と模範解答、成績評価書類(答案など)のコピーを綴じる。ただし、実験レポートと製図は、コピーしてファイリングすることが難しいので、両者とも 50 点台、60 点台を抜き出すことはしないで、学生別にまとめて成績保管用の箱に入れておく。.. ・ 答案の整理は、平成 16 年度分から行う。..
以上..

(出典：点検専門部会からの全教員への連絡)

[4] 材料工学科の学科名称変更に伴う、変更カリキュラム・シラバスの評価

材料工学科の学習教育委員会、カリキュラム・シラバス委員会、達成度評価委員会各委員に主体的に取り組んでもらい、教育改善委員会へ結果を報告してもらう予定であるが、まだ実施されていない。

[5] シラバス管理体制の明確化と施策提言

平成19年度に、学校全体でのシラバス登録・管理システムの運用・管理法について、再度提案する予定であったが、実現には至らなかった。

[6] 「学習・教育目標」を達成しているかどうかを評価する「総合的評価法」の検討

「学生の満足度」を知ることを総合的評価方法と位置づけ、学生自身の自己点検シートを活用することとした（資料2-1-[6]-1）。

資料2-1-[6]-1

自己評価シート			
18 年度		期 各学年における自己評価	
学生番号：	氏名：	指導教員：	
この学年で、どのような能力(学習・教育目標)を修得するのか、について目標を記入して下さい。			
専攻科 1 年次	「修得目標」 B 振動工学や熱力学の復習をする C デザイン能力養成の科目は優を取る。 E-2 TOEIC400点以上取れるようにする。		
専攻科 年次	「実績」		
指導教員	「指導内容」 B:筆記試験の成績は良いが、到達目標の自己評価では×の項目が多いことから、このことを反省材料と考えている。授業担当教員より、自主学習に適切な教材等の紹介を受けること。		

(出典：平成18年度運営諮問会議資料から抜粋)

[7] 学習単位制の導入に伴う学習保証時間数の変更について、教務委員会および専攻科教育委員会と連携し検討

本科4, 5年生の開講科目での専門科目 B から、

4年 合計6単位 : 材料力学2(2単位), 熱力学2(2単位), 水力学2(2単位)

5年 合計6単位 : 材料力学3(2単位), 機械制御(2単位)、機械力学(1単位)、
流体機械(1単位)

の合計12単位分を学習単位制導入科目とし、平成19年度4月から実施することにした(平成19年3月1日第5回学修単位WG会議にて決定)

2.2 学習・教育目標検討委員会

[1] 生産工学プログラム対象学生への「学習・教育目標記載カード」配布ならびに「平成18年度生産工学プログラム履修の手引き」による説明および理解度のチェック・対応策の検討・実施

機械工学科および材料工学科4年生以上および生産工学専攻1年生以上の学生に対して、担任及び専攻主任が履修の手引きおよびカードの配布と説明を行い、学習教育委員会が、彼らの理解度を確認するアンケートを実施・分析した。

[2] 学習・教育と社会の要求との整合性に関する調査・分析のため、企業や修了生へのヒアリングを引き続き実施・対応策の検討

- 新来島ドックへのヒアリングを実施した(平成 18 年 7 月 10 日鎌田、豊田教員)。
「構造・材料」科目群のカリキュラムとシラバス内容について
- H16年度専攻科修了生(企業経験2年目)へのヒアリングを実施した(平成 18 年 9 月 23 日豊田教員):7年間学んだ専門科目(講義、実験・実習)、英語等の身についた力について
- 学習・教育目標検討委員会が企業説明(平成 19 年 2 月 6 日)でのアンケート(①学習・教育目標について、②環境材料工学科の取組みについて)を実施・分析した。

[3] 自学・自習について、自学自習教材や学習環境(含福利厚生設備等)に関するアンケートを、プログラム1年生～4年生にかけて実施

学習・教育目標検討委員会が、プログラム1年生から4年生までの学生に対して(4M: 26 名、4Z: 36 名、5M: 38 名、5Z: 23 名、1SM: 10 名、2SM: 9 名)、上記についてアンケートを実施・分析した(平成 19 年 2 月)。

自学自習に関しては、4年生から5年生になるにつれて、1日あたりの自学・自習を「ほとんどしない」学生が目立っており、就職が決まったとたんに勉学意欲をなくす学生が多いようである。専攻科2年生にも、1日あたりの自学・自習を「ほとんどしない」学生が多い傾向があるが、学校にいる時間帯に予習・復習・課題・レポート作成を済ませているため、自学・自習の時間が不要となるということのようである。一方、専攻科1年生は、「ほとんどしない」～「3～4時間」と広い範囲にばらついており、専攻科生に対しては、特別研究の時間帯を利用するか否かの違いで、回答が異なるものと思われるため、更なる調査が必要である。

4年生、5年生の自学・自習に関しては、平成19年度から学修単位制導入科目を確保することにより、自宅学習の課題、レポート等の提出を義務づけ、自宅での勉強の習慣づけを図ることにしている。

2. 3 カリキュラム・シラバス検討委員会

[1] プログラム後半学生(専攻科学生)への履修科目の明示「履修の手引き」改定
平成18年度版を作成し、プログラム関連全教員、学生に配布した。

[2] プログラム修了要件に必要な科目の追加措置の提言(地学、地球物理)

愛媛大学との単位互換協定を活用し、プログラム修了要件に必要と思われる科目を受講できるよう、第14回専攻科教育委員会にて、愛媛大学「地球科学」(工学部環境建設工学科竹岡・岡村)(2単位)の集中講義の受講を提案することを決定した。

[3] 求める技術者像を実現できるカリキュラの見直し(科目、時間、教員)

新来島ドック他へのヒアリングを実施(平成 18 年 7 月 10 日)し、その内容をH19年度「構造・材料」科目群のカリキュラム・シラバスに反映することとした。

[4] 生産工学を核にカリキュラムの見直し(科目、教員)

専攻科開講科目「特別講義2」を科目番号 610118「品質・安全管理」に授業科目名を変更することを、第9回専攻科教育委員会(平成18年8月31日)にて審議し、第10回運営会議(9月21日)にて決定された

[5] 学校全体で取り組んでいる「自学自習」を推進するための授業方法(含教材開発等)について検討

- 「機械設計技術者三級資格」試験のための補習の実施および Web 教材の検討
機械工学科全教員が、教材の補習指導、模擬試験の実施を担当し、受験を目指す学生を支援した。
- 「計測制御実習」では、数値計算のための MATLAB/SIMULINK 等のプログラミング言語の習得やシミュレーションのためのマニュアル (MATLAB 編、SIMULINK 編) を、講義時間に勉強するのではなく、自宅学習にて対応するよう指導した。

2. 4 達成度評価委員会

[1] 平成 17 年度 C 評価成績資料を確認する(シラバス記載の成績評価方法との整合性確認)

平成17年度分について完了。

[2] 各科目の到達目標と学習・教育目標との整合性を確認する

平成17年度分について完了。

[3] 「特別研究(科目番号 61963、7 単位)」の新しい評価方法を周知徹底する方法・基準を決定し、プログラム関連全教員に周知し徹底した。

学習・教育目標 C-2、E-1 の到達目標

- 研究目的を、社会的背景や既往の研究と関連づけて理解できること。
- 情報を収集・分析・編集し、本質的問題が発見できること。
- 第三者を納得させる解の導出ができること。
- 報告書の中で、論理的な日本語の表現・記述ができること。
- プレゼンテーションによる口頭発表ができること。

の各項目を評価するにあたり、

- 計画立案・遂行能力(30%)
- 特別研究発表会(30%)
- 特別研究報告書(40%)

にて評価することを、平成 18 年度シラバスに記載し、学生、教員に周知した。

◎システムデザイン工学プログラム（JABEE）

皆本 佳計

1. 教育改善推進体制（○は委員長）

- 1.1 教育改善委員会（○皆本、佐藤、榊原、井門、出口、馬淵、深山）
- 1.2 カリキュラム・シラバス検討委員会（稲見、平野、横山、田中、○出口、栗原）
- 1.3 教育目標達成度評価委員会（伊月、○井門、王、先山、今井、白井、松友）
- 1.4 学習・教育目標検討委員会（○馬淵、尾西、香川、檀上、松村、占部）

2. 平成18年度活動計画

2.1 教育改善委員会

- [1] 各委員会から問題点・検討結果の提出を求め、改善案を審議する。

(1) 次年度のカリキュラムについて

シラバス・カリキュラム検討委員会に指示を出し、JABEE で指摘を受けていた基礎科目の充実を図るために、力学系科目として「メカトロニクス特論」、設計・システム系科目として「電子情報システム設計」を新設した。材料・バイオ系科目の充実も図った。

(2) 成績評価裏付資料のまとめ方・修了生の目標達成度

JABEE中間審査に向けて、資料の整理などを行った。

(3) 学習・教育目標の妥当性・理解度の確認

JABEE中間審査に向けて、学習・教育目標の妥当性・理解度の確認を行った。

- [2] 各委員会の活動の状況を把握し、調整、改善指示を行う。

平成19年度のJABEE中間審査受審に向けて、適宜指示を出し各委員会の活動をサポートした。

- [3] 学生・担当教員へプログラムの周知徹底を図る。

平成18年度は、5月に、「平成18年度 システムデザイン工学プログラム履修の手引き」（資料番号1-1）を学生に配布した。電気情報工学科・電子制御工学科4年生には、この手引きを元に、本プログラムの学習・教育目標、プログラム修了要件、JABEEについて詳しく説明を行い、到達目標の自己点検の仕方、自己評価シートの使い方を指導し、修得目標を立てさせた。本プログラムでは、この履修の手引きによって、学生が各科目の到達目標の達成度を確認する自己評価シートも兼ねているので、本科5年生・専攻科1.2年生にも全員に平成18年度版を配布した。

- [4] 学修単位の導入に伴う学習保証時間の変更について、教務委員会および専攻科教育委員会と連携しながら検討する。

連携し行うことができた。（専攻科教育委員会議事録参照）

2.2 学習・教育目標検討委員会

[1] プログラムの学習・教育目標に関するアンケートを実施し分析する。

各学科（科）および専攻科で開催する学生と教員との懇談会において、学生の学習・教育目標に関する意識調査を行った。これらの学生の意見は、その内容に応じて各委員会や学科（科）で検討され、教育改善に活用された。

[2] 全学で実施された勉学アンケート、授業アンケートをまとめ、分析する。

教育目標検討委員会と教務委員・専攻科教育委員が中心となり、授業アンケートの実施により、シラバスの検証、教員の話し方や熱意、学生の興味や学習姿勢などを問い、教員がその結果を分析し、問題点と対策について自己点検を行った。

勉学アンケートにより、学科に対する満足度や授業科目に対する要望などを把握した。さらに、学生による担任アンケートにより、クラス運営や指導方法などの点検、評価を行った。評価結果は各委員会より全教員に報告されフィードバックされた。

[3] 企業・大学・卒業生・学生からの評価・要望その他の意見を調査する。

企業からの意見収集は組織的に行えなかったが、求人に来られた会社やインターンシップでお世話になった会社からの意見は各学科の会議等で報告された。

学生と教員との懇談会において、学生の意識・意見の聞き取り調査を行った。これらの学生の意見は、その内容に応じて各委員会や学科（科）で検討され、教育改善に活用された。

[4] 授業等での学生支援のための環境整備状況を調査し、学生の要望に応えるための環境整備について検討する。

学生の意見を聞き、対策を実施した。具体的には専攻科学生室の整備、電気情報工学科棟内に学生の自習室の設置などを行った。また、指摘を受けた老朽化した実験装置の改善も行った。

2.3 カリキュラム・シラバス検討委員会

[1] カリキュラムおよびシラバスの内容や、科目間の連携の適切さを検討する。

（特に情報工学関連について整合性を検討する。）

JABEEに関連して、「複合的な工学専門基礎知識」④群の科目構成に問題があったので、シラバス検討委員会を中心に、基礎工学の内容として必要とされる科目選定の見直しを行い、①設計・システム系科目として「電子情報システム設計」を、④力学系科目の力学系科目として「メカトロニクス概論」の新設などを提案し、専攻科教育委員会の審議を経て、運営会議にて関連するカリキュラムの改訂を行った。

[2] 自学自習を推進するための授業方法、教材開発などについて検討する。

十分ではなかったが、講義内容を録画しWebクラスなどで配信するシステム作りなど準備を行った。平成19年度からは実施する。

2.4 教育目標達成度評価委員会

[1] シラバスに記載された評価方法と実際の成績評価が一致していることを確認する。

学生による達成度評価はシステムデザイン工学プログラム履修の手引きに記載してある各到達目標横のチェックボックスにより自己点検を行わせた。

教員による評価は、答案用紙などを元に各科目の到達目標ごとの達成度を確認し、達成している学生の割合をパーセンテージで算出し、教育改善に役立てた。

[2] 学習・教育目標の各項目に対する達成度の総合的評価方法および評価基準が社会の要請する水準に照らし合わせて適切であるか検討する。

達成度評価委員会が中心となり、システムデザイン工学プログラム履修の手引きに記載してある各到達目標横のチェックボックスにより、学生による達成度評価を行わせた。各期の自己評価の指導は、担任・専攻科主任が行った。

また、各教員は、答案用紙などを元に各科目の到達目標ごとの達成度を確認し、達成している学生の割合をパーセンテージで算出し、教育改善に役立てた。

[3] 評価の観点から成績評価裏付資料のまとめ方を検討する。

上記、[1] [2]が用意に確認できるようにまとめ方を検討し、該当各教員に指示を出した。

○ 総括的な評価と課題

平成 19 年度の J A B E E 中間審査を見据え、各委員会とも活動を行ったが、まだまだ以下のような不十分な点があり、次年度以降、さらに教育改善推進活動が活発になるよう努力をする必要がある。

- ・電気情報工学科と電子制御工学科 本科のシラバス内容の検討・すり合わせ
- ・企業からの要望意見収集
- ・学生による達成度評価の徹底、学習姿勢などへのフィードバック

◎生物応用化学プログラム（JABEE）

河村秀男

1. 教育改善に向けた取り組み体制（◎は委員長、○は副委員長）
 1. 1 教育改善委員会（◎河村、牛尾、○中川、中山、衣笠）
 1. 2 学習・教育目標検討委員会（◎牛尾、牧、堤）
 1. 3 カリキュラム・シラバス検討委員会（◎衣笠、中山、○勝浦、間淵、牧、堤、西井）
 1. 4 達成度評価委員会（◎中川、河村、西井）
2. 平成18年度活動計画
 2. 1 教育改善委員会の活動計画
 - [1] 技術者像の確認を行い、学科会議にて報告する。（4月中に実施する）
 - ・従来どおり「地域貢献型技術者」とし、環境に強い技術者を育成することを確認し、学科会議で報告した。
 - [2] 平成17年度に実施した学習・教育目標に対する理解度、レベルに関するアンケート結果に基づき、学習・教育目標のレベルについて検討する。（4月中に実施する）
 - ・学習・教育目標 B-2、B-4 の理解度にやや問題があったが、今年度は従来どおりとした。
 - [3] 平成17年度に実施した学習環境・福利厚生設備に関する意見、満足度に関するアンケート結果に基づき、対応策を検討する。（6月中に実施する）
 - ・ガラス器具の不足が指摘された実験室では、必要な器具を再度チェックし、補充した。
 - [4] 技術者像と学習・教育目標の整合性について検討する。
 - ・特徴とする環境に強い技術者を養成する目標との整合性を図るため、関連する科目において環境に関する内容を増やすことにした。
 - [5] 2006年度版「生物応用化学プログラム」履修の手引きの内容を検討し、作成を担当者に依頼する。
 - ・2006年度版「生物応用化学プログラム」履修の手引きを作成した。
 - [6] 本科4年生および専攻科1年生に対する「生物応用化学プログラム」の説明を担当教員に依頼する。
 - ・2006年度版「生物応用化学プログラム」履修の手引きを用いて、該当する学年の学生に説明を行った。
 - [7] 学修単位の導入に伴う学習保証時間の変更について、教務委員会および専攻科教育委員会と連携しながら検討する。
 - ・4学年（13単位）、5学年（9単位）における学修単位科目を選定した。
 - [8] 他プログラムおよび一般教養科・数理科との連携・調整を図る。
 - ・一般化学および専攻科科目の内容について、数理科教員、一般教養科国語担当教員と意見交換を行った。
 - [9] 各委員会の委員長会議を月1回学科会議後に開催し、各委員会の実施状況を把握すると共に、委員会の意見をまとめ、指示を行なう。
 - ・月1回程度は開催したが、実施時期が遅れるなど、各委員会への指示は不十分であった。

2. 2 学習・教育目標検討委員会の活動計画

- [1] 平成17年度に実施した学習・教育目標に対する理解度、レベルに関するアンケートをまとめる。(4月中に実施する)
 - ・学習・教育目標の中でB-2、B-4について理解度の低い学年がある。
- [2] 学習・教育目標に対する理解度、レベルに関するアンケートを本科4、5年生と専攻科生に実施する。(前期中に実施する)
 - ・3月に学習・教育目標に関するアンケートを実施した。今年度中に結果をまとめる予定である。
- [3] 平成17年度に実施した学習環境・福利厚生設備に関する意見、満足度に関するアンケートをまとめる。(4月中に実施する)
 - ・物理化学・機器分析の学生実験室、および生物工学の学生実験室について、ガラス器具が不足しているという意見があった。また新任教員の卒研室において機器の充実を望む意見が強かった。
- [4] 自学自習教材・学習環境・福利厚生設備に関する意見、満足度に関するアンケートを本科4、5年生と専攻科生に実施する。(前期中に実施する)
 - ・3月に学習環境・福利厚生設備に関するアンケートを実施した。今年度中に結果をまとめる予定である。

2. 3 カリキュラム・シラバス検討委員会の活動計画

- [1] デザイン能力の涵養の観点から、セルフプランニング実験、学生実験、および講義の内容と科目間の流れについて検討する。(前期中に実施する)
 - ・セルフプランニング実験について、来年度においても12週実施すること、コンテスト形式で実施するなど案が出された。来年度の実施方法については今後検討する予定である。
- [2] 技術者像、学習・教育目標と各科目の内容、到達目標、科目間の流れの整合性について検討する。(前期中に実施する)
 - ・関連性の強い専門科目である物理化学と化学工学、有機化学と生物工学、分析化学と無機化学について、担当教員の間で科目間の連携について検討を行った。次年度のシラバスに反映させる予定である。
- [3] 自学自習を推進するための授業方法、教材開発などについて検討する。
 - ・学修単位科目の導入に向けて試行科目を2科目(化学工学3と生物物理化学1)設定し、自学自習への取り組みに関する実施状況を教員会において報告した。

2. 4 標達成度評価委員会の活動計画

- [1] プログラムにおいて育成する技術者と学習・教育目標との対応、企業が求める人材と学習・教育目標との対応などについて、企業に聞き取り調査と解析を行なう。(7、8月と2月に実施する)
 - ・実施できていない。今年中に実施することは困難であるため、来年度の夏季休業中に行うインターンシップ先訪問を利用し、実施する予定である。
- [2] 特別研究について研究計画書と実施報告書を提出させ、指導と評価を行う。(9月末を締め切りとして実施する)
 - ・実験計画書の見直しを行い、研究進捗自己評価書と研究計画書を提出させ、評価を行った。

○ 総括的な評価と課題

- ・各委員会において実施した内容についての総括ができでならず、PDCA サイクルが十分に動いていない。
- ・教育改善委員会は当初の予定どおり月 1 回程度開催したが、各委員会の活動を十分に統括はできなかった。
- ・昨年度は JABEE 中間審査があったため、点検評価書の作成などを通して教育改善についてある程度活発に議論できたが、今年は全般的に改善意識がやや低下してしまったように思われる。来年度は、次回の審査に向けて再度教育改善委員会を中心として活動を推進していくことが必要である。

◎情報教育センター

センター長 伊月 宣之

1. 平成18年度活動計画

情報教育センターとして教育改善のために次のような活動を行う。

1.1 共通科目「情報リテラシー」の実施状況を調査し、問題点について検討し改善を図る。

・各学科一斉に1年前期で「情報リテラシー」授業を実施した。今回の実施結果を踏まえて、以下の項目につき次年度の改善に取り組んでいきたい。

(1) 講義の進度：統一したシラバスに従って進めたが、クラスのレベル、授業の進め方、計算機システムの整備不足等によって課題が残った。学期はじめの綿密な打合せの徹底が必要。システムの整備はできるだけ進めている。

(2) 試験問題、採点：統一問題で実施したが、採点基準については大まかな統一であったので、今年度の結果から問題点があれば抽出して改善する。

(3) 今後の課題：WebClassの更なる有効利用を図る。頻繁なる横の連絡を持つ。横の連絡網の軸となる教員の設置を検討する。

1.2 ITを活用した新教育手法の導入推進のための各種講習会の実施

平成17年度に引き続きITを活用した新教育手法の導入推進のための各種講習会の実施を行う。講習会としては次の4つを計画している。

[1] Matlab 利用講習会

・未実施である。

[2] LabVIEW 利用講習会

・未実施である。

[3] WebClass 活用講習会

・2回実施した。

[4] Office ソフト活用講習会

・事務系で実施したので、一部バックアップした。

学生が自学自習できる環境の向上を目指して次のような活動を行う。

[1] 自学自習用教材の作成

・進行中である。一部の科目で作成している。

[2] 各学科、科、教員が教材を作成する際のサポート

・WebClass 活用講習会の実施。利用に当たっての質問事項の受付、回答を実施している。

[3] WebClass 活用を促進するための掲示板の作成

・作成していない。

[4] 自学自習教材作成のためのノウハウ集の公開

・まだ公開していない。

◎情報セキュリティ委員会

委員長 檀上光昭

1. 推進体制

情報セキュリティ委員と情報教育センターネットワーク運用部門が協力して実施する。

2. 平成18年度活動計画

2. 1 継続実施事項

- 〔1〕 本校情報セキュリティポリシーの学内公開
ホームページに公開する。

学内公開として、本校ホームページの学内限定情報に本校セキュリティポリシーをいつでも参照できるように公開した。

- 〔2〕 情報セキュリティポリシーの全教職員への通知
メール、各部署責任者への依頼によって実施する。

実施した。

- 〔3〕 総務省情報セキュリティサイトの全教職員への通達
メール、各部署責任者への依頼によって実施する。

実施した。

- 〔4〕 ICカードの説明会の実施
入学生（1年生、編入学生、留学生）に対して実施する。

実施した。

- 〔5〕 学生に対する情報セキュリティ教育の実施
情報教育の担当者を通して行う。

1年生の全学科で実施される情報リテラシやその他の授業を通して実施した。
下記は、情報リテラシのシラバスより抜粋した授業内容である。

授業内容

- 1 電子計算機室の使い方、パスワードの管理
- 2 ファイル・フォルダの操作、タイピング練習、インターネット検索
- 3 メールの設定と使い方、WebClassの使い方、ワープロソフトの使い方1、タイピング練習
- 4 ワープロソフトの使い方2、タイピング練習
- 5 情報の加工と表現
- 6 ワープロソフトの使い方3、タイピング練習
- 7 情報発信後の責任と評価
- 8 ワープロソフトの使い方4
- 9 セキュリティを守る技術1（認証とパスワード、暗号、アクセス制御とファイアウォールの動作例）
- 10 セキュリティを守る技術2（セキュリティホールとコンピュータウイルス）
- 11 ワープロソフトの使い方5
- 12 情報の受信・発信（インターネットと犯罪）
- 13 情報の受信・発信（メディアリテラシー）
- 14 情報に関する法律
- 15 期末試験

〔6〕 ウィルス対策のメールによる連絡

メール、各部署責任者への依頼によって実施する。

ウィルス対策およびスパム対策については、最近特に問題となってきたが、ネットワーク整備のため、本校で年度末に更新したギガビットネットワークセキュリティ補強システムにおいて、抜本的な対策が可能となった。以下は、仕様書の一部抜粋である。

2.1.5 ウィルスチェックサーバ(1台、既設のものを利用し、設定変更のみ)

2.1.4 スпам対策アプライアンス:2 台(冗長化構成)

- (1) 1U 以下であり、既存ラックに設置すること。
- (2) 冗長化構成（2 台構成）で、250 ユーザが使用可能なライセンスをバンドルしている製品であること。
- (3) スпам対策製品をバンドルしたアプライアンス製品であること
- (4) 主記憶容量は1GB 以上を備えていること。
- (5) ハードディスクドライブは、80GB 以上のドライブを2 基以上搭載し、RAID1 構成とすること。
- (6) 1000Base-T/100Base-TX に対応したネットワークインターフェイスを2 ポート以上有すること。
- (7) メール処理の送受信プロトコルとして、SMTP、ESMTP、Secure SMTP over TLS をサポートしていること。
- (8) メール処理能力を、120,000 メッセージ/時 (15KB) 有すること
- (9) キュー容量を10GB 以上備えていること。
- (10) メールアーカイブ用の容量を50GB 以上備えていること。ただし、スパム検疫(隔離) で使用することを目的とした場合には5GB 以上が有効であること。
- (11) ISP 等での導入実績のある製品であること。

[6] 不正コピー防止対策

学内での実態調査を行い、それに基づいて防止策を検討する。

各部署において実態調査を依頼したが、現状で深刻な不正コピーが行われている報告はなく、防止策を策定するにはいたらなかった。

[7] セキュリティポリシーや実施手順の見直し

見直しが必要かどうかの情報収集を行う。

断片的な情報収集に終わり、手順の見直しの検討にはいたらなかった。

○ 総括的な評価と課題

1. 評価

ウイルス情報の積極的な注意喚起によって、今年度は学内ではウイルス感染は起こらなかった。また、また、本校ギガビットネットワークの一部更新を行い、一層のセキュリティ強化を図った。

しかし、学内のコンピュータを使った迷惑チャットへの苦情の報告例があり、学生の情報セキュリティに対する教育を一層充実させる必要がある。

2. 課題

- (1) 情報セキュリティに対するさらなる啓蒙と具体的な実施手順の作成
- (2) 情報セキュリティ教育の徹底

本物品は、本校の既存サーバであるため、ハードウェアそのものの調達はない。本調達で導入するスパム対策アプライアンスとの整合性を保ちつつ、既存の学内メールサーバから新規予定のメールサーバへの移行に支障が生じないように、導入時の構築とともに、切替時の設定を併せて、本調達に含めて行うこと。

なお、既存のウィルスチェックサーバのスペックは以下の通りである。

- (1) NEC 製Express5800/110Rf-1 (型番: N8100-1006)
- (2) CPU: Pentium4 プロセッサ530 (3.20GHz)
- (3) 主記憶容量:1GB
- (4) ハードディスク:80GB × 2 (RAID1)
- (5) OS: RedHat Enterprise Linux ES 3

2. 2 実施予定事項

[1] 新入生に対する情報セキュリティ教育の実施

本年度から開設された情報リテラシーの授業を通して実施する。

新入生研修プログラムの中に組み入れ、例年どおり実施した。

[2] 全教職員対象の情報セキュリティ説明会の実施

メール、各部署責任者への依頼によって実施する。

全教職員を集めての説明会は開催しなかったが、本年度末に、本校の電子メールサーバ、Webサーバの更新を行い、全教職員が各自の端末の電子メールの設定を変更する必要性が生じ、各学科や部署の担当者を通じて、パスワードの配布や使用方法の連絡とともに、本校のセキュリティーについて全教職員に説明を行った。

[3] 情報セキュリティポリシーの具体的な実施手順の作成

担当者を決めてたたき台の案を作成する。

実施できなかった。

[4] 個人情報保護法との整合性に留意した情報の取り扱いについて整理する。

担当者を決めてたたき台の案を作成する。

実施できなかった。

[5] 迷惑メールに対する対策の徹底

警察その他の担当部署への連絡によって行う。

本校へ多量の迷惑メールが届くたびに、関係部署への通報などを行っていたが、対処できない程の問題となっていた。本年度末に更新したギガビットネットワークセキュリティ補強システムの中に、迷惑メール問題を根本から解決できる装置を導入できた。以下に、仕様書の一部を示す。

◎ものづくり教育支援センター

センター長 谷口 佳文

1. ものづくり活動の活性化

[1] 1年生学級担任と連携し、ものづくり活動を推進する。

- ・ 1年生課外特別活動予定表の中に、ものづくり活動のための時間を取り入れてもらった。「ロボコンアイデアの提案」、「お手玉作り」、「組立式飛行機の製作と記録会」などが行われた（ものづくり教育支援センター資料1. [1]. 1）。

ものづくり教育支援センター資料1. [1]. 1

平成18年度 1年生 課外特別活動予定表

	回	日時	曜日	内 容
前期	1	4月14日	(金)	1～3組:図書館利用オリエンテーション(特活と合わせて実施)/4, 5組:新入
	2	4月21日	(金)	4, 5組:図書館利用オリエンテーション(特活と合わせて実施)/1～3組:新入
	3	4月28日	(金)	合宿研修の役割分担/事前研修
	4	5月12日	(金)	合宿研修説明・注意、事前研修
	5	5月19日	(金)	大洲合宿研修旅行
	6	5月26日	(金)	ロボコンのビデオ鑑賞
	7	6月2日	(金)	ロボコンのガイダンス
	8	6月16日	(金)	ロボコンアイデア提出
	9	6月23日	(金)	応急処置・防火避難訓練
	10	6月30日	(金)	お手玉づくり
	11	7月7日	(金)	お手玉練習
	12	7月14日	(金)	お手玉大会
	13	9月1日	(金)	はり(梁)の設計・製作
	14	9月8日	(金)	はり(梁)の製作・試行錯誤
	15	9月15日	(金)	製作はり(梁)の記録会(クラス別)
	16	9月29日	(金)	読書
後期	17	10月13日	(金)	ドミノ倒し大会作品計画作成/準備
	18	10月20日	(金)	ドミノ倒し大会準備, 試作
	19	10月27日	(金)	クラス別ドミノ倒し大会
	20	11月17日	(金)	クラス対抗ドミノ倒し大会
	21	11月24日	(金)	紙飛行機の設計・製作
	22	12月1日	(金)	紙飛行機の記録会
	23	12月8日	(金)	読書
	24	12月22日	(金)	落下傘の設計・製作
	25	1月12日	(金)	落下傘の製作
	26	1月19日	(金)	落下傘の記録会
	27	1月26日	(金)	読書
	28	2月2日	(金)	風車の設計・製作
	29	2月9日	(金)	風車の設計・製作
	30	2月16日	(金)	風車の記録会
	31	3月9日	(金)	読書

(出典:平成18年度 1年生 課外特別活動予定表)

[2] 学生委員会、学生会と連携し、学内コンテストを実施する。

- ・学生課、技術室の協力を得て、「ものづくりコンテスト in 新居浜高専 2006」と題して、学内コンテストを10月23日に開催した。「組立式飛行機コンテスト」と「ウインドカーコンテスト」を実施し、各コンテストに、それぞれ21チーム31名、11チーム25名の参加があった（ものづくり教育支援センター資料1. [2].1、ものづくり教育支援センター資料1. [2].2、ものづくり教育支援センター資料1. [2].3）。

ものづくり教育支援センター資料1. [2].1

ものづくりコンテスト in 新居浜高専 2006

学内ものづくりコンテストの初めての試みとして、10月23日（月）に「ものづくりコンテスト in 新居浜高専 2006」を開催した。このコンテストは、新居浜高専の学生誰もが、ものづくり活動に参加し、アイデアとそれを実現する技術力を互いに磨いていくことを目的としている。

第1回目の今回は、「組立式飛行機コンテスト」と「ウインドカーコンテスト」を実施し、各コンテストには、それぞれ21チーム31名、11チーム25名の参加があった。コンテストの入賞者は、以下の通りである。

○組立式飛行機コンテスト入賞者

- 最優秀賞 作品名 : オウム号
チーム名 : オウム
5M 峯 良人、5M 木
- 優秀賞 作品名 : ひこまる
チーム名 : 先端技術研究会2年の部
2E 渡邊 大地、2M 武田 顕一
- 優秀賞 作品名 : 俺 飛ぶぜ!!
チーム名 : ぺちょんぬ
3Z 篠原 隆治、3M 田中 優之
3M 白石 泰三、3E 宮道 裕幸
- デザイン賞 作品名 : 飛行機2
チーム名 : 吉川研究室
5M 小野 潤一
- デザイン賞 作品名 : 組立式飛行機
チーム名 : 井手光
1M 井手 貴大、1M 秋光 治国

○ウインドカーコンテスト入賞者

- 最優秀賞 作品名 : GRUMMAN F4F-4 WILD CAT
チーム名 : アベ
1SM 田中 大貴、1SM 松本 和広
2SM 阿部 伸也
- 優秀賞 作品名 : HERO
チーム名 : シュレックス

5 M 日越 栄雄、5 M 八十島 啓介

4 M 水関 康晴

優秀賞 作品名 : 1号

チーム名 : 5 E 1号

5 E 石川 祐輝

アイデア賞 作品名 : 風輪車

チーム名 : 村上ファンズ

5 M 村上 友洋、5 M 峯 良人

4 M 大石 章裕

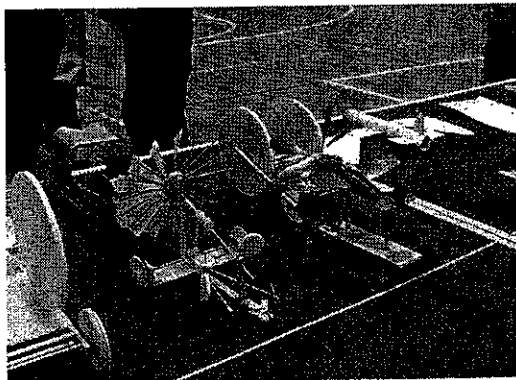
アイデア賞 作品名 : 自動書記

チーム名 : 編集後記

4 E 高橋 志企、4 E 杉岡 由基

4 E 渡部 義人

今回のコンテストには、1年生から専攻科2年生まで、学年学科を問わず多数の学生の参加があった。参加学生へのアンケートでは、「次回も参加したい」との回答が大多数であり、また、「良い経験ができた」、「楽しかった」、「年に2回開催して欲しい」などのコメントをもらった。競技中の学生達の様子ならびにアンケート結果から、このコンテストを通じて、ものづくりの楽しさ、コンテスト参加の醍醐味を少しでも体験してもらえたと思う。この学内ものづくりコンテストは、来年度以降も継続して実施し、参加学生の増加を図ってきたい。



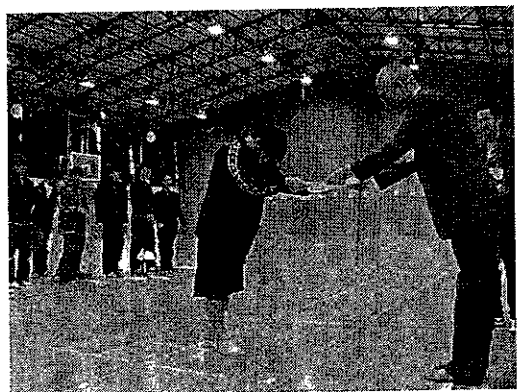
参加作品



組立式飛行機コンテスト



ウインドカーコンテスト



表彰式

(出典：平成18年度ものづくり教育支援センター活動報告書)

○組立式飛行機コンテストの結果

組立式飛行機コンテスト 記録表

順位	エントリー No.	作品名	チーム名	飛行距離		記録
				1回目	2回目	
1	14	オウム号	オウム	19.60 m	22.70 m	21.150 m
2	4	ひこまろ	先端技術研究会2年の部	20.50 m	20.15 m	20.325 m
3	5	俺 飛ぶぜ!!	べちょんぬ	12.60 m	22.55 m	17.575 m
4	21	Gyron Woods II	Team Nishy	13.15 m	15.60 m	14.375 m
5	7	～ 狙うライフルには南返りのサービスを～	Don't worry, I can fly!	7.60 m	19.15 m	13.375 m
6	17	リサイクリスト	メガティブ	12.90 m	12.55 m	12.725 m
7	18	普通な飛行機	(田中君)	9.30 m	15.80 m	12.550 m
8	1	組立式飛行機	井手光	12.95 m	11.70 m	12.325 m
9	19	smart	マチルダ	5.75 m	13.70 m	9.725 m
10	2	ヒコウキ	鳥三中	13.30 m	4.90 m	9.100 m
11	13	飛行機2	吉川研究室	7.75 m	6.45 m	7.100 m
12	16	B2. 9	シュレック3	5.80 m	8.00 m	6.900 m
13	20	Soar	流体実験室	8.00 m	5.75 m	6.875 m
14	15	ムクライド	シュレック2	7.50 m	5.85 m	6.675 m
15	9	ツバメ	(水関君)	7.05 m	4.55 m	5.800 m
16	8	BORING 800	(水関君)	7.65 m	2.75 m	5.200 m
17	12	飛行機1	吉川研究室	6.50 m	3.70 m	5.100 m
18	11	よだか	(大西君)	5.75 m	3.25 m	4.500 m
19	6	スーパー飛行機	(小沢君)	5.25 m	3.50 m	4.375 m
20	3	流星 夜を切り裂いて	(日野君)	3.30 m	2.10 m	2.700 m
21	10	フラップフライヤー	(大石君)	2.70 m	2.60 m	2.650 m

○ウインドカーコンテストの結果

ウインドカーコンテスト 記録表

順位	エントリー No.	作品名	チーム名	走行タイム		
				1回目	2回目	
1	10	GRUMMAN F4F-4 WILD CAT	アベ	0 分 40.22 秒	0 分 20.14 秒	0 分 20.14 秒
2	9	HERO	シュレックス	0 分 34.51 秒	0 分 21.62 秒	0 分 21.62 秒
3	6	1号	SE1号	0 分 41.07 秒	0 分 23.62 秒	0 分 23.62 秒
4	11	ゆっくり号	楽しく遊ぼう	0 分 28.33 秒	0 分 25.66 秒	0 分 25.66 秒
5	1	風車	1-1	1 分 52.06 秒	0 分 45.63 秒	0 分 45.63 秒
6	7	TOYOTA Witz	SE2号	1 分 49.39 秒	0 分 55.27 秒	0 分 55.27 秒
7	3	DANDY号	ダンディーと ゆかいな仲間達	2 分 17.28 秒	1 分 33.44 秒	1 分 33.44 秒
8	8	風輪車	村上ファンズ	2 分 7.22 秒	1 分 59.90 秒	1 分 59.90 秒
9	5	自動書記	編集後記	2 分 35.24 秒	× 分 リタイア 秒	2 分 35.24 秒
	4	シッコロー	(クワン君)	× 分 リタイア 秒	× 分 リタイア 秒	× 分 リタイア 秒
	2	サンダーストームX	(日野君)	× 分 リタイア 秒	× 分 リタイア 秒	× 分 リタイア 秒

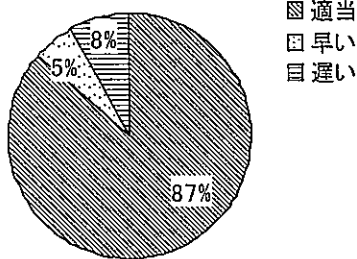
(出典：平成18年度第13回運営会議資料)

「ものづくりコンテスト in 新居浜高専 2006」

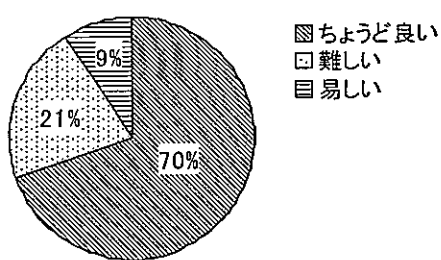
アンケート集計結果

回答者数 37名

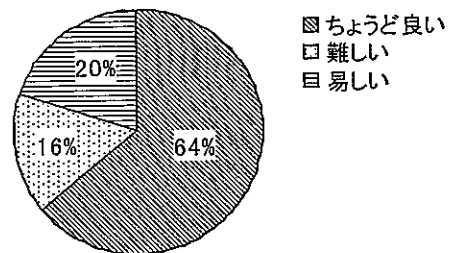
I. 実施時期



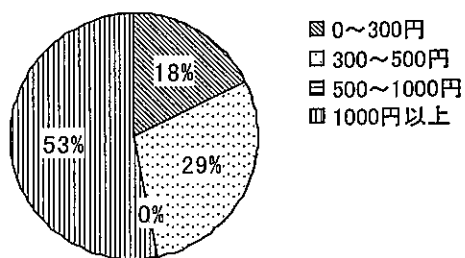
II. 難易度(組立式飛行機)



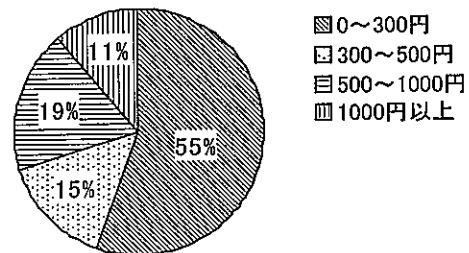
II. 難易度(ウインドカー)



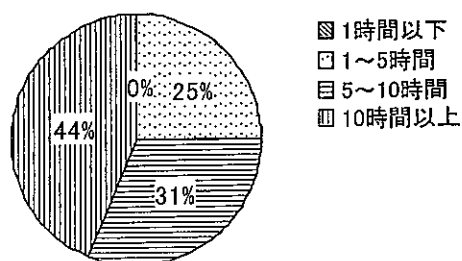
III. 費用(ウインドカー)



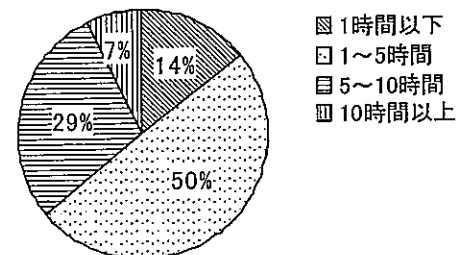
III. 費用(組立式飛行機)



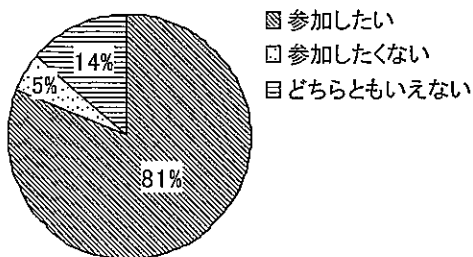
IV. 時間(ウインドカー)



IV. 時間(組立式飛行機)



V. 次会参加



VI. 意見・要望、実施して欲しい競技等

- ・特になし。
- ・オリジナル船の大会。
- ・またして。
- ・ワイヤーじゃまです。
- ・けっこう良い経験できた。ロボコンとか参加できない人におすすめです。
- ・も・・・つかれた・・・
- ・告知するのはもっと早く確実にしたほうがいいと思います。
- ・良かったと思う。
- ・全体的に適當だったと思う。
- ・材料費下さい。
- ・本当に今日は楽しかったです。年に2回ぐらいしたいです！！次回ぜったい参加します！！
- ・なし！！
- ・年に2度程開催してほしい。とっても楽しかったので、また次回、参加したいです。
- ・初めてにしてはけっこう楽しかったです。勝ち負けにこだわらず、また参加したいです。
- ・山分けできる商品。
- ・当日に練習時間がほしい。
- ・楽しかったです。また出場させてもらいます。次は、優勝ねられますよ！
- ・賞金 賞金 マネー マネー
- ・賞金！賞金！
- ・賞金アップで参加数もアップ？
- ・よかった。
- ・おもしろかったです。次も出場したいと思います。

(出典：平成18年度第13回運営会議資料)

[3] ロボット研究会、先端技術研究会、マルチメディア愛好会、科学研究会などの活動を、より活性化すると共に、リーダーの育成に努める。

- ・ものづくり課外活動の活性化、リーダーの育成を図るために、3月26、27日に、ロボコン、プロコン、デザコン、トリコン、ソーラーカー、現代G Pものづくり科学教室・教材開発プロジェクトのリーダー6名を引率し福井高専を訪問した（ものづくり教育支援センター資料1. [3]. 1）。

「ものづくり課外活動 リーダー研修」要項

1. 目的

- (1) 他高専のものづくり活動の現状を参考に、今後の活動に活かす。
 (2) 他高専学生との交流を通じて、ものづくり課外活動のリーダーとしての資質向上を図る。

2. 期日

平成18年3月26日(月)～3月27日(火)

3. 視察場所

福井高専(福井県鯖江市下司町)

応対者 一般科目教室 太田 泰雄 先生

4. 参加者(学生6名、教員2名)

学生	3 Z	楠橋 陽教	(ロボット研究会)
	4 M	加地 智広	(先端技術研究会)
	3 D	村上 卓	(プロコン)
	4 M	大石 章裕	(デザコン)
	3 E	広瀬 文絵	(ソーラーカー等の各種ものづくり)
	2 C	安藤 優耶	(現代GP 科学教室・教材開発プロジェクト)
引率教員	谷口 佳文	(ものづくり教育支援センター長)	
	占部 弘治	(プロコン指導教員)	

5. 日程

3月26日(月)	8:25	新居浜発
	13:01	鯖江着
	13:30	
	～	福井高専視察、交流
	16:30	
		福井市内 泊
3月27日(火)	9:00	
	～	見学
	12:00	
	～	昼食
	12:44	福井発
	18:00	新居浜着

※参加学生は、研修報告書(視察を通じて得たこと、今後の活動にどう活かしたいか、抱負、感想など)を指導教員に提出のこと。

(出典:ものづくり課外活動リーダー研修参加学生への配付資料)

[4] 各種ものづくりコンテストへの参加を奨励し、製作活動を支援する。

- ・18年度に初めてデザコンに参加することになり、学生委員会と連携して、7月10日にアイデア発表会を実施した。6件の発表があり、その内の2件がコンテストに参加した。初出場ではあったが、最優秀賞を受賞することができた（ものづくり教育支援センター資料1. [4]. 1、ものづくり教育支援センター資料1. [4]. 2）。
- ・1、2年生学級担任および学生委員会と連携して、1、2年生を対象にロボコンの競技ルール説明会を開催した。1年生から104件、2年生から19件、学校全体では135件のアイデアの提案があった（ものづくり教育支援センター資料1. [4]. 3）。
- ・ロボコン、プロコン、デザコンのアイデア発表会に、センター長、副センター長、技術職員が参加し、アイデアの審査および助言を行った（ものづくり教育支援センター資料1. [4]. 4）。

ものづくり教育支援センター資料1. [4]. 1

Subject: デザコンの発表会

皆様へ

宮田@学生委員会コンテスト担当です。

平成18年7月4日

各位

学生委員会コンテスト担当

全国デザインコンペティション・アイデア発表会の開催について

今年度、本校は「ブリッジコンテスト」に参加を予定しています。そこで、本校から出場するブリッジのアイデアを6月30日までに学内募集した結果、6件の応募がありました。

今回、下記の予定において、そのアイデアを提案者より発表していただきますので御案内いたします。

記

日時：平成18年7月10日（月）16時30分

場所：視聴覚教室

発表時間：10分（発表5分、質疑応答5分）

（出典：学生委員会・コンテスト関係担当からのメール）

第3回全国高等専門学校デザインコンペティション大会結果一覧

構造デザインコンペティション

受賞名	高専名	学科名	学生名()内は学年	作品名
最優秀賞・文部科学大臣賞	新居浜工業高等専門学校	機械工学科	村上友洋(5) 高橋良太(5)	Marvel of Art
優秀賞・日刊建設工業新聞社賞	松江工業高等専門学校	土木工学科	三野誠也(5) 高野雅也(5) 近藤広和(5)	大蛇～OROCHI～
優秀賞	米子工業高等専門学校	建築学科	坂根毎頭(5) 坂本亮(5) 諸田尚志(5) 松本瑞穂美(5) 竹田純平(4)	砂丘と大山と汗とベダルと
佳作	福井工業高等専門学校	環境都市工学科	太坂拓也(5) 鎌谷道人(5) 木村祐子(5) 高野安恵(5) 山口公平(5)	Trapezoid
	秋田工業高等専門学校	環境都市工学科	工藤静香(3) 渡辺舞子(3) 荒木田桂那(3)	櫓木内閣
	明石工業高等専門学校	建築学科	滝内雄二(4) 杉本正太(4) 福地義平(4) 山崎幸宏(4) 河西孝平(4)	〇〇ツ丸見え

環境デザインコンペティション

受賞名	高専名	学科名	学生名()内は学年	作品名
最優秀賞・宮崎県知事賞	明石工業高等専門学校	建築都市システム専攻、建築学科	牧 奈歩(専2) 井上亮太(5) 菊池まさこ(5) 国居郁子(5) 福本遼(5)	山あいの多目的教室
優秀賞	呉工業高等専門学校	建築学科	富田雅俊(4)	Living with Fields
	明石工業高等専門学校	建築学科	宮本康平(4)	みんなの庭道 + ...

* 佳作:上記以外の本選出場作品12作品すべて

プロポーザルコンペティション

受賞名	高専名	学科名	学生名()内は学年	作品名
最優秀賞・都城市長賞	明石工業高等専門学校	建築学科	井上亮太(5) 菊池まさこ(5) 国居郁子(5) 福本遼(5)	すぎ風呂っく(あしゆ)
優秀賞	サレジオ工業高等専門学校	デザイン工学科	森元由果(5) 田中大(5) 川尻愛(5) 佐藤直(5)	光hikari
	都城工業高等専門学校	建築学科	橋口寛人(4) 坂本裕樹(4) 瀬之口祐一(4) 吉田宗一郎(4)	和飾 ～チラリズムとの融合～
会場審査賞	有明工業高等専門学校	建築学科	神尾沙和(5) 千光士あや(5) 野上綾子(5) 松藤浩史(5)	ぱったりまったり
	豊田工業高等専門学校	建築学科	中島優(3) 上田琴恵(3) 高木亮佑(3) 宮戸実(2)	マチレゴ

* 佳作:上記以外の本選出場作品7作品すべて

(出典:新居浜高専ホームページより抜粋)

ロボコンアイデア二次審査結果

学生委員会ロボコン担当
平成18年 6月16日

6月2日(金)に発表された1次選考通過メンバーに対する2次選考会が6月9日(金)に行われました。試験初日であるにもかかわらず、多数の学生の皆さんならびに教職員の方々にお集まりいただき有難うございました。2次選考会においては、各学科教員で構成する審査員により選考を行いました。その結果、以下の3チームが選ばれました。該当チームは本校代表としてアイデアを提出する資格を得ましたのでお知らせします。選考された以下のチームは後日表彰します。

記

最優秀 クローラーⅡ

○4D森本 雄大、石川 誠也、4E森川 裕一

優秀 クローラー

○5D首藤 将貴、4D石川 誠也、4E森川 裕一

優秀 レール

○4D村上 廣太、3M福山 育也、3Z楠橋 陽教

○印は代表者

-参考1-

今回の応募数・アイデア数は以下のとおりでした。

	1次選考通過	応募数	アイデア数	
全学年	3	12	135	
1年	0	0	104	別途評価
2年	0	0	19	別途評価
合計	3	12	258	

-参考2-

すべてのアイデア258件におけるオブジェランキングは以下のとおりです。

1位	みかん
2位	タオル
3位	銅
4位	鯛
5位	太鼓、船
7位	紙、トイレトペーパー、瓦、真珠、団子、木、菓子、パン、魚、その他

-参考3-

以下の5つの項目について3段階で評価し、その合計で評価しました。

	A	B	C
○ 独創性	3点	2点	1点
○ 技術的レベル	3点	2点	1点
○ 実現性	3点	2点	1点
○ 発展性	3点	2点	1点
○ 発表に対する印象	3点	2点	1点

審査員構成	
M	2名
E	4名
D	3名
C	1名
Z	1名
合計	11名

(出典：学生委員会資料)

Subject: 学内コンテスト関係報告と今後の予定(再)

教員の皆様へ

宮田@学生委員会・コンテスト関係担当です。

日頃は学生の活動にご協力、ご支援をいただきありがとうございます。

連絡遅くなりましたが、今年度も新居浜高専として参加する全国的な公式競技において、学生の参加を学校全体で支援してまいります。

今年度参加予定の競技は以下のとおりです。

1. 全国高専プログラミングコンテスト
2. アイデア対決全国高専ロボットコンテスト
3. 全国高専デザインコンペティション

すでに御案内しておりますが、これらの学内アイデア審査会等すでに開催されたものもあります。

1. プロコン

審査終了しました。結果を添付します。

2. ロボコン

1次審査終了。2次審査先週金曜終了。現在集計中。6月16日（金）発表。

3. デザコン

6月30日（金）まで学内アイデア受付。 7月7日（金）16時30分～
審査結果発表 7月13日予定

（出典：学生委員会・コンテスト関係担当からのメール）

2. 学習成果の発表

[1] 学習成果の展示スペースを確保し、作品を展示する。

- ・ 図書館棟1階ロビーにデザコンで製作したブリッジを展示した。また、図書館入り口に学内ものづくりコンテストに参加した組立式飛行機とウインドカーを展示した。
- ・ 機械および材料実習工場の改修工事が行われ、材料実習工場内に作品展示スペースを確保した。
- ・ 図書館棟1階ロビーに展示しているロボットの移動を容易にするため、技術室で台車を製作した。

[2] 学習成果を高専PRの場や地域イベントで活用する。

- ・ 学生が工夫し製作した段返りからくり人形を、8月4日、5日に開催された「ものづくりフェスタ in 松山」の講座「からくりチャレンジ 段返り人形を作ってみよう！」に活用した。小中学生への製作指導を、学生が担当した（ものづくり教育支援センター資料2. [2]. 1）。
- ・ 2月3日に総合科学博物館開催された「ロボットを楽しもう！」において、ロボット

研究会の学生がロボコンで製作したロボットを用いてデモンストレーションを行った。

- ・ものづくり教育支援センターを通して、昭和通り商店街から、2月4日の「はまさい」への狸ロボットの出展依頼があり、出口教員と学生2名が参加した。

ものづくり教育支援センター資料2. [2]. 1

(2) ものづくりフェスタ in 松山

8月4日(金)と5日(土)の2日間、松山地区の小・中学生を対象とした「ものづくりフェスタ in 松山」が、愛媛大学城北キャンパスで開催された。この催しは、理科離れが進んでいると言われている小・中学生達に、ものづくりの楽しさを体験してもらうとともに、「高専」を身近なものとして理解してもらうために昨年度に引き続き開催したものである。「からくり」にチャレンジ! 段返り人形工作教室」、「電子オルゴール工作教室」、「七宝焼き体験教室」の3講座に、小・中学生44人、保護者・教員12人の参加があった。

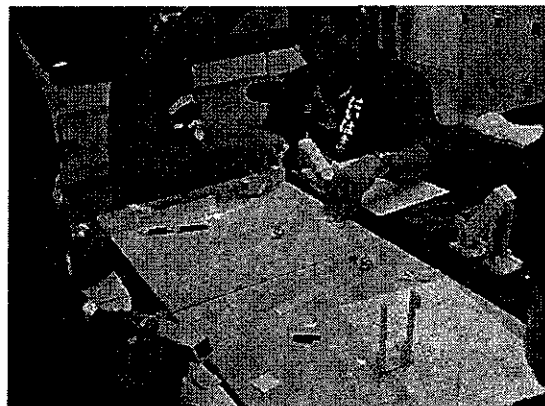
本校教員と学生の指導のもとに、参加した生徒・保護者等は、いずれも作品作りに真剣に取り組み、日頃体験することができない貴重な時間を過ごすとともに、それぞれ出来上がったすばらしい作品を持ち帰った。

3講座のうち、ものづくり教育支援センターが「からくり」にチャレンジ! 段返り人形工作教室」を担当し、学生が工夫し製作したからくり人形を活用した。

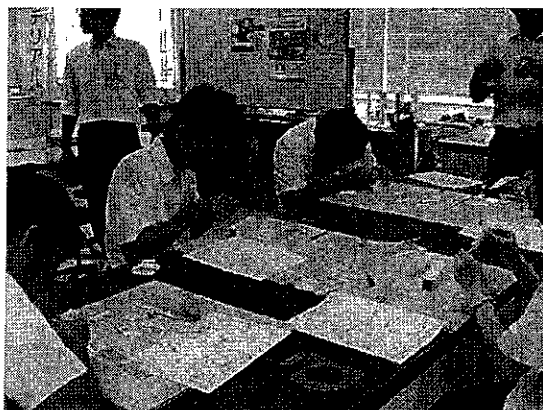
また、組み立て用キットを技術室で準備した。



からくりの説明



学生による製作指導



製作風景



組み立て後のテスト

(出典：平成18年度ものづくり教育支援センター活動報告書)

○総括的な評価と課題

- ・年度当初に立てた目標は、ほぼ達成し一定の成果を収めることができた。
- ・学内コンテストについては、担任、学科主任を通じて参加を呼びかけたが、参加者数は少なかった。さらに多くの学生が参加するような方策が必要である。
- ・初めての試みとして、1年生の課外特別活動でのものづくりの実施、学内コンテスト、デザコンなどを実施した、来年度以降も継続し、学内のものづくり活動を盛りあげていきたい。

◎環境保全委員会

委員長 谷 耕治

平成 18 年度教育改善推進計画

1. 特活を利用した環境教育

[1] 平成 18 年度はクラス単位で担任が複数回環境教育ができるよう、Power Point のスライドを担当に配信する。複数のクラスが集合すると学生の落ち着きが失われ、効果が薄い。

スライドを作成し、1, 2 年生の担任団に渡した。

2. 学生の環境専門委員会の活動

[1] 平成 17 年度本委員会を学生会活動の一部門とした。平成 18 年度は学生会活動として根付き、より多くの学生が参加できるよう試行錯誤し、委員の出席率を前年度 10%増を目指す。

学生会活動として根付いてきた。

里親清掃は 8 回実施された。参加する学生としない学生に別れた。

3. 学校美化活動

[1] 平成 18 年度も引き続き HR 清掃状況のアンケート調査並びに学生環境専門委員会の活動記録を数値化し、清掃回数の前年度 10%増を目指す。

ほぼ計画通り進行した。ただし担任の意識が違いすぎるため、きれいな教室とそうでない教室に二分された。

4. 省エネの提案

[1] 昼休み時間の消灯、無人教室やトイレのこまめな消灯を全学的に頻繁に呼びかけ、学生並びに教職員の環境意識を高め、電力総消費量が前年度を超えないよう努力する。

今夏の猛暑にもかかわらず、ほぼ目的を達した。

学生は照明をつけても消灯する習慣がない。この点教員、特にクラス担任から度重なる指導が必要と考える。

○総括的な評価と課題

教職員の意識改革が必要である。

相変わらず無人の教室に照明がつけられ、空調も入れられたままのことがある。真冬に教室の暖房が暑すぎて窓を開けて授業している場合もある。「もったいない」との意識が欠落しているのは豊かさのせいかもしれない。本校には種々のルールがあるが、守らなくてもペナルティがない。この点も問題かも知れない。

平成18年度清掃活動日程表('06-4-24作成)

	月	週	日	備考	M	E	D	G	Z	S	G	総務	学生	工場	寮	クラブ
体験	4	1	3--7	備考 春休												
		2	10--14													
		3	17--21													
		4	24--28													
	5	1	1--5	GW												
		2	8--12		○4,5M	○4,5E				○2C	○2M					
		3	15--19													
		4	22--26				○4,5D	○4,5C	○4,5Z	○2Z	○2E					
	6	1	29--2													
		2	5--9													
		3	12--16	試験	6/9	~	6/15					教職員				
		4	19-23		○3M	○3E				○1-3	○2D					
		5	26--30				○3D	○3C	○3Z	○1-4	○1-1					
	7	1	3--7		○3M											
		2	10-14							○1-5	○1-2					
		3	18--21	夏休												
		4	24--28	夏休												
	8	1	31--4	夏休												
		2	7--11	夏休												
	見学		3	14--18	夏休	教職員							教職員			
		4	21--25	夏休												
9		1	28--1		○4M	○3E	○3D	○3C	○3Z	○2C	○2M					
		2	4--8													
		3	11--15							○2Z	○2E					
		4	19--21													
		5	25--29	試験	9/21	~	9/29									
10		1	2--6							○1-3	○2D	教職員				
		2	10-13				○4D	○4C	○4Z							
公開 国領			3	16--20		○5M	○4E				○1-4	○1-1				
		4	23--27													
	11	1	30--3				○5D	○5C	○5Z							
		2	6--10	国領勢	11/10, 11					○1-5	○1-2					
		3	13--17			○5E										
		4	20-24													
	12	1	27--1	吊掃除	○4M	○4E	○4D	○4C	○4Z	○1-4	○2E	教職員				
		2	4--8	吊掃除	○5M	○5E	○5D	○5C	○5Z	○1-3	○2M					
		3	11--15	試験	12/11	~	12/15									
		4	18--21	吊掃除	○3M	○3E	○3D	○3C	○3Z	○1-5	○2D					
入試		5	25--29													
	1	1	1--5	冬休												
		2	8-12													
		3	15--19													
		4	22--27													
	2	1	290--2													
		2	5--9													
		3	12--16													
		4	19-23	試験	2/22	~	2/28									
	3	1	26--2	試験	2/22	~	2/28									
懇談 会		2	5--9													
		3	12--16													
		4	19--23		教職員											
		5	26--30													
	4	1	2--6	春休								教職員				
		2	9--13													
		3	16--20		○5M	○5E										
		4	23--27				○5D	○5C	○5Z							

◎学生相談室

室長 今城 英二

1. 月 1 回の相談員情報交換会を開く。
 1. 1 日程は学外相談員の来校に合わせる。

月 1 回の情報交換会は実施できたが、学外相談員との日程調整がうまくいかなかった。
水曜日の学外相談員来校に合わせて輪番で懇談できる体制を取った。
 1. 2 相談件数および案件の報告等を行う。

実施できた。(平成 18 年度学生相談室年報 3 頁)
2. 学生相談室案内を作成し、配布する。

学生相談室案内を作成し、新入生オリエンテーション時に配布した。
3. 学生相談室だよりを発行する。(但し 7・8・3 月は除く。)

学内相談員による学生相談室だよりを配布した。(平成 18 年度学生相談室年報 28 頁)
4. 学生相談室の場所、学生相談員の学生への周知に努める。
 4. 1 入学式での学生相談員の紹介を行う。

入学式において壇上に整列し、紹介していただいた。
 4. 2 各教員室に学生相談員のプレートを貼る。

各学科に 1 名の学内相談員を配置し教員室入り口に相談員プレートを貼付した。
5. 保護者懇談会の時に「相談室」を開設する。
 5. 1 2 日間常駐する。

主事室に「相談室」を開設し、2 名常駐した。
 5. 2 保護者懇談会案内や「学生相談室だより」で通知する。

保護者懇談会案内及び「学生相談室だより 6 月号」で案内した。
6. 学外研修
 6. 1 積極的な学生相談員の研修会参加を図る。

室長が学外研修会に 3 回参加し、情報交換会において相談員に情報提供を行った。また 1 年生対象のカウンセリング講話への参加を促した。(平成 18 年度学生相談室年報 9 頁)
 6. 2 研修の内容等を教員会で報告する。

学外研修会の報告を教員会において 3 回行った。(平成 18 年度学生相談室年報 12 頁)
7. 教職員の対象にした学内研修を主催する。

3 月 2 日(金)に愛媛大学より講師を招き教職員対象の学内研修会を実施した。
(平成 18 年度学生相談室年報 4 頁)
8. 学生相談室年報をまとめ、次年度へ活かす。

昨年度に引き続き学生相談室年報をまとめた。(平成 18 年度学生相談室年報)

○ 総括的な評価と課題

学生相談室の広報は予定通り行った。しかし、思ったほどの反応がなく、学生や保護者に対し、より具体的に明示し浸透させることが必要と感じた。また、学内相談員および教職員については学外相談員との連携をとり、積極的に研修することが教員一人一人の資質向上につながり、さらには学生に還元されると思っている。